弘前大学医学部医学科・医学部附属病院

自 己 評 価 報 告 書

＝2004年度－2005年度＝

２００７年３月

弘前大学医学部医学科・附属病院自己評価委員会

自己評価報告書の発刊にあたって

弘前大学医学部長　佐　藤　　敬

医学部医学科における毎年の自己点検評価が始まって10年余が過ぎました。当初は，書類作製が負担に思える面もあったかと思いますが，今ではごく普通の作業として定着しているのではないでしょうか。今や自己評価自体は当たり前のことであり，いよいよ全学一斉の評価も始まることになりました。自分の実績を改めて見つめ直し，以後の在り方を考えることが自己評価の第一の目的でしょうが，それはきわめて根源的なことで，時には無意識のうちに行われるのでしょうが，ある一定の基準の下に全教員が具体的に実施することに大きな意味があると思います。第二には，私達の教育・研究活動の成果を社会に説明することが時に求められ，それを達成することも自己評価の目的の一つであると思います。従って，自己評価の結果はなんらかの形で公表されることが必要で，この報告書をもって自己評価が完結することになります。更には，自己評価の結果をどう活用していくか，という問題も含まれるのかもしれません。この点に関しては，医学科においては教員任期制との連動によって一部実現されるものでもありますが，今後の重要な課題の一つでもあります。

これらの作業は，教育・研究に携わる者として当然のことであり，そして個々の評価にはいろいろな要素が含まれるとは思いますが，隔年でまとめられ公表されるこの報告書を改めて見ると，やはり医学部医学科教員の活動を全体として眺める時，それは圧倒的に思えるというのが私の率直な感想です。事実，国立大学協会が昨年公表した世界の大学・研究施設等の評価では，弘前大学における研究は世界の1,000位以内にランクされました。教育面でも，さまざまな改革が実施され，耐えず改善が図られてきました。また，学会活動や地方自治体の政策への協力，そしてなんと言っても地域医療への貢献など，社会貢献活動における実績も大きなものがあります。基本的には，私達は自らのために評価を実施しているのであって，周囲からの賞賛を進んで求めるものではありませんが，例え“身びいき”と言われたとしても，これらの事実だけは間違いないと思っています。そして，その事実を裏切らないための努力を今後も続けて行くよう，この報告書の公表を機に改めて確認したいと思います。

自己評価報告書　2004－2005年度版刊行にあたって

弘前大学医学部医学科・附属病院自己評価委員会
委員長　中　澤　　満
（眼科学講座）

弘前大学医学部医学科・附属病院ではこれまで隔年毎に自己点検・評価を行い，その内容を公表してきた。この度，2004年度と2005年度の２年間の自己点検・評価を実施し，その内容をまとめたのがこの報告書であり，これで７回目の報告となる。今回の自己評価報告書作成にあたり，これまでの自己評価報告書との連続性を維持するという目的のため，評価対象は基本的に前回と同様，教育，研究，管理・運営および社会貢献からなる４分野とすることとした。また，診療に関する項目は附属病院年報との重複を避けるため，従前どおり含まれていない。

振り返ってみると，大学を取り巻く環境はこの10年間，正に激流に飲み込まれたと言ってもおかしくないほどの大きな変化を遂げた。国立大学の法人化と新臨床研修医制度が始まり，各大学は中期目標・中期計画を策定し，附属病院での研修制度の充実を図りつつ収益性を追求し，かつ研究活動の充実ぶりもアピールする必要性に駆られた。また地域社会への関わりも以前より増して期待されるところとなり，学会におけるさまざまな活動や国や地方自治体の審議会等における活動，産学共同事業や新技術の創出，本医学部医学科以外の教育機関における講義，地域医療への貢献，国際交流への貢献など，本来の医学教育と研究という医学部医学科および附属病院の教員に求められた職務だけでなく，さらに幅広い活動が実際に評価の対象となってきた。社会貢献については前回の自己評価報告書作成の評価期間途中の2002年から取り入れることになったため，評価の全期間を通じてこの社会貢献を評価したのは本報告書が最初となる。前回立てられた到達目標の達成度が今回から記載されることとなった。今後もこの分野に対する国民のニーズは益々高まるものと推察される。

本報告書にまとめられた自己点検評価は個々の教員，および講座・部門での活動の全体像を示すものであるが，2005年度末から開始された個々の教員の任期制審査を行う上で，重要な役割を果たしている。一方，本学の独立行政法人化に伴い，平成19年度から，弘前大学の助教以上の全教員を対象とした評価システムが大学全体で動き始めることとなっている。具体的にはあらかじめ定められた評価基準にしたがって各教員が教育，研究，管理運営，社会貢献および診療の各分野で期待されるだけの職務を全うしているかどうかが評価されることとなる。評価の公平性と透明性を追求する必要から，評価基準はつねに見直しと検討を要するものと思われるが，医学部医学科・附属病院のこの自己評価システムとの兼ね合いをどうするのかについては，今後検討されるべき課題であろうと思われる。

最後に，本報告書の作成にご協力いただいた医学部医学科と附属病院のすべての教員，自己評価委員会の委員と事務職員各位に篤く御礼申し上げる。

目　次

第１章　教育活動

1．解剖学第一講座…… 1
2．解剖学第二講座…… 4
3．生理学第一講座…… 8
4．生理学第二講座…… 11
5．生化学第一講座…… 14
6．生化学第二講座…… 18
7．薬理学講座…… 21
8．病理学第一講座…… 24
9．病理学第二講座…… 26
10．細菌学講座…… 29
11．衛生学講座（2005年度社会医学講座に統合のため，2004年度のみ報告）…… 33
12．公衆衛生学講座（資料なし）…… 35
13．社会医学講座（2005年度新設のため，2005年度のみ報告）…… 36
14．寄生虫学講座（2004年度資料なし）…… 39
15．法医学講座…… 41
16．内科学第一講座（診療科：消化器内科・血液内科・膠原病内科を含む。）…… 44
17．内科学第二講座（診療科：循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を含む。）…… 48
18．内科学第三講座（診療科：内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科を含む。）…… 52
19．老年科学講座…… 55
20．神経・精神医学講座（診療科：神経科精神科を含む。）…… 57
21．小児科学講座（診療科：小児科を含む。）…… 61
22．外科学第一講座（診療科：呼吸器外科・心臓血管外科を含む。）…… 65
23．外科学第二講座（診療科：消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科を含む。）…… 69
24．整形外科学講座（診療科：整形外科を含む。）…… 73
25．皮膚科学講座（診療科：皮膚科を含む。）…… 78
26．泌尿器科学講座（診療科：泌尿器科を含む。）…… 83
27．眼科学講座（診療科：眼科を含む。）…… 86
28．耳鼻咽喉科学講座（診療科：耳鼻咽喉科を含む。）…… 89
29．放射線医学講座（診療科：放射線科，診療部：放射線部を含む。）…… 93
30．産科婦人科学講座（診療科：産科婦人科を含む。）…… 96
31．麻酔学講座（診療科：麻酔科を含む。）…… 99
32．脳神経外科学講座（診療科：脳神経外科を含む。）…… 103
33．歯科口腔外科学講座（診療科：歯科口腔外科を含む。）…… 106
34．形成外科学講座（診療科：形成外科を含む。）…… 110
35．救急・災害医学講座…… 112
36．臨床検査医学講座…… 114
37．臨床薬理学講座…… 117

38.　分子病態部門（附属脳神経血管病態研究施設）…… 119
39.　脳血管病態部門（附属脳神経血管病態研究施設）…… 122
40.　機能回復部門（附属脳神経血管病態研究施設）…… 125
41.　神経統御部門（附属脳神経血管病態研究施設）（診療科：神経内科を含む。）…… 127
42.　細胞工学部門（附属脳神経血管病態研究施設）（客員部門のため資料なし）…… 129
43.　附属動物実験施設（施設長（教授，併任）については，生理学第二講座で報告）… 130
44.　附属高度先進医学研究センター（2005年度新設のため，2005年度のみ報告）…… 132
45.　小児外科（診療科）…… 134
46.　薬剤部…… 136
47.　手術部（部長（教授，併任）については外科学第二講座で報告）…… 138
48.　検査部（部長（教授，併任），副部長（助教授，併任）については臨床検査医学講座で報告）… 140
49.　放射線部（教員分は放射線医学講座で報告）…… 142
50.　輸血部（部長（教授，併任）については外科学第一講座で報告，2005年度分資料なし）…… 143
51.　集中治療部（部長（教授，併任）については麻酔学講座で報告）…… 145
52.　周産母子センター（部長（教授，併任）については産科婦人科学講座で報告）…… 147
53.　病理部（部長（教授，併任）については病理学第一講座で報告）…… 149
54.　医療情報部…… 151
55.　光学医療診療部…… 153
56.　リハビリテーション部（部長（教授，併任）については整形外科学講座で報告）… 155
57.　総合診療部…… 157
58.　治験管理センター（2005年度は資料なし）…… 160
59.　メディカルスクール研究センター（2005年度改組のため，2004年度のみ報告）… 162
60.　医学教育センター（2005年度新設のため，2005年度のみ報告）…… 164
（別表）医学部医学科学生について資料１～５ …… 166
大学院生について資料１～９ …… 171

第２章　研究活動

研究活動に関する自己点検・評価（記載説明） …… 175
1．　解剖学第一講座…… 179
2．　解剖学第二講座…… 183
3．　生理学第一講座…… 188
4．　生理学第二講座…… 194
5．　生化学第一講座…… 199
6．　生化学第二講座…… 207
7．　薬理学講座…… 213
8．　病理学第一講座…… 219
9．　病理学第二講座…… 226
10.　細菌学講座…… 232
11.　衛生学講座（2005年度社会医学講座に統合のため，2004年度のみ報告）…… 239
12.　公衆衛生学講座（資料なし）…… 243
13.　社会医学講座（2005年度新設のため，2005年度のみ報告）…… 246

14. 寄生虫学講座（2004年度資料なし） …… 252
15. 法医学講座…… 255
16. 内科学第一講座（診療科：消化器内科・血液内科・膠原病内科を含む。）…… 259
17. 内科学第二講座（診療科：循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を含む。）…… 271
18. 内科学第三講座（診療科：内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科を含む。）…… 282
19. 老年科学講座…… 292
20. 神経・精神医学講座（診療科：神経科精神科を含む。）…… 297
21. 小児科学講座（診療科：小児科を含む。）…… 310
22. 外科学第一講座（診療科：呼吸器外科・心臓血管外科を含む。）…… 319
23. 外科学第二講座（診療科：消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科を含む。）…… 327
24. 整形外科学講座（診療科：整形外科を含む。）…… 337
25. 皮膚科学講座（診療科：皮膚科を含む。）…… 350
26. 泌尿器科学講座（診療科：泌尿器科を含む。）…… 358
27. 眼科学講座（診療科：眼科を含む。）…… 366
28. 耳鼻咽喉科学講座（診療科：耳鼻咽喉科を含む。）…… 374
29. 放射線医学講座（診療科：放射線科，診療部：放射線部を含む。）…… 381
30. 産科婦人科学講座（診療科：産科婦人科を含む。）…… 388
31. 麻酔学講座（診療科：麻酔科を含む。）…… 396
32. 脳神経外科学講座（診療科：脳神経外科を含む。）…… 404
33. 歯科口腔外科学講座（診療科：歯科口腔外科を含む。）…… 409
34. 形成外科学講座（診療科：形成外科を含む。）…… 416
35. 救急・災害医学講座…… 420
36. 臨床検査医学講座…… 425
37. 臨床薬理学講座…… 430
38. 分子病態部門（附属脳神経血管病態研究施設） …… 436
39. 脳血管病態部門（附属脳神経血管病態研究施設） …… 443
40. 機能回復部門（附属脳神経血管病態研究施設） …… 449
41. 神経統御部門（附属脳神経血管病態研究施設）（診療科：神経内科を含む。） …… 454
42. 細胞工学部門（附属脳神経血管病態研究施設）（客員部門のため資料なし）…… 464
43. 附属動物実験施設（施設長（教授，併任）については，生理学第二講座で報告）… 467
44. 附属高度先進医学研究センター（2005年度新設のため，2005年度のみ報告）…… 470
45. 小児外科（診療科） …… 474
46. 薬剤部…… 478
47. 手術部（部長（教授，併任）については外科学第二講座で報告） …… 483
48. 検査部（部長（教授，併任），副部長（助教授，併任）については臨床検査医学講座で報告） …… 487
49. 放射線部（教員分は放射線医学講座で報告） …… 491
50. 輸血部（部長（教授，併任）については外科学第一講座で報告，2005年度分資料なし） …… 494
51. 集中治療部（部長（教授，併任）については麻酔学講座で報告） …… 497
52. 周産母子センター（部長（教授，併任）については産科婦人科学講座で報告）…… 501
53. 病理部（部長（教授，併任）については病理学第一講座で報告） …… 505
54. 医療情報部…… 509

55. 光学医療診療部……513
56. リハビリテーション部（部長（教授，併任）については整形外科学講座で報告）……519
57. 総合診療部……523
58. 治験管理センター（2005年度は資料なし）……528
59. メディカルスクール研究センター（2005年度改組のため，2004年度のみ報告）…531
60. 医学教育センター（2005年度新設のため，2005年度のみ報告）……534

第３章　社会貢献活動

1. 解剖学第一講座……537
2. 解剖学第二講座……539
3. 生理学第一講座……541
4. 生理学第二講座……543
5. 生化学第一講座……545
6. 生化学第二講座……550
7. 薬理学講座……552
8. 病理学第一講座……554
9. 病理学第二講座……557
10. 細菌学講座……559
11. 衛生学講座（2005年度社会医学講座に統合のため，2004年度のみ報告）……562
12. 公衆衛生学講座（資料なし）……564
13. 社会医学講座（2005年度新設のため，2005年度のみ報告）……565
14. 寄生虫学講座（2004年度資料なし）……568
15. 法医学講座……570
16. 内科学第一講座（診療科：消化器内科・血液内科・膠原病内科を含む。）……572
17. 内科学第二講座（診療科：循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を含む。）……576
18. 内科学第三講座（診療科：内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科を含む。）……580
19. 老年科学講座……583
20. 神経・精神医学講座（診療科：神経科精神科を含む。）……585
21. 小児科学講座（診療科：小児科を含む。）……592
22. 外科学第一講座（診療科：呼吸器外科・心臓血管外科を含む。）……596
23. 外科学第二講座（診療科：消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科を含む。）……599
24. 整形外科学講座（診療科：整形外科を含む。）……602
25. 皮膚科学講座（診療科：皮膚科を含む。）……608
26. 泌尿器科学講座（診療科：泌尿器科を含む。）……613
27. 眼科学講座（診療科：眼科を含む。）……616
28. 耳鼻咽喉科学講座（診療科：耳鼻咽喉科を含む。）……619
29. 放射線医学講座（診療科：放射線科，診療部：放射線部を含む。）……622
30. 産科婦人科学講座（診療科：産科婦人科を含む。）……626
31. 麻酔学講座（診療科：麻酔科を含む。）……630
32. 脳神経外科学講座（診療科：脳神経外科を含む。）……633
33. 歯科口腔外科学講座（診療科：歯科口腔外科を含む。）……636

34.　形成外科学講座（診療科：形成外科を含む。）……640
35.　救急・災害医学講座……642
36.　臨床検査医学講座……645
37.　臨床薬理学講座……647
38.　分子病態部門（附属脳神経血管病態研究施設）……649
39.　脳血管病態部門（附属脳神経血管病態研究施設）……651
40.　機能回復部門（附属脳神経血管病態研究施設）……653
41.　神経統御部門（附属脳神経血管病態研究施設）（診療科：神経内科を含む。）……655
42.　細胞工学部門（附属脳神経血管病態研究施設）（客員部門のため資料なし）……658
43.　附属動物実験施設（施設長（教授，併任）については，生理学第二講座で報告）…659
44.　附属高度先進医学研究センター（2005年度新設のため，2005年度のみ報告）……661
45.　小児外科（診療科）……662
46.　薬剤部……664
47.　手術部（部長（教授，併任）については外科学第二講座で報告）……666
48.　検査部（部長（教授，併任），副部長（助教授，併任）については臨床検査医学講座で報告）……668
49.　放射線部（教員分は放射線医学講座で報告）……670
50.　輸血部（部長（教授，併任）については外科学第一講座で報告，2005年度分資料なし）……673
51.　集中治療部（部長（教授，併任）については麻酔学講座で報告）……675
52.　周産母子センター（部長（教授，併任）については産科婦人科学講座で報告）……677
53.　病理部（部長（教授，併任）については病理学第一講座で報告）……679
54.　医療情報部……681
55.　光学医療診療部……683
56.　リハビリテーション部（部長（教授，併任）については整形外科学講座で報告）…685
57.　総合診療部……687
58.　治験管理センター（2005年度は資料なし）……690
59.　メディカルスクール研究センター（2005年度改組のため，2004年度のみ報告）…692
60.　医学教育センター（2005年度新設のため，2005年度のみ報告）……694

第４章　管理・運営

Ⅰ．　所属委員会（医学部・医学部医学科・附属病院・全学）……697
Ⅱ．　医学部医学科及び附属病院役付職員一覧……705
Ⅲ．　学友会所属サークル一覧 (体育系及び文化系）……706
Ⅳ．　教員現員並びに諸会議・会合について……708
1．　解剖学第一講座……708
2．　解剖学第二講座……708
3．　生理学第一講座……709
4．　生理学第二講座……710
5．　生化学第一講座……710
6．　生化学第二講座……711
7．　薬理学講座……711
8．　病理学第一講座……712

9．　病理学第二講座……713
10.　細菌学講座……713
11.　衛生学講座（2005年度社会医学講座に統合のため，2004年度のみ報告）……714
12.　公衆衛生学講座（資料なし）……714
13.　社会医学講座（2005年度新設のため，2005年度のみ報告）……714
14.　寄生虫学講座（2004年度資料なし）……715
15.　法医学講座……715
16.　内科学第一講座（診療科：消化器内科・血液内科・膠原病内科を含む。）……716
17.　内科学第二講座（診療科：循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を含む。）……716
18.　内科学第三講座（診療科：内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科を含む。）……717
19.　老年科学講座……717
20.　神経・精神医学講座（診療科：神経科精神科を含む。）……718
21.　小児科学講座（診療科：小児科を含む。）……719
22.　外科学第一講座（診療科：呼吸器外科・心臓血管外科を含む。）……720
23.　外科学第二講座（診療科：消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科を含む。）……720
24.　整形外科学講座（診療科：整形外科を含む。）……721
25.　皮膚科学講座（診療科：皮膚科を含む。）……722
26.　泌尿器科学講座（診療科：泌尿器科を含む。）……722
27.　眼科学講座（診療科：眼科を含む。）……723
28.　耳鼻咽喉科学講座（診療科：耳鼻咽喉科を含む。）……724
29.　放射線医学講座（診療科：放射線科を含む。）……724
30.　産科婦人科学講座（診療科：産科婦人科を含む。）……725
31.　麻酔学講座（診療科：麻酔科を含む。）……726
32.　脳神経外科学講座（診療科：脳神経外科を含む。）……726
33.　歯科口腔外科学講座（診療科：歯科口腔外科を含む。）……727
34.　形成外科学講座（診療科：形成外科を含む。）……728
35.　救急・災害医学講座……729
36.　臨床検査医学講座……729
37.　臨床薬理学講座……730
38.　分子病態部門（附属脳神経血管病態研究施設）……731
39.　脳血管病態部門（附属脳神経血管病態研究施設）……731
40.　機能回復部門（附属脳神経血管病態研究施設）……732
41.　神経統御部門（附属脳神経血管病態研究施設）（診療科：神経内科を含む。）……732
42.　細胞工学部門（附属脳神経血管病態研究施設）（客員部門のため資料なし）……733
43.　附属動物実験施設……733
44.　附属高度先進医学研究センター（2005年度新設のため，2005年度のみ報告）……735
45.　小児外科（診療科）……735
46.　薬剤部……735
47.　手術部……736
48.　検査部……737
49.　放射線部……737

50.　材料部……738
51.　救急部……739
52.　輸血部……739
53.　集中治療部……740
54.　周産母子センター……741
55.　病理部……741
56.　医療情報部……742
57.　光学医療診療部……743
58.　リハビリテーション部……744
59.　総合診療部……745
60.　強力化学療法室（ICTU）……745
61.　臨床テクノロジーセンター……746
62.　治験管理センター……746
63.　卒後臨床研修センター……747
64.　メディカルスクール研究センター……748
65.　医学教育センター……748

教　育　活　動

第１章　教　育　活　動

１．解剖学第一講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
努力する。

これから２年間の目標：
変わらず努力する

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	正村　和彦	教授			基礎教育科目	生物学の基礎　IIB	5 回
05年度	正村　和彦	教授				生物 IIB	5 回
	小田切紗織	助手				基礎ゼミナール	15回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
04年度	正村　和彦	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	3 回
	浅野　義哉	助手	基礎教育科目		
	小田切紗織	助手	基礎教育科目	基礎ゼミナール	15回
05年度	正村　和彦	教授	基礎教育科目	基礎人体科学演習	3 回
	浅野　義哉	助手	基礎教育科目		
	目黒　玲子	助手	基礎教育科目		
	小田切紗織	助手	基礎教育科目		

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	正村　和彦	教授	人体の構造と機能 チュートリアル教育	2 年 3 年	14回 4 回
	浅野　義哉	助手	基礎人体科学演習	1 年	30回
05年度	正村　和彦	教授	個体の構成と機能 チュートリアル教育	2 年 3 年	3 回 3 回
	小田切紗織	助手	基礎人体科学演習（前期）	1 年	15回
	目黒　玲子	助手	基礎人体科学演習（後期）	1 年	15回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	正村　和彦	教授	人体の構造と機能 I	3 年	15回
	浅野　義哉	助手	組織学実習		
	小田切紗織	助手	脳の解剖学実習	3 年	6 回
05年度	正村　和彦	教授	組織学実習		
	浅野　義哉	助手	組織学実習	2 年	15回
	目黒　玲子	助手	組織学実習	3 年	15回
	小田切紗織	助手	組織学実習		

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	正村　和彦	教授	最新医学の動向 非ヘム鉄の組織化学	1 年	1 回
05年度	正村　和彦	教授	最新医学の動向		1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	正村　和彦	教授	最新医学の動向 非ヘム鉄の組織化学	1 年	1 回

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	正村　和彦	教授	21回	20回
05年度	正村　和彦	教授	21回	20回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	正村　和彦	教授	人体の構造と機能　I	約80％
05年度	正村　和彦	教授	個体の構成と機能	不明

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	正村　和彦	教授	人体の構造と機能　I 神経解剖学	3.8
05年度	正村　和彦	教授	個体の構成と機能	3.8

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
組織学実習	2年	15日	45	3.9	3.9

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
人体の構造と機能　I	3年	15日	45	4.2	4.2
人体の構造と機能　I	2年	15日	45	4.3	4.3

2．解剖学第二講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

学生が興味・関心を持って授業を受けており，またよく理解している。
学士編入学生もスムーズに入り込むことが出来，興味・関心を持ち理解できたことは良かった。
（ただし，医学部２年生の学生は初めての専門科目で，膨大な範囲の難しい内容であり，加えて講義時間数が半減したため，また2005年度はカリキュラムの変更の為に，２学年同時進行ということもあり，十分な授業・理解が困難で，効果も不十分であったように思う。到達度約６割）
カリキュラム変更により，２年間に３年分の授業を行った等のため，講師･助教授と助手には勉強になり，進歩した。また、臨時に助手を１人確保でき，過重な実習教育の負担を軽減できた。
学外の教育においても，コメデイカル学生の解剖学教育，および，放送大学等で有意義な貢献をした。
全体として到達度８割。通常より１年分余分の授業を行ったことを加えると９割。

これから２年間の目標：

1．医学部，他学部あるいはコメデイカル，大学院学生等に，肉眼解剖学，細胞・組織学，神経内分泌学，発達・老化を含む実験医学・医生物学等を興味をもって学習・修得できるような授業を行なう。
2．医学部学生には，医学・医療の基本をきちんと学習・体得させるよう努力する。
また，３年次途中入学を含む新カリキュラムに，および実習室に改修工事がある場合にはこれにも，対応できるよう努力する。
解剖学の理解を助けるプリント，実習マニュアルを充実・完成させる。
発生学の講義を，講義プリント等を整理・充実し，学生の理解しやすい，興味をもちやすいものにする。
3．助教授・助手の教育能力を一層高めるよう経験を積ませる。
4．社会的貢献にも努力する。

（1）教　育
【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	加地　　隆	教授	21世紀教育	健康	加齢に伴う老化 ：形態学的機能的老化	発達と老化	1 回
	外崎　敬和	講師	21世紀教育	テーマ部門	人間	生態系の中の人間（A）	3 回
05年度	加地　　隆	教授	21世紀教育	健康	加齢に伴う老化 ：形態学的機能的老化	発達と老化	1 回
	外崎　敬和	助教授	21世紀教育	テーマ部門	人間	生態系の中の人間（A）	3 回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
04年度	加地　　隆	教授	21世紀教育（導入科目）	基礎ゼミナール	2クール
	外崎　敬和	講師	同上（基礎教育科目） 同上（導入科目）	基礎科学実験（生物） 基礎ゼミナール	3 回 1クール
05年度	加地　　隆	教授	21世紀教育（導入科目）	基礎ゼミナール	2クール
	外崎　敬和	助教授	21世紀教育（導入科目）	基礎ゼミナール	1クール
	渡邉　誠二	助手	21世紀教育（導入科目）	基礎ゼミナール	1クール

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	加地　　隆	教授	人体の構造と機能Ⅰ	2 年	12回
	外崎　敬和	講師	人体の構造と機能Ⅰ	2 年	2 回
	渡邉　誠二	助手	補充講義	学士編入学者	6 回
05年度	加地　　隆	教授	個体の構成と機能	2 年	12回＋実習5回
	外崎　敬和	助教授	個体の構成と機能	2 年	7回＋実習5回
	渡邉　誠二	助手	個体の構成と機能	2 年	1回＋実習5回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	加地　　隆	教授	人体の構造と機能Ⅰ実習 （同上実習講義） 研究室研修（チュートリアル） 基礎人体科学演習	3 年 3 年 3 年 1 年	4コマ×37回 （20コマ） 1 クール 2 クール
	外崎　敬和	講師	人体の構造と機能Ⅰ実習 （同上実習講義） 研究室研修（チュートリアル） 基礎人体科学演習	3 年 3 年 3 年 1 年	4コマ×37回 （9コマ） 2 クール 1 クール
	渡邉　誠二	助手	人体の構造と機能Ⅰ実習 基礎人体科学演習	3 年 1 年	4コマ×37回 1 クール
05年度	加地　　隆	教授	人体の構造と機能Ⅰ実習 （実習講義） 研究室研修（チュートリアル） 人体解剖学実習 （実習講義） 基礎人体科学演習	3 年 3 年 2 年 1 年	36日 （4コマ／日） （17回） 1 クール 33日 （3コマ／日） （18.5回） 2 クール
	外崎　敬和	助教授	人体の構造と機能Ⅰ実習 （実習講義） 研究室研修（チュートリアル） 人体解剖学実習 （実習講義） 基礎人体科学演習	3 年 3 年 2 年 1 年	36日 （4コマ／日） （7回） 1 クール 33日 （3コマ／日） （10回） 1 クール
	渡邉　誠二	助手	人体の構造と機能Ⅰ実習 （実習講義） 人体解剖学実習 （実習講義） 基礎人体科学演習	3 年 2 年 1 年	36日 （4コマ／日） （1回） 33日 （3コマ／日） （1.5回） 2 クール

04年度
＊実習時間　火・水：5－10時限（3－4時限は実習講義）　木：3－10時限
正規の授業時間終了後も，19:00～19:30迄，教員が必ず1～2名指導している。
実習期間中に3回試験（実習同定試験＋肉眼解剖学各論試験）を行なった。

05年度
＊実習時間　・3年生　火・水：5－10時限（3－4時限は実習講義）　木：8日間は3－10時限実習，
3日間は3－4時限は実習講義，5－10時限は実習　・2年生　毎回約1時間の実習講義の後に実習。
＊試験　3－4回の実習口頭試問の他に3回の解剖学各論試験。

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	加地　　隆	教授	医学研究概論「実験形態学序論」		1 回
05年度	加地　　隆	教授	医学研究概論「松果体ホルモンの作用と機序」		1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	外崎　敬和	講師	大学院共通基礎科目「医学研究基礎技術実習」	1 年	1 回

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
05年度	外崎　敬和	助教授	クリニカルクラークシップ FD 講習会（2005.3.4）

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	渡邉　誠二	助手	15回	15回
05年度	外崎　敬和	助教授	2 回	1 回
	渡邉　誠二	助手	17回	17回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
04年度	加地　　隆	教授	人体の構造と機能 I 講義同上講義 人体の構造と機能 I 講義同上実習	85～90%以上 95～100%
	外崎　敬和	講師	人体の構造と機能 I 講義同上実習	95～100%
	渡邉　誠二	助手	人体の構造と機能 I 講義同上実習	95～100%
05年度	加地　　隆	教授	個体の構成と機能：(2),(3) 人体の構造と機能 I 実習 人体解剖学実習	85～90%以上 95～100% 95～100%
	外崎　敬和	助教授	個体の構成と機能：(2),(3) 人体の構造と機能 I 実習 人体解剖学実習	85～90%以上 95～100% 95～100%
	渡邉　誠二	助手	個体の構成と機能：(2),(3) 人体の構造と機能 I 実習 人体解剖学実習	85～90%以上 95～100% 95～100%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	加地　隆	教授	人体の構造と機能Ⅰ講義	A:3.1，B:2.9
05年度	加地　隆	教授	個体の構成と機能：(2)，(3)	A:3.4，B:3.3
	外崎　敬和	助教授	個体の構成と機能：(2)，(3)	A:3.4，B:3.3
	渡邉　誠二	助手	個体の構成と機能：(2)，(3)	A:3.4，B:3.3

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
人体の構造と機能Ⅰ	3年	33日	148	4.3	4.2

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
人体の構造と機能Ⅰ実習	3年，2年	69日	144＋99＝243	4.4	4.2

3．生理学第一講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

９０％

試験の回数を増やす事，普段から学ぶ訓練の手助けになったと思われる。

これから２年間の目標：

未知の現象に対応する上で重要な生理学の基本概念を身につけてもらえるよう，また実践に際して論理的な思考に基づいた判断がとれるよう，講義・実習を工夫する

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	泉井　　亮	教授	自然系基礎		生物学の基礎	生物学の基礎Ⅱ	5 回
05年度	泉井　　亮	教授				生物学の基礎Ⅱ（B）	5 回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
04年度	木村　良一	助手	自然系基礎	基礎科学実験（物理）	81回
05年度	木村　良一	助手	基礎教育科目：自然系基礎	基礎科学実験（物理）	16回

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	泉井　　亮	教授	基礎人体科学演習 人体の構造と機能Ⅱ 系統別講義（代謝・内分泌） 系統別講義（循環器系）-	1年 2年 3年 3年	24回 20回 1 回 1 回
05年度	泉井　　亮	教授	コアＢ－１　固体の構成と機能 基礎人体科学演習 基礎人体科学演習	2年生正規入学 2年生編入学 1年生	18回 15回 24回
	山田　勝也	助教授	コアＢ－１　固体の構成と機能 チュートリアル	2年生 3年生	1 回 4 回
	木村　良一	助手	チュートリアル	3年生	4 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	泉井　　亮	教授	人体の構造と機能Ⅱ実習	2 年	12回
	木村　良一	助手	人体の構造と機能Ⅱ実習	2 年	12回
05年度	泉井　　亮	教授	総合基礎医学実習Ａ 総合基礎医学実習Ａ	2年生正規入学 2年生編入学	12回 3 回
	山田　勝也	助教授	総合基礎医学実習Ａ	2年	12回
	木村　良一	助手	総合基礎医学実習Ａ	2年	12回

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
04年度	0名	チュートリアル（木村　良一）
05年度	0名	チュートリアル教育。前半，後半の二回分（木村）

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	山田　勝也	助教授	医学概論（実験医学および臨床研究各論）	1－4年生	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	泉井　　亮	教授	大学院講義（研究方法）	1 年	2 回

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
04年度	泉井　　亮	教授	1. クリニカルクラークシップ特別講習会 2. 地域の医療を地域医療の視点で視る

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　　目　　名	回数又は期間
04年度	泉井　　亮	教授	保健学科4年生	卒業研究	20回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
05年度	泉井　　亮	教授	3 回	
	山田　勝也	助教授	3 回および実習	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
04年度	泉井　　亮	教授	人体の構造と機能 II 系統別講義（代謝・内分泌） 系統別講義（循環器系）	90% 90% 90%
	木村　良一	助手	基礎科学実験（物理） 人体の構造と機能 II 実習	100% 100%
05年度	泉井　　亮	教授	コア B－1　固体の構成と機能 基礎人体科学演習 総合基礎医学実習 A	
	山田　勝也	助教授	コア B－1　固体の構成と機能 総合基礎医学実習 研究室研修（チュートリアル）	90% 100%
	木村　良一	助手	総合基礎医学実習 A 研究室研修（チュートリアル）	100% 100%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	木村　良一	助手	基礎科学実験（物理）	3.75
	泉井　亮	教授	人体の構造と機能 II	前期4.1，後期4.2
05年度	泉井　亮	教授	コア B － 1　固体の構成と機能 基礎人体科学演習 総合基礎医学実習 A	3.9 4.1
	山田　勝也	助教授	コア B － 1　固体の構成と機能 総合基礎医学実習 研究室研修（チュートリアル）	4.1 4.1
	木村　良一	助手	総合基礎医学実習 A 研究室研修（チュートリアル）	4.1

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
人体の構造と機能 II 実習	2年	12日	36	4.1	4.2

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
総合基礎医学実習	2年	12日	48	4.1	3.8

4．生理学第二講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

２年前に「スタッフ（特に助手）の充実を図ることにより，学部および大学院学生により木目細かく，かつ高度な教育の実現を目指す」との目標を掲げたが，学部教育に関しては100％の目標を達成した。さらに，助手の採用とともに大学院生１名を受け入れている。全体としても100％の目標を達成した。

これから２年間の目標：

今後は，特に教育スタッフの育成と充実を図ることにより，学部および大学院学生により高度な教育の実現を目指す。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	蔵田　　潔	教授	テーマ科目	健康 情報		最新医学の現状（C） 情報の伝達（B）	1 回 1 回
	相澤　　寛	助教授	テーマ科目	健康 情報		最新医学の現状（C） 情報の伝達（B）	1 回 2 回
05年度	蔵田　　潔	教授	テーマ科目	健康		最新医学の現状（C）	1 回
	相澤　　寛	助教授	テーマ科目	健康		最新医学の現状（C）	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	蔵田　　潔	教授	人体の構造と機能Ⅱ	2 年	16回
	相澤　　寛	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	2 年	11回
05年度	蔵田　　潔	教授	コアＢ－１：個体の構成と機能 基礎人体科学演習	2 年 1 年	5 回 28回
	相澤　　寛	助教授	コアＢ－１：個体の構成と機能 基礎人体科学演習	2 年 1 年	5 回 4 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	蔵田　　潔	教授	人体の構造と機能Ⅱ	2 年	14回
	相澤　　寛	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	2 年	12回
05年度	蔵田　　潔	教授	統合基礎医学実習Ａ	Ｍ２・学士入学Ｍ３	15回
	相澤　　寛	助教授	統合基礎医学実習Ａ	Ｍ２・学士入学Ｍ３	15回

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	蔵田　　潔	教授	生理学総論・人体生理学	2 年	12回
	相澤　　寛	助教授	生理学総論・人体生理学	2 年	12回
05年度	蔵田　　潔	教授	生理学総論・人体生理学	2 年	12回
	相澤　　寛	助教授	生理学総論・人体生理学 チュートリアル	2 年 4 年	12回 8 回
	西澤　雄介	助手	チュートリアル	4 年	4 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	蔵田　　潔	教授	生理学総論・人体生理学	2 年	12回
	相澤　　寛	助教授	生理学総論・人体生理学	2 年	12回
05年度	蔵田　　潔	教授	生理学総論・人体生理学	2 年	12回
	相澤　　寛	助教授	生理学総論・人体生理学	2 年	12回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　　導　　論　　文　　名
05年度	蔵田　　潔	教授	The relationship between salivary biomakers and state-trait anxiety inventory score under mental arithmetic stress: a pilot study.

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	蔵田　　潔	教授	4 回	0 回
05年度	蔵田　　潔	教授	4 回	0 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
04年度	蔵田　　潔	教授	人体の構造と機能Ⅱ	85％
	相澤　　寛	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	85％
05年度	蔵田　　潔	教授	コアＢ－１：個体の構成と機能 基礎人体科学演習	約85％ 100％
	相澤　　寛	助教授	コアＢ－１：個体の構成と機能 基礎人体科学演習	約70％ 100％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	蔵田　潔	教授	人体の構造と機能Ⅱ	3.9
	相澤　寛	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	3.9
05年度	蔵田　潔	教授	コアＢ－１：個体の構成と機能 基礎人体科学演習	3.9 4.2
	相澤　寛	助教授	コアＢ－１：個体の構成と機能 基礎人体科学演習	3.7 4.2

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価Ａ	学生による評価Ｂ
人体の構造と機能Ⅱ	2年	14日	42	4.1	4.1

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価Ａ	学生による評価Ｂ
統合基礎医学実習Ａ	2年	15日	45	4.2	4.1

5．生化学第一講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1．学問の楽しさ，厳しさを伝える。そして，医師として医学研究者として早く自立し，しかも世界に目を向ける必要性を伝えることを目標にした。その結果，各講義担当者に対する学生のアンケートでも高い評価を得た。目標に到達した。

2．担当の授業について，学生のカラーに合わせた講義様式にするように雰囲気を見ながら講義等を進められるように努力する。（講義内容，方法の見直し）また，基礎実習において，基本的な技術の修得だけではなく，学生が研究への興味を持てるように工夫する。その結果，全ての学生の要求に応えるのは難しいと感じた。従って到達度は50％と考える。

これから２年間の目標：

1．学問の楽しさ，厳しさを伝える。そして，医師として医学研究者として早く自立し，しかも世界に目を向ける必要性を伝える。この目標に変更は無い。

2．学部教育，大学院教育において，講義，実習を可能な限り担当する。

3．実習，講義の内容と講義様式の改善を絶えず行う。

4．自主的に学ぶ気持ちを大切にし，自学を助ける。

5．大学院生と研究について討論し，助言する。

6．基礎医学実習などを通して，基礎から臨床への橋渡しを行える教育を目指す。独立し，一見して臨床とかかわりのないように見える事柄をどのように応用させて役立てていくのかを指導できるよう努力する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	高垣　啓一	教授	教養	自然		科学・技術の発達（E）	4 回
	今　　淳	助教授	教養	自然		生物学の基礎	5 回
05年度	今　　淳	助教授				生物学の基礎	5 回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
04年度	高垣　啓一	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（化学）	3 回
05年度	高垣　啓一	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（化学）	3 回
	山口　真範	助手	基礎教育科目	基礎科学実験（化学）	3 回

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	高垣　啓一	教授	代謝と栄養（前期） 代謝と栄養（後期）	2年，3年次編入生	10回 9 回
	今　　淳	助教授	免疫学・遺伝子科学 代謝と栄養（後期）	3年 2年，3年次編入生	2 回 3 回
	柿崎　育子	助手	代謝と栄養（前期） 補充講義（化学）	2年，3年次編入生 3年次編入生	3 回 4 回
05年度	高垣　啓一	教授	コアＢ－１個体の構成と機能（５）生物物質の代謝 基礎人体科学演習	2年，3年次編入生 1年	11回 15回
	今　　淳	助教授	免疫学・遺伝子科学 コアＢ－１個体の構成と機能（５）生物物質の代謝	3年 2年，3年次編入生	2 回 3 回
	柿崎　育子	助手	コアＢ－１個体の構成と機能（５）生物物質の代謝 基礎人体科学演習	2年，3年次編入生 1年	1 回 15回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	高垣　啓一	教授	代謝と栄養実習	2年，3年次編入生	10回
	今　　淳	助教授	代謝と栄養実習	2年，3年次編入生	10回
	柿崎　育子	助手	代謝と栄養実習	2年，3年次編入生	10回
05年度	高垣　啓一	教授	統合基礎医学実習Ａ（生化学実習）	2年，3年次編入生	10回
	今　　淳	助教授	統合基礎医学実習Ａ（生化学実習）	2年，3年次編入生	10回
	柿崎　育子	助手	統合基礎医学実習Ａ（生化学実習）	2年，3年次編入生	10回
	山口　真範	助手	統合基礎医学実習Ａ（生化学実習）	2年，3年次編入生	10回

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	高垣　啓一	教授	糖鎖情報学 糖鎖情報学演習	1 年 1 年	30回 30回
	今　　淳	助教授	骨・軟骨移植・再生医学講義	1 年	30回
	柿崎　育子	助手	大学院共通科目基礎科目「医学研究概論」	1 年	1 回
05年度	高垣　啓一	教授	糖鎖情報学 糖鎖情報学演習	1 年 1 年	30回 60回
	今　　淳	助教授	骨･軟骨移植･再生医学講義 再生医学医療セミナー (皮膚の再生と抗老化)	1 年 ～ 4 年	30回 1 回
	柿崎　育子	助手	大学院共通科目　医学概論（後期） 「実験医学および臨床研究各論」	1 年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	今　　淳	助教授	骨・軟骨移植・再生医学実習	1 年	15回
	柿崎　育子	助手	医学研究基礎技術実習「生体分子分析コース」	1 年	1 回
05年度	高垣　啓一	教授	糖鎖情報学実験実習	2 年	90回
	今　　淳	助教授	骨･軟骨移植･再生医学講義実習	1 年 ～ 4 年	90回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	高垣　啓一	教授	4-methylumbelliferone, a hyaluronan synthase suppressor, enhances the anticancer activity of gemcitabine in human pancreatic cancer cells
05年度	今　　淳	助教授	4-methylumbelliferone, a hyaluronan synthase suppressor, enhances the anticancer activity of gemcitabine in human pancreatic cancer cells. Cancer Chemoth Pharm. 2006 57 (2):165-170

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
04年度	高垣　啓一	教授	チュートリアル教育
	今　　淳	助教授	チュートリアル教育
	柿崎　育子	助手	チュートリアル教育
05年度	高垣　啓一	教授	チュートリアル教育
	今　　淳	助教授	チュートリアル教育 平成17年度弘前大学 FD 講演会・シンポジウム
	柿崎　育子	助手	チュートリアル教育
	山口　真範	助手	チュートリアル教育

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	高垣　啓一	教授	8 回	8 回
05年度	高垣　啓一	教授	12回	12回
	今　　淳	助教授	7 回	7 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	高垣　啓一	教授	代謝と栄養 代謝と栄養実習	90% 98%
	今　　淳	助教授	代謝と栄養 系統別講義（皮膚・結合織系） 免疫学・遺伝子科学 代謝と栄養実習	90～95% 90～95% 90～95% 98%
	柿崎　育子	助手	代謝と栄養 代謝と栄養実習 チュートリアル教育 大学院基礎科目「医学研究概論」 大学院医学研究基礎技術実習「生体分子分析コース」 学士入学者の補充講義（化学）	95% 98% 100% 60% 100% 100%
05年度	高垣　啓一	教授	21世紀教育基礎科学実験（化学） コアＢ－１個体の構成と機能（５）生物物質の代謝 統合基礎医学実習Ａ（生化学実習） 基礎人体科学演習	98% 98% 98% 98%
	今　　淳	助教授	免疫学・遺伝子科学 コアＢ－１個体の構成と機能（５）生物物質の代謝 統合基礎医学実習Ａ（生化学実習） チュートリアル教育	90～95% 90～95% 98% 95～100%
	柿崎　育子	助手	コアＢ－１個体の構成と機能（５）生物物質の代謝 統合基礎医学実習Ａ（生化学実習） 基礎人体科学演習 チュートリアル教育 大学院共通科目　医学概論（後期）「実験医学および臨床研究各論」	95% 99% 98% 100% 90%
	山口　真範	助手	21世紀教育基礎科学実験（化学） 統合基礎医学実習Ａ（生化学実習） チュートリアル教育	98% 98% 98%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	高垣　啓一	教授	代謝と栄養（前期） 代謝と栄養（後期）	4.3 3.9
	今　　淳	助教授	系統別講義（皮膚・結合織系） 免疫学・遺伝子科学 代謝と栄養（後期） 代謝と栄養（後期）	4.3 3.9 4.2 4.2
	柿崎　育子	助手	代謝と栄養（前期）	3.6

05年度	高垣　啓一	教授	コアＢ－１個体の構成と機能（５）生物物質の代謝	4.2
	今　　淳	助教授	免疫学・遺伝子科学 コアＢ－１個体の構成と機能（５）生物物質の代謝	4.0 4.0

２）専門教育の評価

2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価Ａ	学生による評価Ｂ
代謝と栄養実習	２年 ３年次編入生	10日	30	3.8	3.5

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価Ａ	学生による評価Ｂ
統合基礎医学実習Ａ（生化学実習）	２年 ３年次編入生	10日	30		

6．生化学第二講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1　学生の理解を確かめながら，思考力，創造力を育成するように講義，実習を行ない，70％程度の成果を得た。
2　成績の評価について，色々な出題形式を試み，改善に努めた。
3　大学院学生の教育について，実験データの解析を通して，知識の具体化を図るように努め，70％程度の成果を得た。

これから２年間の目標：

1　生命活動や病気の物質的基盤を理解するために必要な知識を与え，学生の理解度を確かめながら，学生の思考力，想像力，創造力を育成するように努める。
2　知識，記憶中心の評価から，運用能力，応用力を重視した評価を行なうように，試験問題の改善に努める。
3　大学院学生の研究能力の向上を図るために，生命科学全般について，必要な知識を身につけられるよう，教育の充実に努める。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	早狩　　誠	助教授	テーマ	健康	薬と健康	薬と健康（A）	1 回
05年度	土田　成紀	教授	テーマ	人間	人間の尊厳	人間の尊厳（C）	3 回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
04年度	土田　成紀	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（化学）	4 回
05年度	土田　成紀	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（化学）	4 回

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	土田　成紀	教授	代謝と栄養 免疫・遺伝子科学	2年 3年	18回 3 回
	早狩　　誠	助教授	代謝と栄養	2年	6 回
05年度	土田　成紀	教授	個体の構成と機能（６）遺伝と遺伝子 免疫・遺伝子科学	2年 3年	15回 3 回
	山田　俊幸	助教授	基礎ゼミナール	1年	15回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	土田　成紀	教授	代謝と栄養実習 人体科学演習 チュートリアル	2年 1年 3年	10回 30回 4 回
	早狩　　誠	助教授	代謝と栄養実習 チュートリアル	2年 3年	10回 8 回
05年度	土田　成紀	教授	統合基礎医学実習Ａ チュートリアル	2年 3年	10回 8 回
	山田　俊幸	助教授	基礎人体科学演習 統合基礎医学実習Ａ	1年 2年	28回 10回
	清水　武史	助手	チュートリアル 統合基礎医学実習Ａ	3年 2年	8 回 10回

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	土田　成紀	教授	酵素化学 分子生物学 酵素化学	2 年 2 年 3 年	30回 30回 30回
05年度	土田　成紀	教授	酵素化学 医学研究概論	3年 1年	30回 2 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	土田　成紀	教授	生化学一般 酵素化学	2 年 2 年	120回 120回
	早狩　　誠	助教授	生化学一般 酵素化学 分子生物学	3 年 3 年 3 年	60回 120回 60回
05年度	土田　成紀	教授	タンパク質情報学実験実習 生化学一般	2 年 3 年	60回 60回
	山田　俊幸	助教授	酵素化学 腫瘍病態科学実験実習	3 年 2 年	120回 60回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	土田　成紀	教授	（工藤敏啓）Different susceptibility to peroxisome proliferator-induced hepatocarcinogenesis in rats with polymorphic glutathione transferase gene
05年度	土田　成紀	教授	（浅野純平）Activation of PPARalpha by peroxisomal thiolase-mediated acetyl-CoA production and steroid receptor coactivator in rat livers （七島直樹）Nuclear localization of STAT5A modified with O-linked N-acetylglucosamine and early involution in the mammary gland of Hirosaki hairless rat （棟方栄治）Uncoupling protein 2の新たな遺伝子多型の検出と肥満との関係について

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　称　等
04年度	土田　成紀	教授	弘前大学医学教育フォーラム
	早狩　　誠	助教授	弘前大学医学教育フォーラム
	清水　武史	助手	弘前大学医学教育フォーラム
05年度	土田　成紀	教授	弘前大学医学教育フォーラム

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	1 名
05年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	土田　成紀	教授	留学生国際教育科目	免疫・遺伝子科学	7 回

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	土田　成紀	教授	代謝と栄養 免疫・遺伝子科学 代謝と栄養実習 人体科学演習	85％ 85％ 100％ 100％
	早狩　　誠	助教授	代謝と栄養 代謝と栄養実習	85％ 100％
	清水　武史	助手	代謝と栄養実習	100％
05年度	土田　成紀	教授	個体の構成と機能（６）遺伝と遺伝子 免疫・遺伝子科学 統合基礎医学実習Ａ チュートリアル	85％ 85％ 100％ 100％
	山田　俊幸	助教授	基礎ゼミナール 基礎人体科学演習 統合基礎医学実習Ａ	99％ 99％ 99％
	清水　武史	助手	チュートリアル 統合基礎医学実習Ａ	100％ 100％

【学生による授業評価】

１）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	土田　成紀	教授	代謝と栄養 免疫・遺伝子科学 代謝と栄養実習	Ａ 3.7（前期）／3.9（後期） Ｂ 3.6（前期）／3.8（後期） Ａ 3.5，Ｂ 3.5 Ａ 3.8，Ｂ 3.5
	早狩　　誠	助教授	代謝と栄養	Ａ 3.5（前期）／4.0（後期） Ｂ 3.4（前期）／4.0（後期）
05年度	土田　成紀	教授	個体の構成と機能（６）遺伝と遺伝子 免疫・遺伝子科学	Ａ 3.7／Ｂ 3.6 Ａ 3.9／Ｂ 3.9

２）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価Ａ	学生による評価Ｂ
代謝と栄養実習	2年	10日	30	3.8	3.5

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価Ａ	学生による評価Ｂ
統合基礎医学実習Ａ	2年	10日	60	実施せず	実施せず

7．薬理学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

・導入教育の重要性を認識し，21世紀教育，基礎人体科学等の内容の充実に注力する。
・コア・カリキュラムの実施，３年次編入学生に対するカリキュラムの実施に向けて，薬理学（治療の薬理学的基礎）の講義・実習の抜本的改革を更に進める。
・講義方法の改善を図り，双方向性の高いものにする。
・大学院生の教育の充実をはかり，研究成果に反映されるよう努力する。

（到達度）

・可能な限り21世紀教育・基礎人体科学等を担当し，その充実に向けて内容のブラッシュアップを図った。その結果が評価されたと考えている。
・コア・カリキュラムの実施，３年次編入学生のためのカリキュラム実施に合わせて既存の薬理学授業（治療の薬理学的基礎）の講義・実習の改変が十分に行えたと考えている。
・大学院生の教育の充実が国際誌への学位論文の発表となって現れており，成果が得られたと考えている。

これから２年間の目標：

・医療従事者中心，疾病中心の医療から，患者中心の医療への変化に呼応した教育を実践する。
・大学院生を取り巻く環境の大きな変化を踏まえた上で，大学院生の教育・研究の充実を目指す。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	元村　　成	教授	テーマ科目 導入科目	健康		薬と健康（B） 基礎ゼミナール	20回 15回
	古川　賢一	助教授	基礎教育科目 テーマ科目 テーマ科目 テーマ科目	自然系基礎		生物学の基礎 IIB 生物の科学と技術 薬と健康 最新医学の現状	5 回 5 回 2 回 1 回
05年度	元村　　成	教授	テーマ科目 導入科目	健康		薬と健康（B） 基礎ゼミナール	20回 15回
	古川　賢一	助教授	基礎教育科目 テーマ科目 テーマ科目 テーマ科目	自然系基礎		生物学の基礎 IIB 生物の科学と技術 薬と健康 最新医学の現状	5 回 5 回 2 回 1 回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
04年度	元村　　成	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	7 回
	古川　賢一	助教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	3 回
05年度	元村　　成	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	7 回
	古川　賢一	助教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	3 回

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	元村　　成	教授	基礎人体科学演習 治療の薬理学的基礎 先端医学・東洋医学	1年 3年 3－6年	30回 17回 1 回
	古川　賢一	助教授	治療の薬理学的基礎	3年	11回

05年度	元村　　成	教授	基礎人体科学演習 侵襲と生体応答 治療の薬理学的基礎 系統別講義（循環器系）	1 年 2 年 3 年 4 年	30回 10回 17回 1 回
	古川　賢一	助教授	治療の薬理学的基礎	3 年	11回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	元村　　成	教授	治療の薬理学的基礎実習	3 年	7 回
	古川　賢一	助教授	治療の薬理学的基礎実習	3 年	7 回
	瀬谷　和彦	助手	治療の薬理学的基礎実習	3 年	7 回
	樋熊　拓未	助手	治療の薬理学的基礎実習	3 年	7 回
05年度	元村　　成	教授	治療の薬理学的基礎実習	3 年	7 回
	古川　賢一	助教授	治療の薬理学的基礎実習	3 年	7 回
	瀬谷　和彦	助手	治療の薬理学的基礎実習	3 年	7 回
	木村　正臣	助手	治療の薬理学的基礎実習	3 年	7 回

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	元村　　成	教授	実験薬理学・講義 循環薬理学・講義	1・2 年 1・2 年	1 回 1 回
	古川　賢一	助教授	実験薬理学・講義	1・2 年	2 回
05年度	元村　　成	教授	実験薬理学・講義	2・3 年	2 回
	古川　賢一	助教授	実験薬理学・講義	1・2 年	2 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	元村　　成	教授	実験薬理学・実験実習 循環薬理学・実験実習	1・2 年 1・2 年	1 回 1 回
	古川　賢一	助教授	タンパク質情報学・実験実習	1・2 年	2 回
05年度	元村　　成	教授	実験薬理学・実験実習 循環薬理学・実験実習	2・3 年 2・3 年	2 回 1 回
	古川　賢一	助教授	タンパク質情報学・実験実習	1・2 年	2 回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
05年度	元村　　成 （足利敬一）	教授	Effects of amiodarone on electrical and structural remodeling induced in a canine rapid pacing-induced persistent atrial fibrillation model

【ファカルティ・ディベロップメント】　　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	瀬谷　和彦	助手	4年 1年	臨床薬理学（保健学科） 薬理概論　（教育学部）	15回 15回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	元村　　成	教授	2 回	0 回
	古川　賢一	助教授	3 回	0 回
05年度	元村　　成	教授	8 回	7 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	元村　　成	教授	治療の薬理学的基礎	約90%
	古川　賢一	助教授	治療の薬理学的基礎	約90%
	瀬谷　和彦	助手	臨床薬理学　（保健学科） 薬理概論　　（教育学部）	平均89% ほぼ100%
05年度	元村　　成	教授	基礎人体科学演習 侵襲と生体応答 治療の薬理学的基礎講義（前期） 治療の薬理学的基礎講義（後期） 治療の薬理学的基礎実習	100% 90% 90% 90% 100%
	古川　賢一	助教授	治療の薬理学的基礎	90%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	元村　　成	教授	治療の薬理学的基礎講義（前期） 治療の薬理学的基礎講義（後期） 治療の薬理学的基礎実習	2.6 3.5 4.0
	古川　賢一	助教授	治療の薬理学的基礎	4.2
	瀬谷　和彦	助手	臨床薬理学　（保健学科） 薬理概論　　（教育学部）	3.95 4.29
05年度	元村　　成	教授	侵襲と生体応答 治療の薬理学的基礎講義（前期） 治療の薬理学的基礎講義（後期）	3.4 3.5 2.8
	古川　賢一	助教授	治療の薬理学的基礎講義（後期）	4.2

2）専門教育の評価　2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
治療の薬理学的基礎実習	3年	10日		3.9	3.9

8．病理学第一講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
それぞれの教官が，それぞれの分野を通して学生に疾病のメカニズムや，病理像の修得などを指導し，大半の学生には教育効果が十分得られており，目標はほぼ到達できている。

これから２年間の目標：
講義，実習を通じて，病理学の知識を体得させ，他の臨床分野で応用できるように教育する。また，自らの力で知識を拡大させ得るような人材育成をめざす。
さらに，病理学とともに病理診断学の実際を通じて，学生に病理学および病理医に対する理解と興味の喚起を促す。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	八木橋操六	教授	教養科目	自然領域	病気の科学	最新医学の現状 (A)	1 回
	和田　龍一	助教授			生活習慣と疾患	生活習慣と癌	2 回
05年度	八木橋操六	教授	教養科目	自然領域	病気の科学	最新医学の現状 (A)	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	八木橋操六	教授	基礎人体科学 人体の病理と病態	1 年 3 年	8 回 14回
	和田龍一	講師	病理学総論	医学部3年生	7 回
	山岸晋一朗	講師	人体の病理と病態	4 年	2 回
05年度	八木橋操六	教授	基礎人体科学 人体の病理と病態	1年 3年	10回 8 回
	和田　龍一	助教授	病理学総論	医学部3年生	2 回
	水上　浩哉	助手	チュートリアル	3年	4 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態実習	4 年	25回
	和田　龍一	講師	病理学各論実習	医学部4年生	27回
	山岸晋一朗	講師	病理学実習	4 年	28回
05年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態実習	4 年	10回
	和田　龍一	助教授	病理学各論実習	医学部4年生	27回
	水上　浩哉	助手	病理学実習	4 年	20回

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	八木橋操六	教授	病理系 総合 病理解剖学（病理学第一）	1～3年 1～3年 1～3年	1 回 1 回 25回
05年度	八木橋操六	教授	病理系 総合 病理解剖学（病理学第一）	1～3年 1～3年 1～3年	1 回 1 回 12回
	和田　龍一	助教授	大学院講義		2 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	八木橋操六	教授	病理診断実習（病理学第一）	1～4年	30回
05年度	八木橋操六	教授	病理診断実習（病理学第一）	1～4年	12回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	八木橋操六	教授	Uehara K. et al. Effects of polyol pathway hyperactivity on protein kinase C activity in diabetic rats. Diabetes 53:3239-47, 2004
05年度	八木橋操六	教授	Immunohistochemical expressions of cytokeratin in appendeceal tumors

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	2 名
05年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	八木橋操六	教授	保健学科2年	病理学実習	後期全般
	板橋智映子	医員	保健学科2年	病理学実習	後期全般
05年度	八木橋操六	教授	保健学科2年	病理学実習	後期全般
	板橋智映子	医員	保健学科2年	病理学実習	後期全般

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態3年 人体の病理と病態4年	90% 92%
05年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態3年 人体の病理と病態4年	95% 95%

【学生による授業評価】

1）授業評価　該当なし。

2）専門教育の評価　該当なし。

9．病理学第二講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

以下の4点を重視しながら教育を行うことを目標としている。

1．常に学生とのコミュニケーションを大切にし，学生が意欲的に勉学に取り組むよう方向付けを行うとともに，学生からの教育評価のフィードバックを受け入れる。

2．学部教育では，臨床医学の基礎として，主要疾患の病態（疾患機序）を把握することや個体レベルで疾患の重要性を理解することを主眼とする。

3．大学院教育では，自らが研究データの解析と体系化を行えるよう指導する。

4．コアカリキュラムや最新の知見に基づき，常に授業内容の見直しを図る。

2004年8月に教授着任に伴い当講座は新たなスタートをしたが，上記の目標に対する到達度は，80％と判断される。

これから2年間の目標：

前回の目標と同様で，（1）学生とのコミュニケーション，（2）病態把握に主眼をおいた学部教育，（3）研究の体系化を重視した大学院教育，（4）弛まぬ授業内容の見直し，の4点を重視する。また，新たに

1．学部教育では，有意義な病理学実習を実現するため，実習材料の改善を図る。

2．大学院教育では，研究データの解析と体系化を行えるとともに，研究の客観性と国際性を重要視して英文論文を作成するよう指導する。

ことを，目標に加えたい。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	鬼島　　宏	教授			テーマ・健康	最新医学の現状	1 回
05年度	鬼島　　宏	教授			テーマ・健康	最新医学の現状 基礎ゼミナール	1 回 10回
	楠美　智巳	講師				基礎ゼミナール	15回
	佐藤　冬樹	助手				基礎ゼミナール	15回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	鬼島　　宏	教授	人体の病理と病態	3年次	2 回
	楠美　智巳	助手	人体の病理と病態	3年次	5 回
05年度	鬼島　　宏	教授	人体の病理と病態 チュートリアル	3年次 3年次	12回 8 回
	楠美　智巳	講師	人体の病理と病態 チュートリアル	3年次 3年次	5 回 4 回
	佐藤　冬樹	助手	チュートリアル教育	3年次	4 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	鬼島　　宏	教授	基礎人体科学演習	1年次	10回
	楠美　智巳	助手	基礎人体科学演習 人体の病理と病態実習	1年次 4年次	15回 25回

05年度	鬼島　　宏	教授	基礎人体科学演習 人体の病理と病態実習	1年次 4年次	20回 20回
	楠美　智巳	講師	基礎人体科学演習 人体の病理と病態実習	1年次 4年次	30回 14回
	佐藤　冬樹	助手	基礎人体科学演習 人体の病理と病態実習	1年次 4年次	7 回 6 回

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
05年度	1名	鬼島　宏（保健学科卒後研究，前・後期）
	1名	楠美智巳（保健学科卒後研究，前・後期）
	1名	佐藤冬樹（保健学科卒後研究，前・後期）

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	鬼島　　宏	教授	大学院共通科目 臨床病態・病理学 消化器病理・病態修復学 腫瘍病態科学 病理組織学 腫瘍学		2 回 30回 30回 30回 15回 30回
	楠美　智巳	講師	医学研究概論	1 年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	楠美　智巳	助手	医学研究基礎技術実習	1 年次	1 回
05年度	鬼島　　宏	教授	臨床病態・病理学演習 消化器病理・病態修復学演習 腫瘍病態科学演習 病理組織学実験実習		15回 15回 15回 15回
	楠美　智巳	講師	臨床病態・病理学 消化器病理・病態修復学 腫瘍病態科学 病理組織学	1－4年 1－4年 1－4年 3 年	30回 30回 30回 15回

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
04年度	鬼島　　宏	教授	弘前大学21世紀教育 FD 研修会（8月10日） 弘前大学 FD シンポジウム（12月1日）
	楠美　智巳	助手	クリニカルクラークシップ FD 講習会

05年度	鬼島　　宏	教授	弘前大学FD講演会・シンポジウム「弘前大学の授業開発と実践」（みちのくホール,2005.12.07） 地域医療教育FD　第一回（MCC, 2006.2.03.） 地域医療教育FD　第二回（MCC, 2006.2.28.） 地域医療教育FD　第三回（MCC, 2006.3.30.）
	楠美　智巳	講師	クリニカルクラークシップFD講習会 地域医療教育FD　第1回 地域医療教育FD　第2回 地域医療教育FD　第3回
	佐藤　冬樹	助手	地域医療教育FD　第一回（2006.2.3.MCC） 地域医療教育FD　第二回（2006.2.28.MCC） 地域医療教育FD　第三回（2006.3.30.MCC）

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	鬼島　　宏	教授	3年	検査技術科学専攻臨地実習	50回
	楠美　智巳	助手	3年	検査技術科学専攻臨地実習	50回
05年度	鬼島　　宏	教授	3年	検査技術科学専攻臨地実習	50回
	楠美　智巳	講師	3年	検査技術科学専攻臨地実習	50回
	佐藤　冬樹	助手	3年	検査技術科学専攻臨地実習	50回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	鬼島　　宏	教授	9 回	東海大学医学部医学科非常勤講師
	楠美　智巳	助手	15回	15回
05年度	鬼島　　宏	教授	1 回	東海大学医学部医学科非常勤講師
	楠美　智巳	講師	15回	15回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	鬼島　　宏	教授	人体の病理と病態	95％
	楠美　智巳	助手	人体の病理と病態 人体の病理と病態実習	95％ 95％
05年度	鬼島　　宏	教授	人体の病理と病態 人体の病理と病態実習	95％ 95％
	楠美　智巳	講師	人体の病理と病態 人体の病理と病態実習	95％ 95％
	佐藤　冬樹	助手	チュートリアル教育	100％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	鬼島　　宏	教授	年度途中着任につき，実施されなかった	
	楠美　智巳	助手	人体の病理と病態 人体の病理と病態実習	3.7 3.8
05年度	鬼島　　宏	教授	人体の病理と病態（前期） 人体の病理と病態（後期）	（A）4.6，（B）4.6 （A）4.7，（B）4.6
	楠美　智巳	講師	人体の病理と病態	3.5
	佐藤　冬樹	助手	チュートリアル教育	最頻値：5段階評価で4.4

2）専門教育の評価　　該当なし。

10. 細菌学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1．21世紀教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当した。
2．コアカリキュラムに準拠し，学生が理解しやすい講義を行うよう，研鑽しているが，まだ努力が必要である。
3．チュートリアル教育の実施は順調に開始された。
4．学生と双方関係を持ちながら講義を進めるよう努力した。

これから２年間の目標：

1．21世紀教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。
2．コアカリキュラムに準拠し，学生が理解しやすい講義を行うよう，研鑽する。
3．チュートリアル教育の改善を行う。
4．学生と双方関係を持ちながら授業を進める。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	中根　明夫	教授	21世紀教育	導入科目		基礎ゼミナール	15回
				テーマ科目	環境	環境と生活	5 回
					健康	最新医学の現状	2 回
				基礎教育科目	自然系基礎	生物学の基礎	5 回
			国際交流科目			免疫学・遺伝子科学	3 回
05年度	中根　明夫	教授	21世紀教育	導入科目		基礎ゼミナール	15回
				テーマ科目	健康	最新医学の現状	1 回
				基礎教育科目	自然系基礎	生物学の基礎	3 回
	胡　　東良	講師		テーマ科目	健康	食品と微生物	1 回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
04年度	中根　明夫	教授	基礎教育科目	基礎科学実験	3 回
	胡　　東良	講師	基礎教育科目	基礎科学実験	3 回
	差波　拓志	助手	基礎教育科目	基礎科学実験	3 回
05年度	中根　明夫	教授	基礎教育科目	基礎科学実験	6 回
	胡　　東良	講師	基礎教育科目	基礎科学実験	6 回
	差波　拓志	助手	基礎教育科目	基礎科学実験	6 回
	成田　浩司	助手	基礎教育科目	基礎科学実験	6 回

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	中根　明夫	教授	基礎人体演習	1年	26回
			感染と生体防護機構Ⅰ	2年	21回
			免疫学・遺伝子科学	3年	4 回
			研究室研修	3年	14回
			東洋医学（寄附講義）	全学年	1 回
	胡　　東良	講師	感染と生体防護機構Ⅰ	2年	6 回
			研究室研修	3年	11回
	差波　拓志	助手	研究室研修	3年	8 回

05年度	中根　明夫	教授	基礎人体演習 個体の構造と機能 侵襲と生体応答（微生物） 侵襲と生体応答（免疫） 免疫学・遺伝子科学 研究室研修（チュートリアル）	1 年 2 年 2 年 2 年 3 年 3 年	30回 2 回 17回 14回 4 回 6 回
	胡　　東良	講師	侵襲と生体応答（微生物）	2 年	8 回
	差波　拓志	助手	研究室研修（チュートリアル） 侵襲と生体応答（免疫） 研究室研修（チュートリアル）	3 年 2 年 3 年	8 回 1 回 13回
	成田　浩司	助手	研究室研修（チュートリアル）	3 年	7 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	中根　明夫	教授	感染と生体防護機構Ⅰ実習	2年	8 回
	胡　　東良	講師	感染と生体防護機構Ⅰ実習	2年	8 回
	差波　拓志	助手	感染と生体防護機構Ⅰ実習	2年	8 回
05年度	中根　明夫	教授	統合基礎医学実習Ｂ	2年	8 回
	胡　　東良	講師	統合基礎医学実習Ｂ	2年	8 回
	差波　拓志	助手	統合基礎医学実習Ｂ	2年	8 回
	成田　浩司	助手	統合基礎医学実習Ｂ	2年	8 回

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
04年度		事実上存在していない

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	中根　明夫	教授	共通科目「生命科学と倫理」 共通科目「医学研究概論」 共通基礎科目「遺伝発生医学セミナー」 細菌学 細菌学 免疫学 ウイルス原虫学 免疫学 ウイルス原虫学	1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 2 年 2 年 3 年 3 年	1 回 1 回 1 回 15回 15回 15回 15回 15回 15回
05年度	中根　明夫	教授	共通科目「生命科学と倫理」 共通科目「医学研究概論」 共通基礎科目「遺伝発生医学セミナー」	1 年 1 年 1 年	2 回 1 回 1 回
	差波　拓志	助手	「最新医学の動向」	1 年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	中根　明夫	教授	細菌学 細菌学 ウイルス原虫学 免疫学 ウイルス原虫学 細菌学	1 年 2 年 2 年 3 年 3 年 2 年	15回 30回 15回 15回 15回 15回
	胡　　東良	講師	ウイルス原虫学 医学研究基礎技術実習	2 年 1 年	30回 1 回
	差波　拓志	助手	細菌学 ウイルス原虫学	2 年 2 年	15回 30回

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　称　等
04年度	中根　明夫	教授	21世紀センターFD研修会「大学における教養教育の改善」 医学部医学科FD「地域の医療を地域医療の視点で視る～教育を含めて」
05年度	中根　明夫	教授	地域医療FD チュートリアルFD前期（主催） チュートリアルFD後期（主催）

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0名
05年度	0名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0名
05年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
05年度	中根　明夫	教授	2年	微生物学（含免疫学）	15回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	中根　明夫	教授	31回	23回
05年度	中根　明夫	教授	18回	15回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	中根　明夫	教授	基礎人体演習 感染と生体防護機構Ⅰ 免疫学・遺伝子科学	100% 90% 70%
	胡　東良	講師	感染と生体防護機構Ⅰ	90%
05年度	中根　明夫	教授	基礎人体演習 個体の構造と機能 侵襲と生体応答（微生物） 侵襲と生体応答（免疫） 免疫学・遺伝子科学	100% 90% 90% 90% 70%
	胡　東良	講師	侵襲と生体応答（微生物）	90%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	中根　明夫	教授	感染と生体防護機構Ⅰ前期 感染と生体防護機構Ⅰ後期 免疫学・遺伝子科学 感染と生体防護機構Ⅰ前期	(A) 4.0，(B) 3.9 (A) 4.0，(B) 4.0 (A) 3.8，(B) 3.6 (A) 3.6，(B) 3.4
	胡　東良	講師	感染と生体防護機構Ⅰ後期	(A) 3.9，(B) 3.8
05年度	中根　明夫	教授	個体の構造と機能 侵襲と生体応答（微生物） 侵襲と生体応答（免疫） 免疫学・遺伝子科学	(A) 3.9，(B) 3.8 (A) 3.6，(B) 3.4 (A) 3.5，(B) 3.4 (A) 3.4，(B) 3.2
	胡　東良	講師	侵襲と生体応答（微生物）	(A) 4.2，(B) 4.2

2）専門教育の評価

2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
感染と生体防護機構 I 実習	2 年	8 回	24	4.2	4.1

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 B	2 年	8 回	24	4.0	3.8

11. 衛生学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	梅田　　孝	助手講師	21世紀教育	テーマ科目	運動と健康	健康と運動の科学（A）	2 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	中路　重之	助教授	社会と医学Ⅰ	4 年	7 回
		助教授	基礎人体科学演習	1 年	7 回
		教授	社会と医学Ⅰ	4 年	3 回
		教授	基礎人体科学演習	1 年	7 回
	梅田　　孝	助手講師	社会と医学Ⅰ	4 年	3 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	中路　重之	教授	社会と医学Ⅰ・Ⅱ実習	4年	10回
	梅田　　孝	助手講師	基礎人体科学演習	1年	15回
			社会と医学実習	4年	10回

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	中路　重之	助教授	疫学講義	1 年	前期
		教授	疫学講義	1 年	後期
		教授	疫学演習	1 年	後期
		助教授	体力栄養医学講義	1 年	前期
		教授	体力栄養医学講義	1 年	後期
		教授	体力栄養医学演習	1 年	後期

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	中路　重之	助教授 教授 助教授 教授	疫学実験実習 疫学実験実習 体力栄養医学実験実習 体力栄養医学実験実習	2 年 2 年 2 年 2 年	前期 後期 前期 後期

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	中路　重之	教授	女子柔道選手における強化合宿中の長時間・高強度の運動が好中球機能に及ぼす影響について（持田典子）

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	5 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	梅田　孝	非常勤講師	10回	10回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	中路　重之	助教授 教授	社会と医学Ⅰ 社会と医学実習 基礎人体科学演習	92.3% 92.3% 92.3%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	中路　重之	助教授 教授	社会と医学Ⅰ 社会と医学実習 基礎人体科学演習	4.07 4.07 4.07

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
社会と医学実習	4 年	10	10		
基礎人体科学演習	1 年	29	29		

12. 公衆衛生学講座　（資料なし）

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

2）実習

【学部教育】

1）講義

2）基礎実習

3）臨床実習

4）ＯＳＣＥ

【研究室研修】

【大学院】

1）講義

2）実習

3）学位論文

【ファカルティ・ディベロップメント】

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	
05年度	

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	
05年度	

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

【他大学・他施設における講義】

【学生授業出席率】

【学生による授業評価】

1）授業評価

2）専門教育の評価

13. 社会医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

社会医学実習を中心として，実際の社会に即した，臨場感のある教育をさらに推進したい，という目標は，「青森県民の健康を考える」というテーマの実習を行い，学生の達成感，満足感も高かったため（授業評価アンケートによる）ほぼ達成できたと考える。

これから２年間の目標：

社会性を賦与するための教育の推進。とくに現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採用された地域医療型クリニカルクラークシップ教育の充実を図る。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
05年度	中路　重之	教授	テーマ科目		健康	生活習慣と健康（C）	4 回
	梅田　　孝	講師	21世紀教育	テーマ科目	運動と健康	健康と運動の科学（A）	2 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	中路　重之	教授	社会と医学Ⅰ	4 年	10回
			医用統計	3 年	2 回
			チュートリアル	3 年	1 回
			基礎人体科学演習	1 年	10回
	梅田　　孝	講師	社会と医学Ⅰ	4 年	3 回
			チュートリアル	3 年	4 回
			基礎人体科学演習	1 年	10回
	高橋　一平	助手講師	チュートリアル	3 年	4 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	中路　重之	教授	社会と医学実習	4年	10回
	梅田　　孝	講師	社会と医学実習	4年	8 回
	高橋　一平	助手講師	社会と医学実習	4年	11回

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	中路　重之	教授	産業医学 管理医学 （健康科学領域） 疫学 疫学演習 地域・国際保健科学 地域・国際保健科学演習 健康･予防医学 健康・予防医学演習	3年 3年	15回 15回 30回 30回 30回 30回 30回 30回
	梅田　　孝	講師・助教授	（健康科学領域） 体力栄養医学 体力栄養医学演習		 30回 30回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	中路　重之	教授	産業医学 管理医学 （健康科学領域） 疫学実験実習 地域国際保健科学実験実習 健康・予防実験実習	3年 3年	30回 30回 30回 15回 15回
	梅田　　孝	講師・助教授	（健康科学領域） 体力栄養医学実験実習		 30回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
05年度	中路　重之	教授	The recovery rate at the terminal ileum and oro-ileal transit time of three major dietary fibers (resistant starch, pectin and cellulose). 難消化性，ペクチン，セルロースの回腸末端到達率及び口 - 回腸末端通過時間）（小山隆男） Effects of Rugby Sevens mathes on nonspecific immunity of human nuetrophils.（高橋一平） 大腿骨近位部骨折患者における早期からの歩行予後予測.（對馬栄輝） Position-related analysis of the appearance of and relationship between post match physical and mental fatigue in university rugby football players.（益子俊之）

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
05年度	8 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
05年度	梅田　　孝	講師	教育学部1－4年	運動スポーツ医学	10回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
05年度	中路　重之	非常勤講師	1 回 （秋田大学）	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
05年度	中路　重之	教授	社会と医学Ⅰ	95％
			社会と医学実習	95％
			基礎人体科学演習	95％
	梅田　　孝	講師	社会と医学	95％
			基礎人体科学演習	95％
			社会と医学実習	95％
			チュートリアル教育	95％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
05年度	中路　重之	教授	社会と医学Ⅰ	3.7
			社会と医学実習	3.7
			基礎人体科学演習	3.7

2）専門教育の評価　2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
社会と医学実習	4 年	10	10		
基礎人体科学演習	1 年	29	29		

14. 寄生虫学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
学生に理解される教育

これから２年間の目標：
学生に真に理解される教育

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
05年度	佐藤　　宏	講師		基礎科目		生物学の基礎	6 回

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	佐藤　　宏	講師	感染と生体防御機構 II 侵襲と生体応答 チュートリアル教育 基礎人体科学演習 基礎ゼミナール	3 年 2 年 3 年 1 年 1 年	13回 8 回 12回 30回 15回
	長内　理大	助手	感染と生体防御機構 II 侵襲と生体応答 チュートリアル教育 基礎人体科学演習 基礎ゼミナール	3 年 2 年 3 年 1 年 1 年	13回 8 回 12回 30回 15回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	佐藤　　宏	講師	感染と生体防御機構 II 実習 統合基礎医学実習 B	3 年 2 年	8 回 8 回
	長内　理大	助手	感染と生体防御機構 II 実習 統合基礎医学実習 B	3 年 2 年	8 回 8 回

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】　該当なし。

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
05年度	佐藤　宏	講師	感染と生体防御機構 II	95％
			侵襲と生体応答	95％
			チュートリアル教育	100％
			基礎人体科学演習	100％
			基礎ゼミナール	100％
			感染と生体防御機構 II 実習	100％
			統合基礎医学実習 B	98％
	長内　理大	助手	感染と生体防御機構 II	95％
			侵襲と生体応答	95％
			チュートリアル教育	100％
			基礎人体科学演習	100％
			基礎ゼミナール	100％
			感染と生体防御機構 II 実習	100％
			統合基礎医学実習 B	98％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
05年度	長内　理大	助手	感染と生体防御機構 II	4.0

2）専門教育の評価　2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
感染と生体防御機構 II 実習	3 年	8	24	3.6	3.8

15. 法医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1　臨床家として必要最低限の法医学的知識を獲得できるよう，視覚教材を豊富に用い，可及的に実例供覧を行って，医学科学生の講義への集中力を向上維持させる。(100/100)
2　講義には予め講座で著作編集したプリントを配布して時間の節約に努める。(100/100)
3　国家試験ガイドラインに沿った講義内容を盛り込み，国家試験受験に対する学生の不安を緩和するよう努める。(80/100)
4　21世紀教育では，社会的問題の医学的側面について，非医学系学生にも理解できるようわかりやすい講義内容となるように工夫する。(0/100)
5　希望があれば，学部の枠にとらわれず，学生の講座への来訪を随時歓迎し，鑑定や研究の現場を供覧する．(0/100)
6　研究室研修，基礎学生実習において指導を行う。(100/100)
7　研修・実習内容の見直しを絶えず行う。(100/100)
8　総合して，実りのある講義および実習を目指す。(100/100)

これから２年間の目標：

1　全ての授業について，書籍・文献の検索・読破による自主自学を前提としたものとし，講義自体は，学生の理解の誤りを正し，学習への意欲を掻き立てるための刺激の機会と位置づける。
2　授業内容は，コアカリキュラム･国家試験出題ガイドラインに従いながらも，「全てを」「丁寧に」「わかりやすく」「楽しく」教える方法を敢えて放棄し，自主的な学習こそが大学では重要であることを強制的に理解させる。
3　上記 1 および 2 を踏まえ，厳しい試験を実施する。
4　研究室研修，基礎学生実習において指導を行う。
5　研修・実習内容の見直しを絶えず行う。
6　総合して，実りのある講義および実習を目指す。

(1) 教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	北　　武	講師	テーマ			生活習慣と健康（B）	3 回
05年度	黒田　直人	教授	基礎ゼミナール		基礎ゼミナール		12回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	黒田　直人	教授	基礎人体科学演習 医学概論（第 2 学年） 社会と医学Ⅱ 成長と発達	1 年 2 年 4 年 4 年	30回 9 回 11回 1 回
	北　　武	講師	社会と医学Ⅱ	4 年	2 回
05年度	黒田　直人	教授	基礎人体科学演習 医の原則 チュートリアル教育 社会と医学Ⅱ	1 年 2 年 3 年 4 年	24回 15回 4 回 9 回
	北　　武	講師	社会と医学Ⅱ	4 年	2 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	黒田　直人	教授	社会と医学実習	4年	3 回
	北　　武	講師	社会と医学実習	4年	3 回

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	黒田　直人	教授	医学研究概論	1－3年	1 回
	北　　武	講師	鑑識学特論	3・4年	2 回

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	北　　武	講師	4年	臨床免疫学	6 回
05年度	北　　武	講師	2年	免疫・血液型，実習	7 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
05年度	黒田　直人	教授	3 回	0 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	黒田　直人	教授	基礎人体科学演習	100％
			医学概論（第 2 学年）	95％
			社会と医学Ⅱ	95％
			成長と発達	95％
	北　　武	講師	社会と医学Ⅱ	95％
05年度	黒田　直人	教授	基礎人体科学演習	98％
			医の原則	90％
			チュートリアル教育	95％
			社会と医学Ⅱ	90％
	北　　武	講師	社会と医学Ⅱ	95％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	黒田　直人	教授	医学概論（第 2 学年）	4.3

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
社会と医学実習	4 年	3	9		

16. 内科学第一講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1）引き続き共通教育，専門教育，大学院教育，保健学科等，多方面にわたる講義，実習を担当する。また講義・実習内容の見直し・改善を絶えず行い，簡潔な知識を学生に提供する。
講義の学生評価は概ね良好であった。また，学生からのアンケート調査結果をもとに臨床実習内容を見直し，ミニレクチャーを取り入れるなど学生の理解度を高める工夫を行った。到達度：80％

2）クリニカルクラークシップ，ＯＳＣＥを充実させる。到達度：70％

3）卒後臨床教育における当科の果たすべき目標達成に向けて，教育システムをさらに充実させる。
専門医取得のためのカリキュラムの整備を行った。到達度：80％

これから２年間の目標：

1．引き続き21世紀教育，専門教育，大学院教育，保健学科等，多方面にわたる講義，実習を担当する。また講義・実習内容の見直し・改善を絶えず行い，簡潔な知識を学生に提供する。

2．クリニカルクラークシップの位置づけを明確にし，さらに充実させる。

3．卒後臨床教育における当科の果たすべき目標達成に向けて，教育システムをさらに充実させる。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	棟方　昭博	教授	テーマ	健康	最新医学の現状	消化器疾患の最前線と癌の科学	1 回
	福田　眞作	助教授	テーマ	健康	最新医学の現状	消化器疾患の最前線	2 回
	石黒　　陽	講師	テーマ	健康	最新医学の現状	消化管疾患の診断	1 回
	坂本　十一	講師	テーマ	健康	最新医学の現状	肝臓癌の予防	1 回
05年度	福田　眞作	助教授	テーマ	健康	最新医学の現状（B）	消化器疾患の最前線	1 回
	坂本　十一	講師	テーマ	健康	最新医学の現状（B）	肝臓癌の予防	1 回
	玉井　佳子	講師	テーマ	健康	最新医学の現状（B）	癌（各論）：血液の癌	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	棟方　昭博	教授	系統別講義（消化器系）	3 年	2 回
	福田　眞作	助教授	系統別講義（消化器系） 臨床診断学（内科診断学）	3 年 4 年	3 回 1 回
	石黒　　陽	講師	系統別講義（免疫系）	4 年	4 回
	坂本　十一	講師	系統別講義（消化器系） チュートリアル	4 年 3 年	3 回 4 回
	玉井　佳子	講師	系統別講義（血液系）	4 年	6 回
	伊東　重豪	助手	チュートリアル	3 年	4 回
	山形　和史	助手	チュートリアル	3 年	4 回
	遠藤　　哲	助手	チュートリアル	3 年	4 回
	三上　達也	助手	チュートリアル	3 年	4 回

05年度	福田　眞作	助教授	系統別講義（消化器系） 臨床診断学（内科診断学）	3年 4年	5 回 1 回
	玉井　佳子	講師	系統別講義（血液系） 国試対策セミナー	4年 6年	6 回 1 回
	下山　　克	講師	チュートリアル	3年	4 回
	伊東　重豪	助手	プライマリケア講座	6年	1 回
	坂本　十一	講師	系統別講義（消化器系） 特別教育（画像診断） POS 病態生理	4年 6年 6年	3 回 1 回 1 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	5－6年対　象　学　年	回数又は期間
04年度	棟方　昭博	教授	5－6年	32週
	福田　眞作	助教授	5－6年	32週
	石黒　　陽	講師	5－6年	32週
	玉井　佳子	講師	5－6年	32週
	伊東　重豪	助手	5－6年	32週
	山形　和史	助手	5－6年	32週
	三上　達也	助手	5－6年	32週
05年度	棟方　昭博	教授	5－6年	36週
	福田　眞作	助教授	5－6年	36週
	玉井　佳子	講師	5－6年	36週
	下山　　克	講師	2 年 5－6年	11回 36週
	伊東　重豪	助手	5－6年	36週
	三上　達也	助手	5－6年	36週
	遠藤　　哲	助手	5－6年	36週
	山形　和史	助手	5－6年	36週
	高畑　武功	助手	5－6年	36週
	吉村　徹郎	助手	5－6年	36週

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	福田眞作（腹部診察）	助教授
	玉井佳子（医療面接）	講師
	下山　克（医療面接）	助手
05年度	福田　眞作	助教授
	坂本　十一	講師
	下山　　克	講師
	遠藤　　哲	助手

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	棟方　昭博	教授	内科学総論 内科治療予後学	1－2年 1－2年	15回 15回
	石黒　　陽	講師	大学院共通科目遺伝発生学セミナー	1－2年	1 回
	下山　　克	助手	*H.pylori* 感染の基礎と臨床	2年	1 回
05年度	棟方　昭博	教授	内科学総論	1－2年	15回
	下山　　克	講師	医学研究概論（臨床系）	1年	1 回
	伊東　重豪	助手	最新医学の動向	2年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	棟方　昭博	教授	消化器病理・病態修復学	3－4年	15回
	下山　　克	助手	分子生物学的手法	2年	1 回
05年度	棟方　昭博	教授	消化器病理・病態修復学	3－4年	15回
	福田　眞作	助教授	生理学実験実習	3年	30回
	下山　　克	助手	核酸関係の実験	1年	1 回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　　導　　論　　文　　名
04年度	棟方　昭博	教授	大腸癌における p15INK4b および p16INK4a 遺伝子メチル化が臨床病理学的因子に与える影響（石黒敦） 観血的内視鏡手技における適切な抗血小板剤の休薬期間に関する研究（石澤知子） CYP2C19遺伝子型別にみた lansoprazole と clarithromycin の薬物相互作用の検討（齋藤正人） 粘膜関連リンパ組織（MALT）リンパ腫転座関連遺伝子 API2-MALT1 の機能解析（間山恒）
	玉井　佳子	講師	観血的内視鏡手技における適切な抗血小板剤の休薬期間の決定に関する研究（石澤知子）
05年度	棟方　昭博	教授	大腸癌先進部と正常組織境界における微小血管変数および Type Ⅳ collagen の発現（平賀典子） 独特の Th1/Th2- プロファイルによりクローン病と潰瘍性大腸炎は制御される（伊東重豪）

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	3 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	9 名
05年度	9 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　　目　　名	回数又は期間
04年度	玉井　佳子	講師	3年	腹部超音波実習	4 回
05年度	玉井　佳子	講師	3年	腹部超音波実習	4 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	棟方　昭博	教授	1 回	0 回
	玉井　佳子	講師	1 回	0 回
05年度	棟方　昭博	教授	1 回	0 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
04年度	棟方　昭博	教授	消化器病学	70％
	福田　眞作	助教授	系統別講義（消化器系） 臨床診断学（内科診断学）	95％ 50％
	石黒　　陽	講師	系統別講義（免疫系）	50％
	坂本　十一	講師	系統別講義（消化器系）	80％
	玉井　佳子	講師	系統別講義（血液系）	80％
05年度	福田　眞作	助教授	系統別講義（消化器系） 臨床診断学（内科診断学）	95％ 80％
	坂本　十一	講師	系統別講義（消化器系）	90％
	玉井　佳子	講師	系統別講義（血液系）	80％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	棟方　昭博	教授	系統別講義（消化器系）	（A）3.8（B）3.8
	福田　眞作	助教授	系統別講義（消化器系） 臨床診断学（内科診断学）	（A）4.3（B）4.4 （A）4.2（B）4.2
	石黒　陽	講師	系統別講義（免疫系）	（A）3.9（B）4.0
	坂本　十一	講師	系統別講義（消化器系）	（A）3.3（B）3.3
	玉井　佳子	講師	系統別講義（血液系）	（A）4.5（B）4.5
05年度	福田　眞作	助教授	系統別講義（消化器系） 臨床診断学（内科診断学）	（A）4.5（B）4.6 （A）4.2（B）4.1
	坂本　十一	講師	系統別講義（消化器系）	（A）3.9（B）3.9
	玉井　佳子	講師	系統別講義（血液系）	（A）4.6（B）4.6

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5 － 6 年	32週		4.3	4.3

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5 － 6 年	36週		4.2	4.2

17. 内科学第二講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

共通教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。(80%)
講義内容の見直しを絶えず行う。(90%)
出席率の向上を計る。(90%)
臨床実習（SGT）教育において，clinical clerkship に基づく実習を充実し，Problem-oriented learning を定着させる。(90%)
卒後臨床実習においても，中身のある実習プログラムを作成し実施する。(70%)

これから２年間の目標：

共通教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。
講義内容の見直しを絶えず行う。
出席率の向上を計る。
臨床実習（SGT）教育において，clinical clerkship に基づく実習を充実し，Problem-oriented learning を定着させる。
卒後臨床研修は初期研修だけでなく後期研修もプログラムの充実化を図り，研修医にとって魅力的なものとする。これにより多くの後期研修医を迎えたい。

(1) 教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	奥村　　謙	教授	教養 教養	健康 健康	高血圧・心臓病と薬物 胸部疾患	薬と健康（A） 最新医学の現状（D）	2 回 1 回
	高梨　信吾	助教授			喫煙と呼吸器疾患	21世紀教育	1 回
	花田　裕之	講師	教養	健康	心臓病と危険因子	最新医学の現状（D）	1 回
05年度	奥村　　謙	教授	教養 教養	健康 健康	高血圧・心臓病と薬物 胸部疾患	薬と健康（A） 最新医学の現状（D）	2 回 1 回
	長内　智宏	助教授	教養	自然	病気の科学	生活習慣と健康	3 回
	高梨　信吾	助教授	教養			喫煙と呼吸器疾患	1 回
	中村　典雄	講師	教養			腎臓病の最新の話題	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	奥村　　謙	教授	系統別講義（循環器系） 系統別講義（循環器系） 内科診断学	4 年 3 年 4 年	6 回 8 回 1 回
	長内　智宏	助教授	系統別講義（循環器系） 系統別講義（循環器系）	4 年 5 年	5 回 3 回
	高梨　信吾	助教授	系統別講義（呼吸器系） 系統別講義（呼吸器系）	4 年 5 年	16回 10回
	花田　裕之	講師	系統別講義（循環器系） 系統別講義（循環器系）	3 年 4 年	2 回 6 回
05年度	奥村　　謙	教授	系統別講義（循環器系） 系統別講義（循環器系） 内科診断学	4 年 3 年 4 年	6 回 8 回 1 回
	長内　智宏	助教授	系統別講義（循環器系）	4 年	6 回
	高梨　信吾	助教授	系統別講義（呼吸器系）	4 年	18回
	花田　裕之	講師	系統別講義（循環器系） 系統別講義（循環器系）	3 年 4 年	2 回 6 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	5－6年対　象　学　年	回数又は期間
04年度	奥村　　謙	教授	5，6年	36週
	高梨　信吾	助教授	5，6年	36週
	花田　裕之	講師	5，6年	36週
	中村　典雄	講師	5，6年	36週
	松永　敏郎	講師	5，6年	30回
	長谷川幸裕	助手	5，6年	30回
05年度	奥村　　謙	教授	5，6年	36回
	高梨　信吾	助教授	5，6年	36回
	花田　裕之	講師	5，6年	36回
	中村　典雄	講師	5，6年	36回
	岩佐　　篤	助手	5，6年	36回
	横山　　仁	助手	5，6年	36回
	須藤　直行	助手	5，6年	36回
	藤本　幸士	助手	5，6年	36回
	樋熊　拓未	助手	5，6年	36回
	小林　孝男	助手	5，6年	36回

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	長内　智宏	助教授
	高梨　信吾	助教授
	花田　裕之	講師
05年度	長内　智宏	助教授
	中村　典雄	講師

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	奥村　　謙	教授	内科学総論 内科治療予後	2年 2年	15回 15回
	長内　智宏	助教授	医学研究概論 最新医学の動向	1，2年 1，2年	1 回 1 回
05年度	奥村　　謙	教授	内科学総論 内科治療予後	2年 2年	15回 15回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	奥村　　謙	教授	循環呼吸病態科学演習	1年	15回
05年度	奥村　　謙	教授	循環呼吸病態科学演習	1年	15回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	奥村　　謙	教授	Angiotensin type-2 receptor-mediated coronary arteriolar dilation is enhanced in rats with type-2 diabetes mellitus Hypoxic condition stimulates production of angiogenin and vascular endothelial growth factor by human renal proximal tubular epithelial cells in culture “V-H-A pattern” as a simple Criterion for the differential diagnosis of typical and atypical atrioventricular (AV) nodal reentrant tachycardias from AV reciprocating tachycardia Pericardial insulin-like growth factor-1 level is increased in patients with advanced Heart Failure

04年度	長内　智宏	助教授	Troglitazone and 15-deoxy-deta 12, 14-prostaglandin J2 inhibit shear-induced coupling factor 6 release in endothelial cells. Roxithromycin is an inhibitor of human coronary artery smooth muscle cells proliferation: a potential ability to prevent coronary heart disease
05年度	奥村　　謙	教授	Extracellular matrix metalloproteinase inducer (EMMPRIN)expression in kidneys: enhanced expression in IgA nephropathy. Small adenocarcinoma of the lung: Prognostic significance of central fibrosis chiefly because of its association with angiogenesis and lymphangiogenesis. Frequency and short-and Long-term prognosis of acute myocardial infarction accompanied by occlusion of multiple coronary arteries: comparison with those by single-vessel occlusion. Clara cell protein (CC10) level in the sputum is decreased in bronchial asthma. Enalapril suppresses ventricular remodeling more effectively than losartan in patients with acute myocardial infarction. Effect of vasoconstrictor coupling factor 6 on gene expression profile in human vascular endothelial cells:Enhanced release of asymmetric dimethylarginine.
	奥村　　謙 長内　智宏	教授 助教授	Increased serum anandamide level at ruptured plaque site in patients with acute myocardial infarction.

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	1 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
05年度	奥村　　謙	教授	1 回	1 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	奥村　　謙	教授	系統別講義（循環器系）	98％
	長内　智宏	助教授	系統別講義（循環器系）	80％－90％
	高梨　信吾	助教授	系統別講義（呼吸器系）	70％
	花田　裕之	講師	系統別講義（循環器系）	80％
05年度	奥村　　謙	教授	系統別講義（循環器系）	80％
	長内　智宏	助教授	系統別講義（循環器系）	80％－90％
	高梨　信吾	助教授	系統別講義（呼吸器系）	70％
	花田　裕之	講師	系統別講義（循環器系）	80％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	奥村　　謙	教授	系統別講義（循環器系）	4.8
	長内　智宏	助教授	系統別講義（循環器系）	4.2－4.3
	高梨　信吾	助教授	系統別講義（呼吸器系）	4.7
	花田　裕之	講師	系統別講義（循環器系）	4.4

05年度	奥村　　謙	教授	臨床実習	4.6
	長内　智宏	助教授	系統別講義（循環器系）	4.2－4.3
	高梨　信吾	助教授	系統別講義（呼吸器系）	4.5
	花田　裕之	講師	系統別講義（循環器系）	4.6

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
内科学第二講座	5・6年	160	16	4.6	4.8

18. 内科学第三講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
80％

これから２年間の目標：
1．クラブ活動を通しての学生との交流
2．２方向性講義と問題解決型講義の充実
3．充実した臨床実習の整備

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	須田　俊宏	教授	テーマ科目	健康		最新医学の現状 A	2 回
	玉澤　直樹	助教授				生態系の中の人間	3 回
	小川　吉司	講師		健康		生活習慣と健康（A） 最新医学の現状（A）	3 回 1 回
	神成　一哉	講師			脳卒中と糖尿病 パーキンソン病	薬と健康 最新医学の現状	2 回 2 回
05年度	須田　俊宏	教授			遺伝子診断と治療	最新医学の現状 A	1 回
	玉澤　直樹	助教授			生態系の中の人間		3 回
	小川　吉司	講師				生活習慣と健康（A） 最新医学の現状（A）	3 回 1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	須田　俊宏	教授	系統別講義　内分泌代謝系 系統別講義　内分泌代謝系 系統別講義　内分泌代謝系	3 年 4 年 5 年	7 回 9 回 12回
	玉澤　直樹	助教授	系統別講義（代謝内分泌） 系統別講義（感染症）	4 年 4 年	3 回 7 回
	小川　吉司	講師	系統別講義（代謝内分泌系）	4 年	6 回
	神成　一哉	講師	系統別講義（脳神経系）	4 年	10回
05年度	須田　俊宏	教授	系統別講義内分泌代謝系	3－4年	17回
	玉澤　直樹	助教授	内分泌代謝 内科診断学 免疫感染症	4年次 3年次 4年次	5 回 1 回 9 回
	小川　吉司	講師	代謝内分泌	4年次	6 回
	二川原　健	助手	チュートリアル	3年次	1クール

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	5－6年対　象　学　年	回数又は期間
04年度	須田　俊宏	教授	6年 5年	20（週2回ポリクリ） 56（週2回ポリクリ）
	玉澤　直樹	助教授	5，6年	通年
	小川　吉司	講師	5，6年	通年
	神成　一哉	講師	5，6年	30回
	松井　　淳	助手	5，6年	通年
	丹藤　雄介	助手	5，6年	全30班×10日
	蔭山　和則	助手	5，6年	通年
	二川原　健	助手	5，6年	通年
05年度	須田　俊宏	教授	5－6年	72回
	小川　吉司	講師	5－6年	2週に1回
	松井　　淳	講師	5年生	通年
	丹藤　雄介	講師	5，6年	通年
	蔭山　和則	講師	5，6年	通年
	二川原　健	助手	5，6年	通年

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	須田　俊宏	教授	内科学総論，診断学	2年	10回
	玉澤　直樹	助教授	医学研究概論	2年	1 回
	小川　吉司	講師			
05年度	須田　俊宏	教授	内科診断学	3年	15回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	小川　吉司	講師	内科治療予後学	3年	10回
05年度	玉澤　直樹	助教授	内科診断学 内分泌代謝生理学演習 内科治療予後学 内分泌代謝生理学実験実習	3，4年次 1年次 3，4年次 2年次	前期 後期 通年 通年
	小川　吉司	講師	内科診断学 内分泌代謝生理学演習 内科治療予後学 内分泌代謝生理学実験実習	3，4年次 1年次 3，4年次 2年次	前期 後期 通年 通年

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	玉澤　直樹	助教授	Evaluation of apolipoprotein E secretion by macrophages in type 2 diabetic patients: role of HDL and spolipoprotein A-I
	蔭山　和則	助手	Differential regulation of CRF R1
05年度	玉澤　直樹	助教授	Evaluation of apolipoprotein E secretion by macrophages in type 2 diabetic patients:role of HDL and apolipoproteinA-I
	丹藤　雄介	講師	1）非代償期慢性膵炎患者の安静時エネルギー消費量の変動 2）セルレイン刺激腺房細胞における calcitonin-gene related protein(CGRP) のプレコンディショニング作用
	蔭山　和則	講師	Differential regulation of CRF R1……..

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
04年度	丹藤　雄介		チュートリアル教育 FD

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	神成　一哉	講師	5 回	5 回
	丹藤　雄介	助手	1 回	1 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	須田　俊宏	教授	系統別講義　内分泌代謝系	30％－90％
	神成　一哉	講師	系統別講義（脳神経系）	70％
05年度	玉澤　直樹	助教授	免疫感染症	70％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	須田　俊宏	教授	系統別講義　内分泌代謝系	3.5
	玉澤　直樹	助教授	系統別講義　内分泌代謝系 系統別講義　感染症系	2.2 3.8
	小川　吉司	講師	系統別講義（代謝内分泌系）	4.0
	神成　一哉	講師	系統別講義（脳神経系）	4.0
05年度	玉澤　直樹	助教授	免疫・感染症	4.0
	小川　吉司	講師	代謝内分泌	4.0

2）専門教育の評価　該当なし。

19. 老年科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

長寿医学に関心を持たせることができた。到達度は40％。

高齢者関節リウマチの至適療法の確立の到達度は，50％程度。

津軽地域のリウマチネットワーク作成の到達度は，30％程度。

リウマチ予後決定因子の検討の到達度は，30％程度。

これから２年間の目標：

抗加齢医学に関心を持たせる教育を行う。

学生に対する講義数を現在よりも増加させる。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	水島　　豊	教授	テーマ テーマ テーマ科目	健康 健康 健康	薬と健康 薬と健康 発達と老化	薬と健康（A） 薬と健康（B） 発達と老化（A）2	6 回 4 回 2 回
05年度	水島　　豊	教授	テーマ	健康	薬と健康 薬と健康 生活習慣と健康 発達と老化	薬と健康（A） 薬と健康（B） 生活習慣と健康（D） 発達と老化（A）2	6 回 4 回 1 回 2 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	水島　　豊	教授	系統別講義（加齢医学） 系統別講義（呼吸器系） 系統別講義（精神系） 系統別講義（精神系） チュートリアル教育 東洋医学講義	4年 4年 4年 5年 3年	5 回 2 回 2 回 1 回 8 回 1 回
	浦田　幸朋	助手	チュートリアル教育	3年	4 回
05年度	水島　　豊	教授	系統別講義（加齢医学） 系統別講義（呼吸器系） 系統別講義（精神系） チュートリアル教育 東洋医学集中講義	4年 4年 4年 3年 6年他	7 回 2 回 1 回 6 回 1 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	5－6年対　象　学　年	回数又は期間
04年度	水島　　豊	教授	6年 5年	15回 42回
	浦田　幸朋	助手	6年 5年	10回 28回
05年度	水島　　豊	教授	5～6年	60回
	浦田　幸朋	助手	5～6年	40回

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
05年度	浦田　幸朋	助手

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	水島　豊	教授	2年	老年医学概論	7 回
05年度	水島　豊	教授	2，4年	老年医学概論	7 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	水島　豊	教授	1 回	1 回
	浦田　幸朋	助手	1 回	1 回
05年度	水島　豊	教授	25回	25回

【学生授業出席率】　該当なし。

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	水島　豊	教授	系統別講義（加齢医学） 系統別講義（精神系） 系統別講義（呼吸器系）	A＝3.6　B＝3.4 A＝3.9　B＝3.8 A＝3.8　B＝3.8
05年度	水島　豊	教授	加齢医学 系統別講義（神経系） 系統別講義（呼吸器系）	A＝3.5　B＝3.4 A＝3.6　B＝3.6 3.3　3.3

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習 SGT	5・6 年	57	1147	3.9	3.8

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習（SGT）	5 ～ 6 年	60	約400	3.8	3.4

20. 神経・精神医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

設定した以上の目標を達成した

卒後臨床研修生用のプログラムを作成し，さらにはそのテキストとしてＭＧＨ「心の問題」診療ガイドを訳出した（メヂカル・サイエンス・インターナショナル）。これまでのところ，卒後臨床研修生により良い評価を得ている。

臨床生理学（脳波など）に関連する講義については，より実践的な視点で講義を行い，学生の興味を増加させ，その理解を深める。

臨床精神医学に関連する講義については，病態の理解に加えて，患者さんの苦しみの理解，共感性という点にも力点を置き，患者さんの側に立った医療の浸透に努める。

研究室研修における教育に関し，世界レベルの知識と論文掲載に準ずる知識を教育するため，それに応じた充分な知識を自ら蓄え，斟酌し，学生に容易に伝えられるよう努力する。具体的には学術誌への論文掲載により世界レベルの知識を維持し，また学会発表により伝えるための手段を模索する。

これから２年間の目標：

・本学部医学科学生用の専用のテキスト作成を試みる。卒後臨床研修生用のプログラムを充実させ，魅力ある卒後臨床研修を提供したい。
・コアカリキュラム導入へ向けて，講義内容を厳選し，一層スリム化する。
・学部・大学院講義への最新の成果導入とSGT学生への適正な症例の振り分けを行う。
・教育では。引き続き基本的知識の伝達及び，近年進歩の著しい最新の神経科学的知見と，精神医学的近況を含めた知識の伝達につとめる。
・地域社会に対しては，各種行政サービスとの連携強化につとめ，神経精神医学の普及と向上に努める。
・共通教育・専門教育・卒後臨床教育において講義，実習を可能な限り担当する。
・講義内容の見直しを絶えず行う。

これまでと同様に，

１）講義ごとのレジメを作成し，その都度工夫を加え講義するように努力する。
２）臨床生理学（脳波など）に関連する講義については，理論と実践のバランスに配慮して講義を行う。
３）精神医学に関連する講義については，病態，症状の理解に加えて，患者さんへの共感性という点にも力点を置いて講義する。

・さらに創意工夫をし，魅力ある教育を実践する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	兼子　　直	教授	教養	健康	メンタルヘルス（A）	メンタルヘルス	2 回
	矢部　博興	助教授	教養	自然	21世紀教育	メンタルヘルス	1 回
	栗林　理人	講師	教養			心と発達	1 回
	篠崎　直子	助手	教養		最新医学の現状（C）	人の精神活動と事象関連電位	1 回
05年度	兼子　　直	教授	教養	健康	メンタルヘルス（A）	メンタルヘルス	2 回
	矢部　博興	助教授	教養	自然	21世紀教育	メンタルヘルス	1 回
	栗林　理人	講師				心と発達	1 回
	古郡　規雄	講師			中年期のメンタルヘルス	メンタルヘルス	2 回
	篠崎　直子	助手			最新医学の現状（C）	人の精神活動と事象関連電位	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	兼子　　直	教授	系統別講義（精神系） 系統別講義（精神系）	5年次 4年次	4 回 5 回
	矢部　博興	助教授	系統別講義（精神系） 系統別講義（精神系）	5年次 4年次	6 回 5 回
	栗林　理人	講師	系統別講義（精神系） 系統別講義（精神系）	5年次 4年次	4 回 4 回
	岡田　元宏	講師	系統別講義（精神系） 系統別講義（精神系）	5年次 4年次	2 回 2 回
	篠崎　直子	助手	系統別講義（精神系） 系統別講義（精神系）	5年次 4年次	2 回 2 回
	畫間　臣治	助手	系統別講義（精神系） 系統別講義（精神系）	5年次 4年次	2 回 2 回
05年度	兼子　　直	教授	系統別講義（精神系）	4年次	4 回
	矢部　博興	助教授	系統別講義（精神系）	4年次	6 回
	栗林　理人	講師	系統別講義（精神系）	4年次	4 回
	岡田　元宏	講師	系統別講義（精神系）	4年次	2 回
	古郡　規雄	講師	系統別講義（精神系）	4年次	2 回
	篠崎　直子	助手	系統別講義（精神系）	4年次	1 回
	畫間　臣治	助手	系統別講義（精神系）	4年次	2 回
	菊池　淳宏	助手	系統別講義（精神系）	4年次	2 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	5－6年対　象　学　年	回数又は期間
04年度	兼子　　直	教授	5－6年次	1年間
	矢部　博興	助教授	5－6年次	1年間
	栗林　理人	講師	5－6年次	1年間
	岡田　元宏	講師	5－6年次	1年間
	篠崎　直子	助手	5－6年次	1年間
	畫間　臣治	助手	5－6年次	1年間
	片貝　　宏	助手	5－6年次	1年間
	菊池　淳宏	助手	5－6年次	1年間
	松岡　貴志	医員	5－6年次	1年間
05年度	兼子　　直	教授	5－6年次	1年間
	矢部　博興	助教授	5－6年次	1年間
	栗林　理人	講師	5－6年次	1年間
	岡田　元宏	講師	5－6年次	1年間
	篠崎　直子	助手	5－6年次	1年間
	畫間　臣治	助手	5－6年次	1年間
	片貝　　宏	助手	5－6年次	1年間
	菊池　淳宏	助手	5－6年次	1年間
	松岡　貴志	医員	5－6年次	1年間

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	畫間　臣治	助手
05年度	古郡　規雄	講師
	武田　　哲	助手

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
04年度	1名	矢部　博興

05年度	2名	矢部　博興，松岡　貴志，朝井　　廉

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	兼子　　直	教授	精神医学	1－3年次	全体1回 精神系8回
	矢部　博興	助教授	精神医学	1－3年次	2回
05年度	兼子　　直	教授	精神医学	1－3年次	全体1回 精神系8回
	矢部　博興	助教授	精神医学	1－3年次	2回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	兼子　　直	教授	神経精神医学	1－4年次	1年間
	矢部　博興	助教授	精神生理学	1－4年次	1年間
05年度	兼子　　直	教授	神経精神医学	1－4年次	1年間
	矢部　博興	助教授	精神生理学	1－4年次	1年間

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0名
05年度	0名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	11名
05年度	9名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	矢部　博興	助教授	保健学科２－３年次 教育学部養護教諭養成課程２年	臨床生理学（脳波） 臨床医科学Ⅲ－２	10回 8回
05年度	矢部　博興	助教授	保健学科２－３年次 教育学部養護教諭養成課程２年	臨床生理学（脳波） 臨床医科学Ⅲ－２	10回 8回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	兼子　　直	教授	13回	10回
05年度	兼子　　直	教授	13回	10回
	菊池　淳宏	助手	3回	3回
	松岡　貴志	助手	6回	6回
	武田　　哲	助手	6回	6回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	兼子　　直	教授	系統別講義（精神系）	70％～50％
	矢部　博興	助教授	系統別講義（精神系）	70％～50％
	栗林　理人	講師	系統別講義（精神系）	70％～50％
	岡田　元宏	講師	系統別講義（精神系）	70％～50％
	篠崎　直子	助手	系統別講義（精神系）	70％～50％

05年度	兼子　　直	教授	系統別講義（精神系）	70％～50％
	矢部　博興	助教授	系統別講義（精神系）	70％～50％
	栗林　理人	講師	系統別講義（精神系）	70％～50％
	岡田　元宏	講師	系統別講義（精神系）	70％～50％
	古郡　規雄	講師	系統別講義（精神系）	70％～50％
	篠崎　直子	助手	系統別講義（精神系）	70％～50％
	菊池　淳宏	助手	系統別講義（精神系）	70％～50％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　　目　　名	評　　価
04年度	兼子　　直	教授	系統別講義（精神系）	A：3.7，B：3.5
	矢部　博興	助教授	系統別講義（精神系）	A：3.8，B：3.7
	栗林　理人	講師	系統別講義（精神系）	A：4.0，B：4.1
	岡田　元宏	講師	系統別講義（精神系）	A：3.3，B：3.1
	篠崎　直子	助手	系統別講義（精神系）	A：3.5，B：3.5
05年度	兼子　　直	教授	系統別講義（精神系）	A：3.7，B：3.5
	矢部　博興	助教授	系統別講義（精神系）	A：3.8，B：3.7
	栗林　理人	講師	系統別講義（精神系）	A：4.0，B：4.1
	岡田　元宏	講師	系統別講義（精神系）	A：3.3，B：3.1
	古郡　規雄	講師	系統別講義（精神系）	A：4.1，B：4.1
	篠崎　直子	助手	系統別講義（精神系）	A：3.5，B：3.5
	菊池　淳宏	助手	系統別講義（精神系）	

2）専門教育の評価　　該当なし。

21．小児科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

講義の内容は，絶えず見直し，プリントやコンピュータを用いた分かり易い講義になるよう改善を加えた。ほぼ目標は達成されたが，改善の余地がある。

講義，実習は可能な限り担当した。

講義内容の見直しはもう少し改善の余地あり（今後も継続していく）。

出席率の向上に関しては今後も検討の余地あり。

全体として70％程の到達度と思う。

学部学生への講義の内，小児科関連の専門特殊領域の講義の一部を担当する。

—小児科領域の感染症，リウマチ性疾患，腎疾患，呼吸器疾患の各講義を担当したため，予定目標はかなり到達したと思われる。

大学院学生への講義の内，一部を年１回程度担当する。

— 今回は担当しなかったが，学位予備審査の副査を担当した。

臨床実習で小児科腎臓領域の疾患について講義，実習指導を行う。

—予定に従い一定の水準で講義，指導を行えたことから，予定目標は到達したと思われる。

これから２年間の目標：

１．専門教育，大学院教育において講義を可能な限り担当する。
２．講義内容の見直しを絶えず行なう。
３．21世紀教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。
４．講義内容の見直しを絶えず行う。
５．出席率の向上を計る。
６．教育，診療に関しては，前述の目標を引き続き継続する．
また，教育面で学生への講義には教官研修会で得た効率的な教育のために教育学で裏付けされた理論を応用した，より分かり易く効率的な講義を行うべく努力する。
７．医学部学生を対象とした講義を年１回以上行う。
８．SGT，クリニカルクラークシップの臨床実習の担当を継続する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	伊藤　悦朗	教授	健康	発達と老化 最新医学の現状	子供の発達 骨髄移植	総論・形態的成長 骨髄移植	2 回 1 回
	高橋　　徹	助教授	21世紀教育	テーマ科目	テーマ・健康	発達と老化 最新医学の現状	2 回 1 回
	田中　　完	講師			乳児の病気 児童・学童の病気	発達と老化	2 回
05年度	伊藤　悦朗	教授	健康	発達と老化 最新医学の現状	子供の発達 骨髄移植	総論・形態的成長 骨髄移植	2 回 1 回
	高橋　　徹	助教授	21世紀教育	テーマ科目	テーマ・健康	発達と老化 最新医学の現状	2 回 1 回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
05年度	伊藤　悦朗	教授	系統別 系統別 系統別	（成長発達系） （血液系） （成長発達系）	4 回 5 回 3 回

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	伊藤　悦朗	教授	系統別（成長発達系） 系統別（血液系） 系統別（血液系 医学英語 系統別（成長発達系） 系統別（成長発達系）	5 年 5 年 4 年 4 年 4 年 3 年	6 回 5 回 5 回 8 回 3 回 3 回
	高橋　　徹	助教授	成長発達系 成長発達系 循環器系 循環器系 循環器系	5 年 4 年 3 年 5 年 3 年	3 回 1 回 3 回 1 回 5 回
	田中　　完	講師	小児の呼吸器疾患 小児のリウマチ性疾患 小児期の感染症 小児の糸球体性疾患　I 小児の糸球体性疾患　II 小児腎不全	5 年 4 年	各学年に 6回ずつ計12回
	土岐　　力	講師	遺伝子科学	3 年	2 回
05年度	高橋　　徹	助教授	成長発達系 成長発達系 循環器系	5 年 4 年 3 年	3 回 1 回 5 回
	田中　　完	講師	小児感染症（成長発達系と免疫系の 1 コマずつ），小児リウマチ性疾患，小児呼吸器疾患，小児糸球体疾患 I, II，小児腎不全，プライマリケアセミナー抗生剤 III	4，5，6年生	9 回
	土岐　　力	講師	遺伝子科学	3 年	2 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	田中　　完	講師	5年生	各 SGT 毎に腎疾患示説を約30回
05年度	高橋　　徹	助教授	5，6年生	1年間
	田中　　完	講師	5年生	腎疾患示説（各 SGT 毎に 1 回ずつ）
	照井　君典	助手	5，6年生	1年間
	高橋　良博	助手	5，6年生	18回

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
05年度	田中　　完	医療面接担当

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
04年度	2名	土岐　　力
05年度	1名	土岐　　力

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	土岐　　力	講師	遺伝子工学 遺伝発生医学	1年生 1年生	1回 1回（3）
05年度	土岐　　力	講師	遺伝子工学 遺伝発生医学	1年生 1年生	1回 1回
	高橋　良博	助手	生命科学と倫理	1年生	1回

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	2 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	伊藤　悦朗	教授	系統別（成長発達系）　5学年 系統別（血液系）　5学年 系統別（血液系）　4学年 医学英語　4学年 系統別（成長発達系）　4学年 系統別（成長発達系）　3学年	95% 95% 95% 90% 95% 95%
	高橋　徹	助教授	成長発達系 循環器系	約75%
	田中　完	講師	担当の全講義	ほぼ70%前後
	土岐　力	講師	遺伝子科学	100%
05年度	伊藤　悦朗	教授	系統別（成長発達系）　4学年 系統別（血液系）　4学年 系統別（成長発達系）　3学年	95% 95% 95%
	高橋　徹	助教授	成長発達系 循環器系	約75%
	土岐　力	講師	遺伝子科学	100%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	伊藤　悦朗	教授	系統別（成長発達系）　5学年 系統別（血液系）　5学年 系統別（血液系）　4学年 医学英語　4学年 系統別（成長発達系）　4学年 系統別（成長発達系）　3学年	A：3.9，B：4.0 A：3.9，B：3.9 A：4.0，B：4.0 A：4.1，B：4.1 A：4.0，B：4.0 A：4.1，B：4.2
	高橋　徹	助教授	成長発達系 循環器系	平均3.8～4.2
	田中　完	講師	16年度前期　免疫系 16年度前期　腎・泌尿器系 16年度後期　免疫・感染症系 16年度後期　腎・泌尿器系	3.9 4.3 4.2 4.5
	土岐　力	講師	遺伝子科学	3.9

05年度	伊藤　悦朗	教授	系統別（成長発達系） 系統別（血液系） 系統別（成長発達系）	4学年 4学年 3学年	A：3.5，B：3.4 A：3.6，B：3.7 A：4.0，B：3.9
	高橋　　徹	助教授	成長発達系 循環器系		平均3.9～4.1
	田中　　完	講師	小児感染症，小児リウマチ性疾患，小児呼吸器疾患，小児糸球体疾患 I, II，小児腎不全		約60～80％程度
	土岐　　力	講師	遺伝子科学		3.9

2）専門教育の評価

該当なし。

22. 外科学第一講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
到達した

これから２年間の目標：
1．教育評価の結果を反映し，教育内容の見直しを絶えず行い，学生の理解度を深める努力をする。
2．臨床実習では，学生の自己学習を援助するため，常に疑問を持つ姿勢を促し，自発的学習の成果を教えあう習慣を身につけさせる。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	福田　幾夫	教授	21世紀教育	自然科学	健康	最新医学の現状	2 回
	福井　康三	講師	21世紀教育		健康	健康と運動の科学	2 回
	對馬　敬夫	講師	21世紀教育 21世紀教育	自然科学 自然科学	健康 健康	最新医学の現状 生活習慣と健康	1 回 2 回
	鈴木　保之	講師	21世紀教育	最新医学の現状（A）	健康	心臓，肺移植について	1 回
	一関　一行	助手	21世紀教育		健康	生活習慣と血管心疾患	2 回
05年度	福田　幾夫	教授				最新医学の現状（D）	1 回
	鈴木　保之	講師			生活習慣と血管疾患・ 先天性心疾患 心臓移植・肺移植	生活習慣と健康 最新医学の現状	2 回 1 回
	福井　康三	講師				生活習慣と健康 健康と運動の科学	2 回 2 回
	對馬　敬夫	講師				生活習慣と健康（A） 最新医学の現状（D）	3 回 1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	福田　幾夫	教授	医学英語 外科学総論 系統別講義（循環器系） 系統別講義（循環器系） 臨床診断学	4年次 3年次 4年次 5年次 4年次	7 回 1 回 4 回 4 回 1 回
	福井　康三	講師	系統別講義（循環器系）	4年次	3 回
	對馬　敬夫	講師	系統別講義（呼吸器系）	4・5年次	7 回
	鈴木　保之	講師	外科総論 系統別講義（循環器系）	3年次 4年次	1 回 2 回
	山田　芳嗣	助手	系統別講義 系統別講義 外科学特論	4年次 5年次 3年次	2 回 2 回 1 回
	平尾　良範	助手	系統別講義（内分泌代謝系）	3年次	1 回
	一関　一行	助手	系統別講義（循環器系） 系統別講義（循環器系）	5年次 4年次	1 回 1 回
05年度	福田　幾夫	教授	外科学総論 系統別講義（循環器系） 臨床診断学	3年次 4年次 4年次	1 回 4 回 1 回
	鈴木　保之	講師	外科総論 系統別講義（循環器系）	3年次 4年次	1 回 2 回

05年度	福井　康三	講師	系統別講義（循環器系）	5年次	2 回
	對馬　敬夫	講師	系統別講義（呼吸器系）	4年次	5 回
	皆川　正仁	助手	系統別講義（循環器系）	4年次	1 回
	山田　芳嗣	助手	系統別講義呼吸器系	4年次	3 回
	大徳　和之	助手	外科学総論および内科症候学	3年次	1 回
	谷口　　哲	助手	系統別講義（循環器系）	4年次	2 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	福田　幾夫	教授	5・6年次	40週
	福井　康三	講師	5・6年次	40週
	對馬　敬夫	講師	5・6年次	40週
	鈴木　保之	講師	5・6年次	40週
	山田　芳嗣	助手	5・6年次	40週
	平尾　良範	助手	5・6年次	40週
	畑中　　亮	助手	5・6年次	40週
	一関　一行	助手	5・6年次	12週
	皆川　正仁	助手	5・6年次	40週
	大徳　和之	助手	5・6年次	36週
	伊東　和雄	助手	5・6年次	18週
05年度	福田　幾夫	教授	5年次	38週
	鈴木　保之	講師	5年次 2年次 6年次	38週 2 回 1 回
	福井　康三	講師	5年次 2年次	38週 1 回
	對馬　敬夫	講師	5年次	38週
	皆川　正仁	助手	5年次 2年次	38週 1 回
	山田　芳嗣	助手	5年次 2年次	38週 2 回
	大徳　和之	助手	5年次 2年次	38週 2 回
	谷口　　哲	助手	5年次	38週
	田茂和歌子	助手	5年次 4年次 2年次	38週 1 回 1 回
	木村　大輔	助手	5年次 4年次 2年次	38週 2 回 1 回

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	鈴木　保之	講師
	山田　芳嗣	助手
	平尾　良範	助手
	畑中　　亮	助手
	皆川　正仁	助手
	大徳　和之	助手
05年度	福田　幾夫	教授
	鈴木　保之	講師
	山田　芳嗣	助手
	大徳　和之	助手

【研究室研修】

	受入人数	指導者名
05年度	3名	福田　幾夫, 鈴木　保之, 皆川　正仁, 大徳　和之, 山田　芳嗣, 木村　大輔, 谷口　哲, 田茂和歌子

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授業科目	対象学年	回数又は期間
04年度	福田　幾夫	教授	医学研究概論	1年次	1 回
	福井　康三	講師	外科診断学	3年	2 回
	對馬　敬夫	講師	臨床外科系科目	1・2年	2 回
	鈴木　保之	講師	外科学特論	3年	2 回
05年度	福田　幾夫	教授	循環器呼吸器病態学講義		4単位
	對馬　敬夫	講師	再生再建外科学講義		4単位

2）実習

	担当者名	職名	授業科目	対象学年	回数又は期間
05年度	鈴木　保之	講師	循環器呼吸器病態科学実験実習		1単位
	福井　康三	講師	循環呼吸病態科学演習		1単位
	皆川　正仁	助手	循環呼吸病態科学		1単位
	山田　芳嗣	助手	再生再建外科学実験実習		2単位
	大徳　和之	助手	循環呼吸病態科学実験実習		1単位
	木村　大輔	助手	再生再建外科学実験実習		2単位

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指導論文名
04年度	福田　幾夫	教授	ラット圧負荷肥大心の非代償期への移行におけるフリーラジカルと血管内皮増殖因子の関与に関する研究

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名称等
05年度	福田　幾夫	実施責任者	第1回　ステューデント・デベロップメント 第2回　ステューデント・デベロップメント

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科目名	回数又は期間
04年度	鈴木　保之	講師	3年次	成人看護	1 回
	畑中　亮	助手	3年次	成人看護方法論Ⅱ	1 回
	一関　一行	助手	3年次	成人看護方法論Ⅱ	1 回
05年度	大徳　和之	助手	2年次	成人看護方法論Ⅱ	1 回
	谷口　哲	助手		作業療法学	2 回

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	福田　幾夫	教授	系統別講義（循環器系）	88%
	對馬　敬夫	講師	21世紀教育（最新の医学の現状） 21世紀教育（生活習慣と健康） 学部系系統別講義（呼吸器系）	95% 95% 70%
	山田　芳嗣	助手	系統別講義	50%
05年度	福田　幾夫	教授	系統別講義（循環器系）	88%
	對馬　敬夫	講師	系統別講義（呼吸器系） 21世紀教育（最新の医学の現状） 21世紀教育（生活習慣と健康）	60% 95% 95%
	山田　芳嗣	助手	系統別講義（呼吸器系）	70%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	福田　幾夫	教授	系統別講義（循環器系） 系統別講義（循環器系） 医学英語 臨床診断学（内科診断学） 臨床実習	A：4.1，B：4.0 A：4.2，B：4.3 A：3.6，B：3.3 A：4.4，B：4.4 A：4.0，B：4.1
	福井　康三	講師	系統別講義（循環器系）	A：3.8，B：3.7
	對馬　敬夫	講師	学部系系統別講義	4.1
	山田　芳嗣	助手	系統別講義	A：3.6，B：3.7
05年度	福田　幾夫	教授	外科学総論 系統別講義（循環器系） 臨床診断学（内科診断学） 臨床実習	A：4.3，B：4.1 A：4.1，B：4.1 A：4.1，B：4.1 A：3.9，B：4.0
	鈴木　保之	講師	系統別講義（循環器系） 外科学総論および内科症候学	A：3.1，B：2.7 A：4.0，B：4.1
	福井　康三	講師	系統別講義（循環器系）	A：3.8，B：3.8
	對馬　敬夫	講師	系統別講義（呼吸器系）	A：3.9，B：3.9
	皆川　正仁	助手	虚血性心疾患の外科	A：3.5，B：3.6
	大徳　和之	助手	外科学総論および内科症候学	A：4.1，B：4.1

2）専門教育の評価　該当なし。

23. 外科学第二講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

「グローバルスタンダードから見て，優れた医師・研究者の育成に結びつくような医学教育に努める。」，「近年求められている質の高い医師を養成するため，研修医も含めた卒後臨床教育の充実」という目標に対して概ね，達成できていると考えている。

これから２年間の目標：

前回の目標を引き続き，更なる充実を求める。すなわち，グローバルスタンダードから見て，国際的にも認められる医師・研究者の育成に結びつくような医学教育に努める。また，EBM を踏まえた上で近年求められている患者側にたった医療を提供できる質の高い医師を養成するために，研修医も含めた卒後臨床教育の充実を図る。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	佐々木睦男	教授	テーマ科目 テーマ科目	健康 健康	最新医学の現状（A） 最新医学の現状（D）	肝臓移植 外科治療総論	1 回 1 回
	吉原　秀一	講師	テーマ科目 テーマ科目	健康 健康	最新医学の現状（B） 最新医学の現状（B）	内視鏡手術 癌の手術療法	1 回 1 回
	小田桐弘毅	講師	テーマ科目	健康	最新医学の現状（B）	乳癌・甲状腺癌・癌の遺伝子治療	1 回
05年度	佐々木睦男	教授	テーマ科目	健康	最新医学の現状（A）	肝臓移植	1 回
	吉原　秀一	助教授 講師	テーマ科目 テーマ科目	健康 健康	生活習慣と健康（D） 最新医学の現状（B）	生活習慣病と予防対策 内視鏡手術	2 回 1 回
	袴田　健一	助教授	テーマ科目	健康	最新医学の現状（A）	肝臓移植	1 回
	鳴海　俊治	講師	テーマ科目	健康	最新医学の現状（D）	肝臓移植	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	佐々木睦男	教授	免疫学・遺伝子科学 外科学総論 系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系） 系統別講義（成長発達系）	3年次 3年次 4年次 5年次 4年次	1 回 1 回 2 回 3 回 1 回
	吉原　秀一	講師	系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系） 外科学総論 臨床診断学（内科診断学）	3年次 4年次 5年次 3年次 4年次	3 回 5 回 2 回 1 回 1 回
	小田桐弘毅	講師	系統別講義（消化器系） 系統別講義（代謝内分泌系） 系統別講義（代謝内分泌系）	4年次 4年次 5年次	1 回 1 回 1 回
	袴田　健一	講師	医学英語 系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系） 医療管理学	1年次 4年次 5年次 4年次	15回 1 回 1 回 2 回
	鳴海　俊治	助手	外科学総論 系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系）	3年次 4年次 5年次	1 回 1 回 1 回
	川﨑　仁司	助手	系統別講義（消化器系）	3年次	2 回

05年度	佐々木睦男	教授	免疫学・遺伝子科学 系統別講義（消化器系）	3年次 4年次	1 回 2 回
	吉原　秀一	助教授	系統別講義（消化器系） 外科学総論 系統別講義（消化器系）	3年次 3年次 4年次	3 回 2 回 1 回
	小田桐弘毅	講師	系統別講義（消化器系） 系統別講義（代謝内分泌系）	4年次 3年次	1 回 2 回
	袴田　健一	助教授	医学英語 系統別講義（消化器系）	1年次 4年次	15回 1 回
	鳴海　俊治	講師	外科学総論 系統別講義（消化器系） 臨床診断学（内科診断学）	3年次 4年次 4年次	2 回 1 回 1 回
	川﨑　仁司	講師	系統別講義（消化器系）	3年次	3 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	吉原　秀一	講師	1年次	各 2 回
	小田桐弘毅	講師	1年次	各 2 回
	袴田　健一	講師	1年次	各 2 回
	鳴海　俊治	助手	1年次	各 2 回
	川﨑　仁司	助手	1年次	各 2 回
	十束　英志	助手	1年次	各 2 回
	豊木　嘉一	助手	1年次	各 2 回
	村田　暁彦	助手	1年次	各 2 回
	小山　　基	助手	1年次	各 2 回
	梅原　　豊	助手	1年次	各 2 回
	佐々木睦男，他教室員一同		5・6年次	
05年度	吉原　秀一	助教授	1年次	各 2 回
	小田桐弘毅	講師	1年次	各 2 回
	袴田　健一	助教授	1年次	各 2 回
	鳴海　俊治	講師	1年次	各 2 回
	川﨑　仁司	講師	1年次	各 2 回
	豊木　嘉一	助手	1年次	各 2 回
	村田　暁彦	助手	1年次	各 2 回
	小山　　基	助手	1年次	各 2 回
	梅原　　豊	助手	1年次	各 2 回
	西澤　雄介	助手	1年次	各 2 回
	佐々木睦男，他教室員一同		5・6年次	

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	小田桐弘毅	講師
	柴田　　滋	助手
	梅原　　豊	助手
	小山　　基	助手
05年度	鳴海　俊治	講師
	柴田　　滋	助手
	小山　　基	助手

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	吉原　秀一	講師	外科学特論 外科診断学	2年次 2年次	1 回 1 回
	小田桐弘毅	講師	外科学特論	2年次	2 回
05年度	佐々木睦男	教授	外科学総論 外科学特論	2年次 2年次	1 回 1 回
	袴田　健一	助教授	外科学特論	2年次	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	袴田　健一	講師	外科学特論	2年次	2 回
	鳴海　俊治	助手	外科学特論	2年次	2 回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	佐々木睦男 吉原　秀一	教授 講師	4-methylumberiferone, a hyaluronan synthetase suppressor, enhances the anticancer activity of gemcitabine in human pancreatic cancer cells.
	佐々木睦男 梅原　　豊	教授 助手	肝機能補助を目的とした血漿交換排液浄化循環透析法の安全性と有効性について

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	吉原　秀一	講師	1年次 2年次	成人臨床看護Ⅰ 外科学	5 回 3 回
05年度	吉原　秀一	助教授	3年次 3年次	成人臨床看護 外科学	5 回 4 回

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	佐々木睦男	教授	免疫学・遺伝子科学 外科学総論 系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系） 系統別講義（成長発達系）	90% 90% 90% 90% 90%
	吉原　秀一	講師	系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系） 外科学総論 臨床診断学（内科診断学）	90% 90% 90% 90% 90%
	小田桐弘毅	講師	系統別講義（消化器系） 系統別講義（代謝内分泌系）	90% 90%

04年度	袴田　健一	講師	医学英語 系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系） 医療管理学	100% 90% 90% 90%
	鳴海　俊治	助手	外科学総論 系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系）	90% 90% 90%
	川﨑　仁司	助手	系統別講義（消化器系）	90%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	佐々木睦男	教授	系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系）	A：3.8，B：3.8 A：4.0，B：3.9
	吉原　秀一	講師	系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系） 系統別講義（消化器系） 外科学総論 臨床診断学（内科診断学）	A：3.7，B：3.6 A：4.2，B：4.1 A：3.8，B：3.9 A：3.6，B：3.5 A：4.4，B：4.4
	小田桐弘毅	講師	系統別講義（消化器系） 系統別講義（代謝内分泌系） 系統別講義（代謝内分泌系）	A：2.6，B：2.3 A：3,6，B：3.5 A：3,5，B：3.5
	袴田　健一	講師	医学英語 系統別講義（消化器系）	A：4.5，B：4.5 A：3.6，B：3.5
	鳴海　俊治	助手	系統別講義（消化器系）	A：3.3，B：3.2
05年度	佐々木睦男	教授	免疫学・遺伝子科学 系統別講義（消化器系）	A：3.7，B：3.6 A：3.9，B：3.8
	吉原　秀一	助教授	系統別講義（消化器系） 外科学総論 臨床診断学（消化器系）	A：4.2，B：4.2 A：4.4，B：4.6
	小田桐弘毅	講師	系統別講義（消化器系） 系統別講義（代謝内分泌系）	A：3.6，B：3.6 A：3.0，B：3.0
	袴田　健一	助教授	医学英語 系統別講義（消化器系）	A：3.8，B：3.8
	鳴海　俊治	講師	外科学総論 系統別講義（消化器系） 臨床診断学（内科診断学）	A：4.2，B：4.3 A：4.0，B：4.1 A：4.5，B：4.4
	川﨑　仁司	講師	系統別講義（消化器系）	

2）専門教育の評価

2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5，6年次	16		4.2	4.2

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5，6年次			4.3	4.2

24. 整形外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1．21 世紀教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能なかぎり担当する。
　各教官が努力し，概ね目標を達成できたと考える。

2．講義内容の見直しを絶えず行ない，学生の学問的興味を維持させるよう努める。
　最新のデータを能率良く理解しやすいように丁寧に工夫して行った．講義に PC，Video を取り入れるなどし，学生に理解しやすい講義実習を考慮した。その結果各教官への学生の評価が4.0以上となり，前回より良かった。

3．出席率の向上を計る。
　医学英語はほぼ100％の出席率，専門教育は75％強でやや前回より大きな値となった。

4．地域への啓蒙をより進める。
　十分とは言えなかったが，要請に応じ講演などをおこなった。

5．医員に対する手術指導，論文作成指導大学院生の研究指導・協力を行う
　教室スタッフの指導のもと，大学院生が積極的に海外で発表した。

6．OSCE の指導・監督を行う．臨床実習前の医学生に対し，必要な診療基本手技を実地指導，評価する．
　OSCE の指導・監督を行った。　SGT 教育では，できるだけ機能解剖学的観点から，整形外科疾患を考えれるよう指導した。その結果，05 年度は学生の評価は平均4.5 と向上した。

これから２年間の目標：

1．講義内容の見直しを絶えず行ない，学生の学問的興味を維持させるよう努める。
2．Problem-oriented learning を継続し，学生が自ら考えられる様な指導を考慮する。
3．医学生（BSL，クリニカルクラークシップ）の教育および医員に対する手術指導，論文作成指導
4．医員に対する手術指導，論文作成指導し大学院生の研究指導・協力を行う。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	藤　　哲	教授	テーマ科目 テーマ科目	健康 健康	健康と運動の科学（A） 最新医学の現状	上肢の機能とスポーツ障害･外傷 四肢再建術	2 回 1 回
	西川　真史	講師	テーマ科目	健康	発達と老化	子供の病気：整形外科疾患について	1 回
	岡田　晶博	講師	テーマ科目	健康	最新医学の現状		1 回
	石橋　恭之	講師	テーマ科目	健康	健康と運動の科学	スポー障害・外傷	2 回
05年度	藤　　哲	教授	テーマ科目 テーマ科目	健康 健康	健康と運動の科学（A） 最新医学の現状	上肢の機能とスポーツ障害･外傷 四肢再建術	2 回 1 回
	西川　真史	助教授	テーマ科目	健康	発達と老化	子供の病気：整形外科疾患について	1 回
	石橋　恭之	講師	テーマ科目	健康	『最新医学の現状』 「薬と健康 A」	スポーツ外傷とその治療 スポーツとドーピング	4 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	藤　　哲	教授	医学英語 系統別講義（運動器系） 系統別講義（運動器系）	1年次 5年次 4年次	15回 4 回 4 回
	西川　真史	助教授	系統別講義（運動器系） 系統別講義（運動器系）	5年次 4年次	3 回 3 回

04年度	石橋　恭之	講師	系統別講義（運動器系） 系統別講義（運動器系）	5年次 4年次	3 回 3 回
	岡田　晶博	講師	系統別講義（運動器系） 系統別講義（脳・神経系） 系統別講義（運動器系） 系統別講義（脳・神経系）	5年次 5年次 4年次 4年次	3 回 1 回 3 回 1 回
	中村　吉秀	助手	系統別講義（運動器系） 系統別講義（運動器系）	5年次 4年次	3 回 3 回
	横山　　徹	助手	系統別講義（運動器系） 系統別講義（運動器系） pre-SGT 神経診察 チュートリアル	5年次 4年次 5年次 3年次	2 回 2 回 4 回 8 回
	津田　英一	助手	系統別講義（運動器系） 系統別講義（運動器系）	5年次 4年次	2 回 2 回
	佐藤　英樹	助手	系統別講義（運動器系） 系統別講義（運動器系）	5年次 4年次	1 回 1 回
05年度	藤　　哲	教授	医学英語 系統別講義（運動器系）	1年次 4年次	15回 4 回
	西川　真史	助教授	系統別講義（運動器系）	4年次	3 回
	石橋　恭之	講師	系統別講義（運動器系）	4年次	3 回
	横山　　徹	助手	系統別講義（運動器系） pre-SGT 神経診察	4年次 5年次	2 回 4 回
	中村　吉秀	助手	系統別講義（運動器系）	4年次	3 回
	津田　英一	助手	系統別講義（運動器系）	4年次	3 回
	小野　　睦	助手	系統別講義（運動器系）	4年次	1 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	藤　　哲	教授	5～6年次	16回（SGT 実習）
	西川　真史	助教授	5～6年次	14回（SGT 実習）
	石橋　恭之	講師	5～6年次	20回（SGT 実習）
	岡田　晶博	講師	5～6年次	18回（SGT 実習）
	中村　吉秀	助手	5～6年次	20回（SGT 実習）
	横山　　徹	助手	5～6年次	18回（SGT 実習）
	津田　英一	助手	5～6年次	20回（SGT 実習）
	佐藤　英樹	助手	5～6年次	20回（SGT 実習）
05年度	藤　　哲	教授	5～6年次	16回（SGT 実習）
	西川　真史	助教授	5～6年次	14回（SGT 実習）
	石橋　恭之	講師	5～6年次	18回（SGT 実習）
	中村　吉秀	助手	5～6年次	15回（SGT 実習）
	横山　　徹	助手	5～6年次	18回（SGT 実習）
	津田　英一	助手	5～6年次	15回（SGT 実習）
	小野　　睦	助手	5～6年次	15回（SGT 実習）

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	津田　英一	助手
	横山　　徹	助手
05年度	津田　英一	助手
	横山　　徹	助手
	小野　　睦	助手

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
05年度	3名	石橋　恭之・津田　英一

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	藤　　哲	教授	外科系講義 整形外科学総論 整形外科学診断学 整形外科学治療学	1－2学年 1年 1年，2年 3年	15回 30回 30回 15回
	石橋　恭之	講師	整形外科学治療学 整形外科学特論	1年 2年	15回 15回
	岡田　晶博	講師	糖鎖生物学（工学）		1 回
05年度	藤　　哲	教授	外科系講義 整形外科学総論 整形外科学診断学 整形外科学治療学	1－2学年 1年 1年，2年 3年	15回 30回 30回 15回
	石橋　恭之	講師	整形外科学治療学 整形外科学特論	1年 2年	15回 15回
	津田　英一	助手	再生医学	1年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	藤　　哲	教授	整形外科総論 整形外科診断学 整形外科学治療学 整形外科学治療学	1年 2年 2年 3年	15回 15回 30回 15回
	西川　真史	助教授	整形外科総論 整形外科特論 整形外科特論 整形外科診断学	1年 2年 3年 2年	15回 15回 30回 30回
	石橋　恭之	講師	整形外科診断学	1年	30回
05年度	藤　　哲	教授	整形外科総論 整形外科診断学 整形外科学治療学 整形外科学治療学	1年 2年 2年 3年	15回 15回 30回 15回
	西川　真史	助教授	整形外科総論 整形外科特論 整形外科特論 整形外科診断学	1年 2年 3年 2年	15回 15回 30回 30回
	石橋　恭之	講師	整形外科診断学	1年	30回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	藤　　哲 石橋　恭之	教授 講師	1．新しい動物モデルを用いた骨・移植腱移行部に関する生体力学的・組織学的検討
05年度	藤　　哲 横山　　徹	教授 助手	1．Tumor necrosis factor- α stimulated gene-6は間葉系細胞の骨芽細胞分化培地（OS）および Bone morphogenic protein-2(BMP-2) 誘導による骨芽細胞分化を抑制しうる。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	19名
05年度	13名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	西川　真史	講師	教育3年	養護教諭に必要な整形外科の実際	8 回
	石橋　恭之	講師	教育1／2年	スポーツ障害と救急処置	12回
	横山　　徹	助手	保健学2年	臨床検査・電気生理検査	2 回
05年度	西川　真史	講師	教育3年	養護教諭に必要な整形外科の実際	8 回
	横山　　徹	助手	保健学2年	臨床検査・電気生理検査	2 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	石橋　恭之	講師	7 回	3 回
	横山　　徹	助手	1 回	0 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	藤　　哲	教授	大学院整形外科 5 年系統別講義（運動器系）	95% 75%
	西川　真史	助教授	5 年系統別講義（運動器系） 5 年系統別講義（運動器系） 整形外科（教育学部 3 年）	80% 80% 90%
05年度	藤　　哲	教授	大学院整形外科 4 系統別講義（運動器系）	95% 70%
	西川　真史	助教授	4 系統別講義（運動器系） 整形外科（教育学部 3 年）	80% 80%
	石橋　恭之	講師	4 系統別講義（運動器系） 4 系統別講義（運動器系）	70－90%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	藤　　哲	教授	医学英語（後期） 系統別講義（前期） 系統別講義（後期）	不明 平均4.1 平均4.0
	西川　真史	助教授	系統別講義（運動器系）（前期） 系統別講義（運動器系）（後期）	平均3.2 平均3.8
	岡田　晶博	講師	系統別講義（運動器系）（前期） 系統別講義（運動器系）（後期）	平均3.9 平均3.8
	石橋　恭之	講師	系統別講義（運動器系）（前期） 系統別講義（運動器系）（後期）	平均3.6 平均3.2
	中村　吉秀	助手	系統別講義（運動器系）（前期） 系統別講義（運動器系）（後期）	平均3.7 平均3.9
	横山　　徹	助手	系統別講義（運動器系）（後期）	平均4.4
	津田　英一	助手	系統別講義（運動器系）（前期） 系統別講義（運動器系）（後期）	平均3.4 平均3.9
	佐藤　英樹	助手	系統別講義（運動器系）（前期） 系統別講義（運動器系）（後期）	平均3.3 平均3.9
05年度	藤　　哲	教授	医学英語（後期） 系統別講義（後期）	平均4.5 平均4.1
	西川　真史	助教授	系統別講義（運動器系）（後期）	平均4.1
	石橋　恭之	講師	系統別講義（運動器系）（後期）	平均4.1
	中村　吉秀	助手	系統別講義（運動器系）（前期） 系統別講義（運動器系）（後期）	平均3.7 平均3.7
	横山　　徹	助手	系統別講義（運動器系）（後期）	平均4.2
	津田　英一	助手	系統別講義（運動器系）（後期）	平均4.0
	小野　　睦	助手	系統別講義（運動器系）（後期）	平均4.2

2）専門教育の評価

2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習整形外科	5－6年次	162	648	3.6	3.8

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習整形外科	5－6年次	162	648	4.6	4.4

25. 皮膚科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
太陽紫外線の功罪の分子生物学的機構の理解と研究に努める。
【到達度】70％

これから２年間の目標：
太陽紫外線の功罪の分子生物学的機構の理解と研究に努める。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	中野　　創	助教授				分身と身体変工 生物学の基礎Ⅱ	3 回 4 回
	松﨑　康司	講師				最新医学の現状（A）	1 回
05年度	花田　勝美	教授			環境と生活 －紫外線と健康－		4 回
	中野　　創	助教授			文身と身体変工 生物学の基礎 生物学の基礎Ⅱ		2 回 1 回 3 回
	松﨑　康司	講師			最新医学の現状（A） 皮膚科の最近の話題		1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	花田　勝美	教授	系統別講義（皮膚・結合織系） 系統別講義（皮膚・結合織系Ⅰ） 臨床医学入門実習ガイダンス	5年 4年 1年	3 回 3 回 1 回
	中野　　創	助教授	系統別講義（皮膚・結合織系） 系統別講義（皮膚・結合織系Ⅰ） 系統別講義（皮膚・結合織系Ⅱ） 免疫学・遺伝子科学 チユートリアル講義	5年 4年 4年 3年 3年	3 回 2 回 1 回 1 回 4 回
	松﨑　康司	講師	系統別講義（皮膚・結合織系） 系統別講義（皮膚・結合織系Ⅰ） 系統別講義（皮膚・結合織系Ⅱ）	5年 4年 4年	2 回 2 回 1 回
	金子　高英	助手	系統別講義（皮膚・結合織系Ⅱ）	4年	1 回
	武田　仁志	助手	国試対策セミナー	6年	1 回
05年度	花田　勝美	教授	系統別講義（皮膚・結合織系） 系統別講義（皮膚・結合織系）	4年 5年	5 回 2 回
	中野　　創	助教授	系統別講義（皮膚・結合織系） 系統別講義（皮膚・結合織系）	4年 5年	6 回 1 回
	松﨑　康司	講師	系統別講義（皮膚・結合織系） 系統別講義（皮膚・結合織系）	4年 5年	3 回 1 回
	金子　高英	助手	系統別講義（皮膚・結合織系） ６年生予備期間特別教育（後期セミナー）	4年 6年	1 回 1 回
	武田　仁志	助手	国試対策セミナー	6年	1 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	中野　　創	助教授	6年	20回
	松﨑　康司	講師	4年	1 回
	横山　祥平	助手	4年	1 回
05年度	中野　　創	助教授	5・6年	20回

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	松﨑　康司	講師
	中島　康爾	助手

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	花田　勝美	教授	基礎実験医学：光老化最前線	1年	1 回
			学際科目　最新医学の動向		1 回
			皮膚科学特論（前後期）	2年	30回
			皮膚科治療学（前期）	2年	15回
			皮膚科治療学（前期）	3年	15回
	中野　　創	助教授	皮膚疾患の遺伝子治療と倫理的問題点	2年	1 回
			皮膚の遺伝発生医学	1年	1 回
05年度	花田　勝美	教授	形態機能制御医学講義	1・2年	前期・後期
			感覚器病態修復講義	1・2年	前期・後期
			物質環境医療学演習	1・2年	前期・後期
	中野　　創	助教授	大学院共通基礎科目「遺伝子発生医学セミナー」	共通	1 回
			生命科学倫理学	1・2年	1 回
			形態機能制御医学演習	1・2年	前期
			感覚器病態修復学演習	1・2年	後期
			物質環境医療学演習	1・2年	前期
	松﨑　康司	講師	形態機能制御医学演習	1・2年	後期
			感覚器病態修復学演習	1・2年	前期
			物質環境医療学演習	1・2年	後期

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	中野　　創	助教授	皮膚科学特論（前後期）	2年	30回
			皮膚科治療学（後期）	2年	15回
			皮膚科診断学（前後期）	3年	30回
	松﨑　康司	講師	皮膚科診断学（前後期）	2年	30回
			皮膚科治療学（後期）	3 年	15回
05年度	金子　高英	助手	物質環境医療学実験実習	1・2年	前期・後期
			形態機能制御医学実験実習	1・2年	前期・後期
			感覚器病態修復学実験実習	1・2年	前期・後期

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　　導　　論　　文　　名
04年度	花田　勝美	教授	Raf kinase inhibitor Protein induced ,25-dihydroxyvitamin D3 in mouse epidermis
05年度	花田　勝美	教授	Cytokine modulation of retinoic acid-inducible gene-I (RIG-I) expression in human epidermal keratinocytes in vivo and in vitro

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
04年度	中島　康爾	助手	FD 講習会（チュートリアルの打ち合わせ）
	横山　祥平	助手	FD 講習会（チュートリアルの打ち合わせ）
05年度	中野　　創	助教授	第1回青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	中野　　創	助教授	3年	成人看護学－皮膚疾患－	1 回
	松﨑　康司	講師	2年	臨床医科学Ⅲ－1　成人看護学	5 回
05年度	中野　　創	助教授	3年	成人看護学－皮膚疾患－	2 回
	松﨑　康司	講師	2年	臨床医科学Ⅲ　皮膚科学	8 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	武田　仁志	非常勤講師	6 回	0 回
	横山　祥平	非常勤講師	1 回	0 回
05年度	花田　勝美	教授	1 回	0 回
	武田　仁志	助手	6 回	0 回
	中島　康爾	助手	1 回	0 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	花田　勝美	教授	系統別講義（皮膚・結合織系）	80%
			系統別講義（皮膚・結合織系Ⅰ）	70%
			臨床医学入門実習ガイダンス	90%
			基礎実験医学：光老化最前線	80%
			学際科目　最新医学の動向	80%
			皮膚科学特論（前後期）	100%
			皮膚科治療学（前期）	100%
			皮膚科治療学（前期）	100%
	中野　　創	助教授	分身と身体変工	90%
			生物学の基礎	90%
			系統別講義（皮膚・結合織系）	70%
			系統別講義（皮膚・結合織系Ⅰ）	70%
			系統別講義（皮膚・結合織系Ⅱ）	70%
			免疫学・遺伝子科学	70%
			チュートリアル講義	80%
			皮膚疾患の遺伝子治療と倫理的問題点	70%
			皮膚の遺伝発生医学	70%
			皮膚科学特論（前後期）	100%
			皮膚科治療学（後期）	100%
			皮膚科診断学（前後期）	100%
			成人看護学 - 皮膚疾患 -	80%

04年度	松﨑　康司	講師	最新医学の現状（A） 系統別講義（皮膚・結合織系） 系統別講義（皮膚・結合織系Ⅰ） 系統別講義（皮膚・結合織系Ⅱ） 皮膚科診断学（前後期） 皮膚科治療学（後期） 臨床医科学Ⅲ－1　成人看護学	70% 70% 70% 70% 100% 100% 80%
	金子　高英	助手講師	系統別講義（皮膚・結合織系Ⅱ）	70%
	武田　仁志	助手	国試対策セミナー	90%
05年度	花田　勝美	教授	環境と生活－紫外線と健康－（21世紀教育） 系統別講義（皮膚・結合織系） 系統別講義（皮膚・結合織系） 形態機能制御医学講義 感覚器病態修復講義 物質環境医療学演習	70% 70% 70% 100% 100% 100%
	中野　　創	助教授	文身と身体変工（21世紀教育） 生物学の基礎（21世紀教育） 生物学の基礎Ⅱ（21世紀教育） 系統別講義（皮膚・結合織系） 系統別講義（皮膚・結合織系） 免疫学・遺伝子科学 臨床実習 大学院共通基礎科目「遺伝子発生医学セミナー」 生命科学倫理学 形態機能制御医学演習 感覚器病態修復学演習 物質環境医療学演習	70% 70% 70% 70% 70% 70% 70% 70% 70% 100% 100% 100%
	松﨑　康司	講師	最新医学の現状（A）皮膚科の最近の話題（21世紀講義） 系統別講義（皮膚・結合織系） 系統別講義（皮膚・結合織系） 形態機能制御医学演習 感覚器病態修復学演習 物質環境医療学演習	70% 70% 70% 100% 100% 100%
	金子　高英	助手	系統別講義（皮膚・結合織系） 6年生予備期間特別教育（後期セミナー） 物質環境医療学実験実習 形態機能制御医学実験実習 感覚器病態修復学実験実習	70% 80% 100% 100% 100%
	武田　仁志	助手	国試対策セミナー	90%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	花田　勝美	教授	系統別講義（皮膚・結合織系）前期 系統別講義（皮膚・結合織系Ⅰ）後期	（A）3.2，（B）3.1 （A）4.1，（B）4.0
	中野　　創	助教授	系統別講義（皮膚・結合織系）前期 系統別講義（皮膚・結合織系Ⅰ）後期 免疫学・遺伝子化学	（A）4.0，（B）4.2 （A）4.4，（B）4.6 （A）4.2，（B）4.2
	松﨑　康司	講師	系統別講義（皮膚・結合織系）前期 系統別講義（皮膚・結合織系Ⅰ）後期	（A）3.6，（B）3.6 （A）3.9，（B）3.9
	金子　高英	助手講師	系統別講義（皮膚・結合織系Ⅱ）後期	（A）3.7，（B）3.6
05年度	花田　勝美	教授	系統別講義（皮膚・結合織系）	（A）4.0，（B）3.9
	中野　　創	助教授	系統別講義（皮膚・結合織系）	（A）4.4，（B）4.5
	松﨑　康司	講師	系統別講義（皮膚・結合織系）	（A）4.2，（B）4.1
	金子　高英	助手	系統別講義（皮膚・結合織系）	（A）3.8，（B）3.9

2）専門教育の評価

2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5・6年	18回		4.3	4.3

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習（17.5～17.9）	5年			4.4	4.4
臨床実習（17.5～17.11）	5年			4.4	4.4
臨床実習（17.5～18.3）	5年			4.3	4.2

26. 泌尿器科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
ほぼ達成された。

これから２年間の目標：
SGT とポリクリの指導を充実させる。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	大山　　力	教授			21世紀教育	発達と老年	1 回
05年度	大山　　力	教授				発達と老化	1 回
	古家　琢也	講師				病態生理	1 回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
04年度	盛　　和行	助手	基礎教育科目	基礎科学実験（化学）	3 回
05年度	盛　　和行	助手	自然系基礎	基礎科学実験（化学）	3 回

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	大山　　力	教授	系統別講義「腎・泌尿器系」	4学年	6 回
	高橋　信好	助教授	系統別講義「腎・泌尿器系」	5学年	5 回
	古家　琢也	講師	系統別講義「腎・泌尿器系」	4・5学年	6 回
	大和　　隆	講師	系統別講義「生殖系」	3学年	1 回
	吉川　和暁	助手	系統別講義「腎・泌尿器系」 系統別講義「生殖系」	4・5学年 3学年	3 回 1 回
	工藤　大輔	助手	系統別講義「腎・泌尿器系」	5学年	3 回
05年度	大山　　力	教授	系統別講義「腎・泌尿器系」 医学英語 系統別講義「代謝内分泌系」	4学年 4学年 4学年	6 回 7 回 1 回
	古家　琢也	講師	系統別講義「腎・泌尿器系」	4学年	1 回
	大和　　隆	講師	系統別講義「生殖系」	3学年	3 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	大山　　力	教授	5学年	8 ヶ月
	高橋　信好	助教授	6学年	5 ヶ月
	古家　琢也	講師	5・6学年	1年
	大和　　隆	講師	5学年	4 ヶ月
	吉川　和暁	助手	5・6学年	1年
	米山　高弘	助手	5・6学年	1年
	工藤　大輔	助手	6学年	5 ヶ月
	山内　崇生	助手	6学年	5 ヶ月
	今井　　篤	助手	5学年	6 ヶ月

05年度	大山　　力	教授	5・6学年	
	大和　　隆	講師	5・6学年	
	古家　琢也	講師	5・6学年	
	米山　高弘	助手	5・6学年	
	萩沢　　茂	助手	5・6学年	
	畠山　真吾	助手	5・6学年	
	今井　　篤	助手	5・6学年	
	吉川　和暁	助手	5・6学年	
	橋本　安弘	助手	5・6学年	

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	吉川　和暁	助手
05年度	大和　　隆	講師

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	大山　　力	教授	最新医学の動向	1・2年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	大山　　力	教授	泌尿器悪性腫瘍	2学年	40回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	大山　　力 高橋　信好 盛　　和行	教授 助教授 助手	Recombinant Human Manganese Superoxide Dismutase (r-hMnSOD) Reduces the Experimental Renal Ischemia–Reperfusion Injury in Rats.（ラット実験的腎阻血再灌流傷害に対する組み換えヒト MnSOD を用いた新たなる治療戦略）
05年度	大山　　力	教授	膀胱癌における GnT-V 発現の意義

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	1名
05年度	1名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	古家　琢也	講師	3学年	泌尿器科	1 回
05年度	古家　琢也	講師	3年	前立腺肥大症，膀胱癌	1 回

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	大山　　力	教授	系統別講義（腎・泌尿器系）	90%
	古家　琢也	講師	系統別講義（腎・泌尿器系）	90%
05年度	大山　　力	教授	系統別講義「腎・泌尿器系」	90%
	古家　琢也	講師	系統別講義「腎・泌尿器系」	80%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	大山　　力	教授	系統別講義（腎・泌尿器系）	3.9
	古家　琢也	講師	系統別講義（腎・泌尿器系）	3.8
05年度	大山　　力	教授	系統別講義「腎・泌尿器系」	4.3

2）専門教育の評価　2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
泌尿器科学（臨床実習）	5年			4.2	4.0

27. 眼科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
学生が主体的に参加できる講義と実習を考えて構成した。学生からの評価は横ばいでありその意味で到達度は50％と言える。

これから２年間の目標：
学生が主体的に講義や実習に参加できる講義と実習を行うよう努力する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	中澤　　満	教授	テーマ科目 テーマ科目	健康 健康	ゲノム医学 代謝と内分泌の老化	最新医学の現状 発達と老化	2 回 1 回
05年度	中澤　　満	教授	テーマ科目 テーマ科目	健康 健康	遺伝子医学 老化と内分泌疾患	最新医学の現状 発達と老化	2 回 1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	中澤　　満	教授	感覚器系・眼科学 感覚器系・眼科学 医学英語	4年 5年 4年	13回 13回 8 回
	大黒　　浩	助教授	感覚器系・眼科学 感覚器系・眼科学	4年 5年	3 回 3 回
	大黒　幾代	講師	感覚器系・眼科学 感覚器系・眼科学	4年 5年	2 回 2 回
	鈴木　幸彦	講師	感覚器系・眼科学 感覚器系・眼科学	4年 5年	2 回 2 回
	中村　秀雄	助手	チュートリアル教育	3年	7 回
05年度	中澤　　満	教授	医学英語 眼科学（感覚器・系統別）	4年 4年	8 回 13回
	大黒　　浩	助教授	眼科学（感覚器・系統別）	4年	3 回
	鈴木　幸彦	講師	眼科学（感覚器・系統別）	4年	2 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	中澤　　満	教授	5学年 6学年	114回 8 回
	大黒　幾代	講師	5，6学年	18回
	大黒　　浩	助教授	5，6学年	200回
	水谷　英之	講師	5，6学年	24回
05年度	中澤　　満	教授	5学年 6学年	120回 12回
	大黒　　浩	助教授	5学年 6学年	120回 12回
	鈴木　幸彦	講師	5学年 6学年	120回 12回

05年度	石川　　太	助手	5学年 6学年	120回 12回
	大黒　幾代	講師	5学年 6学年	80回 12回
	山崎　仁志	助手	5学年 6学年	120回 12回
	間宮　和久	助手	5学年 6学年	120回 12回
	水谷　英之	助手	5学年 6学年	120回 12回
	中村　秀雄	助手	5学年 6学年	120回 12回

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
05年度	石川　　太	助手
	山崎　仁志	助手

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	中澤　　満	教授	最新の網膜疾患治療	1年	1 回
05年度	中澤　　満	教授	眼科診断学など	1，2年	50回
	大黒　　浩	助教授	眼科治療学	1，3年	50回
	大黒　幾代	講師	緑内障病態と治療	2，4年	50回
	鈴木　幸彦	講師	眼科病理学	2，3年	50回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	中澤　　満	教授	眼科診断学	2，4年	50回
	大黒　幾代	講師	眼組織学	1，3年	30回
	大黒　　浩	助教授	眼科治療学	2，4年	50回
	鈴木　幸彦	講師	眼科治療学	1，4年	50回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	中澤　　満	教授	目時友美学位論文
05年度	中澤　　満	教授	網膜変性症に対するカルシウム拮抗薬の効果 網膜変性動物に対する光傷害の影響
	鈴木　幸彦	講師	網膜循環障害の病態と治療法の研究

【ファカルティ・ディベロップメント】　　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0名
05年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	大黒　浩	助教授	2学年	眼科	
	大黒　幾代	講師	放射線技術科学専攻	眼底カメラに関して	1 回
05年度	大黒　幾代	講師	教育3年 保健3年	眼科学 眼科学	8 回 1 回
	水谷　英之	助手	保健3年	眼底カメラ	1 回
	鈴木　幸彦	講師	保健3年	眼科学	4 回

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	中澤　満	教授	眼科学（5年次） 眼科学（4年次） 医学英語（4年次）	90% 95% 90%
05年度	中澤　満	教授	眼科学	95%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	中澤　満	教授	医学英語 眼科学（5年次） 眼科学（4年次）	4.2 3.5 4.2
05年度	中澤　満	教授	眼科学	3.8
	大黒　浩	助教授	眼科学	3.7
	鈴木　幸彦	講師	眼科学	3.7

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
眼科 SGT	5,6年	152	285	3.7	3.8

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
眼科 SGT	5年	300	600	4.0	3.9

28. 耳鼻咽喉科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

講義１．できるだけポイントを絞って，理解しやすいように行う。80%
　　２．理解度の確認のため，小テストを講義中に行う。60%
実習１．見学のみの実習を可能な限り廃し，診療に参加できる体制を整える。70%
　　２．診療を通じて，病歴，検査，診断，治療に至る思考過程を養う。80%
　　３．可能な限り，救急疾患への対応を学ばせる。80%

これから２年間の目標：

講義１．できるだけポイントを絞って，理解しやすいように行う。
　　２．理解度の確認のため，小テストを講義中に行う。
　　３．教育評価の結果を講義に反映させる。
実習１．見学のみの実習を可能な限り廃し，診療に参加できる体制を整える。
　　２．診療を通じて，病歴，検査，診断，治療に至る思考過程を養う。
　　３．可能な限り，救急疾患への対応を学ばせる。
　　４．教育評価の結果を講義に反映させる。
　　５，臨床実習において学生との討議時間を可能な限り持つ。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	新川　秀一	教授	テーマ科目	健康		障害者の健康（C）	2 回
	松原　　篤	助教授	テーマ科目	健康		発達と老化（A）	1 回
05年度	新川　秀一	教授	テーマ	健康	障害者の健康	聴・平衡障害とリハビリ	2 回
	松原　　篤	助教授	テーマ	健康	発達と老化	老化と病気	1 回
	欠畑　誠治	助教授	テーマ	健康	最新医学の現状	運動・感覚系とその疾患	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	新川　秀一	教授	系統別講義（感覚器系）	4・5年	20回
	松原　　篤	助教授	系統別講義（感覚器系）	4・5年	6 回
	欠畑　誠治	講師	系統別講義（感覚器系）	4・5年	4 回
	石井　賢治	助手	東洋医学講義	3年	1 回
05年度	新川　秀一	教授	系統別講義（感覚器系）	4年	12回
	松原　　篤	助教授	系統別講義（感覚器系）	4年	3 回
	欠畑　誠治	助教授	系統別講義（感覚器系）	4年	2 回
	石井　賢治	助手	耳鼻咽喉科領域の漢方	4年	1 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	新川　秀一	教授	5・6学年	38週
	松原　　篤	助教授	5・6学年	38週
	欠畑　誠治	講師	5・6学年	38週
	石井　賢治	助手	5・6学年	38週

	土岐　栄喜	助手	5・6学年	38週
	南場　淳司	助手	5・6学年	38週
	丸屋信一郎	助手	5・6学年	38週
05年度	新川　秀一	教授	6年 5年	4 週 36週
	松原　　篤	助教授	6年 5年	4 週 36週
	欠畑　誠治	助教授	6年 5年	4 週 36週
	石井　賢治	助手	6年 5年	4 週 36週
	蒔苗　公利	助手	6年 5年	4 週 36週
	安田　　京	助手	6年 5年	4 週 36週
	丸屋信一郎	助手	6年 5年	4 週 36週
	南場　淳司	助手	6年 5年	4 週 36週

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	欠畑　誠治	講師
	石井　賢治	助手
	土岐　栄喜	助手
05年度	欠畑　誠治	助教授
	南場　淳司	助手

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	新川　秀一	教授	耳鼻咽喉科診断学 耳鼻咽喉科治療学 神経耳科学 気管食道科学 頭頸部腫瘍学 耳鼻咽喉科治療学	2年 2年 2年 2年 2年 3年	15週 15週 15週 15週 15週 15週
	欠畑　誠治	講師	耳鼻咽喉科診断学	3年	15週
05年度	新川　秀一	教授	感覚器病態修復学 耳鼻咽喉科診断学	1年 3年	15週 15週
	松原　　篤	助教授	神経細胞組織科学 耳鼻咽喉科治療学	1年 3年	15週 15週

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	松原　　篤	助教授	耳鼻咽喉科診断学 耳鼻咽喉科治療学 神経耳科学 気管食道科学 頭頸部腫瘍学	2年 2年 2年 2年 2年	15週 15週 15週 15週 15週
	欠畑　誠治	講師	耳鼻咽喉科診断学 耳鼻咽喉科治療学 気管食道科学	3年 3年 3年	15週 15週 15週

05年度	新川　秀一	教授	耳鼻咽喉科診断学 気管食道科学	3年 3年	15週 15週
	松原　　篤	助教授	神経細胞組織科学	1年	15週
	欠畑　誠治	助教授	感覚器病態修復学 耳鼻咽喉科治療学	1年 3年	15週 15週

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
05年度	新川　秀一 松原　　篤	教授 助教授	Localization of dopamine receptor subtypes in the rat spiral ganglion
	新川　秀一 欠畑　誠治	教授 助教授	Developmental expression of the outer hair cell motor protein in the mouse

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	松原　　篤	非常勤講師	2・3年 2年	臨床医科学Ⅲ・耳鼻咽喉科（教育学部） 臨床生理学Ⅲ・平衡機能検査（保健学科）	7 回 2 回
	欠畑　誠治	非常勤講師	3年	成人看護学演習（保健学科）	2 回
05年度	松原　　篤	非常勤講師	2・3年 2年	臨床医科学Ⅲ・耳鼻咽喉科（教育学部） 臨床生理学Ⅲ・平衡機能検査（保健学科）	7 回 2 回
	欠畑　誠治	非常勤講師	3年	成人看護学演習（保健学科）	2 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	新川　秀一	非常勤講師	2 回	0 回
	松原　　篤	非常勤講師	1 回	0 回
05年度	新川　秀一	非常勤講師	2 回	0 回
	松原　　篤	非常勤講師	1 回	0 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	新川　秀一	教授	系統別講義（感覚器系）	95%以上
	松原　　篤	助教授	系統別講義（感覚器系）	90%以上
	欠畑　誠治	講師	系統別講義（感覚器系）	100%
05年度	新川　秀一	教授	感覚器系（耳鼻咽喉科学）	95%以上
	松原　　篤	助教授	感覚器系（耳鼻咽喉科学）	90%以上
	欠畑　誠治	助教授	感覚器系（耳鼻咽喉科学）	100%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	新川　秀一	教授	系統別講義（感覚器系）	5年生（A）3.9（B）3.7 4年生（A）3.8（B）3.7
	松原　　篤	助教授	系統別講義（感覚器系）	5年生（A）3.8（B）3.7 4年生（A）4.2（B）4.1
	欠畑　誠治	講師	系統別講義（感覚器系）	5年生（A）3.8（B）3.7 4年生（A）4.1（B）4.1
05年度	新川　秀一	教授	感覚器系（耳鼻咽喉科学）	A：3.8　B：3.5
	松原　　篤	助教授	感覚器系（耳鼻咽喉科学）	A：4.1　B：4.0
	欠畑　誠治	講師	感覚器系（耳鼻咽喉科学）	A：4.3　B：4.4

2）専門教育の評価

2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5・6年	38週		2.9	2.6

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5・6年	40週		4.1	4.1

29. 放射線医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
80－100％

これから２年間の目標：
1）学生教育の充実，とくに研究室研修，クリニカルクラークシップの充実
2）卒後臨床研修の受入体制の充実
3）大学院教育の実習強化
4）社会活動への参加

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	阿部　由直	教授			最新の医学	放射線治療	1 回
	小野　修一	助教授				最新の医療 生活習慣病	1 回 3 回
05年度	阿部　由直	教授			最新の医学の現状（B）	癌の放射線治療	1 回
	青木　昌彦	講師	テーマ科目	健康	最新医学の現状 C	放射線治療の現状	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	阿部　由直	教授	放射線医学	4年	9 回
	小野　修一	助教授	放射線医学	4年	2 回
	青木　昌彦	講師	放射線治療各論	4年	1 回
05年度	阿部　由直	教授	放射線医学 侵襲と生体応答	4年 2年	9 回 4 回
	小野　修一	助教授	放射線医学	4年	2 回
	青木　昌彦	講師	放射線治療各論	4年	1 回
	三浦　弘行	講師	放射線医学	4年	1 回
	大畑　　崇	助手	血管内治療手技	4年	1 回
	長畑　守雄	助手	神経放射線診断学	4年	1 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	阿部　由直	教授	5，6学年	120回
	小野　修一	助教授	5，6学年	30回
	青木　昌彦	講師	5，6学年	30回
	三浦　弘行	助手	5，6学年	30回
05年度	阿部　由直	教授	5，6学年	75回
	小野　修一	助教授	5，6学年	50回
	青木　昌彦	講師	5，6学年	18回
	三浦　弘行	講師	5，6学年	30回
	大畑　　崇	助手	5，6学年	週2回，隔週
	長畑　守雄	助手	5，6学年	18回

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
04年度	1名	小野　修一

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	阿部　由直	教授	臨床研究のすすめ方	1・2年	1 回
05年度	青木　昌彦	講師	05年度後期大学院共通科目　最新医学の動向	1・2年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	阿部　由直	教授	放射線医学	1－4年	50回
	小野　修一	助教授	放射線診断学実習	1－4年	50回
	三浦　弘行	講師	放射線診断学実習	1－4年	25回
	青木　昌彦	講師	放射線治療実習	1－4年	25回

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	1 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	2 名
05年度	2 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　　目　　名	回数又は期間
04年度	阿部　由直	教授	2年	放射線生物学	3 回
	三浦　弘行	助手	教2年	放射線医学	7 回
05年度	阿部　由直	教授	2年	放射線生物学	3 回

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
04年度	阿部　由直	教授	放射線医学	90％
	小野　修一	助教授	放射線医学	100％
	青木　昌彦	講師	放射線治療各論	約90％
05年度	阿部　由直	教授	放射線医学	80－90％
	小野　修一	助教授	放射線医学	100％
	青木　昌彦	講師	放射線医学	90％
	三浦　弘行	講師	放射線医学	80％
	大畑　　崇	助手	放射線医学	80％
	長畑　守雄	助手	放射線医学	90％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	阿部　由直	教授	放射線医学	3.5
	小野　修一	助教授	放射線医学	3.81
	青木　昌彦	講師	系統別講義（感覚器系）放射線治療各論	4.3
05年度	阿部　由直	教授	放射線医学	3.8
	小野　修一	助教授	放射線医学	4.2
	青木　昌彦	講師	放射線治療各論	3.9
	三浦　弘行	講師	放射線医学	なし
	大畑　　崇	助手	放射線医学	4.2
	長畑　守雄	助手	神経放射線診断学	4.1

2）専門教育の評価

2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
放射線医学	5，6年			4.0	4.0

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
放射線科	5，6年			4.0	4.0

30. 産科婦人科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
分担分に関しては責任をもって講義，実習を行った。ただし，臨床実習の時間が10日間と少なく，今後の課題となった。

これから２年間の目標：
引き続き，産婦人科に興味を持ち理解を深めるように工夫する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	水沼　英樹	教授	テーマ科目	健康		最新医学の現状	1 回
	藤井　俊策	助教授	テーマ科目	健康		最新医学の現状	1 回
	樋口　　毅	講師	テーマ科目	健康		生活習慣と健康	2 回
	横山　良仁	講師	テーマ科目	健康	子宮頸部癌の科学	最新医学の現状	1 回
05年度	水沼　英樹	教授	テーマ科目	健康		最新医学の現状（C）	1 回
	横山　良仁	講師	テーマ科目	健康	子宮頸部癌の科学	最新医学の現状	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	水沼　英樹	教授	系統別講義（生殖系） 系統別講義（生殖系） 系統別講義（生殖系）	3年 4年 5年	3 回 7 回 6 回
	藤井　俊策	助教授	系統別講義（生殖系）	3～5年	5 回
	樋口　　毅	講師	系統別講義（生殖系）	5年	5 回
	横山　良仁	講師	系統別講義（生殖系） 系統別講義（生殖系）	3年 4年	3 回 4 回
05年度	水沼　英樹	教授	系統別講義（生殖系） 系統別講義（生殖系）	3年 4年	3 回 5 回
	藤井　俊策	助教授	系統別講義（生殖系） 系統別講義（生殖系）	4年 3年	1 回 3 回
	樋口　　毅	講師	系統別講義（生殖系）	4・6年	5 回
	横山　良仁	講師	系統別講義（生殖系） 系統別講義（生殖系）	3年 4年	3 回 2 回
	福井　淳史	助手	チュートリアル教育	3年	4 回
	山本　善光	助手	チュートリアル教育	3年	3 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	水沼　英樹	教授	5・6学年	実習期間を通じて
	藤井　俊策	助教授	5・6学年	実習期間を通じて
	樋口　　毅	講師	5・6学年	実習期間を通じて
	横山　良仁	講師	5・6学年	実習期間を通じて
	福井　淳史	助手	5・6学年	実習期間を通じて
	二神　真行	助手	5・6学年	実習期間を通じて

05年度	水沼　英樹	教授	5・6学年	実習期間を通じて
	藤井　俊策	助教授	5・6学年	実習期間を通じて
	樋口　　毅	講師	5・6学年	実習期間を通じて
	横山　良仁	講師	5・6学年	実習期間を通じて
	福井　淳史	助手	5・6学年	実習期間を通じて
	二神　真行	助手	5・6学年	実習期間を通じて
	木村　秀崇	助手	5・6学年	実習期間を通じて
	山本　善光	助手	5・6学年	実習期間を通じて

4）OSCE

	担当者名	職名
04年度	横山　良仁	講師
05年度	横山　良仁	講師

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	水沼　英樹	教授	産婦人科学	大学院生	8 回
	藤井　俊策	助教授	遺伝発生医学セミナー 生命科学と倫理	大学院生 大学院生	2 回 2 回
	横山　良仁	講師	産婦人科領域の血管新生	大学院生	1 回
05年度	水沼　英樹	教授	発生・分化医学 生殖・生理学 腫瘍制御学	大学院生 大学院生 大学院生	2 回 2 回 2 回
	藤井　俊策	助教授	生殖医療と倫理 遺伝発生学	大学院生 大学院生	1 回 1 回
	横山　良仁	講師	産婦人科領域の血管新生	大学院生	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	福井　淳史	助手	産科婦人科	1～4年	通年
05年度	藤井　俊策	助教授	フローサイトメトリー	大学院生	1 回
	福井　淳史	助手	産科婦人科	1～4年	通年

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
05年度	水沼　英樹	教授	Growth Differentiation Factor-9 and Transforming Growth Factor- β 1 Suppress the Action of Activin A during Early Ovarian Follicular Development
	藤井　俊策	助教授	Effects of GDF-9 and activin A on Development of Small Preantral Follicles From Immature Female Mice.

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	2 名
05年度	1 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	2 名
05年度	2 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	水沼　英樹	教授	生殖系	60%
	藤井　俊策	助教授	生殖系	60%
	樋口　　毅	講師	生殖系	70%
	横山　良仁	講師	生殖系 生殖系	60% 55%
05年度	水沼　英樹	教授	生殖系	60%
	藤井　俊策	助教授	生殖系	60%
	樋口　　毅	講師	生殖系	70%
	横山　良仁	講師	生殖系	70%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	水沼　英樹	教授	生殖系	4.2
	藤井　俊策	助教授	生殖系	4.0
	樋口　　毅	講師	生殖系	3.7
	横山　良仁	講師	生殖系 生殖系	4.2 4.0
05年度	水沼　英樹	教授	生殖系	4.0
	藤井　俊策	助教授	生殖系	4.1
	樋口　　毅	講師	生殖系	3.7
	横山　良仁	講師	生殖系	4.1

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
産科婦人科学	5・6年				

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
産科婦人科学	5・6年				

31. 麻酔学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

①今後とも臨床実習に関しては，医学生，研修医に対してマンツーマンで教室員全員で積極的に教育に関与することを目標とする。

→ PBL を基本としてマンツーマン教育を行い，学生の評価は非常に高かった。

②医学生の麻酔科臨床実習数が大幅に削減されたが，教育効果が落ちないように務める。

→実習時間が減ったが，我々の教育方法が評価され，昨年，倍に実習時間が増えた。

③講義に関しては，コンピュータを利用した講義も積極的に取り入れ，より学生が麻酔科学の基本を理解できるように努める。

→パワーポイント，視聴覚機器を用いた講義を行い，学生の評価はおおむね良かったが，期末試験の結果を見る限り，それが理解向上に役立ったかは定かではなかった。

このため，到達度は90％程度と思われる。

これから２年間の目標：

①麻酔科を理解してもらえるよう更に内容のレベルアップに努める。

②臨床実習では PBL を基本に，シミュレータも併用した教育を行う。

③臨床研修医指導医ワークショップでのタスクフォースの一員をして，県内の臨床研修のより一層の充実に寄与する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	廣田　和美	教授	テーマ科目	健康	救急救命治療	最新医学の現状	1 回
	石原　弘規	助教授	テーマ科目	健康	メンタルヘルス	ストレスの生体に及ぼす影響	1 回
	佐藤　哲観	講師	テーマ科目	健康	終末医療といたみ	最新医学の現状（B）	1 回
05年度	廣田　和美	教授	テーマ科目	健康	救急救命治療	最新医学の現状	1 回
	石原　弘規	講師	テーマ科目	健康	メンタルヘルス	ストレスの生体に及ぼす影響	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	廣田　和美	教授	麻酔蘇生系	4－5年	6 回
	石原　弘規	助教授	麻酔蘇生系	4－5年	6 回
	佐藤　哲観	講師	麻酔蘇生系	4－5年	14回
	橋本　　浩	講師	麻酔蘇生系	4－5年	4 回
	櫛方　哲也	助手	麻酔蘇生系	4－5年	6 回
	北山　眞任	助手	麻酔蘇生系	4－5年	2 回
05年度	廣田　和美	教授	麻酔蘇生系	4年	4 回
	石原　弘規	助教授	麻酔蘇生系	4年	2 回
	橋本　　浩	講師	麻酔蘇生系	4年	1 回
	佐藤　哲観	講師	麻酔蘇生系	4年	6 回
	櫛方　哲也	助手	麻酔蘇生系	4年	3 回
	北山　眞任	助手	麻酔蘇生系	4年	1 回
	吉田　　仁	助手	麻酔蘇生系	4年	1 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	工藤　　剛	助手	基礎科学実験（化学）	2年	3 回
05年度	工藤　　剛	助手	基礎科学実験（化学）	2年	3 回

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	廣田　和美	教授	5－6年	ほぼ毎日
	石原　弘規	助教授	6年	20回
	橋本　　浩	講師	5－6年	週4回
	佐藤　哲観	講師	5－6年	60回
	櫛方　哲也	助手	6年	30回
	北山　眞任	助手	5年	20回
	吉田　　仁	助手	6年	2 回
05年度	廣田　和美	教授	5－6年	1年間
	石原　弘規	助教授	6年	20回
	橋本　　浩	講師	5－6年	週4回
	佐藤　哲観	講師	5年	60回
	櫛方　哲也	助手	6年	30回
	北山　眞任	助手	5－6年	20回
	吉田　　仁	助手	5－6年	1年間

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	櫛方　哲也	助手
	北山　眞任	助手
05年度	櫛方　哲也	助手
	北山　眞任	助手

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	廣田　和美	教授	研究論文の書き方	院生	1 回
05年度	廣田　和美	教授	脳死の生命倫理	院生	1 回
	佐藤　哲観	講師	緩和医療	1－2年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	工藤美穂子	助手	細胞内 Ca^{2+} 動態の測定と応用	院生	1 回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	石原　弘規	助教授	Initial distribution volume of glucose is correlated with intrathoracic blood volume in hypovolemia and follwing volume loading in dogs.
05年度	廣田　和美	教授	The relationship between salivary biomarkers and state-trait anxiety inventory score under mental arithmetic stress:a pilot study.

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　称　等
04年度	廣田　和美	教授	卒後研修医制度に関する講演会

05年度	佐藤　哲観	講師	臨床研修指導医ワークショップタスクフォース
	吉田　　仁	助手	第3回東北ブロック医師臨床研修指導医ワークショップ

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	1 名
05年度	1 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	1 名
05年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	廣田　和美	教授	2年	成人看護方法論Ⅱ	2 回
	佐藤　哲観	講師	1－4年	先端医学・医療（東洋医学）緩和医療における代替医療・相補医療	1 回
05年度	廣田　和美	教授	2年	成人看護方法論Ⅱ	2 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
05年度	北山　眞任	助手	2 回	1 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	廣田　和美	教授	麻酔蘇生系	約95%
	石原　弘規	助教授	麻酔蘇生系	95%
	橋本　　浩	講師	麻酔蘇生系	98%
	佐藤　哲観	講師	麻酔蘇生系	約98%
	櫛方　哲也	助手	麻酔蘇生系	97%
	北山　眞任	助手	麻酔蘇生系	95%
05年度	廣田　和美	教授	麻酔蘇生系	約95%
	石原　弘規	助教授	麻酔蘇生系	約97%
	橋本　　浩	講師	麻酔蘇生系	98%
	佐藤　哲観	講師	麻酔蘇生系	98%
	櫛方　哲也	助手	麻酔蘇生系	約97%
	北山　眞任	助手	麻酔蘇生系	95%
	吉田　　仁	助手	麻酔蘇生系	ほぼ100%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	廣田　和美	教授	麻酔蘇生系	平均4.0
	石原　弘規	助教授	麻酔蘇生系	3.4
	橋本　　浩	講師	麻酔蘇生系	4
	佐藤　哲観	講師	麻酔蘇生系	4.5
	櫛方　哲也	助手	麻酔蘇生系	平均3.7
	北山　眞任	助手	麻酔蘇生系	
05年度	廣田　和美	教授	麻酔蘇生系	3.7
	石原　弘規	助教授	麻酔蘇生系	3.95
	橋本　　浩	講師	麻酔蘇生系	3.9
	佐藤　哲観	講師	麻酔蘇生系	4.6
	櫛方　哲也	助手	麻酔蘇生系	4.25
	北山　眞任	助手	麻酔蘇生系	3.25
	吉田　　仁	助手	麻酔蘇生系	3.5

2）専門教育の評価

2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
麻酔学講座	5－6年	1週間	25	4.3	4.4

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
麻酔学講座	5－6年	1週間	25	4.7	4.6

32. 脳神経外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
ほぼ達成した。

これから２年間の目標：
学生教育の充実及び，研修医教育，卒後専門医教育など臨床を介しての教育により一層力を入れていく。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	大熊　洋揮	教授	テーマ科学	健康		最新医学の現状	1 回
	浅野研一郎	講師	テーマ科学	健康		最新医学の現状	1 回
05年度	大熊　洋揮	教授			テーマ科目	最新医学の現状	1 回
	浅野研一郎	講師			テーマ科目	最新医学の現状	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	大熊　洋揮	教授	系統別講義（脳・神経系）	4－5年次	4 回
	浅野研一郎	講師	系統別講義（脳・神経系）	4－5年次	3 回
	嶋村　則人	講師	系統別講義（脳・神経系）	4－5年次	3 回
05年度	大熊　洋揮	教授	系統別講義（脳・神経系） 医学英語	4年次 4年次	5 回 5 回
	浅野研一郎	講師	系統別講義（脳・神経系） 医学英語 系統別講義（代謝内分泌系）	4年次 4年次 3年次	3 回 2 回 1 回
	中野　高広	講師	系統別講義（脳・神経系）	4年次	2 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	大熊　洋揮	教授	5－6年次	19回（週）
	浅野研一郎	講師	5－6年次	19回（週）
	嶋村　則人	講師	5－6年次	5回（週）
05年度	大熊　洋揮	教授	5年	18週1回
	浅野研一郎	講師	5年	18週1回
	中野　高広	講師	5年	18週1回
	嶋村　則人	講師	5年	12週1回

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	浅野研一郎	講師
05年度	浅野研一郎	講師

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
05年度	0名	菊池　　潤，棟方　　聡

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	浅野研一郎	講師	脳神経手術学	2年	30回
	嶋村　則人	講師	脳神経外科治療学特論	2年	30回
05年度	大熊　洋揮	教授	神経細胞組織科学講義 脳循環制御学講義	1年次 1年次	30回 30回
	浅野研一郎	講師	最新医学の動向	1年次	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	大熊　洋揮	教授	脳神経外科診断学 脳神経外科治療学特論	2年 2年	30回 30回
	浅野研一郎	講師	神経放射線学	2年	30回
	嶋村　則人	講師	脳神経手術学	2年	30回
05年度	大熊　洋揮	教授	神経細胞組織科学実験実習 脳循環制御学実験実習 脳循環制御学演習	2年次 2年次 1年次	30回 30回 15回
	浅野研一郎	講師	神経細胞組織科学演習	1年次	15回

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0名
05年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	大熊　洋揮	教授	保健学科2年	脳神経外科	4 回
	浅野研一郎	講師	保健学科2年	脳神経外科	3 回
	嶋村　則人	講師	保健学科4年	成人看護学演習	2 回
05年度	大熊　洋揮	教授	保健学科2年次	脳神経外科学	4 回
	浅野研一郎	講師	保健学科2年次 保健学科3年次	脳神経外科学 成人看護方法論Ⅱ	3 回 1 回
	中野　高広	講師	保健学科3年次	成人看護方法論Ⅱ	1 回

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	大熊　洋揮	教授	系統別講義　4年 系統別講義　5年	95% 95%
	浅野研一郎	講師	系統別講義　4年 系統別講義　5年	95% 95%
	嶋村　則人	講師	系統別講義　4年 系統別講義　5年	90% 90%
05年度	大熊　洋揮	教授	系統別講義（脳・神経系）	85%
	浅野研一郎	講師	系統別講義（脳・神経系）	90%
	中野　高広	講師	系統別講義（脳・神経系）	95%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	大熊　洋揮	教授	系統別講義　4年 系統別講義　5年	4.2 4.3
	浅野研一郎	講師	系統別講義　4年 系統別講義　5年	4.2 4.2
	嶋村　則人	講師	系統別講義　4年 系統別講義　5年	4.3 4.4
05年度	大熊　洋揮	教授	系統別講義（脳・神経系）	4.2
	浅野研一郎	講師	系統別講義（脳・神経系） 系統別講義（代謝・内分泌系）	4.3 4.3
	中野　高広	講師	系統別講義（脳・神経系）	4.0

2）専門教育の評価

2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
脳神経外科学講座	5，6年	78	16	4.6	4.6

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
脳神経外科学講座	5年次	18週		4.6	4.6

33. 歯科口腔外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

（講座・木村博人）

○ 共通教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を積極的に担当する。
○ 講義，実習における達成目標と評価方法の工夫を絶えず行う。
○ 講義内容の見直しを図り，出席率の向上に努める。
○ SGT における実習指導，研究室研修における研究指導を懇切丁寧に行う。
○ 医学部保健学科および学外コ・メディカルの講義，実習に積極的に協力する。
○ 学位審査の機会があれば積極的に努める。
○ 医学部学生の課外活動の指導に努める。

到達度　　（80％）

（小林　恒）

○ 講義内容の見直しを図り，興味のわく講義内容とするよう努める。
○ SGT における実習指導を懇切丁寧に行う。

到達度　　（90％）

（福井　朗）

○ 共通教育，専門教育の担当時間内における内容の充実を図る。
○ 講義内容の見直しを絶えず行う。
○ SGT 指導，研究室研修の指導を積極的に行う。

到達度　　（80％）

（佐藤　寿）

○ SGT 指導を積極的に行う。

到達度　　（80％）

（楠美昭則）

○ 今後も学部教育では臨床実習，研究室研修を担当する。
○ 大学院学生の指導についても，教授を補佐し積極的に手法および論文作成について行う予定である。

到達度　　（70％）

（織田光夫）

○ SGT 指導を積極的に行う。

到達度　　（80％）

これから２年間の目標：

（講座・木村博人）

○ 共通教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を積極的に担当する。
○ 講義，実習における達成目標と評価方法の工夫を絶えず行う。
○ 講義内容の見直しを図り，出席率の向上に努める。
○ SGT における実習指導，研究室研修における研究指導を懇切丁寧に行う。
○ 医学部保健学科および学外コ・メディカルの講義，実習に積極的に協力する。
○ 学位審査の機会があれば積極的に努める。
○ 医学部学生の課外活動の指導に努める。

（小林　恒）

○ 講義内容の見直しを図り，興味のわく講義内容とするよう努める。
○ SGT における実習指導を懇切丁寧に行う。

（佐藤　寿）

○ SGT 指導を積極的に行う。

（楠美昭則）

○ SGT 指導を積極的に行う。
○ 大学院学生の指導についても，教授を補佐し積極的に手法および論文作成について行う予定である。

（織田光夫）

○ SGT 指導を積極的に行う。
○ 研修医の臨床指導を積極的に行う。

（榊　宏剛）

○ SGT 指導を積極的に行う。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	木村　博人	教授	テーマ科目		最新医学の現状（B）		1 回
	小林　　恒	助教授	テーマ科目		最新医学の現状（B）		1 回
	福井　　朗	講師	テーマ科目		最新医学の現状（C）		2 回
05年度	木村　博人	教授	テーマ科目		最新医学の現状（B）	生活習慣と健康	1 回
	小林　　恒	助教授	テーマ科目		最新医学の現状（B）	生活習慣と健康	1 回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
05年度	木村　博人	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	4.5時間×3
	織田　光夫	助手	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	4.5時間×3

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	木村　博人	教授	系統別講義（歯口腔系） 系統別講義（歯口腔系）	5年（前期） 4年（後期）	6 回 6 回
	小林　　恒	助教授	系統別講義（歯口腔系） 系統別講義（歯口腔系）	5年（前期） 4年（後期）	2 回 1 回
	福井　　朗	講師	系統別講義（歯口腔系） 系統別講義（歯口腔系）	5年（前期） 4年（後期）	2 回 1 回
05年度	木村　博人	教授	系統別講義（歯口腔系）	4年	6 回
	小林　　恒	助教授	系統別講義（歯口腔系）	4年	2 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	木村　博人	教授	5・6年	週4日間×5週＋14週
	小林　　恒	助教授	5・6年	週4日間×5週＋14週
	福井　　朗	講師	5・6年	週4日間×5週＋14週
	佐藤　　寿	助手	5・6年	週4日間×5週＋14週
	織田　光夫	助手	5・6年	週4日間×5週＋14週
	楠美　昭則	助手	5年	週4日間×14週
05年度	木村　博人	教授	5・6年	週4日間×2週＋週5日間×18週
	小林　　恒	助教授	5・6年	週4日間×2週＋週5日間×18週
	佐藤　　寿	助手	5・6年	週4日間×2週＋週5日間×18週
	楠美　昭則	助手	5・6年	週4日間×2週＋週5日間×18週
	織田　光夫	助手	5・6年	週4日間×2週＋週5日間×18週
	榊　　宏剛	助手	5・6年	週4日間×2週＋週5日間×18週

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
05年度	佐藤　　寿	助手
	織田　光夫	助手

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
04年度	チュートリアル教育 各グループ8～9名	木村　博人，小林　　恒
05年度	チュートリアル教育 各グループ8～9名	木村　博人，小林　　恒，織田　光夫

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	木村　博人	教授	口腔病診断学 顎口腔外科学 口腔機能回復治療学 骨・軟骨移植再生医学 骨・軟骨移植再生医学演習	2年 2年 2年 1年 1年	前・後期各1時限×15週 前・後期各2時限×15週 後期2時限×15週 前・後期各2時限×15週 後期2時限×15週
	小林　　恒	助教授	腫瘍制御学 腫瘍制御学演習 共通科目	1年 1年	前・後期各2時限×15週 後期2時限×15週 1 回
	楠美　昭則	助手	共通科目		1 回
05年度	木村　博人	教授	骨・軟骨移植・再生医学講義 骨・軟骨移植・再生医学演習	1年 1年	前・後期各2時限×15週 後期2時限×15週
	小林　　恒	助教授	腫瘍制御学講義 腫瘍制御学演習	1年 1年	前・後期各2時限×15週 後期2時限×15週
	楠美　昭則	助手	共通基礎科目・再生医学医療セミナー	1年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	小林　　恒	助教授	口腔病診断学 顎口腔外科学 口腔機能回復治療学	2年 2年 2年	前期2時限×15週 前期2時限×15週 前期2時限×15週
	福井　　朗	講師	口腔病診断学 顎口腔外科学	2年 2年	後期2時限×15週 後期2時限×15週
05年度	木村　博人	教授	口腔病診断学	3年	前・後期各2時限×15週
	小林　　恒	助教授	顎口腔外科学 口腔機能回復治療学 腫瘍制御学実験実習	3年 3年 1年	前・後期各2時限×15週 前期2時限×15週 前・後期各2時限×15週

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
04年度	織田　光夫	助手	平成16年度全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議主催，歯科医師臨床研修指導歯科医講習会

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	5 名
05年度	6 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　　目　　名	回数又は期間
04年度	木村　博人	教授	保健学科3年	成人看護学演習	1 回
	小林　　恒	助教授	教育学部2・3年	臨床医科学Ⅲ－1（歯科）	6 回
	福井　　朗	講師	教育学部2・3年	臨床医科学Ⅲ－1（歯科）	2 回

05年度	木村　博人	教授	保健学科3年	成人看護学演習	1 回
	小林　　恒	助教授	教育学部2年	臨床医科学Ⅲ－1（歯科）	8 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	木村　博人	教授	10回	9 回
	小林　　恒	助教授	2 回	2 回
	福井　　朗	講師	3 回	3 回
05年度	木村　博人	教授	12回＋放送大学10回	11回
	小林　　恒	助教授	2 回	2 回
	佐藤　　寿	助手	1 回	1 回
	長内　　隆	歯科技工士	1 回	1 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	木村　博人	教授	系統別講義（歯口腔系）	86.3%
	小林　　恒	助教授	系統別講義（歯口腔系）	
	福井　　朗	講師	系統別講義（歯口腔系）	
05年度	木村　博人	教授	系統別講義（歯口腔系）	86%
	小林　　恒	助教授	系統別講義（歯口腔系）	

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	木村　博人	教授	系統別講義（歯口腔系）5年・前期 系統別講義（歯口腔系）4年・後期	A・B：3.5 A・B：3.9
	小林　　恒	助教授	系統別講義（歯口腔系）5年・前期 系統別講義（歯口腔系）4年・後期	A：3.4，B：3.5 A：3.9，B：4.0
	福井　　朗	講師	系統別講義（歯口腔系）5年・前期 系統別講義（歯口腔系）4年・後期	A・B：3.6 A：3.8，B：3.7
05年度	木村　博人	教授	系統別講義（歯口腔系）	A：3.9，B：4.0
	小林　　恒	助教授	系統別講義（歯口腔系）	A・B：3.8

2）専門教育の評価

2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
歯科口腔外科学臨床実習	5・6年	週4日間×5週 ＋14週		4.3	4.3

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
歯科口腔外科学臨床実習	5・6年	4日間×2週 5日間×18週		4.1	4.1

34. 形成外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
形成外科に関する教育を十分行えたと思われる。

これから２年間の目標：
常に新しい形成外科の知識，技術を取り入れ，教育に生かすよう務める。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	横井　克憲	助手	テーマ	健康	最新医学の現状	最新医学の現状（A）	1 回

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義　該当なし。

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	横井　克憲	講師	5・6年	2004.4～6，2004.9～2005.3
	漆舘　聡志	助手	5・6年	2004.4～2005.3
	新明　康宏	助手	5年	2回／月
	渡辺　庸介	助手	5年	4 回
05年度	横井　克憲	講師	6年次 5年次	12週 36週
	漆舘　聡志	助手	5－6年	2005.4～2006.3
	新明　康宏	助手	5－6年	2005.4～2006.3
	渡辺　庸介	助手	5年	20回

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	四ッ柳高敏	助教授
	漆舘　聡志	助手
05年度	漆舘　聡志	助手
	新明　康宏	助手

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	四ッ柳高敏	助教授	大学院共通基礎科目		1 回

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	1 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
05年度	渡辺　庸介	助手	チュートリアル教育	97%
	新明　康宏	助手	チュートリアル教育	97%

【学生による授業評価】

1）授業評価　該当なし。

2）専門教育の評価　2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習 OSCE	5－6年 5年	90 4		4.1	4.1

35. 救急・災害医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
医学部学生に対して救急医学の教育を行なう目標は達成できた。

これから２年間の目標：
医学部学生・研修医などに外傷の初期治療，急性中毒，心肺蘇生法，災害医学，緊急被ばく医療などの救急医学について教育していく。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	滝口　雅博	助教授					2 回
05年度	浅利　　靖	教授	テーマ科目		災害救急医療	最新医学の現状（D）	2 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	浅利　　靖	教授	救急医学	4年	7 回
	滝口　雅博	助教授	救急医学	4年	1 回
05年度	浅利　　靖	教授	救急医学	4年	7 回
	新井　正康	助教授	救急医学	4年	1 回
	大川　浩文	講師	麻酔科学	5年	2 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	浅利　　靖	教授	5・6年	80コマ
	滝口　雅博	助教授	5・6年	80コマ
	服部　　潤	助手	5・6年	32コマ
05年度	浅利　　靖	教授	5・6年	90コマ（90分／コマ）
	新井　正康	助教授	5・6年	80コマ
	大川　浩文	講師	5・6年	40コマ

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	浅利　　靖	教授
	滝口　雅博	助教授
05年度	浅利　　靖	教授
	新井　正康	助教授
	大川　浩文	講師

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	浅利　　靖	教授	救急医療の実際と倫理		1 回
05年度	浅利　　靖	教授	倫理的問題点		1 回

2）実習　　該当なし。

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	8 名
05年度	11名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　　目　　名	回数又は期間
04年度	滝口　雅博	助教授		救急看護	15回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	浅利　　靖	教授	1 回	1 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
04年度	浅利　　靖	教授	救急医学	80%
05年度	浅利　　靖	教授	救急医学	80%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　　目　　名	評　　価
04年度	浅利　　靖	教授	救急医学	4.8

2）専門教育の評価　　2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習 クラークシップクリニカル	5年 6年	90日 60日			

36. 臨床検査医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

21世紀教育，学部教育の講義を統括しかつ担当した。SGT実習を通じて，臨床医として身に付けるべき基本的かつ専門的な技術，知識の教育を目標通り行う事が出来た。研究室研修における研究と発表の指導をおこない，大学院生の研究を指導した。また，検査部技師の研究に対しても積極的に指導をおこない技師の科学研究費の獲得に寄与した。各教育内容を見直し最新の知識を盛り込むよう努めた。

これから２年間の目標：

１．講義，実習を可能なかぎり担当する。
２．大学院と学部学生への講義内容の改善を絶えず行う。
３．新たな教育法や講義の導入をこころがける。
４．臨床医，研究者として身に付けるべき基本的かつ専門的な技術，知識の教育を行う。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	保嶋　　実	教授	テーマ科目	各	健康	生活習慣と健康	4 回
05年度	保嶋　　実	教授	テーマ科目	各	健康	生活習慣と健康	4 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	保嶋　　実	教授	系統別講議（検査医学）	4年	6 回
	庄司　　優	助教授	系統別講議（検査医学） 系統別講議（代謝内分泌系）	3，4年	6 回
05年度	保嶋　　実	教授	系統別講議（検査医学）	4年	6 回
	庄司　　優	助教授	系統別講議（検査医学） 系統別講議（代謝内分泌系）	3，4年	6 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	庄司　　優	助教授	チュートリアル	3年	2 回
	佐々木真吾	助手	チュートリアル	3年	1 回
05年度	庄司　　優	助教授	チュートリアル	3年	2 回
	佐々木真吾	助手	チュートリアル	3年	1 回

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	保嶋　　実	教授	5，6年	36週
	庄司　　優	助教授	5，6年	36週
	佐々木真吾	助手	5，6年	36週
05年度	保嶋　　実	教授	5，6年	36週
	庄司　　優	助教授	5，6年	36週
	佐々木真吾	助手	5，6年	36週

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	庄司　　優	助教授	内科系	院1，2年	1 回
05年度	庄司　　優	助教授	内科系	院1，2年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	庄司　　優	助教授	遺伝子解析	2－4年	26回
05年度	庄司　　優	助教授	遺伝子解析	2－4年	26回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	保嶋　　実	教授	トログリタゾンと15d- プロスタグランジン J2ずり応力による coupling factor6 の遺伝子発現の亢進と放出の増加を抑制する。 2 型糖尿病患者における単球／マクロファージの apolipoprotein E の分泌能の検討－ HDL および apolipoprotein　A-I の役割について－。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　称　等
05年度	庄司　　優	助教授	国際化教育奨励賞の受賞によりマックマスター大学の医学教育の現場を視察し FD に参加する機会を与えられた。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	保嶋　　実	教授	東北大学　1 回	0 回
05年度	保嶋　　実	教授	東北大学　1 回	0 回
	庄司　　優	助教授	秋田大学　1 回	0 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	保嶋　　実	教授	系統別講議（検査医学）	70%
	庄司　　優	助教授	系統別講議（検査医学） 系統別講議（代謝内分泌系）	60% 65%
05年度	保嶋　　実	教授	系統別講議（検査医学）	70%
	庄司　　優	助教授	系統別講議（検査医学） 系統別講議（代謝内分泌系）	60% 65%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	保嶋　実	教授	系統別講議（検査医学）	3.4
	庄司　優	助教授	系統別講議（検査医学） 系統別講議（代謝内分泌系）	2.2 2.9
05年度	保嶋　実	教授	系統別講議（検査医学）	3.8
	庄司　優	助教授	系統別講議（検査医学） 系統別講議（代謝内分泌系）	3.1 2.8

2）専門教育の評価

2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5－6年	36週		4.0	4.0

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5－6年	36週		4.1	4.0

37. 臨床薬理学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

臨床薬理学講義「(1) 薬物動態学・薬力学について (2) 薬物有害反応の基本的概念と対処方法について (3) 薬効評価法について (4) 薬効の個体差の背景となる薬理遺伝学について (5) 薬物動態に影響を及ぼす各種病態・特殊患者等について」を行った。

薬理学および臨床薬理学実習「(1) β遮断薬を用いた薬効評価と適応疾患に関しての考察（薬理学との共同実習）(2) 薬物療法に関するケーススタディを通して薬物選択のポイントの理解と薬効の個体差の背景となる薬理遺伝学について (SGT)」を行った。

これから２年間の目標：

21世紀教育に積極的に関与する。

臨床薬理学講義を充実させる。

薬理学および臨床薬理学実習を充実させる。

出席率の向上を図り，授業評価の改善を得る。

(1) 教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	立石　智則	教授	テーマ科目	健康		薬と健康	8 回
05年度	立石　智則	教授	テーマ科目	健康		薬と健康	8 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	立石　智則	教授	医学英語 系統講義（免疫・感染症系） 系統講義（臨床薬理）	4年 4年 4年	8 回 1 回 4 回
05年度	立石　智則	教授	チュートリアル 医学英語 系統講義（免疫・感染症系） 系統講義（消化器系） 系統講義（臨床薬理）	3年 4年 4年 4年 4年	2 回 8 回 1 回 1 回 4 回
	宇野　　司	助手	チュートリアル	3年	2 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	立石　智則	教授	治療の薬理学的基礎実習	3年	3 回
05年度	立石　智則	教授	治療の薬理学的基礎実習	3年	3 回

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	立石　智則	教授	5，6年	16回
	清水美貴子	助手	5年	14回
05年度	立石　智則	教授	5年	16回
	宇野　　司	助手	6年	19回

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	宇野　　司	助手	生体内薬物分析法	大学院生	2 回

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	立石　智則	教授	12回	12回
05年度	立石　智則	教授	12回	12回

【学生授業出席率】　該当なし。

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	立石　智則	教授	医学英語 系統講義（免疫・感染症系） 系統講義（臨床薬理）	3.4 3.7 3.3
05年度	立石　智則	教授	系統講義（免疫・感染症系） 系統講義（臨床薬理）	3.9 3.5

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床薬理	5年	1.5日		3.7	3.6

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5年	1.5日		3.8	3.7

38. 分子病態部門

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

現在，人体の病理と病態（病理学講義・実習）の中で神経系に関する部分を担当しており，当初の目標は充分達成されたものと考える。

これから２年間の目標：

専門性を発揮し学生講義，実習に参加してゆく。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	若林　孝一	教授	テーマ科目 テーマ科目 導入科目	健康 健康 基礎ゼミナール		発達と老化（A） 最新医学の現状（C） 基礎ゼミナール	1 回 1 回 15回
	森　　文秋	助教授	テーマ科目	情報		情報の伝達（B）	2 回
05年度	若林　孝一	教授	テーマ科目 テーマ科目 導入科目	健康 健康 基礎ゼミナール		発達と老化（A） 最新医学の現状（C） 基礎ゼミナール	1 回 1 回 15回
	森　　文秋	助教授	テーマ科目	健康		最新医学の現状（C）	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	若林　孝一	教授	医の原則Ⅰ 基礎人体科学演習 医学英語Ⅱ チュートリアル 人体の病理と病態	1年次 1年次 2年次 3年次 3年次	15回 20回 15回 8 回 3 回
	森　　文秋	助教授	基礎人体科学演習 チュートリアル	1年次 3年次	8 回 8 回
	西江　　信	助手	チュートリアル	3年次	4 回
05年度	若林　孝一	教授	医の原則Ⅰ 基礎人体科学演習 チュートリアル 人体の病理と病態 6年生予備期間特別教育	1年次 1年次 3年次 3年次 6年次	15回 20回 8 回 4 回 15回
	森　　文秋	助教授	基礎人体科学演習 チュートリアル	1年次 3年次	8 回 8 回
	朱　　剛	助手	チュートリアル 6年生予備期間特別教育	3年次 6年次	3 回 3 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	若林　孝一	教授	人体の病理と病態	4年次	3 回
	森　　文秋	助教授	人体の病理と病態	4年次	3 回
	西江　　信	助手	人体の病理と病態	4年次	3 回
05年度	若林　孝一	教授	人体の病理と病態	4年次	3 回
	森　　文秋	助教授	人体の病理と病態	4年次	3 回

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	若林　孝一	教授	神経病態学 分子病理学 分子生物学	3年次 3年次 3年次	15回 30回 15回
	森　　文秋	助教授	最新医学の現状	1，2年次	1 回
05年度	若林　孝一	教授	病態神経科学講義 病態神経科学演習	4年次 4年次	30回 30回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	森　　文秋	助教授	神経病態学 神経細胞生物学 分子病理学 分子生物学	3年次 3年次 3年次 3年次	15回 15回 15回 15回
05年度	若林　孝一	教授	病態神経科学実験実習	4年次	15回
	森　　文秋	助教授	神経病態学 神経細胞生物学 分子病理学 分子生物学	4年次 4年次 4年次 4年次	15回 15回 15回 15回

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	若林　孝一	教授	2日間	0 回
05年度	若林　孝一	教授	2回（4日間）	1回（2日間）

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
04年度	若林　孝一	教授	医の原則Ⅰ 医学英語Ⅱ 人体の病理と病態	95－100% 95－100% 95－100%
05年度	若林　孝一	教授	医の原則Ⅰ 人体の病理と病態	95－100% 95－100%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	若林　孝一	教授	医の原則Ⅰ 医学英語Ⅱ 人体の病理と病態	4.4 4.5 4.2
05年度	若林　孝一	教授	医の原則Ⅰ 人体の病理と病態	A：4.4，B：4.5 A：4.7，B：4.8

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
人体の病理と病態	4年次	3日	9コマ	4.7	4.6

39. 脳血管病態部門

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
100％

これから２年間の目標：
教育活動を積極的に実施する

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	佐藤　　敬	教授	テーマ科目 導入科目	健康		生活習慣と健康（B） 基礎ゼミナール	9 回 14回
	吉田　秀見	講師	テーマ科目	自然系基礎		生物学の基礎Ⅱ（A）	5 回
05年度	佐藤　　敬	教授	テーマ科目 導入科目	健康		生活習慣と健康（B） 基礎ゼミナール	9 回 14回
	吉田　秀見	講師	基礎教育科目	自然系基礎		生物学の基礎Ⅱ（A）	5 回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
04年度	吉田　秀見	講師	基礎教育科目	基礎科学実験（化学）	3 回
05年度	佐藤　　敬	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	3 回
	吉田　秀見	講師	基礎教育科目	基礎科学実験（化学）	3 回
	今泉　忠淳	助手	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	3 回

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	佐藤　　敬	教授	基礎人体科学演習 人体の構造と機能Ⅱ 医学英語 免疫学・遺伝子科学	1年次 2年次 2年次 3年次	28回 3 回 15回 1 回
	吉田　秀見	講師	チュートリアル	3年次	8 回
	今泉　忠淳	助手	チュートリアル	3年次	7 回
05年度	佐藤　　敬	教授	基礎人体科学演習 医学英語Ⅱ 免疫学・遺伝子科学	1年 2年 3年	28回 15回 1 回
	吉田　秀見	講師	チュートリアル教育	3年	7 回
	今泉　忠淳	助手	チュートリアル教育	3年	6 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	佐藤　　敬	教授	循環生理学	2年	15回
			血管生物学	2年	15回
			細胞生物学	2年	15回
			循環生理学	3年	15回
			血管生物学	3年	15回
			分子生物学	3年	15回
			病態生理学	3年	15回
	吉田　秀見	講師	病態生理学	2年	15回
05年度	佐藤　　敬	教授	循環生理学	3年	15回
			血管生物学	3年	15回
			分子生物学	3年	15回
			病態生理学	3年	15回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	佐藤　　敬	教授	細胞生物学	2年	15回
			病態生理学	2年	15回
	吉田　秀見	講師	循環生理学	2年	15回
			血管生物学	2年	15回
			循環生理学	3年	15回
			血管生物学	3年	15回
			分子生物学	3年	15回
			病態生理学	3年	15回
05年度	吉田　秀見	講師	循環生理学	3年	15回
			血管生物学	3年	15回
			分子生物学	3年	15回
			病態生理学	3年	15回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	佐藤　　敬	教授	Muscular atrophy in the hemiplegic thigh in patients after stroke（目時典文）
05年度	佐藤　　敬 今泉　忠淳	教授 助手	Effect of hypoxia on the expression of fractalkine in human endothelial cells.

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
04年度	吉田　秀見	講師	化学物質安全管理説明会（H16. 12. 16）
	今泉　忠淳	助手	クリニカルクラークシップ FD
05年度	佐藤　　敬	教授	第一回地域医療教育 FD（講師：松岡史彦客員教授　2006.2.3） 第三回地域医療教育 FD（講師：八森 淳（財）地域医療研修セ副セ長　2006.3.30）
	吉田　秀見	講師	第一回地域医療教育 FD（講師：松岡史彦客員教授　2006.2.3） 第三回地域医療教育 FD（講師：八森 淳（財）地域医療研修セ副セ長　2006.3.30）
	今泉　忠淳	助手	第一回地域医療教育 FD（講師：松岡史彦客員教授　2006.2.3） 第三回地域医療教育 FD（講師：八森 淳（財）地域医療研修セ副セ長　2006.3.30）

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	佐藤　敬	教授		国際交流科目　免疫学・遺伝子科学	3 回

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	佐藤　敬	教授	基礎人体科学演習 人体の構造と機能Ⅱ 医学英語 免疫学・遺伝子科学	96％ 80％ 67％ 75％
	吉田　秀見	講師	生物学の基礎Ⅱ（A） 基礎科学実験（化学） チュートリアル	97％ 100％
	今泉　忠淳	助手	チュートリアル	98％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	佐藤　敬	教授	人体の構造と機能Ⅱ 医学英語 免疫学・遺伝子科学	3.9 4.1 3.6
	吉田　秀見	講師	チュートリアル	
	今泉　忠淳	助手	チュートリアル チュートリアル	前期　3.75 後期　3.37
05年度	佐藤　敬	教授	生活習慣と健康（B） 医学英語Ⅱ 免疫学・遺伝子科学	4.09 4.2 3.6

2）専門教育の評価　該当なし。

40. 機能回復部門

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
学部学生への基礎研究，大学院生への神経の電気生理学ついて実習，セミナー等により，その実際を提示できた。

これから２年間の目標：
今後も，学部学生には神経科学研究のおもしろさ，大学院へは電気生理学を含む機能解析の実際を提供し，理解を高めることを目標とする。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	上野　伸哉	教授			導入	基礎ゼミナール	16回
	早狩　　誠	助教授			健康	薬と健康（B）	4 回
05年度	上野　伸哉	教授			導入	基礎ゼミナール	15回
	早狩　　誠	助教授				薬と健康（B）	2 回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
05年度	上野　伸哉	教授		生物学実習	3 回

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	上野　伸哉	教授	基礎人体演習 チュートリアル	第1学年 第3学年	32回 4 回
	早狩　　誠	助教授	代謝と栄養 チュートリアル	第2学年 第3学年	4 回 4 回
05年度	上野　伸哉	教授	基礎人体演習 医学英語Ⅱ チュートリアル	第1学年 第2学年 第3学年	30回 15回 8 回
	早狩　　誠	助教授	治療の薬理学的基礎 チュートリアル	第3学年 第3学年	4 回 8 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	早狩　　誠	助教授	代謝と栄養実習	第2学年	10回

3）臨床実習　　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	上野　伸哉	教授	最新医学の動向	1－2年	1 回
05年度	上野　伸哉	教授	医学研究概論	大学院1－2年	2 回
	早狩　　誠	助教授	医学研究概論	大学院1－2年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	上野　伸哉	教授	脳スライスパッチ法	大学院1年	1 回

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　　目　　名	出席率
04年度	早狩　　誠	助教授	代謝と栄養	85％
05年度	早狩　　誠	助教授	治療の薬理学的基礎	85％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　　目　　名	評　　価
04年度	早狩　　誠	助教授	代謝と栄養	4.0
05年度	上野　伸哉	教授	医学英語Ⅱ	3.6
	早狩　　誠	助教授	治療の薬理学的基礎	4.0

2）専門教育の評価　　該当なし。

41. 神経統御部門

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
前回は赴任前で設定していない。

これから２年間の目標：
全国標準レベルの卒前，卒後，生涯教育システムを確立し，弘前大学医学部神経内科としての発展の基盤を形成する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	馬場　正之	助教授			最新医学の現状 芸術実技	神経病 音楽実技	2 回 20回
05年度	馬場　正之	助教授			最新医学の現状 芸術実技	神経病 音楽実技	2 回 20回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
04年度	馬場　正之	助教授		基礎ゼミナール	12回
05年度	馬場　正之	助教授		基礎ゼミナール	12回

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	馬場　正之	助教授	系統別・脳神経系（神経内科学）	4年	12回
05年度	馬場　正之	助教授	系統別・脳神経系（神経内科学）	4年	12回
	冨山　誠彦	助手	臨床神経学	4年	3 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	馬場　正之	助教授	基礎人体科学演習	1年	24回
05年度	馬場　正之	助教授	基礎人体科学演習	1年	24回

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	馬場　正之	助教授	5年，6年	外来50回，病棟40回
05年度	東海林幹夫	教授	5年，6年	外来16回，病棟 6 回
	馬場　正之	助教授	5年，6年	外来50回，病棟40回
	冨山　誠彦	助手	臨床神経学	40回

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
05年度	神成　一哉	講師
	冨山　誠彦	助手

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	馬場　正之	助教授	臨床神経生理学解析法	3年，4年	20回
05年度	馬場　正之	助教授	臨床神経生理学解析法	4年	20回
	冨山　誠彦	助手	大学院講義	1－2年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	馬場　正之	助教授	脳磁場・神経電図解析	3年，4年	30回
05年度	馬場　正之	助教授	脳磁場・神経電図解析	4年	30回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	馬場　正之	助教授	聴覚誘発脳磁界の研究
05年度	馬場　正之	助教授	潜在性腓骨神経障害の研究

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	2 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	馬場　正之	非常勤講師	4年	臨床神経生理学（筋電図）	7 回
05年度	馬場　正之	非常勤講師	4年	臨床神経生理学（筋電図）	7 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
05年度	東海林幹夫	助教授	岡山大学大学院 4年生系統講義，5	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	馬場　正之	助教授	系統別・脳神経系（神経内科学）	85％
05年度	馬場　正之	助教授	系統別・脳神経系（神経内科学）	85％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	馬場　正之	助教授	系統別・脳神経系（神経内科学）	3.9
05年度	馬場　正之	教授	系統別・脳神経系（神経内科学） 21世紀教育　音楽実技	4.1 4.8

2）専門教育の評価　該当なし。

42. 細胞工学部門　（客員部門のため資料なし）

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

2）実習

【学部教育】

1）講義

2）基礎実習

3）臨床実習

4）ＯＳＣＥ

【研究室研修】

【大学院】

1）講義

2）実習

3）学位論文

【ファカルティ・ディベロップメント】

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	
05年度	

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	
05年度	

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

【他大学・他施設における講義】

【学生授業出席率】

【学生による授業評価】

1）授業評価

2）専門教育の評価

43. 附属動物実験施設

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

前回目標は“動物実験初心者に対する知識・技術の向上，施設職員の知識向上を行う”であるが，動物実験初心者に対する知識･技術の向上はまだ不十分である。施設職員の知識向上はかなり達成されており，全体として約６割の達成率である。

これから２年間の目標：

動愛法の改正を機に今年度関連省庁から各種法令の改正，学術会議による適正な動物実験のガイドラインの制定，文科省から研究機関長への適正な動物実験に関する基本指針が告示された。これに対して機関の長は動物委員会の設置，機関内規定の策定，教育訓練の実施，自己点検・評価，情報公開などに対応する必要がある。動物実験施設としては教育訓練等の実施に関してかなりの部分で協力できると思われる。これまで蓄積された施設職員の知識・技術をいかして動物実験実施者に必要な基礎知識の習得に可能な範囲内で協力したい。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義　該当なし。

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
04年度	八木澤　誠	助教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	3 回
05年度	八木澤　誠	助教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	3 回

【学部教育】

1）講義　該当なし。

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	八木澤　誠	助教授	3年	家畜福祉衛生学	15回
	石田　邦夫	助手	4年	実験動物学	3 回
05年度	八木澤　誠	助教授	3年	家畜福祉衛生学	15回

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	八木澤　誠	助教授	基礎科学実験 家畜福祉衛生学	100% 80%
	石田　邦夫	助手	実験動物学	100%
05年度	八木澤　誠	助教授	基礎科学実験 家畜福祉衛生学	100% 80%

【学生による授業評価】

1）授業評価　該当なし。

2）専門教育の評価　該当なし。

【その他】

1）動物実験施設利用者講習会

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数
04年度	八木澤　誠 石田　邦夫	助教授 助手	教員，技術職員，大学院生	動物実験施設をはじめて利用する教職員，大学院生を対象に行なう	12回
05年度	八木澤　誠 石田　邦夫	助教授 助手	教員，技術職員，大学院生	動物実験施設をはじめて利用する教職員，大学院生	10回

44. 附属高度先進医学研究センター

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：
- 大学院教育において，講義を可能なかぎり担当する.
- 研究室研修の学部生や大学院生の研究活動を積極的にサポートする。
- 他研究室の大学院生とも積極的に共同研究を進める。
- チュートリアル等の学部学生の講義も可能な限り担当する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義　該当なし。

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】　該当なし。

【学生による授業評価】

1）授業評価　該当なし。

2）専門教育の評価　該当なし。

45. 小児外科

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

１）系統別講義では学生が理解できるように種々の工夫を行った。その結果，学生の出席率も良く，授業評価も概ね良好であった。

２）外科特論は少ない時間数の割に内容が多いため，学生が理解しやすいように講義内容の更なる見直しが必要と思われた。

３）臨床実習の評価は少ない教員にもかかわらず極めて良好であった。

これから２年間の目標：

１）専門教育において，講義，実習を可能な限り担当する。

２）講義内容には常に最近の話題を加え，学生が理解しやすい簡潔な教育を目指したい。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

１）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	棟方　博文	教授	21世紀教育	テーマ科目	健　康 人　間	発達と老化 人間の尊厳	1 回 3 回
	須貝　道博	講師	21世紀教育	テーマ科目		最新医学の現状	1 回
05年度	棟方　博文	教授	21世紀教育	テーマ科目	健　康 人　間	発達と老化 人間の尊厳	1 回 3 回

２）実習　　該当なし。

【学部教育】

１）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	棟方　博文	教授	医学概論 系統別講義（成長発達系） 系統別講義（成長発達系）	1年 4年 5年	1 回 10回 10回
	須貝　道博	講師	外科特論	4年	2 回
05年度	棟方　博文	教授	医の原則Ⅰ 系統別講義（成長発達系）	1年 4年	1 回 10回
	須貝　道博	講師	外科学総論	4年	2 回

２）基礎実習　　該当なし。

３）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	棟方　博文	教授	5年・6年	18回
	須貝　道博	講師	5年・6年	18回
05年度	棟方　博文	教授	5年・6年	18回
	須貝　道博	講師	5年・6年	18回

４）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	棟方　博文	教授
05年度	棟方　博文	教授

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　称　等
05年度	棟方　博文	教授	2 回

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
05年度	棟方　博文	教授	3 回	3 回（青森県立保健大学）

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	棟方　博文	教授	医学概論（医の原則Ⅰ） 系統別講義（成長発達系） 系統別講義（成長発達系）	98% 95% 95%
	須貝　道博	講師	外科学総論	60%
05年度	棟方　博文	教授	医の原則Ⅰ 系統別講義（成長発達系）	98% 95%
	須貝　道博	講師	外科学総論	70%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	棟方　博文	教授	医学概論（医の原則Ⅰ） 系統別講義（成長発達系） 系統別講義（成長発達系）	(A)4.1，(B)4.0 (A)3.9，(A)4.0 (A)4.3，(B)4.3
	須貝　道博	講師	外科学総論	(A)3.7，(B)3.7
05年度	棟方　博文	教授	医の原則Ⅰ 系統別講義（成長発達系）	(A)4.1，(B)4.0 (A)3.9，(B)4.0
	須貝　道博	講師	外科学総論	(A)3.6，(B)3.7

2）専門教育の評価　2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5～6年	36日	18	4.3	4.3

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5～6年	36日	18	4.7	4.6

46. 薬剤部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

医学部医学科および保健学科学生の教育，大学院学生の教育，SGT における学生の教育，共通教育講義，薬学部（薬科大学）学生の講義および実務実習，県立保健大学の学生の教育に新たな学問の進歩を導入し，教育の充実を図る。とともに，学会の委員として，わが国でのさらなる教育の発展に努める。

これから２年間の目標：

医学部医学科および保健学科学生の教育，大学院学生の教育，SGT における学生の教育，共通教育講義，薬学部（薬科大学生）学生の講義および実務実習に新たな学問の進歩を導入し，教育の充実を図る。また，学会の委員として，わが国でのさらなる教育の発展に努める。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	菅原　和信	教授	教養	健康	薬と健康	薬害事件・薬物有害反応	2 回
05年度	菅原　和信	教授	教養	健康	薬と健康 A	薬害事件・薬物有害反応	2 回

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	菅原　和信	教授	治療の薬理学的基礎 臨床薬理学 チュートリアル教育	4年 4年 3年	4 回 2 回 2 回
05年度	菅原　和信	教授	医学概論 チュートリアル教育	3年 3年	

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	菅原　和信	教授	5年～6年	16回
05年度	菅原　和信	教授	5年	38回
			1年	24回

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	菅原　和信	教授	物質環境医療学	1年	2 回

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	菅原　和信	教授	保健学科看護学1年	環境と健康Ⅱ	15回
05年度	菅原　和信	教授	看護学1年	薬理学	15回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	菅原　和信	教授	12回	12回
05年度	菅原　和信	教授	18回	18回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	菅原　和信	教授	薬害事件・薬物有害反応 治療の薬理学的基礎 臨床薬理学 チュートリアル教育	90% 60～70% 90% 100%
05年度	菅原　和信	教授	医学概論 チュートリアル教育	50% 100%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	菅原　和信	教授	治療の薬理学的基礎 臨床薬理学	(A) 3.8　(B) 3.7 (A) 3.6　(B) 3.6

2）専門教育の評価　該当なし。

47. 手術部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
ほぼ到達できた。

これから２年間の目標：
手術部における安全推進の考え方を啓蒙する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
05年度	坂井　哲博	助教授	テーマ科目	健康領域	最新医学の現状	緩和医療	1 回

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	坂井　哲博	助教授	麻酔科学	2学年	3 回
05年度	坂井　哲博	助教授	妊産婦，小児，高齢者の周術期管理	3学年	1 回

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	坂井　哲博	助教授	3学年	12回
05年度	坂井　哲博	助教授	4学年	10回

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	坂井　哲博	助教授
05年度	坂井　哲博	助教授

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
04年度	坂井　哲博	助教授	麻酔薬による遺伝子誘導

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	坂井　哲博	助教授	麻酔科学	90%
05年度	坂井　哲博	助教授	妊産婦，小児，高齢者の周術期管理	95%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	坂井　哲博	助教授	麻酔科学	4.2
05年度	坂井　哲博	助教授	妊産婦，小児，高齢者の周術期管理	4.0

2）専門教育の評価　該当なし。

48. 検査部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
概ね達成できた

これから２年間の目標：
学生の評価が３点以上になるようにする。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	杉本　一博	講師	代謝性・胆肝疾患	4年生	1 回
05年度	杉本　一博	講師	代謝性・胆肝疾患	4年生	1 回

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	杉本　一博	講師	6年生 1年生	54回 11回
05年度	杉本　一博	講師	5－6年生 1年生	54回 11回

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】　該当なし。

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	杉本　一博	講師	代謝性・胆肝疾患	3.3
05年度	杉本　一博	講師	代謝性・胆肝疾患	3.5

2）専門教育の評価　該当なし。

49. 放射線部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：
保健学科学生に対する院内実習をきめ細かく行なう。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

【学部教育】　該当なし。

1）講義　該当なし。

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】　該当なし。

【学生による授業評価】

1）授業評価　該当なし。

2）専門教育の評価　該当なし。

50. 輸血部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	木村あさの	講師	「輸血の感染症」「輸血治療」	医学科5年	90分×2回

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	木村あさの	講師	医学科5年	16日×8時間

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	田中　一人	主任臨床検査技師	保健学科	輸血学	7日×8時間

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】　該当なし。

【学生による授業評価】

1）授業評価　該当なし。

2）専門教育の評価　該当なし。

51. 集中治療部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
ほぼ到達した。

これから２年間の目標：
学生からの反応を大切にして講義に反映させる。
医学生の講義，臨床実習において，できるだけ分かりやすく教える。
臨床実習では，学生が自発的に参加，勉強できるよう実習内容を検討する。
卒後まで良いコミュニケーションをとれる教員－学生関係を構築できるよう努力する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	坪　　敏仁	講師	テーマ科目	健康	運動の科学		2 回
05年度	坪　　敏仁	助教授		健康と科学	中毒・機械補助		2 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	坪　　敏仁	講師	麻酔・蘇生系	4－5年生	4 回
	大川　浩文	助手	麻酔・蘇生系	4－5年生	4 回
05年度	坪　　敏仁	助教授	麻酔蘇生系	4年生	2 回
	橋場　英二	助手	麻酔蘇生系	4年生	1 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	坪　　敏仁	講師	5－6年生	1年間
	大川　浩文	助手	5－6年生	1年間
05年度	橋場　英二	助手	5－6年生	96回

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　　導　　者　　名
04年度	2名	坪　　敏仁

【大学院】

1）講義　　該当なし。

2）実習　　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　　導　　論　　文　　名
04年度	坪　　敏仁	講師	経食道エコーにおける胸水の観察

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	坪　敏仁	講師	麻酔・蘇生系	約95％
	大川　浩文	助手	麻酔・蘇生系	約95％
05年度	坪　敏仁	助教授	麻酔蘇生系	80％
	橋場　英二	助手	麻酔蘇生系	約98％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	坪　敏仁	講師	麻酔蘇生系	平均2.9
	大川　浩文	助手	麻酔蘇生系	平均4.4
05年度	坪　敏仁	助教授	麻酔蘇生系	3.2
	橋場　英二	助手	麻酔蘇生系	3.4

2）専門教育の評価　該当なし。

52. 周産母子センター

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
系統講義, 臨床実習での学生指導は十分できているが, 21 世紀講義, OSCE, 大学院に関連した教育が手薄であったことから, 到達度70% と判断する。

これから２年間の目標：
引き続きアップデートな情報やテクニックを，臨床実習・臨床講義でよりわかりやすく伝えていくとともに，周産期医学研究面のおもしろさも広めていきたい。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義　該当なし。

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
05年度	佐藤　　工	講師		新生児学	4 回

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	尾崎　浩士	助教授	産科学	4 ／ 5年	11回
	佐藤　　工	講師	新生児疾患Ⅰ，Ⅱ	3 ／ 4年	4 回
05年度	尾崎　浩士	助教授	系統別講義　生殖系	4年	6 回
	田中　幹二	助手	系統別講義　生殖系	4年	6 回

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	尾崎　浩士	助教授	5 ／ 6年	40週
	佐藤　　工	講師	5 ／ 6年	20週
	田中　幹二	助手	5 ／ 6年	40週
05年度	尾崎　浩士	助教授	5 ／ 6年	40週
	佐藤　　工	講師	5 ／ 6年	20週
	田中　幹二	助手	5 ／ 6年	40週

4）ＯＳＣＥ

	担当者名	職名
04年度	田中　幹二	助手

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	尾崎　浩士	助教授	産科学	50%
	佐藤　　工	講師	新生児疾患Ⅰ，Ⅱ	85%
05年度	尾崎　浩士	助教授	系統別講義　生殖系	60%
	田中　幹二	助手	系統別講義　生殖系	70%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	尾崎　浩士	助教授	産科学	前期4.6 後期4.1
	佐藤　　工	講師	新生児疾患Ⅰ，Ⅱ	B
05年度	尾崎　浩士	助教授	系統別講義　生殖系	4.1
	田中　幹二	助手	系統別講義　生殖系	4.1

2）専門教育の評価　該当なし。

53. 病理部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

卒前，卒後教育への参画は十分できた。

卒前における学生の臨床実習に病理部は十分参画できなかった。

学生実習において標本，迅速診断などを通して病理部の重要性を十分認識させることができた。

卒後研修医の指導と大学院生の研究指導は十分実行でき，特に指導した学位論文は審査を通り目標は達成された。

これから２年間の目標：

共通教育，卒前，卒後教育への参加を積極的に行う。

卒前における学生の臨床実習に病理部のさらなる参画を試みる。

学生実習における病理部の重要性を標本，迅速診断などで認識させる。

卒後研修医の指導や大学院生などの研究指導をさらに充実させる。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	鎌田　義正	助教授	基礎教育科目	自然系基礎	生物学の基礎	生物学の基礎 II	5 回
05年度	鎌田　義正	助教授	基礎教育科目	自然系基礎	生物学の基礎	生物学の基礎 II	5 回

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	鎌田　義正	助教授	人体の病理と病態	4年次	3 回
05年度	鎌田　義正	助教授	人体の病理と病態	4年次	3 回

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	鎌田　義正	助教授	人体の病理と病態	4年次	3 回
05年度	鎌田　義正	助教授	人体の病理と病態	4年次	3 回

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】

	受　入　人　数	指　導　者　名
04年度	1名	鎌田　義正
05年度	1名	鎌田　義正

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
05年度	鎌田　義正	助教授	Small adenocarcinoma of the lung: Prognostic significance of central fibrosis chiefly because of its association with angiogenesis and lymphangiogenesis

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	1 名
05年度	1 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	1 名
05年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	鎌田　義正	助教授	衛生技術学科3年	病理部臨地実習	4 ヶ月
05年度	鎌田　義正	助教授	衛生技術学科3年	病理部臨地実習	4 ヶ月

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	鎌田　義正	助教授	人体の病理と病態	97％
05年度	鎌田　義正	助教授	人体の病理と病態	96％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	鎌田　義正	助教授	人体の病理と病態	4.0
05年度	鎌田　義正	助教授	人体の病理と病態	4.2

2）専門教育の評価　該当なし。

54. 医療情報部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

（羽　田）新カリキュラム「医療管理学」の分担責任を果たす，に対する到達度は50％程度と考える。

（佐々木）消化管画像検査の原理と読影の理解を深める目標に対し，学生の理解の度合いは，十分とは言い難く，達成度は20％程度と考えられる。

これから２年間の目標：

（羽　田）「医療管理学」（病院管理学）の内容を充実させる。

（佐々木）引き続き，消化管画像検査の原理と読影の理解を深めるよう努力する。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	羽田　隆吉	教授	医療管理学	4年次	8 回
05年度	羽田　隆吉	教授	医療管理学	4年次	8 回

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
05年度	佐々木賀広	助教授	5年次	20回

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	船水　亮平	実験助手 技能補佐員	大学院遠隔講義支援		30回

2）実習　該当なし。

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
05年度	羽田　隆吉	教授	Early prediction of gait ability in patients with hip fracture
	佐々木賀広	助教授	TYPE IV COLLAGEN AND MICROVESSEL IN INVASIVE EDGE OF HUMAN COLONIC CARCINOMA WITH OR WITHOUT METASTASIS

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	羽田　隆吉	教授	3年次	保健学科　コンピュータ概論	3 回
05年度	羽田　隆吉	教授	3年次	保健学科　コンピュータ概論 （医療情報システム）	3 回
	佐々木賀広	助教授	3年次	保健学科　コンピュータ概論（医用画像）	2 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	羽田　隆吉	教授	15回	15回（国立弘前病院附属看護学校『臨床英語』）
05年度	羽田　隆吉	教授	15回	15回（国立弘前病院附属看護学校　2年次『臨床英語』）

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	羽田　隆吉	教授	医療管理学	50％（未満）
05年度	羽田　隆吉	教授	医療管理学	60～70％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	羽田　隆吉	教授	医療管理学	A-3.9　B-3.8
05年度	羽田　隆吉	教授	医療管理学	4.2(A)，4.1(B)

2）専門教育の評価

該当なし。

55. 光学医療診療部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
80％の到達である。

これから２年間の目標：
自己免疫，腸管免疫，感染防御について physiology と病態，治療を関連付けた内容にする。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	佐々木賀広	助教授	テーマ	情報	情報の伝達	情報の伝達（B）	2 回
					科学・技術の最前線	科学・技術の最前線（D）	3 回
05年度	棟方　昭博	教授	テーマ	健康	最新医学の現状	消化器疾患の最前線と癌の科学	1 回
	石黒　　陽	助教授	21世紀教育	テーマ科目	最新医学の現状（A）	消化管疾患の診断	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	棟方　昭博	教授	系統別講義（消化器系）	3年	2 回
	石黒　　陽	助教授	系統別講義（免疫系）	4年	4 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	佐々木賀広	助教授	5年	5 回
05年度	棟方　昭博	教授	5～6年	18回
	石黒　　陽	助教授	5年	18回

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	棟方　昭博	教授	内科学総論	1～5年	15回
	石黒　　陽	講師	大学院共通科目遺伝発生学セミナー	大学院1－2年	1 回

2）実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	棟方　昭博	教授	消化器病理・病態修復学	3～4年	15回

3）学位論文

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
05年度	棟方　昭博	教授	大腸癌先進部と正常組織境界における微少血管変数および Type Ⅳ collagen の発現（平賀典子）
			独特の Th1/Th2- プロファイルによりクローン病と潰瘍性大腸炎は制御される（伊東重豪）

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	佐々木賀広	助教授	2年	コンピューター概論	2 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
05年度	棟方　昭博	教授	1回	0回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
05年度	棟方　昭博	教授	消化器病学	70％
	石黒　　陽	助教授	免疫・感染症系	50％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
05年度	棟方　昭博	教授	系統別講義（消化器系）	（A）3.8（B）3.8
	石黒　　陽	助教授	免疫・感染症系	A4.3, B4.4

2）専門教育の評価　該当なし。

56. リハビリテーション部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
リハビリテーション部としての教育実績に関する詳細は前任教官近藤，細川両名の退職に伴い不詳。

これから２年間の目標：
医学部医学科および保健学科の学生教育とあわせ，理学・作業療法士の卒後教育を充実させる。

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	近藤　和泉	助教授	21世紀教育	健康	障害者の健康	障害者の健康（C）	5 回
					発達と老化	発達と老化（A)-2	1 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	近藤　和泉	助教授	系統別講義（運動器系）	5年	3 回
			系統別講義（機能回復）	4年	4 回
	細川賀乃子	助手講師	系統講義（機能回復）	4年	1 回
05年度	中村　吉秀	助手	整形外科	5年	3 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	近藤　和泉	助教授	5・6年	18回
			6年	クリニカルクラークシップ（4週間）
05年度	中村　吉秀	助手	5・6年	18回

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義　　該当なし。

2）実習　　該当なし。

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
04年度	近藤　和泉	助教授	クリニカルクラークシップ FD 特別講習会（05/2/5）

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	近藤　和泉	助教授	系統別講義（機能回復）	99％
	細川賀乃子	助手	系統別講義（機能回復）	99％
05年度	中村　吉秀	助手	整形外科	90％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	近藤　和泉	助教授	系統別講義（機能回復）	4.2
	細川賀乃子	助手	系統別講義（機能回復）	4.2
05年度	中村　吉秀	助手	整形外科	4.0

2）専門教育の評価

2004年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
リハビリテーション部	5・6年	1日	18	4.6	4.6

2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
前任教員2名の退職に伴い不詳					

57. 総合診療部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

Pre SGT の充実　90％（教科としての体裁を整え，OSCE，SGT へのスムーズな連携を図った）

卒後研修の充実　85％（研修に関する各種行事の充実に努力した）

これから２年間の目標：

外来教育の充実

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	大沢　　弘	講師	基礎教育		健康	生活習慣と健康（A）	3 回
05年度	加藤　博之	教授				人間の尊厳（C）	3 回
	大沢　　弘	講師				生活習慣と健康	3 回

2）実習　　該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	加藤　博之	教授	Pre SGT	5年生	11回
			内科症候学	3年生	4 回
			国試対策セミナー	6年生	1 回
	大沢　　弘	講師	系統別講義腎泌尿器系	5年生	5 回
			系統別講義腎泌尿器系	4年生	5 回
			Pre SGT	5年生	14回
05年度	加藤　博之	教授	内科症候学	3年次	5 回
			Pre SGT	4年次	15回
			Pre SGT	5年次	13回
			POS 病態生理演習	6年次	6 回
			特別教育「プライマリ・ケア診療－救急外来で見逃しやすい疾患Ⅰ」	6年次	1 回
	大沢　　弘	講師	系統別講義腎泌尿器系	4年次	5 回
			Pre SGT	4年次	9 回
			Pre SGT	5年次	7 回
			国試対策セミナー	6年次	1 回

2）基礎実習　　該当なし。

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	加藤　博之	教授	5年生	14回
	大沢　　弘	講師	6年生	5 回
05年度	加藤　博之	教授	5年次	18回
			6年次	2回（SGT）
			6年次	2回（クリニカル・クラークシップ）
	大沢　　弘	講師	5年次	18回
			6年次	2回（クリニカル・クラークシップ）

4）OSCE

	担当者名	職名
04年度	加藤　博之 （平成16年9月4日施行，5年次対象）	教授
	大沢　　弘 （平成16年9月4日施行，5年次対象）	講師
05年度	加藤　博之 （平成17年5月21日施行，5年次対象）	教授
	加藤　博之 （平成18年2月11日施行，4年次対象）	
	大沢　　弘 （平成17年5月21日施行，5年次対象）	講師
	大沢　　弘 （平成18年2月11日施行，4年次対象）	

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
04年度	加藤　博之	教授	学務委員会教育 FD 特別講演
			弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修教育ワークショップ
	大沢　　弘	講師	弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修教育ワークショップ
05年度	加藤　博之	教授	地域医療支援センター主催　地域医療教育 FD（3回参加）
	大沢　　弘	講師	地域医療支援センター主催　地域医療教育 FD（3回参加）

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
04年度	加藤　博之	教授	1回	0回
05年度	加藤　博之	教授	1回	0回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	加藤　博之	教授	内科症候学	85%
	大沢　　弘	講師	系統別講義　腎泌尿器系（5年生前期）	70%
			系統別講義　腎泌尿器系（4年生後期）	70%
05年度	加藤　博之	教授	内科症候学	70%
	大沢　　弘	講師	系統別講義腎泌尿器系	65%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	加藤　博之	教授	内科症候学（3年生後期）	A:4.3　B:4.3
	大沢　　弘	講師	系統別講義　腎尿路系（5年生前期）	A:3.9　B:3.9
			系統別講義　腎尿路系（4年生後期）	A:4.2　B:4.2
05年度	加藤　博之	教授	内科症候学	A:4.6　B:4.5
	大沢　　弘	講師	系統別講義腎泌尿器系	A:4.1　B:4.1

2）専門教育の評価　2005年度

授　業　科　目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習（SGT）	5年次	54	180	4.5	4.1

58. 治験管理センター

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	大久保　正	助教授			21世紀教育テーマ科目	薬と健康（A）	2 回

2）実習　該当なし。

【学部教育】

1）講義　該当なし。

2）基礎実習　該当なし。

3）臨床実習　該当なし。

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】　該当なし。

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】　該当なし。

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	大久保　正	助教授	21世紀教育テーマ科目薬と健康	90％

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	大久保　正	助教授	21世紀教育テーマ科目薬と健康	良

2）専門教育の評価　該当なし。

59. メディカルスクール研究センター

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
04年度	松谷　秀哉	講師	テーマ科目	情報		情報ネットワーク	14回
						情報の伝達	2 回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
04年度	松谷　秀哉	講師	自然系基礎	基礎科学実験（物理）	81回
			技能系科目	情報処理（演習）	14回

【学部教育】

1）講義　該当なし。

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
04年度	松谷　秀哉	講師	人体の構造と機能 II（生理学実習）	2年	12回

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
04年度	松谷　秀哉	講師	6年生	18回

4）ＯＳＣＥ　該当なし。

【研究室研修】　該当なし。

【大学院】

1）講義　該当なし。

2）実習　該当なし。

3）学位論文　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
04年度	松谷　秀哉	講師	教養教育と高校教育との接点
			教育評価と教育内容・方法の改善

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
04年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
04年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
04年度	松谷　秀哉	講師	3年	コンピュータ概論演習	12回

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
04年度	松谷　秀哉	講師	情報ネットワーク	80%
			情報処理（演習）	80%
			基礎科学実験（物理）	100%
			コンピュータ概論演習	70%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
04年度	松谷　秀哉	講師	情報ネットワーク	4.2
			情報処理（演習）	4.2
			基礎科学実験（物理）	3.8
			コンピュータ概論演習	3.8

2）専門教育の評価　該当なし。

60. 医学教育センター

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：
「特色ある大学教育支援プログラム」の採択への取り組み

（1）教　育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区　分	領　域	授業主題	授業科目名	回　数 又は期間
05年度	松谷　秀哉	講師	テーマ科目	情報		情報ネットワーク	15回

2）実習

	担当者名	職名	区　分	授　業　科　目　名	回　数 又は期間
05年度	松谷　秀哉	講師	自然系基礎	基礎科学実験（物理）	81回
			技能系科目	情報処理（演習）	15回

【学部教育】

1）講義　　該当なし。

2）基礎実習

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	回数又は期間
05年度	松谷　秀哉	講師	統合基礎医学実習Ａ（生理学実習）	2年	

3）臨床実習

	担当者名	職名	対　象　学　年	回数又は期間
05年度	松谷　秀哉	講師	6年	18回

4）ＯＳＣＥ　　該当なし。

【研究室研修】　　該当なし。

【大学院】

1）講義　　該当なし。

2）実習　　該当なし。

3）学位論文　　該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名　　称　　等
05年度	松谷　秀哉	講師	第1,2回　地域医療教育 FD

【医師の生涯教育】

1）研修登録医の人数

	研修登録医の人数
05年度	0 名

2）研究生の人数

	研究生の人数
05年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	回数又は期間
05年度	松谷　秀哉	講師	3年	コンピュータ概論演習	15回

【他大学・他施設における講義】　該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科　目　名	出席率
05年度	松谷　秀哉	講師	情報ネットワーク	80%
			情報処理（演習）	80%
			基礎科学実験（物理）	100%
			コンピュータ概論演習	80%

【学生による授業評価】

1）授業評価

	担当者名	職名	科　目　名	評　価
05年度	松谷　秀哉	講師	情報ネットワーク	4.1
			情報処理（演習）	3.9
			基礎科学実験（物理）	4.2

2）専門教育の評価　該当なし。

（別　表）

【医学部医学科学生について】

資料１　医学部前期・後期入学者の進級状況

	前　　期			後　　期		
入学年度	入学者数	留年数	退学者数	入学者数	留年数	退学者数
04年度	50	0	0	10	0	0
05年度	50	0	0	10	0	0

資料２　国際交流

国際交流として学部学生による外国の大学や施設での研修・実習，および海外からの学生の本学での研修が行われており，これらの活動については国際交流研究委員会が中心となって相手先との打合せや交流学生へ援助の決定などを行っている。一方，海外からの本学部への留学生については学務委員長を中心とする学務委員会が対応している。研究留学については研究科の項で言及する。

(1) 学部留学生

	留学生数	国　　籍	私費又は国費
04年度	10名	台湾1 中国7 韓国1 カナダ1	私　費
05年度	11名	台湾1 中国9 カナダ1	私　費

(2) 姉妹校などの交流

１）テネシー大学メンフィス校との学生交流

本医学部は1978年12月14日に米国テネシー州メンフィスにあるテネシー大学保健学科センターと国際交流協定を結んでいる。この協定により，訪問交流の促進，医学教育･研究の情報交換，両大学の共同研究プロジェクトの推進，医学情報等の交換，それに学生・研究生・レジデントなどの相互交流が行われている。５・６年目の学部学生から毎年１～２名がメンフィスに派遣され，有意義な研修を行っている。しかし最近メンフィスから本学に研修に訪れる学生がおらず，相互交流という点で十分とはいえないのが現状である。

	派　　遣		受　　入	
	学生数	期　　間	学生数	期　　間
04年度	2名	8／1～8／17	－	－
05年度	2名	8／1～8／12	－	－

２）極東総合医科大学との交流

1995年12月14日にロシア国ハバロフスク医科大学と本学との間に学術交流に関する合意書と研究者及び学生交流に関する覚書が取り交わされ，平成８年度から毎年２名の学生の相互研修を行ってきている。なお，ハバロフスク医科大学は極東総合医科大学と改称され，国際交流の合意書の更新が2000年（平成12年９月17日）に行われた。今後は特に問題の生じない限り自動的に更新されることになった。

	派　　遣		受　　入	
	学生数	期　　間	学生数	期　　間
04年度	－	－	－	－
05年度	－	－	－	－

３）三沢米軍病院におけるエクスターンシップ

米軍三沢基地病院（第35医療大隊）の協力を得て，弘前大学医学部専門課程３，４次学生（新カリキュラムでは医学部５，６年生に相当）を対象として同病院における学生の研修受け入れが行われており，平成７年度から１～２名派遣している。アメリカの医療の実態を見学すると共に，アメリカ人医師から直接学習できるよい機会となっている。

	派遣学生数	派　遣　期　間
04年度	4名	2名＝8／2～8／13，1名＝8／16～8／27，1名＝9／6～9／17
05年度	4名	2名＝7／19～29，2名＝8／8～19

医学部における学生の国際交流は全体として極めて活発とはいえないものの，これが現状で行える最大限ともいえる。その主な理由は国際間の大学における単位の相互互換ができないからである。第二に，カリキュラム日程の相違や，国際交流活動の主たる時期である夏季休業中に試験や東日本医科大学体育大会の組まれていることがあげられよう。第三に学生の意欲の問題である。積極的に海外に出かけ，海外の医学生がどのように勉強しているかに関心を寄せる学生がかつては少なかった。しかし，本学部における教育として医学英語に力を入れており，今後の国際交流が一層盛んになることを期待したい。

資料 3　日本学生支援機構奨学生

	学生数	奨学生数		計	比率
		第一種	第二種		
04年度	577	60	120	180	31.2%
05年度	582	42	144	186	31.9%

資料 4　平成 17 年度医学部（医学科）授業時間割

【平成15～17年度入学者】

［1～3年次］

［前　期］

曜日・学年 ＼ 時限		1・2 (8:40 ～ 10:10)	3・4 (10:20 ～ 11:50)	5・6 (12:40 ～ 14:10)	7・8 (14:20 ～ 15:50)	9・10 (16:00 ～ 17:30)
月	1		医の原則Ⅰ（コアA－1）	基礎人体科学演習		（基礎ゼミナール）
	2	個体の構成と機能（コアB－1）			統合基礎医学実習 A	
	3	研究室研修				
火	1	（英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）	（情報処理演習）	（基礎教育科目）	（基礎教育科目）	（基礎教育科目）
	2	（テーマ科目）	（テーマ科目）	基礎科学実験（物理・化学・生物）		
	3	治療の薬理学的基礎	人体の構造と機能Ⅰ実習			
水	1		（多言語Ⅰ）			
	2	（テーマ科目）	（テーマ科目）	臨床実地見学実習		
	3	人体の病理と病態	人体の構造と機能Ⅰ実習			
木	1	（英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）		（基礎教育科目）	（基礎教育科目）	（基礎教育科目）
	2	（テーマ科目）	（テーマ科目）	基礎科学実験（物理・化学・生物）		
	3	免疫学・遺伝子科学	人体の構造と機能Ⅰ実習			
金	1	（多言語Ⅰ）		（基礎教育科目）	（基礎教育科目）	（基礎教育科目）
	2	個体の構成と機能（コアB－1）			統合基礎医学実習 A	
	3	研究室研修		人体の構造と機能Ⅰ実習		

［後　期］

曜日・学年 ＼ 時限		1・2 (8:40 ～ 10:10)	3・4 (10:20 ～ 11:50)	5・6 (12:40 ～ 14:10)	7・8 (14:20 ～ 15:50)	9・10 (16:00 ～ 17:30)
月	1			基礎人体科学演習		医学英語 A 医学英語 B
	2	侵襲と生体応答（コアB－2）		人体解剖学実習		
	3	研究室研修				
火	1		（テーマ科目）	（テーマ科目）	（基礎教育科目）	（基礎教育科目）
	2		医学英語Ⅱ	人体解剖学実習／組織学実習		
	3	人体の病理と病態	治療の薬理学的基礎	系統別講義〔消化器系〕	系統別講義〔代謝内分泌系〕	
水	1	（英語Ⅱ）	（多言語Ⅱ）			
	2			人体解剖学実習		
	3	外科学総論／臨床総論	系統別講義〔循環器系〕	研究室研修		
木	1		（テーマ科目）	（テーマ科目）	（基礎教育科目）	（基礎教育科目）
	2		医用統計学 コンピュータ室	統合基礎医学実習 B		
	3	人体の病理と病態	感染と生体防御機構Ⅱ	治療の薬理学的基礎実習／感染と生体防御機構Ⅱ実習		
金	1	（多言語Ⅱ）	（英語Ⅱ）	（テーマ科目）	（テーマ科目）	（基礎教育科目）
	2	侵襲と生体応答（コアB－2）		医の原則Ⅱ（コアA－1）		
	3			系統別講義〔生殖系〕	系統別講義〔成長発達系〕	

【平成14年度入学者】

［4年次以上］

［前　期］

曜日・学年 ＼ 時限		1・2 （8:40 ～ 10:10）	3・4 （10:20 ～ 11:50）	5・6 （12:40 ～ 14:10）	7・8 （14:20 ～ 15:50）	9・10 （16:00 ～ 17:30）
月	4	系統別講義 〔呼吸器系〕	系統別講義 〔脳・神経系〕	人体の病理と病態実習		
	5	臨	床	実	習	
	6	臨	床	実	習	
火	4	系統別講義 〔生殖系〕	系統別講義 〔循環器系〕	医学英語 A 医学英語 B	系統別講義 〔血液系〕	系統別講義 〔代謝内分泌系〕
	5	臨	床	実	習	
	6	臨	床	実	習	
水	4	社会と医学 I	社会と医学 II	人体の病理と病態実習		
	5	臨	床	実	習	
	6	臨	床	実	習	
木	4	系統別講義 〔代謝内分泌系〕	系統別講義 〔呼吸器系〕	系統別講義 〔成長発達系〕	系統別講義 〔消化器系〕	系統別講義 〔血液系〕
	5	臨	床	実	習	
	6	臨	床	実	習	
金	4	系統別講義 〔成長発達系〕	系統別講義 〔消化器系〕	系統別講義 〔脳・神経系〕	系統別講義 〔循環器系〕	系統別講義 〔感覚器系〕
	5	臨	床	実	習	
	6	臨	床	実	習	

［後　期］

曜日・学年 ＼ 時限		1・2 （8:40 ～ 10:10）	3・4 （10:20 ～ 11:50）	5・6 （12:40 ～ 14:10）	7・8 （14:20 ～ 15:50）	9・10 （16:00 ～ 17:30）
月	4	系統別講義 〔精神系〕	系統別講義 〔放射線医学〕	系統別講義 〔運動器系〕	系統別講義 〔検査医学〕〔臨床薬理〕	系統別講義 〔感覚器系〕
	5	臨	床	実	習	
	6	総	合	試	験	
火	4	系統別講義 〔感覚器系〕	系統別講義 〔精神系〕	系統別講義 〔皮膚・結合織系 I〕	系統別講義 〔腎・泌尿器系〕	系統別講義 〔麻酔・蘇生系〕
	5	臨	床	実	習	
	6	総	合	試	験	
水	4	社会と医学 I	社会と医学 I	社会と医学 I・II 実習		
	5	臨	床	実	習	
	6	総	合	試	験	
木	4	内科診断学 医療管理学	系統別講義 〔歯口腔系〕〔救急医学〕	系統別講義 〔皮膚・結合織系 II〕	系統別講義 〔生殖系〕	系統別講義 〔麻酔・蘇生系〕
	5	臨	床	実	習	
	6	総	合	試	験	
金	4	系統別講義 〔免疫・感染症系〕	系統別講義 〔加齢医学〕〔機能回復〕	系統別講義 〔運動器系〕	系統別講義 〔腎・泌尿器系〕	系統別講義 〔免疫・感染症系〕
	5	臨	床	実	習	
	6	総	合	試	験	

資料5　専門教育科目及び単位配当表
【平成16・17年度入学者】

授業科目				単位	年次別単位数 1 前	1 後	2 前	2 後	3 前	3 後	4 前	4 後	5 前	5 後	前	後
専門基礎科目	医学英語Ⅰ			1		1										
	医学英語Ⅱ			1				1								
	医学英語Ⅲ			1							1					
	医用統計学			1				1								
	基礎人体科学演習			4	2	2										
	臨床医学入門実習			1	1											
	臨床実地見学実習			1			1									
専門科目	コア科目	基本事項	医の原則Ⅰ	1	1											
			医の原則Ⅱ	1				1								
			医療リスクマネージメント	1								1				
			チュートリアル	6					3	3						
	計			19	4	3	1	3	3	3	1	1				
	コアー科目	医学一般	個体の構成と機能	6			6									
			侵襲と生体応答	4				4								
			病理と病態	2					2							
		人体各器官の正常構造と機能病態診断治療	消化器と疾患	3						1	1	1				
			循環器と疾患	3						1	1	1				
			内分泌・代謝と疾患	3						1	1	1				
			血液（成人）と疾患	2						1	1					
			呼吸器と疾患	2							1	1				
			神経と疾患	2							1	1				
			腎・尿路，男性生殖器と疾患	2							1	1				
			妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	2							1	1				
			感覚器と疾患（眼科疾患・耳鼻科疾患）	2							1	1				
			精神と疾患	2							1	1				
			小児疾患・成長と発達	2							1	1				
			皮膚と疾患	1							1					
			運動器と疾患	1							1					
			顎口腔と疾患	1								1				
			応用病理	1							1					
			臨床検査	1								1				
			放射線診断	1							1					
			放射線治療	1								1				
			臨床薬理学	1								1				
			救急医学	1								1				
		全身におよぶ生理的変化，病態，診断，治療	侵襲と加齢Ⅰ	1					1							
			侵襲と加齢Ⅱ	2						2						
		診療の基本	症候・病態からのアプローチ	1					1							
			基本的診療知識	3					1		1	1				
			基本的診療技能	1								1				
		医学・医療と社会	健康医学	2							2					
			法と医療	1								1				
	発展科目		発展生命科学Ⅰ（脳科学）	2					2							
			発展生命科学Ⅱ	1					1							
			発展生命科学Ⅲ	1					1							
			発展臨床医学Ⅰ	1							1					
			発展臨床医学Ⅱ	1								1				
			発展臨床医学Ⅲ	1											1	
			発展現代医学Ⅰ	1							1					
			発展現代医学Ⅱ	1								1				
	実習科目		統合基礎医学実習A	4			4									
			統合基礎医学実習B	2				2								
			人体解剖学実習	6				6								
			組織学実習	1				1								
			病理学実習	2					1	1						
			脳解剖実習	2					2							
			社会医学実習	1											1	
			診療技能実習Ⅰ（前期OSCE）	1								1				
			診療技能実習Ⅱ（後期OSCE）	1											1	
			臨床実習Ⅰ	40									40			
			臨床実習Ⅱ（クリニカル・クラークシップ）	10											10	
	総合教育演習Ⅰ（CBT）			1								1				
	総合教育演習Ⅱ（総合試験）			1												1
	特別教育科目（研究室研修等）			3						3						
	計			141			10	13	12	10	20	22	40		13	1
合計				160	4	3	11	16	15	13	21	23	40		13	1

【平成15年度以前入学者】

授業科目				単位	年次別単位数 1 前	1 後	2 前	2 後	3 前	3 後	4 前	4 後	5 前	5 後	6 前	6 後
専門基礎科目	医学概論			2	1		1									
	医学英語			3		1	1				1					
	医用統計学			2				2								
	基礎人体科学演習			4	2	2										
	計			11	3	3	2	2			1					
専門科目	基礎医学科目	人体の構造と機能Ⅰ		2			1	1								
		同実習		8					8							
		人体の構造と機能Ⅱ		3			2	1								
		同実習		2				2								
		代謝と栄養		3			2	1								
		同実習		1				1								
		感染と生体防御機構Ⅰ		2			1	1								
		同実習		1				1								
		感染と生体防御機構Ⅱ		1						1						
		同実習		1						1						
		治療の薬理学的基礎		2					1	1						
		同実習		1						1						
		人体の病理と病態		3					1	2						
		同実習		3							3					
		社会と医学Ⅰ		3							1	2				
		同Ⅱ		1							1					
		同実習		2								2				
		免疫学・遺伝子科学		1					1							
	臨床医学科目	系統別講義	消化器系	3						1	2					
			代謝内分泌系	3						1	2					
			循環器系	3						1	2					
			呼吸器系	2							2					
			血液系	2							2					
			免疫・感染症系	2								2				
			生殖系	3						1	1	1				
			腎・泌尿器系	2								2				
			脳・神経系	2							2					
			精神系	2								2				
			感覚器系	3							1	2				
			運動器系	2								2				
			皮膚・結合織系	2								2				
			成長発達系	3						1	2					
			歯口腔系	1								1				
			検査医学	1								1				
			放射線医学	1								1				
			麻酔・蘇生系	2								2				
			加齢医学	1								1				
			機能回復	1								1				
			臨床薬理	1								1				
			救急医学	1								1				
		臨床医学入門実習		1	1											
		臨床実地見学実習		2	1	1										
		外科学総論		1						1						
		内科診断学		1								1				
		医療管理学		1								1				
		基本的診療技能実習		1								1				
		臨床総合演習		1											1	
		臨床実習		50									40		10	
	研究室研修			6					3	3						
	計			147	2	1	6	8	14	15	21	29	40		11	
合計				158	5	4	8	10	14	15	22	29	40		11	

（別表）大学院生について

資料1　領域別入学定員

領　　域	入学定員	収容定員
分子細胞科学	64名	256名
脳神経科学		
発生・分化再生科学		
器官病態科学		
健康科学		
計	64名	256名

資料2　学位授与数

	04年度	05年度
課程修了者（甲）	25名	28名
論文審査（乙）	6名	9名
計	31名	37名

資料3　入学状況

領域＼入学年		04年度	05年度	計
分子細胞科学	現　員	9名（2）	8名（4）〈1〉	17名（6）〈1〉
脳神経科学	現　員	5名（1）〈1〉	6名（2）〈1〉	11名（3）〈1〉
発生・分化再生科学	現　員	3名（1）	3名	6名（1）
器官病態科学	現　員	19名（5）〈2〉	20名（5）	39名（10）〈2〉
健康科学	現　員	3名（1）	1名	4名（1）
合　計	定　員	64名	64名	128名
	現　員	39名（10）〈3〉	38名（11）〈2〉	77名（11）〈5〉

※　現員数については，入学者数を記入した。（　）内数字女子，〈　〉内数字は外国人留学生で内数。

資料4　テーチングアシスタント及びリサーチアシスタント数

	ティーチングアシスタント	リサーチアシスタント	計
04年度	47名	46名	93名
05年度	44名	39名	83名

資料5　外国人留学生数

		04年度	05年度
留学生数		12名	10名
国別留学生数	中国	8名	7名
	バングラデシュ	2名	1名
	ペルー	1名	1名
	スロヴァキア	1名	1名
留学生費用別	国費	4名	2名
	私費	8名	8名

資料6　留学国別留学者数

	04年度	05年度
計	0名	0名

資料7　留学期間別留学者数

	04年度	05年度	計
計	0名	0名	0名

資料8　大学院修了者の就職状況

2004年度

専　攻	修了者数	就職者数				
		国立大学教員	医　師	医　員	そ の 他	計
生　理	2名		1名		1名	2名
病　理	2名		1名	1名		2名
社 会 医 学	1名		1名			1名
内　科	12名		11名	1名		12名
外　科	8名		3名	3名	2名	8名
計	25名		17名	5名	3名	25名

2005年度

専　攻	修了者数	就職者数				
		国立大学教員	医　師	医　員	そ の 他	計
生　理　系	5名	2名	1名		2名	5名
病　理　系	4名	2名	1名		1名	4名
社会医学系	3名	2名	1名			3名
内　科	9名		8名	1名		9名
外　科	7名	1名	5名		1名	7名
計	28名	7名	16名	1名	4名	28名

資料9　大学院講義

2004年度

前期：4月12日（月）～7月30日（金）の間の月曜日・金曜日

科目名	主　題　名	担　当　講　師	曜日	講義時間	系代表
医学研究概論	臨床研究総論・基礎実験医学	朝日茂樹，廣田和美，阿部由直 福田幾夫，立石智則，花田勝美 長内智宏，十束英志，牧野英司 上地正実，笹川和彦，加地　隆 佐藤　敬	月	17:00～18:30	福田　幾夫
生命科学倫理学	生命科学と倫理	五十嵐靖彦，土田成紀，中根明夫 原田竹雄，中野　創，伊藤悦朗 佐々木睦男，水沼英樹，浅利　靖 藏田　潔	金	17:00～18:30	泉井　亮

後期：10月4日（月）～2月7日（月）の間の月曜日・金曜日

科目名	主　題　名	担　当　講　師	曜日	講義時間	系代表
医学研究概論	応用実験医学及び臨床研究各論	土岐　力，鬼塚正孝，馬場正之 中根明夫，欠畑誠治，鈴木幸彦 坂野晶司，山岸晋一朗，土田成紀 柿崎育子，矢部博興，下山　克 横山良仁，八森　淳，玉澤直樹	月	17:00～18:30	福田　幾夫
最新医学の動向	なぜ今日の研究に至ったか	花田勝美，中澤　満，浅野研一郎 長内智宏，古郡規雄，藏田　潔 小林　恒，森　文秋，浅利　靖 佐藤　敬，正村和彦，庄司　優 袴田健一，上野伸哉	金	17:00～18:30	花田　勝美

2005年度

前期：4月11日（月）～7月29日（金）の間の　月曜日・金曜日

科目名	主　題　名	担　当　講　師	曜日	講義時間	科目代表
医学研究概論	医学研究概論	若林孝一，森　文秋，中根明夫 楠美智巳，八木橋操六，鬼島　宏 神谷晴夫，佐藤　宏，和田龍一 茆原順一，佐藤　敬	月	17:00 ～ 18:30	若林　孝一
生命科学倫理学	生命科学と倫理	藤　哲，五十嵐靖彦，中根明夫 原田竹雄，中野　創，土田成紀 伊藤悦朗，鳴海俊治，藤井俊策 藏田　潔，浅利　靖，黒田直人 廣田和美	金	17:00 ～ 18:30	藤　哲

後期：10月3日（月）～2月10日（金）の間の　月曜日・金曜日

科目名	主　題　名	担　当　講　師	曜日	講義時間	科目代表
医学研究概論	実験医学及び臨床研究概論	上野伸哉，石橋恭之，工藤美穂子 土岐　力，正村和彦，早狩　誠 中野　創，冨山誠彦，柿崎育子 盛　和行，大黒　浩，藏田　潔 矢部博興，加地　隆，山田勝也	月	17:00 ～ 18:30	上野　伸哉
最新医学の動向	最近のがん診療・研究について	阿部由直，佐藤哲観，中根明夫 和田龍一，中路重之，立石智則 上野伸哉，土田成紀，鬼島　宏 高畑武功，青木昌彦，對馬敬夫 横山良仁，伊東重豪，浅野研一郎 大山　力	金	17:00 ～ 18:30	阿部　由直

研　究　活　動

研究活動に関する自己点検・評価（記載説明）

自己点検・評価の対象

各講座，脳研部門，診療科，動物実験施設，高度先進医学研究センター，教員定員のある診療部を対象とし，研究単位ごとにまとめた（以下同様）。

基礎講座は各講座を研究単位，臨床講座は診療科を合わせて研究単位とし，さらに単独の診療科，動物実験施設，高度先進医学研究センター，教員定員のある診療部はそれぞれを研究単位としている。

［A］研究単位人員と研究テーマの記載要領

各研究単位の評価年度の研究人員と研究テーマについて記載している。

Ⅰ．研究者人員

それぞれの研究単位の評価年度における教授，助教授，講師，助手，医員，大学院学生，研究生の実数を記載する（看護部は除く）。たとえば，併任教授１，助教授１..... であれば，教授０，助教授１..... と記入している。

なお，講座・診療科と診療部の所属が実質的に区別されていない研究者については，その人員を講座・診療科に加えて記載している。

Ⅱ．研究者テーマ

それぞれの研究単位における研究テーマを評価年度について10項以内を記載している。

［B］研究業績の記載要領

評価年度内の研究業績を対象とする。

Ⅰ．発表論文について

１．論文の分類，その他

（1）すでに発表された論文のみを記載。

（2）論文を原著，総説，著書，その他に分類し，英文，和文に分けている。

（3）英文以外の外国語で書いた論文はその他に入れている。

（4）ここでいう原著とは，レフェリー制をとっている定期刊行物 (Journal) に掲載された学術論文，あるいはその Journal が原著として扱っている論文を指す。

（5）ここでいう総説とは，定期刊行物 (Journal) に掲載された学術論文で，原著，症例報告，その他報告書以外のものを指す。

（6）原著，総説，著書は，当該研究単位（講座・部門等）に所属する者にアンダーラインを引いて，以下の３つのカテゴリーに分けて記載（著書については単著，編集，分担執筆を区別）

Ａ：当該研究単位が主たる発表機関である（筆頭研究単位になっている）

筆頭著者の所属が異動あるいは重複している場合は，現在の所属にかかわらず，筆頭著者の論文に記載した研究単位（Suzuki Y [1), 2)] であれば１の研究単位）が主たる発表機関となる。

Ｂ：当該研究単位が副発表機関である（第２以下に記載されている）

C：所属研究者が他研究機関で行ったもので，当該研究者は著者として記載されているが，当該研究単位は発表機関としては記載されていない。

なお，同一論文の重複を明らかにするために，ＢとＣについては　当学科内の他研究単位がＡ（またはＢ）記載する論文には論文題名の冒頭に (*) を付記する。併任教員のみによる論文は記載していない。

２．記載方法

ａ）原著

著者名全員，論文題名，発表雑誌，発表年，巻数，ページ（始め～終わり）の順に記載している。標記スタイルは「弘前医学」に従う。

ｂ）総説

原著と同じ方法で記載している。

ｃ）著書

（単著），（編集）

著者（編者）名全員，書名，発行所，発行所地名，発表年の順に記載している。標記スタイルは「弘前医学」に従う。

（分担）

著者名全員，著述文表題，編者名，書名，ページ（始め～終わり），発行所，発行所地名，発表年の順に記載している。標記スタイルは「弘前医学」に従う。

ｄ）その他（症例報告等）

これには定期刊行雑誌や紀要などの症例報告，その他報告書等が含まれる。学会抄録は Proceedings (Journal) で発表されていてもここには記載していない。記載方法は a) と同じ。

３．発表論文のまとめ

それぞれの研究単位における論文業績のまとめである。

上記の英文原著，総説については，それぞれＡ，Ｂのみ，雑誌名と Impact Factor（本報告書の表紙に指定した年の JCR を使用，図書館），論文数を発表年別に記載，和文原著，総説については，それぞれＡ，Ｂのみ，雑誌名を発表年別に記載，著書については，単著，編集，分担執筆に分けて発表年別に記載している。

Ⅱ．学会，研究会等での発表業績について

１．記載対象

国際レベル，全国レベルの学術集会での発表のみを対象とし，以下の３つのカテゴリーに分けて記載している。

Ａ．特別（招待）講演

Ｂ．シンポジウム，パネルディスカッション，ワークショップでの講演

Ｃ．一般講演（ポスター発表を含む）

２．記載方法

発表者，発表題名，集会の名称，開催地，開催年を記載，Proceedings (Journal) がある場合は，上記の下に，I-2, a)（原著）の記載方法に従って記載，国内学会の一般講演については，各年度の発表件数のみを記載している。

Ⅲ．学術賞について

当該年度に当該研究単位，所属研究者に与えられた学術賞について，賞の名称受賞者名，受賞研究課題を記載している（学内の賞，民間の賞を含む）。

Ⅳ. 共同研究について

国内外の研究機関と共同で行った研究について，その相手研究機関名，研究課題，当該研究単位の代表研究者名を記載している。

ここでいう共同研究には民間等との共同研究など，プロジェクトとして，あるいは正式な契約を交わして行われるものを含む。

Ⅴ. 研究助成の獲得について

当該年度に当該研究単位，所属研究者が獲得した研究助成金に関し，文部科学省科学研究費，その他省庁からの研究費，学内の研究助成，民間の研究助成に分け，助成名称，研究種目，研究課題，研究代表者名，配分額（単位：千円）について記載している。

Ⅵ. 研究に関する社会活動について

１． 国際的な研究連携，国際交流，その他

ａ）国際学術集会の主催状況

主催代表者名，集会名，開催地

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

研究者名，研究機関，国名，滞在期間

ｃ）外国からの留学生，研究生の受け入れ状況

留学生（研究生）名，研究機関，国名，滞在期間（継続）

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（3 ヵ月未満）状況

研究者名，研究機関，国名，滞在期間（継続）

ｅ）外国研究機関への留学（3 ヵ月以上）状況

研究者名，研究機関，国名，滞在期間（継続）

２．国内，地域研究機関との連携，その他

ａ）全国レベルの学術集会の主催状況

主催代表者名，集会名，開催地

ｂ）地方レベルの学術集会の主催状況

主催代表者名，集会名，開催地

ｃ）国内機関からの内地留学受け入れ状況

留学者名，研究機関，国名，滞在期間

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

留学者名，研究機関，国名，滞在期間

VII. その他

特許の取得など，研究に関する特記事項を記載する。

［C］研究単位の目標設定に対する到達度と理念・これから２年間の目標の記載要領

Ⅰ．２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度

２年前の自己点検評価報告書作成時に設定した，研究単位のこれから２年間の目標に対する到達度について記載している。なお，設定目標については，「自己点検評価報告書」に掲載されている。

Ⅱ．理念，これから２年間の目標

各研究単位の理念，これから２年間の目標について記載している。

第２章　研　究　活　動

１．解剖学第一講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：
２年間着実に努力した。若いひとに外国留学の機会を得るようにした。外国人留学生の受け入れもおこなった。85％到達した。

理念：
弘前大学の教員として，なすべきことは自覚している。これに従って，能力の範囲内で努力する。

これから２年間の目標：
これまでと同じように最大限努力する。幸いにも教室独自の研究手法と研究テーマをもっているので，独自の研究をさらにすすめ，教育をさらに改善／発展させる。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助手　3，医員　0，大学院学生　0，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	正村　和彦	1年
	助　手	専　任	目黒　玲子	1年
	助　手	専　任	浅野　義哉	1年
	助　手	専　任	小田切紗織	1年
研究課題	1．			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助手　3，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	正村　和彦	1年
	助　手	専　任	浅野　義哉	1年
	助　手	専　任	目黒　玲子	1年
	助　手	専　任	小田切紗織	1年
研究課題	1．非ヘム鉄の電子顕微鏡的組織化学による脳における鉄の局在の研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2005年度

A.1. Yoshiya Asano, Reiko Meguro, Saori Odagiri, Chengtai Li, Hiroyasu Iwatsuki, Kazuhiko Shoumura
Visualization of non-heme ferric and ferrous iron by highly sensitive non-heme iron histochemistry in the stress-induced acute gastric lesions in the rat. Histochem Cell Biol, online publication 2005;125(5):515-25.

A.2. Reiko Meguro, Yoshiya Asano, Saori Odagiri, Chengtai Li, Hiroyasu Iwatsuki, Kazuhiko Shopumura
The presence of ferric and ferrous iron in the nonheme iron store of resident macrophages in different tissues and organs: histochemical demonstration by the perfusion-Perls and –Turnbull methods in the rat. A rch Histol Cytol 2005;68(3):171-83.

C.1. Andrews ZB, Zhao H, Frugier T, Meguro R, Grattan DR, Koishi K, MaLennan IS: Transforming growth factor beta2 haploinsufficient mice develop age-related nigrostriatal dopamine deficits Neurobiol Dis 2006;21(3): 568-75.

和文　なし

(2) 総説

英文　なし

和文　なし

(3) 著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 神経解剖学講義　2004　正村和彦，目黒玲子，浅野義哉，小田切紗織　弘前大学医学部解剖学第一講座

(4) その他

英文　なし

和文　なし

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　し			
Total		0	0

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Histochem Cell Biol Arch Histol Cytol	2.7 1.9	1 1	2.7 1.9
Total		2	4.6

和文（論文数）

雑　誌　名	2004年度	2005年度
弘前医学	1	
計	1	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　目	2004年度	2005年度
単　著	0	0
編　集	0	0
分担執筆	0	1

和文

種　目	2004年度	2005年度
単　著	0	0
編　集	0	0
分担執筆	1	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2005年度

C.　3件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2005年度

研究代表者として　目黒玲子（助手）第二十四回唐牛記念医学研究基金助成金Ｂ「脳の非ヘム鉄の動態：電子顕微鏡的組織化学と免疫組織化学による研究」1,000千円

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2004年度

李　成萬　中華人民共和国　平成16年10月1日～平成17年3月31日

2005年度

李　成萬　中華人民共和国　2005年度は医学研究科２年在籍

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2004年度

正村和彦　オタゴ大学（ニュージーランド）解剖学教室　解剖学教育視察・研究の意見交換・セミナー

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2004年度

目黒玲子　オタゴ大学（ニュージーランド）解剖学教室　平成16年3月29日～平成17年2月14日

2005年度

浅野義哉（助手）　オタゴ大学医学部（ニュージーランド）　滞在機関　11ヵ月

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

2．解剖学第二講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

独立行政法人化の厳しい財政事情の下，かつ１年間に２回の人体解剖学実習を行うと云う過酷な状況下にもかかわらず，松果体，副腎髄質，視床下部 - 下垂体等の神経内分泌領域，生殖及び発生遺伝学，発達・加齢・老化等の時間生物学領域において，国内外の学会発表及び論文での発表を積極的に行ない，一定の評価を受けた事は大きな成果であった。

また，肉眼臨床解剖学的研究を含め，他の研究室との共同研究や新聞紙上での発表等を含む社会的貢献の点でもある程度の成果をあげた。

研究費獲得を含め研究体制の整備が不十分であった。

全体としてみると到達度は７割程度。

理念：

教室内の個々の研究者の独自の研究を発展させるとともに，教室の中心テーマである松果体などの神経内分泌系や生殖系の構造と機能・医学的意義と生物学的時間との関連の解明に関する協同研究も進展させ , 成果をあげたい。

研究成果を学会発表 , 論文発表という形で研究者に対して情報提供するとともに , 各種メディアを通して社会に対して , また教育の場にフィードバックしたい。

これから２年間の目標：

独立行政法人化に伴う厳しい財政事情，人的制約の下，研究費獲得等の研究基盤の整備，実験的研究継続・発展のため引き続き努力をする。困難をのりこえ，実験成果に関して論文作成・学会や新聞紙上等での発表を行なう。

同時に，長期間研究を行ってきた分野については，これまでに収集した松果体・副腎・視床下部－下垂体系等の神経内分泌学，生殖医学・生物学や発生遺伝学，およびバイオリズム，発達や加齢・老化，進化等の時間生物学に関する実験データを整理統合し，解説・仮説・問題提起・方向性の提示等を含むレビュー的論文等に総括する。国内外の研究者・学生・一般人に対してそれらの情報提供をする努力をする。

肉眼解剖学的研究も含め，他の研究室との協同研究を推進する。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	加地　　隆	2004年４月１日～2005年３月31日
	講　師	専　任	外崎　敬和	2004年４月１日～2005年３月31日
	助　手	専　任	渡邉　誠二	2004年４月１日～2005年３月31日
研究課題	１．雌性ラット松果体ホルモンの妊娠および胎生・生後発達に及ぼす影響 ２．雌性ラット松果体ホルモンの加齢との関連における作用 　　－とくに中年期における性周期閉止齢期に及ぼす影響 ３．ラット副腎髄質ホルモンの抗腫瘍作用 ４．ラットにおける母体－胎仔関連：光環境・松果体ホルモンと網膜の発達 ５．視床下部－下垂体中葉系の MSH の分泌調節機構とその機能： 　１）冷環境に対する下垂体中葉 MSH の分泌調節機構とその機能 ６．同上 　２）サイトカイン（IL-1 β）の知覚過敏・発熱に対する視床下部弓状核 MSH ニューロン・下垂体中葉 MSH 細胞の修飾機構 ７．ヒト精子染色体異常生成メカニズムの解析 ８．ヒト卵子染色体異常生成メカニズムの解析			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	加地　　隆	2005年4月1日～2006年3月31日
	助教授	専　任	外崎　敬和	2005年4月1日～2006年3月31日
	助　手	専　任	渡邉　誠二	2005年4月1日～2006年3月31日
研究課題	1．雌性ラット松果体ホルモンの妊娠および胎生・生後発達に及ぼす影響 2．雌性ラット松果体ホルモンの加齢との関連における作用 　　－とくに中年期における性周期閉止齢期に及ぼす影響 3．ラット副腎髄質ホルモンの抗腫瘍作用 4．実験用小哺乳動物副腎髄質の計量的・比較超微形態学的研究 5．ラットにおける母体－胎仔関連：光環境・松果体ホルモンと網膜の発達 6．視床下部－下垂体中葉系のMSH神経内分泌調節機構 　1）サイトカイン（IL-1β）の知覚過敏・発熱に対する視床下部弓状核MSHニューロン・下垂体中葉MSH細胞の修飾機構 7．同上 　2）冷環境に対する下垂体MSHの分泌調節機構とその機能 8．ヒトおよびゲッ歯類精子の染色体研究 9．ヒトおよびゲッ歯類卵子の染色体研究 10．巨核球分化における転写因子の発現			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Kachi T, Tanaka D, Watanabe S, Suzuki R, Tonosaki Y: Increased incidence of spontaneous malformation in pups and increased litter size from pinealectomized dams. Anat Sci Int 2004;79:62-71.

A.2. Tonosaki Y, Cruijsen PMJM, Nishiyama K, Yaginuma H, Roubos EW: Low temperature stimulates α-MSH secretion and inhibits background adaptation in *Xenopus laevis*. J Neuroendocrinol 2004;16:894-905.

A.3. Watanabe S: Chromosome analysis of human spermatozoa with morphologically abnormal heads by injection into mouse oocytes. Reprod Med Biol 2004;3:147-52.

A.4. Watanabe S: Frequent structural chromosome aberrations in immotile human sperm exposed to culture media. Hum Reprod 2004;19:940-7.

2005年度

A.1. Yanagisawa M, Kachi T: Inhibitory effects of adrenomedullary hormone on the induction and growth of fibrosarcoma by methylcholanthrene. Neuroendocrinol Lett 2005;26:113-20.

A.2. Tonosaki Y, Nishiyama K, Roubos EW, Sugiura Y: α-MSH antagonizes interleukin-1β-induced hyperalgesia and Fos-expression in the paraventricular and arcuate nucleus of the rat. Neuroendocrinology 2005;81:167-73.

A.3. Toki T, Katsuoka F, Kanezaki R, Xu G, Kurotaki H, Sun J, Kamio T, Watanabe S, Tandai S, Terui K, Yagihashi S, Komatsu N, Igarashi K, Yamamoto M, Ito E: Transgenic expression of BACH1 transcription factor results in megakaryocytic impairment. Blood 2005;15:3100-8.

和文

2005年度

B.1. 竹本洋一，田中　温，永吉　基，粟田松一郎，姫野憲雄，田中威づみ，鍬田恵理，楠比呂志，渡邉誠二：着床前胚スクリーニングの必要性．産婦人科治療　2005;91:643-8.

（2）総説

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 加地　隆，田中　大，渡邉誠二，鈴木礼子，外崎敬和，藤枝弘樹：光環境・メラトニンと発達・先天奇形との関連について．太陽紫外線防御研究委員会学術報告　2005;15:31-6.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Anat Sci Int（調査中）	0	1	0
J Neuroendocrinol	3.418	1	3.418
Reprod Med Biol（調査中）	0	1	0
Hum Reprod	3.125	1	3.125
Total		4	6.543

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neuroendocrinol Lett	1.048	1	1.048
Neuroendocrinology	2.509	1	2.509
Blood	9.782	1	9.782
Total		3	13.339

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
産婦人科治療	0	1
計	0	1

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Kachi T, Watanabe S, Tonosaki Y, Tanaka D, Suzuki R.
Pineal effects on fecundity, development and aging, including antimalformation effect from dams.
16th International Congress of the International Federations of Anatomists (IFAA). Kyoto, Japan, August 22-27, 2004.
Anat Sci Int 2004;79:Suppl, 371.

C.2. Tonosaki Y, Roubos EW.
Regulation of α-MSH secretion from the pars intermedia of *Xenopus laevis* under low temperature.
同上　Anat Sci Int 2004;79:Suppl, 424.

C.3. Watanabe S.
Frequent structural chromosome aberrations in immotile human sperm exposed to culture media.
同上　Anat Sci Int 2004;79:Suppl, 263.

2005年度

A.1. Watanabe S.
Frequent structural chromosome aberrations in immotile human sperm exposed to culture media.
The Sixth Royan International Scientific Congress.
Tehran, September 7-9, 2005.

C.1. Kachi T, Watanabe S, Tonosaki Y, Fujieda H.
Feto-maternal relationships in rats as revealed by pinealectomy and constant light treatment: Increase in spontaneous malformations and enhanced expression of retinal parvalbumin.
Experimental Biology 2005, April 2-6, and XXXV International Congress of Physiological Sciences, March 31-April 5, Joint Meeting.
San Diego, USA, 2005.
Proceedings: The FASEB Journal 2005;19(5):A1338.

C.2. Kachi T, Tanaka D, Watanabe S, Suzuki R, Tonosaki Y, Fujieda H.
Pineal effects on female reproductive functions: Number and prenatal development of offspring and menopause.
X. Congress of the European Pineal and Biological Rhythm Society.
Frankfurt/Main, Germany, September 1-5, 2005.
Proceedings: p.167.

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 加地　隆：光環境，メラトニンと発達・先天奇形との関係について　太陽紫外線防御研究委員会第15回シンポジウム「太陽紫外線の恩恵と警告」 弘前　2005年3月11日

B.1. 加地　隆：松果体―生物学的時間との関連―　第31回日本神経内分泌学会　弘前　2004年10月9－10日　日本内分泌学会誌　2004;80(2):354.

C.　2件

2005年度

C.　8件

Ⅲ．学術賞

2005年度

平成17年度　日本不妊学会学術奨励賞
Chromosome analysis of human spermatozoa with morphologically abnormal heads by injection into mouse oocytes.

Ⅳ．共同研究

2004年度

研 究 機 関：Nijmegen Institute for Neurosciences, Department of Cellular Animal Physiology, Radbound University Nijmegen, 6525 ED Nijmegen, The Netherlands (Eric W Roubos)，福島県立医科大学解剖学第1講座（西山慶治，八木沼洋行）
研究課題：Low temperature enhances α-MSH secretion and inhibits background adaptation in *Xenopus Laevis*.
研究代表者：外崎敬和

2005年度

研 究 機 関：Nijmegen Institute for Neurosciences, Department of Cellular Animal Physiology, Radbound University Nijmegen, 6525 ED Nijmegen, The Netherlands (Eric W Roubos).
研究課題：Low temperature enhances α-MSH secretion and inhibits background adaptation in *Xenopus Laevis*.
研究代表者：外崎敬和

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2005年度

研究代表者として
平成17年度　若手研究B　1,500,000円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2005年度

第56回染色体学会実行委員　2005.10.9-10

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

3．生理学第一講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

80％

昨年度は研究前進の準備期間であった。

理念：

着実な実験に基づいたオリジナリティーの高い仕事をおこない，長く引用されるような論文を国際誌に発表するとともに，国内外の関連分野の研究者との連携を保ちながら対象分野の前進につながるような仕事を目指す。

これから２年間の目標：

発表後長く Citation される論文を発表できるよう，質の高い仕事を行う。２年間でインパクト係数は合計20以上を目指す。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	泉井　亮	1年
	助教授	専　任	菅野　隆浩	5ヶ月
	助　手	専　任	木村　良一	1年
研究課題	1．膵β細胞のインスリン分泌とその調節機構 2．血糖調節の中枢機構 3．細胞内情報伝達機構 4．ラット海馬スライス標本を用いたシナプス伝達，可塑性，神経ネットワークの同期特性におけるロテノンの効果 5．APP 遺伝子組み換えマウスにおけるα7ニコチン性アセチルコリン受容体の機能損傷			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	泉井　亮	1年
	助教授	専　任	山田　勝也	1年
	助　手	専　任	木村　良一	1年
研究課題	1．インスリン分泌の細胞機構 2．膵ランゲルハンス島における細胞機能協関 3．中枢神経における血糖調節機構 4．神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤 5．遺伝子改変マウスを用いたあえぎ呼吸の中枢制御機構に関する研究 6．脳代謝運動連関における黒質網様部の生理的役割 7．ABCA2蛋白の脳と末梢における発現解析 8．細胞内カルシウム濃度と生理機能との関連			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Suga S, Takeo T, Nakano K, Sato T, Igarashi T, Yamana D, Wakui M: Pertussis toxin-sensitive pathway inhibits glucose-stimulated Ca^{2+} signals of rat islet ß-cells by affecting L-type Ca^{2+} channels and voltage-dependent K^{+} channels. Cell Calcium 2004;36:469-477.

A.2. Kanno T, Ma X, Barg S, Eliasson L, Galvanovskis J, Gopel S, Larsson M, Rorsman P. Large-core vesicle exocytosis in pancreatic beta-cells monitored by capacitance measurements. Methods 2004;33:302-311.

B.1. Wu J, Takeo T, Suga S, Kanno T, Osanai T, Mikoshiba K, Wakui M. 2-Aminorthoxydiphenyl borate inhibits agonist-induced Ca^{2+} signals by blocking inositol trisphosphate formation in acutely dissociated mouse pancreatic acinar cells. Pflugers Arch Eur J Physiol 2004;448:592-595.

C.1. Gopel S, Zhang Q, Elasson L, Ma XS, Galvanovskis J, Kanno T, Salehi A, Rorsman P. Capacitance measurements of exocytosis in mouse pancreatic alpha-, beta- and delta-cells within intact islets of Langerhans. J. Physiol 2004;556:711-726.

2005年度

B.1. Kageyama K*, Kimura R* Suga S, Ogawa Y, Suda T, Wakui M. Modulation of Ca^{2+} influx by corticotropin-releasing factor (CRF) family of peptides via CRF receptors in rat pancreatic ß-cells. **Peptides**, 2006;27:1814-1819. These authors contributed equally to this work.

B.2. Hu DL, Suga S, Omoe K, Abe Y, Shinagawa K, Wakui M, Nakane A. Staphylococcal enterotoxin A modulates intracellular Ca^{2+} signal pathway in human intesitinal epithelial cells. **FEBS Lett**., 2005;579:4407-4412.

B.3. Wu J, Wakui M, Wang H, Hu G. Iptakalim hydrochloride and neuronal protection. **Curr. Neuropharmacol**., 2005;3:249-256.

B.4. Sato S, Yamada K, and Inagaki N. Systems for simultaneously monitoring heart and breathing rate in mice using a piezoelectric transducer. **Med. Bioeng. Comput**. 2006;44:353-362.

B.5. Kishimoto T*, Kimura R*, Liu T-T, Nemoto T, Takahashi N, & Kasai H. Vacuolar sequential excocytosis of large dense-core vesicles in adrenal medulla. **EMBO J**. 2006;25:673-682. These authors contributed equally to this work.

和文　なし

（2）総説

英文

2005年度

C.1. Yamada K, and Inagaki N. Neuroprotection by K_{ATP} channels. **J. Mol. Cell. Cardiol**. 2005;38:945-949.

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 泉井　亮（加藤邦夫・石出信正(編)）．リーディングス介護福祉学 12．医学一般，建帛社，東京，2004.

2005年度

A.1. 泉井　亮．基本的事項と細胞生理学．佐久間康夫（監訳），カラー図解「よくわかる生理学の基礎」，p2-41，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，2005.

A.2. 泉井　亮．細胞膜：構造，機能，生化学．村松正實，木南凌（監訳），細胞の世界，p149-181，西村書店，東京，2005.

A.3. 泉井　亮．膜輸送：透過バリアを打ち負かす．村松正實，木南凌（監訳），細胞の世界，p182-208，西村書店，東京，2005.

A.4. 泉井　亮．神経の興奮伝達とシナプス伝達．佐藤・若林・泉井・飛鳥井（訳），バイオサイコロジー：脳－心と行動の神経科学，p59-77，西村書店，東京，2005.

（4）その他

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 泉井　亮．弘前大学医学部医学教育センター：卒前卒後一貫教育による良医の育成．医学教育 37(3):183-184,2006.

B.1. 森田孝夫, 泉井　亮, 日野原重明, 他：多様なカリキュラムを提供する北米のメディカルスクール（McMaster 大学，Duke 大学，Washington 大学）の医学教育カリキュラム．医学教育　36(6):391-397,2005.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Cell Calcium	3.28	1	3.28
Methods	2.23	1	2.23
Pflugers Archiv (Eur J Physiol)	1.69	1	1.69
Total		3	7.20

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Peptides	2.511	1	2.511
FEBS Letters	3.843	1	3.843
Current Neuropharmacology	4.593	1	4.593
Med. Bioeng. Comput.	1.070	1	1.070
EMBO J.	10.492	1	10.492
Total		5	22.509

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
な　　し	0	0
計	0	0

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	4
編　　集	0	0
分担執筆	1	0

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
医学教育	0	2
計	0	2

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Kimura R. Impact of rotenone in synaptic transmission, synaptic plasticity and neuronal network synchronization of rat hippocampus slices. Society for Neuroscience, San Diego. CA, USA, 2004.

2005年度

C.1. Wakui M, Suga S, Kimura R. 35th International Union of Physiological Sciences (IUPS) 2005 Congress, Excitatory and inhibitory actions of norepinephrine on rat islet beta-cells. 2005.3.31-4.5 San Diego, USA.

C.2. Hu J, Takeo T, Suga S, Kimura R, Wakui M, Wu J. Lack of evidence for the opening of cytoplasmic and mitochondrial ATP-sensitive K^+ channels by iptakalim hydrochloride in single dopaminergic neurons acutely dissociated from the rat substantia nigra pars compacta. 35th Annual Meeting Society for Neuroscience, Washington, DC, 2005.11.12-16.

C.3. Kimura R, Wu J, Ellsworth M, Ellsworth K, Garvey kJ, Good LB, Treiman DM. Electrophysiological alterations in hippocampal slices during kainic acid-induced status epilepticus in vitro rats. 35th Annual Meeting Society for Neuroscience, Washington, DC, 2005.11.12-16.

（2）全国学術集会

2004年度

C.　1件

2005年度

B.1. 山田勝也，袁　宏杰，三木隆司，清野　進，稲垣暢也：黒質網様部GABA作動性ニューロンの代謝応答．第82回日本生理学会　公募シンポジウム　仙台　2005年5月18－20日．

B.2. 稲垣暢也，三宅あかり，中村靖彦，三木隆司，清野　進，山田勝也：ATP感受性カリウムチャネル：脳における代謝センサー．第28回日本神経科学大会シンポジウム　横浜　2005年7月26－28日．

C.　11件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2005年度

秋田大学医学部機能制御医学講座細胞制御学分野（併任，非常勤講師）
京都大学大学院医学研究科糖尿病・栄養内（稲垣暢也教授）
代表研究者　山田勝也
「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
「新たな膜輸送の分子基盤」
「疾患モデル細胞の高効率創製と機能解析」
「遺伝子改変マウスを用いたあえぎ呼吸の中枢制御機構に関する研究」
神戸大学大学院医学研究科細胞分子医学（清野　進教授）
代表研究者　山田勝也
「神経依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
「遺伝子改変マウスを用いたあえぎ呼吸の中枢制御機構に関する研究」
自然科学研究機構生理学研究所脳形態解析研究部門（籾山俊彦助教授）
代表研究者　山田勝也
「黒質網様部ニューロンの示す自発発火活動パターンのスライスパッチクランプ方による解析」
昭和大学医学部第二生理学教室（鬼丸洋助教授）昭和大学大学院医学研究科細胞構造機構（塩田清二教授）
代表研究者　山田勝也
「脳代謝運動連関における黒質網様部の生理的役割」
北海道大学大学院医学研究科機能形態学講座（渡辺雅彦教授）
代表研究者　山田勝也
「血管平滑筋型ATP感受性カリウムチャネルの局在解析」

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として
若手B，nACh受容体/Na^+チャネルの遺伝子異常に起因するてんかんの発症調節物質の特定，木村良一，3,200（千円）

2005年度

研究代表者として
文部科学省研究費特定領域研究(2)「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
代表者　山田勝也　280万円
基盤研究(C)「中脳黒質網様部のグルコース感受性およびその生理的役割」
代表者　山田勝也　230万円
若手研究(B)「nACh受容体/Na^+チャンネルの遺伝子異常に起因するてんかんの発症調節物質の特定」
代表者　木村良一　50万円
他研究単位との研究分担者として
研究分担者　泉井　亮　基盤研究(C)「インスリン分泌を誘起する膵β細胞の新しいアドレナリン受容体の遺伝子解析」代表者　菅　世智子　130万円
研究分担者　山田勝也　文部科学省研究費学術創成研究「新たな膜輸送の分子基盤」
代表者　稲垣暢也　分担金なし

（2）その他の省庁からの研究費

2005年度

他研究単位との研究分担者として
研究分担者　山田勝也　科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業「疾患モデル細胞の高効率創製と機能解析」代表者　松岡英明　分担金なし

（3）学内の研究助成

2004年度

研究代表者として
弘前大学学術国際振興基金助成（学術の国際交流推進事業） 500（千円）（Jie Wu 博士の招聘）

2005年度

研究代表者として
研究代表者　泉井　亮　弘前大学学術国際振興基金助成（学術の国際交流推進事業） 50万円 （Jie Wu 博士の招聘）

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2004年度

Dr. Jie Wu, Barrow Neurological Institute（アメリカ），主任研究員，平成16年7月（2週間）

2005年度

Jie Wu 博士　Division of Neurology, Barrow Neurological Institute, St Joseph's Hospital and Medical Center, USA.　平成17年7月19日～31日

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

2004年度

木村良一　Barrow Neurological Institute，アメリカ，2ヶ月

2005年度

泉井　亮　アメリカ・アリゾナ州・フェニックス　バーロー神経学研究所
Dr. Jie Wu.　平成17年2月～平成17年4月

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

2004年度

木村良一　Barrow Neurological Institute，アメリカ，5ヶ月

2005年度

木村良一　アメリカ・アリゾナ州・フェニックス　バーロー神経学研究所
Dr. Jie Wu.　平成16年11月～現在

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

4．生理学第二講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1．研究総括 80％
2．教官・大学院の研究指導 100％
3．論文作成指導 100％
4．Impact Factor 3 以上の雑誌に first author として少なくとも年 1 編の論文を発表 50％
5．国際学会，全国レベルの学会等におけるシンポジウムに演者として発表 100％
6．研究代表者として科学研究費補助金に２件以上採択 100％

理念：

随意運動中枢の高次機能を解明することを目的にし，研究に関するさまざまな最新のコンセプトと方法を導入して世界のトップランナーの一員としての役割を果たす。

これから２年間の目標：

1．Impact Factor 3以上の雑誌に研究室の教官が first author として少なくとも年 1 編の論文を発表
2．国際学会，全国レベルの学会等におけるシンポジウムに演者として発表
3．研究室として科学研究費補助金に２件以上採択

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	蔵田　潔	1年
	助教授	専　任	相澤　寛	1年
	助　手	専　任	川嶋　啓明	1年
研究課題	1．ニューロン活動解析による運動前野における運動学習機構の研究 2．眼球運動解析による脳内プログラミング機構の研究 3．盲視の動物モデル作成及び盲視下視覚伝導路の機能的同定 4．報酬強化学習における脚橋被蓋核の位置付けの検討			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	蔵田　潔	1年
	助教授	専　任	相澤　寛	1年
	助　手	専　任	西澤　雄介	1年
研究課題	1．ニューロン活動解析による運動前野における運動学習機構の研究 2．脳磁図によるヒト脳の認知機構の研究 3．眼球運動解析による脳内プログラミング機構の研究 4．盲視の動物モデル作成及び盲視下視覚伝導路の機能的同定 5．報酬強化学習における脚橋被蓋核の位置付けの検討			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Kurata K, and Aizawa H: Influences of motor instructions on the reaction times of saccadic eye movements. *Neurosci. Res*. 2004;48:447-455.

A.2. Kurata K: Activity properties and location of neurons in the motor thalamus that project to the cortical motor areas in monkeys. *J Neurophysiol*. 2004;doi:10.1152/jn.01034.

2005年度

A.1. Kurata K: Activity properties and location of neurons in the motor thalamus that project to the cortical motor areas in monkeys. J Neurophysiol. 2005;94:550-566.

B.1. Noto Y, Sato T, Kudo M, Kurata K, and Hirota K: The relationship between salivary biomakers and state-trait anxiety inventory score under mental arithmetic stress: a pilot study. Anesth Anal. 2005;101:1873-1876.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 蔵田　潔：運動制御の神経機構とその障害．理学療法，2005;22:960-965.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Journal of Neurophysiology	3.592	1	3.592
Neuroscience Research	2.155	1	2.155
Total		2	5.747

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Journal of Neurophysiology	3.592	1	3.592
Anesthesia and Analgesia	2.452	1	2.452
Total		2	6.044

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
理学療法		1
早期大腸癌		1
手術		1
計	0	3

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2004年度

B.1. Kurata K: Dynamic visuo-motor transformation in the ventral premotor cortex of monkeys. 生理学研究所 COE シンポジウム　岡崎　2004 年３月 16－18 日.

B.2. Aizawa H, and Kurata K: LATER model with two threshold levels explains bimodal saccadic reaction time distribution in cue gap saccade task with NoGo trials. 生理学研究所 COE シンポジウム　岡崎　2004 年３月 16－18 日.

B.3. Kurata K, Strick P.L, Miall R.C, and Imamizu H: What do we know about cerebro-cerebellar communication system after Allen and Tsukahara? Neural Control of Movement, 2004. Sitges, Spain.

C.1. Kurata K, and Aizawa H: LATER model explains bimodal reaction time distributions of ordinary and express saccades in an instructed gap saccade task with NoGo trials. Society for Neuroscience 34th Annual Meeting, 2004, San Diego, 2004.

2005年度

A.1. Kurata K: Neuronal network in the cerebral cortex for sensorimotor transformation. JSPS Symposium 'Cogniition and Action' University College London, London, UK, 2005.

C.1. Kurata K: Activity properties and location of neurons in the motor thalamus that project to the cortical motor areas in monkeys. Society for Neuroscience 35th Annual Meeting, 2005, Washington, D.C, 2005.

C.2. Nishizawa Y, Murata A, Koyama M, Ikenaga SK, Nakai M, Sasaki M: Changes in surgical treatment of ulcerative colitis. 22th Congress of panpacific surgical association, Noumea, 2005.

C.3. Murata A, Nishizawa Y, Koyama M, Ikenaga SK, Nakai M, Sasaki M: Augmentation of the urinary bladder for invasive colo-rectal cancer. 22th Congress of panpacific surgical association, Noumea, 2005.

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. 蔵田　潔：日本生理学会大会　シンポジウム　Advances in system neuroscience of learning and memory in brain. Functional roles of the cerebro-cerebellar communication system.　2004 年６月４日　札幌　Jpn. J. Physiol. 54 Suppl:S50, 2004.

C.　１件

2005年度

B.1. 蔵田　潔：日本生理学会大会　シンポジウム　Brain dynamics of coordinate transformation in learning and memory for reaching.　2005 年５月 19 日　仙台　Jpn. J. Physiol. 55 Suppl:S41, 2005.

B.2. 蔵田　潔：第 22 回日本脳電磁図トポグラフィ研究会教育講演　感覚運動変換に関わる高次大脳皮質機能マッピング．Role of the premotor cortex of human and nonhuman primates in sensorially guided motor behavior.　十和田湖　2005 年６月 18 日.

B.3. 村田暁彦，小山　基，西澤雄介，池永照史郎一期，木村昭利，佐々木睦男，森田隆幸：ワークショップ「自律神経温存術式における諸問題」自律神経温存の typing と側方郭清の意義．第 30 回日本外科系連合学会学術集会，東京，2005 年６月 24 日.

B.4. 小山　基，村田暁彦，西澤雄介，池永照史郎一期，木村昭利，佐々木睦男，森田隆幸：パネルディスカッション「直腸癌骨盤内再発の診断と治療の標準化を目指して」内肛門括約筋切除 (ISR)・経肛門吻合術後の骨盤内再発に対する診断と治療方針．第 60 回日本大腸肛門病学会総会，東京，2005 年 10 月 28 ～ 29 日.

C.　７件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2005年度

弘前大学医学部神経精神医学講座
「脳磁図による高次認知機能に関する研究」
京都大学理学部物理学講座
「ニューロン活動の統計学的分析に関する研究」

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として
特定領域研究 (A)(2)「神経回路（領域代表者：大森治紀教授）」 継続
到達運動のプリズム適応における大脳小脳神経回路機能連関の動的変化
公募班員・研究代表者
課題番号　15029203　3,500 千円

2005年度

研究代表者として
特定領域研究「統合脳（領域代表者：丹治順教授）」 新規
ヒトおよびサルの到達運動における動的座標変換を担う大脳皮質機構の多元的解析
公募班員・研究代表者
課題番号　17021003　4,600 千円
基盤研究 (C)　新規
空間座標の二次元的変化に対する到達運動学習への大脳運動前野腹側部の関与
研究代表者
課題番号　17500269　2,300 千円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2004年度

研究代表者として
平成 16 年度 弘前大学学長指定重点研究計画
認知障害の統合的解析と認知再生科学の創出
研究代表者　6,200 千円
他研究単位との研究分担者として
平成 16 年度 弘前大学戦略的経費（研究代表者　医学部　佐藤　敬）
研究分担者　600 千円

2005年度

研究代表者として
平成 17 年度 弘前大学学長指定重点研究計画
認知障害の統合的解析と認知再生科学の創出
研究代表者　3,900 千円

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2005年度

アメリカ合衆国国立衛生研究所 (NIH) 視察　1 日

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

5．生化学第一講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

２年前に設定した目標は，90％達成されたと思われる。

理念：

1．目先に囚われないオリジナリティーの高い研究をする。
2．ポストゲノムの近年，核酸，タンパク質に続く第三の生命分子として，再度注目されてきた糖鎖を中心とした研究に少しでも貢献するために，また，長年育まれてきた弘前大学医学部生化学第一講座独自の糖鎖研究の発展に少しでも貢献するために，独創性を意識して研究に取り組む。他の研究領域にも興味を持ち，小さな発見を大切にする。
3．研究成果が学術的に寄与するだけにとどまらず実際，医療現場で役立つものを生み出すことを目指す。

これから２年間の目標：

1．Impact factor のついた学術雑誌に first author として年 1 報の論文を発表する。
2．国際学会，全国レベルの学会で演者として発表する。
3．研究代表者として科学研究費補助金に 1 件採択を目指す。
4．他機関との共同研究を大切にする。
5．プロテオグリカンの新たな臨床応用の可能性を探究し，その成果を学術雑誌に投稿，学会発表すると共に実際の現場に応用が効くように研究の推進方向を設定する。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	高垣　啓一	2004年４月１日～2005年３月31日
	助教授	専　任	今　　淳	2004年４月１日～2005年３月31日
	助　手	専　任	柿崎　育子	2004年４月１日～2005年３月31日
研究課題	1．糖鎖工学的手法による人工プロテオグリカンの合成 2．プロテオグリカンの機能解明 3．プロテオグリカンのグラコーム解析技術の開発 4．主にプロテオグリカン研究を通した皮膚の再生・老化機構の解明 5．Ⅶ型コラーゲンの皮膚における発現調節機構 6．ヒアルロン酸合成抑制剤4-メチルウンベリフェロンの作用機構について 7．マウスヒアルロニダーゼの cDNA クローニング，酵素の性状について 8．ホタテヒアルロニダーゼの精製 9．マラリア病原虫の胎盤への接着を阻害するグリコサミノグリカンについて 10．紫外線照射がヒアルロン酸合成酵素の発現に及ぼす影響			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　2，医員　0，大学院学生　3，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	高垣　啓一	2005年４月１日～2006年３月31日
	助教授	専　任	今　　淳	2005年４月１日～2006年３月31日
	助　手	専　任	柿崎　育子	2005年４月１日～2006年３月31日
	助　手	専　任	山口　真範	2005年５月１日～2006年３月31日
研究課題	1．糖鎖工学的手法による人工プロテオグリカンの合成 2．プロテオグリカンの機能解明 3．プロテオグリカンのグラコーム解析技術の開発 4．Ⅶ型コラーゲンの皮膚における発現調節機構 5．主にプロテオグリカン研究を通した皮膚の再生・老化機構の解明 6．ヒト表皮角化細胞のヒアルロン酸代謝に及ぼす紫外線照射の影響			

	7．ホタテヒアルロニダーゼの性状について（糖転移活性等） 8．マラリア病原虫の胎盤への接着を阻害するグリコサミノグリカンについて 9．尿中トリプシンインヒビターのグリコサミノグリカン糖鎖の多様性について 10．尿中トリプシンインヒビターのグリコサミノグリカン糖鎖の組み換え

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Kakizaki I, Kojima K, Takagaki K, Endo M, Kannagi R, Ito M, Maruo Y, Sato H, Yasuda T, Mita S, Kimata K, and Itano N: A novel mechanism for the inhibition of hyaluronan Biosynthesis by 4-methylumbelliferone. J. Biol. Chem. 2004;279:33281-33289.

A.2. Kudo D, Kon A, Yoshihara S, Kakizaki I, Sasaki M, Endo M, and Takagaki K: Effect of a hyaluronan synthase suppressor, 4-methylumbelliferone, on B16F-10 melanoma cell adhesion and locomotion. Biochem. Biophys. Res. Commun.2004;321:783-787.

A.3. Kon A, Itagaki K, Yoneda K, and Takagaki K: A novel mutation of keratin 9 gene (R162P) in a Japanese family with epidermolytic palmoplantar keratoderma. Arch. Dermatol. Res. 2005;296:375-378.

B.1. Muramatsu S, Suga Y, Kon A, Matsuba S, Hashimoto Y, Ogawa H: A Japanese patient with a mild form of lamellar ichthyosis harbouring two missense mutations in the core domain of the transglutaminase 1 gene. Br J Dermatol 2004;150:390-392.

B.2. Muthusamy A, Achur R.N, Valiyaveettil M, Madhunapantula S.V, Kakizaki I, Bhavanandan V.P, and Gowda C.D: Structural characterization of the bovine tracheal chondroitin sulfate chains and binding of *Plasmodium falciparum*-infected erythrocytes. Glycobiology. 2004;14(7):635-645.

2005年度

A.1. Takeda H, Kon A, Ito N, Sawamura D, Takagaki K, Hashimoto I, and Hanada K: Keratinocyte-specific modulation of type VII collagen gene expression by pro-inflammatory cytokines (tumor necrosis factor-α and interleukin-1ß). Exp Dermatol 2005;14:289-294.

A.2. Yoshihara S, Kon A, Kudo D, Nakazawa H, Kakizaki I, Sasaki M, Endo M, and Takagaki K: A hyaluronan synthase suppressor, 4-methylumbelliferone, inhibits liver metastasis of melanoma cells. FEBS Lett 2005;579: 2722-2726.

A.3. Kon A, Takeda H, Ito N, Hanada K, and Takagaki K: Tissue-specific downregulation of type VII collagen gene (COL7A1) transcription in cultured epidermal keratinocytes by ultraviolet A radiation (UVA) and UVA-inducible cytokines, with special reference to cutaneous photoaging. J Dermatol Sci 2005;1:29-35.

A.4. Nakazawa H, Yoshihara S, Kudo D, Morohashi H, Kakizaki I, Kon A, Takagaki K, and Sasaki M: 4-methylumbelliferone, a hyaluronan synthase suppressor, enhances the anticancer activity of gemcitabine in human pancreatic cancer cells. Cancer Chemother Pharmacol 2006;57(2):165-170.

A.5. Hozumi N, Takeda Y, Harata S, Takagaki K, and Endo M: Constituent proteoglycans of the human yellow ligament extracellular matrix. Hirosaki Med J 2006;57:49-58.

B.1. Yoneda K, Kon A, Demitsu T, Inagaki N, Sadahira C, Kubota Y: Tunel positive keratinocytes in keratin disease. J Dermatol Sci 2005;40(1):65-67.

C.1. Mayer D.C, Jiang L, Achur R.N, Kakizaki I, Gowda D.C, and Miller L.H: The glycophorin C N-linked glycan is a critical component of the ligand for the Plasmodium falciparum erythrocyte receptor BAEBL. Proc Natl Acad Sci U.S.A. 2006;103(7):2358–2362.

C.2. Yamaguchi M, Ishida H, Kanamori A, Kannagi R, Kiso M: 6-*O*-sulfo sialylparagloboside and sialyl Lewisx neo-glycolipids containing lactamized neuraminicacid synthesis and antigenic reactivity against G159 monoclonal antibody. Glycoconjugate J 2005;22:83-96.

和文

2004年度

A.1. 西村英恵，金子高英，水木大介，原田　研，今　　淳，花田勝美，伊藤　卓，四ツ柳高敏，鎌田義正：肛囲に paget 現象を呈した肛門管癌の 1 例．臨床皮膚科　2004;58:674-677.

2005年度

A.1. 大鹿周佐，石橋恭之，高垣啓一：糖鎖工学を応用したハイブリッド型軟骨スカホールドの作製および軟骨修復に関する研究．日本整形外科スポーツ医学会雑誌　2005;24(4):386-393.

（2）総説

英文

2004年度

A.1. Gowda Chnne, Achur Rajeshwara, Muthusamy Arivalagan, and Takagaki K: Unusually low sulfated chondroitin 4-sulfae of human placenta and its role in placental malaria. Trends Glycosci. Glyc. 2004;16:407-420.

和文

2004年度

A.1. 今　　淳：光老化とシワに関与するVII型コラーゲン遺伝子．Fragrance J 2004;5:31-35.

（3）著書

英文

2005年度

A.1. Kakizaki I, Baggenstoss B.A, Tlapak-Simmons V.L, Nakane A, Weigel P.H, Endo M, and Takagaki K: A possible cardiolipin-dependent inhibition mechanism of hyaluronan synthesis by 4-methylumbelliferone in *streptococcus equi* FM100, in *Hyaluronan 2003 Conference Proceedings* "Hyaluronan: Structure, Metabolism, Biological Activities, Therapeutic Applications", edited by Balazs, E., A. and Hascall, V. C., Matrix Biology Institute, 2005;159-163.

和文

2004年度

A.1. Peter N: Campbell, Anthony D. Smity 著，佐藤　敬，高垣啓一訳「図解生化学」．西村書店，2004.
A.2. 今　　淳，花田勝美：薬剤，中毒による脱毛症．毛髪疾患の最新の治療－基礎と臨床（植毛），平山　峻編，金原出版，東京，第1版，2004;96-99.
A.3. 今　　淳：線状IgA水疱症．最新皮膚科学大系特別巻3　炎症性皮膚疾患の病理診断，玉置邦彦編，中山書店，東京，第1版，2004;248-249

2005年度

A.1. 高垣啓一，小林一清，正田晋一郎監修：糖鎖化学の最先端技術「プロテオグリカン糖鎖の機能改変」．2005; 第1章 :40-47.

（4）その他

英文

2004年度

A.1. Kon A, Takeda H, Takagaki K, Hanada K: Tissue specific gene expression of human type VII collagen in epidermal keratinocytes and dermal fibroblasts, with special reference to photoaged skin. Proceedings of the 13th Japan-Korea Joint Meeting of Dermatology 2004;86-87.

和文

2004年度

A.1. 今　　淳：scarless wound healing（瘢痕を残さない創傷治癒）機構の解明　先天性表皮水疱症の治療への応用．平成13～15年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書，2004;1-73.
A.2. 今　　淳：皮膚の老化によるVII型コラーゲンの代謝及び遺伝子発現調節機構について．コスメトロジー研究報告，2004;12:63-65.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Biol Chem	6.482	1	6.482
Biochem Biophys Res Commun	2.836	1	2.836
Arch Dermatol Res	1.415	1	1.415
Trends Glycosci Glyc	0.818	1	0.818
Br J Dermatol	2.659	1	2.659
Glycobiology	3.490	1	3.490
Total		6	17.700

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Exp Dermatol	2.040	1	2.040
FEBS Lett	3.609	1	3.609
J Dermatol Sci	1.626	2	3.252
Cancer Chemother Pharm	2.046	1	2.046
Hirosaki Med J	0	1	0
Total		6	10.947

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
臨床皮膚科	1	0
日本整形外科スポーツ医学会雑誌	0	1
計	1	1

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	1

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	3	1

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2004年度

A.1. Takagaki K, Kon A, and Kakizaki K: Enzymatic Reconstruction of Glycosaminoglycans. Joint Meeting of the Society for Glycobiology and the Japanese Society of Carbohydrate Research, Hilton Hawaiian Village Beach Resort & Spa, Honolulu, HI (2004).

C.1. Kon A, Yoshihara S, Kudo D, Kakizaki I, Taniguchi R, Endo M, and Takagaki K: 4-methylumbelliferon Inhibits Metastasis of Melanoma Cells. Joint Meeting of the Society for Glycobiology and the Japanese Society of Carbohydrate Research, Hilton Hawaiian Village Beach Resort & Spa, Honolulu, HI (2004).

C.2. Ohshika S, Kon A, Uesato R, Ishibashi Y, Kusumi T, Toh S, and Takagaki K: Control of Chondrocyte Differentiation by Exogenous Proteoglycan. Joint Meeting of the Society for Glycobiology and the Japanese Society of Carbohydrate Research, Hilton Hawaiian Village Beach Resort & Spa, Honolulu, HI (2004).

C.3. Kakizaki I, Kojima K, Takagaki K, Endo M, Kannagi R, Yasuda T, Mita Y, Kimata K, and Itano N: A Novel Inhibition Mechanism of Hyaluronan Synthesis by 4-Methylumbelliferone. Joint Meeting of the Society for Glycobiology and the Japanese Society of Carbohydrate Research, Hilton Hawaiian Village Beach Resort & Spa, Honolulu, HI (2004).

C.4. Ibori N, Iwafune M, Kon A, Kakizaki I, Kuno A, Kaneko S, and Takagaki K: The Behavior of Xylanase in Xylosyl Serine Linkage between a Core Peptide and a Glycosaminoglycan Chain. Joint Meeting of the Society for Glycobiology and the Japanese Society of Carbohydrate Research, Hilton Hawaiian Village Beach Resort & Spa, Honolulu, HI (2004).

C.5. Kojima K, Kon A, Kakizaki I, Kudo Y, and Takagaki K: Analysis of Glycosaminoglycan Oligosaccharides by Ion-Spray Mass Spectometry. Joint Meeting of the Society for Glycobiology and the Japanese Society of Carbohydrate Research, Hilton Hawaiian Village Beach Resort & Spa, Honolulu, HI (2004).

2005年度

A.1. Takagaki K, Kakizaki K, Kon A, and D.C. Gowda: Eyzymatic reconstruction of glycosaminoglycans. XVIII International Symposium on Glycoconjugates, Florence, Italy, 2005.

B.1. Yoshihara S, Nakazawa H, Morohashi H, Kon A, Takagaki K, and Sasaki M: A hyaluronan synthase suppressor, 4-methylumbelliferone, inhibits liver metastasis of pancreatic cancer cells. The 9th meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science, “New targets for cancer prevention and therapy”, Hirosaki, Japan , 2005.

C.1. Kakizaki I, Itano N, Kon A, Hanada K, Kimata K, and Takagaki K: Effect of UV Irradiation on Hyaluronan Synthases in Cultured Human Epidermal Keratinocytes. VIII International Symposium on Glycoconjugates, Florence, Italy, 2005.

C.2. Ohshika S, Kon A, Uesato R, Ishibashi Y, Kusumi T, Kijima H, Toh S, and Takagaki K: Regulation of

Cell Proliferation and Specific Gene Expression in Chondrocytes by Addition of Exogenous Cartilage Proteoglycan. VIII International Symposium on Glycoconjugates, Florence, Italy, 2005.

C.3. Taniguchi R, Kakizaki I, Tanaka K, Higuchi T, Kon A, Mizunuma H, and Takagaki K: Aging-associated changes in bone and proteoglycan. VIII International Symposium on Glycoconjugates, Florence, Italy, 2005.

C.4. Morohashi H, Yoshihara S, Kakizaki I, Kon A, Sasaki M, and Takagaki K: Comparative studies of 4-methylumbelliferone-derivatives-mediated inhibitory effect on hyaluronan synthesis. VIII International Symposium on Glycoconjugates, Florence, Italy, 2005.

C.5. Yoshihara S, Nakazawa S, Morohashi H, Sasaki M, and Takagaki K: 4-methylumbelliferon, a hyaluronan synthase suppressor, enhances the anticancer activity of gemcitabine in human pancreatic cancer cells. VIII International Symposium on Glycoconjugates, Florence, Italy, 2005.

C.6. Yamaguchi M, Ishida H, Kanamori A, Kannagi R, Kiso M: Lactamized sialyl 6-O-sulfo paragloboside & Lewis X neoglycolipids: synthesis and antigenic reactivity against G159 monoclonal antibody. VIII International Symposium on Glycoconjugates, Florence, Italy, 2005.

C.7. Kon A, Kudo D, Ito N, Morohashi H, Yamaguchi M, Kakizaki I, Yoshihara S, Sasaki M, Endo M, and Takagaki K: A novel aspect of 4-methylumbelliferone: suppressive effect on hyaluronan synthesis inhibits the metastasis of skin cancer cells. The 9th meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science, “New targets for cancer prevention and therapy”, Hirosaki, Japan, 2005.

C.8. Kakizaki I, Itano N, Kimata K, Kon A, Yamaguchi M, Yoshihara S, Sasaki M, and Takagaki K: An inhibition mechanism of hyaluronan synthesis by 4-methylumbelliferon. The 9th meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science, “New targets for cancer prevention and therapy”, Hirosaki, Japan, 2005.

C.9. Morohashi H, Yoshihara S, Nakai M, Yamaguchi M, Kakizaki I, Kon A, Sasaki M, and Takagaki K: Coumarin derivatives with hydroxyl groups strongly inhibits the hyaluronan synthesis of the pancreas and colon cancer cell. The 9th meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science, “New targets for cancer prevention and therapy”, Hirosaki, Japan, 2005.

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 高垣啓一：プロテオグリカンのグライコーム解析へのアプローチ．第36回日本臨床検査医学会東北支部総会・第15回日本臨床化学会東北支部総会合同開催，弘前市，2004.

A.2. 高垣啓一：エンド型グリコシダーゼを用いたプロテオグリカンの合成．第53回高分子討論会，札幌市，2004.

A.3. 高垣啓一：プロテオグリカンに関連する糖鎖工学的道具としての酵素の開発．文部科学省科学研究費補助金基盤研究C（企画調査）公開シンポジウム「酵素と糖鎖工学」，京都市，2004.

A.4. 高垣啓一:皮膚細胞外マトリックス成分としてのヒアルロン酸. 第68回日本皮膚科学会東京支部学術大会，東京都，2004.

A.5. 高垣啓一：光障害とプロテオグリカン．太陽紫外線防御研究委員会第15回シンポジウム，弘前市，2005.

B.1. Kon A, Ito N, Kudo Y, Kakizaki I, Takeda H, and Takagaki K: Tissue specific transcription of type VII collagen gene (COL7Al) in the skin by ultraviolet (UV) and UV-related cytokines, with special reference to photoaged skin. 第77回日本生化学会大会（ワークショップ），横浜市，2004.

B.2. Ibori N, Iwafune M, Kon A, Kakizaki I, Kuno A, Kaneko S, and Takagaki K: The behavior of xylanase in xylosyl serine linkage between a core peptide and a glycosaminoglycan chain. 第77回日本生化学会大会(ワークショップ)，横浜市，2004.

B.3. Ohshika S, Kon A, Ishibashi Y, Kusumi T, Tanaka M, Toh S, and Takagaki K: Effect of exogenous proteoglycan on cultured chondrocyte. 第77回日本生化学会大会（ワークショップ），横浜市，2004.

C. 9件

2005年度

B.1. 井堀信行，岩船美都，久野　淳，平林　淳，金子　哲，柿崎育子，今　　淳，高垣啓一：キシラナーゼのグリコサミノグリカン橋渡し領域への作用様式の研究．第25回日本糖質学会年会，大津市，2005.

B.2. 高垣啓一，柿崎育子，今　　淳，山口真範：細胞周囲ヒアルロン酸マトリックスの合成制御と機能解析．日本薬学会第126年会，仙台市，2006.

C. 13件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2004年度

株式会社　角弘
代表研究者　高垣啓一
「サケ鼻軟骨由来プロテオグリカンのコアタンパク質構造解析」
和光純薬工業株式会社
代表研究者　高垣啓一
「臨床検査薬の開発に係わるプロテオグリカンの評価研究」

株式会社　エル・アイ・アイ
代表研究者　高垣啓一（地域共同研究センター副センター長）
「セルロース性食品素材が腸内環境に及ぼす影響」
Pennsylvania State University, College of Medicine
代表研究者　高垣啓一
「The Glycosaminoglycan structure required for binding of malaria-infected red blood cells (IRBCs) to placenta」
愛知医科大学分子医科学研究所
代表研究者　柿崎育子
「紫外線照射がヒアルロン酸合成酵素の発現に及ぼす影響」
大塚製薬株式会社　分子医科学研究所
代表研究者　高垣啓一
「マウスヒアルロニダーゼに関する研究」

2005年度

株式会社　角弘
代表研究者　高垣啓一
「プロテオグリカンのオーダーメイド」
Pennsylvania State University, College of Medicine
代表研究者　高垣啓一，研究分担者　柿崎育子
「The Glycosaminoglycan structure required for binding of malaria-infected red blood cells (IRBCs) to placenta」
大塚製薬株式会社　分子医科学研究所
代表研究者　高垣啓一
「オリゴ糖鎖の生理活性探索」
グライコジャパン株式会社
代表研究者　高垣啓一
「オリゴ糖鎖の合成研究」
愛知医科大学分子医科学研究所
代表研究者　柿崎育子
「ヒト表皮角化細胞のヒアルロン酸代謝に及ぼす紫外線照射の影響」
京都大学大学院生命科学研究科　統合生命科学専攻分子応答機構学分野
代表研究者　山口真範
「ビフィズス菌由来のエンドグリコシダーゼによるペプチドへの糖鎖付加」

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として
特定領域研究 (2) 「エンド型グリコシダーゼを用いたプロテオグリカン糖鎖の改変と機能変化」
代表者　高垣啓一　1,800 千円
基盤研究 (B)(2) 「エンド型グリコシダーゼを用いたリコンビナントプロテオグリカン糖鎖の再生」
代表者　高垣啓一　3,000 千円

2005年度

研究代表者として
基盤研究 (B) 「エンド型グリコシダーゼを用いたリコンビナントプロテオグリカン糖鎖の再生」
代表者　高垣啓一，研究分担者　今　　淳，柿崎育子　3,000 千円
基盤研究 (C) 「胎児創傷治癒機構の解明：皮膚再生機構マスター遺伝子の発掘」
代表者　今　　淳　1,200 千円
若手研究 (B) 「ヒアルロン酸合成阻害剤を用いた抗線維化療法の開発」
代表者　柿崎育子　2,200 千円

（2）その他の省庁からの研究費

2004年度

研究代表者として
都市エリア産学官連携促進事業（文部科学省）「プロテオグリカンの機能性部位のオーダーメイド」 代表者　高垣啓一　4,000 千円
都市エリア産学官連携促進事業（文部科学省）「プロテオグリカンを利用した皮膚疾患治療薬及びスキンケア商品の開発」 代表者　今　　淳　3,000 千円
都市エリア産学官連携促進事業（文部科学省）「医薬品を目指した機能性糖鎖の大量調整」
代表者　柿崎育子　2,000 千円
ナノテクノロジー関連研究開発パイロットプロジェクト経費（青森県）「プロテオグリカンのオーダーメイド技術の開発」 代表者　高垣啓一　9,570 千円

2005年度

研究代表者として

都市エリア産学官連携促進事業（文部科学省）「プロテオグリカンの機能性部位のオーダーメイド」 代表者　高垣啓一　研究分担者　今　　淳，柿崎育子　150,000 千円

（3）学内の研究助成

2004年度

研究代表者として

平成 16 年度弘前大学学長指定重点研究「プロテオグリカン研究拠点の構築」
代表者　高垣啓一　4,610 千円

平成 16 年度戦略的経費（③地域との連携及び国際交流の推進のため必要な経費）「都市エリア産学官連携事業の推進事業に係る経費」 代表者　高垣啓一　7,000 千円

他研究単位との研究分担者として

平成 16 年度弘前大学学長指定重点研究「利胆剤ヒメクロモン (4-methyumbelliferon) の抗腫瘍効果の検討」　代表者　吉原秀一　研究分担者　高垣啓一，今　　淳，柿崎育子　3,000 千円

平成 16 年度弘前大学学長指定重点研究「無痛性マイクロニードルの開発―アスコルビン酸含有針による美白効果の検討―」 代表者　花田勝美　研究分担者　高垣啓一　1,800 千円

2005年度

他研究単位との研究分担者として

平成 17 年度弘前大学学長指定重点研究「利胆剤ヒメクロモン (4-methyumbelliferon) の抗腫瘍効果の検討」　代表者　吉原秀一　研究分担者　高垣啓一，今　　淳，柿崎育子　2,000 千円

平成 17 年度弘前大学学長指定重点研究「無痛性マイクロニードルの開発―アスコルビン酸含有針による美白効果の検討―」 代表者　花田勝美　研究分担者　高垣啓一　200 千円

平成 17 年度弘前大学学長指定重点研究「機能性物質の構築と生命現象の解明のための研究―医・農薬や機能性の実用化に向けて―」 代表者　北原晴男　研究分担者　高垣啓一　200 千円

平成 17 年度弘前大学学長指定重点研究「AOB 血液型不適応移植における免疫順応と血液型糖鎖抗原に関する研究」 代表者　大山　力　研究分担者　高垣啓一　500 千円

平成 17 年度弘前大学学長指定緊急重点研究「アスベスト関連疾患，中皮腫の新たな治療に向けた統合的展開」 代表者　鬼島　宏　研究分担者　高垣啓一　150 千円

（4）民間の研究助成

2004年度

研究代表者として

平成 16 年度学術国際振興基金助成「B-3　外国人研究者の招へいの助成」
代表者　高垣啓一　500 千円

平成 16 年度学術国際振興基金助成「A-2　国内学会・研究集会・学術講演の助成」
代表者　高垣啓一　150 千円

2005年度

研究代表者として

平成 17 年度学術国際振興基金助成「A-2　国内学会・研究集会・学術講演の助成」
代表者　高垣啓一　150 千円

平成 17 年度学術国際振興基金助成「A-2　国内学会・研究集会・学術講演の助成」
代表者　高垣啓一　63 千円

平成 17 年度学術国際振興基金助成「C-2　地域企業と大学の共同研究の助成」
代表者　高垣啓一　500 千円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2004年度

Achur, Rajeshwara N. Department of Biochemistry and Molecular Biology, The Pennsylvania State College of Medicine.　アメリカ合衆国，2004 年 9 月 1 日～ 15 日

2005年度

Gowda, Chann D. Department of Biochemistry and Molecular Biology, The Pennsylvania State College of Medicine・Professor.　アメリカ合衆国，2005 年 4 月 20 日～ 26 日

Veer P Bhavanandan. Center for Glycosciences and Technology, The Biodesign Institute・Research Professor.
アメリカ合衆国，2005 年 4 月 20 日～ 26 日

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004 年度

高垣啓一．第３回プロテオグリカン研究会．弘前市（2005）

2005 年度

高垣啓一．第４回プロテオグリカン研究会　The 4th Proteoglycan Meeting in Hirosaki University．弘前市　2005 年 4 月 23 日
高垣啓一．第５回プロテオグリカン研究会．弘前市　2005 年 4 月 26 日
高垣啓一．弘前都市エリア産学官連携促進事業「プロテオグリカン応用研究プロジェクト」（第６回プロテオグリカン研究会）．弘前市　2005 年 8 月 2 日

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

６．生化学第二講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

１．GST 遺伝子多型ラットを用いて，ペルオキシソーム増殖剤の肝発がん性を６－８週間の短期投与で評価できる新しい方法を開発した。

２．ラット肝前がん病変での GST の発現に係わる転写因子の解明は，目立った進展を得られなかったが，GST の機能については，いくつかの興味深い知見が得られた。

３．MAPK 経路の阻害タンパク質の１つ，phosphatidylethanolamine-binding protein (PEBP) が，表皮細胞の分化誘導に働くことを解明した。

４．弘前ヘアレスラット (HHR) の原因遺伝子の解明に向けて，転写因子 STAT5A が単糖 (N-acetylglucosamine) により修飾を受けて（O-GlcNAc 修飾），活性化を受けること，HHR では O-GlcNAc 修飾が亢進していることを明らかにした。

全体的に，２年前の目標は80％程度達成できたと考えられる。

理念：

１．スタッフ，大学院学生，その他の人々の英知と創造力を結集して，学術的に意義のある国際的評価を得られる質の高い研究を行なう。

２．学内及び外国を含む学外との共同研究を積極的に行ない，教室の研究を深め，また新たな展開を図るように努める。

３．教室の研究成果を社会に還元するよう努め，また，研究成果の活用を通して，社会及び地域に貢献することを目指す。

４．これらの研究活動を通して教室員の研究能力の向上を図り，研究者としての倫理観と良心を備えたすぐれた研究者の養成，人材の育成に努める。

これから２年間の目標：

１．グルタチオントランスフェラーゼ遺伝子多型ラットを用いて，ペルオキシソーム増殖剤の肝発がん性を短期間の投与で評価できる方法を開発する。

２．遺伝子多型ラットでペルオキシソーム増殖剤に対する発がん感受性が異なる機序を解明する。

３．弘前ヘアレスラットの原因遺伝子と発毛異常の機序を解明する。

４．がんの転移におけるカルボニル還元酵素の役割を解明する。

５．ラットに加齢に伴い出現する肝自然発生腫瘍のマーカーを開発する。

６．その他の教室の研究テーマを継続し，その進展に全力で取組む。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　5，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	土田　成紀	1年
	助教授	専　任	早狩　誠	９か月（平成16年11月まで）
	助　手	専　任	清水　武史	11か月（平成16年５月から）
研究課題	１．グルタチオントランスフェラーゼの遺伝子多型と発がん感受性 ２．グルタチオントランスフェラーゼの発現制御機構 ３．細胞増殖と分化，ストレス応答の制御機構 ４．Mitogen-activated protein kinase 経路の阻害タンパク質の機能 ５．がん抑制遺伝子 RB と p53による増殖抑制と分化誘導機構 ６．がん転移と血管新生におけるカルボニル還元酵素の役割 ７．肥満におけるアンジオテンシン変換酵素の役割 ８．弘前ヘアレスラットの原因遺伝子の解明			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　4，研究生　1			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	土田　成紀	1年
	助教授	専　任	山田　俊幸	1年
	助　手	専　任	清水　武史	1年
研究課題	1．グルタチオントランスフェラーゼの遺伝子多型と発がん感受性 2．グルタチオントランスフェラーゼのがんにおける機能 3．細胞増殖と分化，ストレス応答の制御機構 4．Mitogen-activated protein kinase 経路の阻害タンパク質の機能 5．弘前ヘアレスラットの原因遺伝子の解明 6．がん転移と血管新生におけるカルボニル還元酵素の役割 7．ETS ファミリー転写因子とホメオドメインタンパク質の相互作用が血球分化に及ぼす影響 8．ホメオドメインタンパク質 HOXC13の発現制御と翻訳後修飾の解析			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Takahata T, Kumano T, Ookawa K, Hayakari M, Kakaizaki I, Tsuchida S: Inhibition of 3T3-L1 adipocyte differentiation by 6-ethoxyzolamide: repressed peroxisome proliferator-activated receptor γ mRNA and enhanced CCAAT/enhancer binding protein β mRNA levels. Biochem Pharmacol 2004;67:1667-75.

A.2. Yamazaki T, Nakano H, Hayakari M, Tanaka M, Mayama J, Tsuchida S: Differentiation induction of human keratinocytes by phosphatidylethanolamine-binding protein. J Biol Chem 2004;279:32191-5.

2005年度

A.1. Nanashima N, Asano J, Hayakari M, Nakamura T, Nakano H, Yamada T, Shimizu T, Akita M, Fan Y, and Tsuchida S: Nuclear localization of STAT5A modified with O-linked N-acetylglucosamine and early involution in the mammary gland of Hirosaki hairless rat. J Biol Chem 2005;280:43010-6.

B.*1. *Nakano H, Ikenaga S, Aizu T, Kaneko T, Matsuzaki Y, Tsuchida S, Hanada K, and Arima Y: Human metallothionein gene expression is upregulated by β-thujaplicin: possible involvement of protein kinase C and reactive oxygen species. Biol Pharm Bull 2006;29:55-9.

B.*2. *Satoh K, Takahashi G, Miura T, Hayakari M, Hatayama I: Enzymatic detection of precursor cell populations of preneoplastic foci positive for gamma-glutamyltranspeptidase in rat liver. Int J Cancer 2005;115:711-6.

C.1. Kihara-Negishi F, Suzuki M, Yamada T, Sakurai T, Oikawa T: Impaired repressor activity and biological functions of PU.1 in MEL cells induced by mutations in the acetylation motifs within the ETS domain. Biochem Biophys Res Commun 2005;335:477-84.

C.2. Teramoto S, Kihara-Negishi F, Sakurai T, Yamada T, Hashimoto-Tamaoki T, Tamura S, Kohno S, Oikawa T: Classification of neural differentiation-associated genes in P19 embryonal carcinoma cells by their expression patterns induced after cell aggregation and/or retinoic acid treatment. Oncogene Rep 2005;14:1231-8.

C.3. Nasir KHB, Takahashi Y, Ito A, Saitoh H, Matsumura H, Kanzaki H, Shimizu T, Ito M, Fujisawa S, Sharma PC, Ohme-Takagi M, Kamoun S, Terauchi R: High-throughput in planta expression screening identifies a class II ethylene-responsive element binding factor-like protein that regulates plant cell death and non-host resistance. Plant J 2005;43:491-505.

和文

2005年度

A.1. 棟方栄治，土田成紀：Uncoupling protein 2 の新たな遺伝子多型の検出と肥満との関係について．弘前医学 2005;57:35-42.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文

2005年度

A.1. Oikawa T, Yamada T, Kihara-Negishi F, Sakurai T. Ets family of transcription factors in normal hematopoiesis and in leukemogenesis (Review). Ed. By D. Sinnet, Molecular Genetics of Cancer, pp.119-48, Research Signpost, 2005.

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 土田成紀，工藤敏啓，浅野純平，間山　淳，清水武史，范　　洋，早狩　誠：Mu クラスのグルタチオントランスフェラーゼ遺伝子多型ラットにおけるクロフィブレート肝発がん感受性の差異．第 24 回日本分子腫瘍マーカー研究会誌，2004;90-1.

A.2. 土田成紀：SD ラットの遺伝子多型を利用したペルオキシソーム増殖剤の肝発がん性の短期検索法．平成 14 年 LRI 研究概要要旨，2004;24.

2005年度

A.1. 清水武史，工藤敏啓，浅野純平，七島直樹，范　　洋，山田俊幸，土田成紀：ペルオキシソーム増殖剤によるラット肝前がん病変における炭酸脱水酵素 III の欠損．第 25 回日本分子腫瘍マーカー研究会誌，2004;56-7.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Biol Chem	6.696	1	6.696
Biochem Pharmacol	2.993	1	2.993
Total		2	9.689

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Biol Chem	6.355	1	6.355
Biol Pharm Bull	1.392	1	1.392
Int J Cancer	4.416	1	4.416
Total		3	12.163

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
弘前医学	0	1
計	0	1

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	1

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
日本分子腫瘍マーカー研究会誌	1	1
計	1	1

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2005年度

B.1. Tsuchida S, Kudo T, Asano J, Shimizu T, Nanashima N, Fan Y, Akita M, Hayakari M, and Yamada T: Different susceptibility to peroxisome proliferator-induced hepatocarcinogenesis in rats with polymorphic glutathione transferase gene. 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, November 2005.

C.1. Yamada T, Suzuki M, Satoh H, Kihara-Negishi F, Nakano H, Oikawa T, and Tsuchida S: Effects of PU.1-induced mouse calcium-calmodulin-dependent kinase I-like kinase (CKLiK) on apoptosis of murine erythroleukemia cells. 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, November 2005.

C.2. Kusumi T, Tsuchida S, Nishi T, Tanaka M, Sato F, Kusumi A, Kudo H, and Kijima H: A murine osteosarcoma cell line, NHOS, has a potential to develop endochondral ossification by transplantation. 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, November 2005.

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 土田成紀：SDラットの遺伝子多型を利用したペルオキシソーム増殖剤の肝発がん性の短期検索法．第3回日本化学工業協会LRI研究報告会，東京，2004.

A.2. 工藤敏啓，土田成紀：グルタチオントランスフェラーゼ遺伝子多型ラットにおけるペルオキシソーム増殖剤肝発がん感受性の差異．発がんと防御若手ワークショップ，蓼科，2004.

C.　9件

2005年度

C.　10件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2004年度

早狩　誠．アンジオテンシン変換酵素阻害物質を有するカボチャ成分による脂肪蓄積の抑制および記憶保持増強効果の検討．東北化学薬品　10万円

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

萌芽研究「カルボニル還元酵素による卵巣がん転移抑制の分子機構」 代表者　土田成紀　90万円

2005年度

研究代表者として

基盤研究C2 「Etsファミリー転写因子とホメオドメインタンパク質の相互作用が血球分化に果たす役割」代表者　山田俊幸　140万円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2004年度

研究代表者として

学長重点研究「遺伝子多型ラットを用いた化学物質発がん性の短期検索法」
代表者　土田成紀　160万円
学術国際振興基金，外国人研究者との共同研究の助成 (B-2)「カルボニル還元酵素の発現による癌転移の抑制」 代表者　土田成紀　100万円
青森医学振興会，先進的研究推進のための助成「遺伝子多型による発がん感受性と抗がん剤感受性の予測」　代表者　土田成紀　100万円
遠藤正彦学長記念研究助成金「細胞老化の誘導によるがんの治療」 代表者　土田成紀　150万円
学術国際振興基金 (C-1)「アンジオテンシン変換酵素阻害物質を有するカボチャ成分による脂肪蓄積の抑制および記憶保持増強効果の検討」 代表者　早狩　誠　50万円

2005年度

研究代表者として

学長重点研究「遺伝子多型ラットを用いた化学物質発がん性の短期検索法」
代表者　土田成紀　110万円
開催の助成 (B-1)，学術国際振興基金「9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science」　代表者　土田成紀　50万円
外国人研究者の招聘の助成 (B-3)，学術国際振興基金　代表者　土田成紀　50万円
医学部研究基金「発毛に係わる遺伝子の網羅的解析と弘前ヘアレスラット (HHR) における発毛異常機構の解析」 代表者　土田成紀　500万円
第24回唐牛記念医学研究基金「白血病における ETS ファミリー転写因子とホメオドメインタンパク質の相互作用の役割」 代表者　山田俊幸　350万円

（4）民間の研究助成

2004年度

研究代表者として

(社) 日本化学工業協会長期自主研究「SD ラットの遺伝子多型を利用したペルオキシソーム増殖剤の肝発がん性の短期検索法」 代表者　土田成紀　300万円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

2005年度

第9回弘前国際医学フォーラム (9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science)，弘前，平成17年11月10，11日

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2005年度

John D. Hayes (Ninewells Hospital and Medical School, University of Dundee, Scotland, UK)　平成17年11月8日－13日

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2004年度

范　　洋（中国）　大学院学生

2005年度

范　　洋（中国）　大学院学生

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

7．薬理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

（設定した目標）

1．Impact factor のついた学術雑誌に年３報以上の英文論文を発表。そのうち１報以上は first author か corresponding author を目標とする。
2．大学院生の研究指導と成果の迅速な論文化
3．助手，技官への研究助言
4．国際学会，全国レベルの学会等のシンポジウムで発表
5．科学研究費あるいは他省庁の研究費に１件以上採択

（到達度）

1．IF 値のついた英語論文を５報発表し，うち２報 (A-1, A-2) は corresponding author であったため，到達度は100％
2．卒業前に大学院生の論文を公表出来た (A-3)。従って到達度は100％
3．助手の研究に助言し，論文発表にこぎ着けた (A-2)。従って到達度は 100％
4．国際学会で３件発表した。また全国レベルの学会のシンポジウムのオーガナイザーを務め，かつシンポジストとしても発表した。従って到達度は100％
5．文科省科研費，厚労省科研費をそれぞれ獲得した。従って到達度は100％

理念：

1．常に新しいテーマを模索すること。
2．臨床を視野に入れた基礎研究を指向する。
3．研究成果を教育に反映させる。
4．共同研究を推進する。

これから２年間の目標：

1．Impact factor のついた学術雑誌に年３報以上の英文論文を発表。そのうち１報以上は first author か corresponding author を目標とする。
2．大学院生の研究指導と成果の迅速な論文化
3．助手，技官への研究助言
4．国際学会，全国レベルの学会等のシンポジウムで発表
5．科学研究費あるいは他省庁の研究費に１件以上採択

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　2，医員　0，大学院学生　4，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	元村　成	12ヶ月
	助教授	専　任	古川　賢一	12ヶ月
	助　手	専　任	瀬谷　和彦	12ヶ月
	助　手	専　任	樋熊　拓未	12ヶ月
研究課題	1．後縦靱帯骨化症の骨化の発生・進展のメカニズム 2．血管平滑筋細胞の Ca^{2+} シグナリング 3．房室結節伝導の生理薬理 4．不整脈発症に関連する遺伝子発現変異と治療薬の作用点の解析 5．カルシウム拮抗薬の薬理 6．冠循環の生理薬理 7．天然生理活性物質の薬理作用の解析 8．心筋細胞アポトーシスのミトコンドリア内からの誘導機構の解明 9．心筋細胞のアポトーシスを抑制する物質の探索 10．異所性骨化のメカニズム解析			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　2，医員　0，大学院学生　4，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	元村　　成	12ヶ月
	助教授	専　任	古川　賢一	12ヶ月
	助　手	専　任	瀬谷　和彦	12ヶ月
	助　手	専　任	木村　正臣	12ヶ月
研究課題	1．後縦靱帯骨化症の骨化の発生・進展のメカニズム 2．血管平滑筋細胞の Ca^{2+} シグナリング 3．房室結節伝導の生理薬理 4．不整脈発症に関連する遺伝子発現変異と治療薬の作用点の解析 5．カルシウム拮抗薬の薬理 6．冠循環の生理薬理 7．天然生理活性物質の薬理作用の解析 8．心筋細胞アポトーシスのミトコンドリア内からの誘導機構の解明 9．心筋細胞のアポトーシスを抑制する物質の探索 10．異所性骨化のメカニズム解析			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Iwasaki K, Furukawa K-I, Tanno M, Kusumi M, Ueyama K, Tanaka M, Kudo H, Toh S, Harata S, Motomura S. Uni-axial cyclic stretch induces Cbfa1 expression in spinal ligament cells derived from patients with ossification of posterior longitudinal ligaments. Calcified Tissue International 2004;74:448-457.

A.2. Taniguchi S, Furukawa K-I, Sasamura S, Ohizumi Y, Seya K, Motomura S. Gene expression and functional activity of sodium/calcium exchanger were enhanced in vascular smooth muscle cells of spontaneously hypertensive rats. Journal of Cardiovascular Pharmacology 2004;43:629-637.

A.3. Miki I, Seya K, Motomura S, Furukawa K-I. Vasodilator Effects of Urocortin on Rat Aortae: Strain Difference in Contribution of Endothelium. Journal of Pharmacological Science 2004;96:170-176.

A.4. Kimura M, Kobayashi T, Owada S, Ashikaga K, Higuma T, Sasaki S, Iwasa A, Motomura S, Okumura K. Mechanism of ST Elevation and Ventricular Arrhythmias in an Experimental Brugada Syndrome model : Circulation: 2004;109:125-131.

2005年度

A.1. Seya K, Furukawa K-I, Yoshida K, Narita R, Motomura S. Nifedipine enhances cGMP production through the activation of guanylyl cyclase in rat cardiac muscle. Journal of Pharmacy and Pharmacology, 2005;57:511-514.

A.2. Horai Y, Furukawa K-I, Iwata S, Ohizumi Y. pH Change-induced increase in perfusion pressure of the rat coronary artery enhanced by elevation of blood pressure. Journal of Pharmacological Science, 2005;97:400-407.

A.3. Ashikaga K, Kobayashi T, Kimura M, Owada S, Sasaki S, Iwasa A, Furukawa K-I, Motomura S, Okumura K. Effects of amiodarone on electrical and structural remodeling induced in a canine rapid pacing-induced persistent atrial fibrillation model. European Journal of Pharmacology 2006;536:148-153.

A.4. Owada S, Iwasa A, Sasaki S, Higuma T, Kimura M, Kobayashi T, Ashikaga K, Okumura K. "V-H-A Pattern" as a criterion for the differential diagnosis of atypical AV nodal reentrant tachycardia from AV reciprocating tachycardia. Pacing Clin Electrophysiol. 2005 Jul;28(7):667-74.

B.1. Ikeda R, Yoshida K, Tsukahara S, Sakamoto Y, Tanaka H, Furukawa K-I, Inoue I. PLZF promotes osteoblastic differentiation of human mesenchymal stem cells as an upstream regulator of CBFA1. Journal of Biological Chemistry 2005;280:8523-8530.

和文　なし

（2）総説

英文

2005年度

A.1. Furukwa K-I. Molecular Basis of Ectopic Bone Formation Induced by Mechanical Stress. Journal of Pharmacological Science (2006);100:201-204.

和文

2004年度

A.1. 古川賢一：メカニカルストレスと生体応答．化学と生物，2004;42:286-287.
A.2. 岩崎弘英，古川賢一，丹野雅彦，楠美智巳，植山和正，岡田晶博，元村　成，原田征行，籐　　哲：脊柱靱帯骨化症発症症におけるメカニカルストレスの関与．別冊整形外科，2004;45:47-51.

2005年度

A.1. 木村正臣，奥村　謙：心室頻拍．救急・集中治療，2005;17:90-96.
A.2. 木村正臣，奥村　謙：抗不整脈薬による心臓突然死の予防．循環器科，2005;58:491-497.
A.3. 佐々木真吾，堀内大輔，小林孝男，木村正臣，足利敬一，岩佐　篤，奥村　謙：電気生理検査所見からみた不整脈の機序．Heart View，2005;9(12):60-64.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 樋熊拓未，芦立俊宗，加藤千里，堀内大輔，横田貴志，田村有人，木村正臣，小林孝男，佐々木真吾，須藤直行，横山　仁，岩佐　篤，花田裕之，長内智宏，奥村　謙：肺高血圧症にて発症した肺動脈肉腫の一例（症例報告）．Circulation Journal，2005;69:950.
A.2. 佐々木真吾，岩佐　篤，小林孝男，木村正臣，足利敬一，堀内大輔，奥村　謙：右室－左室間の electrical dissociation を呈した難治性拡張型心筋症の一例（症例報告）．心電図，2005;25:433.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Calcified Tissue International	2.3	1	2.3
Journal of Cardiovascular Pharmacology	1.8	1	1.8
Journal of Pharmacological Science	1.5	1	1.5
Circulation	11.0	1	11.0
Total		4	16.6

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Pharm Pharmacol	1.350	1	1.350
J Pharmacol Sci	1.750	1	1.750
Eur J Pharmacol	2.477	1	2.477
Pace-Pacing and Clinical Electrophysiology	1.279	1	1.279
J Biol Chem	5.854	1	5.854
Total		5	12.710

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
救急・集中治療		1
循環器科		1
Heart View		1
計	0	3

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
Circulation Journal 心電図		1 1
計	0	2

Ⅱ．学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2004年度

C.1. Iwasaki K, Furukawa K-I, Tanno M, Kusumi T, Ueyama K, Iwasawa T, Harata S, Motomura S, Toh S. Uniaxial Cyclic Stretch Induces Core Binding Factor Alpha1 Expression in Spinal Ligament Cells Derived from Patients with Ossification of Posterior Longitudinal Ligaments. 50th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, San Francisco, CA, USA, 2004.

C.2. Iwasawa T, Furukawa K-I, Iwasaki K, Okada A, Ueyama K, Motomura S, Inoue I, Harata S, Toh S. A Genome-wide Transcriptome Analysis of Mechanical Stress-Induced Gene Expression in Spinal Ligament Cells Derived from Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligaments. 50th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, San Francisco, CA, USA, 2004.

C.3. Seya K., Furukawa K-I, Motomura S. Regulation of cytochrome c release via cardiac mitochondrial NO-cGMP pathway in rat. The sixth European Meeting on Mitochondrial Pathology, Nijimegen, Netherland, 2004.

2005年度

C.1. Iwasawa T, Furukawa K-I, SawadaT, Iwasaki K, Okada A, Ueyama K, Motomura S, Inoue I, Harata S, Toh S. The role of endothelin-1 for ectopic bone formation in the spinal ligaments. 51st Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, Washington, DC, USA, 2005.

C.2. Sawada T, Furukawa K-I, Kishiya M, Motomura S, Toh S. The effects of extracellular nucleotide to cultured human fibloblast like cell from cervical ligamentum flavum. 52nd Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, Chicago, IL, USA, 2006.

C.3. Seya K, Furukawa K-I, Motomura S. Cardiac mitochondrial nitric oxide-cGMP pathway regulates myocardial apoptosis International Congress 'Mitochondria and Life 2005', Tokyo, Japan (2005).

(2) 全国学術集会

2004年度

B.1. 古川賢一，山国　徹，斉藤真也，Rohra Dileep K，大泉　康．アシドーシスによる循環器疾患とその治療薬の開発への新しいアプローチ―高血圧症との関連．第77回日本薬理学会年会 シンポジウム『循環器系関連臓器の病態とその治療薬の開発研究の新しいアプローチ』，大阪，2004

C.　7件

2005年度

B.1. 古川賢一."メカニカルストレスによって誘発される異所性骨化"．第78回日本薬理学会年会シンポジウム『骨代謝研究の最近のトピックス』．オーガナイザー及び講演，横浜，2005

C.　10件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2004年度

1. 東北大学大学院薬学研究科　教授 大泉　康
   ”アシドーシスによって誘発される血管平滑筋収縮の機構の解明”
2. 東北大学大学院薬学研究科　教授 大島吉輝
   ”天然生理活性物質による内皮機能の調節”
3. 名城大学薬学部　教授 丹羽正武
   ”ブドウ科植物に含まれる機能性成分の薬理作用の解明”
4. 東京大学医科学研究所　助教授 井ノ上逸朗
   ”脊柱靭帯骨化症の原因遺伝子の解明”

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

1. 科研費基盤研究(B)／機械的ストレスが誘発する異所性骨化の関連遺伝子解析とそれを標的とする薬物の探索　代表者　古川賢一　9,300千円
2. 科研費基盤研究(C)／新しい薬理学的不整脈モデルにおける心筋M細胞の薬理治療学的意義の解析　代表者　元村成　　2,700千円

2005年度

研究代表者として

科研費基盤研究(B),”機械的ストレスが誘発する異所性骨化の関連遺伝子解析とそれを標的とする薬物の探索”　代表者　古川賢一　280万円

(2) その他の省庁からの研究費

2005年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究　”脊柱靭帯骨化症”
分担者　古川賢一　50万円

(3) 学内の研究助成

2004年度

研究代表者として

弘前大学教育改善推進費／メカニカルストレスが誘発する異所性骨化の関連遺伝子解析
古川賢一　500万円

2005年度

他研究単位との研究分担者として

学長指定重点研究　”循環器疾患の予後を左右する石灰化の解明とその薬物治療の標的探索”
分担者　古川賢一　420万円

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

8．病理学第一講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

研究の進展がある程度みられ，糖尿病合併症学会賞を受賞できた。研究の進展から特許出願も１件でき，内容としては８割方到達できた。論文公表が，特許との関係で遅れた点が残念で今後さらに努力が必要である。

理念：

ユニークな発想における，研究の推進を目指す。

学会発表，論文公表により世界に発信する。

これから２年間の目標：

今迄の研究継続を進め，さらに高度化を目指す。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　1，助手　1，医員　1，大学院学生　1，研究生　2			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	八木橋操六	2004年4月～2005年3月
	助教授	専　任	和田　龍一	2004年4月～2005年3月
	講　師	専　任	山岸晋一朗	2004年4月～2005年3月
	助　手	専　任	水上　浩哉	2004年4月～2005年3月
研究課題	１．糖尿病性合併症の成因と治療に関する研究 ２．糖尿病での膵の病理学的研究 ３．ヒト悪性腫瘍の分子病理学的研究 ４．標的治療に向けた病理診断 ５．虚血・再灌流障害の機序の解明と予防に関する研究 ６．血管機能異常の分子生物学的検討			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　1，大学院学生　1，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	八木橋操六	2005年4月～2006年3月
	助教授	専　任	和田　龍一	2005年4月～2006年3月
	助　手	専　任	水上　浩哉	2005年4月～2006年3月
研究課題	１．各種疾病の病理病態診断 ２．糖尿病性合併症の成因と治療に関する研究 ３．ヒト悪性腫瘍の分子病理学的研究 ４．膵疾患の病理学的研究 ５．標的治療に向けた病理診断 ６．虚血・再灌流障害の機序の解明と予防に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Yamagishi SI, Suzuki T, Ohkuro H, Yagihashi S: Ossifying gastric carcinoid tumor containing bone morphogenetic protein, osteopontin and osteonectin. J Endocrinol Invest. 27(9):870-3,2004

A.2. Uehara K, Yamagishi S, Otsuki S, Chin S, Yagihashi S: Effects of polyol pathway hyperactivity on protein kinase C activity, nociceptive peptide expression, and neuronal structure in dorsal root ganglia in diabetic mice. Diabetes. 53(12):3239-47,2004

A.*3. Sugimoto K, Shoji M, Yasujima M, Suda T, Yagihashi S: Peripheral nerve endoneurial microangiopathy and necrosis in rats with insulinoma. Acta Neuropathol (Berl). 108(6):503-14,2004

A.*4. Imaizumi T, Yagihashi N, Hatakeyama M, Yamashita K, Ishikawa A, Taima K,Yoshida H, Yagihashi S, Satoh K: Upregulation of retinoic acid-inducible gene-I in T24 urinary bladder carcinoma cells stimulated with interferon-gamma. Tohoku J Exp Med. 203(4):313-8,2004

A.*5. Imaizumi T, Yagihashi N, Hatakeyama M, Yamashita K, Ishikawa A, Taima K, Yoshida H, Inoue I, Fujita T, Yagihashi S, Satoh K: Expression of retinoic acid-inducible gene-I in vascular smooth muscle cells stimulated with interferon-gamma. Life Sci. 75(10):1171-80,2004

A.6. Maruya S, Kurotaki H, Wada R, Saku T, Shinkawa H, Yagihashi S: Promoter methylation and protein expression of the E-cadherin gene in the clinicopathologic assessment of adenoid cystic carcinoma. Mod Pathol. 17(6):637-45,2004

A.7. Wada R, Yagihashi S: Nitric oxide generation and poly(ADP) ribose polymerase activation precede beta-cell death in rats with a single high-dose injection of streptozotocin. Virchows Arch. 444(4):375-82,2004

B.1 Sekido H, Suzuki T, Jomori T, Takeuchi M, Yabe-Nishimura C, Yagihashi S: Reduced cell replication and induction of apoptosis by advanced glycation end products in rat Schwann cells. Biochem Biophys Res Commun. 320(1):241-8,2004

B.2. Maruya S, Kurotaki H, Wada R, Saku T, Shinkawa H, Yagihashi S: Promoter methylation and protein expression of the E-cadherin gene in the clinicopathologic assessment of adenoid cystic carcinoma. Mod Pathol 17:637-645,2004

2005年度

A.1. Yajima N, Wada R, Yamagishi S, Mizukami H, Itabashi C, Yagihashi S: Immuno-histochemical expressions of cytokeratins, mucin core proteins, p53, and neuro-endocrine cell markers in epithelial neoplasm of appendix. Hum Pathol 36:1217-1225,2005

A.2. Maruya S, Kurotaki H, Hashimoto T, Ohta S, Shinkawa H, Yagihashi S: Inflammatory pseudotumour (plasma cell granuloma) arising in the maxillary sinus. Acta Otolaryngol 125:322-327,2005

A.3. Toki T, Katsuoka F, Kanezaki R, Xu G, Kurotaki H, Sun J, Kamio T, Watanabe S, Tandai S, Terui K, Yagihashi S, Komatsu N, Igarashi K, Yamamoto M, Ito E: Transgenic expression of BACH1 transcription factor results in megakaryocytic impairment. Blood 105:3100-3108,2005

A.4. Shikama Y, Mizukami H, Sakai T, Yagihashi N, Okamoto K, Yagihashi S: Spindle cell metaplasia arising in thyroid adenoma: characterization of its pathology and differential diagnosis. J Endocrinol Invest, 29:168-171, 2006

A.5. Baba M, Nukada H, McMorran D, Takahashi K, Wada R, Yagihashi S: Prolonged ischemic conduction failure after reperfusion in diabetic nerve. Muscle Nerve. 33:350-355,2006

C.1. Yamashita T, Wu YP, Sandhoff R, Werth N, Mizukami H, Ellis JM, Dupree JL,Geyer R, Sandhoff K, Proia RL: Interruption of ganglioside synthesis produces central nervous system degeneration and altered axon-glial interactions. Proc Natl Acad Sci U S A. 102:2725-30,2005.

C.2. Wu YP, Mizukami H, Matsuda J, Saito Y, Proia RL, Suzuki K: Apoptosis accompanied by up-regulation of TNF-alpha death pathway genes in the brain of Niemann-Pick type C disease. Mol Genet Metab. 84:9-17,2005.

和文 なし

（2）総説

英文

2005年度

A.1. Wada R, Yagihashi S: Role of advanced glycation end products and their receptors in development of diabetic neuropathy. Ann N Y Acad Sci 1043:598-604,2005

和文

2004年度

A.1. 八木橋操六，和田龍一，山岸晋一朗，水上浩哉：糖尿病性神経障害の新しい病因論と治療への展望．末梢神経 15:1-16,2004

A.2. 八木橋操六，山岸晋一朗：病理形態学からみた糖尿病性自律神経障害の発症機構．糖尿病と血管 9:22-28,2004

A.3. 八木橋操六：糖尿病神経障害の形態学的変化：臨床症候との対比から．内分泌・糖尿病科 18:8-15,2004

A.4. 和田龍一，八木橋操六：糖尿病神経障害の基礎と臨床．糖尿病神経障害研究のモデル動物．内分泌・糖尿病科 18:16-22,2004

2005年度

A.1. 八木橋操六，和田龍一：糖尿病性神経障害．サイトカイン．日本臨床63巻増刊号 6:509-515,2005

A.2. 八木橋操六：IGTの神経障害の早期診断．日本臨床63巻増刊号 6:640-646,2005

A.3. 八木橋操六：糖尿病神経障害の病態と成因．内分泌・糖尿病科 20:176-183,2005

A.4. 八木橋操六，山岸晋一朗，和田龍一：糖尿病性神経障害の分子機構からみた治療指針．臨床神経学 45:966-968,2005

A.5. 八木橋操六：糖尿病性神経障害の簡易診断基準と病期分類の試み―糖尿病性神経障害を考える会のコンセンサスから―．末梢神経 16:79-85,2005

A.6. 八木橋操六，和田龍一：糖尿病性神経障害とサイトカイン．Clinical Neuroscience 23:893-896,2005

A.7. 八木橋操六：糖尿病性神経障害の診かた・考え方．名古屋内科医会会誌 15:41-49,2005

A.8. 八木橋操六：糖尿病性神経障害の成因と治療への展望．血管医学 6:417-423,2005

A.9. 山岸晋一朗，八木橋操六：遺伝子操作動物を用いた糖尿病性神経障害発症機構の解明．糖尿病性合併症 19:126-128,2005

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 八木橋操六：糖尿病合併症成因論におけるポリオール代謝の新しい展開．医学のあゆみ（別冊），糖尿病・代謝症候群（門脇孝，小川佳宏，下村伊一郎編），医歯薬出版社，東京，417−422，2004

A.2. 和田龍一, 八木橋操六：カラーアトラス基礎病理学第4版，西村書店，東京，2004

A.3. 和田龍一, 八木橋操六：AGEs と糖尿病神経障害．AGEs 研究の最前線，今泉勉，山岸昌一編，メディカルレビュー社，東京，2004，p109-119

A.4. 八木橋操六：糖尿病性神経障害の病理形態学．手の外科医が知っておくニューロパチー．第26回末梢神経を語る会記録集．エーザイ，東京，2004，p2−14

2005年度

A.1. 八木橋操六：血管合併症の成因．グリケーション，堀田饒，豊田隆謙，門脇孝編集：糖尿病の最新医療．先端医療技術研究所，東京，151−156，2005

A.2. 八木橋操六：膵・胆道系，カラーアトラス：マクロ病理学 第3版，Cooke RA, Stewart B 著，山川光徳，横井豊治，吉野正監訳，西村書店，東京，107−118，2005

（4）その他

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 和田龍一，矢島信久，篠原雅巳，八木橋操六：新しい非肥満2型糖尿病モデル Spontaneously Diabetic Torii（SDT）ラットの末梢神経障害．第18回日本糖尿病動物研究会記録，糖尿病動物研究会編，メディカルレビュー社，東京，2005，p26

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Endocrinol Invest	1.525	1	1.525
Diabetes	8.848	1	8.848
Acta Neuropathol	2.053	1	2.053
Tohoku J Exp Med	0.7	1	0.7
Life Sci	2.158	1	2.158
Mod Pathol	3.643	1	3.643
Virchows Arch	2.227	1	2.227
Biochem Biophys Res Commun	2.094	1	2.094
Total		8	23.248

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hum Pathol	2.55	1	2.55
Acta Otolaryngol	0.791	1	0.791
Blood	10.131	1	10.131
J Endocrinol Invest	1.496	1	1.496
Muscle Nerve	2.458	1	2.458
Ann N Y Acad Sci	1.971	1	1.971
Total		6	19.397

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
末梢神経	1	1
糖尿病と血管	1	
内分泌・糖尿病科	2	1
日本臨床 63巻増刊号		1
臨床神経学		1
Clinical Neuroscience		1
名古屋内科医会会誌		1
血管医学		1
糖尿病性合併症		1
計	4	8

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	2
編　　集	0	0
分担執筆	3	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
第18回日本糖尿病動物研究会記録，糖尿病動物研会編	1	0
計	1	0

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

B.1. Yagihashi S: Lecture: Diabetic Neuropathy update, India-Japan Neuropathy Study Meeting, Tokyo, May 19, 2004

C.1. Uehara K, Yamagishi SI, Yagihashi S: Reduced protein kinase C activity and altered pain sensation in diabetic mice overexpressing human aldose reductase. International Polyol Pathway Conference, Kona, USA, March 12-17,2004

C.2. Yamagishi A, Nomura A, Yabe C, Yagihashi S: Immunohistochemical detection of aldose reductase in renal carcinoma. Utility of immunostaining for subtyping of the tumors. International Polyol Pathway Conference, Kona, USA, March 12-17,2004

C.3. Uehara K, Yagihashi S, Otsuki S, Yamagishi S: Implication of protein kinase C alterations and polyol pathway hyperactivity in sensory neuropathy in diabetic mice. 64 th American Diabetes Association, Orlando, Florida, June4-8,2004

C.4. Wada R, Yajima N, Yamamoto Y, Yamamoto H, Takeuchi M, Yagihashi S: Peripheral neuropathy in diabetic mice overexpressing receptor for advanced glycation endoproduct (RAGE). Charleston, NC, USA, August 29-September 1,2004

C.5. Yagihashi S, Wada R, Yajima N, Yamamoto Y, Yamamoto H, Takeuchi M: Peripheral neuropathy in diabetic mice overexpressing receptor for advanced glycation endoproduct (RAGE). 14th Neurodiab Meeting, Regensburg, Germany, September2-5,2004.

2005年度

A.1. Yamagishi S, Otsuki S, Mizukami H, Yagihashi S: Reduced membrane protein kinase activity and its amelioration by PPAR-gamma ligand (Pioglitazone) independent of polyol pathway in experimental diabetic neuropathy. 65th American Diabetic Association, San Diego, USA, June 10-14,2005

A.2. Yagihashi S, Yamagishi S, Otsuki S, Okamoto K: Effects of PPAR-gamma ligand, pioglitazone, on experimental diabetic neuropathy in rats

B.1. Yagihashi S: Pathogenetic mechanisms of diabetic neuropathy and treatment strategy. Special Symposium VI. 13th Korea-Japan Symposium on Diabetes Mellitus, Seoul, November 11-12,2005

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 八木橋操六：糖尿病性神経障害の新しい成因論の展開と治療戦略．第48回日本糖尿病学会学術集会．ランチョンセミナー．神戸市．5月13～15日

B.1. 山岸晋一朗，八木橋操六：シンポジウム 糖尿病合併症の分子学的アプローチ：遺伝子操作動物を用いた糖尿病性神経障害発症機構の解明．第19回糖尿病合併症学会，東京，2004年10月3日

C.1. 板橋智映子，和田龍一，八木橋操六：糖尿病性神経障害における後期糖化生成物の果たす役割の検討：後期糖化生成物の末梢神経内直接注入による形態学的変化．第46回日本糖尿病学会，東京，2004年5月13−15日

C.2. 和田龍一，八木橋操六：ストレプトゾトシンによる膵ラ氏島B細胞破壊機構：Poly（ADP ribose）polymerase発現とNicotinamideの投与効果．第93回日本病理学会，札幌市，2004年6月9-11日

C.3. 成田純子，和田龍一，辻井真理，八木橋操六：病理学第一講座における乳癌のHER2免疫染色業務の現状と工夫について．第21回北日本病理研究会，弘前市，2004年9月18日

C.4. 板橋智映子，和田龍一，八木橋操六：皮膚腫瘍の一例．第21回北日本病理研究会，弘前市，2004年9月18日

2005年度

A.1. 八木橋操六：特別講演，糖尿病性神経障害の分子機構とミトコンドリアの役割．第8回糖尿病とミトコンドリア研究会，東京都，2005年1月21日

A.2. 八木橋操六：糖尿病神経障害の成因論の新展開と治療戦略．第48回日本糖尿病学会ランチョンセミナー，神戸市，2005年5月12-14日

A.3. 八木橋操六：糖尿病性末梢神経障害の簡易診断と病期分類の試み．第16回日本末梢神経学会学術集会イーブニングセミナー，金沢市，2005年7月21-23日

A.4. 八木橋操六：受賞講演 糖尿病性神経障害の成因と治療に関する研究．第20回日本糖尿病合併症学会，Expert Investigator Award，東京，2005年10月7-8日

A.5. 八木橋操六：糖尿病性神経障害の病態と治療の最前線．第58回日本自律神経学会ランチョンセミナー，千葉市，2005年10月27-28日

B.1. 八木橋操六：糖尿病性神経障害の分子機構と治療戦略．第46回日本神経学会総会，シンポジウム10，難治性ニューロパチーの新しい治療戦略，鹿児島市，2005年5月26-28日

B.2. 八木橋操六：糖尿病性多発神経障害の病期分類に関する報告．第10回糖尿病性神経障害を考える会　イーブニングセッション，東京，2005年8

C.　22件

Ⅲ．学術賞

2005年度

第20回日本糖尿病合併症学会
Expert Investigator Award
第23回唐牛記念医学研究基金助成金（B）受賞

Ⅳ．共同研究

2004年度

1. 香港大学分子生物学研究所，糖尿病合併症の成因に関わるアルドース還元酵素の役割の研究，（弘前大学　八木橋操六，香港大学　S. Chung博士）
2. Otago大学医学部内科学，末梢神経の虚血・再灌流障害の研究，（弘前大学　八木橋操六，Otago大学　H. Nukada博士）

2005年度

1. Hong Kong大学分子生物学研究所，Polyol代謝と疾患（弘前大学　八木橋操六，Hong Kong大学S. Chung博士）
2. Otago大学医学部内科学，虚血・再灌流障害（弘前大学　八木橋操六，Otago大学　H. Nukada博士）

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

1) 八木橋操六：科学研究費補助金　基盤研究B(2)(3年目)　遺伝子改変動物を用いた糖尿病合併症の成因の解明と治療法の開発　170万
2) 山岸晋一朗：科学研究費補助金　基盤研究(C)遺伝子改変動物を用いたポリオール代謝亢進特異的糖尿病合併症発症機構の解明　配分額：2300（単位：千円）

2005年度

研究代表者として

1) 八木橋操六：科学研究費補助金 (基盤研究 B) 遺伝子改変動物を用いた糖尿病合併症の成因の研究と遺伝子治療の試み．研究費　110万円
2) 水上浩哉：若手研究（B）２型糖尿病でみられる膵β細胞脱落への低酸素の関与とその制御　￥210万円
3) 和田龍一：科学研究費補助金（基盤研究 C）遺伝子改変動物を用いたポリオール代謝亢進特異的糖尿病合併症発症機構の解明．研究費　130万円

(2) その他の省庁からの研究費

2004年度

研究代表者として

八木橋操六：厚生労働省科学研究費　難治性ニューロパチー研究班　糖尿病神経障害の成因と治療　90万

2005年度

研究代表者として

八木橋操六：厚生労働省科学研究費　難治性ニューロパチー研究班分担研究　80万

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2004年度

1） 臨床薬理財団，糖尿病性神経障害の神経再生促進による新しい治療について，300万
2） 医科学研究応用財団，糖尿病性神経障害の治療に関する研究，300万

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2004年度

Otago 大学医学部内科　Nukada H

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2005年度

カナダ，トロント大学，Princes Margaret Hospital，病理部訪問（1週間）

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

八木橋操六，第18回北日本病理研究会，弘前市

2005年度

八木橋操六，第19回北日本病理研究会

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

9．病理学第二講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

2004年8月に教授が採用となり，この1年8ヶ月は，病理診断システムおよび学部教育の整備・再構築に重点が置かれた。研究面では，2004年度が立ち上げの時期となり，2005年度（今年度）ようやく成果が出始めた時期といえる。当講座からの論文も徐々に出始めている。これら，講座再立ち上げの時期であることに鑑み，総合して判断すると，この1年８ヶ月間の達成度は，80％といえる。

理念：

A. 遺伝子発現の特異的制御を用いた病態解析学と，医療としての病理診断学とを融合する。

B. 将来の臨床応用を見据えた基礎的探索・研究，たとえば遺伝子治療の基礎的研究を行う。

これから２年間の目標：

上記の通り，講座再立ち上げの時期を乗り越え，今後2年間は，研究面を充実する時期と位置づけられる。具体的な研究内容としては，(1) 腫瘍の発育・進展の解明，(2) 腫瘍の増殖抑制と転移制御，(3) 機能性核酸を用いた遺伝子発現の特異的制御および細胞機能特性の解明，(4) 病的状態における生物時計（概日リズム）の重要性の解明を遂行する。講座所属の教員・大学院生のみならず，講座を越え大学全体を共同研究の視野に入れながら，幅広い研究を行いたい。また，研究結果は，着実に英文論文として，実績を重ねて行く。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　2，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	鬼島　　宏	８ヶ月（2004年８月着任）
	助教授	専　任	田中　正則	６ヶ月（2004年10月辞職）
	助　手	専　任	楠美　智巳	12ヶ月
研究課題	１．ヒト腫瘍の病理形態学的検討 ２．ヒト腫瘍の増殖･分化に関わる因子の解明 ３．消化管疾患の病理形態学的検討 ４．胆道・膵臓疾患のの病理形態学的検討 ５．骨・軟部腫瘍の病理組織学的検討 ６．非腫瘍性骨・関節疾患の病理組織学的検討 ７．骨・軟骨形成のメカニズムの解明 ８．ヒト腫瘍の増殖抑制と転移制御 ９．機能性核酸を用いた遺伝子発現の特異的制御と細胞機能特性の解明 10．炎症性腸疾患の病理組織学的検討			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　2，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	鬼島　　宏	12ヶ月
	講　師	専　任	楠美　智巳	12ヶ月
	助　手	専　任	佐藤　冬樹	12ヶ月
研究課題	１．ヒト腫瘍の病理形態学的検討 ２．消化器疾患の病理形態学的検討 ３．ヒト腫瘍の増殖･分化に関わる因子の解明 ４．ヒト腫瘍の増殖抑制と転移制御 ５．機能性核酸を用いた遺伝子発現の特異的制御と細胞機能特性の解明 ６．骨・軟骨形成のメカニズムの解明 ７．骨・軟部腫瘍の病理組織学的検討 ８．非腫瘍性骨・関節疾患の病理組織学的検討 ９．癌細胞増殖に関わる時間遺伝子 DEC の機能 10．時間遺伝子 DEC2の日内リズムにおけるネガティブフィードバック機構			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

B.1. Iwasaki K, Furukawa K, Tanno M, Kusumi T, Ueyama K, Tanaka M, Kudo H, Toh S, Harata S, Motomura S: Uni-axial cyclic stretch induces Cbfa1 expression in spinal ligament cells derived from patients with ossification of the posterior longitudinal ligament. Calcif Tissue Int 74:448-457,2004.

B.2. Miura K, Ishibashi Y, Tsuda E, Kusumi T, Toh S: Split lesions of the peroneus brevis tendon in the Japanese population: an anatomic and histologic study of 112 cadaveric ankles. J Orthop Sci 29:291-295,2004.

B.3. Kusumi A, Sakaki H, Fukui R, Satoh H, Kusumi T, Kimura H: High IL-6 synthesis in cultured fibroblasts isolated from radicular cyst. Arch Oral Biol 49:643-652,2004.

B.4. Hirakawa H, Kusumi T, Nitobe T, Ueyama K, Tanaka M, Kudo H, Toh S, Harata S: An immunohistochemical evaluation of extracellular matrix components in the spinal posterior longitudinal ligament and intervertebral disc of the tiptoe walking mouse. J Orthop Sci 9:591-597,2004.

C.1. Kijima H, Yamazaki H, Nakamura M, Scanlon KJ, Osamura RY, Ueyama Y: Ribozyme against mutant K-ras mRNA suppresses tumor growth of pancreatic cancer. Int J Oncol 24:559-564.

C.2. Kashiwagi H, Kijima H, Dowaki S, Ohtani Y, Tobita K, Yamazaki H, Nakamura M, Ueyama Y, Tanaka M, Inokuchi S, Imaizumi T, Makuuchi H: Clinicopathological significance of sialyl Lex expression in human gallbladder carcinoma. Oncol Rep 11:1139-1143,2004.

C.3. Nagata J, Kijima H, Takagi A, Ito M, Goto K, Yamazaki H, Nakamura M, Mine T, Ueyama Y: Helicobacter pylori induces chronic active gastritis in p53-knockout mice. Int J Mol Med 13:773-777,2004.

C.4. Osada H, Tokunaga T, Nishi M, Hatanaka H, Abe Y, Tsugu A, Kijima H, Yamazaki H, Ueyama Y, Nakamura M: Overexpression of the neuropilin 1 (NRP1) gene correlated with poor prognosis in human glioma. Anticancer Res 24:547-552,2004.

C.5. Fujimori S, Abe Y, Nishi M, Hamamoto A, Inoue Y, Ohnishi Y, Nishime C, Matsumoto H, Yamazaki H, Kijima H, Ueyama Y, Inoue H, Nakamura M: The subunits of glutamate cysteine ligase enhance cisplatin resistance in human non-small cell lung cancer xenografts in vivo. Int J Oncol 25:413-418,2004.

C.6. Hara T, Kijima H, Yamamoto S, Kenmochi T, Kise Y, Tanaka H, Chino O, Shimada H, Takazawa K, Tanaka M, Inokuchi S, Makuuchi H: Ubiquitous p63 expression in human esophageal squamous cell carcinoma. Int J Mol Med 14:169-173,2004.

C.7. Sakuma T, Kijima H, Nishi M, Abe Y, Yamazaki H, Mine T, Nakamura M, Ueyama Y: An anti-K-ras ribozyme suppresses oncogene expression and cell growth of human pancreatic cancer. Tokai J Exp Clin Med 29:35-42, 2004.

2005年度

A.1. Kusumi T, Nishikawa S, Tanaka M, Ogawa T, Jin H, Sato F, Toh S, Hasegawa T, Kijima H: Low-grade fibromyxoid sarcoma arising in the big toe. Pathol Int. 2005;55:802-806.

B.1. Yamamoto S, Kijima H, Hara T, Chino O, Shimada H, Tanaka M, Inokuchi S, Makuuchi H: Mucin expression and proliferating cell index of esophageal Barrett's adenocarcinoma. Int J Mol Med. 2005;16:375-380.

B.2. Okada K, Kijima H, Chino O, Matsuyama M, Okamoto Y, Yamamoto S, Tanaka M, Inokuchi S, Makuuchi H: Multiple gastric carcinoids associated with hypergastrinemia. A review of five cases with clinicopathological analysis and surgical strategies. Anticancer Res. 2005;25:4417-4422.

B.3. Nishime C, Ohnishi Y, Suemizu H, Tamaoki N, Suematsu M, Oida Y, Yamazaki H, Nakamura M, Ueyama Y, Kijima H: Gallbladder small cell carcinoma Xenograft established by serial transplantation in nude mice. Anticancer Res. 2006;26:79-83.

B.4. Kusumi A, Sakaki H, Kusumi T, Oda M, Narita K, Nakagawa H, Kubota K, Satoh H, Kimura H: Regulation of synthesis of osteoprotegerin and soluble receptor activator of nuclear factor-κB ligand in normal human osteoblasts via the p38 mitogen-activated protein kinase pathway by the application of cyclic tensile strain. J Bone Miner Metab, 2005;23:373-81.

C.1. Nishi M, Abe Y, Tomii Y, Tsukamoto H, Kijima H, Yamazaki H, Ohnishi Y, Iwasaki M, Inoue H, Ueyama Y, Nakamura M: Cell binding isoforms of vascular endothelial growth factor-A (VEGF189) contribute to blood flow-distant metastasis of pulmonary adenocarcinoma. Int J Oncol. 2005;26:1517-1524.

C.2. Xuan J, Deguchi R, Yanagi H, Ozawa H, Urano T, Ogawa Y, Fukuda R, Kojima S, Nishina M, Sudo H, Kijima H, Koga Y, Takagi A: Relationship between gastric mucosal IL-8 levels and histological gastritis in patients with Helicobacter pylori infection. Tokai J Exp Clin Med. 2005;30:83-88.

C.3. Xuan J, Deguchi R, Watanabe S, Ozawa H, Urano T, Ogawa Y, Fukuda R, Kijima H, Koga Y, Takagi A: Relationship between IL-1beta gene polymorphism and gastric mucosal IL-1beta levels in patients with Helicobacter pylori infection. J Gastroenterol. 2005;40:796-801.

C.4. Bhawal UK, Ozaki Y, Nishimura M, Sugiyama M, Sasahira T, Nomura Y, Sato F, Fujimoto K, Sasaki N, Ikeda MA, Tsuji K, Kuniyasu H, Kato Y: Association of expression of receptor for advanced glycation end products and invasive activity of oral squamous cell carcinoma. Oncology 69:246-255,2005.

和文

2005年度

B.1. 楠美昭則，榊　宏剛，織田光夫，成田憲司，中川　祥，久保田耕世，楠美智巳，木村博人：周期的伸展刺激によるヒト骨芽細胞内 p38MAPK 活性化経路による OPG と sRANKL 産生．Clinical Calcium, 2005;15:877-878.

（2）総説

英文

和文

2004年度

A.1. 鬼島　宏，相澤　弘，千葉裕樹：肝外胆管癌の病理．胆道　19:44-50,2005.

B.1. 岩崎弘英，古川賢一，丹野雅彦，楠美智巳，植山和正，岡田晶博，元村　成，原田征行，藤　　哲：後縦靭帯骨化症発生におけるメカニカルストレスの関与．別冊整形外科，2004;45:47-51.

2005年度

A.1. 鬼島　宏，長村義之：病理学教育　臨床医学との統合型　病理・臨床連携によるケーススタディ．病理と臨床　2005;23:775-780.

A.2. 相澤　弘，千葉裕樹，佐藤冬樹，楠美智巳，田中正則，福田眞作，鬼島　宏：中・下咽頭の解剖．胃と腸 2005;40:1215-1219.

A.3. 鬼島　宏，加藤博之：新医師臨床研修医のなかでの役割　特に CPC レポートとの関連．medicina 2005;42:1850-1854.

A.4. 鬼島　宏：医療関連死　病理と法医の狭間で，どう対処するか．medicina 2006;43:174-178.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

C.1. 鬼島　宏：臨床研修必携　CPC レポート作成マニュアル．田村浩一編．南山堂．東京．2004.

C.2. 鬼島　宏:ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち　臨床病理・病態学. 山内豊明編. メディカ出版. 大阪. 2004.

（4）その他

英文

2004年度

C.1. Chino O, Kijima H, Shibuya M, Yamamoto S, Kashiwagi H, Kondo Y, Makuuchi H: A case report: spontaneous rupture of dissecting aneurysm of the middle colic artery. Tokai J Exp Clin Med 29:155-158,2004.

2005年度

A.1. Kusumi T, Nishikawa S, Tanaka M, Ogawa T, Jin H, Sato F, Toh S, Hasegawa T, Kijima H: Low-grade fibromyxoid sarcoma arising in the big toe. Pathol Int. 2005;55:802-806.

B.1. Wakabayashi K, Mori F, Hasegawa M, Kusumi T, Yoshimura I, Takahashi H, Kaneko S: Co-localization of β-peptide and phosphorylated tau in astrocytes in a patient with corticobasal degeneration. Neuropathology, 2006;26:66-71

C.1. Chino O, Kijima H, Shibuya M, Yamamoto S, Kashiwagi H, Kondo Y, Makuuchi H: A case report: spontaneous rupture of dissecting aneurysm of the middle colic artery. Tokai J Exp Clin Med. 2004;29:155-158.

和文

2004年度

A.1. 相澤　弘，鬼島　宏：内視鏡的に砕石し得た胆石イレウスの１例．青県病誌　49:125-129,2004.

A.2. 千葉裕樹，田中正則，楠美智巳，相澤　弘，中里文佳，東野　博，須藤康裕，松川昌勝，棟方昭博，鬼島　宏：腺癌と GIST よりなる胃の衝突腫瘍．弘市病医誌　13:26-30,2004.

2005年度

A.1. 楠美智巳，玉井佳子，相澤　弘，千葉裕樹，黒滝日出一，鬼島　宏：広範な髄外造血巣を形成した骨髄線維症の１剖検例．診断病理　2005;22:264-269.

B.1. 小嶋清一郎，朴沢重成，峯　徹哉，飛田浩輔，堂脇昌一，今泉俊秀，渡辺勲史，岩田美郎，鬼島　宏：膵癌を否定できなかった IgG4 高値の腫瘤形成性膵炎の１切除例．膵臓　2005;366-373.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Calcif Tissue Int	2.053	1	2.053
J Orthop Sci	0	2	0
Arch Oral Biol	1.047	1	1.047
Total		4	3.1

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Int J Mol Med	2.09	1	2.09
Anticancer Res	1.604	2	3.208
J Bone Miner Metab	1.464	1	1.464
Total		4	6.762

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
胆道	1	
整形外科	1	
Clinical Calcium		1
病理と臨床		1
胃と腸		1
medicina		2
計	2	5

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	2	0

3．その他（A，B のみ）

英文

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pathol Int	0.925	1	0.925
Neuropathology	1.167	1	1.167
Total		2	2.092

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
青県病誌	1	
弘市病医誌	1	
診断病理		1
膵臓		1
計	2	2

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Abe Y, Nishi M, Hatanaka H, Ohnishi Y, Yamazaki H, Kijima H, Nakamura M: The expression of glutamate cysteine ligase (GCL) subunit in human non-small cell lung cancer xenografts. 95th Annual Meeting, American Association for Cancer Research, Orlando, Florida, 2004. (95th Annual Meeting Proceedings, American Association for Cancer Research 45:122,2004.)

C.2. Kijima H, Tobita K, Tokunaga T, Abe Y, Sakuma T, Yamazaki H, Nakamura M, Ueyama Y: Thrombospondin-q expression as a prognostic predictor of human pancreatic ductal carcinoma. 95th Annual Meeting, American Association for Cancer Research, Orlando, Florida, 2004. (95th Annual Meeting Proceedings, American Association for Cancer Research 45:766,2004.)

C.3. Nagata J, Kijima H, Hatanaka H, Noto T, Mine T, Yamazaki H, Nakamura M, Ueyama Y: Correlation between interleukin 10 and vascular endothelial growth factor expression in human esophageal cancer. 95th Annual Meeting, American Association for Cancer Research, Orlando, Florida, 2004. (95th Annual Meeting Proceedings, American Association for Cancer Research 45:830,2004.)

2005年度

C.1. Oida Y, Tobita K, Ohtani Y, Imaizumi T, Abe Y, Yamazaki H, Kijima H, Nakamura M, Ueyama Y, Makuuchi H: Overexpression of thrombospondin-2 inhibits pancreatic cancer cell invasion through modulation of MMP-9 and uPA/uPAR system. 96th Annual Meeting, American Association for Cancer Research, Anaheim, California, 2005. (96th Annual Meeting Proceedings, American Association for Cancer Research 46:697, 2005.)

C.2. Nagata J, Kijima H, Hatanaka H, Noto T, Mine T, Yamazaki H, Nakamura M, Ueyama Y: Angiopoietin-1 (Ang-1) and vascular endothelial growth factor (VEGF) expression in human esophageal cancer. 96th Annual Meeting, American Association for Cancer Research, Anaheim, California, 2005. (96th Annual Meeting Proceedings, American Association for Cancer Research 46:1103,2005.)

C.3. Yamamoto S, Kijima H, Hara T, Chino O, Shimada H, Tanaka M, Inokuchi S, Makuuchi H: Mucin expression of esophageal Barrett's adenocarcinoma and short-segment Barrett's esophagus (SSBE). 96th Annual Meeting, American Association for Cancer Research, Anaheim, California, 2005. (96th Annual Meeting Proceedings, American Association for Cancer Research 46:1147,2005.)

C.4. Ohshika S, Ishibashi Y, Kon A, Kusumi T, Kijima H, Takagaki K, Toh S: Exogeneous cartilage proteoglycan-mediated cell proliferation and differentiation in cultured rabbit chondrocytes. 52nd Annual Meeting of Orthopaedic Research Society. Mar 19-22, 2006, Chicago, IL, USA.

C.5. Kijima H, Nagata J, Tanaka M, Sato F, Kusumi T: Ribozyme-mediated reversal of drug resistance in human colon cancer. 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science. Nov 10-11, 2005, Hirosaki.

C.6. Kusumi T, Tsuchida S, Nishi T, Tanaka M, Sato F, Kusumi A, Kudo H, Kijima H: A murine osteosarcoma cell line, NHOS, has a potential to develop endochondral ossification by transplantation. 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science. Nov 10-11, 2005, Hirosaki.

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. 鬼島　宏：研修医および学生向けの CPC.（ワークショップ）新医師臨床研修制度における CPC 研修 研修目標と方策のあり方．第93回日本病理学会総会，札幌，2004．（日本病理学会会誌 93：195，2004．）

C.　7件

2005年度

B.1. 宮島葉子，伊藤　仁，芹澤昭彦，松井成明，梅村しのぶ，長村義之，鬼島　宏：膵管内乳頭粘液性腫瘍 (intraductal papillary-mucinous tumor; IPMT）の細胞診（シンポジウム）膵管内乳頭粘液腫瘍 (IPMT) の細胞診 . 第43回日本臨床細胞学会秋期大会，東京，2004．（日本臨床細胞学会誌 43補冊2：367，2004.）

B.2. 鬼島　宏，長村義之：病理チューターと臨床チューターによるケーススタディ．（ワークショップ）卒前卒後教育における病理学．第94回日本病理学会総会，横浜，2005．（日本病理学会会誌 94：178，2005．）

C.　7件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2005年度

研究代表者として

独立行政法人　産業技術総合研究所（つくば市）　ブラディオン・プロジェクト　Bradeion の癌特異的発現機能の臨床応用：癌の早期診断および治療，治療後の長期予後モニターシステム開発

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2005年度

研究代表者として

平成17年度　科学研究費補助金　基盤研究(C)　膵癌における高転移能の病態解明とその制御
研究代表者：鬼島宏　1,800,000円

他研究単位との研究分担者として

平成17年度　科学研究費補助金　基盤研究(C)　メカニカルストレスと骨芽細胞・骨芽様細胞を用いた骨形成・骨再生の総合的基礎研究　研究代表者：楠美昭則　1,100,000円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

10. 細菌学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

前回，「研究基盤を充実させ，業績を伸ばす一方，新たな研究分野を模索する。」という目標を立てた。研究基盤の充実は順調に進んでいる。業績は上向きになっているので，やや満足といったところであるが，さらに目標に向かって精進が必要である。新たな研究分野については，細菌の病原因子と宿主細胞との相互作用を分子レベルで解明することを研究の主眼とし，その成果が上がりつつある。従って，この点については到達度は高いと判断している。

理念：

研究は第三者から評価されて，はじめて生きるものである。

そのような意味合いも心に留め，斬新でユニークな，オンリーワンの研究を目指す。

これから２年間の目標：

研究基盤を充実させ，業績を伸ばす一方，新たな研究分野を模索する。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　2，医員　0，大学院学生　3，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	中根　明夫	平成16年４月―17年３月
	講　師	専　任	胡　　東良	平成16年４月―17年３月
	助　手	専　任	差波　拓志	平成16年４月―17年３月
	助　手	専　任	佐々木早苗	なし（国内・海外研修）
研究課題	１．免疫系・神経系・内分泌系ネットワークを利用した細菌感染症の制御に関する研究 ２．リステリアの病原因子の網羅的解析 ３．黄色ブドウ球菌感染防御機構の研究 ４．微生物感染症に対する次世代ワクチン開発の研究 ５．黄色ブドウ球菌エンテロトキシンの分子構造と生物活性の研究 ６．ブドウ球菌食中毒のシグナル伝達と分子メカニズムの解析 ７．サルモネラ持続感染機序の免疫学的解析 ８．糖尿病における易感染性機序の解析と治療の基礎的研究 ９．炎症性腸疾患の発症機序と治療の基礎的研究 10．天然抽出物・化学合成物質による感染症・アレルギーの治療法の開発			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　2，医員　0，大学院学生　3，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	中根　明夫	平成17年４月―18年３月
	講　師	専　任	胡　　東良	平成17年４月―18年３月
	助　手	専　任	差波　拓志	平成17年４月―18年３月
	助　手	専　任	成田　浩司	平成17年７月―18年３月
	助　手	専　任	佐々木早苗	研究休職
研究課題	１．免疫系・神経系・内分泌系ネットワークを利用した細菌感染症の制御に関する研究 ２．リステリアの病原因子の網羅的解析 ３．黄色ブドウ球菌感染防御機構の研究 ４．微生物感染症に対する次世代ワクチン開発の研究 ５．黄色ブドウ球菌エンテロトキシンの分子構造と生物活性の研究 ６．ブドウ球菌食中毒のシグナル伝達と分子メカニズムの解析 ７．サルモネラ持続感染機序の免疫学的解析 ８．糖尿病における易感染性機序の解析と治療の基礎的研究 ９．炎症性腸疾患の発症機序と治療の基礎的研究 10．天然抽出物・化学合成物質による感染症・アレルギーの治療法の開発			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Mikami T, Satoh N, Hatayama I, Nakane A: Buthionine sulfoximine inhibits cytophathic effect and apoptosis induced by infection with human echovirus 9. **Arch Virol** 2004;149:1117-28.

A.2. Hasegawa S, Nishikawa S, Miura T, Saito Y, Madarame H, Sekikawa K, Tagawa Y-I, Iwakura Y, Nakane A: Tumor necrosis factor- α is required for gastritis induced by *Helicobacter felis* in mice. **Microb Pathog** 2004; 37:119-24.

A.3. Hu D-L, Cui J-C, Omoe K, Sashinam, H, Yokomizo Y, Shinagawa K, Nakane A: A mutant of staphylococcal enterotoxin C devoid of bacterial superantigenic activity elicits a Th2 immune response for protection against *Staphylococcus aureus* infection. **Infect Immun** 2005;73:174-80.

A.4. Ikejima S, Sasaki S, Sashinami H, Mori F, Ogawa Y, Nakamura T, Abe, Y, Wakabayashi K, Suda T, Nakane A: Impairment of host resistance to *Listeria monocytogenes* infection in liver of *db/db* and *ob/ob* mice. **Diabetes** 2005;54:182-9.

A.5. Wakabayashi T, Hu D-L, Tagawa Y, Sekikawa K, Iwakura Y, Hanada K, Nakane A: IFN- γ and TNF- α are involved in urushiol-induced contact hypersensitivity in mice. **Immunol Cell Biol** 2005;83:18-24.

B.1. Omoe K, Imanishi K, Hu D-L, Kato H, Takahashi-Omoe H, Nakane A,Uchiyama T, Shinagawa K: Biological properties of staphylococcal enterotoxin-like toxin type R. **Infect Immun** 2004;72:3664-7.

B.2. Tanabe M, Matsumoto T, Shibuya K, Tateda K, Miyazaki S, Nakane A, Iwakura Y, Yamaguchi K: Compensatory response of IL-1 gene knockout mice after pulmonary infection with *Klebsiella pneumoniae*. **J Med Microbiol** 2005;54:7-13.

2005年度

A.1. Cui J-C, Hu D-L, Lin Y-C, Qian A-D, Nakane A: Immunization with glutathione S-transferase and mutant toxic shock syndrome toxin 1 fusion protein protects against *Staphylococcus aureus* infection. **FEMS Immunol Med Microbiol** 2005;45:45-51.

A.2. Hu D-L, Suga S, Omoe K, Abe Y, Shinagawa K, Wakui M, Nakane A: Staphylococcal enterotoxin A modulates intracellular Ca2+ signal pathway in human intestinal epithelial cells. **FEBS Lett** 2005;579:4407-12.

A.3. Sashinami H, Kageyama K, Suda T, Nakane A: Urocortin 2 suppresses host resistance to *Listeria monocytogenes* infection via up-regulation of interleukin-10. **Endocrinology** 2005;146:5003-11.

A.4. Sasaki S, Tagawa Y, Iwakura Y, Nakane A: The role of gamma interferon in acquired host resistance against *Staphylococus aureus* infection in mice. **FEMS Immunol Med Microbiol** 2006;46:367-74.

B.1. Horino T, Matsumoto T, Uramatsu M, Tanabe M, Tateda K, Miyazaki S, Nakane A, Iwakura Y, Yamaguchi K: Interleukin-1-deficient mice exhibit high sensitivity to gut-derived sepsis caused by *Pseudomonas aeruginosa*. **Cytokine** 2005;30:339-46.

B.2. Omoe K, Imanishi K, Hu D-L, Kato H, Fugane Y, Abe Y, Hamaoka S, Watanabe Y, Nakane A, Uchiyama T, Shinagawa K: Characterization of novel staphylococcal enterotoxin-like toxin P. **Infect Immun**. 2005;73: :5540-6.

B.3. Nigawara T, Iwasaki Y, Asai M, Yoshida M, Kanbayashi M, Sashinami H, Hashimoto K, Suda T: Inhibition of 11 β-hydroxysteroid dehydrogenase eliminates impaired glucocorticoid suppression and induces apoptosis in corticotroph tumor cells. **Endocrinology** 2006;147:769-72.

和文

2004年度

A.1. 工藤幸清，樽澤高悦，篠崎信世，阿部由直，胡　東良，中根明夫：マウスX腺全身照射による放射線腸障害に対するEGF，メラトニン，エダラボンの影響．**弘前大学医学部保健学科紀要** 2005;4:109-13.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 中根明夫，櫻庭裕丈，差波拓志，石黒　陽：MIFの生物活性．**臨床免疫** 2004;41:617-22.

A.2. 中根明夫：腸管粘膜免疫と常在細菌．**細胞** 2004;36:361-4.

2005年度

A.1. 中根明夫，差波拓志，池島　進：レプチンと免疫．日本細菌学雑誌　2005;60:479-84.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 中根明夫：感染防御とサイトカイン．サイトカイン・ケモカインのすべて（第３版，改訂新版）（笠倉新平，松島綱治編集）p.559-71，2004，日本医学館，東京．

A.2. 中根明夫：神経系・内分泌系を介した細菌感染防御の調節．エンドトキシン研究７（遠藤重厚，小玉正智，横地高志，谷　徹編集）p.1-12，医学図書出版，東京．

2005年度

A.1. 中根明夫：「微生物の歴史」(p14-25)「微生物の種類と微生物の範囲」(p.28-29)「細菌の構造と機能」(p.64-74)．山西弘一監修，平松啓一・中込　治編集「標準微生物学（第９版）」，医学書院，東京，2005.

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

１．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Arch Virol	1.841	1	1.841
Microb Pathog	2.047	1	2.047
Diabetes	8.848	1	8.848
Immunol Cell Biol	2.618	1	2.618
Infect Immun	4.033	2	8.066
J Med Microbiol	2.484	1	2.484
Total		7	25.904

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
FEMS Immuno Med Microbiol	2.371	2	4.742
FEBS Lett	3.415	1	3.415
Endocrinology	5.313	2	10.626
Cytokine	2.012	1	2.012
Infect Immun	3.933	1	3.933
Total		7	24.728

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
弘前大学医学部保健学科紀要	1	
細胞	1	
臨床免疫	1	
日本細菌学雑誌		1
計	3	1

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	2	1

３．その他（A，B のみ）

なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Hu D-L, Omoe K, Shinagawa K, Nakane A: A nontoxic mutant of staphylococcal enterotoxin C elicits Th2 immune response for protection against *Staphylococcus aureus* infection. The 7th Korea-Japan International Symposium on Microbiology 2004, 2004, Seoul.

C.2. Sashinami H, Sakuraba H, Ishiguro Y, Munakata A, Nishihira J, Nakane A: The role of macrophage migration inhibitory factor in lethal *Listeria monocytogenes* infection in mice. The 7th Korea-Japan International Symposium on Microbiology 2004, 2004, Seoul.

2005年度

C.1. Sashinami H, Kageyama K, Suda T, Nakane A: Urocortin 2 suppresses host resistance to *Listeria monocytogenes* infection via up-regulation of IL-10. The 5th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Awaji, September, 2005

C.2. Ikejima S, Sashinami H, Mori F, Wakabayashi K, Suda T, Nakane A: Impairment of host resistance to *Listeria monocytogenes* infection via in liver of *db/db* and *ob/ob* mice. The 5th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Awaji, September, 2005

C.3. Nakane A, Ikejima S, Sasaki S, Sashinami H, Mori F, Ogawa Y, Nakamura T, Abe Y, Wakabayashi K, Suda T: Impairment of host resistance to *Listeria monocytogenes* infection via in liver of *db/db* and *ob/ob* mice. 2005 International Society for Interefron and Cytokine Research Meeting, October, Shanghai, 2005

C.4. Sashinami H, Kageyama K, Suda T, Nakane A: Urocortin 2 suppresses host resistance to *Listeria monocytogenes* infection via up-regulation of IL-10. 2005 International Society for Interefron and Cytokine Research Meeting, October, Shanghai, 2005

C.5. Hu D-L, Cui J-C, Omoe K, Shinagawa K, Nakane A: A nontoxic mutant of staphylococcal enterotoxin C elicits Th2 immune response for protection against *Staphylococcus aureus* infection. 2005 International Society for Interefron and Cytokine Research Meeting, October, Shanghai, 2005

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. 胡　東良，重茂克彦，品川邦汎，中根明夫：ブドウ球菌エンテロトキシンAは腸管上皮細胞内 Ca^{2+} シグナルを修飾する．第51回毒素シンポジウム，2004，佐世保.

B.2. 重茂克彦，今西健一，胡　東良，加藤秀人，府金芳拓，阿部洋平，濱岡将司，渡邊　裕，中根明夫，内山竹彦，品川邦汎：新型ブドウ球菌エンテロトキシンP(SEP)の生物活性．第51回毒素シンポジウム，2004，佐世保.

B.3. 今西健一，重茂克彦，阿部洋平，加藤秀人，胡　東良，中根明夫，品川邦汎，内山竹彦：新規スーパー抗原ブドウ球菌エンテロトキシンP（SEP）応答性マウスT細胞の解析．第51回毒素シンポジウム，2004，佐世保.

B.4. 中根明夫：神経系・内分泌系による細菌感染防御の調節．シンポジウム「神経系・内分泌系におけるサイトカインの役割―最新の研究から」．第69回日本インターフェロン・サイトカイン学会　2004，三沢.

B.5. 胡　東良，中根明夫：スーパー抗原活性欠損ブドウ球菌エンテロトキシンCの粘膜免疫による感染防御効果．ワークショップ「細菌感染症その制御」．第34回日本免疫学会総会　2004，札幌.

B.6. 今西健一，加藤秀人，胡　東良，中根明夫，内山竹彦：黄色ブドウ球菌エンテロトキシンP（SEP）応答性マウスT細胞の解析．ワークショップ「細菌感染症その制御」．第34回日本免疫学会総会　2004，札幌.

C.　12件

2005年度

A.1. 中根明夫：細菌感染防御免疫と内分泌系．特別講演，第42回日本細菌学会中部支部総会，2005年11月，金沢.

B.1. 胡　東良，重茂克彦，品川邦汎，中根明夫：ブドウ球菌エンテロトキシンC変異毒素の黄色ブドウ球菌感染に対する防御効果．第78回日本細菌学会総会，東京．2005．4．（ワークショップ）.

B.2. 今西健一，重茂克彦，李　仲絹，加藤秀人，胡　東良，中根明夫，品川邦汎，内山竹彦：黄色ブドウ球菌腸管毒素P(SEP)応答性マウスT細胞の解析．第78回日本細菌学会総会，東京．2005．4．（ワークショップ）.

B.3. 重茂克彦，胡　東良，温井健司，高橋-重茂浩美，中根明夫，品川邦汎：ブドウ球菌エンテロトキシン遺伝子型の多様性．第52回毒素シンポジウム．仙台．2005．7．（シンポジウム）.

B.4. 今西健一，重茂克彦，阿部洋平，李　仲絹，加藤秀人，胡　東良，中根明夫，品川邦汎，内山竹彦：黄色ブドウ球菌腸管毒素様スーパー抗原P型（SEIP）応答性マウスT細胞の解析．第52回毒素シンポジウム．仙台．2005．7．（シンポジウム）.

B.5. 中根明夫，胡　東良：黄色ブドウ球菌感染とインターフェロン・サイトカイン．第70回日本インターフェロン・サイトカイン学会．京都．2005．7．（シンポジウム）.

B.6. 中根明夫，胡　東良：黄色ブドウ球菌性乳房炎に対する次世代ワクチンの開発．日本乳房炎研究会第10回学術集会，つくば．2005．10．（シンポジウム）.

B.7. 胡　東良，重茂克彦，品川邦汎，中根明夫：乳房炎の次世代ワクチン．第141回日本獣医学会・日本獣医師学会連携大会．つくば．2006．3．（シンポジウム）.

C.　10件

Ⅲ．学術賞

2005年度

池島　進：弘前大学医学部学術奨励賞「Impairment of Host Resistance to *Listeria monocytogenes* Infection in Liver of *db/db* and *ob/ob* Mice」2006年2月.

Ⅳ．共同研究

2004年度

1. 農業技術研究機構動物衛生研究所，乳房炎の発生機構の解明と防除技術の開発
2. 農業技術研究機構動物衛生研究所，人獣共通感染症の制圧のための技術開発
3. 中国大連翔大生物技術研究センター，ウシ乳房炎遺伝子組換えワクチンの開発研究

2005年度

1. 農業技術研究機構動物衛生研究所，乳房炎の発生機構の解明と防除技術の開発
2. 農業技術研究機構動物衛生研究所，人獣共通感染症の制圧のための技術開発
3. 中国大連翔大生物技術研究センター，ウシ乳房炎遺伝子組換えワクチンの開発研究

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

中根明夫．内分泌系・神経系・免疫系ネットワークに支配される細菌感染防御機序の解析．基盤研究（C）2,300千円

胡　東良．ブドウ球菌エンテロトキシン分子上の催吐活性部位の解析と催吐メカニズムの究明．基盤研究（C）1,000千円

他研究単位との研究分担者として

中根明夫．新型黄色ブドウ球菌エンテロトキシンについて．タンパク3000プロジェクト．700千円

中根明夫．可能性試験「免疫系に対するプロテオグリカンの効果」都市エリア産学官連携促進事業「プロテオグリカン応用研究プロジェクト」1,000千円

2005年度

研究代表者として

中根明夫．内分泌系・神経系・免疫系ネットワークに支配される細菌感染防御機序の解析．基盤研究（C）1,300千円

胡　東良．ブドウ球菌エンテロトキシンの催吐シグナル伝達と分子メカニズムの究明．基盤研究(C) 2,000千円

他研究単位との研究分担者として

中根明夫．新型黄色ブドウ球菌エンテロトキシンについて．タンパク3000プロジェクト．500千円

中根明夫．可能性試験「プロテオグリカンの免疫調節作用に基づく応用開発研究」都市エリア産学官連携促進事業「プロテオグリカン応用研究プロジェクト」1,700千円

(2) その他の省庁からの研究費

2004年度

研究代表者として

中根明夫．農業技術研究機構交付金「乳房炎の発生機構の解明と防除技術の開発プロジェクト」「黄色ブドウ球菌に対する次世代ワクチン開発」3,500千円.

中根明夫．農業・生物系特定産業技術研究機構・動物衛生研究所平成15年度委託プロジェクト研究「人獣共通感染症の制圧のための技術開発」「リステリアの細胞内増殖と宿主細胞応答機構解明とそれに基づく感染制御への応用」3,000千円.

2005年度

研究代表者として

中根明夫．農業技術研究機構交付金「乳房炎の発生機構の解明と防除技術の開発プロジェクト「黄色ブドウ球菌に対する次世代ワクチン開発」2,500千円.

中根明夫．農業・生物系特定産業技術研究機構・動物衛生研究所平成15年度委託プロジェクト研究「人獣共通感染症の制圧のための技術開発」「リステリアの細胞内増殖と宿主細胞応答機構解明とそれに基づく感染制御への応用」2,700千円.

中根明夫．平成17年度学術国際振興基金助成事業・学術の国際交流推進事業「日本と中国における急性胃腸炎起因微生物の汚染実態とその感染予防対策」1,000千円.

中根明夫．平成17年度青森県産学官共同研究推進事業（シーズ熟成事業）『「藍」からの抗アレルギー活性・抗菌活性を有する物質の探索』1,000千円.

差波拓志．平成17年度学術国際振興基金助成事業．若手研究者への助成.「肥満と免疫　～易感染性と脂肪組織の関連について～」1,000千円

（3）学内の研究助成

2004年度

研究代表者として

差波拓志．リステリア脳炎の発症機序に関する研究― *Listeria monocytogenes* 病原因子の神経細胞に対する作用について―．青森医学振興会助成金　500千円

2005年度

他研究単位との研究分担者として

中根明夫．平成17年度弘前大学長指定重点研究「ABO 血液型不適合移植における免疫順応と血液型糖鎖抗原に関する研究」500千円.

中根明夫．平成17年度弘前大学長指定重点研究「機能性物質の構築と生命現象解明のための研究―医・農薬や機能性繊維の実用化に向けて」200千円

（4）民間の研究助成

2004年度

研究代表者として

中根明夫．学術国際振興基金助成（学術の活性化推進事業）第69回日本インターフェロン・サイトカイン学会　300千円

中根明夫．中国大連翔大生物技術研究センター共同研究「ウシ乳房炎遺伝子組換えワクチンの開発研究」540千円.

他研究単位との研究分担者として

中根明夫．学術国際振興基金助成（学術の活性化推進事業）アトピー性皮膚炎治療薬の開発とその作用機序の解明　3,000千円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2004年度

中根　明夫：
2004年８月31日から９月３日
中国東北農業大学，視察・講演
中国大連翔大生物技術会社，共同研究
胡　東良
2004年８月27日から９月３日
中国東北農業大学，視察・講演
中国大連翔大生物技術会社，共同研究
中国吉林農業大学，視察

2005年度

中根明夫，胡　東良．2005年10月24日から10月26日
中国・複旦大学，視察・共同研究打合せ

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

佐々木早苗．2005年７月～（米国，スタンフォード大学）

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2004年度

中根明夫．第69回日本インターフェロン・サイトカイン学会　三沢　2004年７月

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

2004年度

特許２件申請中：
特許名称：組換えエンテロトキシンC及びこれを用いたワクチン
出願番号：特願2004-175641
発 明 者：中根明夫，胡　東良
特許名称：Ⅳ型アレルギー反応抑制
出願番号：特願2005-59657
発 明 者：北原晴男，中根明夫，花田勝美ら

2005年度

特許２件申請中：
特許名称：プロテオグリカンの免疫調節作用
出願番号：特願2005-323966
発 明 者：中根明夫，差波拓志，高垣啓一
特許名称：抗真菌活性を示す機能性イソプレノイド類の開発
出願番号：特願2006-42553
発 明 者：長岐正彦，中根明夫ら

11. 衛生学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

これから２年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　5，研究生　9			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	中路　重之	2004年9月～2005年3月
	助教授	専　任	中路　重之	2004年4月～8月
	講　師	専　任	梅田　　孝	2004年4月～2005年3月
研究課題	1．体力・栄養・免疫と防衛体力の関係に関する衛生学的研究 2．種々の条件下でのヒト好中球産生活性酸素種の動態 3．地域保健 4．スポーツ医学 5．疫学 6．食物繊維を中心とした栄養学			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Masahiro Suzuki, Takashi Umeda, Shigeyuki Nakaji, Tadashi Shimoyama, Toshiyuki Mashiko, Kazuo Sugawara: Effect of incorporating low intensity exercise into the recovery period after a rugby match. Br J Sports Med 2004;38(4):436-440.

A.2. Shigeyuki Nakaji, Masashi Matsuzaka, Takashi Umeda, Tadashi Shimoyama, Kazuo Sugawara, Juichi Sakamoto, Seiko Wada, Shoji Tokunaga: A population-based study on defecatory conditions in Japanese subjects: methods for self-evaluation. Tohoku J Exp Med 2004;203:97-104.

A.3. Toshiyuki Mashiko, Takashi Umeda, Shigeyuki Nakaji, Kazuo Sugawara. Position-related analysis of the appearance of and relationship between post-match physical and mental fatigue in university rugby football players. Br J Sports Med 2004;38(5):617-621.

A.4. Shigeyuki Nakaji, Takashi Umeda, Takashi Kumae, Seiko Ohta, Manabu Totsuka, Kei Sato, Kazuo Sugawara, Shinsaku Fukuda. A tube-fed liquid formula diet containing dietary fiber increased stool weight in bed-ridden elderly patients. Nutrition. 2004;20(11-12):955-960.

A.5. Shigeyuki Nakaji, Stefano Parodi, Vincenzo Fontana, Takashi Umeda, Katsuhiko Suzuki, Juichi Sakamoto, Shinsaku Fukuda, Seiko Wada, Kazuo Sugawara. Seasonal changes in mortality rates from main causes of death in Japan (1970-1999). Eur J Epidemiol 2004;19(10):905-913.

A.6. Takashi Umeda, Shigeyuki Nakaji, Tadashi Shimoyama, Arata Kojima, Yousuke Yamamoto, Kazuo Sugawara: Adverse effects of energy restriction on changes in immunoglobulins and complements during weight reduction in judoists. J Sports Med Phys Fitness 2004;44(3):328-334.

A.7. Daisuke Chinda, Shigeyuki Nakaji, Shinsaku Fukuda, Juichi Sakamoto, Tadashi Shimoyama, Teruo Nakamura, Tomohiko Fujisawa, Atsushi Terada, Kazuo Sugawara: The Fermentation of different dietary fibers in associated with fecal clostridia levels in men. J Nutr 2004;134(8):1881-1886.

和文

2004年度

A.1. 白戸千之，中路重之，梅田　孝：LLLTの疼痛治療効果判定法．日本レーザー治療学会誌，2(2):82-86,2004.

A.2. 珍田大輔，梅田　孝，中路重之，奥村俊樹，高橋一平，小山隆男，倉掛重精，岡村典慶，熊江　隆，菅原和夫：マラソン選手におけるレース後の好中球機能の変動に関する検討，体力・栄養・免疫学雑誌，14(1):33-39,2004.

A.3. 齋藤一雄，梅田　孝，太田誠耕，奥村俊樹，松本　茂，小川光哉，塔尾武夫，菅原和夫：大学相撲選手の健康管理のためのメディカルチェックと稽古実施に伴う身体的・精神的疲労の出現について，体力・栄養・免疫学雑誌，14(1):40-49,2004.

A.4. 齋藤一雄，梅田　孝，松本　茂，小川光哉，山本洋祐，小嶋新太，田辺　勝，中山悌一，奥村俊樹，中路重之：相撲選手における約2時間の稽古が血清オプソニン化活性に及ぼす影響，体力・栄養・免疫学雑誌，14(2):98-105,2004.

A.5. 齋藤一雄，山本洋祐，梅田　孝，古家琢也，吉岡美子，青木慎一郎，大下喜子，奥村俊樹，中路重之：女子柔道選手の減量期間における食物繊維摂取量，体力・栄養・免疫学雑誌，14(2):106-11,2004.

A.6. 中路重之，梅田　孝，小山隆男，高橋一平，珍田大輔：【胃癌治療　update 2004】胃癌に役立つ基礎的知識　胃癌の疫学．臨牀消化器内科，19(7):773-780,2004

A.7. 熊江　隆，町田和彦，中路重之，菅原和夫：地域在住高齢者の血清中抗酸化物質と酸化・抗酸化バランスに及ぼす運動習慣の影響に関する研究，体力・栄養・免疫学雑誌，14(3):237-246,2004.

（2）総説

なし

（3）著書

なし

（4）その他

なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur. J. Epidemiol	0.517	1	0.517
J. Nutr	3.62	1	3.62
Br J Sports Med	1.202	2	2.404
Tohoku J Exp Med	0.494	1	0.494
Nutrition	2.272	1	2.272
J Sports Med Phys Fitness	0.634	1	0.634
Total		7	9.941

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度
日本レーザー治療学会誌	1
体力・栄養・免疫学雑誌	5
臨牀消化器内科	1
計	7

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2004年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

和文

種　　目	2004年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

3．その他（A，Bのみ）

なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Takashi Umeda, Shigeyuki Nakaji, Kazuo Sugawara, Masahiro Suzuki, Kazuma Danjo, Kenji Kowatarai, Manabu Totsuka, Yousuke Yamamoto, Noriko Mochida: Gender difference in the psychological response to weight reduction in Judoists. American College of Sports Medicine 51st Annual Meeting Indianapolis, Indiana, June 2-5, 2004. Abstract Issue MEES 2004 Annual Meeting May Supplement, S81, (B-30-Free Communication/Poster), vol.36(5),2004.

C.2. Ippei Takahashi, Takashi Umeda, Shigeyuki Nakaji, Kazuo Sugawara, Mitsukuni Mochizuki: Effects of maximal exercise on monspecific immunity in athletes under trained and detrained conditions. American College of Sports Medicine 51st Annual Meeting Indianapolis, Indiana, June 2-5, 2004. Abstrat Issue MEES 2004 Annual Meeting May Supplement, S256, (F-26-Free Communication/Poster), vol.36(5),2004.

C.3. Daisuke Chinda, Shigeyuki Nakaji, Shinsaku Fukuda, Juichi Sakamoto, Tadashi Shimoyama, Takao Oyama, Tomohiko Fujisawa, Atsushi Terada, Akihiro Munakata: Comparative study on the fermentation of pectin, cellulose and lactulose using hydorgen breath test, and its relationship with fecal flora. Enteral and parenteral nutrition (AGA; Poster), Digestive Disease Week 2004, New Orleans, USA.

C.4. Takao Oyama, Shigeyuki Nakaji, Shinsaku Fukuda, Juichi Sakamoto, Tadashi Shimoyama, Kazuma Danjo, Daisuke Saito, Daisuke Chinda, Akihiro Munakata: Three main dietary fibers, cellulose, resistant starch and pectin, exhibit major differences in the amounts which reach the large intestine. Enteral and parenteral nutrition (AGA; Poster), Digestive Disease Week 2004, New Orleans, USA.

（2）全国学術集会

2004年度

C.　16件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

1）日本体育大学運動方法（相撲）研究室：大学相撲選手のメディカルチェックと稽古による身体的・精神的疲労の出現に関する研究

2）日本体育大学運動方法（柔道）研究室：大学男子柔道選手における強化合宿実施による身体的・精神的疲労の出現とビタミンＣ摂取の効果に関する研究

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

12. 公衆衛生学講座　（資料なし）

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

これから２年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　0，助教授　0，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
研究課題				

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

（2）総説

（3）著書

（4）その他

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Total		0	0

和文（論文数）

雑　誌　名	2004年度	2005年度
計	0	0

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

和文

種　　目	2004年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

３．その他（A，B のみ）

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

（2）全国学術集会

Ⅲ．学術賞

Ⅳ．共同研究

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

（2）その他の省庁からの研究費

（3）学内の研究助成

（4）民間の研究助成

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

f ）その他

（2）国内，地域活動

a ）全国レベルの学会の主催

b ）地方レベルの学会の主催

c ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

d ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

Ⅶ．その他

13. 社会医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

これまでの研究（自分の研究テーマ）を押し進め，発展させていきたい。特に以下の研究に力点を置きたい。

１．食物繊維の基礎的な消化吸収動態と大腸内における代謝を明らかにする。方法としては，これまで同様内視鏡的逆行性腸管挿管法を用いた小腸液灌流法と呼気水素測定法を用いて行う。食物繊維の体重コントロールに及ぼす効果についても検討したい。

２．好中球活性酸素種産生能，サイトカイン等の動態に影響を及ぼす物質（薬物，ビタミン等），運動負荷（合宿，減量，マラソン等）とその機序の研究を進める。

３．包括ケアを中心とした地域保健の遂行に関する先進的な研究を行う。

いずれの目標に対してもほぼ100％達成できたと考える。

理念：

予防医学の充実に役立つ研究を推進したい。また，臨床と地域医療・保健の連携を深めたい。

これから２年間の目標：

１．岩木健康増進プロジェクトにおけるライフスタイルと健康に関する総合的研究。

２．食物繊維の基礎的な消化吸収動態と大腸内における代謝を明らかにする。方法としては，これまで同様内視鏡的逆行性腸管挿管法を用いた小腸液灌流法と呼気水素測定法を用いて行う。食物繊維の体重コントロールに及ぼす効果についても検討したい。

３．好中球活性酸素種産生能，サイトカイン等の動態に影響を及ぼす物質（薬物，ビタミン等），運動負荷（合宿，減量，マラソン等）とその機序の研究を進める。

４．院内がん登録，地域がん登録の充実。

【研究人員及び研究課題】

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0.5，講師　0.5，助手　3，医員　0，大学院学生　15，研究生　8			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	中路　重之	2005年４月～2006年３月
	助教授	専　任	梅田　　孝	2006年１月～2006年３月
	講　師	専　任	梅田　　孝	2005年４月～２月
	助　手	専　任	高橋　一平	2005年４月～2006年３月
研究課題	１．癌の疫学（主要癌と食生活，喫煙，飲酒との関連） ２．公衆栄養（とくに食物繊維） ３．地域保健（青森県での全般的健康問題の把握，分析及び短命への対応策の構築） ４．スポーツ医学（競技スポーツ選手の減量，合宿時の調査） ５．免疫学的体力・適応力（特に好中球の活性酸素種産生能を指標としたもの）			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2005年度

A.1. Shigeyuki Nakaji, Chiyuki Shiroto, Misako Yodono, Takashi Umeda, Qiang Liu: Retrospective study of adjunctive diode laser therapy for pain attenuation in 662 patients: detailed analysis by questionnaire. Photomed Laser Surg 2005;23(1):60-5.

A.2. Takashi Umeda, Shigeyuki Nakaji, Tadashi Shimoyama, Arata Kojima, Yousuke Yamamoto, Kazuo Sugawara:

Adverse effects of energy restriction on changes in immunoglobulins and complements during weight reduction in judoists. J Sports Med Phys Fitness. 2004;44(3):328-34.

A.3. Ippei Takahashi, Takashi Umeda, Takao Oyama, Sen Shimaya, Makoto Yaegaki, Masashi Matsuzaka, Manabu Totsuka, Shigeyuki Nakaji, Kazuo Sugawara, Katsuhiko Suzuki, Takashi Kumae, Shinsaku Fukuda: Effects of low incident levels of laser irradiation and other environmental factors on the production capability of reactive oxygen species from human neutrophils. LLLT. 2005;14(2):55-65.

A.4. Koh-Jun Suzuki, Shigeyuki Nakaji, Shoji Tokunaga, Tadashi Shimoyama, Takashi Umeda, Kazuo Sugawara: Confounding by dietary factors in case-control studies on the efficacy of cancer screening in Japan. Eur J Epidemiol. 2005;20(1):73-8.

A.5. Masashi Miura, Takashi Umeda, Shigeyuki Nakaji, Qiang Liu, Masaru Tanabe, Arata Kojima, Yousuke Yamamoto, Kazuo Sugawara: Effect of 6 months' training on the reactive oxygen species production capacity of neutrophils and serum opsonic activity in judoists. Luminescence. 2005;20(1):1-7.

A.6. Koh-Jun Suzuki, Shigeyuki Nakaji, Terumi Kogawa, Keiko Kumeta, Eiko Oka, Naoko Kitagawa, Kazuhiro Suzukawa, Eiki Tsushima, Teiichi Nakayama, Ippei Takahashi, Takashi Kumae: Mechanistic approach to the effects of low level laser irradiation(LLLI) with the GaAIAs diode laser on the production of reactive oxygen specis from hunan neutrophils as a model for therapeutic modality at a cellular level. LLLT 2005;14(2):75-81.

A.7. Daisuke Saito, Shigeyuki Nakaji, Shinsaku Fukuda, Tadashi Shimoyama, Juuichi Sakamoto, Kazuo Sugawara: Comparison of the amount of pectin in the human terminal ileum with the amount of orally administered pectin. Nutrition. 2005;21(9):914-9.

B.1. Manabu Ichinohe, Reizo Mita, Kazuo Saito, Hideichi Shinkawa, Shigeyuki Nakaji, Michel Coombs, Alice Carney, Beverly Wright, Eoin Louis Fulle: The prevalence of obesity and its relationship with lifestyle factors in Jamaica. Tohoku J Exp Med. 2005;207(1):21-32.

B.2. Shinsaku Fukuda, Masashi Matsuzaka, Ippei Takahashi, Takao Oyama, Takashi Umeda, Tadashi Shimoyama, Shigeyuki Nakaji, Seiko Wada, Takashi Kumae: Bowel habits before and during menses in Japanese women of climacteric age: a population based study. Tohoku J Exp Med. 2005;206(2):99-104.

B.3. Kazuo Saito, Tomomi Katagiri, Mitsuya Ogawa, Shigeru Matsumoto, Junichiro Kubota, Toshio Ohshiro, Toshiaki Tsukamoto, Toshiki Okumura, Shigeyuki Nakaji, Takashi Umeda: Effects of diode laser irradiation on superficial blood flow in college sumo wrestlers: a preliminary study. LLLT 2005;14(2):83-86.

B.4. Yoshitaka Kaneita, Takashi Ohida, Shinji Takemura, Tomofumi Sone, Kenshu Suzuki, Tateo Miyake, Eisei Yokoyama, Takashi Umeda: Relation of smoking and drinking to sleep disturbance among Japanese pregnant women. Prev Med 2005; 41(5-6): 877-882

和文

2005年度

A.1. 中路重之：巻頭連載　がんの疫学 (1)　胃がん．臨床腫瘍プラクティス　2005;1(1):6-13.

A.2. 中路重之，松坂方士：巻頭連載　がんの疫学 (2)　大腸がん．臨床腫瘍プラクティス　2005;1(2):6-13.

A.3. 中路重之，梅田　孝，朝日茂樹，佐々木義樓：青森県下事業所における産業保健活動及びその体制の実態．体力・栄養・免疫学雑誌　2005;15(1):56-65.

A.4. 中路重之，梅田　孝，朝日茂樹，佐々木義樓：青森県の事業所における喫煙対策の現状―．体力・栄養・免疫学雑誌　2005;15(2):98-106.

A.5. 松坂方士，梅田　孝，高橋一平，塚本利昭，古川照美，片桐朝美，吉岡美子，岡村典慶，中路重之：女子柔道合宿前後の身体的・精神的変化とその関連について．体力・栄養・免疫学雑誌　2005;15(2):119-120.

A.6. 高橋一平，梅田　孝，小山隆男，八重垣誠，小嶋新太，山本洋祐，益子俊志，岡えいこ，奥村俊樹，中路重之：女子柔道選手における強化合宿中の長時間・高強度の運動がオプソニン化活性に及ぼす影響について．体力・栄養・免疫学雑誌　2005;15(2):121-122.

A.7. 小山隆男，梅田　孝，高橋一平，久米田桂子，嶋谷　泉，田辺　勝，山本洋祐，倉掛重精，中路重之：２時間の練習が男子柔道選手の身体的および精神的コンディションに及ぼす影響について．体力・栄養・免疫学雑誌　2005;15(2):152-154.

A.8. 竹内久貴，梅田　孝，珍田大輔，益子俊志，小山隆男，高橋一平，岡田　隆，岡村典慶，中山悌一，中路重之：７人制ラグビー日本代表候補選手における試合実施による身体的・精神的疲労の出現に関する研．臨床スポーツ医学　2005;2(2):185-192.

A.9. 能見修也，倉掛重精，梅田　孝，小山隆男，岡村典慶，熊江　隆，高橋一平，野村隆司，奥村俊樹，中路重之：気象条件が異なるマラソンの実施が身体的コンディションに及ぼす影響の違いについて．臨床スポーツ医学　2005;22(3):299-304.

B.1. 斉藤和男，梅田　孝，斉藤一雄，松本　茂，小川光哉，山本洋祐，田辺　勝，小嶋新太，戸塚　学，佐藤光毅，太田誠耕，小山隆男，高橋一平：大学相撲選手の肥満に関する研究：大学柔道選手との血液生化学値の比較．体力・栄養・免疫学会雑誌　2005;15:22-27.

B.2. 片桐朝美，古賀龍二，益子俊志，梅田　孝，春木宏介，櫻井　裕：空挺隊員の腰痛と降下回数の関係について．防衛衛生　2005;52(5,6):83-88.

B.3. 片桐朝美，春木宏介，梅田　孝，櫻井　裕：高齢者における介護予防の継続に関する研究―野沢温泉村の住民参加型保健活動より―．体力・栄養・免疫学雑誌　2005;15(2):88-97.

（2）総説

英文

2005年度

A.1. Ippei Takahashi, Takashi Umeda, Takao Oyama, Sen Shimaya, Makoto Yaegaki, Masashi Matsuzaka, Manabu Totsuka, Shigeyuki Nakaji, Kazuo Sugawara, Katsuhiko Suzuki, Takashi Kumae, Shinsaku Fukuda: Effects of low incident levels of laser irradiation and other environmental factors on the production capability of reactive oxygen species from human neutrophils. Laser Therapy 2005;14(2):55-65.

和文

2005年度

A.1. 中路重之：大腸がんと環境．秋田県公衆衛生学雑誌　2005；３巻１号：16−20．

（3）著書

なし

（4）その他

和文

2005年度

C.1. 瀧澤　透（八戸短期大学），渡邉直樹，山中朋子，大西基喜，鳥谷部牧子，中路重之，大山博史，鳴海寧子，辻浦智賀子，田中尚恵．【自殺予防をめぐって】 青森県における自殺予防活動（解説／特集） 2005　こころの健康；20巻２号：36−42．

（5）発表論文のまとめ

１．原著，総説（A，B のみ）

英文

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Photomed Laser Surg	0.784	1	0.784
J Sports Med Phys Fitness	0.634	1	0.634
LLLT	0	3	0
Eur J Epidemiol	0.517	1	0.517
Luminescence	1.258	1	1.258
Nutrition	2.272	1	2.272
Laser Therapy	0	1	0
Tohoku J Exp Med	0.494	2	0.988
Prev Med	1.580	1	1.58
Total		12	8.033

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2005年度
臨床腫瘍プラクティス	2
臨床スポーツ医学	2
体力・栄養・免疫学会雑誌	8
防衛衛生	1
秋田県公衆衛生学雑誌	1
計	14

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2005年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

和文

種　　目	2005年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

3．その他（A，Bのみ）

雑　　誌　　名	2005年度
こころの健康	1
計	1

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2005年度

C.1. Makoto Yaegaki, Shigeyoshi Kurakake, Takashi Umeda, Ippei Takahashi, Shigeyuki Nakaji: A study on the effect of water intake of umpires during a baseball game in a summer-heat environment. Poster presentation, The 8th Asian Federation of Sports Medicine Congress 2005 Tokyo 10 Tue-13Fri. May 2005 Keio Plaza Hotel Tokyo, Japan.

C.2. Takashi Umeda, Yousuke Yamamoto, Masaru Tanabe, Arata Kojima, Noriko Mochida, Yoshiko Yoshioka, Shigeyuki Nakaji: Effects of gender-related weight reduction on the physical condition of male and female college judoist Poster presentation, The 8th Asian Federation of Sports Medicine Congress 2005 Tokyo 10 Tue-13Fri. May 2005 Keio Plaza Hotel Tokyo, Japan.

C.3. Ippei Takahashi, Hideki Sato, Takashi Umeda, Takao Oyama, Makoto Yaegaki, Sen Shimaya, Shigeyuki Nakaji: Changes in the productiono f reactive oxygen species from neutrophils following a 100-km Marathon. Poster presentation, The 8th Asian Federation of Sports Medicine Congress 2005 Tokyo 10 Tue-13Fri. May 2005 Keio Plaza Hotel Tokyo, Japan.

C.4. Shigeyuki Nakaji, Takashi Umeda, Ippei Takahashi, Takao Oyama, Sen Shimaya, Makoto Yaegaki, Masashi Matsuzaka: A longitudinal and cross-sectional analysis revealed no preventive effect of dietary fiber against colon cancer in a low-fat intake Japanese population. 9th Hirosaki Medical Forum, 2005, Hirosaki, Japan.

C.5. Ippei Takahashi, Takashi Umeda, Takao Oyama, Makoto Yaegaki, Sen Shimaya, Masashi Matsuzaka, Shigeyuki Nakaji: Reactive oxygen species production capability of human neutrophils in the Japanese general population. 9th Hirosaki Medical Forum, 2005, Hirosaki, Japan.

C.6. Masashi Matsuzaka, Shuya Matsutani, Tadashi Shimoyama, Shingo Takanashi, Toshio Tsushima, Shuichi Yoshihara, Yoshihito Yokoyama, Shigeyuki Nakaji, Ryukichi Hada, Akihiro Munakata: Hospital-based Cancer Registry in Japan: present situation and future prospects. 9th Hirosaki Medical Forum, 2005, Hirosaki, Japan.

C.7. Takao Oyama, Shinsaku Fukuda, Juichi Sakamoto, Tadashi Shimoyama, Kazuma Danjo, Daisuke Saito, Daisuike Chinda, Sen Shimaya, Mamoru Munakata, Shigeyuki Nakaji: The recovery rate and oro-ileal transit time of orally ingested cellulose in the terminal ileum ― Comparison with pectin and resistant starch ― DDW 2005. Chicago. 14-19 May 2005.

C.8. Takao Oyama, Shinsaku Fukuda, Juichi Sakamoto, Tadashi Shimoyama, Kazuma Danjo, Daisuke Saito, Daisuke Chinda, Sen Shimaya, Akihiro Munakata, Shigeyuki Nakaji: Three major dietary fibers had no influence on the oro-ileal transit time of polyethylene glycol administered simultaneously with the dietary fibers. UEGW 2005. Copenhagen. 15-19 Oct 2005.

（2）全国学術集会

2005年度

B.1. 梅田　孝：競技スポーツ選手のメディカルチェックと健康管理及びコンディショニングの現状について．シンポジウム．第９回日本レーザー・スポーツ医学会学術集会，弘前大学医学部コミュニケーションセンター，弘前，2005.10.1.

C.　24件

Ⅲ．学術賞

1. 第76回日本衛生学会一般演題奨励賞　高橋一平
女子柔道選手の合宿による好中球機能および血清オプソニン化活性への影響

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2005年度

他研究単位との研究分担者として

1）萌芽研究　ヒト生体内での消化吸収動態による食物繊維の正確な定義
福田真作（H 16～18年度）800千円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2005年度

研究代表者として

1）青森医学振興会　院内がん登録　1,425千円（中路重之）

他研究単位との研究分担者として

1）アスベストプロジェクト「アスベスト関連疾患，中皮腫の新たな治療に向けた統合的展開」
鬼島宏　100千円

2）受託研究　青森医学振興会
「青森県住民における脳卒中の危険因子と生活習慣病対策及び青森県農産物中の降圧物質に関する研究」
佐藤敬　5,000千円

（4）民間の研究助成

2005年度

研究代表者として

1）共同研究（東北化学薬品株式会社）
「習慣的運動実施者に対するビタミンC及びアミノ酸摂取が好中球に及ぼす影響について」
中路重之　475千円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2005年度

Prof. David Baxter, Otago University, Australia，2日

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

第9回日本レーザー・スポーツ医学会学術集会（弘前：MCC）会長：中路重之

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

14. 寄生虫学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：
活発に研究を行い学会発表・論文発表を十分行うことができた

理念：
寄生虫学をリードする研究

これから２年間の目標：
多数の論文発表を目指して研究を行う

【研究人員及び研究課題】

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	神谷　晴夫	2005年４月～2005年８月
	講　師	専　任	佐藤　　宏	2005年４月～2006年２月
	助　手	専　任	長内　理大	2005年４月～2006年３月
研究課題	１．エキノコックス(症)に係わる生化学・分子生物学・免疫病理学的研究 ２．国内寄生虫相の疫学的研究 ３．輸入動物類の寄生虫相の研究 ４．寄生虫診断開発を目指した分子生物学的研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2005年度

A.1. Sato H, Suzuki K, Osanai A, Aoki M: Paragonimus westermani and some rare intestinal trematodes recovered from raccoon dogs (Nyctereutes procyonoides viverrinus) introduced recently on Yakushima Island, Japan. J Vet Med Sci. 2006 Jul;68(7):681-7.

A.2. Sato H, Suzuki K, Osanai A, Kamiya H, Furuoka H: Identification and characterization of the threadworm, Strongyloides procyonis, from feral raccoons (Procyon lotor) in Japan. J Parasitol. 2006 Feb;92(1):63-8.

A.3. Sato H, Osanai A, Kamiya H, Une Y: Gizzard spirurid nematode Acuaria skrjabini in Japanese tree sparrows and a gray starling from Tokyo. J Vet Med Sci. 2005 Jun;67(6):607-9.

B.1. Inaoka DK, Takashima E, Osanai A, Shimizu H, Nara T, Aoki T, Harada S, Kita K: Expression, purification and crystallization of Trypanosoma cruzi dihydroorotate dehydrogenase complexed with orotate. Acta Crystallograph Sect F Struct Biol Cryst Commun. 2005 Oct 1;61(Pt 10):875-8.

和文　なし

（2）総説

なし

（3）著書

なし

（4）その他

なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Journal of Veterinary Medical Science	0.663	2	1.326
Journal of parasitology	1.524	1	1.524
Acta Crystallographica	1.9	1	1.9
Total		4	4.75

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
な　　し		
計	0	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2005年度

C.　2件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2005年度

研究代表者として

長内理大．若手研究（B）石灰小体はエキノコックスの発育にどのように係わるのか？　220万円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

15. 法医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

ア）国内学術雑誌に対して各教員が年平均１編以上の first author となる論文投稿を志向する。(2/5)
イ）国内学術雑誌に対して各教員が年平均３編以上の co-author となる論文投稿を志向する。(2/5)
ウ）国際学術雑誌に対して各教員が１縮以上の first author となる論文投稿を志向する。(0/5)
エ）国際学術雑誌に対して各教員が１編以上の co-author となる論文投稿を志向する。(3/5)
オ）国際学会に対して，各教員が chief presenter として１編以上 co-presenter として１編以上を発表する。(3/5)
カ）全国レベルの学術学会で主演者または共同演者として年３演題以上を発表する。(7/5)
キ）研究助成を各教員１件以上確保する。(0/5)

理念：

法医学は基礎医学ではなく，実践医学あるいは応用医学に位置づけられる。すなわち，実務への応用が法医学研究の直接且つ究極の目的であり，鑑定実例に対して問題意識をもつことから研究のアイディアがスタートする。法医学の研究領域は多様であることが当然で，どのような分野に関連していても問題はない。一方，法医学が裁判医学・法廷医学と別称されるように，国家医学としての幾能を果たしてこそこの学問の存在意義が認められるのであるから，我が国の社会秩序維持・国民の安全確保を旨とした司法活動に直接関わる研究を行うことこそが責務と言える。すなわち，日々担当する眼前の鑑定業務を疎かにする姿勢は厳に慎むべきであり，国内の司法・捜査関係者への邦文による情報提供が求められている。このような動機に基づき，当法医学講座では鑑定水準の向上を目指すことを第一優先事項として研究に取り組むものとする。

これから２年間の目標：

ア）国内学術雑誌に対して各教員が年平均１編以上の first author となる論文投稿を志向する。
イ）国内学術雑誌に対して各教員が年平均３編以上の co-author となる論文投稿を志向する。
ウ）国際学術雑誌に対して各教員が１縮以上の first author となる論文投稿を志向する。
エ）国際学術雑誌に対して各教員が１編以上の co-author となる論文投稿を志向する。
オ）国際学会に対して，各教員が chief presenter として１編以上 co-presenter として１編以上を発表する。
カ）全国レベルの学術学会で主演者または共同演者として年３演題以上を発表する。
キ）研究助成を各教員１件以上確保する。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	黒田　直人	1年間
	講　師	専　任	北　　武	1年間
	助　手	専　任	丹野　高三	1年間
研究課題	1．アルコールの体内分布差異による飲酒後経過時間の推定 2．交通外傷における受傷機序 3．頚動脈小体の形態的変化の意義 4．乳児突然死の症例研究 5．舌骨大角体部関節の骨化と年齢との関連性 6．法医血清学 7．血液蛋白を指標とする人血証明 8．精液蛋白を指標とするヒト精液証明 9．機能食品の抗腫瘍作用について 10．胃粘膜を用いた高度腐敗死体の血液型迅速判定法			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	黒田　直人	1年
	講　師	専　任	北　　武	1年
研究課題	1．法医解剖診断学 2．法医解剖症例研究 3．自殺の法医学的研究 4．法医血清学 5．血液蛋白を指標とする人血証明 6．精液蛋白を指標とするヒト精液証明 7．機能食品の抗腫瘍作用について			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 北　　武，丹野高三，黒田直人，石田邦夫，北　均：Sandwich Dot-ELISA法によるヒト精液の証明（Ⅱ）．法医学の実際と研究　2004;47:173-8.

2005年度

A.1. 北　　武，丹野高三，黒田直人，石田邦男，北　　均：型的二重結合反応法による腐敗死体のABO式血液型検査（Ⅰ）．法医実研　2005;48:67-71.

（2）総説

なし

（3）著書

なし

（4）その他

英文

2004年度

B.1. Nishie M, Mori F, Ogawa M, Sannohe S, Tanno K, Kurahashi K, Kuroda N, Wakabayashi K: Multitucleated astrocytes in old demyelinated plaques in a patient with multiple sclerosis. Neuropathology 24:248-53,2004.

B.2. Mori F, Nishie M, Tanno K, Sannohe S, Kuroda N, Wakabayashi K: Hydroanencephaly with extensive periventricular necrosis and numerous ectopic glioneuronal nests. Neuropathology 24:315-9,2004.

2005年度

B.1. Wakabayashi K, Mori F, Nishie M, Oyama Y, Kurihara A, Yopshimoto M, Kuroda N: An autopsy case of early (“minimal change”) olivopontocerebellar atrophy (muotiple system atrophy-cerebellar). Acta Neuropathol (Berl). 2005 Aug;110(2):185-90. Epub 2005 Jun 22.

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　　し			
Total		0	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
法医学の実際と研究	1	1
計	1	1

2．著書数（A，Bのみ）

なし

3．その他（A，Bのみ）

英文

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Acta Neuropathologica	2.527	1	2.527
Total		1	2.527

和文（論文数）なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2005年度

C.1. Tanno K, Kita T, Kuroda N: Non-accidental death in motor vehicles in North Japan. The 7th International Conference on Clinical Forensic Medicine and the Association of Forensic Physicians, 9-13 May, 2005, Dunblane. Scotland, UK.

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 第32回日本集中治療医学会学術集会　教育講演「救命医療と法医解剖とのかかわり」2004年2月24日，京王プラザホテル.

C. 7件

2005年度

A.1. 黒田直人：教育講演「救命医療と法医解剖とのかかわり」，第32回日本集中治療医学会学術集会，東京，2005年.

C. 4件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

16. 内科学第一講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

１）英文学術誌へ論文を投稿するよう指導する。

当該研究単位としての掲載数が年平均８件と少なかった。

到達度：70％

２）国際学会，全国レベルの学会における発表数の増加に心掛けるとともに，その研究結果については可能な限り学術誌へ投稿するように指導する。

国内外での発表数は多かったが，投稿・掲載される数が少なかった。

到達度：80％

３）教員，医員，大学院生，研究生の研究に対して，積極的に指導・助言を行う。

到達度：80％

４）学位論文の作成に指導・助言を行う。

学位論文は全て投稿されていた。

到達度：100％

５）科学研究費補助金の採択数を向上させる。

到達度：90％（年平均４課題が採択された）

理念：

臨床講座として消化器病，血液病，膠原病についての臨床研究をさらに発展させるとともに，関連する基礎講座との連携により基礎的な研究を推進させる。

これから２年間の目標：

１．英文学術誌へ論文を投稿するよう指導する。

２．国際学会，全国レベルの学会における発表数の増加に心掛けるとともに，その研究結果については可能な限り学術誌へ投稿するように指導する。

３．科学研究費補助金の採択数を維持する。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　3，助手　5，医員　5，大学院学生　12，研究生　9			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	棟方　昭博	平成16年４月～17年３月
	助教授	専　任	福田　眞作	平成16年４月～17年３月
	講　師	専　任	石黒　　陽	平成16年４月～17年３月
	講　師	専　任	坂本　十一	平成16年４月～17年３月
	講　師	専　任	玉井　佳子	平成16年４月～17年３月
	助　手	専　任	伊東　重豪	平成16年４月～17年３月
	助　手	専　任	下山　　克	平成16年４月～17年３月
	助　手	専　任	山形　和史	平成16年４月～17年３月
	助　手	専　任	遠藤　　哲	平成16年４月～17年３月
	助　手	専　任	三上　達也	平成16年４月～17年３月
研究課題	１．消化器疾患の光学的定量法による診断に関する研究 ２．*Helicobacter pylori* に関する研究 ３．消化器疾患の内視鏡的治療に関する研究 ４．炎症性腸疾患の成因に関する研究 ５．大腸癌集団検診に関する研究 ６．食物繊維による大腸癌の予防に関する研究 ７．消化器悪性腫瘍に対する化学療法に関する研究			

	8．消化管機能性疾患の病態生理に関する研究 9．慢性肝炎からの発癌予防に関する研究 10．定量的出血時間に関する研究

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　4，助手　5，医員　6，大学院学生　16，研究生　9			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	棟方　昭博	平成17年４月～18年３月
	助教授	専　任	福田　眞作	平成17年４月～18年３月
	講　師	専　任	石黒　　陽	平成17年４月～17年９月
	講　師	専　任	坂本　十一	平成17年４月～18年３月
	講　師	専　任	玉井　佳子	平成17年４月～18年３月
	助　手	専　任	伊東　重豪	平成17年４月～18年３月
	助　手	専　任	下山　　克	平成17年４月～17年９月
	講　師	専　任	下山　　克	平成17年10月～18年３月
	助　手	専　任	山形　和史	平成17年４月～18年３月
	助　手	専　任	遠藤　　哲	平成17年４月～18年３月
	助　手	専　任	三上　達也	平成17年４月～18年３月
	助　手	専　任	高畑　武功	平成17年４月～18年３月
	助　手	専　任	吉村　徹郎	平成17年10月～18年３月
研究課題	1．消化器疾患の光学的定量法による診断に関する研究 2．*Helicobacter pylori* に関する研究 3．消化器疾患の内視鏡的治療に関する研究 4．炎症性腸疾患の成因に関する研究 5．大腸癌集団検診に関する研究 6．食物繊維による大腸癌の予防に関する研究 7．消化器悪性腫瘍に対する化学療法に関する研究 8．消化管機能性疾患の病態生理に関する研究 9．慢性肝炎からの発癌予防に関する研究 10．定量的出血時間に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

A.1. Takahata T, Yasui-Fukukori N, Yoshiya G, Uno T, Sugawara K, Tateishi T: Fexofenadine does not affect Omeprazole Pharmacokinetics: Both are putative P-Glycoprotein substrates. Basic & Clinical Pharmacology & Toxicology 2004;94:252-6.

A.2. Takahata T, Kumao T, Ookawa K, Hayakari M, Kakizaki I, Tsuchida S: Inhibition of 3T3-L1 adipocyte differentiation by 6-ethoxyzolamide: repressed peroxisome proliferator-activated receptor γ mRNA and enhanced CCAAT/enhancer binding protein β mRNA levels. Biochemical Pharmacology 2004;67:1667-75.

A.3. Nishiya D, Shimoyama T, Yoshimura T, Tanaka M, Fukuda S, Munakata A: Genes inside the cagPAI of *Helicobacter pylori* are not associated with gastric cancer in Japan. Hepato-Gastroenterology 2004;51:891-4.

A.4. Fukuda S, Shimoyama T, Umegaki N, Mikami T, Nakano H, Munakata A: Effect of *Helicobacter pylori* eradication in the treatment of Japanese patients with chronic idiopathic urticaria. J Gastroenterol 2004;39:827-30.

A.5. Shimoyama T, Fukuda S, Mikami T, Fukushi M, Munakata A: Efficacy of metronidazole for the treatment of clarithromycin-resistant *Helicobacter pylori* infection in a Japanese population. J Gastroenterol 2004;39:927-30.

A.6. Ishiguro Y, Sakuraba H, Yamagata K, Munakata A: The presentation of haptenated proteins and activation of T cells in the mesenteric lymph nodes by dendritic cells in the TNBS colitis rat. Annals of New York Academy of Science 2004;1029:346-7.

A.7. Ishiguro Y, Yamagata K, Sakuraba H, Munakata A, Nakane A: Macrophage migration inhibitory factor and activator Protein-1 in ulcerative colitis. Annals of New York Academy of Science 2004;1029:348-9.

A.8. Sakuraba H, Ishiguro Y, Yamagata K, Munakata A, Nakane A: Transforming growth factor-β regulates susceptibility of epithelial apoptosis in murine model of colitis. Annals of New York Academy of Science 2004;1029:382-4.

B.1. *Nakaji S, Ishiguro S, Iwane S, Ohta M, Sugawara K, Sakamoto J, Fukuda S: The prevention of colon carcinogenesis in rats by dietary cellulose is greater than the promotive effect of dietary lard as assessed by repeated endoscopic observation. J Nutr 2004;134:935-9.

B.2. *Wada S, Nakaji S, Umeda T, Takahashi I, Oyama T, Chinda D, Sugawara K, Shimoyama T, Sakamoto J, Fukuda S: Nutritional effects of supplementing liquid-formula diet with dietary fiber on elderly bed-ridden patients. Tohoku J Exp Med 2004;203:9-16.

B.3. *Chinda D, Nakaji S, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Nakamura T, Fujisawa T, Terada A, Sugawara K: The fermentation of different dietary fibers is associated with fecal clostridia levels in men. J Nutr 2004;134:1881-6.

B.4. Kim J-S, Lee K-S, Kim Y-I, Tamai Y, Nakahata R, Takami H: A randomized crossover comparative study of aspirin, cilostazol and clopidogrel in normal controls: analysis with quantitative bleeding time and platelet aggregation test. Journal of Clinical Neuroscience 2004;11:600-2.

B.5. Kato M, Saito M, Fukuda S, Kato C, Ohara S, Hamada S, Nagashima R, Obara K, Suzuki M, Honda H, Asaka M, Toyota T: ^{13}C-Urea breath test, using a new compact nondispersive isotopeselective infrared spectrophotometer: comparison with mass spectrometry. J Gastroenterol 2004;39:629-34.

B.6. Ohara S, Kato M, Saito M, Fukuda S, Kato C, Hamada S, Nagashima R, Obara K, Suzuki M, Honda H, Asaka M, Toyota T: Comparison between a new ^{13}C-Urea breath test, using a film-coated tablet, and the conventional ^{13}C-Urea breath test for the detection of Helicobacter pylori infection. J Gastroenterol 2004;39:621-8.

B.7. *Nakaji S, Umeda T, Kumae T, Ohta S, Totsuka M, Sato K, Sugawara K, Fukuda S: A tube-fed liquid formula diet containing dietary fiber increased stool weight in bed-ridden elderly patients. Nutrition 2004;20:955-60.

B.8. *Suzuki M, Umeda T, Nakaji S, Shimoyama T, Mashiko T, Sugawara K: Effect of incorporating low intensity exercise into the recovery period after a rugby match. Br J Sports Med 2004;38:436-40.

B.9. *Umeda T, Nakaji S, Shimoyama T, Yamamoto Y, Totsuka M, Sugawara K: Adverse effects of energy restriction on myogenic enzymes in judoists. J Sports Sci 2004;22:329-38.

B.10. *Umeda T, Nakaji S, Shimoyama T, Kojima A, Yamamoto Y, Sugawara K: Adverse effects of energy restriction on changes in immunoglobulins and complements during weight reduction in judoists. J Sports Med Phys Fitness 2004;44:328-34.

B.11. *Nakaji S, Liu Q, Yamamoto T, Kakuta Y, Sakamoto J, Sugawara K, Bailar J C: Firm measures are required to effect any significant decrease in the Japanese age-adjusted mortality rate from malignant neoplasms for the 21st century. Eur J Epidemiology 2004;19:123-8.

B.12. *Nakaji S, Parodi S, Fontana V, Umeda T, Suzuki K, Sakamoto J, Fukuda S, Wada S, Sugawara K: Seasonal changes in mortality rates from main causes of death in Japan (1970-1999). Eur. J. Epidemiol 2004; 19:905-13.

B.13. *Nakaji S, Matsuzaka M, Umeda T, Shimoyama T, Sugawara K, Sakamoto J, Wada S, Tokunaga S: A population-based study on defecatory conditions in Japanese subjects: Methods for self-evaluation. Tohoku J Exp Med 2004;203:97-104.

2005年度

A.1. Saito M, Yasui-Furukori N, Uno T, Takahata T, Sugawara K, Munakata A, Tateishi T: Effect of clarithromycin on lansoprazole pharmacokinetics between *CYP2C19* genotypes. Br J Clin Pharmacol 2004;59:302-9.

A.2. Shimoyama T, Fukuda S, Nakasato F, Yoshimura T, Mikami T, Munakata A: Relation of CagA seropositivity to cagPAI phenotype and histological grade of gastritis in patients with *Helicobacter pylori* infection. World J Gastroenterol 2005;11:3751-5.

A.3. Komatsu T, Tamai Y, Takami H, Yamagata K, Fukuda S, Munakata A: Study for determination of optimal cessation period of therapy with anti-platelet agents prior to invasive endoscopic procedures. J Gastroenterol 2005;40:698-707.

A.4. Hanabata N, Sasaki Y, Tanaka M, Tsuji T, Hada R, Hatada Y, Munakata A: Vascular endothelial growth factor expression and microvessel parameters of colonic mucosa correlate with sensitivity to steroid in patients with ulcerative colitis. Scand J Gastroenterol 2005;40:188-93.

A.5. Takahata T, Yasui-Furukori N, Sakamoto J, Suto K, Suto T, Tateishi T, Munakata A: Influence of hepatic impairment on the pharmacokinetics and pharmacodynamics of landiolol hydrochloride, an ultra-short-acting beta1-blocker. Drugs R D 2005;6:385-94.

A.6. Fukuda S, Matsuzaka M, Takahashi I, Oyama T, Umeda T, Shimoyama T, Nakaji S, Wada S, Kumae T: Bowel habits before and during menses in Japanese women of climacteric age: A population based study. Tohoku J Exp Med 2005;206:99-104.

A.7. Saito D, Nakaji S, Fukuda S, Shimoyama T, Sakamoto J, Sugawara K: Comparison of the amount of pectin in the human terminal ileum with the amount of orally administered pectin. Nutrition 2005;21:914-9.

A.8. Fukuda S, Takahashi I, Umeda T, Fujimaki Y, Oyama T, Nakaji S, Tsukamoto T, Shimoyama T: Effect of diode laser irradiation on interleukin-8 production by human neutrophils. Laser therapy 2005;14:37-40.

A.9. Watanabe T, Tamura Y, Tsushima K, Munakata A: Prognostic significance of p53 mutation in surgically treated colorectal cancer: A prospective study using direct sequencing method. Hirosaki Med J 2005; 56:69-78.

B.1. *Kondo N, Suzuki Y, Wakayama F, Tamai Y, Ji K, Fukui K, Fukuda I: Platelet preservation with a Glycoprotein IIb/IIIa inhibitor in a porcine cardiopulmonary Bypass model. Ann Thorac Surg 2005;80:251-8.

和文

2004年度

A.1. 櫻庭裕丈，石黒　陽，山形和史，藤田　均，平賀寛人，蝦名佐都子，棟方昭博，中根明夫：DSS 誘発大腸粘膜障害における上皮細胞アポトーシスの制御メカニズム― TGF-βの役割―．消化器と免疫 2003;40:65-7.

A.2. 三上素子，須藤俊之，坂本十一，棟方昭博：肝細胞癌における Contrast Harmonic Imaging 法を用いた超音波検査の診断能についての検討．弘前医学 2004;55(2):57-67.

A.3. 佐藤　研，中畑　元，瀧本美耶子，棟方昭博，佐々木大輔：高齢者 IBS 症例の検討．日本心療内科学会誌 2004;8(3):185-8.

A.4. 石黒　敦，小松知子，山形和史，玉井佳子，棟方昭博，高見秀樹：慢性骨髄性白血病にメシル酸イマチニブを投与した 11 例の治療成績．弘前医学 2004;55(3-4):95-100.

A.5. 檀上和真, 中路重之, 福田眞作, 斎藤大輔, 珍田大輔, 下山　克, 坂本十一, 菅原和夫, 棟方昭博：食物繊維（ペクチンと難消化性澱粉）による生体内での消化吸収動態の相違．体力・栄養・免疫学雑誌 2004;13(3):239.

B.1. * 小山隆男，中路重之，珍田大輔，下山　克，坂本十一，福田眞作，菅原和夫：経口摂取セルロースの大腸到達率に関する検討．体力・栄養・免疫学雑誌 2004;13(3):232-3.

B.2. * 珍田大輔，中路重之，小山隆男，菅原和夫，福田眞作，坂本十一，下山　克，棟方昭博：^{13}C 標識混合中性脂肪を用いた水溶性および不溶性食物繊維の脂質吸収抑制に関する検討．消化と吸収 2003;26(1):83-6.

B.3. * 珍田大輔，中路重之，小山隆男，下山　克，坂本十一，福田眞作，藤澤倫彦，寺田　厚，菅原和夫：水溶性および不溶性食物繊維における発酵の比較．体力・栄養・免疫学雑誌 2004;13(3):234-5.

2005年度

A.1. 石黒　陽，櫻庭裕丈，山形和史，平賀寛人，蝦名佐都子，藤田　均，棟方昭博，他1名：難治性潰瘍性大腸炎における Macrophage migration inhibitory factor(MIF) の役割．消化器と免疫 2004;41:19-20.

A.2. 花畑憲洋，三上達也，山形和史，福田眞作，棟方昭博：当科において経過観察が可能であった大腸ポリープ切除症例の検討．日本大腸検査学会雑誌 2005;22(1):36-9.

A.3. 高畑武功，須藤晃司，福田真作，樽沢孝二，遠藤　哲，坂本十一，板橋陽子，淀野　啓，田中正則，福士勝久，棟方昭博：C 型慢性肝炎にみられた hypovascular な脂肪原性肝腫瘍の 1 例．弘前市立病院医誌 2005;14:35-40.

B.1. * 楠美智己，玉井佳子，相澤　弘，千葉裕樹，黒滝日出一，鬼島　宏：広範な髄外造血巣を形成した骨髄線維症の 1 剖検例．診断病理 2005;22:264-9.

（2）総説

英文

2005年度

B.1. * Takahashi I, Umeda T, Shimaya S, Yaegaki M, Matsuzaka M, Totsuka M, Nakaji S, Sugawara K, Suzuki K, Kumae T, Fukuda S: Effects of low incident levels of laser irradiation and other environmental factors on the production capacity of reactive oxygen species from human neutrophils. Laser therapy 2005;14(2):55-65.

和文

2004年度

A.1. 棟方昭博：メサラジン注腸剤（Mesalazine Enema）．臨床消化器内科 2004;19(4):481-4.

A.2. 三上達也，福田眞作，棟方昭博：大腸内視鏡偶発症予防の基本．消化器内視鏡 2004;16(3):516-7.

A.3. 坂本十一，棟方昭博：潰瘍性大腸炎の診断基準．診断と治療 2004;92(3):405-10.

A.4. 棟方昭博，福田眞作：潰瘍性大腸炎：現行の診断基準の問題点と運用上の注意点．最新医学 2004;59(5):1019-24.

A.5. 玉井佳子，小松知子，石黒　敦，山形和史，棟方昭博，高見秀樹：血液疾患に合併した febrile neutropenia に対する注射用 ciprofloxacin (CPFX) の使用経験．Prog. Med 2004;24(11):2812-5.

A.6. 福田眞作，三上達也，棟方昭博：潰瘍性大腸炎診断の進歩と内科治療．外科 2004;66(7):773-9.

A.7. 福田眞作，山形　亮，棟方昭博：内科外来診療実践ガイド―腸炎・下痢症―．Medical Practice 2004;21:135-7.

A.8. 石黒　陽，山形和史，佐々木賀広，福田眞作，畑田康政，棟方昭博，田中正則：特集：これが Colitic cancer だ―Ⅱ a 型早期癌の 1 例．消化器内視鏡 2004;16(7):1120-1.

A.9. 石黒　陽，山形和史，佐々木賀広，福田眞作，畑田康政，棟方昭博，田中正則：特集：これが Colitic cancer だ―Ⅱ a 集簇様進行癌の 1 例．消化器内視鏡 2004;16(7):1126-7.

A.10. 山形和史，石黒　陽，棟方昭博：大腸・肛門疾患―最新の診断と治療，虚血性腸炎の診断と治療．臨牀と研究 2004;81(9):58-61.

A.11. 小松知子，玉井佳子，山形和史，澤村典子，間山　恒，三上達也，下山　克，福田眞作，棟方昭博，高見秀樹：慢性特発性血小板減少性紫斑病に対する *Helicobacter pylori* 除菌療法の効果．弘前医学 2004;56(1):9-14.

A.12. 石黒　陽，山形和史，棟方昭博：炎症性腸疾患の診断と重症度分類．治療学 2004;38(11):28-33.

A.13. 玉井佳子，山形和史，小松知子，石黒　敦，棟方昭博，高見秀樹，根来健一：非血友病性後天性第Ⅷ因子インヒビター陽性 4 症例の検討．東北止血・血栓研究会会誌 2005，ⅩⅧ (1):1-3.

A.14. 三上達也，福田眞作，棟方昭博：Ｓ状結腸が越えられない時．消化器の臨床 2005;8(1):66-7.

B.1. * 佐々木大輔，中畑　元，佐藤　研，瀧本美耶子：高齢者における過敏性腸症候群．老年消化器病 2004;16(1):25-30.

2005年度

A.1. 坂本十一，棟方昭博：潰瘍性大腸炎の概念，診断，分類．日本臨牀 2005;63(5):744-9.

A.2. 山形和史，石黒　陽，蝦名佐都子，島谷孝司，平賀寛人，棟方昭博：腸管子宮内膜症―診断と治療．臨牀消化器内科 2005;20(10):1375-82.

A.3. 花畑憲洋，澤村典子，福田眞作，棟方昭博：実地診療に必要な臨床疫学的知見　自然史からみた炎症性腸疾患の動態．Medical Practice 2005;22(5):751-5.

A.4. 三上達也，福田眞作，棟方昭博：S 状結腸が越えられない時．消化器の臨床 2005;8:66-7.

A.5. 西谷大輔，三上達也，福田眞作：早期胃癌の内視鏡的治療―どこまでが適応なのか．臨床腫瘍プラクティス 2005;1:28-30.

A.6. 三上達也，福田眞作，棟方昭博：大腸癌．綜合臨床 2006;55:484-7.

A.7. 下山　克，福田眞作：*H. pylori* 除菌と消化性潰瘍・関連疾患―基礎・臨床研究のアップデート―Ⅷ．上部消化管疾患以外で，検討されている除菌対象疾患：慢性じんま疹．日本臨牀 2005;63(増刊号 1):317-9.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 棟方昭博，福田眞作：活動期の薬物療法(5－ASA 剤，副腎皮質ホルモン)．日比紀文編．消化器病セミナー94，p1－11．へるす出版，東京．2004．(分担)

A.2. 棟方昭博，山形　亮，福田眞作：１．症候：腹痛．「消化器病診療」編集委員会 編．消化器病診療―良きインフォームド・コンセントに向けて―，p3－6．(財)日本消化器病学会，東京．2004．(分担)

A.3. 玉井佳子，棟方昭博：過敏性腸症候群，結腸憩室疾患．黒川清，寺本民生 編．EBM 内科処方指針，p403-8．中外医学社，東京．2004．(分担)

A.4. 棟方昭博：食道・胃・腸の病気：腹膜の病気．高久史麿 他編．最新版　家庭医学大全科，p1959－66．法研，東京．2004．(分担)

A.5. 坂本十一，棟方昭博：大腸憩室疾患．水島裕，黒川清 編．今日の治療と看護，p453－4．南江堂，東京．2004．(分担)

A.6. 棟方昭博：消化器部門・生理検査分担報告書．厚生労働省科学研究費補助金，行政政策研究分野，政策科学推進事業「診療報酬における医師技術評価に関する研究」平成16年度総括・分担報告書，p75－6．2004．(分担)

A.7. 棟方昭博：潰瘍性大腸炎の治療指針改定案に関する研究．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服対策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班　分担研究報告書，p14－5．2004．(分担)

A.8. 棟方昭博，石黒　陽，櫻庭裕丈，山形和史，平賀寛人，蝦名佐都子，藤田　均，中根明夫：潰瘍性大腸炎における Macrophage migration inhibitory factor (MIF) に関する研究．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服対策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班　分担研究報告書，p100－1．2004．(分担)

A.9. 石黒　陽，棟方昭博：放射線大腸炎．戸田剛太郎 他編．消化器疾患最新の治療2005－2006，p274－5．南江堂，東京．2005．(分担)

B.1. * 高見秀樹，玉井佳子：出血時間測定．池田康夫，丸山征郎 編．血小板生物学，p719－26．メディカルレビュー社，東京．2004．(分担)

2005年度

A.1. 棟方昭博：潰瘍性大腸炎難治例の緩解維持療法に関する研究―平成16年度治療指針改定案を含めて．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班　平成16年度研究報告書，p82．2005．(分担)

A.2. 棟方昭博：ベーチェット病（BD）患者末梢血単核球における Streptcoccus sanguis の cell wall に対する反応性に関する研究．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班　平成16年度研究報告書，p82．2005．(分担)

A.3. 棟方昭博：消化管疾患，潰瘍性大腸炎．山口徹，北原光夫，福井次矢 編．今日の治療指針2006年度版，p353－4．医学書院，東京．2006．(分担)

A.4. 棟方昭博，福田眞作：潰瘍性大腸炎の治療－日米間の相違．渡辺英伸，杉原健一，多田正大 編．大腸疾患 Now 2006，p208－14．日本メディカルセンター，東京．2006．(分担)

A.5. 遠藤　哲，坂本十一，棟方昭博：腸 Angiodysplasia．千葉勉，井廻道夫 編．消化器疾患診療実践ガイド，p537－8．文光堂，東京．2005．(分担)

A.6. 遠藤　哲，坂本十一，棟方昭博：門脈圧亢進性腸症．千葉勉，井廻道夫 編．消化器疾患診療実践ガイド，p539－40．文光堂，東京．2005．(分担)

A.7. 遠藤　哲，坂本十一，棟方昭博：急性腸管膜動脈閉塞症．千葉勉，井廻道夫 編．消化器疾患診療実践ガイド，p541－2．文光堂，東京．2005．(分担)

A.8. 遠藤　哲，坂本十一，棟方昭博：強皮症の消化管病変．千葉勉，井廻道夫 編．消化器疾患診療実践ガイド，p807－8．文光堂，東京．2005．(分担)

A.9. 三上達也，福田眞作，棟方昭博：便秘．渡辺純夫，澤田賢一 編．症状から診る内科疾患，p233－6．メジカルビュー，東京．2005．(分担)

A.10. 棟方昭博，福田眞作：腹痛の病態生理．イヤーノートシリーズ― selected articles 2007―，p299－306．2007．

A.11. 坂本十一，水木一郎，棟方昭博：虫垂炎・大腸憩室疾患．千葉勉 編．看護のための最新医学講座第２版―第４巻消化管疾患，p315−21．中山書店，東京．2005．（分担）

A.12. 坂本十一，棟方昭博：薬剤性大腸炎．富野康日己 編．内科疾患診療マニュアル，p306−8．中外医学社，東京．2005．（分担）

A.13. 坂本十一，棟方昭博：肛門周囲膿瘍．富野康日己 編．内科疾患診療マニュアル，p309−10．中外医学社，東京．2005．（分担）

A.14. 坂本十一，棟方昭博：腸虚血性病変（虚血性腸炎）．富野康日己 編．内科疾患診療マニュアル，p311−3．中外医学社，東京．2005．（分担）

A.15. 坂本十一，棟方昭博：蛋白漏出性胃腸症．富野康日己 編．内科疾患診療マニュアル，p314−16．中外医学社，東京．2005．（分担）

A.16. 佐藤　研，坂本十一，棟方昭博：Osler 病．千葉勉，井廻道夫 編．消化器疾患診療実践ガイド，p538−9．文光堂，東京．2005（分担）．

A.17. 佐藤　研，坂本十一，棟方昭博：Schonlein-Henoch 紫斑病の消化管病変．千葉勉，井廻道夫 編．消化器疾患診療実践ガイド，p808−10．文光堂，東京．2005（分担）．

A.18. 玉井佳子，河村節子：Ⅸ．妊娠と血液疾患３．妊娠と血小板減少．浅野茂隆，池田康夫，内山卓 編．三輪血液病学，p1828−31．文光堂，東京．2006．（分担）

（4）その他

英文

2004年度

A.1. Chinda D, Muramoto K, Shimoyama T, Sasaki H, Nara H, Munakata A: Asymptomatic colonic anisakiasis identified during colonoscopy. Digestive Endoscopy 2004;16:176-7.

B.1. *Sasaki Y, Mikami T, Sawaya M, Ishiguro Y, Tsuji T, Fukuda S, Munakata A, Morita T: Disrupted peristalsis in a patient with colonic duplication and chronic constipation. Gastrointest Endosc 2004;59:589-92.

B.2. Coombs M, Wright B, Carney A, Fuller EL, Mita R, Seino K, Endo T, Omachi T, Tateda Y, Nakaji S: Chronic life style disease prevention through technical cooperation. International Collaboration in Community Health: International Congress Series 2004;1267:24-32.

2005年度

A.1. Fukuda S, Mikami T, Shimoyama T, Hanabata N, Iwamura H, Munakata A: Withdrawing method of the stiffening tube incidentally inserted into the descending colon. World J Gastroenterol 2005;11:5390-1.

A.2. Endo T, Sakamoto J, Sato K, Takimoto M, Shimaya K, Mikami T, Munakata A, Shimoyama T, Fukuda S: Acute esophageal necrosis caused by alcohol abuse. World J Gastroenterol 2005;11:5568- 70.

A.3. Ishiguro A, Tamai Y, Takami H: Massive ovarian hemorrhage due to autoantibodies to factor VIII. Int J Gynecol Obstet 2005;93:50-1.

和文

2004年度

A.1. 下山　克：第90回日本消化器病学会総会―基礎から―．Helicobacter Research 2004;8(3):56-8.

A.2. 下山　克：*Helicobacter pylori*（*H. pylori*）による好中球活性化作用に関する研究．臨床のあゆみ 2004;61:38-9.

B.1. * 相澤　弘，金澤浩介，棟方昭博，鬼島　宏，畑田康政：内視鏡的に砕石し得た胆石イレウスの１例．青森県立中央病院医誌 2004;49(3):125-9.

2005年度

A.1. 澤村典子，石黒　陽，山形和史，川口章吾，吉村徹郎，三上達也，佐々木賀広，福田眞作，棟方昭博：偽性腸閉塞症および腸管嚢腫様気腫を合併した多発性筋炎と強皮症による overlap 症候群の１例．日本消化器病学会雑誌 2005;102:706-11.

A.2. 山形和史，玉井佳子，石澤知子，山口公平，棟方昭博，高見秀樹：リツキシマブで治療した重篤な出血傾向を認めた ITP の１例．東北止血・血栓研究会会誌 XIX 2006;1:35-6.

A.3. 高畑武功，須藤晃司，福田眞作，樽沢孝二，遠藤　哲，坂本十一，板橋陽子，淀野　啓，田中正則，福士勝久，棟方昭博：Ｃ型慢性肝炎にみられた hypovascular な脂肪原性肝腫瘍の１例．弘前市立病院医誌 2005;14:35-40.

B.1. * 佐藤淳也，藤田祥子，菅原和信，泉谷清香，玉井佳子，佐々木睦男：外来化学療法室における薬剤師・看護師の活動と患者満足度の調査．日本病院薬剤師会雑誌 2006;42:359-62.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Basic & Clinical Pharmacology & Toxicology	0	1	0
Biochemical Pharmacology	2.993	1	2.993
Hepato-Gastroenterology	0.837	1	0.837
J Gastroenterol	1.179	2	2.358
Annals of New York Academy of Science	0	3	0
J Nutr.	3.321	2	6.642
Tohoku J Exp Med	0.371	2	0.742
Journal of Clinical Neuroscience	0.735	1	0.735
J Gastroenterol	1.179	2	2.358
Nutrition	2.324	1	2.324
Br J Sports Med	1.253	1	1.253
J Sports Sci	0.741	1	0.741
J Sports Phys Fitness	0	1	0
Eur J Epidemiology	0.972	2	1.944
Total		21	22.927

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Br J Clin Pharmacol	2.546	1	2.546
World J Gastroenterol	2.532	1	2.532
J Gastroenterol	1.209	1	1.209
Scand J Gastroenterol	1.824	1	1.824
Drugs R D	0	1	0
Tohoku J Exp Med	0.7	1	0.7
Nutrition	1.958	1	1.958
Hirosaki Med J	0	1	0
Ann Thorac Surg	2.244	1	2.244
Laser therapy	0	1	0
Total		10	13.013

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
消化と免疫	2	1
弘前医学	3	
日本診療内科学会誌	1	
体力・栄養・免疫学雑誌	3	
消化器内視鏡	2	
臨牀と研究	1	
治療学	1	
臨牀消化器内科	1	1
消化器内視鏡	1	
診断と治療	1	
最新医学	1	
Prog. Med.	1	
外科	1	
Medical Practice	1	1
東北止血・血栓研究会会誌	1	
消化器の臨床	1	1
老年消化器病	1	
日本大腸検査学会雑誌		1
弘前市立病院医誌		1
診断病理		1
日本臨牀		2
臨床腫瘍プラクティス		1
綜合臨床		1
計	23	11

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	10	18

3．その他（A，B のみ）

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Digestive Endoscopy	0	1	0
Gastrointest Endosc	3.328	1	3.328
International Collaboration in Commiunity Health: International Congress Series	0	1	0
Total		3	3.328

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
World J Gastroenterol	2.532	2	5.064
Int J Gynecol Obstet	0.754	1	0.754
Total		3	5.818

和文（発表論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
Helicobacter Research	1	
医学のあゆみ	1	
青森県立中央病院医誌	1	
日本消化器病学会雑誌		1
東北止血・血栓研究会会誌		1
弘前市立病院医誌		1
日本病院薬剤師会雑誌		1
計	3	4

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

A.1. Munakata A: Inflammatory Bowel Disease in Japan. The 3rd Sino-Japan Workshop on Digestive Endoscopy and Gastroenterology. GuiLin, China. 2004.

B.1. Shimoyama T: Ecabet inhibits the ability of *Helicobacter pylori* to stimulate human neutrophils chemokine and ROS production and use of ecabet in eradication of *H.pylori* infection. The Japan-Korea Joint Seminar on Gastric mucosal Defensive Factor. New Orleans, USA. 2004.

C.1. Itoh J, Kikuchi H, Tanaka M, Fukuda S, Munakata A: A small molecule CCR5 antagonist, TAK-779 exacerbates trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)- induced colitis. AGA 2004. New Orleans, USA. 2004.

C.2. Chinda D, Nakaji S, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Oyama T, Munakata A: Comparative study on the fermentation of pectin, cellulose and lactulose using hydrogen breath test, and its relationship with fecal flora. AGA 2004. New Orleans, USA. 2004.

C.3. Mikami T, Sasaki Y, Fukuda S, Hada R, Munataka A: Computer-aided diagnosis of superficial type early esophageal cancer by image processing on ordinary endoscopic pictures. AGA 2004. New Orleans, USA. 2004.

C.4. Oyama T, Nakaji S, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Saito D, Chinda D, Munakata A: The residual amount of three major dietary fibers (cellulose, resistant starch and pectin) in the human terminal ileum compared with the orally administered. AGA 2004. New Orleans, USA. 2004.

C.5. Shimoyama T, Fukuda S, Sawaya M, Yoshimura T, Munakata A: Association of CXCR1 and CXCR2 mRNA expression with neutrophil infiltration into the gastric mucosa and the development of gastric cancer in patients with *Helicobacter pylori* infection. UEGW 2004. Prague. 2004.

C.6. Ishiguro A, Takahata T, Shimoyama T, Munakata A: Association between methylated frequency of p15INK4B and clinicopathological features in colorectal cancer. UEGW 2004. Prague. 2004.

C.7. Oyama T, Nakaji S, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Saito D, Chinda D, Munakata A: Comparison of transit time between mouth and terminal ileum for three major dietary fibers. UEGW 2004. Prague. 2004.

C.8. Mikami T, Sasaki Y, Tsuji T, Hanabata N, Sawamura N, Sasaki S, Fukuda S, Hada R, Munakata A: Quantification of mucosal surface roughness for detecting early esophageal cancer. UEGW 2004. Prague. 2004.

C.9. Hanabata N, Sasaki Y, Tsuji T, Sawamura N, Sasaki S, Mikami T, Fukuda S, Hada R, Munakata A: VEGF expression and microvessel morphometry in gastric mucosae of patients with gastric antral vascular ectasia. UEGW 2004. Prague. 2004.

C.10. Sasaki S, Sasaki Y, Tsuji T, Hanabata N, Sawamura N, Mikami T, Fukuda S, Hada R, Munakata A: Quantification of colonic mucosal surface granurality for grading endoscopic severity of ulcerative colitis. UEGW 2004. Prague. 2004.

C.11. Shimoyama T, Umegaki N, Fukuda S, Munakata A: Effect of eradication of *Helicobacter pylori* in the treatment of Japanese patients with chronic idiopathic urticaria. 5th Western Pacific Helicobacter Congress. Kobe. 2004.

C.12. Tanaka M, Shimoyama T, Danjo K, Fukuda S, Munakata A: Evaluation of association between gastric cancer and hrgA and hpyⅢR gene in Japanese patients infected with *Helicobacter pylori*. 5th Western Pacific Helicobacter Congress. Kobe. 2004.

C.13. Takahata T, Ookawa K, Suto K, Tanaka M, Tamura Y, Sakata Y, Yano H, Nakashima O, Kojiro M, Tateishi T, Munakata A: Bioflavonoid naringenin enhances CPT-11 cytotoxicity by breast cancer resistance protein (BCRP) inhibition. 4th International Meeting on Hepatocellular carcinoma: Eastern and Western Experiences. Hong Kong. 2004.

2005年度

B.1. Shimoyama T, Mizuki I, Nakasato F, Hatada Y, Fukuda S, Munakata A: Association between bacterial *sabA* status and presence of anti-Lewis X antibody in patients with *Helicobacter pylori* infection. 13th International Workshop on Campylobacter, Helicobacter and Related Organisms. Gold Coast, Australia. 2005.

B.2. Shimoyama T, Fukuda S, et al: Workshop: Extra gastric manifestations and now *Helicobacters* Serological analysis of *Helicobacter hepaticus* infection in patients with chronic viral hepatitis using new monoclonal anticodies. 18th International Workshop on Gastrointestinal Pathology and Helicobacter. Copenhagen, Denmark. 2005.

B.3. Fukuda S, Nakasato F, Shimoyama T, Danjo K, Yoshimura T, Munakata A: Association between bacterial *sabA* status and presence of anti-Lewis X antibody in patients with *Helicobacter pylori* infection. UEGW 2005, Copenhagen, Denmark. 2005.

B.4. Itoh J, Wong J, Levine AD, Fiocchi C: Impaired phosphorylation of linker for activating T-cell (LAT) is associated with T-cell receptor (TCR)-dependent hyporesponsiveness of human lamina propria T-cells (LPT). UEGW 2005, Copenhagen, Denmark. 2005.

C.1. Shimaya K, Ishiguro Y, Yamagata K, Fujita H, Sakuraba H, Hiraga H, Ebina S, Munakata A: Transforming growth factor(TGF)-β receptors were suppressed at the transcriptional levels in refractory cases with Ulcerative Colitis. 12th International Congress of Mucosal Immunology. Boston, USA. 2005.

C.2. Hiraga H, Ishiguro Y, Ebina S, Yamagata K, Sakuraba H, Shimaya K, Fujita H, Munakata A: Cyclosporine (CsA) Ameliorated epithelial apoptosis through enhancing the Transforming growth factor(TGF)-β receptor expression. 12th International Congress of Mucosal Immunology. Boston, USA. 2005.

C.3. Fujita H, Ishiguro Y, Yamagata K, Ebina S, Sakuraba H, Shimaya K, Hiraga H, Munakata A: Cyclosporine (CsA) prevented DSS colitis through transforming growth factor(TGF)-β relating singaling. 12th International Congress of Mucosal Immunology. Boston, USA. 2005.

C.4. Yamagata K, Ishiguro Y, Sakuraba H, Hiraga H, Munakata A: Altered c-jun activation binding protein signaling in Refractory cases with Ulcerative Colitis. 12th International Congress of Mucosal Immunology. Boston, USA. 2005.

C.5. Sakuraba H, Ishiguro Y, Shimaya K, Hiraga H, Yamagata K, Ebina S, Fujita H, Fukuda S, Munakata A: Significant Expression of Multi Drug Resistance-1 Gene on Lamina Proprial T Cells from Glucocorticoids Refractory Cases with Ulcerative Colitis. 12th International Congress of Mucosal Immunology. Boston, USA. 2005.

C.6. Ishiguro Y, Hiraga H, Yamagata K, Sakuraba H, Munakata A, Nakane A: The Submucosal Injection of Naked DNA Encoded by Cytokine-Induced Neutrophil Chemoattractant-1 Evokes Dendritic Cell Exhaustion and Ameriorates Th-1 Driven Colitis. 12th International Congress of Mucosal Immunology. Boston, USA. 2005.

C.7. Ebina S, Ishiguro Y, Hiraga H, Sakuraba H, Shimaya K, Fujita H, Yamagata K, Munakata A, et al: *Streptococcus sanguis* cell wall strongly induced IL-8 and TNF-α by PBMC from Behçet's disease patients through p38 and NF-(KAPPA)B. 12th International Congress of Mucosal Immunology. Boston, USA. 2005.

C.8. Ishiguro Y, Hiraga H, Sakuraba H, Yamagata K, Shimaya K, Ebina S, Fujita H, Munakata A, Sawamura D: Pretreatment with Cytokine Induced Neutrophil Chemoattractant(CINC)-1 Prevents Th-1 Driven Colits with Dendritic Cell(DC) Maturation and Expansion. Inflammatory Bowel Disease-Research Drives Clinics. Muenster, Germany. 2005.

C.9. Shimaya K, Ishiguro Y, Sakuraba H, Hiraga H, Yamagata K, Ebina S, Fujiga H, Fukuda S, Munakata A: Significant Expression of Multi Drug Resistance-1 Gene on Lamina Proprial T Cells from Glucocorticoids Refractory Cases with Ulcerative Colitis. Inflammatory Bowel Disease-Research Drives Clinics. Muenster, Germany. 2005.

C.10. Fukuda S, Tanaka M, Shimoyama T, Munakata A, et al: Applicability of a *Helicobacter pylori* stool antigen test to determine the results of eradication therapy. 18th International Workshop on Gastrointestinal Pathology and Helicobacter. Copenhagen, Denmark. 2005.

C.11. Yoshimura T, Kajihara H, Shimoyama T, Fukuda S, Munakata A: Clinical utility of peroral cholongio-pancreatoscopy for diagnosis of cholangio-pancreato-disease. UEGW 2005 Copenhagen, Denmark. 2005.

C.12. Shimoyama T, Sakamoto J, Fukuda S, Munakata A, et al: Serological analysis of *Helicobacter hepaticus* infection in Japanese patients with chronic hepatitis C using new monoclonal antibodies. 5th Korea-Japan-China Joint Conference on *Helicobacter* infection. Sanya, China. 2006.

C.13. Nishiya D, Shimoyama T, Fukuda S, Munakata A: Applicability of a *Helicobacter pylori* stool antigen test to determine the results of eradication therapy. 5th Korea-Japan-China Joint Conference on *Helicobacter* infection. Sanya, China. 2006.

C.14. Sawaya M, Shimoyama T, Fukuda S, Munakata A: Dose atrophic gastritis affect the accordance between stool antigen test and serology to determine *Helicobacter pylori* infection in the mass survey? 5th Korea-Japan-China Joint Conference on *Helicobacter* infection. Sanya, China. 2006.

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. 棟方昭博：消化器病と包括医療―消化器内科の立場から．第90回日本消化器病学会総会．仙台．2004．

B.2. 石黒　陽，櫻庭裕丈，山形和史，平賀寛人，蝦名佐都子，藤田　均，棟方昭博，中根明夫，森田隆幸：ステロイド抵抗性潰瘍性大腸炎における転写因子発現とMIFの役割．第41回日本消化器免疫学会総会．大津．2004．

B.3. 下山　克：慢性型ITPおよび慢性蕁麻疹と*H.pylori*感染の関連についての検討．第13回潰瘍病態研究会．東京．2004．

B.4. 花畑憲洋，三上達也，山形和史，福田眞作，棟方昭博：当科において経過観察が可能であった大腸ポリペクトミー症例の検討．第22回日本大腸検査学会総会．東京．2004．

B.5. 澤谷　学，下山　克，棟方昭博：Difference of p53AIP1 mRNA expression in gastric mucosa between patients with gastric cancer and with chronic gastritis infected with *Helicobacter pylori*．第15回日本消化器癌発生学会総会．札幌．2004．

B.6. 棟方昭博：特別発言：虚血性大腸炎の病態と診断．第59回日本大腸肛門病学会総会．久留米．2004．

B.7. 三上達也，福田眞作，棟方昭博．当科における下部消化管内視鏡検査の偶発症予防策．第46回日本消化器病学会大会．福岡．2004．

B.8. 佐々木賀広，三上達也，福田眞作：早期食道癌の深達度判定手法としての画像診断―表面微細凹凸の定量化．第46回日本消化器病学会大会．福岡．2004．

C.　24件

2005年度

B.1. 山形和史，石黒　陽，棟方昭博：当科における直腸炎型潰瘍性大腸炎の診断と治療の現況．第23回日本大腸検査学会総会．名古屋．2005．

B.2. 三上達也，佐々木賀広，福田眞作：内視鏡オーダリングシステム構築における問題．第69回日本消化器内視鏡学会総会．東京．2005．

B.3. 福田眞作，三上達也，佐々木賀広：高齢化時代における消化器内視鏡の役割：高齢者に対する下部消化管内視鏡検査・治療の現状と問題点．第69回日本消化器内視鏡学会総会．東京．2005．

B.4. 三上達也，佐々木賀広，福田眞作：胃内視鏡検診に向けた画像特徴量解析による胃癌発生リスクの定量化．第２回日本消化管学会総会．東京．2006．

B.5. 吉村徹郎，梶原寛子，福田眞作，棟方昭博：経口膵胆道内視鏡検査における生検の有用性と問題点について．第70回日本消化器内視鏡学会総会．神戸．2005．

C.　17件

Ⅲ．学術賞

2004年度

１）第３回GIFM奨励賞．石黒陽．難治性潰瘍性大腸炎における転写因子発現とMIFの役割．

２）第140回弘前医学会例会優秀発表賞．玉井佳子．後天性血友病（後天性第Ⅷ因子インヒビター陽性）の５症例．

Ⅳ．共同研究

2004年度

１）共立薬科大学・薬学部．炎症性腸疾患患者末梢血単核球におけるニコチン性アセチルコリンレセプター・サブセットの発現の検討．川島紘一郎，藤井健志．

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

1）萌芽研究．ヒト生体内での消化吸収動態による食物繊維の正確な定義．福田眞作．1,500千円.
2）基盤研究C．腸管粘膜T細胞の局所性免疫寛容機構の細胞内情報伝達の解析．伊東重豪．1,400千円.
3）若手研究B．*H.pylori* 感染による胃炎の成立・持続におけるケモカインレセプターの役割．下山克．900千円.
4）若手研究B．重症潰瘍性大腸炎の内科治療効果判定における多剤耐性遺伝子（MDR）の役割 . 山形和史 . 1,600千円 .

2005年度

研究代表者として

1）萌芽研究．小腸液灌流法を用いた食物繊維のヒト消化・吸収に及ぼす影響.
福田眞作．1,000千円
2）若手研究B．*H.pylori* 感染による胃炎の成立・持続におけるケモカインレセプターの役割.
下山克．400千円.
3）基盤研究C．腸管粘膜T細胞の局所生免疫寛容機構の細胞内情報伝達の解析.
伊東重豪．1,000千円.
4）若手研究B．重症潰瘍性大腸炎の内科治療効果判定における多剤耐性遺伝子（MDR）の役割.
山形和史．1,300千円.

(2) その他の省庁からの研究費

2004年度

研究代表者として

1）厚生科学研究費補助金．難治性炎症性腸管障害に関する調査研究．潰瘍性大腸炎の難治例治療と緩解維持．棟方昭博．1,500千円.
2）厚生科学研究費補助金．診療報酬における医師技術評価に関する研究；時間と総合負荷の関係.
消化器科部門・生理検査部門．棟方昭博．200千円.

2005年度

研究代表者として

1）厚生科学研究費補助金．難治性炎症性腸管障害に関する調査研究．潰瘍性大腸炎の難治例治療と緩解維持．棟方昭博．1,500千円.
2）厚生科学研究費補助金．診療報酬における医師技術評価に関する研究；時間と総合負荷の関係.
消化器科部門・生理検査部門．棟方昭博．200千円.

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2004年度

研究代表者として

1）平成16年度学術振興基金．地域研究者の海外派遣の助成.
福田眞作．940千円.

2005年度

研究代表者として

1）平成17～19年度　喫煙科学研究財団研究助成金.
伊東重豪．2,000千円.
2）「テストメイトラピッドピロリ抗原を用いた除菌療法の新しい展開」日本ベクトンディッキンソン（株）
Helicobacter pylori 公募研究．下山克．500千円.

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2004年度

1）檀上和真．St James's University Hospital．イギリス．2004.5 ～（継続）．

2005年度

1）檀上和真．St James's University Hospital．イギリス．2004.5 ～（継続）．

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

1）棟方昭博．第15回青森静脈・経腸栄養研究会．青森．
2）福田眞作．第16回日本消化器内視鏡学会東北セミナー．弘前．

2005年度

1）棟方昭博．第21回弘前メディカルフォーラム．弘前．
2）棟方昭博．第10回青森 IBD 研究会．青森．
3）棟方昭博．第13回北奥羽消化器内視鏡研究会．青森．
4）棟方昭博．第33回青森県肝胆膵研究会．青森．
5）棟方昭博．第22回弘前メディカルフォーラム．弘前．
6）棟方昭博．第21回青森県肝疾患研究会．弘前．
7）棟方昭博．第９回青森膵疾患研究会．青森．

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

2004年度

1）棟方昭博．大腸ポリープの follow-up．ラジオたんぱ「医学講座」．2004．

17. 内科学第二講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

80％

理念：

近未来の医療の進歩に有用となる情報を世界に向けて発信すること。

大学のスタッフとしてバランスのとれた研究活動，教育，臨床を行う。

これから２年間の目標：

原著英文論文を１年に10編以上報告すること。とくに原著論文，英文論文，Impact Factor3以上の質の高い論文を刊行する。

研究代表者として科学研究費補助金の採択

教員，医員，大学院生の研究指導を行う

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　2，講師　3，助手　4，医員　3，大学院学生　17名，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	奥村　　謙	16，4，1～17，3,31
	助教授	専　任	長内　智宏	16，4，1～17，3,31
	助教授	専　任	高梨　信吾	16，4，1～17，3,31
	講　師	専　任	花田　裕之	16，4，1～17，3,31
	講　師	専　任	中村　典雄	16，4，1～17，3,31
	講　師	専　任	松永　敏郎	16，4，1～17，3,31
	助　手	専　任	長谷川幸裕	16，4，1～17，3,31
	助　手	専　任	岩佐　　篤	16，4，1～17，3,31
	助　手	専　任	横山　　仁	16，4，1～17，3,31
	助　手	専　任	須藤　直行	16，4，1～17，3,31
研究課題	1．虚血性心疾患の病態と治療に関する研究 2．不整脈の病態と治療に関する研究 3．冠微少循環の調節機構に関する研究 4．心室リモデリングの病態に関する研究 5．Coupling factor 6の循環器疾患における役割に関する研究 6．非侵襲的な気道炎症の評価に関する研究 7．肺癌の進展のメカニズム 8．慢性腎炎の病態に関する研究 9．慢性腎炎患者の酸化ストレスマーカーにATⅡ受容体拮抗薬の影響 10．急性腎炎モデルラットに対する各種脂肪乳化剤の予防効果について			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　2，講師　2，助手　6，医員　5，大学院学生　21，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	奥村　　謙	17，4，1～18，3,31
	助教授	専　任	長内　智宏	17，4，1～18，3,31
	助教授	専　任	高梨　信吾	17，4，1～18，3,31
	講　師	専　任	花田　裕之	17，4，1～18，3,31
	講　師	専　任	中村　典雄	17，4，1～18，3,31
	助　手	専　任	岩佐　　篤	17，4，1～18，3,31
	助　手	専　任	横山　　仁	17，4，1～18，3,31
	助　手	専　任	須藤　直行	17，4，1～18，3,31
	助　手	専　任	藤本　幸士	17，4，1～18，3,31

	助　手	専　任	樋熊　拓未	17，4，1～18，3,31
	助　手	専　任	小林　孝男	17，4，1～18，3,31
研究課題	1．虚血性心疾患の病態と治療に関する研究 2．冠動脈攣縮の発生機序に関する研究 3．不整脈の病態と治療に関する研究 4．冠微小循環の調節機構に関する研究 5．心室リモデリングの病態に関する研究 6．Coupling factor 6 の循環器疾患における役割に関する研究 7．循環器疾患における内因性一酸化窒素合成酵素阻害物質の役割に関する研究 8．呼気濃縮液の臨床的有用性に関する研究 9．喀痰を使用した気道炎症の評価に関する研究 10．糸球体腎炎における脂肪酸代謝についての基礎的・臨床的研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Kimura M, Kobayashi T, Owada S, Ashikaga K, Higuma T, Sasaki S, Iwasa A, Motomura S, Okumura K: Mechanism of ST elevation and ventricular arrhythmias in experimental Brugada syndrome model. Circulation 2004;109:125-131.

A.2. Sasaki S, Osanai T, Tomita H, Matsunaga T, Magota K, Okumura K: Tumor necrosis factor α as an endogenous stimulator for circulating coupling factor 6. Cardiovasc Res 2004;62:578-586.

A.3. Komatsu T, Nakamura S, Suzuki O, Horiuchi D, Yomogida K, Okumura K: Long-term prognosis of the patients with paroxysmal atrial fibrillation depends on their response to antiarrhythmic therapy. Circ J 2004;68:729-733.

A.4. Ono H, Osanai T, Ishizaka H, Hanada H, Kamada T, Onodera H, Fujita N, Sasaki S, Matsunaga T, Okumura K: Nicorandil improves cardiac function and clinical outcome in patients with acute myocardial infarction undergoing primary percutaneous coronary intervention: Role of inhibitory effect on reactive oxygen species formation. Am Heart J 2004;148:1-7.

A.5. Hasegawa Y, Takanashi S, Okudera K, Aoki M, Basaki K, Kondo H, Takahata T, Yasui-Furukori N, Tateishi T, Abe Y, Okumura K: Weekly Paclitaxel and Nedaplatin With Concurrent Radiotherapy for Locally Advanced Non-small-cell Lung Cancer: a Phase I/II Study. Jpn J Clin Oncol 2004;34(11):647-653

A.6. Hasegawa Y, Takanashi S, Okudera K, Kumagai M, Hayashi A, Morimoto T, Okumura K: Vascular Endothelial Growth Factor Level as a Prognostic Determinant of Small Cell Lung Cancer in Japanese Patients. Internal Medicine 2005; 44(1): 26-34

A.7. Wu J, Takeo T, Suga S, Kanno T, Osanai T, Mikoshiba K, Wakui M: 2-aminoethoxydiphenyl borate inhibits agonist-induced Ca^{2+} signalings by blocking inositol triphosphate formation in acutely dissociated mouse pancreatic acinar cells. Pflug Arch Eur J Phy. 2004;448:592-595.

A.8. Tomita H, Osanai T, Toki T, Sasaki S, Maeda N, Murakami R, Magota K, Yasujima M, Okumura K: Troglitazone and 15-deoxy-deta 12, 14-prostaglandin J2 inhibit shear-induced coupling factor 6 release in endothelial cells. Cardiovasc Res. 2005;67:134-141.

A.9. Fujiwara N, Osanai T, Baba Y, Okuguchi T, Metoki N, Maeda N, Konta Y, Okumura K: Nocturnal blood pressure decrease is associated with increased regional cerebral blood flow in patients with a history of ischemic stroke. J Hypertens. 2005;23:1055-1060.

B.1. Nozawa T, Inoue H, Iwasa A, Okumura K, Jong-dae L, Shimizu A, Hayano M, Yano K: Effects of Anticoagulation Intensity on Hemostatic Markers in Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation. Circ J 2004;68:29-34.

B.2. Kumagai M, Imaizumi T, Suzuki K, Yoshida H, Takanashi S, Okumura K, Sugawara K, Satoh K: 15-Deoxy-$\Delta^{12,14}$-Prostaglandin J_2 inhibits the IL-1β-induced expression of granulocyte-macrophage colony-stimulating factor in BEAS-2B bronchial epithelial cells. Tohoku J. Exp. Med. 2004;202:69-76.

B.3. Inoue H, Nozawa T, Okumura K, Iwasa A: Lee JD, Shimizu A, Hayano M, Yano K: Attitudes of Japanese cardiologists toward anticoagulation for nonvalvular atrial fibrillation and reasons for its underuse. Circ J 2004;68:417-421.

B. 4. Inoue H, Nozawa T, Okumura K, Jong-Dae L, Shimizu A, Yano K: Prothrombotic activity is increased in patients with nonvalvular atrial fibrillation and risk factors for embolism. CHEST 2004;126:687-692.

B.5. Taima K, Takanashi S, Okumura K, Imaizumi T, Kumagai M, Ishikawa A, Yoshida H, Satoh K, Fujita T: Double-Stranded RNA Stimulated the Expression of Monocyte Chemoattractant Protein-1 in BEAS-2B Bronchial Epithelia Cells. Experimental Lung Research 2005; 31: 361-375

C.1. The Japanese b-blockers and Calcium Antagonists Myocardial Infarction (JBCMI) Investigators. Comparison of the effects of beta blockers and calcium antagonists on cardiovascular events after acute myocardial

infarction in Japanese subjects. Am J Cardiol 2004;93:969-973.

2005年度

A.1. Matsunaga T, Abe N, Kameda K, Hagii J, Fujita N, Onodera H, Kamata T, Ishizaka H, Hanada H, Osanai T, Okumura K: Circulating level of gelatinolysis activity predicts ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction. Int J Cardiol 2005;105:203-208.

A.2. Hasegawa Y, Takanashi S, Okudera K, Kumagai M, Hayashi A, Morimoto T, Okumura K: Vascular endothelial growth factor level as a prognostic determinant of small cell lung cancer in Japanese patients. Intern Med. 2005;44:26-34.

A.3. Onodera H, Matsunaga T, Tamura Y, Maeda N, Higuma T, Sasaki S, Mori Y, Yoshimachi F, Ishizaka H, Hanada H, Osanai T, Okumura K: Enalapril suppresses ventricular remodeling more effectively than losartan in patients with acute myocardial infarction. Am Heart J 2005;150:689.e11-689.e16.

A.4. Nakamura N, Osawa H, Yamabe H, Okumura K, Hamazaki T: Effects of cilostazol on lipid and fatty acid metabolism. Clin Exp Med 2005;4:170-173.

A.5. Owada S, Iwasa A, Sasaki S, Higuma T, Kimura M, Kobayashi T, Ashikaga K, Okumura K: "V-H-A Pattern" as a criterion for the differential diagnosis of atypical AV nodal reentrant tachycardia from AV reciprocating tachycardia. PACE 2005;28:667-674.

A.6. Tomita H, Osanai T, Toki T, Sasaki S, Maeda N, Murakami R, Magota K, Yasujima M, Okumura K: Troglitazone and 15-deoxy- $\Delta^{12,14}$-prostaglandin J_2 inhibit shear-induced coupling factor 6 release in endothelial cells. Cardiovasc Res 2005;67:134-141.

A.7. Yamabe H, Tanaka Y, Okumura K, Morikami Y, Kimura Y, Hokamura Y, Ogawa H: Electrophysiologic Characteristics of Verapamil-Sensitive Atrial Tachycardia Originating from the Atrioventricular Annulus. Am J Cardiol 2005;95:1425-1430.

A.8. Yokoyama J, Kushibiki M, Fujiwara T, Tamura Y, Maeda N, Higuma T, Sasaki S, Yoshimachi F, Matsunaga T, Hanada H, Osanai T, Okumura K: Feasibility and safety of thrombectomy with TVAC™ aspiration catheter system for patients with acute myocardial infarction. Heart and Vessels 2006;21:1-7.

A.9. Abe N, Osanai T, Fujiwara T, Kameda K, Matsunaga T, Okumura K: C-reactive protein-induced upregulation of extracellualr matrix metalloproteinase inducer by in macrophages:inhibitory effect of fluvastatin. Life Science 2006;78:1021-1028.

A.10. Osanai T, Magota K, Tanaka M, Shimada M, Murakami R, Sasaki S, Tomita H, Maeda N, Okumura K: Intracellular signaling for vasoconstrictor coupling factor 6:novel function of β -subunit of ATP synthase as receptor. Hypertension 2005;46:1140-1146.

A.11. Tomita H, Osanai T, Toki T, Maeda N, Murakami R, Chen Z, Yamabe H, Osawa H, Yasujima M, Okumura K: Roxithromycin is an inhibitor of human coronary artery smooth muscle cells proliferation: a potential ability to prevent coronary heart disease. Atherosclerosis 2005;182:87-95.

A.12. Nakamura N, Kumasaka R, Osawa H, Yamabe H, Shirato K, Fujita T, Murakami R, Shimada M, Nakamura M, Okumura K, Hamazaki K, Hamazaki T: Effects of eicosapentaenoic acids on oxidative stress and plasma fatty acid composition in patients with lupus nephritis. In Vivo. 2005 ;19:879-882.

A.13. Yamabe H, Nakamura N, Nakamura M, Shimada M, Kumasaka R, Fujita T, Osawa H, Okumura K, Oyama N, Momose A: Hepatitis C virus-associated glomerulonephritis without hepatitis C virus in the blood. Am J Kidney Dis 2005; 46:e65-e69.

A.14. Tanaka M, Osanai T, Murakami R, Sasaki S, Tomita H, Maeda N, Satoh K, Magota K, Okumura K: Effect of vasoconstrictor coupling factor 6 on gene expression profile in human vascular endothelial cells: enhanced release of asymmetric dimethylarginine. J Hypertens. 2006;24:489-497.

A.15. Nakamura M, Yamabe H, Osawa H, Nakamura N, Shimada M, Kumasaka R, Murakami R, Fujita T, Osanai T, Okumura K: Hypoxic conditions stimulate the production of angiogenin and vascular endothelial growth factor by human renal proximal tubular epithelial cells in culture. Nephrol Dial Transplant.2006;21:1489-1495.

A.16. Kameda K, Matsunaga T, Abe N, Fujiwara T, Hanada H, Fukui K, Fukuda I, Osanai T, Okumura K. Increased pericardial fluid level of matrix metalloproteinase-9 activity in patients with acute myocardial infarction. Possible role in the development of cardiac rupture. Circ J. 2006;70:673-678.

A.17. Taima K, Imaizumi T, Yamashita K, Ishikawa A, Fujita T, Yoshida H, Takanashi S, Okumura K, Satoh K. Expression of IP-10/CXCL10 Is Upregulated by Double-Stranded RNA in BEAS-2B Bronchial Epithelial Cells. Respiration 2006;73:360-364.

B.1. Fujiwara N, Osanai T, Baba Y, Okuguchi T, Metoki N, Maeda N, Konta Y, Okumura K: Nocturnal blood pressure decrease is associated with increased regional cerebral blood flow in patients with a history of ischemic stroke. J Hyperten 2005;23:1055-1060.

C.1. Katoh T, Ohara T, Ogawa S, Kodama I: committee members of the Guideline for Drug Treatment of Arrhythmias (JCS 2004). Multicenter survey on the validity of the CD-ROM guideline for antiarrhythmic drug therapy produced by the Japanese Circulation Society and the Japanese Society on Electrocardiology: preliminary report of the survey of the Japanese guideline for Arrhythmia Management By Individual Therapy (J-GAMBIT). Circ J 2005 ;69:1357-1360.

C.2. Kobashi C, Urakaze M, Kishida M, Kibayashi E, Kobayashi H, Kihara S, Funahashi T, Takata M, Temaru R, Sato A, Yamazaki K, Nakamura N, Kobayashi M: Adiponectin inhibits endothelial synthesis of interleukin-8. Circ Res, 2005, 97: 1216-1219.

C.3. Kishida M, Urakaze M, Takata M, Nobata Y, Yamamoto N, Temaru R, Sato A, Yamazaki K, Nakamura N, Kobayashi M: PGE1 inhibits the expression of PAI-I mRNA induced by TNF-alpha in human mesangial cells. Exp Clin Endocrinol Diabetes, 2005, 113: 365-372.

和文

2004年度

A.1. 樋熊拓未，佐々木真吾，木村正臣，小林孝男，大和田真玄，足利敬一，奥村　謙：心房中隔欠損症に対するパッチ閉鎖術後に生じた心房粗動に対してカテーテルアブレーションを施行した1例　臨床心臓電気生理　2004;27:87-95.

A.2. 堀内大輔，小松　隆，中村　紳，鈴木　修，蓮田邦彦，奥村　謙：発作性 / 持続性心房細動例における Aprindine の停止ならびに再予防効果　心臓　2004;36(4):68-73.

A.3. 中村典雄，大沢　弘，山辺英彰，白戸研一，中村雅将，島田美智子，熊坂隆一郎，奥村　謙，浜崎　景，浜崎智仁，村上礼一，藤田　雄：ループス腎炎患者における酸化ストレスマーカーに対するエイコサペンタエン酸の効果について．Prog Med. 2004;24: 2057-2060.

2005年度

A.1. 熊坂隆一郎，中村典雄，白戸研一，大沢　弘，山辺英彰，奥村　謙：Candesartan の尿中 8-isoprostane 排泄に及ぼす効果の検討－慢性腎疾患患者3例での検討－　内科 2005;96:780-782.

B.1. 小松　隆，堀内大輔，中村　紳，鈴木　修，蓮田邦彦，奥村　謙：「Ⅰ群抗不整脈薬無効の発作性心房細動例におけるアミオダロンの長期再発予防効果：層別解析による比較検討」J Cadiol 2005;45:11-17.

（2）総説

英文

2005年度

A.1. Nakamura N, Osawa H, Yamabe H, Okumura K, Hamazaki T: Effects of cilostazol on lipid and fatty acid metabolism. Clin Exp Med. 2005, 4: 170-173.

和文

2004年度

A.1. 樋熊拓未，佐々木真吾，大和田真玄，奥村　謙：虚血性心疾患　Heart View 2004;8:50-57.

A.2. Maurits A Allessie，奥村　謙：心房細動治療の現在と未来 Therapeutic Research 2004;25:1343-1353.

A.3. 松永敏郎，奥村　謙：虚血性心疾患のリスクファクター　管理の重要性　臨牀と研究　2004;81:123-128

A.4. 奥村　謙：電気生理学的検査の適応，実施法とその評価　メディカルプラクティス 2004;21(9):1479-1482

A.5. 佐々木真吾，樋熊拓未，大和田真玄，岩佐　篤，奥村　謙：致死性不整脈の予防　Heart View 2004;10(8)104・109.

A.6. 奥村　謙：抗不整脈薬の薬理　内科　2004;94(4):617・624.

A.7. 岩佐　篤：ICD と電気生理検査　新・目でみる循環器シリーズ⑲，心臓ペースメーカー・植え込み型除細動器 (ICD) 2004;

A.8. 岩佐　篤：不整脈の治療－薬物治療の基本的な考え方　よく使う日常治療薬の正しい考え方・レジデントノート　2004;8.

A.9. 岩佐　篤：ペースメーカー・ICD の基礎知識　Heart View 2004;13(8).

A.10. 岩佐　篤：不整脈－症状，身体所見の取り方 循環器疾患検査法（診断と治療）2005;93増刊号 .

A.11. 岩佐　篤：心房細動の臨床像を把握する：症状と QOL, 基礎疾患と心機能　Heart View2005;19(4).

A.12. 中村典雄：血液浄化療法の実際 . 弘前医師会報 . 2005, 40 (1): 43-46.

2005年度

A.1. 横山　仁，花田裕之，奥村　謙：狭心症の診断基準・病型分類・重症度　2005;95(6)1276-1282.

A.2. 奥村　謙：不整脈への upstream approach: 抗不整脈薬との併用療法の意義について　Progress in Medicine 2005;25(8):2251-2256.

A.3. 奥村　謙：電気生理検査法の基本－基本的器具，装置，手技と体制　Heart View 2005;9(12):26-33.

A.4. 佐々木真吾，堀内大輔，小林孝男，木村正臣，足利敬一，岩佐　篤，奥村　謙：電気生理検査所見からみた不整脈の機序－頻脈：リエントリ　Heart View 2005;9(12):60-64.

A.5. 佐々木真吾，奥村　謙：心臓突然死の予知と予防法のガイドライン（循環器病の診断と治療に関するガイドライン 2003-2004年度合 同研究班報告）Circ J 2005:69:1209-1252.

A.6. 奥村　謙：不整脈への upstream approach：抗不整脈薬との併用療法の意義について（第31回抗不整脈薬併用療法研究会）　Progress in Medicine 2005;25;8:269-274.

A.7. 奥村　謙：「心房細動－治療の悩みとコツ－企画にあたって」Heart View 2005;9(4)6-7.

A.8. 高梨信吾，藤本幸士，長谷川幸裕，奥村　謙：レーザー治療　－特に発火の問題について－　呼吸2005;24(10),867-872.

A.9. 花田裕之：急性心不全におけるホスホジエステラーゼ（PDE）Ⅲ阻害薬オルプリノンの血行動態ならびに体液性因子に対する効果：循環器科，59-2,198-205,2006.

A.10. 中村典雄：血液浄化療法の実際．弘前医師会報．2005;40(1):43-46.

B.1. 小松　隆，奥村　謙：不整脈に対する治療薬の使い方：心房細動の病態に応じた薬物治療の実際　M.P. 2005;22(6)979-985.

B.2. 小松　隆，奥村　謙：「心房細動患者における脳梗塞予防」 臨床医；2005;31(2)238-241.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 奥村　謙：心室頻拍　今日の治療指針2004年版　山口　徹，北原光夫　編．㈱医学書院，2004;250-251.

A.2. 奥村　謙：カテーテルアブレーションの適応と実際　循環器疾患治療スタンダード2004-2005　田邉晃久編．㈱総合医学社，2003;152-156.

A.3. 五十嵐知規，佐々木真吾，奥村　謙：副伝導路．心電図を読む　矢崎義雄　監修．相澤義房　編．㈱メジカルビュー社，2004;62-65.

A.4. 岩佐　篤，奥村　謙：房室ブロック．ペースメーカ治療．相澤義房　編．㈱メジカルビュー社，2004;74-8.

A.5. 奥村　謙：頻脈が持続すると心機能は低下する－頻脈誘発性心筋症の認識と治療　不整脈診療のコツと落とし穴　小川聡　編．㈱中山書店，2004;58-61.

A.6. 奥村　謙：発症早期の急性心筋梗塞症の診断－心筋マーカーは重要だが，頼ってばかりはいられない不整脈診療のコツと落とし穴　小川聡　編．㈱中山書店，2004;100-101.

A.7. 花田裕之，奥村　謙：負荷心電図．心臓病の外来診療．矢崎義雄　監修．安武正弘 編．㈱医学書院，2004;70-73.

A.8. 高梨信吾：膿胸　今日の治療指針2005;22.

2005年度

A.1. 奥村　謙：WPW症候群　疾患別最新処方　2005;4(2)154-155.

A.2. 佐々木真吾，大和田真玄，足利敬一，岩佐　篤，奥村　謙：発生機序　井上　博　編．㈱最新医学社，2005;32-38.

A.3. 佐々木真吾，岩佐　篤，奥村　謙：心室再同期療法は確立された治療法か？　EBM循環器疾患の治療　三田村秀雄，山科　章，川名正敏，桑島　巌 編．中外医学社，2005;293-303.

A.4. 奥村　謙：抗不整脈薬をいかに使うか　新・心臓病診療プラクティス；心不全に挑む・患者を救う　吉川純一，笠貫宏，土師一夫，別府慎太郎，松崎益徳 編．文光堂，2005;312-317.

A.5. 小林孝男，奥村　謙：心房細動とQOL　不整脈2005　杉本恒明　監修．井上　博　編．メジカルビュー社，2005;122-131.

A.6. 奥村　謙：心房細動総論：いま，心房細動をどう考えるか．メディカルレビュー社 Cardiovascular Med-Surg 2005;7:11-15.

A.7. 小林孝男，奥村　謙：Wide QRS Tachycardia 救急・集中治療　総合医学社　2005;17:e82-e89.

A.8. 木村正臣，奥村　謙：心室頻拍　救急・集中治療　総合医学社　2005;17:e90-e96.

A.9. 奥村　謙：Torsades de pointes（倒錯性心室頻拍）　救急・集中治療　総合医学社　2005;17:e97-e103.

A.10. 奥村　謙：発症早期の急性心筋梗塞症の診断－心筋マーカーは重要だが，頼ってばかりはいらなれない胸痛診療のコツと落とし穴．中山書店，2005;100-101.

A.11. 高梨信吾：気管支鏡下のレーザー，高周波治療における発火のメカニズム　呼吸器診療のコツと落とし穴３びまん性肺疾患・肺腫瘍　工藤翔二編　中山書店　2006 1月，243.

A.12. 高梨信吾：胸膜腫瘍　今日の治療指針 医学書院　2006, 236.

B.1. 山下武志，小松　隆，熊谷浩一郎，鵜野起久也，庭野慎一，藤木　明，清水昭彦，是恒之宏，三田村秀雄，奥村　謙：小川　聡，内藤佳津雄，長嶋紀一．心房細動特異的QOL評価法（Atrial Fibrillation Quality of Life Questionnaire:AFQLQ）の内的整合性と再現性　JPN.J.Electrocardiology 2005;25:488-494.

（4）その他

英文

2004年度

A.1. Kumasaka R, Nakamura N, Shirato K, Osawa H, Takanashi S, Hasegawa Y, Yamabe H, Nakamura M, Tamura M, Okumura K: Nephrotic syndrome associated with gefitinib therapy. J Clin Oncol. 2004;22:2504-2505.

2005年度

A.1. Yamabe H, Nakamura N, Nakamura M, Shimada M, Kumasaka R, Tsunoda S: Mizoribine decreases urinary protein excretion in two patients with IgA nephropathy. Clin Nephrol. 2005;64:79-80.

A.2. Yamabe H, Nakamura N, Nakamura M, Shimada M, Kumasaka R, Fujita T, Osawa H, Okumura K, Oyama N, Momose A: Hepatitis C virus-associated glomerulonephritis without hepatitis C virus in the blood. Am J Kidney Dis. 2005;46:E65-E69.

和文

2004年度

A.1. 樋熊拓未，佐々木真吾，木村正臣，小林孝男，大和田真玄，足利敬一，奥村　謙：心房中隔欠損症に対するパッチ閉鎖術後に生じた心房粗動に対してカテーテルアブレーションを施行した１例　臨床心臓電気生理　2004;27:87-95.

A.2. 奥寺光一，小野寺庚午，鎌田義正，高梨信吾，奥村　謙：喫煙開始が誘引と考えられた急性好酸球性肺炎の１例　青森県立中央病院医誌　2004;49(1):17-21.

A.3. 坂本幸則，沼尾　宏，吉谷　元，斎藤　聡，村田有志，中村典雄，貝塚満明，貝森光大：尋常性乾癬と慢性糸球体腎炎を合併した原発性胆汁性肝硬変の１症例 . 青県病誌 . 2004;49(2):72-75.

2005年度

A.1. 足利敬一，大和田真玄，木村正臣，小林孝男，佐々木真吾，岩佐　篤，奥村　謙：無症候性 Brugada 症候群－診断と突然死のリスク評価が困難な症例の検討－　心電図　2005;25(4):37-43.

A.2. 大沢　弘，熊坂隆一郎，田中正則，小松田敦，政金生人：第１回認定内科専門医会東北支部教育セミナーまとめ：高齢者 SLE の１例　内科専門医会誌　2005;16:438-454.

A.3. 高梨信吾，藤本幸士：苦戦する喘息とその対策－労作時息切れを症状とする気管支喘息．喘息 2005(4) 18(2), 28-31.

A.4. 高梨信吾：成人の慢性咳嗽．かがみ（日本耳鼻咽喉科医会誌）2005;35(2):84-88.

A.5. 中村典雄，白戸研一，熊坂隆一郎，奥村　謙，石橋恭之，津田英一：原因不明の横紋筋融解症による急性腎不全の１例．内科．2005;96(2):398-400.

（5）発表論文のまとめ

１．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Am Heart J	3.681	1	3.681
Cardio vasc Res	4.575	2	9.15
Pflug Arch Eur J Phy	2.260	1	2.260
J Hyperten	4.871	1	4.871
Circ	12.563	1	12.563
Internal Med	0.574	1	0.574
Circ J	1.797	3	5.391
Tohoku Exp Med	0.7	1	0.7
Chest	3.118	1	3.118
Exp Lung Res	1.464	1	1.464
Total		13	43.772

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Int J Cardiol	2.095	1	2.095
Intern Med	0.574	1	0.574
Am Heart J	3.681	1	3.681
Clin Exp J	0.906	1	0.906
PACE	1.019	1	1.019
Cardiovasc Res	4.575	1	4.575
Am J Cardiol	3.14	1	3.14
Hypertension	5.342	2	10.684
Atherosclerosis	3.796	1	3.796
In Vivo	0.811	1	0.811
Am J Kidney Dis	4.038	1	4.038
Nephrol Dial Transplant	2.84	1	2.84
Circ J	1.797	1	1.797
Heart and Vessels	0.829	1	0.829
Life Science	2.158	1	2.158
Respiration	1.019	1	1.019
Clin Exp Med	0.906	1	0.906
J Hyperten	4.871	1	4.871
Total		19	49.739

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
臨床心臓電気生理	1	
心臓	1	
Prog Med	1	2

虚血性心疾患	1	
Therapeutic Research	1	
臨床と研究	1	
メディカルプラクティス	1	
Heart View	3	3
内科	1	2
新・目で見る循環器シリーズ (19)	1	
不整脈の治療	1	
診断と治療　増刊号	1	
弘前医師会報	1	1
J Cardiol		1
Circ J		1
呼吸		1
循環器科		1
M.P		1
臨床医		1
計	15	14

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	8	13

3．その他（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Clin Oucol	9.835	1	9.835
Total		1	9.835

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clin Nephrol	0.463	1	0.463
Am J Kidney	4.038	1	4.038
Total		2	4.501

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
臨床心臓電気生理	1	
青森県立中央病院医誌	2	
心電図		1
内科専門医会誌		1
喘息		1
日本耳鼻咽喉科医会誌		1
内科		1
計	3	5

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

B.1. Okumura K: Long-term efficacy of antiarrhythmic drug therapy and its influence to the prognosis in patients with paroxysmal atrial fibrillation. The 31st international congress on electrocardiology. Kyoto,Japan,2004.

B.2. Okumura K: Catheter ablation and antiarrhythmic drug therapy for paroxysmal atrial fibrillation：their efficacies and future perspectives. Niigata, Japan, 2004.

16.11.7 ～ 10　アメリカ心臓協会学会 (AHA)（ニューオーリンズ，ルイジアナ）

C.1. Osanai T, Okumura K:「Endogenous vasoconstrictor coupling factor 6 is released from the resistance arterioles and is involved in the genesis of hypertension」

C.2. Oikawa K, Osanai T:「Coupling Factor 6 Induces Vasoconstriction of Coronary Arterioles in Hypertensive Rats via a Suppression of Cytochrome P-450 Metabolites」

C.3. Kushibiki M, Okumura K:「Aldosterone Causes Vasoconstriction of Coronary Arterioles Isolated from Spontaneously Hypertensive Rats and Angiotensin Ⅱ Type 1 Receptor Blocker Inhibits it via Suppression of Oxidative Stress」

C.4. Fujiwara T, Okumura K:「Granulocyte Colony-Stimulating Factor(G-CSF) is Synthesized and Released from the Heart in the Early Phase of Acute Myocardial Infarction」

C.5. Tomita H, Okumura K:「Nuclear Factor-κB is a Target of Peroxisome Proliferator-activated Receptor γ Ligands in their Suppressive Effects on Shear Stress-induced Gene Expression and Release of Novel Vasoconstrictor Coupling Factor 6」

C.6. Owada S, Iwasa A:「Different Response Of Retrograde VA Conduction To Ventricular Extrastimulus Between AV Nodal Reentrant And AV Reciprocating Tachycardias:Proposal Of A Simple Criterion For The Diagnosis Of AV Nodal Reentrant Tachycardia」

17.3.6 ～ 9　アメリカ心臓病学会 (ACC)（オーランド，フロリダ）

C.1. Yokoyama J:「Inhibitory effect of low dose pioglitazone on the development of in-stent restenosis in patients with type 2 diabetes mellitus」

16-5-21 ～ 26　第99回　アメリカ胸部疾患学会（オーランド，フロリダ）

C.1. Hayashi A, Takanashi S, Yamamoto K, Hasegawa Y, Morimoto T, Okumura K: Clara Cell Protein Level in Sputum is Decreased in Bronchial asthma.

C.2. Morimoto T, Takanashi S, Hasegawa Y, Okudera K, Kumagai M, Hayashi A, Okumura K: Sensitivity and Specificity of Anti-Lipoarabinomannan Antibodies in Pleural Effusion for the Diagnosis of Tuberculous Pleural Effusion: Comparison with Those of Adenosine Deaminase.

16.5.15 ～ 17　ヨーロッパ腎臓学会 (EDTA)（ポルトガル，リスボン）

C.1. Tamura M, Osawa H, Nakamura N, Shirato K, Nakamura M, Kumasaka R, Yamabe H, Okumura K: Extracellular matrix metalloproteinase inducer (EMMPRIN) exists in tubular epithelial cells and its expression decreases in tubulointerstitial nephritis.

C.2. Nakamura M, Osawa H, Kumasaka R, Tamura M, Shirato K, Nakamura N, Yamabe H, Okumura K: Stimulation of angiogenin and vascular endotherial growth factor production under hypoxic condition in cultured human proximal tubular epithelial cells.

16.10.29 ～ 31　アメリカ腎臓学会 (ASN)（セントルイス）

C.1. Nakamura M, Osawa H, Fujita T, Murakami R, Kumasaka R, Shimada M, Nakamura N, Yamabe H, Okumura K: Hypoxia stimulates angiogenin (ANG) and vascular endotherial growth factor (VEGF) production via hypoxia inducible factor-1 (HIF-1) pathway in cultured human proximal tubular epitherial cells (PTEC).

C.2. Shimada M, Osawa H, Fujita T, Murakami R, Kumasaka R, Nakamura M, Nakamura N, Yamabe H, Okumura K: TGF β1 stimulates expression of extracellular matrix metalloproteinase inducer (Emmprin) in cultured human proximal tubular epitherial cells (PTEC).

C.3. Nakamura N, Kumasaka R, Osawa H, Yamabe H, Nakamura M, Shimada M, Murakami R, Fujita T, Okumura K, Hamazaki K, Hamazaki T: Effects of eicosapentaenoic acid on the oxidative stress marker in patients with lupus nephritis.

C.4. Kumasaka R, Nakamura N, Fujita T, Murakami R, Shimada M, Nakamura M, Osawa H, Yamabe H, Okumura K: Fatty acid composition of the plasma and kidney in rats with anti-Thy1.1 nephritis.

2005年度

B.1. Okumura K: Vena cava and crista terminalis in AF.Asian-Pacific Atrial Fibrillation Symposium(APAFS), Korea, 2005.

C.1. Tomohiro O: Intracellular signaling for vasoconstrictor coupling factor 6: Novel function of ectopic β-subunit of ATP synthase as the receptor. Scientific Session 2005 (American Heart Association), Dallas (USA), November 13-16, 2005.

C.2. Tomohiro O: Effet of vasoconstrictor coupling factor 6 on gene expression profile in human vascular endothelial cells: Enahnced release of asymmetric dimethylarginine. Scientific Session 2005 (American Heart Association), Dallas (USA), November 13-16, 2005.

C.3 Morimoto T, Takanashi S, Y. Hasegawa, K. Okudera, A. Hayashi, K. Taima, and K. Okumura: The Level of Nitrate/Nitrite in Exhaled Breath Condensate is Increased in Asthma.American Thoracic Society, San Diego USA, 2005.

C.4. Hanada H: Mechanical Circulatory Support and Reperfusion Would be Better Than Drug and Shock Protocol During Second Survey of Ventricular Fibrillation Algorithm, AHA RESS symposium, chicago, 2005.

C.5. Shimada M, Yamabe H, Fujita T, Murakami R, Kumasaka R, Nakamura N, Osawa H, Okumura K: Soluble EMMPRIN (extracellular matrix metalloproteinase inhibitor) is released from cultured proximal tubular epithelial cells (PTEC): Possible roles as a paracrine or autocrine fashion. 38th Annual Meeting and Scientific Exposition, Renal Week 2005, The American Society of Nephrology, 11, Philadelphia, PA, U.S.A,2005.

C.6. Fujita T, Nakamura N, Kumasaka R, Shimada M, Murakami R, Osawa H, Yamabe H, Okumura K: Comparison of lipid and fatty acid metabolism between minimal change nephritic syndrome and membranous nephropathy. 38th Annual Meeting and Scientific Exposition, Renal Week 2005, The American Society of Nephrology, 2005, 11, Philadelphia, PA, U.S.A,2005.

C.7. Nakamura N, Kumasata R, Fujita T, Shimada M, Murakami R, Osawa H, Yamabe H, Okumura K: Serum lipid profile and plasma fatty acid composition in hemodialysis patients – Comparison with chronic kidney disease patients. 38th Annual Meeting and Scientific Exposition, Renal Week 2005, The American Society of Nephrology, Philadelphia, PA, U.S.A, 2005.

C.8. Kumasaka R, Nakamura N, Fujita T, Murakami R, Shimada M, Osawa H, Yamabe H, Okumura K: Beneficial effect of neutrophil elastase inhibitor on anti-Thy1.1 nephritis in rats. 38th Annual Meeting and Scientific Exposition, Renal Week 2005, The American Society of Nephrology, Philadelphia, PA, U.S.A, 2005.

C.9. Yamabe H, Nakamura N, Nakamura M, Shimada M, Kumasaka R, Fujita T, Okumura K: Clinicopathological study on hepatitis C virus (HCV) associated glomerulonephritis. XLII Congress , European Renal Association (European Dialysis and Transplant Association), Istanbul, Turkey. 2005.

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. 中村典雄，白戸研一，熊坂隆一郎，奥村　謙：腎機能と血漿多価不飽和脂肪酸分画についての検討～末期腎不全における脂肪酸栄養に関する提言～．ワークショップ05透析患者の病態栄養と適正食事療法．第49回日本透析医学会学術集会・総会，2004, 6, 神戸 .

C.　69件

Ⅲ．学術賞

2004年度

名称：遠藤正彦学長記念研究助成
受賞者：奥村　謙
演題：冠攣縮性狭心症の原因遺伝子の同定とその臨床応用

名称：弘前大学医学科国際化教育奨励賞
受賞者：花田裕之

Ⅳ．共同研究

2004年度

研究機関名：かねさ株式会社
研究課題：胚軸からの糖代謝是正物質の分離（継続）

2005年度

研究機関名：かねさ株式会社
研究課題：胚軸からの糖代謝是正物質の分離（継続）

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

研究種目：基盤 (C) (2)
研究課題：冠攣縮性狭心症の成因に対する分子生物学的アプローチ
研究代表者：奥村　謙
配分額：1,700

研究種目：基盤 (C) (2)
研究課題：Coupling factor 6の心疾患における病態生理学的役割に関する開発
研究代表者：長内　智宏
配分額：1,500

研究種目：基盤 (C) (2)
研究課題：心筋梗塞後の血管新生，心室リモデリングにおけるマトリクスメタロプロテアーゼの役割
研究代表者：松永敏郎
配分額：1,400

2005年度

研究代表者として

研究種目：基盤研究 (C)(2)
研究課題：Coupling factor 6の心疾患における病態生理学的役割に関する研究
研究代表者：長内智宏
配分額：1,800

研究種目：若手研究 (B)
研究課題：虚血性心疾患における内因性顆粒球ｺﾛﾆｰ刺激因子の動態と制御因子に関する研究
研究代表者：樋熊　拓未
配分額：1,400

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2004年度

研究代表者として

名称：平成16年度日本腎臓財団公募助成
研究代表者：中村典雄
研究課題：腎機能障害における多価不飽和脂肪酸代謝についての検討
- 腎不全における脂質栄養の観点から -
配分額：1,000

名称：遠藤正彦学長記念助成金
研究代表者：奥村　謙
研究課題：冠攣縮性狭心症の原因遺伝子の同定とその臨床応用
配分額：1,500

名称：平成16年度社団法人青森医学振興会助成金
研究代表者：松永敏郎
研究課題：自然高血圧症ラット冠細小動脈におけるアルドステロンの薬理学的特性についての研究
配分額：500

他研究単位との研究分担者として

循環病研究委託事業　　16公-3
研究課題：無症候性 Brugada 症候群の予後に関する研究
研究分担者：奥村　謙
配分額：900

2005年度

他研究単位との研究分担者として

研究種目：17公-2
研究課題：「遺伝子多型による冠攣縮性狭心症の予知と新規診断法に関する研究」
研究代表者：奥村　謙
配分額：2,000

研究種目：16公-3
研究課題：「無症候性 Brugada 症候群の予後」
研究代表者：奥村　謙
配分額：900

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2004年度

陳　照寧（大学院）　中国

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

2004年度

国際交流
主催代表：大慶市消防医院，瓦房店市立第三病院
集会名：第９回日中学術交流
開催地：中国（大慶市，瓦房店市）

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

第138回日本循環器学会東北地方会（盛岡）

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

18. 内科学第三講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：
全体として70％

理念：
個々の人の掲げた目標が遂行できるように，教室としてバックアップする。

これから２年間の目標：
各分野の疾患の病態を深く追求し，その治療を考える。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　6，医員　19，大学院学生　7，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授		須田　俊宏	
	助教授		玉澤　直樹	
	講　師		神成　一哉	
	講　師		小川　吉司	
	助　手		冨山　誠彦	
	助　手		松井　　淳	
	助　手		丹藤　雄介	
	助　手		蔭山　和則	
	助　手		崎原　　哲	
	助　手		二川原　健	
研究課題	１．CRF ファミリーペプチドの調節機序と生理的役割に関する研究 ２．CRF 受容体調節機序に関する研究 ３．クッシング症候群の診断と治療に関する研究 ４．糖尿病と動脈硬化症 ５．高脂血症の臨床，特にコレステロール逆転送系について ６．２型糖尿病における脂肪毒性に関する研究 ７．膵ランゲルハンス島移植に関する研究 ８．糖尿病患者におけるシスタチン C 測定の意義に関する研究 ９．糖尿病と消化吸収 10．膵β細胞の電気生理 11．２型糖尿病におけるコレステロール逆転送系調節機構の異常解明 12．advanced glycation end-products による脂質過酸化促進機構の解明 13．若年発症２型糖尿病患者の臨床的背景についての疫学的研究 14．膵炎発症メカニズムの解析 15．膵外分泌不全の病態と治療に関する研究 16．疾患における栄養評価と治療に関する研究 17．糖尿病治療における臨床研究 18．消化吸収不良に関する研究 19．Urocortin の作用とその作用機序 20．下垂体における ACTH 分泌機構とストレス反応メカニズム 21．抗パーキンソン病薬 Amantadine の薬理作用の解明 22．L-DOPA と併用される Benserazide の中枢作用の有無について 23．ドーパミンニューロン消失時の他のモノアミン作動性神経の変化 24．パーキンソン病患者の精神機能			

2005年度

研究人員	教授　，助教授　，講師　，助手　，医員　，大学院学生　，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授		須田　俊宏	
	助教授		玉澤　直樹	
	講　師		小川　吉司	
	講　師		松井　　淳	
	講　師		丹藤　雄介	
	講　師		蔭山　和則	
	助　手		崎原　　哲	
	助　手		二川原　健	
	助　手		村上　　宏	
	助　手		照井　　健	
研究課題	1．視床下部－下垂体－副腎系の調節機序 2．CRF －ウロコルチンファミリーペプチドの生理的意義 3．クッシング症候群の診断と治療 4．視床下部機能の解明 5．糖尿病におけるコレステロール逆転送系調節機構の異常について 6．advanced glycation end products による脂質過酸化促進機構の解明 7．低酸素による膵β細胞の変化 8．ARB による膵ラ島内血流動態の変化は、糖尿病発症を予防するか？ 9．糖尿病患者におけるシスタチン C 測定の意義に関する研究 10．膵外分泌不全の病態と治療に関する研究 11．疾患における栄養評価と治療に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Fukuda, Y., Kageyama, K., Nigawara, T., Kasagi, T., Suda, T: Effects of corticotropin-releasing hormone (CRH) on the synthesis and secretion of proopiomelanocortin- related peptides in the anterior pituitary: a study using CRH-defficient mice. Neuroscience Letter 367;201-204,2004.

A.2. Guan, JZ., Tamasawa, N., Brunham, LR., Matsui, J., Murakami, H., Suda, T., Ochiai, S., Tsutsui, M., Kudoh, K., Satoh, K: Hayden MR. A case of Tangier disease with a Novel mutation in the C-terminal region of ATP-binding cassette transporter A1. American Journal of Medical Genetics. 130A:398-401,2004.

A.3. Matsui, J., Tamasawa, N., Tanabe, J., Kasai, N., Murakami, H., Yamato, K., Guan, JG., Suda, T: LDL particle size and lipid composition are risk factors for microalbuminemia in normotensive and normocholesterolemic patients with type 2 diadetes. Diabetes Research and Clinical Practice 66:229-236,2004.

A.4. Murakami H, Tamasawa N, Yamato K, Kasai N, Matsui J, Ogawa Y, Suda T: Effect of Fenofibrate on Type 2 Diabetic Patients with Dyslipidemia Hirosaki Med J 2004;55:101-107.

A.5. Suzuki, C., Hirai, Y., Terui, K., Kohsaka, A., Akagi, T, Suda, T: Slowly progressive type 1 diadetes mellitus associated with vitiligo vulgaris, chronic thyroiditis and pernicious anemia. Internal Medicine 43:1183-1185, 2004.

A.6. Tomiyama M, Kimura T, Maeda T, Tanaka H, Kannari K, Baba M: Upregulation of striatal adenosine A2A receptor mRNA in 6-hydroxydopamine-lesioned rats intermittently treated with L-DOPA. Synapse. 2004 Jun 1;52(3):218-22.

A.7. Tomiyama M, Mori F, Kimura T, Ichinohe N, Wakabayashi K, Matsunaga M, Baba M: Hypertrophy of medial globus pallidus and substantia nigra reticulata in 6-hydroxydopamine-lesioned rats treated with L-DOPA: implication for L-DOPA-induced dyskinesia in Parkinson's disease. Neuropathology. 2004;24:290-5.

A.8. Yamato K, Tamasawa N, Murakami H, Matsui J, Tanabe J, Suda T, Yasujima M: Evaluation of apolipoprotein E secretion by macrophage in type 2 diabetic patients: role of HDL and apolipoprotein A-1. Diabetes Res Clin Pract. 2005 Aug;69(2):124-8. Epub 2004 Dec 28.

B.1. Ikejima S, Sasaki S, Sashinami H, Mori F, Ogawa Y, Nakamura T, Abe Y, Wakabayashi K, Suda T, Nakane A: Impairment of host resistance to *Listeria monocytogenes* infection in liver of db/db and ob/ob mice. Diabetes 54:182-189,2005.

B.2. Iwasaki Y, Asai M, Yoshida M, Nigawara T, Kambayashi M, Oiso Y, Nakashima N: Nilvadipine inhibits nuclear factor-kappaB-dependent transcription in hepatic cells. Clin Chim Acta. 2004;350:151-7.

B.3. Iwasaki Y, Asai M, Yoshida M, Nigawara T, Kambayashi M, Nakashima N: Dehydroepiandrosterone-sulfate

inhibits nuclear factor-kappaB-dependent transcription in hepatocytes, possibly through antioxidant effect. J Clin Endocrinol Metab. 2004;89:3449-54.

B.4. Jeong KH, Sakihara S: Widmaier EP, Majzoub JA. Impaired leptin expression and abnormal response to fasting in corticotropin-releasing hormone-deficient mice. Endocrinology. 2004 Jul;145(7):3174-81.

B.5. Venihaki M, Sakihara S: Subramanian S, Dikkes P, Weninger SC, Liapakis G, Graf T, Majzoub JA. Urocortin III, a brain neuropeptide of the corticotropin-releasing hormone family: modulation by stress and attenuation of some anxiety-like behaviours. J Neuroendocrinol. 2004 May;16(5):411-422.

2005年度

A.1. K. Kageyama, K. Terui, M. Shoji, S. Tsutaya, E. Matsuda, S. Sakihara, T. Nigawara, T. Moriyama, M. Yasujima, T. Suda: A Diagnosis on the case of Giyelman's syndrome by renal clearance studies and the gene analysis with a novel mutation of the thiazide-sensitive Na-Cl cotransporter. Journal of Endocrinological Investigation. 2005,28(9):822-826.

A.2. K. Kageyama, T. Moriyama, S. Sakihara, S. Takayasu, T. Nigawara, T. Suda: Usefulness of the thyrotropin-releasing hormone test in pre-clinical acromagaly. The Tohoku Journal of Experimental Medicine. 2005, 206:291-297.

A.3. K. kageyama, K. Hanada, T. Suda: Regulation of corticotropin-releasing factor receptor type 2B mRNA by mitogen-activated protein kinases in aortic smooth muscle cells. Regulatory Peptides 2005,126:223-231.

A.4. T. Moriyama, K. Kageyama, Y. Kasagi, Y. Iwasaki, T. Nigawara, S. Sakihara, T. Suda. Mol. Cell Endocrinology 2005, 243:74-79.

A.5*. K. Yamato, N. Tamasawa, H. Murakami, J. Matsui, J. Tanabe, T. Suda, M. Yasujima: Evaluation of apolipoprotein E secretion by macrophages in type 2 diabetic patients: role of HDL and apolipoprotein A-1. Diabetes Res Clin Pract 2005(69):124-128.

A.6. J. Matsui, N. Tamasawa, J. Tanabe, N. Kasai, H. Murakami, K. Matsuki, T. Suda: Clinical characteristics of japanese youth-onset type 2 diabetes with ketonuria. Diabetes Res Clin Pract 2005(70):235-238.

A.7. Tamasawa N, Matsui J, Murakami H, Tanabe J, Matsuki K, Ogawa Y, Ikeda Y, Takagi A, Suda T: Glucose-stimulated insulin response in non-diabetic patients with lipoprotein lipase deficiency and hypertriglyceridemia. Diabetes Res Clin Pract. 2006;72(1):6-11.

A.8. Kudo T, Wu J, Ogawa Y, Suga S, Hasegawa N, Suda T, Mizukami H, Yagihashi S, Wakui M: Novel Mechanism of Chronic Exposure of Oleic Acid-Induced Insulin Release Impairment in Rat Pancreatic beta-Cells. J Pharmacol Exp Ther. 2006 Sep;318(3):1203-10, Epub 2006 Jun 6.

A.9. Kageyama K, Hanada K, Moriyama T, Nigawara T, Sakihara S, Suda T: G Protein-coupled receptor kinase 2 involvement in desensitizatiion of corticotropin-releasing factor (CRF) receptor type 1 by CRF in murine corticotrophs. Endoclrinology 2006;147(1):441-50.

B.1. S. Ikejima, S. Sasaki, H. Sashinami, F. Mori, Y. Ogawa, Y. Abe, K. Wakabayashi, T. Suda, A. Nakane: Impairment of host resistance to listeria monocytogenesis infection in liver of db/db and ob/ob mice. Diabetes 2005,54:182-189.

B.2. H. Sashinami, K. Kageyama, T. Suda, A. Nakane: Endocrinology Urocortin 2 suppresses host resistance tomListeria monocytogens infection via up-regulation of IL-10. Endocrinology 2005,146:5003-5011.

B.3. D. Chida, T. Imaki, T. Suda, Y. Iwakura. Involvement of corticotropin-releasing hormone and interleukin-6-dependent proopiomelanocortin induction in the anterior pituitary during hypothalamic-pituitary-adrenal axis activation by IL-1a. Endocrinology 146:5496-5502.

B.4. Miyasaka K, Ohta M, Takano S, Hatashi H, Higuchi S, Maruyama K, Tando Y, Takata Y, Funakoshi A: Carboxylester lipase gene polymorphism as a risk of alcohol-induced pancreatitis. Pancreas, 2005,30:87-91.

B.5. Nigawara T, Iwasaki Y, Asai M, Yoshida M, Kambayashi M, Sashinami H,Hashimoto K, Suda T: Inhibition of 11beta-hydroxysteroid dehydrogenase eliminates impaired glucocorticoid suppression and induces apoptosis in corticotroph tumor cells. Endocrinology 2006;147:769-72.

和文

2004年度

A.1. 須田俊宏：ストレス反応における CRF の役割 Journal of experimental animal technology 39:76-79,2004.

A.2. 柳町　幸，丹藤雄介，松橋有紀，田中　光，志津野江里，須田俊宏，中村光男：非代償期慢性膵炎患者の安静時エネルギー消費量の変動．消化と吸収2004;26,47-50.

A.3. 柳町　幸，丹藤雄介，松橋有紀，田中　光，志津野江里，松本敦史，松井　淳，須田俊宏，中村光男：非代償期慢性膵炎患者における栄養障害の問題点－特に血中抗酸化物質について．消化と吸収(2004);27,62-65.

A.4. 田中　光，中村光男，丹藤雄介，志津野江里，松本敦史，工藤貴徳，松橋有紀，柳町　幸，小川吉司，須田俊宏：高齢者の低アルブミン血症をいかに改善させるか．消化と吸収26:30-34,2004.

A.5. 田中　光，中村光男，丹藤雄介，渡辺　拓，松橋有紀，柳町　幸，小川吉司，松井　淳，長谷川範幸：13Ｃ医学14:12-13,2004.

A.6. 田中　光，中村光男，松本敦史，志津野江里，松橋有紀，柳町　幸，丹藤雄介，小川吉司，平野聖治：高齢者の咀嚼能力が食事摂取に及ぼす影響ついて．老年消化器病2004;16,203-208.

B.1. 吉岡小百合，中村光男，田中　光，丹藤雄介，松橋有紀，柳町　幸，松井　淳，小川吉司：肝硬変患者における脂肪摂取量と血中脂肪酸の関係について．消化と吸収2004;26,41-46.

B.2. 渡辺　拓，松橋有紀，田中　光，柳町　幸，丹藤雄介，松井　淳，小川吉司，須田俊宏，中村光男：機能性食品とその臨床応用　a-リノレン酸は魚油 (EPA,DHA) の代わりになるか？　消化と吸収2004;26,98-102.

2005年度

A.1. 松本敦史，田中　光，管　静芝，志津野江里，松橋有紀，柳町　幸，長谷川範幸，丹藤雄介，松井　淳，小川吉司，須田俊宏，野木正之，中村光男：13C ジペプチドを用いた膵性消化吸収不良診断の新たな検査法　消化と吸収 28(2005),19-21.

A.2. 田中　光，中村光男，松本敦史，志津野江里，松橋有紀，柳町　幸，丹藤雄介，小川吉司，平野聖治：高齢者の咀嚼能力が食事摂取に及ぼす影響について．老年消化器病　16(3):203-208,2005.

A.3. 松本敦史，田中　光，千葉あゆみ，吉岡小百合，志津野江里，松橋有紀，柳町　幸，丹藤雄介，小川吉司，平野聖治，須田俊宏，中村光男：糖尿病患者における血中脂肪酸組成の変動．消化と吸収　27:55-58,2005.

A.4. 松橋祐紀, 丹藤雄介, 田村綾女, 志津野江里, 松本敦史, 田中　光, 柳町　幸, 松井　淳, 小川吉司, 中村光男：血中コレステロール低下と便中胆汁酸のコレスチミド用量依存性について　消化と吸収　2005;27,16-19.

（2）総説

英文

2004年度

A.1. Suda T, Kageyama K, Sakihara S, Nigawara T: Physiological roles of urocortins, human homologues of fish urotensin 1, and their receptors. Peptides 25(10):1689-1701,2004.

和文

2004年度

A.1. 小川吉司，友常　健，須田俊宏：薬物による耐糖能障害　ステロイドホルモン　日本臨床63増刊号２耐糖能障害－基礎・臨床の最新情報，2005.

A.2. 松井　淳，須田俊宏：糖尿病食事療法ガイドライン．産婦人科治療（2004);88,277-286.

A.3. 柳町　幸, 丹藤雄介, 中村光男：【消化器疾患における最近の話題　消化管】 機能性食品とその臨床応用．医学と薬学2004;52,541-549.

A.4. 田中　光，中村光男，松本敦史，松橋有紀，柳町　幸，丹藤雄介 : 高齢者における消化器の機能障害】高齢者における吸収不良症候群 .

B.1. 中村光男，丹藤雄介，田中　光，柳町　幸：【慢性膵炎の合併症とその取り扱い】 吸収不良症候群．消化器の臨床，2004;7,534-540.

2005年度

A.1. 須田俊宏：Cushing 症候群の診断基準・病型分類　内科　南江堂　2005;95:1821-1825.

A.2. 須田俊宏：CRF-urocortin family　内分泌・糖尿病科　科学評論社　2005;21:441-444.

A.3. 須田俊宏：ウロコルチンとその関連ペプチド　内分泌・糖尿病科　科学評論社　2005;21:665-668.

A.4. 須田俊宏：柴苓湯が示す多様な薬理作用の臨床的意義．Menio Medicak View 社　2005;22:84-89.

A.5. 二川原　健，須田俊宏：Cushing 病とプレクリニカル Cushing 病の診断と治療？軽症例を見逃さないために　医学のあゆみ　213巻5号 p.311-316,2005.

A.6. 二川原　健，須田俊宏　クッシング症候群の診断における問題点　血圧　12巻7号　p.744-748,2005.

A.7. 二川原　健，岩崎泰正（高知大学），須田俊宏　11 β -hydroxysteroid dehydrogenases (11 β -HSDs): ステロイド作用のモジュレーター　内分泌・糖尿病科　21巻5号　p.539-546,2005.

A.8. 二川原　健，須田俊宏：内分泌・代謝性疾患に伴う神経障害　Cushing 症候群 Clinical Neuroscience 24巻1号　p.48-49, 2005.

A.9. 玉澤直樹　ATP 結合カセットトランスポーターサブファミリー A メンバー 1（ABCA1）生体の科学 56(6):450-451,2005.

A.10. 小川吉司，友常　健，須田俊宏：アルコールと糖尿病　Medicina 42(9):1596-1598,2005.

A.11. 柳町　幸，丹藤　雄介，中村　光男：今月の主題　胆膵疾患はこう診る－緊急処置からフォローアップまで　胆膵疾患の診断とフォローアップ【膵】 慢性膵炎．Medicina 42:1411-1413,2005.

A.12. 柳町　幸，丹藤　雄介，勝浦　美香（弘前大学医学部保健学科病因病態検査学），野木　正之（弘前大学学部保健学科病因病態検査学），志津野　江里，松本　敦史，松橋　有紀，田中　光，須田　俊宏，中村　光男，工藤　興寿（白生会胃腸病院）：血液透析患者の安静時エネルギー代謝についての検討：栄養評価と治療22:611-614,2005.

A.13. 柳町　幸，丹藤　雄介，松橋　有紀，志津野　江里，田村　綾女，野木　正之（弘前大学医学部保健学科病因病態検査学），中村　光男：慢性膵炎非代償期の栄養評価からみた栄養法．栄養評価と治療22:537-540,2005.

A.14. 柳町　幸，丹藤　雄介，松橋　有紀，田中　光，志津野　江里，松本敦史，田村　綾女，須田　俊宏，野木　正之（弘前大学医学部保健学科病因病態検査学），中村　光男：膵石症をめぐる最近の動向　膵石症の内科的治療法－ Life style modification，食事療法，薬物療法について－．胆と膵26:883-887,2005.

A.15. 志津野江里，丹藤雄介，中村光男：肥満と胆嚢機能－特に胆石生成に関する肥満の関与について－：肝胆膵51:837-845,2005.

A.16. 柳町　幸，丹藤　雄介，中村　光男：消化器疾患の病態診断における呼気テストの位置づけ　膵性脂肪便の診断と治療モニタリングにおける ^{13}C 呼気試験の有用性．消化器科42:100-104,2006.

(3) 著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 須田俊宏：内分泌系とビタミンの病気　家庭医学　p2236-2237，法研　2004.

A.2. 川嶋祥子，須田俊宏：アジソン病　ヒドロコルチゾン経口薬　内分泌代謝疾患治療のエビデンス　阿部好文，西川哲男編　文光堂　p107-108，2004.

A.3. 須田俊宏：CRF ホルモンの辞典　清野　裕，千原和夫，名和田新，平田結喜緒編, p94-104,2004．朝倉書店.

A.4. 須田俊宏：無月経・乳汁漏出症候群　今日の治療指針　p543-544,2004　医学書院 .

A.5. 二川原健，須田俊宏：副腎性器症候群　今日の治療と看護（水島　裕，黒川　清編）南江堂　p595-6,2004.

2005年度

A.1. 須田俊宏：内分泌疾患における身体所見のとり方　内分泌疾患を探る（花房俊昭，伊藤　充編）永井書店　p14-16,2005.

A.2. 須田俊宏：無月経・乳汁漏出症候群　今日の治療指針（山口　徹，北原光男編）医学書院　p543-544,2005.

A.3. 照井　健，須田俊宏：Cushing 病　内分泌・代謝学（寺本民夫，片山茂裕編）Medical View　p60-63, 2005.

A.4. 二川原健，須田俊宏，小田桐恵美：コルチゾール　臨床検査ガイド　文光堂　p423-427,2005.

A.5. 二川原健，須田俊宏：性腺機能低下症　内科疾患診療マニュアル　中外医学社　p673-675,2005.

A.6. 二川原健，須田俊宏：異所性ホルモン産生腫瘍，多発性内分泌腫瘍　内科疾患診療マニュアル　中外医学社　p676-679,2005.

A.7. 二川原健，須田俊宏：副腎偶発腫瘤　内科疾患診療マニュアル　中外医学社　p680-681,2005.

A.8. 二川原健，小田桐恵美（東京女子医大），須田俊宏：コルチゾール　和田　攻ら編　臨床検査ガイド 2005-2006 p.423-427,2005 文光堂.

A.9. 玉澤直樹，須田俊宏：III　症例にみるメトホルミンの効果的な使い方　高脂血症を伴った糖尿病の場合 P108-111．見直されたビグアナイド　河盛隆造　編集　フジメディカル出版.

A.10. 柳町　幸，丹藤雄介，野木正之 (弘前大学医学部保健学科病因病態検査学)，中村光男：消化器疾患の病態診断における呼気テストの位置つけ　膵性脂肪便の診断と治療モニタリングにおける ^{13}C 呼気試験の有用性．消化器病学の進歩2005　モノグラフ：荒川　泰行編集，日本消化器病学会，東京，p143-145,2005.

A.11. 志津野江里，丹藤雄介，中村光男：2型糖尿病患者における Body mass index（BMI）と消化器病の関連：消化器病の進歩2005 －モノグラフ－：275-280,2005.

(4) その他

英文

2004年度

A.1. Guan JZ，Tamasawa N，Brunham LR，Matsui J，Murakami H，Suda T，Ochiai S，Tsutsui M，Kudou K，Satoh K: Hayden MR．A case of Tangier disease with a novel mutation in the c-terminal region of ATP-binding cassette transporterA1．Am J Med Genet(2004),130A,398-401.

A.2. Kageyama K, Takayasu S, Moriyama T, Sakihara S, Suda T: A case of pseudoaldosteronism, accompanied with hypocalcemia and exaggerated ACTH response．Endocrine Journal 51(1):83-87,2004.

和文

2004年度

A.1. 志津野江里，松橋有紀，丹藤雄介，田中　光，柳町　幸，松井　淳，小川吉司，須田俊宏，中村光男：亜鉛欠乏症を呈した慢性膵炎の一例．消化と吸収 2004;26:51-54.

A.2. 神成一哉，馬場正之：パーキンソン病の高次脳機能障害．Medical Practice 21(7):1091-1094,2004.

A.3. 神成一哉：パーキンソン病線条体のセロトニントランスポーターは病期の進行とともに減少する．PD Today No.3:14-15,2004.

B.1. 丸山勝也，大槻　眞，成瀬　達，広田昌彦，西森　功，税所宏光，澤武紀夫，丹藤雄介，中村光男，川茂幸：アルコール性膵炎の実態調査と原因遺伝子の解析．難治性膵疾患に関する調査研究．平成16年度総括・分担研究報告書 134-138.

B.2. 中村光男，柳町　幸，丹藤雄介，松橋有紀：非代償期慢性膵炎患者に対する消化酵素およびインスリン補充療法前後における安静時エネルギー消費量の変動．難治性膵疾患に関する調査研究．平成16年度総括・分担研究報告書 166-170.

2005年度

A.1. 崎原　哲，蔭山和則，須田俊宏：視床下部 CRF 発現ニューロンにおける11B-HSD-2の発現　ACTH Related Peptides 2006;16:53-61.

A.2. 蔭山和則，木村良一，菅世知子，小川吉司，泉井　亮，須田俊宏：CRF ファミリーペプチドによる膵ベータ細胞内カルシウムの変化と受容体の関係について．ACTH Related Peptides 2005;16:79-83.

A.3. 蔭山和則，花田小巻，崎原　哲，二川原健，森山貴子，岩崎泰正，須田俊宏：下垂体前葉細胞および

AtT/20細胞におけるG共役受容体キナーゼサブタイプの発現と統御機構．ACTH-Relateed Peptides 2005; 16:91-95.

A.4. 長谷川範幸，丹藤雄介，小川吉司，中村光男，須田俊宏：2型糖尿病合併C型肝炎においてCINFが著効果した1例　新薬と臨床　第54巻第12号，2005，p61-66.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neurosci Lett	1.967	1	1.967
Diabetes Res Clin Pr	1.68	2	3.36
Internal Medicine0	0	1	0
Synapse	2.924	1	2.924
Neuropathology	0.64	1	0.64
Diabetes	8.298	1	8.298
Clin Chim Acta	1.633	1	1.633
J Clin Endocrinol Metab	5.873	1	5.873
Endocrinology	5.063	1	5.063
J Neuroendocrinol	3.418	1	3.418
Total		11	33.176

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Journal of Endocrinological Investigation	1.496	1	1.496
The Tohoku Journal of Experimental Medicine	0.927	1	0.927
Regulatory Peptides	2.276	1	2.276
Mol. Cell Endocrinology	2.786	1	2.786
Diabetes Res Clin Pract	1.236	3	3.708
J Pharmacol Exp Ther.	4.098	1	4.098
Endoclrinology	5.313	1	5.313
Diabetes	8.028	1	8.028
Endocrinology	5.313	3	15.939
Pancreas	2.337	1	2.337
Total		14	45.981

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
Journal of experimental animal technology	1	
消化と吸収	5	2
13C医学	1	
老年消化器病	1	2
内科		1
内分泌・糖尿病科		2
Mebio		1
医学のあゆみ		1
血圧		1
内分泌・糖尿病科		1
Clinical Neuroscience		1
生体の科学		1
Medicina		2
栄養評価と治療		2
ACTH Related Peptides		3
新薬と臨床		1
胆と膵		1
肝胆膵		1
消化器科		1
計	8	24

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	11

3．その他（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Am J Med Genet	2.603	1	2.603
Endocrine Journal	1.045	1	1.045
Total		2	3.648

和文（論文数）

2004年度

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
消化と吸収2004, 26, 51-54.	1	
Medical Practice 21(7): 1091-1094, 2004	1	
PD Today No. 3: 14-15, 2004	1	
難治性膵疾患に関する調査研究 . 平成16年度総括・分担研究報告書	1	
慢性膵炎患者に対する消化酵素およびインスリン補充療法前後における安静時エネルギー消費量の変動．難治性膵疾患に関する調査研究 . 平成16年度総括・分担研究報告書	1	
計	5	

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Moriyama T, Kageyama K, Nigawara T, Iwasaki Y, Suda T: Regulation of corticotropin-releasing factor receptor mRNA via protein kinase C pathway in rat anterior pituitary and AtT-20 cells. 86th Annual Meeting of the Endocrine Society New orleans, June 17, 2004.

C.2. Sakihara S, Kawashima S, Suda T: Corticotropin-releasing hormone is required for the anorexia induced by acute activation of melanocortin system. Ibid.

C.3. Nigawara T, Iwasaki Y, Asai M, Yoshida M, Kambayashi M, Suda T: Inhibition of 11 β-hydroxysteroid dehydrogenase eliminates impaired glucocorticoid suppression and induces apoptosis in an in vitro model of Cushing's disease. Ibid.

C.4. Kageyama K, Moriyama T, Nigawara T, Suda T: Regulation of corticotropin-releasing dactor receptor type2 mRNA via MAPkinase in aortic smooth muscle cells. Ibid.

C.5. Murakami H, Guan JZ, Tamasawa N, Matsui J, Tanabe J, Yamato K, Ogawa Y, Suda T: Effects of fibrate and statin treatment on plasma lipid and apolipoprotein levels and on mRNA expression of key regulatory genes involved in reverse cholesterol transport in hyperlipidemic type 2 diabetis patients. 64 th Scientific session of American Diabetes Association. Orlando, June 5, 2004.

C.6. Tanaka H, Nakamura T, Watanabe T, Shizuno E, Matsumoto A, Matsuhashi Y, Yanagimachi M, Tando Y, Ogawa Y, Suda T: Expiration tests were useful to evaluate the digestive and absorptive function of either fat or carbohydrate in patients with pancreatic insufficiency. IAP-JPS Joint Meeting 2004 Sendai(Japan), 2004.

C.7. Yanagimachi M, Tando Y, Matsuhashi Y, Tanaka H, Shizuno E, Matsumoto A, Suda T, Nakamura T: The Nutritional State and Measured Resting Energy Expenditure in Patients with Decompensated Stage of Chronic Pancreatitis. Interunational Pancreatic Association, Sendai, 2004.

C.8. Miyasaka K, Ohta M, Takano S, Hayashi H, Higuchi S, Maruyama K, Tando Y, Nakamura M, Funakoshi A: Association Of Carboxylester Lipase (CEL) Gene Polymorphism With Alcoholic Pancreatitis In A Japanese Population. American Pancreatic Association, Chicago, 2004.

C.9. Akira Arai, Kazuya Kannari, Huo Shen, Masayuki Baba, and Muneo Matsunaga: Desipramine increases L-DOPA-derived extracellular dopamine in the striatum of 6-hydroxydopamine-lesioned rats. 8th International

Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders. June 13-17, 2004, Palazzo dei Congressi, Rome, Italy.

C.10. Kazuya Kannari, Huo Shen, Akira Arai, Toshihiro Suda, and Muneo Matsunaga: Intrastriatal perfusion of fluoxetine increases L-DOPA-derived extracellular dopamine in the striatum of rats with dopaminergic denervation. International Symposium on Parkinson' s Disease. Sept. 4-7, 2004, Kunlun Hotel, Beijing, China.

2005年度

A.1. K. Kageyama, T. Nigawara, T. Moriyama, S. Sakihara, T. Suda: G protein-coupled receptor kinases are involved in the desensitization of CRFR1 by CRF in the murine corticotroph. The Endocrine Society's 81th Annuak Meewting, San Diego, CA, abst p197, 2005.

A.2. T. Moriyama, K. Kageyama, T. Nigawara, S. Sakihara, Y. Iwasaki, T. Suda: Corticotropin-releasing factor decreases stability of CRF receptor type 1 mRNA via protein kinase A, but not MAP kinase, pathway in rat anterior pituitary cells. The Endocrine Society's 81th Annuak Meewting, San Diego, CA, abst p198, 2005.

A.3. K. Matsuki, K. Yamato, N. Tamasawa, H. Murakami, J. Matsui, J. Tanabe, M. Yasujima, T. Suda: Reduced plasma LDL and Apo-1 might influence the secretion of Apo E from macrophages in type 2 diabetic patients. 65th Annual Meeting of ADA San Diego 2005.

A.4. J. Tanabe, H. Murakami, J. Matsui, Y. Ogawa, N. Tamasawa, T. Suda: 65th Annual Meeting of ADA San Diego 2005.

A.5. K. Tomotsune, Y. Ogawa, T. Kudo, N. Tamasawa, J. Matsui, Y. Tando, M. Yasujima, T. Suda: 65th Annual Meeting of ADA San Diego 2005.

C.1. Tanabe J, Murakami H, Matsui J, Ogawa Y, Tamasawa N, Suda T: Metabolic syndrome is complicated at high frequency in type 2 diabtic patients with polycystic ovary syndrome.
65th Scientific Sessions of American Diabetes Association (ADA) Sandiego(USA),2005.

C.2. Tomotsune K, Ogawa Y, Kudo T, Tamasawa N, Matsui J, Tando Y, Yasujima M, Suda T: Serum cystatin C would be not only practical for the evaluation of renal function in diabtic patients with overt nephropathy but also useful for the assessment of arteriosclerosis in patients without nephropathy. 65th Scientific Sessions of American Diabetes Association (ADA) Sandiego(USA),2005.

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 第15回 CRH・ACTH 研究会　特別講演「プレクリニカルクッシング病」東京　2004年3月27日

A.2. 二川原健，須田俊宏：シンポジウム　Subclinical Cushing' s disease　第31回日本神経内分泌学会　2004年10月9-10日　弘前市 .

B.1. 須田俊宏：第51回日本実験動物学会シンポジウム：ストレス研究最前線「ストレス反応における CRH の役割」長崎市　2004，5，20.

B.2. 松橋有紀，丹藤雄介，田村綾女，志津野江里，松本敦史，田中　光，柳町　幸，松井　淳，小川吉司，中村光男：コレステロール低下作用における糞便中脂肪酸，胆汁酸，中性ステロール排泄量のコレスチミド用量依存性について．第12回日本消化器関連学会週間 (DDW-Japan 2004) 吸収プレナリーセッション，福岡，2004年 .

B.3. 柳町　幸，丹藤雄介，中村光男：非代償期慢性膵炎における栄養障害の問題点―特に血中抗酸化物質について―．第12回日本消化器関連学会週間 (DDW-Japan 2004) ワークショップ18, 福岡，2004年.

C.　40件

2005年度

A.1. 平成17年11月24日（木）弘前ニューキャッスルホテル
第7回国立大学付属病院感染対策協議会
「感染対策とインフォームドコンセント」
基調報告1 「感染対策とインフォームドコンセントに対するアンケート調査」
弘前大学医学部附属病院　感染制御センター　保嶋　実，○玉澤直樹，山本葉子

A.2. 平成17年4月7日－9日　第102回日本内科学会講演会　　大阪国際会議場
マクロファージのアポ E 分泌は ABCA1 に依存しない　－タンジール病患者の解析から－
村上　宏，松木恒太，田辺壽太郎，大和一美，松井　淳，玉澤直樹，須田俊宏

B.1. 丹藤雄介，柳町　幸，中村光男　膵せい消化吸収不良に対する短期および長期的栄養管理　DDW-Japan 2005, 神戸市，2005

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2004年度

1）厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策事業「難治性膵疾患に関する調査研究班」
アルコール性膵炎の実態調査と原因遺伝子の解析に関する共同研究

2）東京都老人総合研究所臨床生理部門
アルコール性膵炎の原因遺伝子の解析

2005年度

1）厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策事業「難治性膵疾患に関する調査研究班」
アルコール性膵炎の実態調査と原因遺伝子の解析に関する共同研究
2）東京都老人総合研究所臨床生理部門
アルコール性膵炎の原因遺伝子の解析

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として
基盤研究C（2）　新しいCRH family peptidesとストレス応答機構
平成16年度　1,500千円

2005年度

他研究単位との研究分担者として
厚生労働科学研究費補助金　間脳下垂体機能障害調査研究班　　90万円

（2）その他の省庁からの研究費

2004年度

他研究単位との研究分担者として
厚生労働科学研究費　間脳下垂体機能障害調査研究班　平成16年度　900千円

（3）学内の研究助成

2005年度

研究代表者として
第24回唐牛記念医学研究基金助成金A

（4）民間の研究助成

2004年度

研究代表者として
第22回唐牛記念医学研究基金
成人病発症のリスクファクターに関わる新しいウロコルチン関連ペプチドに関する研究　　蔭山和則
480千円

平成16年度学術国際振興基金　Fund for the promotion of International Scientific Research
下垂体ACTH産生腫瘍の細胞増殖に関する細胞内メカニズムの分子生物学的解明
蔭山和則　1,000千円

2004年度　青森医学振興会助成金
クッシング病の病因と治療に関する分子生物学的解明
500千円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2004年度

第31回日本神経内分泌学会　弘前文化センター　2004，10，9－10

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

2005年度

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）
間脳下垂体疾患研究班
「Pre(sub)-clinical Cishing 病の診断基準案について」研究協力者

19. 老年科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

① 漢方薬による老化の制御の基礎的研究。
② food suppbment による老化の制御の基礎的研究。
上記の到達度60％。

関節リウマチの予後を予測する因子の検討の到達度は，20％程度。
早期関節リウマチの新しい診断基準の作製の到達度は，20％程度。
高齢者関節リウマチの至適治療法の到達度は，20％程度。
津軽地域のリウマチネットワークの作製の到達度は，20％程度。

理念：

抗加齢医学の基礎的研究を行い臨床に還元したい。
よりよい関節リウマチ治療の普及。

これから２年間の目標：

年１編英論文を書く。
患者団体への普及。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	水島　　豊	2004．4．1～2005．3.31
	助　手	専　任	浦田　幸朋	2004．4．1～2005．3.31
研究課題	１．高齢者医療における漢方治療の役割 ２．老化の制御 ３．痴呆性疾患の診断および治療法の開発 ４．関節リウマチに対する生物製剤の予後因子の検討 ５．関節リウマチ治療の地域ネットワーク構築 ６．関節リウマチの関節修復に関与する因子と治療戦略に対する検討			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	水島　　豊	2005．4．1～2006．3.31
	助　手	専　任	浦田　幸朋	2005．4．1～2006．3.31
研究課題	1.高齢者医療における漢方治療の役割 2.老化の制御 3.関節リウマチに対する生物製剤の長期成績 4.関節リウマチ治療の地域ネットワーク構築 5.関節リウマチの DAS28(ESR) と DAS28(CRP) の比較			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Irie Y, Mori F, Keung WM, Mizushima Y, Wakabayashi K: Expression of neuronal growth inhibitory factor(metallothionein-III) in the salivary gland. Physiol Res, 2004,53(6):719-723.

2005年度

A.1. Mizushima Y, Mizuno H, Urata Y: Swallowing and cough reflexes in patients with dementia. Geriatr Gerontol Int 2005,5:211-212.

A.2. Mizushima Y, Mizuno H, Urata Y: Relation of age and smoking to serum levels of total testosterone and dehydroepiandrosterone in aged men. Geriatr Gerontol Int 2006,6:49-52.

和文

2004年度

A.1. 水島　豊，水野　宏，浦田幸朋：平均寿命全国順位におよぼす主要４死因の影響．Gerontology,2004, 16(3):246-253.

A.2. 水島　豊，水野　宏，浦田幸朋，鈴木克彦：青森県における社会生活指標と平均寿命の現状．Gerontology, 2004, 16(4):339-343.

（2）総説

英文

2004年度

A.1. Mizushima Y: Editorial- Extradonadal germ cell tumors. Intern Med, 2004, 43(12):1099-1100.

和文

2004年度

A.1. 水島　豊：肺組織および肺機能の加齢変化．Geriatri Med, 2005,43(3):399-403.

2005年度

A.1. 水島　豊：高齢者肺炎－肺炎のメカニズム．臨床と研究．2005,82(12):1971-1973.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 水島　豊：健康長寿のための漢方治療 Q&A101. 企画集団ぷりずむ，青森，2004.

（4）その他

英文

2004年度

A.1. Urata Y. Patients with rheumatoid arthritis (RA) and proteinuria. Clin Exp Nephrol. 2004; 8: 288.

和文

2004年度

A.1. 水野　宏，水島　豊，浦田幸朋，鈴木克彦，和田龍一：CA19-9が著明高値を示し多発小結性節影を呈した細気管支肺胞上皮癌の一例．Gerontology, 2004,16(2):174-178.

A.2. 水島　豊：巻頭言－抗加齢医学の台頭，呼吸と循環，2004,52(11):1097.

A.3. 水島　豊：シリーズ老－若返り作戦 (2) －生活習慣を見直す．弘前，2004,297:52.

A.4. 水島　豊：シリーズ老－介護と家族の絆．弘前，2004, 298:52.

A.5. 水島　豊：シリーズ老－老年病専門医を友人に．弘前，299:52,2004.

A.6. 水島　豊：シリーズ老－睡眠障害 (1) －睡眠のしくみ．弘前，2004,300:52.

A.7. 水島　豊：シリーズ老－睡眠障害 (2) －高齢者の快眠対策．弘前，2004,301:52.

A.8. 水島　豊：シリーズ老－高齢者の尊厳．弘前，2004,302:52.

A.9. 水島　豊：シリーズ老－抗加齢医学の発展．弘前，2004,303:52.
A.10. 水島　豊：シリーズ老－身体的な障害と心の健康．弘前，2004,304:52.
A.11. 水島　豊：シリーズ老－教育は長寿県実現への基．弘前，2004,305:52.
A.12. 水島　豊：巻頭言－高齢者 COPD の予防と治療．Geriatri Med,2005, 43(3):397.
A.13. 松井祥子，栂　博久，木田厚瑞，水島　豊：Round Table Discussion-COPD の未来．Geriatri Med, 2005,43(3):485-499.
A.14. 浦田幸朋：最新学会報告　第48回　日本リウマチ学会学術集会．Medical Tribune Home Care Medcine 2004;8.
A.15. 浦田幸朋：シリーズ　レミケードを追う！．MARUGO　2004,486:9-10.
A.16. 浦田幸朋：臨床クイズ　『皮疹，関節痛で来院した28歳の歳の女性』．内科専門医会誌　2004;16(4);706.

2005年度

A.1. 水島　豊：貝原益軒の養生訓－人生3つの楽しみ．あおもり草子，2005,160:36-37.
A.2. 水島　豊：人の運は食にあり－水野南北の教え．あおもり草子，2005,161:36-37.
A.3. 水島　豊：生き方上手－耐えて待つ．あおもり草子，2005,163:36-37.
A.4. 水島　豊：五年生存率0%からの生還－ゲルソン療法体験記を読んで．あおもり草子，2005,164:36-37.
A.5. 水島　豊：第七の栄養素－ファイトケミカル．あおもり草子，2006,165:36-37.

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Physiol Res	1.140	1	1.14
Inern Med	0.574	1	0.574
Total		2	1.714

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Geriatr Gerontol Int	0	2	0
Total		2	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
Gerontology	2	
Geriatri Med	1	
臨床と研究		1
計	3	1

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	1	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clin Exp Nephrol	0	1	0
Total		1	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
Gerontology	1	
呼吸と循環	1	
弘前	9	
Geriatri Med	2	
Medical Tribune Home Care Medcine	1	
MARUGO	1	
内科専門医会誌	1	
あおもり草子		5
計	16	5

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2004年度

A.1.　浦田幸朋，医学生におけるリウマチ学の認識について，第48回日本リウマチ学会総会，岡山，2004年
C.　１件

2005年度

C.　３件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘、受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生、研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察、研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内、地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2005年度

第16回日本老年医学会東北地方会

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

2005年度

特許申請１件（特願2006-30844）

20. 神経・精神医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

目標は達成している。

理念：

・臨床と研究の相互作用を念頭に，教育・研究・診療のバランスのとれた教室運営をしてゆきたい。
・国際的に通用する研究を展開する。
・修正型電気けいれん療法やリエゾン精神医学などについて臨床的に有益な研究を行う。
・事象関連電位であるミスマッチ陰性電位に関しての研究を継続し，その臨床応用についての調査を行う。

これから２年間の目標：

・後期臨床研修生獲得に際しては大学院入学を勧め，研究の醍醐味を味わってもらい研究者育成に努力したい。加えて，現在展開中の研究を育み，一流国際誌への投稿を試みる。
・英文誌に各自年１報以上掲載に向け努力する。
・大学院生に研究を指導し，学位論文作成を積極的に手伝う。
・年１回以上の全国レベルの学会発表をする。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　2，大学院学生　3名，研究生　8			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授 医学部長	併　任	兼子　　直	H.16. 4．1 ～H17. 3.31
	助教授	専　任	矢部　博興	H.16. 4．1 ～H17. 3.31
	講　師	専　任	栗林　理人	H.16. 4．1 ～H17. 3.31
	講　師	専　任	岡田　元宏	H.16. 4．1 ～H17. 3.31
	助　手	専　任	篠崎　直子	H.16. 4．1 ～H17. 3.31
	助　手	専　任	晝間　臣治	H.16. 4．1 ～H17. 3.31
	助　手	専　任	武田　　哲	H.16. 4．1 ～H17. 3.31
	助　手	専　任	片貝　　宏	H.16. 4．1 ～H17. 3.31
研究課題	１．臨床精神神経薬理学分野 ・抗うつ薬，抗不安薬，抗精神病薬の薬物動態，薬物相互作用の機序および薬遺伝学 ２．臨床てんかん学分野 ・てんかんの責任遺伝子，病態研究 ・てんかんの社会精神医学的研究 ３．神経伝達物質遊離機構に関する研究 ・各種イオンチャネルの神経伝達物質遊離機構に対する効果 ４．精神生理学的研究 ・精神分裂病患者の病態研究：ERP(mismatch negativity) ・感覚記憶の時間周波数統合機能の神経基盤に関する研究 ・聴覚性感覚記憶内部の時間軸に関する研究 ・統合失調症患者における感覚記憶の統合機能障害に関する研究 ５．児童思春期分裂病の臨床的研究分野 ６．児童思春期の食行動異常の臨床的研究分野 ７．コンサルテーション・リエゾン精神医学 ８．摂食障害患者の臨床的研究を中心とした心身医学			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　3，助手　4，医員　1，大学院学生　4，研究生　9			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	兼子　　直	H17. 4. 1 ～H18. 3.31
	助教授	専　任	矢部　博興	H17. 4. 1 ～H18. 3.31
	講　師	専　任	栗林　理人	H17. 4. 1 ～H18. 3.31
	講　師	専　任	岡田　元宏	H17. 4. 1 ～H18. 3.31
	講　師	専　任	古郡　規雄	H17. 4. 1 ～H18. 3.31
	助　手	専　任	菊地　淳宏	H17. 4. 1 ～H18. 3.31
	助　手	専　任	武田　　哲	H17. 4. 1 ～H18. 3.31
	助　手	専　任	晝間　臣治	H17. 4. 1 ～H17. 6.30
	助　手	専　任	松岡　貴志	H17. 7. 1 ～H18. 3.31
研究課題	1．臨床精神神経薬理学分野 ・抗うつ薬，抗不安薬，抗精神病薬の薬物動態，薬物相互作用の機序および薬遺伝学 ・統合失調症，うつ病の個別化治療の開発 2．臨床てんかん学分野 ・てんかんの責任遺伝子，分子病態研究 ・てんかんの社会精神医学的研究 ・てんかんの遺伝子多型に基づく個別化治療の開発 3．神経伝達物質遊離機構に関する研究分野 ・各種イオンチャネルの神経伝達物質遊離機構に対する解析 4．精神生理学的研究分野 ・感覚記憶の時間周波数統合機能の神経基盤に関する研究 ・聴覚性感覚記憶内部の時間軸に関する研究 ・統合失調症患者における感覚記憶の統合機能障害に関する研究 5．児童思春期精神医学分野 ・児童思春期分裂病の臨床的研究 ・児童思春期の食行動異常の臨床的研究分野 6．コンサルテーション・リエゾン精神医学分野 ・修正型電気けいれん療法の有効性と安全性 ・臓器移植における精神医学的介入 ・緩和医療における精神医学的介入 7．摂食障害患者の臨床的研究を中心とした心身医学分野			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Hirose S, and Kaneko S. Both 3, 4-dihydroxyphenylalanine and dopaminereleases are regulated by Ca^{2+}-induced Ca^{2+} releasing system in rat striatum. Neurosci Lett 2004;362(3):244-8.

A.2. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Hirose S, and Kaneko S. Pharmacological discrimination of protein kinase associated exocytosis mechanisms between dopamine and 3,4-dihydroxyphenylalanine in rat striatum using in vivo microdialysis. Neurosci Lett 2004;363(2):120-4.

A.3. Zhu G, Okada M, Uchiyama D, Ohkubo T, Yoshida S, and Kaneko S. Hyperactivity of endoplasmic reticulum associated exocytosis mechanism contributes to acute phenylclidine intoxication.J Pharmacol Sci 2004;95:214-27.

A.4. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Hirose S and Kaneko S. Determination of exocytosis mechanisms of DOPA in rat striatum using in vivo microdialysis. Neurosci Lett 2004;367:241-5.

A.5. Hiruma T, Sato Y, Yabe H, Shinozaki N, Sutoh T, Matsuoka T, Nashida T, Asai R, and Kaneko S. Attentional distraction of CNV depending on the spatial focus.Clin EEG Neurosci 2004;35(3):132-6.

A.6. Okada M, Zhu G, Yoshida S, Hirose S, and Kaneko S. Proteine kinase associated gating and closing transmission mechanisms in temporoammonic pathway. Neuropahrmacol 2004;47(4):485-504.

A.7. Kanai K, Hirose S, Oguni H, Fukuma G, Shirasaka Y, Miyajima T, Wada K, Iwasa H, Yasumoto S, Matsuo M, Ito M, Mitsudome A, and Kaneko S. Effect of localization of missense mutations in SCN1A on epilepsy phenotype severity. Neurology 2004;63(2):329-34.

A.8. Hirano T, Fujioka K, Okada M, Iwasa H, and Kaneko S. Physical and psychomotor development in the offspring born to mothers with epilepsy. Epilepsia (Proceedings of the 35th Congress of The Japan Epilepsy Society Tokyo, Japan, Sept.27-28, 2001) 2004:45(Suppl.):53-7.

A.9. Yabe H, Asai R, Hiruma T, Sutoh T, Koyama S, Kakigi R, Tervaniemi M, and Kaneko S. Sound perception affected by nonlinear variation of accuracy in memory trace. NeuroReport 2004;15:2813-7.

A.10. Yabe H, Matsuoka T, Sato Y, Hiruma T, Sutoh T, Koyama S, Gunji A, Kakigi R and Kaneko S. Time may be compressed in sound representation as replicated in sensory memory. NeuroReport 2005;16(2):95-8.

A.11. Nakagami T, Yasui-Furkori N, Saito M, Mihara K, Vries De R, Kondo T, and Kaneko S. Thioridazine inhibits risperidone metabolism. J Clin Psychopharmacol 2005;25(1):89-91.

A.12. Yabe H, Sutoh T, Matsuoka T, Asai R, Hiruma T, Sato Y, Iwasa H, and Kaneko S. Transient gamma-band responses is dissociated from sensory as reflected by MMN. Neurosci Lett 2005;380(1-2):80-2.

B.1. Yasui-Furukori N, Takahata T, Nakagami T, Yoshiya G, Inoue Y, Kaneko S, and Tateishi T. Different inhibitory effect of fluvoxamine on omeprazole metabolism between CYP2C19 genotypes. Brit J Clin Pharmacol 2004;57(4):487-494.

B.2. Yasui-Furukori N, Furukori H, Kaneda A, Kaneko S, and Tateishi T. The effects pof ginkgo biloba extracts on the pharmacokinetics and pharmacodynamics of donepezil. Brit J Clin Pharmacol 2004;44:538-42.

B.3. Yasui-Furukori N, Mihara K, Takahata T, Nakagami T, Vries De R, Tateishi T, Kondo T, and Kaneko S. Effects of various factors on steady-state plasma concentrations of risperiodne and 9-hydroxyrisperidone: lack of impact of MDR-1 genotypes. Brit J Clin Pharmacol 2004;57(5):569-75.

B.4. Yasui-Furukori N, Saito M, Furukori H, Inoue Y, Someya T, Kaneko S, and Tateishi T. Establishment of new Cloned Enzyme Donor Immunoassays (CEDIA®) for Haloperidol and Bromperidol. Ther Drug Monit 2004;26(3):336-41.

B.5. Osanai T, Ohkubo T, Yasui-Furukori N, Kondo T, and Kaneko S. Effect of itraconazole on the pharmacokinetics and pharmacodynamics of a single oral dose of brotizolam. Brit J Clin Pharmacol 2004;58(5):476-481.

B.6. Wada K, Iwasa H, Okada M, Kawata Y, Murakami T, Kamata A, Zhu G, Onasai T, Kato T, and Kaneko S. Marital status of patients with epilepsy with special reference to the influence of epileptic seizures on the patient's married life. Epilepsia (Proceedings of the 35th Congress of The Japan Epilepsy Society Tokyo, Japan, Sept.27-28, 2001) 2004:45(Suppl.8):33-6.

B.7. Yasui-Furukori N, Furukori H, Nakagami T, Saito M, Inoue Y, Kaneko S, and Tateishi T. Steady-state pharmacokinetics of a new antipsychotic agent perospirone and its active metabolite, and its relationship with prolactin response. Ther Drug Monit 2004;26(4):361-5.

B8. Yasui-Furukori N, Inoue Y, and Kaneko S. Determination of fluvoxamine and metabolite fluvoxamino acid by liquid-liquid extraction column-switching high-performance liquid chromatography. J Pharma Biomed Anal 2005;37(1):121-5.

B.9. Suzuki T, Delgado-Escueta V A, Aguan K, Alonso EM, Shi J, Hara Y, Nishida M, Numata T, Medina T M, Takeuchi T, Morita R, Bai D, Ganesh S, Sugimoto Y, Inazawa J, Bailey NJ, Ochoa A, Jara-Prado A, Rasmussen A, Ramos-Peek J, Cordova S, Rubio-Donnadieu F, Inoue Y, Osawa M, Kaneko S, Oguni H, Mori Y, and Yamakawa K. Mutations in EFHC1 cause juvenile myoclonic epilepsy. Nature Genet 2004;36(8):842-9.

B.10. Nakatsu F, Okada M, Mori F, Kumazawa N, Iwasa H, Zhu G, Kasagi Y, Kamiya H, Harada A, Nishimura K, Takeuchi A, Miyazaki T, Watanabe M, Yasa D, Manabe T,Wakabayashi K, Kaneko S, Saito T, and Ohno H. Defective function of GABA-containing synaptic vesicles in mice lacking the AP-3B clathrin adaptor. J Cell Biol 2004;167(2):293-302.

2005年度

A.1. Nakagami T, Yasui-Furukori N, Saito M, Tateishi T, and Kaneko S. Effects of verapamil on pharmacokinetics and pharmacodynamics of risperidone: In vivo evidence of involvement of P-glycoprotein in risperidone disposition. Clin Pharmacol Ther 2005;78(1):43-51.

A.2. Okada M, Yoshida S, Zhu G, Hirose S, and Kaneko S. Biphasic actions of topiramate on monoamine exocytosis associated with both soluble N-ethylmaleimide-sensitive factor attachment protein receptors and Ca^{2+}-induced Ca^{2+}-releasing systems. Neuroscience 2005;134:233-46.

A.3. Yoshida S, Okada M, Zhu G, and Kaneko S. Effects of zonisamide on neurotransmitter exocytosis associated with ryanodine recept. Epilepsy Res 2005;67(3):153-62.

A.4. Huang CW, Ueno S, Okada M, and Kaneko S. Zonisamido at clinically relevant concentrations inhibits evoked EPSP but not presynaptic fiber volley in rat frontal cortex. Epilepsy Res 2005;67:51-60.

A.5. Saito M, Yasui-Furukori N, Nakagami T, Furukori H, and Kaneko S. Dose-dependent interaction of paroxetine with risperidone in schizophrenic patients. J Clin Psychopharmacol 2005;25(6):527-32.

A.6. Yasui-Furukori N, and Kaneko S. Digitalis intoxication induced by paroxetine co-administration. Lancet 2006; 367(9512):788.

A.7. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Mori F, Hirose S, Wakabayashi K, and Kaneko S. Involment of Ca(2+)-induced Ca2+ releasing system in interleukin-1beta-associated adenosine release. Eur J Pharmacol 2006;532(3): 246-52.

A.8. Yasui-Furukori N, Uno T, Kaneko S, and Tateishi T. Author' s reply: Hydroxylation of lansoprazole in poor metabolizers of CYP2C19. Br J Clin Pharmacol 2006;61(3):361-2.

A.9. Yasui-Furukori N, Saito M, Nakagami T, Kaneda A, Tateishi T, and Kaneko S. Association between multidrug resistance 1 (MDR1) gene polymorphisms and therapeutic response to bromperidol in schizophrenic patients: a preliminary study. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry 2006;30(2):286-91.

A.10. Yabe H, Sutoh T, Matsuoka T, Asai R, Hiruma T, Sato Y, Iwasa H, and Kaneko S. Transient gamma-band response is dissociated from sensory memory as reflected by MMN. Neurosci Lett 2005;380(1-2):80-2.

A.11. Yasui-Furukori.N, Inoue Y, Kaneko S, and Otani K. Determination of fluvoxamine and its metabolite fluvoxamino acid by liquid-liquid extraction and column-switching high-performance liquid chromatography. J Pharm Biomed Anal 2005;37:121.5.

B.1. Hirose S, Mitsudome A, Okada M, and Kaneko S, on behalf of The Epilepsy Study Group, Japan. Genetics of idiopathic epilepsies. Epilepaia 2005;9(Suppl.1):38-43.

B.2. Mori F, Okada M, Tomiyama M, Kaneko S, and Wakabayashi K. Effects of ryanodine receptor activation on neurotransmitter release and neuronal cell death following kainic acid-induced status epilepticus. Epilepsy Res 2005;65(1-2):529-32.

B.3. Oguni H, Hayashi K, Osawa M, Awaya Y, Fukuyama Y, Fukuma G, Hirose S, Mitsudome A, and Kaneko S. Severe myoclonic epilepsy in infancy: clinical analysis and relation to SCN1A mutations in a Japanese cohort. Adv Neurol 2005;95-103-17.

B.4. The Japanese Schizophrenia Sib-Pair Linkage Group(JSSLG), Arinami T, Ohtsuki T, Ishiguro H, Ujike H, Tanaka Y, Morita Y, Mineta M, Takeichi M, Yamada S, Imamura A, Ohara K, Shibuya H, Ohara K, Suzuki Y, Muratake T, Kaneko N, Someya T, Inada T, Yoshikawa T, Toyota T, Yamada K, Kojima T, Takahashi S, Ohmori O, Shinkai T, Nakamura M, Fukuzako H, Hashiguchi T, Niwa S, Ueno T, Tachikawa H, Hori T, Asada T, Nanko S, Kunugi H, Hashimoto R, Ozaki N, Iwata N, Harano M, Arai H, Ohnuma T, Kusumi I, Koyama T, Yoneda H, Fukumaki Y, Shibata H, Kaneko S, Higuchi H, Yasui-Furukori N, Numachi Y, Itokawa M, and Okazaki Y. Genomewide high-density SNP linkage analysis of 236 Japanese families supports the existence of schizophrenia susceptibility loci on chromosomes 1p, 14q, and 20p. Am J Hum Genet 2005;77:937-44.

B.5. Kojima T, Mukai W, Fuma D, Ueda Y, Okada M, Sakaki Y, and Kaneko S. Determination of genomic breakpoints in an epileptic patient using genotyping array. Biochem Biophys Res Commun 2006;341(3):792-6.

B.6. Wakabayashi K, Mori F, Hasegawa M, Kusumi T, Yoshimura I, Takahashi H, and Kaneko S. Co-localization of beta-peptide and phosphorylated tau in astrocytes in a patient with corticobasal degeneration. Neuropathology 2006;26(1):66-71.

C.1. Uno T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T. Determination of lansoprazole and two of its metabolites by liquid-liquid extraction and automated column-switching high-performance liquid chromatography: application to measuring CYP2C19 activity. J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 2005;816:309-14.

C.2. Saito M, Yasui-Furukori N, Uno T, Takahata T, Sugawara K, Munakata A, Tateishi T. Effects of clarithromycin on lansoprazole pharmacokinetics between CYP2C19 genotypes. Br J Clin Pharmacol. 2005;59:302-9.

C.3. Kondo S, Fukasawa T, Yasui-Furukori N, Aoshima T, Suzuki A, Inoue Y, Tateishi T, Otani K. Induction of the metabolism of etizolam by carbamazepine in humans. Eur J Clin Pharmacol. 2005;61:185-8.

C.4. Miura M, Tada H, Yasui-Furukori N, Uno T, Sugawara K, Tateishi T, Suzuki T. Effect of clarithromycin on the enantioselective disposition of lansoprazole in relation to CYP2C19 genotypes. Chirality. 2005;17:338-44.

C.5. Uno T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T. Lack of Significant Effect of Grapefruit Juice on the Pharmacokinetics of Lansoprazole and Its Metabolites in Subjects With Different CYP2C19 Genotypes. J Clin Pharmacol. 2005;45:690-4.

C.6. Kunii T, Fukasawa T, Yasui-Furukori N, Aoshima T, Suzuki A, Tateishi T, Inoue Y, Otani K.Interaction Study Between Enoxacin and Fluvoxamine. Ther Drug Monit. 2005;27:349-353.

C.7. Miura M, Tada H, Yasui-Furukori N, Uno T, Sugawara K, Tateishi T, Suzuki T. Enantioselective disposition of lansoprazole in relation to CYP2C19 genotypes in the presence of fluvoxamine. Br J Clin Pharmacol. 2005;60:61-8.

C.8. Tokairin T, Fukasawa T, Yasui-Furukori N, Aoshima T, Suzuki A, Inoue Y, Tateishi T, Otani K. Inhibition of the metabolism of brotizolam by erythromycin in humans: in vivo evidence for the involvement of CYP3A4 in brotizolam metabolism. Br J Clin Pharmacol. 2005;60:172-5

C.9. Uno T, Yausi-Furukori N, Shimizu M, Sugawara K, Tateishi T. Determination of rabeprazole and its active metabolite, rabeprazole thioether in human plasma by column-switching high-performance liquid chromatography and its application to pharmacokinetic study. J Chromatogr B. 2005;824:238-43.

C.10. Ishizawa Y, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sasaki M, Tateishi T. The Effect of Aging on the Relationship between the Cytochrome P450 2C19 Genotype and Omeprazole Pharmacokinetics. Clin Pharmacokinet. 2005;44:1179-89.

C.11. Fukasawa T, Yasui-Furukori N, Suzuki A, Inoue Y, Tataishi T, Otani K. Pharmacokinetic and pharmacodynamics of etizolam are influenced by polymorphic CYP2C19 activity. Eur. J. Clin. Pharmacol. 2005;61:791-795.

C.12. Takahata T, Yasui-Furukori N, Sakamoto J, Suto K, Suto T, Tateishi T, Munakata A. Influence of hepatic impairment on the pharmacokinetics and pharmacodynamics of landiolol hydrochloride, an ultra-short-acting Beta-1 blocker. Drugs R D. 2005;6;385-94.

C.13. Miura M, Kagaya H, Tada H, Uno T, Yasui-Furukori N, Tateishi T, Suzuki T. Enantioselective dispostion of rabeprazole in relation to CYP2C19 genotypes. Br. J. Clin. Pharmacol. 2006;61;315-320

C.14. Uno T, Shimizu M, Yasui-Furukori N, Sugawara K, Tateishi T. Different effects of fluvoxamine on lansoprazole pharmacokinetics in relation to CYP2C19 genotype status. Br. J. Clin. Pharmacol. 2006;61;309-314.

C.15. Miura M, Kagaya H, Tada H, Uno T, Yasui-Furukori N, Tateishi T, Suzuki T. Intestinal CYP3A4 is not involved in the enantioselective disposition of lansoprazole. Xenobiotica. 2006;36:95-102.

C.16. Shimizu M, Uno T, Niioka T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T. Sensitive determination of omeprazole and its two main metabolites in human plasma by column-switching high-performance liquid chromatography: Application to pharmacokinetic study in relation to CYP2C19 genotypes. J. Chromatogr. B. 2006;832:241-248.

和文

2004年度

A.1. 和田一丸，兼子　直．抗てんかん薬の分類とその特徴．日本医師会雑誌 2004;131(12):97-8.

A.2. 兼子　直，金井数明．てんかんの遺伝子診断の可能性．精神経誌 2004;106(5):660-70.

A.3. 矢部博興，岡田元宏，古郡規雄，兼子　直．生物学的精神医学研究の現状－弘前大学医学部神経精神医学教室における取り組み－．脳と精神の医学 2004;15(2):129-35.

A.4. 古郡規雄，古郡華子，金田絢子，立石智則，兼子　直．抗痴呆薬ドネペジルの治療効果および薬物血漿濃度に与える要因について．臨床薬理の進歩2004;87-90.

A.5. 菊池淳宏，吉村哲明．自家感性湿疹の出現により気づきが促された抑うつ状態の１例．心療内科 2004;8(4):283-8.

A.6. 兼子　直，金井数明，朱　　剛，黄　欽威，兼子　直．てんかんの遺伝子．神経進歩 2004;48(6):889-98.

A.7. 兼子　直，金井数明，岡田元宏，桑原　聡，廣瀬伸一．てんかん－責任遺伝子解明の進展とその後の課題－．実験医学 2005;23(5):776-81.

B.1. 和田一丸，小山内隆生，加藤拓彦，兼子　直．妊娠・出産・授乳期におけるてんかんの治療ストラテジー．臨床精神薬理 2004;7(12):1915-20.

2005年度

A.1. 斉藤まなぶ，古郡規雄，兼子　直．統合失調症治療におけるクリニカルファルマコゲネティクス－テーラーメード医療を目指して－．日本神経精神薬理学雑誌 2005;25:129-35.

A.2. 兼子　直，金井数明，福間五龍，岡田元宏，桑原　聡，廣瀬伸一．てんかんの分子遺伝学研究の Up to date. ゲノム医学 2005;20(8):835-9.

A.3. 菊池淳宏，片貝宏，菊地隆，兼子　直．リスペリドン内用液によるせん妄の治療．最新精神医学 2005;10(5):529-32.

A.4. 岩佐博人，兼子　直．てんかんの薬物療法における新たな視点－オーダーメイド治療の可能性と課題－．神経進歩 2005;49(5):745-56.

A.5. 片貝　宏，菊池淳宏，古郡規雄，中神　卓，田崎博一，兼子　直．単科精神病院における修正型電気けいれん療法．精神科 2005;7(3):267-71.

A.6. 晝間臣治，松岡貴志，朝井　廉，佐藤泰治，篠崎直子，須藤武行，梨田忠良，石山　哲，矢部博興，兼子　直．香りの精神生理学的基盤　－事象関連電位研究を中心に．精神経誌 2005;107(8):790-801.

A.7. 兼子　直，和田一丸．メンデル型遺伝を示すてんかん症候群－チャネル病を中心に－．精神科治療学 2005;20(Suppl.):364-6.

A.8. 和田一丸，兼子　直．てんかんと妊娠．臨床精神医学 2005;34(11):1529-34.

A.9. 古郡規雄，近藤　毅，兼子　直．徐放性バルプロ酸ナトリウム製剤（セレニカ®Ｒ錠200㎎，デパケン®Ｒ錠Ｒ200）の体内薬物動態と生物学的同等性の比較検討．Pharma Medica 2005;23(12):71-5.

A.10. 矢部博興，菊池淳宏，片貝　宏．高齢者への対応で注意すべきポイント．薬局 2005; 56(3):1593-8.

B.1. 和田一丸，小山内隆生，加藤拓彦，田中　真，平川裕一，兼子　直．長期通院てんかん患者における臨床的特性－30年以上通院継続例について－．精神治療学 2005;20(8):835-9

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 兼子　直．チャネローパチー．分子精神医学 2004;4(2):162-163.

A.2. 矢部博興．Mismatch negativity の反映する感覚記憶の研究とその臨床的意義．精神神経学雑誌2004;106:1-16.

B.1. 和田一丸，兼子　直．6. 血中濃度，1) 抗てんかん薬．臨床精神医学 2004; 増刊号 :657-62.

2005年度

A.1. 兼子　直，金井数明，岡田元宏，桑原　聡，廣瀬伸一．てんかん－責任遺伝子解明の進展とその後の課題－．実験医学 2005;23(5):776-81.

A.2. 武田　哲，兼子　直．非定型抗精神病薬としての zotepine －臨床と基礎－．臨床精神薬理 2005;8(6):969-77.

A.3. 岩佐博人，兼子　直．てんかんにおける認知障害とその分子基盤－遺伝子異常との関連を含めて－．分子精神医学2005;5(3):284-90.

（3）著書

英文

2005年度

A.1. Okada M, Zhu G, Yoshida S, Hirose S, and Kaneko S. Chaptor 6: mechanisms of calcium-associated exocytosis of striatal dopamine and DOPA release, studied by in vivo microdialysis.(Eds by Misu Yoshimi & Goshima Yoshio, Taylor & Francis; New York), Neurobiology of DOPA as a Neurotransmitter, p89-99, 2005.

和文

2004年度

A.1. 兼子　直，畫間臣治．第３章　統合失調症．森　則夫，櫻庭　繁，瀧川　薫編集．生物学的アプローチによる精神科ケア．南光堂：東京；2004. p.84-103.

A.2. 岡田元宏．ニコチン性アセチルコリン受容体のアセチルコリン開口分泌機構に与える効果．セロトニン：最新の話題（第７回神経伝達物質研究会記録集），佐藤公道編，Excerpta Medica, Elesevier Japana K.K：東京2004. p.77-81，総頁85頁

A.3. 和田一丸，兼子　直．てんかん．コア・ローテイション精神科，武田雅俊・鹿島晴雄編，金芳堂；東京2004. p.276-83，総頁386頁

A.4. 兼子　直，金井数明．てんかんの仮説．精神疾患100の仮説（改訂版），石郷岡純編集，星和書店；東京2004. p.258-63，総頁391頁

A.5. 金井数明．イオンチャネル仮説．精神疾患100の仮説（改訂版），石郷岡純編集，星和書店；東京 2004. p.269-71，総頁391頁

A.6. 兼子　直，和田一丸．妊娠とてんかん．武谷雄二監修，Recent Advances in Reproductive Medicine, Excerpta Medica, Elsevier Japan K.K. 東京 2004. p.16-7，総頁23頁

2005年度

A.1. 兼子　直．てんかんの分子病態．「脳の世紀」推進会議（伊藤正男，晝馬輝夫，河西春郎，山口陽子，兼子直，酒井邦嘉）編，脳を知る・創る・守る・育む，㈱クバプロ，東京，155頁．2005:100-29.

A.2. 兼子　直．不眠を訴える患者への薬の出し方．「睡眠障害診療のコツと落とし穴」上島国利編，㈱中山書店，東京，総頁219，p38-9, 2006.1.10.

（4）その他

英文

2004年度

A.1. Saito M, Yasui-Furukori N, Mihara K, Miura J, Inoue Y, Kondo T, and Kaneko S. Fluvoxamine dose-dependent interaction with haloperidol and the effects on negative symptoms in schizophrenia. Int Clin Psychopharmacol 2004;19(3):179.

A.2. Nakagami T, Yasui-Furukori N, Saito M, Mihara K, Vries De R, Kondo T, and Kaneko S. Thioridazine inhibits risperidone metabolism: a clinically relevant drug interaction. Int Clin Psychopharmacol 2004;19(3):179.

A.3. Miura J, Shinohe Y, Morita N, Fujieda M, Yamazaki H, Kamataki T, Yasui-Furukori N, and Kaneko S. A case with major depression showing marked tremor during treatments with amoxapine, paroxetine and diltiazen. Int Clin Psychopharmacol 2004;19(3):187

A.4. Furukori H, Yasui-Furukori N, Saito M, Inoue Y, Someya T, Kaneko S, and Tateishi T. Establishment of new cloned enzyme donor immunoassays (CEDIA®)for haloperidol and bromperidol. Int Clin Psychopharmacol 2004;19(3):190.

A.5. Iwasa H, Nakatsu F, Kasagi Y, Okada M, Ohno H, and Kaneko S. The possible contribution of adaptor protein complex in the basic mechanisms of epilepsy: Experimental studies of seizure susceptibility in μ3b gene knockout mice. Epilepsia (Proceedings of the 35th Congress of The Japan Epilepsy Society Tokyo, Japan, Sept.27-28, 2001) 2004;45(Suppl.):58.

A.6. Kawata Y, Okada M, Murakami T, Zhu G, Yoshida S, Kamata A, and Kaneko S. Effects of valproate on basal monoamine releases in rat hippocampus.. Epilepsia (Proceedings of the 35th Congress of The Japan Epilepsy Society Tokyo, Japan, Sept.27-28, 2001) 2004;45(Suppl.8):68.

B.1. Yasui-Furukori N, Mihara K, Takahata T, Suzuki A, Nakagami T, Vries De R, Tateishi T, Kondo T, and Kaneko S. Effects of various factors on steady-state plasma concentrations of risperidone and 9-hydroxyrisperidone: lach of impact of MDR-1 genotypes. Int Clin Psychopharmacol 2004;19(3):178-179.

C.1. Sugawara T, Tsurubuchi Y, Agarwala LK, Ito M, Fukuma G, Mazaki-Miyazaki E, Nagafuji H, Noda M, Imoto K, Wada K, Mitsudome A, Kaneko S, Montal M, Nagata K, Hirose S, and Yamakawa K. Missence mutation of the voltage-gated Na+ channel α I and α II subunit genes (Nav1.1, Nav1.2) in patients with febrile and afebrile seizures. Epilepsia (Proceedings of the 35th Congress of The Japan Epilepsy Society Tokyo, Japan, Sept.27-28, 2001) 2004;45(Suppl.8):58-9.

C.2. Hirose S, Fukuma G, Iwata H, Matsushima N, Sugiyama H, Ito M, Kaneko S, and Mitsudome A. Electrophysiologic characterization of neuronal nicotinic acetylcholine receptor (nAChR) harboring a mutant (Ser284Leu) of nAChR α4 subunit (CHRNA4) found in autosomal dominant nocturnal frontal lobe epilepsy (ADNFLE). Epilepsia (Proceedings of the 35th Congress of The Japan Epilepsy Society Tokyo, Japan, Sept.27-28, 2001) 2004;45(Suppl.8):60.

C.3. Ito M, Nagafuji H, Fukuma G, Hirose S, Sugawara T, Mazaki E, Yamakawa K, Shirasaka Y, Okuno T, Miyajima T, Mitsudome A, Wada K, and Kaneko S. Autosomal dominant epilepsy with febrile seizure plus. Epilepsia (Proceedings of the 35th Congress of The Japan Epilepsy Society Tokyo, Japan, Sept.27-28, 2001) 2004;45(Suppl.8):61.

2005年度

A.1. Kanai K, Hirose S, Oguni H, Fukuma G, Shirasaka Y, Miyajima T, Kuwabara S, Wada K, Iwasa H, Yasumoto S, Ito M, Hattori T, Mitsudome A, and Kaneko S. Localisation of missense mutations in SCN1A affects epilepsy

phenotype severity. Neurol Asia 2005; 9(Suppl.1): 144.

A.2. Ishii A, Fukuma G, Yasukochi M, Uehara A, Miyajima T, Hamachi A, Yonetani M, Kaneko S, Mitsudome A, and Hirose S. Mutations of KCNQ2 and KCNQ3 identified in benign neonatal convulsions cause channel dysfunction despite proper expression on the cell membrane. Neurol Asia 2005; 9(Suppl.1): 146

A.3. Kanaumi T, Fukuma G, Ueno S, Ishii A, Haga Y, Hamachi A, Yonetani M, Itoh M, Takashima S, Kaneko S, Mitsudome A, and Hirose S. Possible pathogenesis of severe myoclonic epilepsy in infancy: A novel nonsense mutation of GABRG2 leading to aggregation of GABA receptors in neurons. Neurol Asia 2005; 9(Suppl.1): 151.

A.4. Zhu G, Okada M, Mori F, Nakatsu F, Yoshida S, Wakabayashi K, Ohno H, and Kaneko S. Epilepaia 2005; 46(Suppl.2): 2.

A.5. Ishii A, Fukuma G, Uehara A, Miyajima T, Makita Y, Hamachi A, Yasukochi M, Inoue T, Okada M, Kaneko S, Mitsudome A, and Hirose S. A novel de novo KCNQ2 mutation in a sporadic case of benign neomatal convulsions. Epilepaia 2005; 46(Suppl.2): 3-4.

A.6. Okada M, Zhu G, Yoshida S, Mori F, Wakabayashi K, and Kaneko S. Effects of carbamazepine on mechanism of Ca^{2+}-induced Ca^{2+} releasing system-associated exocytosis. Epilepaia 2005; 46(Suppl.2): 15-6.

A.7. Zhu G, Okada M, Nakatsu F, Mori F, Yoshida S, Wakabayashi K, Ohno H, and Kaneko S. Impairment of monoaminergic transmission in μ 3B knockout mice. Epilepsia 2005; 46(Suppl.3): 11-2.

A.8. Suzuki T, Delgado-Escueta V A, Aguan K, Shi J, Hara Y, Nishida M, Numata T, Takeuchi T, Bai D, Inoue Y, Osawa M, Kaneko S, Oguni H, Mori Y, and Yamakawa K. Identification of the gene responsible for juvenile myoclonic epilepsy. Epilepsia 2005; 46(Suppl.3): 15-6.

和文

2004年度

A.1. 三浦　淳，兼子　直．自殺予防における薬物療法の役割．平成15年度厚生労働科学研究費補助金（がん予防等健康科学総合研究事業）「青森県市町村における自殺予防システムの構築」活動成果報告書，2004, 45-49.

A.2. 栗林理人，和田一丸，兼子　直，岡田元宏．てんかん遺伝子研究の治療への展開：変異蛋白機能補正とsynprint 仮説を応用した、新たな抗てんかん薬の開発．平成13年度～平成15年度科学研究費補助金（基盤研究 (C)(2) 一般）研究成果報告書（課題番号13670979，研究代表者：栗林理人），総頁数207，2004.

A.3. 兼子　直 . てんかんの病態解明への挑戦．International Epilepsy News 2004;34.

A.4. 兼子　直．熱性けいれん、常染色体優性てんかん熱性けいれんプラス、乳児重症ミオクロニーてんかんの遺伝子診断の試み－ SCN 1Aミスセンス変異の局在に関する解析－．厚生労働省精神・神経疾患研究委託費 (13指-1)「てんかんの診断・治療ガイドライン作成とその実証的研究」，平成15年度研究報告書，主任研究者：藤原建樹，2004, 125-131.

A.5. 岡田元宏，朱　剛，吉田淑子，森文秋，中津史，兼松隆，平田雅人，若林孝一，大野博司，兼子　直．精神薬療基金研究年報 2004;36:74-82.

A.6. 兼子　直．巻頭言　弘前大学の独立行政法人化と地域医療．弘前市医師会報 2004;39(3):1-2.

A.7. 岡田元宏，吉田淑子，朱　剛，兼子　直．マイクロダイアリーシスを用いた神経伝達物質開口分泌機構の解明．日本神経精神薬理学雑誌 2004;24:165-70.

A.8. 兼子　直，岡田元宏，朱　剛，金井数明，福間五龍，廣瀬伸一，小島俊男，伊藤正利，小国弘量．熱性けいれん，熱性けいれんプラス，及び乳児重症ミオクロニーてんかんの遺伝子解析と遺伝子診断の設定．てんかん治療研究振興財団研究年報 2004;16:91-100.

A.9. 兼子　直．医局制度の廃止と医師派遣．病院 2004;63(12):984-5.

A.10. 兼子　直．Q＆A　Q：冬になると落ち込みがひどくなる　A：光療法は自宅でも行えます。精神科医に相談してみましょう．ジャストヘルス2005;2005年2月号 :27.

B.1. 古郡規雄，高畑武功，中神　卓，兼子　直，立石智則 . CYP2C19 遺伝子型別にみたオメプラゾールの代謝に与えるフルボキサミンの影響 . 臨床薬理　2004;35(1):223S

2005年度

A.1. 兼子　直．精神科薬物治療：個別化治療を目指して．九州精神医学（第71回鹿児島県精神科医部会・研修会（平成16年度前期））2006;50(3-4):195.

A.2. 兼子　直．抗精神病薬の臨床効果に及ぼす血液脳関門遺伝子多型の影響に関する研究．平成16年度 2005; 12-3.

A.3. 岡田元宏，朱　剛，上野伸哉，吉田淑子，福間五龍，廣瀬伸一，兼子　直．ヒトてんかんと同じ遺伝子異常をもつ組換え動物の作出．精神薬療研究年報 2005;37:160-4.

A.4. 兼子　直．人格障害．Neurosciences 2004, 弘前神経科学研究所紀要，平成16年度，（財）愛成会，弘前神経科学研究所．2005,60-6.

A.5. 兼子　直．精神科薬物治療における反応性をどう予測するか．Neurosciences 2004, 弘前神経科学研究所紀要，平成16年度，（財）愛成会，弘前神経科学研究所．2005,101-10.

A.6. 兼子　直．先進事例に見る医局改革・医局廃止後の現状とその質の確保の観点から．医療白書 2005; 2005年度版 : 22-6.

A.7. 兼子　直．診断・治療のガイドライン案提示（第39回日本てんかん学会）．Medicine Tribune 2005; 38(44):10.

A.8. 兼子　直．てんかんの分子病態解析の現状．第1回日本てんかん学会近畿地方会抄録集 2005; 6.

A.9. 古郡規雄，立石智則，斉藤まなぶ，中神　卓，金田絢子，古郡華子，兼子　直．抗精神病薬ブロムペリドールの臨床効果に及ぼす血液脳関門遺伝子 MDR1 多型の影響．精神薬療研究年報 2005; 37;93-9.

A.10. 岩島久美子，金田絢子，古郡規雄，斉藤まなぶ，中神　卓，兼子　直．日本人における CYP2D6 遺伝子型と TCI を用いた人格特性との関係について．臨床薬理 2005; 36(Suppl.): S181.

A.11. 斉藤まなぶ，古郡規雄，中神　卓，兼子　直．Paroxetine の薬物動態に与える抗真菌薬 terbinafine と itraconazole の影響について．臨床薬理 2005; 36(Suppl.): S191.

A.12. 中神　卓，古郡規雄，新岡丈典，斉藤まなぶ，菅原和信，兼子　直．バルプロ酸徐放製剤（デパケンＲとセレニカＲ）の薬物動態比較．臨床薬理 2005; 36(Suppl.): S245.

A.13. 古郡規雄，兼子　直．パロキセチン追加投与により中毒を呈した 1 症例．臨床薬理 2005; 36(Suppl.): S273.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neurosci Lett	2.021	4	8.084
J Pharmacol Sci	2.117	1	2.117
Clin EEG Neurosci	0.779	1	0.779
Neuropharmacol	3.854	1	3.854
Neurology	5.212	1	5.212
Epilepsia	3.549	1	3.549
NeuroReport	2.503	2	5.006
J Clin Psychopharmacol	4.013	1	4.013
Brit J Clin Pharmacol	2.213	3	6.639
J Clin Pharmacol	4.013	1	4.013
Ther Drug Monit	2.372	2	4.744
Epilepsia	4	1	3.549
J Pharma Biomed Anal	1.177	1	1.177
Nature Genet	26.494	1	26.494
J Cell Biol	12.023	1	12.023
Total		22	91.253

2005 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clin Pharmacol Ther	6.825	1	6.825
Neuroscien	3.456	1	3.456
Epilepsy Res	2.897	2	5.794
J Clin Psychopharmacol	4.419	1	4.419
Lancet	21.713	1	21.713
Eur J Pharmacol	2.432	1	2.432
Br J Clin Pharmacol	2.546	1	2.546
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	2.149	1	2.149
Neurosci Lett	2.019	1	2.019
J Pharm Biomed Anal	1.889	1	1.889
Epilepsia	3.329	1	3.329
Epilepsy Res	2.897	1	2.897
Adv Neurol	1.054	1	1.054
Am J Hum Genet	12.34	1	12.34
Biochem Biophys Res Commun	2.904	1	2.904
Neuropathology	1.191	1	1.191
Total		17	76.957

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004 年度	2005 年度
日本医師会雑誌	1	
精神経誌	2	1
脳と精神の医学	1	
臨床薬理の進歩	1	
心療内科	1	
神経進歩	1	1
実験医学	1	1

臨床精神薬理	1	1
分子精神医学	1	1
臨床精神医学	1	1
日本神経精神薬理学雑誌		1
ゲノム医学		1
最新精神医学		1
精神科		1
Pharma Medica		1
精神治療学		2
薬局		1
計	11	14

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	1

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	6	1

3．その他（A，B のみ）

英文

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neuro Asia	0	3	0
Epilepsia	3.329	6	19.974
Total		9	19.974

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
* 平成15年度厚生労働省科学研究費補助金（がん予防等健康科学総合研究事業）「青森県市町村における自殺予防システムの構築」活動成果報告書	1	
* 平成13年度～平成15年度科学研究費補助金（基盤研究 (C) (2) 一般）「てんかん遺伝子研究の治療への展開：変異蛋白機能補正と synprint 仮説を応用した、新たな抗てんかん薬の開発」研究成果報告書	1	
* International Epilepsy News	1	
* 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費 (13指 -1)「てんかんの診断・治療ガイドライン作成とその実証的研究」平成15年度研究報告書	1	
* 精神薬療基金研究年報	1	2
* 弘前医師会報	1	
* 日本神経精神薬理学雑誌	1	
* てんかん治療研究振興財団研究年報	1	
* 病院	1	
* ジャストヘルス2005	1	
* 臨床薬理	1	4
九州医学		1
平成16年度報告書		1
弘前神経科学研究所紀要		2
医療白書 2005		1
Medical Tribune		1
第1回日本てんかん学会近畿地方会抄録集		1
計	11	13

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

B.1. Yabe H: The temporal integration mechanism in auditory sensory memory. In; Auditory evoked potential. The 8th International Evoked Potentials Symposium, Fukuoka, Japan, 2004.

C.1. Matsuoka T, Yabe H, Shinozaki N, Sato Y, Hiruma T, Sutoh T, and Kaneko S: The development of memory trace depending on the number of the standard stimuli. The 8th International Evoked Potentials Symposium, Fukuoka, Japan, 2004.

2005年度

B.1. 古郡規雄：Clinical pharmacogenetics in the treatment of schizophrenia 第12回環太平洋薬理遺伝学会．2005年4月17-18日，京都.

C.1. Effects of clarithromycin in onlansoprazole pharmacokinetics between CYP2C19 genotypes. Yasui-Furukori N, Saito M, Uno T, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T. 第12回環太平洋薬理遺伝学会．2005年4月17-18日，京都.

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 兼子　直：妊娠中のてんかん治療－抗てんかん薬と再奇性－．第45回日本神経学会総会ランチョンセミナー．東京都．2004.5.14

A.2. 矢部博興：教育講演：Mismatch negativity の発見そして発展．第34回日本臨床神経生理学会学術大会，東京，2004.11.17-19.

B.1. 兼子　直，古郡規雄：精神科領域におけるクリニカルファルマコゲネティクス．第34回日本神経精神薬理学会・第26回日本生物学的精神医学会合同シンポジウム（薬理遺伝学の新展開　テーラーメード医療を目指して）．東京都．2004.7.21-23

B.2. 兼子　直：てんかんの分子病態．第12回脳の世紀シンポジウム．東京都．2004.9.15

B.3. 兼子　直：てんかんを持つ妊娠可能婦人の管理ガイドライン．第38回日本てんかん学会ワークショップ（てんかんの診断と治療ガイドライン）．静岡市．2004.9-30-10.1

B.4. 栗林理人：児童期の精神療法．第45回日本児童青年精神医学会総会教育講演．名古屋市．2004.11.03-04.

C.　29件

2005年度

A.1. 兼子　直：精神科領域に於ける個別化治療の可能性．第48回日本神経化学会（福岡）大会．福岡市．2005．

A.2. 兼子　直：てんかんの分子遺伝学．第13回日本精神・行動遺伝学会．福岡市．2005．

A.3. 兼子　直：てんかんと妊娠．第39回日本てんかん学会．旭川市．2005．

B.1. 古郡規雄，兼子　直：精神神経疾患の分子遺伝学研究．第48回日本神経化学会（福岡）大会．福岡市．2005．

B.2. 朱　　剛，岡田元宏，吉田淑子，森　文秋，若林孝一，兼子　直：Effects of CICR on interleukin-1β-associated adenosine releases in mouse hippocampus. 第48回日本神経化学会（福岡）大会．福岡市．2005．

B.3. 古郡規雄：抗精神病薬のファルマコゲネティクス．第27回日本生物学的精神医学会・第35回日本精神神経薬理学会合同年会．大阪．2005年7月6-8日．

B.4. 古郡規雄：Clinical pharmacogenetics in the treatment of schizophrenia. 第48回日本神経化学会．福岡．2005年9月28-30日．

C.　25件

Ⅲ．学術賞

2005年度

○ 日本臨床精神神経薬理学会学術賞（Paul Janssen 賞大賞）：統合失調症分野
○ 日本臨床精神神経薬理学会学術賞（Paul Janssen 賞大賞）：薬理遺伝学分野
○ 弘前大学医学部学術賞・特別賞

Ⅳ．共同研究

2004年度

○てんかん及び熱性けいれんの遺伝（子）共同研究主催（国際）
○（財）愛成会：中枢神経系機能性疾患の分子病態の解析
○シバタ医理科：中枢神経系機能性疾患の分子病態の解析

○てんかん及び熱性けいれんの遺伝（子）共同研究主催（国際）
○フィンランド・ヘルシンキ大学・心理学教室
(Prof. Risto Näätänen 主催)
○ハンガリーアカデミー・心理学研究室
(Prof. Istra Winkler 主催)
○スペイン（バルセロナ大学）との共同研究2005年度

2005年度

○てんかん及び熱性けいれんの遺伝（子）共同研究主催（国際）
○中枢神経系機能性疾患の分子病態の解析（(財）法人　愛成会）
○中枢神経系機能性疾患の分子病態の解析（シバタ医理科）
○中枢神経系機能性疾患の分子病態の解析（小野薬品工業）
○フィンランド・ヘルシンキ大学・心理学教室
(Prof. Risto Näätänen 主催)
○ハンガリーアカデミー・心理学研究室
(Prof. Istra Winkler 主催)

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

○基盤研究（Ｓ）（平成16－20年度）
てんかんの分子病態の解析：受容体・イオンチャネルの遺伝子多型に基づく個別化治療の確立，41,600千円　（代表：兼子　直）
○特別研究員奨励費：リバース及びファンショナルゲノミクスによるてんかん分子病態の解析，1,200千円（代表：兼子　直）
○基盤研究（B）一般（平成15－18年度）
統合失調症患者における聴覚性感覚記憶内の時間圧縮現象の研究．7,000千円（代表：矢部博興）
○萌芽研究：リバースゲノミクス的中枢神経系機能性疾患感受性遺伝子検索法の開発．平成15～17年度．（代表：岡田元宏）
○平成14年度高度先進医療開発経費（平成14-16年度）Ｂ研究
精神分裂病に対する神経伝達物質受容体遺伝しマーカーを用いたオーダーメイド治療の確立，13,000千円（代表：兼子　直）

他研究単位との研究分担者として

○基盤研究 (B) (1)：ヒトてんかんと同じ遺伝子異常を持つモデル動物の作成とその神経薬理学的病態解明Ⅱ，800千円（分担：兼子直，岡田元宏）
○基盤研究（C）：ニューロンネットワーク情報伝達の基本的機能の解析－疾患モデル動物の機能変異解析法の開発－．2,000

2005年度

研究代表者として

○基盤研究（Ｓ）（平成16－20年度）
てんかんの分子病態の解析：受容体・イオンチャネルの遺伝子多型に基づく個別化治療の確立，41,600千円
○特定領域研究（平成17年度）
機能性精神疾患の two hit model 仮説の構築，4,600千円
○基盤研究 (B) (2) 一般
統合失調症患者における聴覚性感覚記憶内の時間圧縮現象の研究，800千円
○基盤研究 (C) (1) 一般
聴覚性感覚記憶機構の学際的研究，1,277,230円
○萌芽研究，一般
感覚記憶内の時間圧縮に基づく聴覚情景地図の作成，1,300千円
○萌芽研究
リバースゲノミクス的中枢神経系機能性疾患感受性遺伝子検索法の開発，800千円

他研究単位との研究分担者として

○基盤研究 (B) (1)：ヒトてんかんと同じ遺伝子異常を持つモデル動物の作成とその神経薬理学的病態解明Ⅱ，800千円

(2) その他の省庁からの研究費

2004年度

研究代表者として

○独立行政法人日本学術振興会：医歯薬学（内科系）分野に関する学術動向の調査・研究，3,500千円

他研究単位との研究分担者として

○厚生労働省精神・神経疾患研究委託費：てんかんに対する内科・外科的治療に関する総合的研究，1,100千円

○平成16年度厚生労働科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業」：ゲノム医学を活用した統合失調症および気分障害に対する気分障害に対する個別化治療の開発，1,800千円

2005年度

研究代表者として

○独立行政法人日本学術振興会：医歯薬学（内科系）分野に関する学術動向の調査・研究，3,500千円

他研究単位との研究分担者として

○厚生労働省精神・神経疾患研究委託費：てんかんに対する内科・外科的治療に関する総合的研究，1,100千円

○平成17年度厚生労働科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業」：ゲノム医学を活用した統合失調症および気分障害に対する気分障害に対する個別化治療の開発，4,500千円

(3) 学内の研究助成

2004年度

他研究単位との研究分担者として

○平成16年度弘前大学学長重点研究：認知障害の統合的解析と認知再生科学の創出，平成16年度（代表：蔵田潔）

2005年度

研究代表者として

○医学科国際交流基金：遺伝子多型を用いた機能性神経精神疾患，1,200万円（主任）

他研究単位との研究分担者として

○弘前大学学長指定重点研究：遺伝子多型に基づく個別化治療開発－機能性精神疾患の治療－．510万円（主任）

(4) 民間の研究助成

2005年度

研究代表者として

○平成17年度臨床薬理振興財団：統合失調症治療における遺伝子多型の役割について．200万円（主任）

○平成17年度精神薬療基金：統合失調症における長期予後とドパミン関連遺伝子の関係について．50万円（主任）

○平成17年度統合失調症研究会振興財団：抗精神病薬の治療反応性と血液脳関門遺伝多型の関係について．50万円（主任）

○平成17年度学術国際振興基金助成：人格を規定する遺伝子の同定．100万円（主任）

○先進医薬研究振興財団：ヒト機能性神経精神疾患の遺伝子治療法開発に拘わる基礎研究，1,000千円（代表）

○てんかん治療研究振興財団：ヒトてんかん遺伝子を導入したてんかんモデル動物の開発（てんかんの分子病態の解析），1,600千円（代表）

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2004年度

○パトリシア・ミッチー
教授・オーストラリア
2004.8.27 ～ 9.6

○ウィリアム・バッド
オーストラリア
2004.8.27 ～ 9.5

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2004年度

○黄　欽威
国立成功大学医療センター神経学講座・神経内科医，台湾，
2004.6.1 ～ 2004.12.15

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2004年度

○晝間臣治（企画調査会議出席，ヘルシンキ，2005.12.17 ～ 12.23）
○松岡貴志（企画調査会議出席，ブダペスト，2005.12.18 ～ 12.23）

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

○第58回東北精神神経学会．弘前市．2004.9.26

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

21. 小児科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

小児科学の発展に寄与する臨床研究および分子生物学を基盤とする基礎研究を行い，実際の臨床に研究成果を還元することを大きな目標に設定したが，約60～90％の達成度であった。

理念：

先進的な基礎研究および臨床研究を行い，小児科学の発展のために寄与することである。

これから２年間の目標：

1．血球分化の仕組みを分子レベルで明らかにするために，BACH 転写因子について解析を進める。
2．小児白血病の発症機序の理解を深めるために，Down 症候群の白血病発症機構の解析を進める。
3．小児の血液疾患の病因を理解するために，原因の候補となる遺伝子の変異の有無について解析を進める。
4．血液腫瘍性性疾患に関する多施設共同の治療研究を行う。
5．小児期心疾患における心筋傷害マーカー，神経体液因子の動態を検討し，心不全，心筋疾患，冠動脈疾患，不整脈症例における重症度判定，予後規定，治療効果判定への有用性を評価する。
6．胎児心疾患の診断と治療に関する技術向上。心疾患の出生前診断をより確実に行うことで出生後の治療成績や予後の改善に寄与できることが期待できる。
7．小児期発症難治性腎疾患へのより効果的かつ副作用の少ない免疫抑制療法の臨床的研究を推進する。
8．難治性ネフローゼ症候群の病態に関わる細胞性免疫・免疫学的自己寛容の関与を尿中沈査細胞での FOXP3の mRNA 発現から検討する。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　7，大学院学生　5，研究生　2			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	伊藤　悦朗	1年
	助教授	専　任	高橋　　徹	1年
	講　師	専　任	田中　　完	1年
	講　師	専　任	土岐　　力	1年
	助　手	専　任	藤田　浩史	1年
	助　手	専　任	高橋　良博	1年
	助　手	専　任	遠野千佳子	0.5年
	助　手	専　任	佐々木伸也	1年
研究課題	1．Down 症候群に伴う急性巨核球性白血病の発症機構 2．血球分化の分子機構の解析 -BACH 転写因子を中心に 3．小児白血病及び小児悪性固形腫瘍の多施設共同の治療研究 4．小児血液疾患に対する造血幹細胞移植の臨床研究 5．小児期心疾患における心筋傷害マーカーの解析 6．小児期心疾患に対するカテーテル治療の有効性と安全性に関する検討 7．川崎病心血管合併症に対する臨床的検討 8．免疫学的自己寛容からみた微小変化型ネフローゼ症候群発症における細胞性免疫異常の研究 9．小児期発症難治性腎疾患に対する新しい視点からの免疫抑制療法の臨床研究 10．小児難治性てんかんの治療			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　0，大学院学生　0，研究生　3			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	伊藤　悦朗	1年
	助教授	専　任	高橋　　徹	1年
	講　師	専　任	田中　　完	1年
	講　師	専　任	土岐　　力	1年
	助　手	専　任	藤田　浩史	1年
	助　手	専　任	照井　君典	6ヶ月
	助　手	専　任	高橋　良博	1年
	助　手	専　任	遠野千佳子	1年
	助　手	専　任	佐々木伸也	6ヶ月
	助　手	専　任	大谷　勝記	6ヶ月
研究課題	1．Down 症候群に伴う一過性骨髄増殖性疾患と急性巨核球性白血病の発症機構 2．遺伝子発現解析を用いた小児急性リンパ性白血病の新たな予後因子の研究 3．小児白血病の多施設共同の治療研究 4．小児血液疾患の原因遺伝子の分子生物学的解析 5．小児心疾患における心筋傷害マーカーの解析 6．川崎病冠動脈障害の診断と管理・治療 7．心疾患の出生前診断 8．免疫学的自己寛容，特に調節性 T cell からみたリウマチ性疾患，ループス腎炎，ネフローゼ症候群の発症機転に関する研究. 9．小児期発症難治性腎疾患，リウマチ性疾患に対する新しい視点からの免疫抑制療法の臨床研究. 10．小児難治性てんかんの治療研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Harigae H, Xu G, Sugawara T, Ishikawa I, Toki T, and Ito E: The *GATA-1* mutation in an adult patient with acute megakaryoblastic leukemia not accompanying Down's syndrome. Blood. 2004;103:3242-3243.

A.2. Kitazawa J, Kaizuka M, Kasai M, Noda Y, Takahashi Y, Terui K, Narumi S, Hakamada K, Sasaki M, Kamata Y, Endo T, Nomachi S, Saikai T, Mizoguchi Y, Kinebuchi M, Ito E, Matsuura A: Hemolytic crisis with fulminant hepatic failure in Wilson disease without consanguinity. Pediatr Int. 2004 Dec;46(6):726-729.

A.3. Tanaka H, Tsugawa K, Nakahata T, Kudo M, Onuma S, Kimura S, Ito E: Mizoribine pulse therapy for a pediatric patient with steroid-resistant nephrotic syndrome. Tohoku J Exp Med. 2005 Jan;205(1):87-91.

A.4. Tanaka H, Tsugawa K, Tsuruga K, Suzuki K, Nakahata T, Ito E, Waga S: Mizoribine for the treatment of lupus nephritis in children and adolescents. Clin Nephrol. 2004 Dec;62(6):412-417.

A.5. Tsugawa K, Tanaka H, Nakahata T, Ito E: Effective therapy of a child case of refractory nephrotic syndrome with tacrolimus. Tohoku J Exp Med. 2004 Nov;204(3):237-41.

A.6. Tanaka H, Suzuki K, Nakahata T, Tsugawa K, Konno Y, Tsuruga K, Ito E, Waga S: Combined therapy of enalapril and losartan attenuates histologic progression in immunoglobulin A nephropathy. Pediatr Int. 2004 Oct;46(5):576-579.

A.7. Uyeda T, Takahashi T, Eto S, Sato T, Xu G, Kanezaki R, Toki T, Yonesaka S, Ito E: Three novel mutations of the fibrillin-1 gene and ten single nucleotide polymorphisms of the fibrillin-3 gene in Marfan syndrome patients. J Hum Genet. 2004;49(8):404-7.

A.8. Tanaka H, Nakahata T, Ito E: Single-dose daily administration of cyclosporin A for relapsing nephrotic syndrome. Pediatr Nephrol. 2004 Sep;19(9):1055-8.

A.9. Suzuki K, Tanaka H, Ito E, Waga S: Therapy-related membranous nephropathy in juvenile idiopathic arthritis with Turner syndrome. Pediatr Int. 2004 Jun;46(3):377-9.

2005年度

A.1. Tono C, Xu G, Toki T, Takahashi Y, Sasaki S, Terui K, and Ito E: JAK2 Val617Phe activating tyrosine kinase mutation in juvenile myelomonocytic leukemia. Leukemia, 2005;19(10):1843-4.

A.2. Toki T, Katsuoka F, Kanezaki R, Xu G, Kurotaki H, Sun J, Kamio T, Watanabe S, Tandai S, Terui K, Yagihashi S, Komatsu N, Igarashi K, Yamamoto M, and Ito E Transgenic expression of Bach1 transcription factor results in megakaryocytic impairment. Blood 2005;105:3100-8.

A.3. Nakahata T, Tanaka H, Tsugawa K, Kudo M, Suzuki K, Ito E, Waga S. C1-C2 point monitoring of low-dose cyclosporin a given as a single daily dose in children with steroid-dependent relapsing nephrotic syndrome. Clin Nephrol. 2005;64:258-63.

A.4. Tanaka H, Tsugawa K, Kudo M, Sugimoto K, Kobayashi I, Ito E: Low-dose cyclosporine A in a patient with X-linked immune dysregulation, polyendocrinopathy and enteropathy. Eur J Pediatr. 2005;164:779-80.

A.5. Tsugawa K, Tanaka H, Kudo M, Nakahata T, Ito E: Renal artery thrombosis in a pediatric case of systemic lupus erythematosus without antiphospholipid antibodies. Pediatr Nephrol. 2005;20:1648-50.

A.6. Tanaka H, Tsugawa K, Nakahata T, Kudo M, Suzuki K, Ito E: Implication of the peak serum level of mizoribine for control of the serum anti-dsDNA antibody titer in patients with lupus nephritis. Clin Nephrol. 2005;63:417-22.

A.7. Takahashi T, Tandai S, Toki T, Sato T, Eto S, Sato A, Ueda T, Sato S, Ichinose K, Ito E, Yonesaka S: KCNJ2 mutation in intractable ventricular arrhythmia with Andersen's syndrome. Pediatr Int. 2005;47:220-3.

B.1. Rainis L, Toki T, Pimanda JE, Rosenthal E, Machol K, Strehl S, Göttgens B, Ito E and Izraeli S: The proto-oncogene ERG in megakaryoblastic leukemias. Cancer Res., 2005;65:7596-7602.

B.2. Kawakami T, Mitsui T, Kanai M, Shirahata E, Sendo D, Kanno M, Noro M, Endoh M, Hama A, Tono C, Ito E, Tsuchiya S, Igarashi Y, Abukawa D, Hayasaka K: Genetic analysis of Shwachman-Diamond syndrome: phenotypic heterogeneity in patients carrying identical SBDS mutations. Tohoku J Exp Med. 2005;206:253-9.

B.3. Tomita H, Osanai T, Toki T, Maeda N, Murakami R, Chen Z, Yamada H, Osawa H, Yasujima M, Okumura K: Roxithromycin is an inhibitor of human coronary artery smooth muscle cells proliferation : a potential ability to prevent cornary heart disease. Atherosclerosis. 2005;182(1):87-95.

B.4. Tomita H, Osanai T, Toki T, Sasaki S, Maeda N, Murakami R. Magota K, Yasujima M, Okumura K: Troglitazone and 15-deoxy-delta(12,14)-prostaglandin J2 inhibit shear-induced coupling factor 6 release in endothelial cells. Cardiovasc Res. 2005;67(1):134-141.

和文

2004年度

A.1. 石崎典子，金崎里香，土岐力，伊藤悦朗：21q11−12領域からの一過性骨髄異常増殖症の原因遺伝子単離の試み．弘前医学　2004;55:83-94.

A.2. 伊藤悦朗，土岐　力：【造血器腫瘍における転写因子研究の進歩】GATA転写因子と白血病血液・腫瘍科 2004;49(1):42-49.

2005年度

A.1. 土岐　力，伊藤悦朗：赤血球浸透圧抵抗試験，自己溶血試験．小児内科37　増刊号；72−75．2005．

A.2. 遠野千佳子，伊藤悦朗:赤血球，ヘモグロビン，ヘマトクリット，赤血球恒数，　赤血球の形態，網赤血球．小児内科　37　増刊号；65−68，2005．

A.3. 遠野千佳子，伊藤悦朗：特集　小児によく使う薬，重要な薬　造血薬．小児科臨床　57:801-811,2005.

A.4. 伊藤悦朗．遺伝子プロファイリングを用いた急性巨核球性白血病の異なる分子表現型の同定．分子細胞治療　5;384-385,2006.

A.5. 工藤雅庸，小沼俊一，神尾卓哉，遠藤泰史，田中　完，高橋義博：免疫療法施行下の各種腎疾患児に対するインフルエンザワクチンの有効性について．日本小児腎臓病学会雑誌　2005;18:21-25.

A.6. 高橋良博，伊藤悦朗：貧血を疑う時の検査の進め方，「小児内科」「小児外科」編集委員会編，小児内科増刊号，60−64，東京医学社，東京，2005．

A.7. 高橋良博：赤血球酵素異常症，ヘモグロビン異常症，自己免疫性溶血性貧血，加藤忠明監修，小児慢性疾患診療マニュアル，437−445，診断と治療社，東京，2006．

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 伊藤悦朗：GATA−1変異と白血病．Hematological Malignancy Review　2004;29:1-4.

A.2. 伊藤悦朗，土岐　力：GATA転写因子と白血病．血液・腫瘍科　2004;49:42-49.

A.3. 伊藤悦朗，土岐　力：赤血球造血と疾患．日本小児科学会雑誌　2004;109:605-613.

2005年度

A.1. 田中　完：小児急性腎不全への対処，治療．腎不全診療のコツと落とし穴，浅野　泰編，pp.174−175，中山書店，東京，2005.

A.2. 伊藤悦朗，土岐　力：赤血球造血と疾患（総説）．日本小児科学会雑誌109巻5号605−613．

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 佐々木伸也，伊藤悦朗：造血薬，小児の臨床薬理学，小児科臨床　増刊号　2004;67:389-95.

2005年度

A.1. 土岐　力，伊藤悦朗【そこが知りたい小児臨床検査のポイント】 血液一般検査　赤血球検査　赤血球浸透圧抵抗試験，自己溶血試験　小児内科2005，37:72-74.

A.2. 高橋良博，伊藤悦朗：貧血を疑う時の検査の進め方，「小児内科」「小児外科」編集委員会編，小児内科増刊号，60−64，東京医学社，東京，2005.

A.3. 高橋良博：赤血球酵素異常症，ヘモグロビン異常症，自己免疫性溶血性貧血，加藤忠明監修，小児慢性疾患診療マニュアル，437−445，診断と治療社，東京，2006.

（4）その他

英文

2004年度

A.1. Tanaka H, Nakahata T, Tsugawa K, Tsuruga K, Yumura W, Ito E: Mizoribine pulse therapy for patients with flares of lupus nephritis: a one-year observation. Clin Nephrol 2004;62:165-166.

A.2. Suzuki K, Tanaka H, Ito E, Waga S: Therapy-related membranous nephropathy in juvenile idiopathic arthritis with Turner syndrome. Pediatr Int 2004;46:377-379.

A.3. Tsugawa K, Nakahata T, Tanaka H: Severe tubulointerstitial nephritis in a boy with refractory nephrotic syndrome. Pediatr Nephrol 2004;19:1431-1432.

2005年度

A.1. Kudo M, Tsugawa K, Tanaka H: Single-dose-daily administration of cyclosporin A for refractory nephrotic syndrome. Pediatr Nephrol 2005;20:1021-1022.

A.2. Tsugawa K, Tanaka H, Kudo M, Nakahata T, Ito E: Renal artery thrombosis in a pediatric case of systemic lupus erythematosus without antiphospholipid antibodies. Pediatr Nephrol 2005;20:1648-1650.

A.3. Suzuki K, Tanaka H, Tsugawa K, Ito E: Effective treatment with cyclosporine A of a child with systemic lupus erythematosus resistant to cyclophosphamide pulse therapy. Tohoku J Exp Med 2006;208:355-359.

A.4. Tanaka H, Tsugawa K, Nakahata T, Suzuki K, Ito E: Leukocytapheresis for the treatment of refractory systemic-onset juvenile idiopathic arthritis. Clin Rheumatol 2006; DOI:10.1007/s10067-006-0256-8.

A.5. Kitazawa J, Tono C, Terui K, Kinukawa N, Oda M, Isoyama K, Ishii E, Ito E: the Japan Infant Leukemia Study Group. Successful outcome of mismatched hematopoietic stem cell transplantation from a related donor in an infant with acute lymphoblastic leukemia and 9;11 translocation: Case report and review of the literature. Int J Hematol 2005;81:428-32.

B.1. Suzuki K, Hirano K, Onodera N, Takahashi T, Tanaka H: Acute IgA nephropathy associated with *mycoplasma pneumoniae* infection. Pediatr Int 2005;47:583-585.

和文

2004年度

A.1. 敦賀和志，嶋田　淳，鈴木康一，中畑　徹，田中　完，伊藤悦朗：白血球除去療法を施行したTurner症候群に随伴する難治性若年性関節炎（juvenile arthritis: JA）の1女子例．小児内科　2004;36:511-514.

A.2. 津川浩二，田中　完，鈴木康一，中畑　徹，伊藤悦朗：女児にもかかわらず若年で典型的基底膜病変を認めたAlport症候群の1例．腎と透析　2004;57:251-253.

A.3. 田中　完，湯村和子，五十嵐隆：ループス腎炎の治療戦略を考える―成人・小児―．Nephrology Frontier 2004;3:79-87.

2005年度

A.1. 工藤雅庸，田中　完，津川浩二，中畑　徹，鈴木康一，伊藤悦朗：急速進行性腎炎症候群を呈した低形成腎/融合腎の1例．日本小児科学会雑誌　2006;110:46-51.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Blood	9.782	1	9.7
Pediatr Int	0.58	3	1.74
Tohoku J Exp Med	0.7	2	1.4
Clin Nephrol	1.316	1	1.316
J Hum Genet	2.316	1	2.316
Pediatr Nephrol	1.44	1	1.44
Total		9	17.994

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Leukemia	6.6	1	6.6
Blood	10.131	1	10.131
Clin Nephrol	1.54	2	3.08
Eur J Pediatr	2.244	1	2.244
Pediatr Nephrol	1.62	1	1.62
Pediatr Int	0.666	1	0.666
Cancer Res	7.616	1	7.616
Atherosclerosis	3.777	1	3.777
Cardiovasc Res	5.283	1	5.283
Tohoku J Exp Med	0.927	1	0.927
Total		11	41.944

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
弘前医学	1	
血液・腫瘍科	2	
Hematological Malignancy Review	1	
日本小児科学会雑誌	1	
計	5	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	1	0

3．その他（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clin Nephrol	1.316	1	1.316
Pediatr Int	0.58	1	0.58
Pediatr Nephrol	1.44	1	1.44
Total		3	3.336

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pediatr Nephrol	1.62	2	3.24
Tohoku J Exp Med	0.927	1	0.927
Clin Rheumatol	1.261	0	0
Int J Hematol	1.67	0	0
Pediatr Int	0.666	1	0.666
Total		4	4.833

和文

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
小児内科	1	
腎と透析	1	
Nephrology Frontier	1	
日本小児科学会雑誌		1
計	3	1

Ⅱ．学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2004年度

A.1. Ito E and Toki T: Transgenic expression of Bach1 transcription factor results in megakaryocytic impairment. Expert Workshop on the Biology of Chromosome 21 Genes: Towards the Gene-Phenotype Correlations in Down Syndrome, Washington, DC, USA, June 11-14, 2004.

C.1. Toki T, Katsuoka F, Kanezaki R, Xu G, Watanabe S, Kamio T, Tandai S, Terui K, Kurotaki H, Yagihashi S, Sun J, Komatsu N, Igarashi K, Yamamoto M, and Ito E: Transgenic expression of Bach1 transcription factor results in down-regulation of p45 target genes in megakaryocytic lineage cells. 46th American society of hematology annual meeting and exposition (ASH meeting), San Diego, California, USA, December 4-7, 2004.

C.2. Tanaka H, Nakahata T, Tsugawa K, Suzuki K, Waga S, Ito E: Mizoribine pulse therapy for patients with flares of lupus nephritis. The 13th Congress of the International Pediatric Nephrology Association, Adelaide, Australia, 2004.

C.3. Tanaka H, Tsugawa K, Suzuki K, Ito E: Single-dose daily administration of cyclosporine A for idiopathic nephrotic syndrome. The 13th Congress of the International Pediatric Nephrology Association, Adelaide, Australia, 2004.

C.4. Suzuki K, Tsugawa K, Tateyama T, Tanaka H, Ito E, Waga S: The differential binding affinity of fibronectin fragments to IgA palys a role in the IgA nephropathy. The 13th Congress of the International Pediatric Nephrology Association, Adelaide, Australia, 2004.

2005年度

B.1. Tsutomu Toki, Xu Gang, Rika Kanezaki, and Etsuro Ito Acquired mutations in the *GATA-1* gene in the transient myeloproliferative disorder of Down syndrome The 9th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. Hirosaki, Japan, 2005.

(2) 全国学術集会

2004年度

B.1. 伊藤悦朗．ダウン症候群に伴う急性巨核球性白血病発症の分子機構．第63回日本癌学会学術総会．福岡国際会議場，9月29日～10月1日，2004．

B.2. 伊藤悦朗．GATA-1変異とDown症候群に伴う急性巨核球性白血病．第46回日本小児血液学会．国立京都国際会館，11月22日23日，2004．

B.3. 田中　完．ループス腎炎治療の新たな試み．第39回日本小児腎臓病学会学術集会イブニングセミナー．熊本市，2004年7月1日−3日

C.　6件

2005年度

B.1. 伊藤悦朗，徐剛，照井君典，土岐力．TAM発症の分子機構．第109回日本小児科学会学術集会．石川県立音楽堂，金沢市，4月21日～23日，2006．

B.2. 伊藤悦朗，土岐　力．TAMの病態．第47回日本小児血液学会．栃木県総合文化センター，宇都宮，11月26日～27日，2005.

C.　8件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2004年度

1. 広島大学第２生化学教室　Bach 転写因子に関する共同研究　五十嵐和彦教授
2. 筑波大学 TARA センター　GATA1 転写因子に関する共同研究　山本雅之教授
3. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ 「乳児急性リンパ性白血病に対する早期同種造血幹細胞移植療法の有効性に関する後期第 II 相試験」 代表研究者　石井栄一
4. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ 「小児フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病に対する imatinib mesylate 第 II 相臨床試験」 代表研究者　真部淳
5. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ 「小児リンパ芽球型リンパ腫 stage I/II に対する多施設共同後期第 II 相臨床試験」 代表研究者　角南勝介
6. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ 「小児リンパ芽球型リンパ腫 stage III/IV に対する多施設共同後期第 II 相臨床試験」 代表研究者　角南勝介
7. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ 「小児成熟 B 細胞性腫瘍に対する多施設共同後期第 II 相臨床試験」代表研究者　鶴澤正仁
8. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ 「進行期小児成熟 B 細胞性腫瘍に対する顆粒球コロニー刺激因子の一次的予防投与の有用性に関する無作為割付比較試験」代表研究者　菊地陽
9. 日本横紋筋肉腫研究グループ 「横紋筋肉腫低リスク A 群患者に対する短期間 VAC1.2 療法の有効性および安全性の評価 第 II 相臨床試験」研究代表者　細井創
10. 日本横紋筋肉腫研究グループ 「横紋筋肉腫低リスク B 群患者に対する VAC2.2/VA 療法の有効性および安全性の評価 第 II 相臨床試験」研究代表者　細井創
11. 日本横紋筋肉腫研究グループ 「横紋筋肉腫中間リスク群に対する iVAC 療法の有効性および安全性に関する多施設共同研究」研究代表者　太田茂
12. 日本横紋筋肉腫研究グループ 「進行性・転移性横紋筋肉腫低に対する自家造血幹細胞救援法を併用した大量化学療法の第 II 相試験」研究代表者　原純一
13. 日本ユーイング肉腫研究グループ 「限局性ユーイング肉腫ファミリー腫瘍に対する集学的治療法の第 II 相臨床試験」研究代表者　麦島秀雄

2005年度

1. 東北大学大学院医学系研究科・生物化学分野　五十嵐和彦　BACH 転写因子に関する研究
2. 筑波大学 TARA センター　山本雅之　GATA1 転写因子に関する研究

   Case Western Reserve University School of Medicine, Mary J. Laughlin, MD, Molecular Mechanisms Underlying Graft vs. Host Disease'
3. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ「乳児急性リンパ性白血病に対する早期同種造血幹細胞移植療法の有効性に関する後期第 II 相試験」代表研究者　石井栄一（佐賀医大）2004
4. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ「小児フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病に対する imatinib mesylate 第 II 相臨床試験」代表研究者　真部淳（聖路加国際病院）2004
5. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ「小児リンパ芽球型リンパ腫 stage I/II に対する多施設共同後期第 II 相臨床試験」代表研究者　角南勝介（成田赤十字病院）2004
6. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ「小児リンパ芽球型リンパ腫 stage III/IV に対する多施設共同後期第 II 相臨床試験」代表研究者　角南勝介（成田赤十字病院）2004
7. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ「小児成熟 B 細胞性腫瘍に対する多施設共同後期第 II 相臨床試験」代表研究者　鶴澤正仁（愛知医大）2004
8. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ「進行期小児成熟 B 細胞性腫瘍に対する顆粒球コロニー刺激因子の一次的予防投与の有用性に関する無作為割付比較試験」代表研究者　菊地陽（埼玉県立小児医療センター）2004
9. 日本横紋筋肉腫研究グループ「横紋筋肉腫低リスク A 群患者に対する短期間 VAC1.2 療法の有効性および安全性の評価 第 II 相臨床試験」研究代表者　細井創（京都府立医大）2004
10. 日本横紋筋肉腫研究グループ「横紋筋肉腫低リスク B 群患者に対する VAC2.2/VA 療法の有効性および安全性の評価 第 II 相臨床試験」研究代表者　細井創（京都府立医大）2004
11. 日本横紋筋肉腫研究グループ「横紋筋肉腫中間リスク群に対する iVAC 療法の有効性および安全性に関する多施設共同研究」研究代表者　太田茂（滋賀医大）2004
12. 日本横紋筋肉腫研究グループ「進行性・転移性横紋筋肉腫低に対する自家造血幹細胞救援法を併用した大量化学療法の第 II 相試験」研究代表者　原純一（大阪大学）2004
14. 日本ユーイング肉腫研究グループ「限局性ユーイング肉腫ファミリー腫瘍に対する集学的治療法の第 II 相臨床試験」研究代表者　麦島秀雄（日本大学）2004
15. 平成17年度厚生労働科学研究　ヒトゲノム・再生医療等研究事業「臍帯血を用いる造血幹細胞移植技術の高度化と安全性確保に関する研究班」（加藤俊一班長）－小児臍帯血移植における至適前処置と GVHD 予防法の開発に関する研究　研究代表者　磯山恵一（昭和大学）2005

16. 日本小児白血病研究会「JACLS ALL-02治療患者における Allele-specific Oligonucleotide Real-time Quantitative Polymerase Chain Reaction（ASO RQ-PCR）法を用いた微小残存病変評価法の標準化」研究代表者　土屋滋（東北大学）2005
17. 北小児白血病研究会 「小児血液・悪性腫瘍疾患における深在性真菌症に対するミカファンギンの有用性検討」研究代表者　土屋滋（東北大学）2005

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

1）基盤研究（B）（2）
ダウン症候群の急性白血病発症に関わる遺伝子の検索　研究代表者　伊藤悦朗　配分額4,000千円

2）特定領域研究（2）
ダウン症候群に伴う急性巨核球性白血病の転写因子による発症機構　研究代表者　伊藤悦朗　配分額4,000千円

3）萌芽研究
BACH1転写因子活性化を利用した小児白血病の治療法の開発　研究代表者　伊藤悦朗　配分額300千円

4）基盤研究（C）（2）
血小板産生および巨核球分化における BACH1転写因子の機能解析　研究代表者　土岐力　配分額1,400千円

5）「B細胞特異的転写因子 Bach2の機能解析」
研究代表者　佐々木伸也　配分額1,300千円

2005年度

研究代表者として

1）特定領域研究（計画）（研究代表者　伊藤悦朗）
ダウン症候群に伴う急性巨核球性白血病の多段階発症の分子機構　配分額9,400千円

2）基盤研究（B）（2）（研究代表者　伊藤悦朗）
GATA-1転写因子による白血病の分子機構　配分額6,300千円

3）基盤研究（C）（研究代表者　土岐力）
BACH1転写因子による赤芽球・巨核球における標的遺伝子の異なる発現調節　配分額1,400千円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2004年度

研究代表者として

平成16年度弘前大学学長指定重点研究　転写因子による血小板造血の分子機構に関する研究　研究代表者伊藤悦朗　配分額4,800千円

2005年度

研究代表者として

転写因子による血小板造血の分子機構に関する研究　平成17年度弘前大学学長指定重点研究.
配分額2,800千円

他研究単位との研究分担者として

ABO 血液型不適合移植における免疫順応と血液型糖鎖抗原に関する研究　平成17年度弘前大学学長指定重点研究.（研究代表者　大山力）配分額500千円

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2004年度

大学院生　1名　　徐　剛　（中国）

2005年度

大学院生　1名　　徐　剛　（中国）

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

2004年度

Georgia大学　1名　　照井君典　（助手　休職）

2005年度

ジョージア医科大学　分子医学遺伝学研究所　2004年3月～2005年7月

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

日本小児科学会青森地方会　3回
青森小児血液腫瘍研究会　　1回
平成16年度青森県小児保健協会総会・学術集会　1回
平成16年度青森県小児保健協会夏期懇談会　1回
青森県小児神経談話会　1回

2005年度

日本小児科学会青森地方会　3回
青森小児血液腫瘍研究会　　1回
平成17年度青森県小児保健協会総会・学術集会　1回
平成17年度青森県小児保健協会夏期懇談会　1回
青森骨髄移植研究会　2006年2月
青森小児血液腫瘍研究会　2006年3月
青森県小児神経談話会

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

22. 外科学第一講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

１．以下のテーマを教室の研究テーマとしてとりあげ，引き続き研究を推進する。【達成】

①外科侵襲とそれに対する生体防御反応の研究を行ない，侵襲度の高い手術においても，安定した治療成績が得られるように検討を行う。

②外科手術後の血液凝固系の変動を研究し，静脈血栓塞栓症の予防，術後血栓症の予防に結びつける。

③理工学部および基礎医学講座との共同研究を推進し，バイオミメティクス分野での新しい研究を展開する。

２．教員・大学院生および教室員の研究指導を行う。【達成】

３．教員・大学院生および教室員の論文作成指導を行い，より高いレベルの論文作成を目指す。【達成】

４．Impact factor の付いた学術誌に senior author として毎年５編以上の論文を発表する。【未達成】

５．国際学会，全国レベルの学会等におけるシンポジウム，パネル・ディスカッションに演者および共同演者として発表する。【達成】

６．研究代表者として１件以上の科学研究費補助金を取得する。【達成】また共同研究者として２年間で２件の科学研究費を取得する。【未達成】

上記項目についての到達度の評価：１－①については，顆粒球エラスターゼ抑制剤を用いて基礎的研究を行い，これを論文として投稿し，受理されている。この基礎的研究を元にして臨床研究にも着手しており，東北地域での多施設共同研究も開始した。②については大学院生の近藤が基礎的研究を行い，論文として報告した。静脈血栓塞栓症の予防については，特に重症例が多い脳神経外科の症例を中心に研究を行い，この成果は学会で報告した。③については，血流の可視化の研究を理工学部で行い，国内外の学会でこの成果を報告した。一部の成果はすでに論文として報告し，さらに現在も追加検討の成果を論文投稿中である。また中皮細胞の培養の研究に着手し，中皮細胞の培養系を確立した。培養中皮腫細胞を用いた実験的研究を，本学病理学講座，社会医学講座，脳血管病態研究施設と共同で着手する予定にしている。

理念：

患者中心の医療を推し進め，臨床に軸足を置いた研究を展開する。

これから２年間の目標：

１．以下のテーマを教室の研究テーマとしてとりあげ，引き続き研究を推進する。

①外科侵襲とそれに対する生体防御反応の研究をさらに深め，侵襲度・難度の高い手術においても，安定した治療成績を得る。

②外科手術後の血液凝固系の変動を研究し，静脈血栓塞栓症の予防，術後血栓症の予防に結びつける。また急性大動脈解離症例での血液凝固系および線溶系の変動を研究する。

③理工学部および基礎医学講座との共同研究を推進し，バイオミメティクス分野における新しい研究を展開し，この分野での科学研究費の獲得を目指す。

２．教員・大学院生および教室員の研究指導を行う。

３．教員・大学院生および教室員の論文作成指導を行い，より高いレベルの論文作成を目指す。

４．Impact factor の付いた学術誌に毎年５編以上の論文を発表する。

５．国際学会，全国レベルの学会等におけるシンポジウム，パネル・ディスカッションに演者および共同演者として発表する。

６．２件以上の科学研究費補助金を取得する。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　3，助手　6，医員　4，大学院学生　2，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授		福田　幾夫	16．4．1　～　17．3．31
	講　師		福井　康三	16．4．1　～　17．3．31
	講　師		對馬　敬夫	16．4．1　～　17．3．31
	講　師		鈴木　保之	16．4．1　～　17．3．31
	助　手		山田　芳嗣	16．4．1　～　17．3．31
	助　手		平尾　良範	16．4．1　～　17．3．31
	助　手		畑中　　亮	16．4．1　～　17．3．31
	助　手		板谷　博幸	16．4．1　～　16．6．30
	助　手		一関　一行	16．4．1　～　16．9．30
	助　手		皆川　正仁	16．4．1　～　17．3．31
	助　手		大徳　和之	16．7．1　～　17．3．31
	助　手		伊東　和雄	16.11．1　～　17．3．31
研究課題	1．血流の可視化による病的大動脈内の血流の研究 2．心臓手術における脳合併症の予防 3．手術後の凝固系機能の変動と手術後静脈血栓塞栓症の予防・治療の研究 4．体外循環侵襲による肺の障害の研究 5．外科医療の効率化の研究 6．肺癌の浸潤，転移に関与する分子生物学的因子の検討 7．転移性肺腫瘍の外科治療成績と予後因子の解析 8．外科感染症の研究			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　3，助手　6，医員　2，大学院学生　3，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授		福田　幾夫	2005．4　～　2006．3
	講　師		鈴木　保之	2005．4　～　2006．3
	講　師		福井　康三	2005．4　～　2006．3
	講　師		對馬　敬夫	2005．4　～　2006．3
	助　手		山田　芳嗣	2005．4　～　2006．3
	助　手		皆川　正仁	2005．4　～　2006．3
	助　手		大徳　和之	2005．4　～　2006．3
	助　手		谷口　　哲	2005．4　～　2006．3
	助　手		木村　大輔	2005．4　～　2006．3
	助　手		田茂和歌子	2005．4　～　2006．3
研究課題	1．血流の可視化による病的大動脈内の血流の研究 2．心臓手術における脳合併症の予防 3．手術後の凝固系機能の変動と手術後静脈血栓塞栓症の予防・治療の研究 4．体外循環侵襲による肺の障害の研究 5．外科医療の効率化の研究 6．肺癌の浸潤，転移に関与する分子生物学的因子の検討 7．転移性肺腫瘍の外科治療成績と予後因子の解析 8．外科感染症の研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Norihiro Kondo, Fuminori Wakayama, Yasuyuki Suzuki, Kozo Fukui, Shunichi Takaya, Ikuo Fukuda: The State of Platelets Preserved in Extracorporeal Circulation with A Glycoprotein IIb/IIIa Inhibitor. Thrombosis Research 2004;113:303-310.

A.2. Ikuo Fukuda, Mitsuyoshi Wada: Early detection and reperfusion for cerebral thromboembolism after cardiovascular surgery. Hirosaki Medical J. 2004;56:21-28.

2005年度

A.1. Kondo N, Suzuki Y, Wakayama F, Tmai Y, Ji K, Fukui K, Fukuda I: Platelet preservation with a glycoprotein IIb/IIIa inhibitor in a porcine cardiopulmonary bypass model. Ann Thorac Surg 2005;80:251-8.

A.2. Ikuo Fukuda, Kozo Fukui, Masahito Minakawa, Masayuki Koyama, Ikko Ichinoseki and Yasuyuki Suzuki: Rescue Surgical Embolectomy for Fatal Pulmonary Embolism in Patient With Intracranial Hemorrhage. Ann Thorac Surg 2006;81:735-7.

和文

2004年度

A.1. 一関一行，板谷博幸，久我俊彦，皆川正仁，小山正幸，小野裕逸，鈴木保之，福井康三，高谷俊一，福田幾夫：待機的腹部大動脈瘤手術における術前心臓カテーテル検査の必要性．日本血管外科学会雑誌 2004;13:591-596.

A.2. 鈴木保之，池田頼信，久木基至，中山至誠：姑息的右室流出路形成術．胸部外科　57:100-106,2004.

A.3. 成田淳一，小野裕逸，棟方護，吉凱強，福田幾夫：左心補助に際しての生体反応抑制に関する実験的研究．新薬と臨床　2005;54:10-20.

A.4. 福田幾夫, 今水流智浩, 福井康三, 一関一行, 皆川正仁, 久我俊彦, 鈴木保之, 小野裕逸, 吉　凱強, 榊原　謙：急性広範性肺血栓塞栓症に対する外科治療．静脈学　2005;16:13-18.

B.1. 今水流智浩，榊原　謙，福田幾夫：急性肺血栓塞栓症の外科治療の検討．Therapeutic Research 2004;25:1154-1155.

2005年度

A.1. 福田幾夫，福井康三，皆川正仁，一関一行，鈴木保之，近藤慎浩，今水流智浩．急性広範性肺血栓塞栓症に対する外科治療の適応と問題点．Therapeutic Research. 2005；26：1226−8

A.2. 福田幾夫，一関一行，福井康三，鈴木保之，皆川正仁，谷口　哲，近藤慎浩，若山文規．市中一般病院における静脈血栓塞栓症予防の現況．青森県内一般病院のアンケート調査から．脈管学 2005;45:613-8

B.1. 稲村隆夫，柳岡英樹，山崎純一，福田幾夫，皆川正仁，福井康三．PIV 法による大動脈弓内の血流の可視化（カニューレを挿入した場合）．日本機会学会論文集 B. 2005；71：2385−92

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 福田幾夫，福井康三，鈴木保之，皆川正仁，谷口　哲，近藤慎浩：急性肺血栓塞栓症の外科治療．日本外科学会雑誌　2005;106:247-251.

A.2. 平尾良範，玉沢直樹，保嶋　実，福田幾夫，山本葉子：弘前大学医学部附属病院の院内感染制御．感染制御　2005;1:134-139.

2005年度

A.1. 福田幾夫：癌と静脈血栓塞栓症．日本癌病態治療研究会誌．2005;21:29-30.

A.2. 福田幾夫，谷口　哲：術後の深部静脈血栓症（DVT）・肺塞栓症の診断と治療．血液フロンティア．2005;15:1669-78.

A.3. 福田幾夫，谷口　哲，須藤武道，木村大輔，山田芳嗣，對馬敬夫．急性肺血栓塞栓症死亡例から学ぶ．Surgrey Frontier. 2005;12:48-53.

A.4. 福田幾夫：急性肺塞栓症に対する外科治療の現状と展望．臨床画像　2006;22:302-12.

（3）著書

英文

2005年度

A.1. Sunao Kaneko, Satoshi Toh, Mutsuo Sasaki, Ikuo Fukuda, Akio Nakane, Kei Satoh: What's New in Organ Transplantation? Hirosaki University Press. Hirosaki 2006.1.31

和文

2004年度

A.1. 福田幾夫，砂田弘子：弘前大学医学部付属病院における取り組み．江里健輔，平井正文，中野赳編．疑問に答える　深部静脈血栓症予防ハンドブック 184−187. 医歯薬出版．東京　2004.11.1

2005年度

A.1. 福田幾夫：高度大動脈硬化を合併する弓部大動脈瘤の治療戦略．田林晄一，栗林幸夫編．大動脈瘤・大動脈解離診療のコツと落とし穴108−9．中山書店．東京　2006.02

A.2. 福田幾夫：右鎖骨下動脈起始異常を合併した弓部大動脈瘤に対する手術．田林晄一，栗林幸夫編．大動脈瘤・大動脈解離診療のコツと落とし穴112．中山書店．東京　2006.02

（4）その他

英文

2004年度

A.1. Masahito Minakawa, Ikuo Fukuda, Hiroyuki Itaya, Toshihiko Kuga, Yasuyuki Suzuki, Kozo Fukui: Transventricular Annuloplasty for Ischemic Mitral Regurgitation in the Dor Prodedure. Jpn J Thorac Cardiovsc Surg 2004;52:341-344.

A.2. Kazuyuki Ditoku, Kozo Fukui, Ikkoh Ichinoseki, Mamoru Munakata, Shoichi Takahashi, Ikuo Fukuda: Radiotherpy-induced Aortic Valve Disease Associated with Porcelain Aorta. Jpn J Thorac Cardiovascu Surg 2004;52:349-352.

A.3. Yasuyuki Suzuki, Masahito Minakawa, Hiroyuki Itaya, Toshihiko Kuga, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda: Mitral Valve Repair in a Child with Infectious Endocarditis Followed by Meningitis. Jpn J Thorac Cardiovascu Surg 2004;52:429-431.

A.4. Yasuyuki Suzuki, Toshihiko Kuga, Masahito Minakawa, Hiroyuki Itaya, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda: Surgical Management of Tunnel-like Subaortic Stenosis via Ventricular Septal Defect in a Patient with the Interrupted Aoric Arch, Jpn J Thorac Cardiovascu Surg 2004;52:480-483.

A.5. Kazuyuki Daitoku, Kozo Fukui, Ikkoh Ichinoseki, Mamoru Munakata, Shoichi Takahashi, and Ikuo Fukuda: Radiotherapy-induced aortic valve disease associated with porcelain aorta. Jpn J Thoracic Cardiovasc Surg 2004;52:349-352.

A.6. Mamoru Munakata, Kozo Fukui, Kazuyuki Daitoku, Hiroyuki Itaya, Toshihiko Kuga, Toshiro Matsunaga, Ken Okumura, and Ikuo Fukuda: Dissection of the left ventricular outflow septum due to relapsing infective endocarditis. Ann Thoracic Surg 2005;79:355.

A.7. Norihiro Kondo, Masayuki Koyama, Fuminori Wakayama, Kaiquiang Ji, Ikko Ichinoseki, Ikuo Fukuda: Surgical repair for chronic traumatic thoracic aneurysm after 12-year follow-up. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2004;52:586-588.

2005年度

A.1. Suzuki Y, Daitoku K, Minakawa M, Fukui K, Fukuda I: Congenital quadricuspid aortic valve with tetralogy of Fallot and pulmonary atresia. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2006;54:44-6.

A.2. Masahito Minakawa, Ikuo Fukuda, Mitsuyoshi Wada, Ji Kaiqiang, Kazuyuki Daitoku, Kazuo Itoh, Kozo Fukui: Preoperative evaluation of the right gastroepiploic artery using abdominal ultrasonography. Ann Thorac Surg (in press)

A.3. Mamoru Munakata, Kozo Fukui, Kazuyuki Daitoku, Hiroyuki Itaya, Toshiro Matsunaga, Ken Okumura, Ikuo Fukda: Dissection of the Left Ventricular Outflow Septum Due to Relapsing Infective Endocarditis. Ann Thorac Surg 79:355,2005.

C.1. Mamoru Munakata, Hiroyuki Itaya, Kazuyuki Daitoku, and Yuichi Ono: Remarkable improvement of hemodynamics by continuous hemodiafiltration in patients after operation for thoracic aortic dissection. Ann Thoracic Cardiovasc Surg. 2005;11:277-80.

和文

2004年度

A.1. 一関一行，伊東和雄，棟方　護，小山正幸，鈴木保之，福井康三，高谷俊一，福田幾夫：ステントグラフト内挿術後再破裂をきたした破裂性動脈瘤の2例．日本心臓血管外科学会雑誌　2004;33:34-37.

A.2. 青木哉志，一関一行，棟方　護，鈴木保之，福井康三，高谷俊一，福田幾夫：瘤の形成過程を観察・治療しえた感染性下腸間膜動脈瘤の1例．日本心臓血管外科学会雑誌　2004;33:287-290.

2005年度

A.1. 近藤慎浩，若山文規，谷口　哲，一関一行，小山正幸，福田幾夫：内頚静脈血栓症から肺塞栓症をきたした一例．Therapeutic Research.　2005;26:1184-6.

A.2. 一関一行，小山正幸，野田　浩，谷口　哲，福田幾夫：ステントグラフト内挿術による外腸骨動脈引き抜き損傷の1例．日本血管外科学会雑誌．2005;14:659-61

A.3. 谷口　哲，一関一行，小山正幸，福田幾夫：腹部大動脈瘤人工血管置換術に異所性腎動脈再建術を併施した2症例．日本血管外科学会誌．2005;14:695-8.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Thrombosis Research	1.541	1	1.541
Hirosaki Medical J	0	1	0
Total		2	1.541

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Ann Thorac Surg	2.229	2	2.229
Total		2	4.458

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
感染制御	1	
日本血管外科学会雑誌	2	
胸部外科	1	
新薬と臨床	1	
静脈学	1	
Therapeutic Research	1	
脈管学		1
日本機会学会論文集 B		1
日本癌病態治療研究会誌		1
血液フロンティア		1
Surgrey Frontier		1
臨床画像		1
計	7	7

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	1
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	2
編　　集	0	0
分担執筆	1	0

3．その他（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Jpn J Thorac Cardiovsc Surg	0	6	0
Ann Thoracic Surg	2.244	1	2.244
Total		7	2.244

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Jpn J Thorac Cardiovasc Surg	0	1	0
Ann Thorac Surg	2.229	2	2.992
Total		3	2.992

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
日本血管外科学会雑誌	2	2
Therapeutic Research		1
計	2	3

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Masahito Minakawa, Hiroyuki Itaya, Toshihiko Kuga, Yuichi Ono, Yasuyuki Suzuki, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda: Preoperative evaluation of the right gastroepioloic artery using abdominal ultrasonography. The 12th annual meeting of the Asian Society for Cardiovascular Surgery. Istanbul, Turkey, 2004.

C.2. Ikkoh Ichinoseki, Satoshi Taniguchi, Masayuki Koyama, Ikuo Fukuda: STENE-GRAFT PlACEMENT TO AORTO-CAVAL FiSTULA-A CASE REPORT. The 12th annual meeting of the Asian Society for Cardiovascular Surgery. Istanbul, Turkey, 2004.

C.3. Ji KaiqiangM.D, Ikuo Fukuda MD, Masahito Minakawa MD, Kozo Fukui MD, Yasuyuki Suzuki MD: Free Radical in Myocardium Analyzed by Electron Spin Resonance(ESR)and Gene Expression of Vascular Endothelial Growth Factor in Rat Left Ventricular Hypertrophy(LVH) Model. The 12th annual meeting of the Asian Society for Cardiovascular Surgery. Istanbul, Turkey, 2004.

C.4. Norihiro Kondo, Fuminori Wakayama, Yasuyuki Suzuki, Kozo Fukui, Shunichi Takaya, Ikuo Fukuda: PLATELET PRESRVATION IN EXTRACORPOREAL CIRCULATION WITH A GLYCOPROTEIN IIB/IIIA INHIBITOR. The 12th annual meeting of the Asian Society for Cardiovascular Surgery. Istanbul, Turkey, 2004.

C.5. Ikkoh Ichinoseki, Satoshi Taniguti, Masayuki Koyama, Shyunichi Takaya, Ikuo Fukuda: PROPHYLACTIC ANTIBIOTICS IN VASCULAR SURGERY IS NECESSARY?. 21th WORD CONGRESS International Union of Angiology, 2004.

2005年度

C.1. Minakawa M, Fukuda I, Yamazaki J, Igarashi T, Funakoshi N, Fukui K, Yanaoka H, Inamura T: Hydorodynamics of aortic cannulae during extracorporeal circulation: an evaluation of flow pattern and shear stress in an in-vitro model. International Federation for Artificial Organs and European Society for Artificial Organs XXXII Congress. 2005/10/07 Bologna, Italy

C.2. Minakama M, Fukuda I, Hatakeyama M, Daitoku K, Suzuki Y, Fukui K: Mintral valve surgery under ventricular fibrillation int the high risk patients with ischemic mitral regurgitation. Cardiac Surgery Update and Progress. 2006/2/25 Lech, Austria

C.3. Yasuyuki Suzuki, Kazuyuki Daitoku, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda: Management of Pulmonary artery in the cyanotic congenital heart disease XII Rossia-Japan International Medical Symposium Sep,21,2005. at Krasnoyarsk

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. 大徳和之：第6回日本 OFF-PUMP CABG 研究会　ヤングライブディスカッション　コメンテーター

B.2. 福田幾夫，今水流智浩，大坂基男，福井康三，一関一行，皆川正仁，久我俊彦，板谷博幸，鈴木保之，小野裕逸，榊原　謙：急性広範性肺塞栓症に対する治療戦略：院内体制の整備と外科的治療の適応　第24回日本静脈学会総会　2004.6.2　三重

B.3. 伊東和雄，竹内功，皆川正仁，青木哉志，谷口　哲，板谷博幸，一関一行，鈴木保之，福井康三，福田幾夫：Rat Heart Myoblast 培養細胞の肥大形成シグナル伝達と Oxidative Stress　第57回日本胸部外科学会総会　2004.10.21　札幌

B.4. 福田幾夫，福井康三，平尾良範，鈴木保之，畑中　亮，一関一行，對馬敬夫，山田芳嗣：胸部外科におけるセーフティーマネジメント体制の構築　第57回日本胸部外科学会総会　2004.10.21　札幌

B.5. 福田幾夫，福井康三，一関一行，鈴木保之，皆川正仁，谷口　哲：市中一般病院における静脈血栓塞栓症予防の現況：青森県内80病院のアンケート調査から　第45回日本脈管学会総会　2004.10.29　札幌

B.6. 福田幾夫，福井康三，皆川正仁，板谷博幸，大徳和之，鈴木保之，伊東和雄，谷口　哲，青木哉志：弓部大動脈瘤術後の早期抜管を目指した手術　第35回日本心臓血管外科学会総会　2005.2.24　浜松

C.　17件

2005年度

A.1. 福田幾夫：教育講演．OPCABG 時代における on-pump CABG の位置づけ．第58回日本胸部外科学会卒後教育セミナー　2005/10/04　岡山

A.2. 福田幾夫：冠動脈吻合法．第58回日本胸部外科学会　ハンズオンセミナー　2005/10/06　岡山

B.1. 伊東和雄，田茂和歌子，谷口　哲，板谷博幸，皆川正仁，大徳和之，鈴木保之，福井康三，福田幾夫：術前 CT による Adamkiewicz 動脈の同定と術中 MEP モニターによる脊髄機能の評価（会長要望演題）．第33回日本血管外科学会総会　2005/06/24　旭川

B.2. 福井康三，福田幾夫，田茂和歌子，谷口　哲，伊東和雄，大徳和之，皆川正仁，鈴木保之：心筋梗塞後心室中隔穿孔，左室自由壁破裂に対する外科治療（シンポジウム）．第10回日本冠動脈外科学会総会　2005/07/22　東京

B.3. 鈴木保之，畠山正治，田茂和歌子，須藤武道，木村大輔，谷口　哲，大徳和之，皆川正仁，山田芳嗣，對馬敬夫，福井康三，福田幾夫：胸部外科疾患に対する包括医療制度の影響．第58回日本胸部外科学会総会．2005/10/05．岡山

C.　25件

Ⅲ．学術賞

2005年度

平成17年度弘前大学医学部附属病院診療奨励賞　佐藤正治，後藤　武，下山葉子，福井康三，鈴木保之，皆川正仁，大徳和之，谷口　哲，田茂和歌子，畠山正治．「急性大動脈解離に対する緊急対応―特に脳分離体外循環を必要とする緊急手術の対応―」

Ⅳ．共同研究

2004年度

1. 固形癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査（大鵬薬品工業）
2. 原発性非小細胞肺癌完全切除例の再発巣に対する外科治療成績の検討
（Japan North-East Thoracic Surgery Study Group）

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として
基盤（B）(2)体外循環中の送血方法が病的大動脈壁に与える影響の臨床的検討．3,700千円

2005年度

研究代表者として
基盤（B）(2)体外循環中の送血方法が病的大動脈壁に与える影響の臨床的検討．2,500千円
萌芽研究：人工筋肉を用いた心補助装置の開発　150千円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

2004年度

第８回弘前医学国際フォーラム　2004/11/4　弘前

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2004年度

1名

2005年度

1名

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

第2回　青森末梢血管懇話会　2005/3/19

2005年度

第24回東北MMC研究会　2005/04/16
第16回青森県静脈・経腸栄養研究会　2005/08/20
第18回青森呼吸器研究会　2005/09/17

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

23. 外科学第二講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

１．高い倫理観と目的意識を持った外科医の育成

到達度　4

２．食道癌，胃癌，大腸癌，肝癌，膵癌，胆道癌，乳癌治療成績の現状分析と本邦トップレベルの成績を目指した集学的治療法の開発

到達度　3

３．有資格者の外科学会専門医・指導医，消化器外科学会専門医・指導医などの資格取得の徹底

到達度　3

４．英文論文の倍増

到達度　2

理念：

１．グローバルスタンダードから見て優れた医師及び医学研究者の育成，並びに先進的な治療の開発

２．地域の人に対する最高水準の治療の提供

これから２年間の目標：

１．国際学会での発表や全国学会での発表を倍増

２．有資格者の外科学会専門医・指導医，消化器外科学会専門医・指導医など の資格取得の徹底

３．英文論文の倍増

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　3，助手　8，医員　6，大学院学生　6，研究生　5			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	佐々木睦男	2004．4　～　2005．3
	講　師	専　任	吉原　秀一	2004．4　～　2005．3
	講　師	専　任	小田桐弘毅	2004．4　～　2005．3
	講　師	専　任	袴田　健一	2004．4　～　2005．3
	助　手	専　任	鳴海　俊治	2004．4　～　2005．3
	助　手	専　任	川﨑　仁司	2004．4　～　2005．3
	助　手	専　任	十束　英志	2004．4　～　2004．9
	助　手	専　任	豊木　嘉一	2004．4　～　2005．3
	助　手	専　任	村田　暁彦	2004．4　～　2005．3
	助　手	専　任	柴田　　滋	2004．4　～　2005．3
	助　手	専　任	小山　　基	2004.10　～　2005．3
	助　手	専　任	梅原　　豊	2004．4　～　2005．3
研究課題	１．肝不全に対する人工肝臓の開発 ２．成人間生体肝移植後肝再生調節機構の解明 ３．がんの遺伝子診断・遺伝子治療 ４．抗がん剤治療の基礎研究 ５．低侵襲大腸手術の研究 ６．直腸癌に対する機能温存手術 ７．膵液中の複合糖質についての研究 ８．炎症性腸疾患に対する複合糖質の有効性 ９．胆道・膵領域の難治性消化器癌に対するQOLの向上を目的とした術式の開発 10．肝細胞癌治療の合理化と遺伝子診断法の開発			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　2，講師　3，助手　8，医員　6，大学院学生　6，研究生　5			
教　員 (教授～助手) の詳細	教　授	専　任	佐々木睦男	2005．4　～　2006．3
	助教授	専　任	吉原　秀一	2005．4　～　2006．3
	助教授	専　任	袴田　健一	2005．4　～　2006．3
	講　師	専　任	小田桐弘毅	2005．4　～　2006．3
	講　師	専　任	鳴海　俊治	2005．4　～　2006．3
	講　師	専　任	川﨑　仁司	2005．4　～　2006．3
	助　手	専　任	豊木　嘉一	2005．4　～　2006．3
	助　手	専　任	村田　暁彦	2005．4　～　2006．3
	助　手	専　任	柴田　　滋	2005．4　～　2006．3
	助　手	専　任	小山　　基	2005．4　～　2006．3
	助　手	専　任	梅原　　豊	2005．4　～　2006．3
	助　手	専　任	西澤　雄介	2005．4　～　2006．3
研究課題	1．肝不全に対する人工肝臓の開発 2．成人間生体肝移植後肝再生調節機構の解明 3．がんの遺伝子診断・遺伝子治療 4．抗がん剤治療の基礎研究 5．低侵襲大腸手術の研究 6．直腸癌に対する機能温存手術 7．膵液中の複合糖質についての研究 8．炎症性腸疾患に対する複合糖質の有効性 9．胆道・膵領域の難治性消化器癌に対するQOLの向上を目的とした術式の開発 10．肝細胞癌治療の合理化と遺伝子診断法の開発			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Totsuka E, Fung JJ, Ishizawa Y, Nishimura A, Ono H, Toyoki Y, Narumi S, Hakamada K, Sasaki M: Synergistic effect of cold and warm ischemia time on postoperative graft outcome in human liver transplantation. *Hepatogastroenterology* 2004;51(59):1413-6.

A.2. Totsuka E, Fung JJ, Hakamada K, Ohashi M, Takahashi K, Nakai M, Morohashi S, Morohashi H, Kimura N, Nishimura A, Ishizawa Y, Ono H, Narumi S, Sasaki M: Synergistic effect of cold and warm ischemia time on postoperative graft function and outcome in human liver transplantation. *Transplant Proc* 2004;36(7):1955-8.

A.3. Totsuka E, Murata A, Nishimura A, Umehara M, Nara M, Ono H, Nozaki T, Takiguchi M, Wajima N, Takahashi K, Seino K, Narumi S, Hakamada K, Sasaki M: Attenuation of canine warm ischemic small bowel injury by novel combination of nitric oxide donor, FK409, and cytokine suppressive anti-inflammatory agent FR167653. *Transplant Proc* 2004;36(7):1988-90.

A.4. Totsuka E, Fung U, Hakamada K, Tanaka M, Takahashi K, Nakai M, Morohashi S, Nishimura A, Ishizawa Y, Ono H, Toyoki Y, Narumi S, Sasaki M: Analysis of clinical variables of donors and recipients with respect to short-term graft outcome in human liver transplantation. *Transplant Proc* 2004;36(8):2215-8.

A.5. Nishimura A, Hakamada K, Narumi S, Totsuka E, Toyoki Y, Ishizawa Y, Umehara M, Yoshida A, Umehara Y, Sasaki M: Intraoperative blood lactate level as an early predictor of initial graft function in human living donor liver transplantation. *Transplant Proc* 2004;36(8):2246-8.

A.6. Totsuka E, Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Umehara Y, Okawa H, Tsubo T, Ishihara H, Yoshihara S, Eondoh M, Morita T, Sasaki M: Hepatic vein anastomotic stricture after living donor liver transplantation. Transplant Proc 2004;36(8):2252-4.

A.7. Toyoki Y, Hakamada K, Narumi S, Totsuka E, Nara M, Ono H, Ishizawa Y, Sasaki M: Primary immunosuppression regimen of rapid steroid withdrawal after living related liver transplantation: a single-center experience. *Transplant Proc* 2004;36(8):2279-81.

A.8. Ishizawa Y, Totsuka E, Umehara M, Nishimura A, Ono H, Sasaki M: Efficacy of double-filtration plasmapheretic cross-circulation with a high-permeability membrane using canine harvested liver in porcine fulminant hepatic failure model. *Transplant Proc* 2004;36(8):2344-8.

A.9. Umehara M, Totsuka E, Ishizawa Y, Nara M, Hakamada K, Sasaki M: In vitro evaluation of cross-circulation system using semipermeable membrane combined with whole liver perfusion. *Transplant Proc* 2004;36(8):2349-51.

A.10. Yoshida A, Narumi S, Hashimoto N, Itabashi Y, Hakamada K, Sasaki M: CD8 T cell of donor splenocyte mixed with bone marrow cells is more effective than CD4 T cell for induction of donor-specific tolerance in sublethally irradiated mice. *Transplant Proc* 2004;36(8):2418-22.

A.11. Watanabe N, Odagiri H, Totsuka E, Sasaki M: A new method to immortalize primary cultured rat hepatocytes. *Transplant Proc* 2004;36(8):2457-61.

A.12. Narumi S, Hakamada K, Toyoki Y, Totsuka E, Niioka T, Umehara Y, Ono H, Nishimura A, Yoshihara S, Sasaki M: Hepatic clearance improves after angioplasty of the hepatic vein. Transplant Proc 2004;36(10):3091-2.

A.13. Narumi S, Hakamada K, Totsuka E, Toyoki Y, Umehara Y, Ono H, Nishimura A, Yoshihara S, Sasaki M: Efficacy of cutting balloon for anastomotic stricture of the hepatic vein. *Transplant Proc* 2004;36(10):3093-5.

B.1. Kudo D, Kon A, Yoshihara S, Kakizaki I, Sasaki M, Endo M, Takagaki K: ＊Effect of a hyaluronan synthase suppressor, 4-methylumbelliferone, on B16F-10 melanoma cell adhesion and locomotion. Biochem Biophys Res Commun 2004;321(4):783-7.

C.1. Murray RD, Kim K, Ren SG, Chelly M, Umehara Y, Melmed S: Central and peripheral actions of somatostatin on the growth hormone-IGF-I axis. *J Clin Invest* 2004;114(3):349-56.

C.2. Soukiasian HJ, Czer LS, Avital I, Aoki T, Kim YH, Umehara Y, Pass J, Tabrizi R, Magliato K, Fontana GP, Cheng W, Demetriou AA, Trento A: A novel sub-population of bone marrow-derived myocardial stem cells: potential autologous cell therapy in myocardial infarction. *J Heart Lung Transplant* 2004;23(7):873-80.

C.3. Kawabata H, Fleming RE, Gui D, Moon SY, Saitoh T, O'kelly J,Umehara Y, Wano Y, Said JW, Koeffler HP: Expression of hepcidin is down-regulated in TfR2 mutant mice manifesting a phenotype of hereditary hemochromatosis. Blood 2005;105:376-81.

2005年度

A.1. Ono H, Totsuka E, Hakamada K, Ishizawa Y, Nishimura A, Umehara M, Nara M, Takiguchi M, Takahashi K, Murata A, Toyoki Y, Narumi S, Sasaki M: Attenuation of graft injury in porcine liver transplantation from non-heart beating donor by FR167653. *Hepatogastroenterology* 2005;52(63):885-92.

B.1. Yoshihara S, Kon A, Kudo D, Nakazawa H, Kakizaki I, Sasaki M, Endo M, Takagaki K: A hyaluronan synthase suppressor, 4-methylumbelliferone liver metastasis of melanoma cells. *FEBS Lett* 2005;579(12):2722-6.

C.1. Ishizawa Y, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sasaki M, Tateishi T: The effect of aging on the relationship between the cytochrome P450 2C19 genotype and omeprazole pharmacokinetics. *Clin Pharmacokinet* 2005; 44(11):1179-89.

和文

2004年度

A.1. 袴田健一，鳴海俊治，豊木嘉一，十束英志，吉原秀一，森田隆幸，佐々木睦男：臨床的・経済的アウトカムと患者満足度からみた膵頭十二指腸切除術に対するクリニカルパス導入の意義．日本消化器外科学会雑誌　2004;37(4):369-74.

A.2. 小山　基，森田隆幸，村田暁彦，佐々木睦男：家族性大腸腺腫症に対する結腸全摘・回腸直腸吻合術の長期術後成績．日本消化器外科学会雑誌　2004;37(9):1509-16.

B.1. 新岡丈典，大久保正，川﨑仁司，柴田　滋，村田暁彦，鳴海俊治，袴田健一，小田桐弘毅，森田隆幸，佐々木睦男，小島佳也，保嶋　実，菅原和信：＊母集団パラメータを用いたテイコプラニン血中濃度の予測精度に関する検討．TDM 研究　2004;21(1):33-40.

B.2. 板橋幸弘, 馬場俊明, 加藤　智, 鳴海俊治, 佐々木睦男:腹腔鏡補助下幽門側胃切除術（Laparoscopy-assisted distal gastrectomy：LADG）におけるパスの効用と問題点．弘前医学　2005;56(2～4):55-60.

2005年度

A.1. 橋本直樹，鳴海俊治，板橋幸弘，袴田健一，佐々木睦男：低用量末梢血幹細胞と脾細胞混合移入による非致死的照射マウスへのキメリズムの導入．弘前医学　2005;57(1):17-26.

A.2. 小山　基，森田隆幸，村田暁彦，木村憲央，諸橋　一，佐々木睦男:家族性大腸腺腫症に対する結腸全摘・回腸直腸吻合術（IRA）の長期術後管理と問題点．家族性腫瘍　2005;5(2):68-72.

A.3. 山田恭吾，袴田健一，鳴海俊治，豊木嘉一，木村憲央，吉原秀一，佐々木睦男：膵漿液性嚢胞腺腫の診断術前画像所見による確定診断可能例と困難例の検討．胆と膵　2005;26(4):413-9.

A.4. 石戸圭之輔，小山　基，村田暁彦，久留島徹大，佐藤利行，諸橋　一，木村憲央，佐々木睦男：大腸カルチノイドの臨床的検討と治療方針．外科治療　2006;94(3):330-4.

B.1. 板橋幸弘, 馬場俊明, 加藤　智, 鳴海俊治, 佐々木睦男:腹腔鏡補助下幽門側胃切除術（Laparoscopy-assisted distal gastrectomy：LADG）におけるパスの効用と問題点．弘前医学　2005;56(2−4):55-60.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 佐々木睦男：【肝胆膵の救急画像】 突発性胆嚢穿孔．消化器画像　2004;6(2):235-8.

A.2. 小山　基, 森田隆幸, 村田暁彦, 木村憲央, 諸橋　一, 佐々木睦男:【アトラスでみる進行大腸癌に対する手術】S 状結腸・直腸 S 状部切除術．消化器外科　2004;27(8):1257-64.

A.3. 袴田健一，佐々木睦男：【包括医療制度でのがん治療】 DPC とクリティカルパス．癌と化学療法 2004;31(8):1179-85.

A.4. 袴田健一，鳴海俊治，豊木嘉一，梅原　豊，山田恭吾，佐々木睦男：【一般外科におけるクリニカルパス】 クリニカルパスの実際　われわれはこうしている　肝・胆・膵・脾外科　膵頭十二指腸切除術のクリニカルパス．外科治療　2005;92(SUPPL.):704-10.

A.5. 吉原秀一，佐々木睦男：日常診療の指針　肝内結石症治療法の開発．外科治療　2005;92(5):1060-1.

A.6. 袴田健一：生体肝移植におけるインフォームドコンセント　医師の立場から．医薬品総合臨床 2004;27(4):129-30.

B.1. 森田隆幸，梅原　実，西川晋右，小川仁，向田和明，三上泰徳，小原治枝，小山　基，村田暁彦：【直腸癌に対する手術のコツ】 下部直腸癌に対する括約筋温存手術．臨床外科　2004;59(13):1551-6.

B.2. 森田隆幸，梅原　実，西川晋右，小川　仁，向田和明，小山　基，村田暁彦，北島修哉：ベテラン外科医に学ぶ縫合不全の予防と治療　結腸直腸吻合部縫合不全．消化器外科　2004;27(7):1163-72.

B.3. 森田隆幸，澤田俊夫，小山　基，西川晋右，小川　仁，三上泰徳：【消化器癌治療のコンセンサス　消化管】 肛門管癌（早期・進行）．消化器外科　2004;27(11):1703-9.

2005年度

A.1. 吉原秀一，村田暁彦，佐々木睦男：【大腸がん患者の治療方針】 大腸がん手術　切除の実際　腹腔鏡治療．臨床腫瘍プラクティス　2005;1(2):149-51.

A.2. 吉原秀一，佐々木睦男．日常診療の指針　肝内結石症治療法の開発．外科治療　2005;92(5):1060-1.

A.3. 小山　基，森田隆幸，村田暁彦，西澤雄介，佐々木睦男：大腸ポリポージスと関連疾患　Ⅱポリポーシス（1）家族性大腸腺腫症　b. 外科治療．早期大腸癌　2005;9(6):511-6.

A.4. 袴田健一，鳴海俊治，豊木嘉一，梅原　豊，山田恭吾，佐々木睦男：【一般外科におけるクリニカルパス】 クリニカルパスの実際　われわれはこうしている　肝・胆・膵・脾外科　膵頭十二指腸切除術のクリニカルパス．外科治療　2005;92(SUPPL.):704-10.

A.5. 小山　基，森田隆幸，村田暁彦，西澤雄介，池永照史郎一期，佐々木睦男：Crohn 病（CD）の腸病変に対する開腹術 . 手術　2006;60(2):161-7.

B.1. 森田隆幸，西川晋右，小川　仁，三上泰徳，小原治枝，小山　基：【最新　消化器手術における再建術】 大腸全摘術後の回腸嚢肛門（管）吻合．手術　2005;59(1):32-6.

B.2. 森田隆幸，西川晋右，久留島徹大，青木計績，三上泰徳，小山　基：消化器外科手術アトラス　下部直腸癌に対する内肛門括約筋部分切除を伴う肛門温存手術．消化器外科　2005;28(6):929-40.

B.3. 森田隆幸，梅原　実，西川晋右，三上泰徳，小原治枝，小山　基：【直腸・肛門病変をめぐる諸問題】 直腸粘膜脱症候群　診断と治療．臨床消化器内科　2005;20(10):1367-73.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文

2004年度

B.1. Kitazawa J, Kaizuka M, Kasai M, Noda Y, Takahashi Y, Terui K, Narumi S, Hakamada K, Sasaki M, Kamata Y, Endo T, Nomachi S, Saikai T, Mizoguchi Y, Kinebuchi M, Ito E, Matsuura A. ＊Hemolytic crisis with fulminant hepatic failure in Wilson disease without consanguinity. *Pediatr Int* 2004;46(6):726-9.

和文

2004年度

A.1. 中澤秀明，森田隆幸，村田暁彦，小山　基，石黒彩子，佐々木睦男：腹部造影 CT にて診断した急性下腸間膜動脈閉塞症の1例．日本臨床外科学会雑誌　2004;65(8):2237-41.

A.2. 渡辺伸和，袴田健一，鳴海俊治，豊木嘉一，十束英志，佐々木睦男：主膵管と交通の明らかな mucinous cystic tumor の1例．日本消化器外科学会雑誌　2005;38(2):196-201.

B.1. 板橋幸弘，馬場俊明，加藤　智，佐々木睦男：横行結腸のみが陥入し腸閉塞症を呈した食道裂孔ヘルニアの1例．日本消化器外科学会雑誌　2004;37(5):479-82.

B.2. 板橋幸弘，馬場俊明，加藤　智，佐々木睦男：成人に発症した特発性腸重積症の1例．日本消化器外科学会雑誌　2005;38(1):108-11.

B.3. 山田恭吾，杉山　譲，清野景好，小堀宏康，丸山将輝，柴田　滋，川﨑仁司，佐々木睦男：TS－1，Docetaxel 併用療法により良好な QOL を維持できた腹膜播種を伴う非切除胃癌の1症例．癌と化学療法 2005;32(2):223-6.

2005年度

A.1. 渡辺伸和，袴田健一，鳴海俊治，豊木嘉一，十束英志，佐々木睦男：主膵管と交通の明らかな mucinous cystic tumor の1例．日本消化器外科学会雑誌　2005;38(2):196-201.

A.2. 木村憲央，村田暁彦，小山　基，久留島徹大，諸橋　一，佐々木睦男：腸間膜から発生した粘液性嚢胞腺腫の1例．日本臨床外科学会雑誌　2005;66(9):2296-300.

A.3. 青木計績，小山　基，村田暁彦，久留島徹大，佐々木睦男，田中正則：潰瘍性大腸炎と診断されたCrohn病の2例．手術　2005;59(12):1869-73.

B.1. 板橋幸弘，馬場俊明，加藤　智，佐々木睦男：成人に発症した特発性腸重積症の1例．日本消化器外科学会雑誌　2005;38(1):108-11.

B.2. 山田恭吾，杉山　譲，清野景好，小堀宏康，丸山将輝，柴田　滋，川﨑仁司，佐々木睦男：TS－1，Docetaxel併用療法により良好なQOLを維持できた腹膜播種を伴う非切除胃癌の1症例．癌と化学療法 2005;32(2):223-6.

B.3. 須貝道博，木村憲央，石戸圭之輔，棟方博文，袴田健一，佐藤　宏，神谷晴夫：肺病巣を伴った小児肝多包虫症の1例．日本小児外科学会雑誌　2005;41(2):237-42.

B.4. 板橋幸弘，馬場俊明，加藤　智，佐々木睦男：腹部鈍的外傷による胆嚢avulsionの1例．日本臨床外科学会雑誌　2005;66(6):1424-7.

B.5. 石戸圭之輔，須貝道博，佐々木睦男，棟方博文：急性腹症をきたした感染性後腹膜嚢胞の1小児例．日本臨床外科学会雑誌　2005;66(9):2315-20.

B.6. 滝口　純，佐々木睦男，山中祐治，三上勝也，高橋克郎，田澤俊幸：若年者直腸癌の2例．外科 2005;67(10):1226-9.

B.7. 山田恭吾，杉山　譲，清野景好，小堀宏康，蝦名鉄徳，柴田　滋，川﨑仁司，佐々木睦男，田中正則：TS－1/Low-Dose CDDPによる術前化学療法が有効であった進行胃癌の1例．癌と化学療法 2005;32(10):1447-51.

B.8. 西村顕正，橋爪　正，柴崎　至，遠藤正章，袴田健一，佐々木睦男：集学的治療が有効であった直腸カルチノイド多発肝転移の1例．日本臨床外科学会雑誌　2006;67(3):679-82.

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hepatogastroenterology	0.837	1	0.837
Transplant Proc	0.588	12	7.056
Biochem Byophys Res Comun	2.836	1	2.836
Total		14	10.729

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hepatogastroenterology	0.837	1	0.837
FEBS Lett	3.609	1	3.609
Total		2	4.446

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
日本消化器外科学会誌	2	
TDM研究	1	
弘前医学	1	2
消化器画像	1	
消化器外科	3	1
癌と化学療法	1	
外科治療	2	4
臨床外科	1	
医薬品総合臨床	1	
家族性腫瘍		1
胆と膵		1
手術		2
臨床消化器内科		1
計	13	12

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，Bのみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pediatri Int	0.483	1	0.483
Total		1	0.483

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
日本臨床外科学会誌	1	4
日本消化器外科学会誌	3	2
癌と化学療法	1	2
手術		1
外科		1
日本小児外科学会誌		1
計	5	11

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Naoki Hashimoto, Kenichi Hakamada, Shunji Narumi, Eishi Totsuka, Kazunori Aoki, Yoshimasa Kamata, Mutsuo Sasaki: Heterotopic gastrointestinal membrane and pancreatic tissue in a retroperitoneal tumor. 6th World Congress of International Hepato-Biliary-Pancreatic Association. Washington, 平16.6.2～6.6

C.2. Yoshikazu Toyoki, Kenichi Hakamada, Shunji Narumi, Eishi Totsuka, Mutsuo Sasaki: Pancreatic anastomosis after pancreato- duodenectomy-Single center experience. 6th World Congress of International Hepato-Biliary-Pancreatic Association. Washington, 平16.6.2～6.6

C.3. Shunji Narumi, Kenichi Hakamada, Eishi Totsuka, Yoshikazu Toyoki, Yutaka Umehara, Hiroaki Ono, Akimasa Nishimura, Mutsuo Sasaki: Efficacy of Cutting Balloon for Anastomotic Stricture of the Hepatic Vein. 10th Congress of International Liver Transplantation Society (ILTS). Kyoto, 平16.6.9～12.

C.4. Kenichi Hakamada, Yoshikazu Toyoki, Shunji Narumi, Shuichi Yoshihara, Mutsuo Sasaki, Nobuhisa Yajima, Soroku Yagihashi:「IPMN/MCN」Anaplastic carcinoma recurring from a borderline-type mucinous cystic tumor of the pancreas; a case report. 11th Congress of International Association of Pancreatology (IAP). Sendai, 平16.7.11～14

C.5. Hitoshi Kawasaki, Shigeru SIbata, Mustuo Sasaki:「Upper GI」Role of Preoperative Chemoradiation in the Management of T4 Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus. 14th World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists. Zurich, 平16.9.9～12

C.6. Yutaka Umehara, Jesus Martinez, Achilles A. Demetriou, Jacek Rozga: LIVERAID- A novel bioartificial liver. 55th AASLD Annual Meeting. Boston, 平16.10.27-31

C.7. Yoshikazu Toyoki, Kenichi Hakamada, Shunji Narumi, Hiroyuki Kasajima, Hirofumi Yajima, Souroku Yagihashi, Mutsuo Sasaki: Intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas: predictive factors for malignancy, clinicopathological analysis and long-term outcomes-single center experience. 69th Annual Scientific Meeting of American College of Gastroenterology. Orlando, 平16.10.29～11.3

C.8. Hiroki Odagiri, Shojiro-Kazunori Ikenaga, Masateru Maruyama, Mutsuo Sasaki: Gene expression profile of brease cancers, related to chemosensitivity.
International Conference on Tumor Progression Therapeutic Resistance. Philadelphia. 平16.11.8～9

C.9. Kenichi Hakamada, Kazunori Aoki, Yoshikazu Toyoki, Shunji Narumi, Mutuso Sasaki: Intraluminal brachytherapy for positive surgical margin after resection of the bile duct carcinoma: Does it play a role? 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery (ISDS). Yokohama, 平16.12.8～11

C.10. Shunji Narumi, Kenichi Hakamada, Tung-Huei Chang, Syuichi Yoshihara, Yoshikazu Toyoki, Mutsuo Sasaki: Hepatic resection for hepatocellular carcinoma for patients with poor liver funcion reserve. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery (ISDS). Yokohama, 平16.12.8～11

C.11. T. Sato, K. Hakamada, S. Narumi, Y. Toyoki, H. Morohashi, and M. Sasaki: Liver Transplantation From Live Donors Over 65 Years: A Report of Two Cases. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery (ISDS). Yokohama, 平16.12.8～11

C.12. Norihisa Kimura, Kenichi Hakamada, Hajime Morohashi, Tung-Huei Chang, Kyogo Yamada, Yutaka Umehara, Yoshikazu Toyoki, Shunji Narumi, Mutsuo Sasaki: Des-gamma-carboxy prothrombin as an important prognostic factor for recurrence in HCC patients who meet the Milan Criteria. 8th Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Sugery. Manila, 平17.2.10～13

C.13. Kenichi Hakamada, Norihisa Kimura, Hajime Morohashi, Tung-Huei Chang, Kyogo Yamada, Yutaka Umehara, Yoshikazu Toyoki, Shunji Narumi, Mutsuo Sasaki: Implementation of a clinical pathway for the management after pancreaticoduodenectomy. 8th Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Sugery. Manila, 平17.2.10～13

C.14. K Hakamada, Y Toyoki, S Narumi, K Yamada, K Yamada, Y Umehara, M Sasaki: Pancreaticoduodenectomy for decompensated chronic pancreatitis. 8th Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Sugery. Manila, 平17.2.10～13

C.15. Kenichi Hakamada, Norihisa Kimura, Hajime Morohashi, Tung-Huei Chang, Kyogo Yamada, Yutaka Umehara, Yoshikazu Toyoki, Shunji Narumi, Mutsuo Sasaki: Is total parenteral nutrition mandatory in the postoperative management of pancreaticoduoedenectomy? 8th Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Sugery. Manila, 平17.2.10～13

C.16. K Hakamada, K Aoki, Y Toyoki, S Narumi, M Sasaki: Limited efficacy of adjuvant intraluminal brachytherapy after resection of the bile duct carcinoma. 8th Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Sugery. Manila, 平17.2.10～13

2005年度

C.1. Kimura N, Hakamada K, Morohashi H, Narumi S, Toyoki Y, Umehara Y, Sasaki M: PIVKA-II is a definite indicator of vascular invasiveness in hepatocellular carcinoma patients. American Hepato-Pancreato-Biliary Assocoation 2005. Ft. Lauderdale, 平17.4.14～17.

C.2. Hakamada K, Kimura N, Morohashi H, Toyoki Y, Narumi S, Sasaki S: Easy pacreaticojejunostomy for the soft pancreas using a fast-absorbable suture. American Hepato-Pancreato-Biliary Assocoation 2005. Ft. Lauderdale, 平17.4.14～17.

C.3. Odagiri H, Ikenaga SK, Maruyama M, Sasaki M: Gene expression profile of breast cancers, related to chemosensitivity. The 3rd Congress of The World Society for Breast HealthSociety. Tokyo, 平17.4.21～23.

C.4. Odagiri H, Ikenaga SK, Maruyama M, Sasaki M: Efficient gene transduction i Her2-expressing breast cancers by two recombinant adenovirus vectors with Her2 promoter and Cre/LoxP system. The 3rd Congress of The World Society for Breast HealthSociety. Tokyo, 平17.4.21～23.

C.5. Narumi S, Hakamada K, Toyoki Y, Niioka T*, Umehara Y, Yoshihara S, Sasaki M: Influence of antifungal agents on trough level of tacrolimus. American Transplant Congress(ATC) 2005. Seattle, 平17.5.21～25.

C.6. Toyoki Y, Hakamada K, Narumi S, Umehara Y, Sasaki M: Our immunosuppression regimen of safe for acute rejection after living-related liver transplantation in single center experience. 11th International Liver Transplantation Socciety. Los Angels, 平17.7.20～23.

C.7. Kimura N, Hakamada K, Toyoki Y, Narumi S, Sasaki M: Successful Treatment of An Endoscopic Papillary Dilatation-induced Pancreatic Pseudocyst with Catheter Drainage. 15th Asian Congress of Surgery. Pattaya, 平17.7.20～23.

C.8. Kimura N, Hakamada K, Umehara Y, Narumi S, Sasaki M: Treatment for Iatrogenic Billiary Bleeding and Timing of Treatment for Choledocholithiasis. 15th Asian Congress of Surgery. Pattaya, 平17.7.20～23.

C.9. Hakamada K, Kimura N, Umehara Y, Toyoki Y, Sasaki M: VIDEO SESSION: Pancreaticojejunostomy for the narrow pancreatic duct. 15th Asian Congress of Surgery. Pattaya, 平17.7.20～23.

C.10. Hakamada K, Kimura N, Umehara Y, Narumi S, Sasaki M: Benefits of laparoscopic splenectomy. 15th Asian Congress of Surgery. Pattaya, 平17.7.20～23.

C.11. Hakamada K, Kimura N, Umehara Y, Toyoki Y, Sasaki M: Carcinoma of the gall bladder after laparoscopic cholecystectomy. 15th Asian Congress of Surgery. Pattaya, 平17.7.20～23.

C.12. Umehara Y, Hakamada Y, Kimura N, Narumi S, Yoshihara S, Sasaki M: A Case of Exophytic Spread of Abscess from Hepatolithiasis via Perihepatic Ligaments. 15th Asian Congress of Surgery. Pattaya, 平17.7.20～23.

C.13. Yoshihara S: 4-methylumbelliferone, A hyaluronan synthase suppressor, enhannces the anticancer activity of gemcitabine in human pancreatic cancer cells. 18th International symposium on glycocongugates. Florence, 平17.9.4～9.

C.14. Toyoki Y, Hakamada K, Narumi S, Sasaki M: Adjuvant chemotherapy for resected pancreatic cancer-A pilot study. 15th World Congress of The International Association of Surgeons and Gstroenterologists. Prague, 平17.9.7～10.

C.15. Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Yoshihara S, Sasaki M: Impact of routine intraoperative ultrasound on reduction of biliary injury by the trainee during laparoscopic cholecystectomy. 15th World Congress of The International Association of Surgeons and Gstroenterologists. Prague, 平17.9.7～10.

C.16. Hakamada K, Baba T, Narumi S, Toyoki Y, Sasaki M: Single stage laparoscopic treatment of cholecystocholed-olithiasis. 15th World Congress of The International Association of Surgeons and Gstroenterologists. Prague, 平17.9.7～10.

C.17. Hakamada K, Toyoki Y, Narumi S, Umehara Y, Kato M, Kimura N, Takahashi K, Sasaki M: Long-term outcome following pancreaticoduodenectomy in patients with chronic pancreatits. 15th World Congress of The International Association of Surgeons and Gstroenterologists. Prague, 平17.9.7～10.

C.18. Hakamada K, Kimura N, Toyoki Y, Narumi S, Sasaki M: Des-γ-carboxy prothrombin as an indicator for vascular invasiveness and poor prognosis in patients with resectable HCC. 15th World Congress of The International Association of Surgeons and Gstroenterologists. Prague, 平17.9.7～10.

C.19. Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Kimura N, Sasaki M: Effects of adjuvant nutritional support on the outcome after pancreaticoduodenectomy, total parenteral nutrition vs. early oral feeding. 15th World Congress of The International Association of Surgeons and Gstroenterologists. Prague, 平17.9.7～10.

C.20. Hakamada K, Kimura N, Ikenaga SK, Chang T, Sasaki M: Comprehensive genome analysis of hepatocytes during regeneration and liver failure. 15th World Congress of The International Association of Surgeons and Gstroenterologists. Prague, 平17.9.7～10.

C.21. Nishizawa Y, Murata A, Koyama M, Ikenaga SK, Nakai M, Sasaki M: Changes in surgical treatment of ulcerative colitis. 22th Congress of panpacific surgical association. Noumea, 平17.11.2～5.

C.22. Murata A, Nishizawa Y, Koyama M, Ikenaga SK, Nakai M, Sasaki M: Augmentation of the urinary bladder for invasive colo-rectal cancer. . 22th Congress of panpacific surgical association. Noumea, 平17.11.2～5.

C.23. Kimura N, Hakamada K, Umehara Y, Toyoki Y, Narumi S, Sasaki M: Des-gamma-carboxy prothrombin as a predictor of vascular invasion and poor prognosis in patients with hepatocellular carcinoma. 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science. Hirosaki, 平17.11.10～11

C.24. Hakamada　K, Toyoki Y, Narumi S, Sasaki M: Impact of adjuvant gemcitabine on the treatment of resectable pancreatic cancer. Hirosaki, 平17.11.10～11

C.25. Yoshihara S: Core lecture 3: A hyaluronan synthase suppressor, 4-methylumbelliferone, inhibits liver metastasis of pancreatic cancer cells. Hirosaki, 平17.11.10～11

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 小山　基：特別講演「下部直腸癌の術前放射線療法」下部進行直腸癌に対する肛門括約筋部分温存・経肛門吻合術に術前放射線療法は有用か．第21回大腸疾患外科療法研究会．大阪，平16.1.22

B.1. 柴田　滋，川﨑仁司，萩原主税，川嶋啓明，久留島徹大，佐々木睦男：シンポジウム「進行消化器癌に対する治療戦略」当科における局所進行胸部食道癌に対する化学放射線療法について．第176回日本消化器病学会東北支部例会．仙台．平16.2.7

B.2. 袴田健一，佐々木睦男：シンポジウム「膵頭十二指腸切除術時における感染対策」クリニカルパス．日本肝胆膵外科関連会議2004（第31回日本膵切研究会）．横浜，平16.5.13～14

B.3. 袴田健一，豊木嘉一，十束英志，鳴海俊治，吉原秀一，佐々木睦男：ワークショップ3「慢性膵炎治療における手術療法の役割」慢性膵炎に対する膵頭切除の適応と慢性膵炎治療の中での位置づけ．日本肝胆膵外科関連会議2004（第31回日本膵切研究会）．横浜，平16.5.13～14

B.4. 小山　基，森田隆幸，村田暁彦，佐々木睦男：ワークショップ「家族性腫瘍患者の長期管理」家族性大腸腺腫症に対する結腸全摘・回腸直腸吻合術（IRA）の長期術後成績．第10回家族性腫瘍研究会学術集会．東京，平16.6.25～26

B.5. 小山　基，森田隆幸，村田暁彦，久留島徹大，青木計績，木村憲央，佐々木睦男：ワークショップ「Rb直腸癌に対する肛門温存手術」下部直腸癌に対する内肛門括約筋切除（ISR）・経肛門吻合術の長期術後成績．第61回大腸癌研究会．新潟．平16.7.9

B.6. 小山　基，森田隆幸，村田暁彦，梅原　豊，滝口　純，奈良昌樹，佐々木睦男：シポジウム「直腸癌に対する新たな治療戦略」下部直腸癌に対する内肛門括約筋切除（ISR）・経肛門吻合術の長期術後成績．第59回日本消化器外科学会総会．鹿児島，平16.7.21～23

B.7. 吉原秀一，佐々木睦男，豊木嘉一，鳴海俊治，袴田健一：ワークショップ「肝内結石症の疫学・成因および治療に関する update」肝内結石症におけるムチンの役割．第40回日本胆道学会学術集会．筑波．平16.9.24～25

B.8. 小山　基，村田暁彦，久留島徹大，青木計績，佐々木睦男，森田隆幸：ビデオシンポジウム「機能を重視した大腸癌手術」下部直腸癌に対する内肛門括約筋切除（ISR）を伴う経肛門吻合術の手術手技の工夫と長期術後成績．第42回日本癌治療学会．京都，平16.10.27～29

B.9. 小山　基，村田暁彦，久留島徹大，青木計績，佐々木睦男，森田隆幸：パネルディスカッション「肛門管の解剖・生理からみた肛門括約筋切除を伴う肛門温存術」下部直腸癌に対する内肛門括約筋切除（ISR）・経肛門吻合術の長期予後と術後肛門機能－ ISR の切除範囲による検討－．第59回日本大腸肛門病学会．久留米，平16.11.5～6

B.10. 豊木嘉一，袴田健一，鳴海俊治，吉原秀一，佐々木睦男：シンポジウム「IPMN の診断と治療」intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas;predictive factors for malignancy. clinicopathological analysis and long-term outcomes-single center experience．第178回日本消化器病学会東北支部例会．仙台，平17.2.26

B.11. 鳴海俊治，袴田健一，豊木嘉一，佐藤利行，諸橋　一，三ツ井敏仁，梅原　豊，山田恭吾，吉原秀一，佐々木睦男：ワークショップ「肝胆膵術後合併症における診断と治療」膵頭十二指腸切除後の合併症：膵腸縫合不全による仮性動脈瘤に対する治療法の選択．第41回日本腹部救急医学会総会．名古屋，平17.3.10～11

C.　52件

2005年度

B.1. 袴田健一，鳴海俊治，豊木嘉一，梅原　豊，吉原秀一，佐々木睦男：パネルディスカッション８「周術期の栄養管理」膵頭十二指腸切除術後標準栄養法としての末梢静脈栄養と早期経口栄養の妥当性と問題点．第105回日本外科学会定期学術集会．名古屋，平17.5.11～13.

B.2. 袴田健一，鳴海俊治，豊木嘉一，梅原　豊，木村憲央，佐々木睦男：パネルディスカッション５「総胆管結石の治療方針（内科 vs 外科）」胆嚢総胆管結石症に対する一期的腹腔鏡下手術．第17回日本肝胆膵外科関連会議．横浜，平17.6.8～10.

B.3. 村田暁彦，小山　基，西澤雄介，池永照史郎一期，木村昭利，佐々木睦男，森田隆幸：ワークショップ「自律神経温存術式における諸問題」自律神経温存の typing と側方郭清の意義．第30回日本外科系連合学会学術集会．東京，平17.6.24.

B.4. 小山　基，森田隆幸，村田暁彦，佐々木睦男：ワークショップ「遺伝性大腸癌の臨床―現状と問題点―」家族性大腸腺腫症（FAP）の大腸外随伴病変に対する治療戦略．第11回日本家族性腫瘍学会．福島，平17.6.24～25.

B.5. 袴田健一，木村憲央，豊木嘉一，梅原　豊，鳴海俊治，佐々木睦男：シンポジウム８「消化器外科領域における肝不全の病態と対策―基礎と臨床」 術後肝不全におけるビリルビン排泄蛋白発現異常．第60回日本消化器外科学会定期学術総会．東京，平17.7.20～22.

B.6. 小山　基，村田暁彦，西澤雄介，池永照史郎一期，木村昭利，佐々木睦男，森田隆幸：パネルディスカッション「直腸癌骨盤内再発の診断と治療の標準化を目指して」内肛門括約筋切除（ISR）・経肛門吻合術後の骨盤内再発に対する診断と治療方針．第60回日本大腸肛門病学会総会．東京，平17.10.28～29.

B.7. 小山　基，村田暁彦，西澤雄介，池永照史郎一期，木村昭利，佐々木睦男，森田隆幸：ビデオシンポジウム「超低位の進行直腸癌に対する肛門機能温存術」 超低位の進行直腸癌に対する内肛門括約筋切除（ISR）を伴う肛門温存術―癌根治性と肛門機能の長期術後成績―．東京，平17.11.9～11.

C. 60件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2004年度

（財）がん集学的治療研究財団　特定研究29　P.C.S（代表；草野　満夫）

佐々木　睦男，村田　暁彦

日中大腸抗癌治療研究会　治癒切除大腸癌を対象とした経口弗化ピリミジンによる術後補助化学療法に関する無作為化試験（代表；森　武生）

村田　暁彦

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2005年度

研究代表者として

基盤（C）一般　肝切除・部分肝移植後の肝再生と肝不全に関する網羅的病態解析プログラムの開発　研究代表者　袴田健一　配分額　3,100千円

（2）その他の省庁からの研究費

2004年度

他研究単位との研究分担者として

佐々木睦男　厚生労働省科学研究費補助金
難治性疾患克服研究事業
肝内結石症調査研究

（3）学内の研究助成

2005年度

研究代表者として

弘前都市エリア産学官連携促進事業　研究代表者　吉原秀一

（4）民間の研究助成

2005年度

研究代表者として

産学連携等研究費　研究代表者　梅原　豊

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2004年度

橋本直樹：ピッツバーグ大学（アメリカ合衆国）

f）その他

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2004年度

佐々木睦男，第14回外科漢方研究会，盛岡市，平16.10.13

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

佐々木睦男，第32回青森県肝胆膵研究会，青森市，平16.10.30
袴田健一，第7回青森県肝癌研究会，弘前市，平16.4.16

2005年度

佐々木睦男，第３回日本乳癌学会東北地方会，仙台
佐々木睦男，日本消化器病学会東北支部会第７回教育講演会，仙台

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

2004年度

西澤雄介（国立がんセンター東病院）

Ⅶ．その他

なし

24. 整形外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1．Impact factor の付いた学術誌への年数編の論文を発表。（100％）
2．大学院生の基礎的研究・助手の臨床研究の推進。（50％）
3．国際学会，全国レベルの学会などのシンポジウムで発表できるようなレベルの基礎的・臨床的研究を進める。（100％）
4．科学研究費をはじめとした各種研究費が認められるような研究を進める。（50％）
5．工学部との共同研究を進める（50％）

理念：

世界に発信できるような研究の指導

これから２年間の目標：

1．Impact factor の付いた学術誌への年数編の論文を発表。
2．大学院生の基礎的研究・助手の臨床研究への指導。
3．国際学会，全国レベルの学会などのシンポジウムで発表できるようなレベルの基礎的・臨床的研究の発展。
4．科学研究費をはじめとした各種研究費が認められるような研究の発展。
5．工学部との共同研究の推進

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　8，大学院学生　7，研究生　19			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	藤　哲	1年
	助教授	専　任	西川　真史	1年
	講　師	専　任	岡田　晶博	1年2005.3.31異動
	講　師	専　任	石橋　恭之	1年
	助　手	専　任	中村　吉秀	1年
	助　手	専　任	横山　徹	1年
	助　手	専　任	津田　英一	1年
	助　手	専　任	佐藤　英樹	1年2005.3.31異動
研究課題	1．骨延長における治療期間短縮への基礎的 / 臨床的研究 2．医療用マイクロマシーンの開発1.膝前十字靭帯損傷の治療と予防 3．小関節鏡の臨床応用 4．関節鏡手術関連の手術機器の開発 5．膝関節軟骨修復に関する基礎的研究：プロテオグリカンの軟骨培養における効果 6．膝関節バイオメカニクス 7．弘前大学式セメントレス人工股関節の臨床応用と長期成績の解析 8．特発性大腿骨頭壊死に対する骨頭温存手術の長期成績の解析と新しい治療法の開発 9．頚部脊髄症患者の脊髄形態と症状経過との関係 10．正常成人における頚椎運動と脊髄形態との比較			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　1，助手　5，医員　8，大学院学生　7，研究生　13			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	藤　哲	1年
	助教授	専　任	西川　真史	1年2006.3.31異動
	講　師	専　任	石橋　恭之	1年
	助　手	専　任	津田　英一	1年
	助　手	専　任	横山　徹	1年
	助　手	専　任	油川　修一	1年2006.3.31異動

	助　手	専任	中村　吉秀	1年2006.3.31異動
	助　手	専任	小野　　睦	1年
研究課題	1．骨延長における治療期間短縮への基礎的 / 臨床的研究 2．医療用マイクロマシーンの開発1. 膝前十字靭帯損傷の治療と予防 3．小関節鏡の臨床応用 4．膝靭帯損傷の発生要因及びその予防に関する基礎的研究 5．膝関節軟骨修復に関する基礎的研究：プロテオグリカンの軟骨培養における効果 6．膝関節バイオメカニクス 7．弘前大学式セメントレス人工股関節の臨床応用と長期成績の解析 8．特発性大腿骨頭壊死に対する骨頭温存手術の長期成績の解析と新しい治療法の開発 9．圧迫性脊髄障害の画像所見と病態研究 10．脊椎靭帯骨化症の遺伝子研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Miura K, Ishibashi Y, Tsuda E, Okamura Y, Otsuka H, Toh S: The effect of local and general fatigue on knee proprioception. Arthroscopy 20. 2004:414-8.

A.2. Nakamura Y, Kumazawa Y, Mitsui H, Toh S, Katano H: Combined rotational osteotomy and vascularized iliac bone graft for advanced osteonecrosis of the femoral head. J Reconstr Microsurg. 2005 Feb;21(2):101-5.

A.3. Hirakawa H, Kusumi T, Nitobe T, Ueyama K, Tanaka M, Kudo H, Toh S, Harata S: An immmunohistochemical evaluation of extracellular matrix components in the spinal posterior longitudinal ligament and intervertebral disc of the tiptoe walking mouse. J Orthop Sci (2004) 9:591-597.

A.4. Kuniyoshi K,Toh S., Nishikawa S., Kudoh S, Ogawa T, Pegoli L: Long term follow-up of a malunited, isolated fracture of the capitate in a 6-year-old boy. Journal of Pediatric Orthopeadic B 2005;14:46-50.

B.1 A. Ono, S. Nishikawa. A. Nagao, T. Irie, M. Sasaki, T. Kouno: Arthroscopic Assisted Treatment of Ankle Fractures: Arthroscopic Findings and Surgical Outcome, Arthroscopy, 2004,20-6,627-631.

B.2. A. Ono, A. Amano, Y. Okamura, T. Numazawa, K. Ueyama, S. Nishikawa, S. Toh: Muscle Atrophyafter treatment with Halovest, SPINE 2004;30-1:8-12.

B.3. Mitsuka T, Miura T, Ueyama K, Sannohe A, Katano H, Toh S: Correlation between severity of rheumatoid arthritis and mannaer and extent of cervical lesion, Mod Rheumatol 2004 14:301-305.

B.4. Ikoma T, Azuma N, Itoh S, Omi H, Nishikawa S, Toh S, Tanaka J: Spherical porous microparticle of Hydroxyapatite/POLYsaccharides Nanocomposites. Key Rngineering Materials 2005;288-2:159-162.

C.1. Watanabe Y, Scyoc AV, Tsuda E, Debski RE, Woo SL-Y: Biomechanical function of the posterior horn of the medial meniscus: a human cadaveric study. J Orthop Sci 3.2004:280-4

2005年度

A.1. Yasuharu Hiraga, Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Harehiko Tsukada, Satoshi Toh: Biomechanical comparison of posterior cruciate ligament reconstruction techniques using cyclic loading tests. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc (2006)14:13-19.

A.2. Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Koji Tazawa, Hideki Sato, Satoshi Toh: Intraoperative evaluation of the anatomical double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction with OrthoPilot navigation system. Orthopedics (2005)28:s1277-s1282.

A.3. Harehiko Tsukada, Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Yasuharu Hiraga, Satoshi Toh: A biomechanical comparison of repair techniques for anterior cruciate ligament tibial avulsion fracture under cyclic loading. Arthroscopy (2005)21:1197-1201.

A.4. Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Taisuke Sasaki, Satoshi Toh: Magnetic resonance imaging aids in detecting concomitant injuries in patients with tibial spine fracture. Clin Orthop (2005)434:207-212.

A.5. Takeuchi K, Yokoyama T, Aburakawa S, Saito A, Numasawa T, Iwasaki T, Itabashi T, Okada A, Ito J, Ueyama K, Toh S: Axial symptoms after cervical laminoplasty with C3 laminectomy compared with conventional C3-C7 laminoplasty: a modified laminoplasty preserving the semispinalis cervicis inserted into axis. Spine, 2005;30: 2544-2549.

A.6. Takeuchi K, Yokoyama T, Aburakawa S, Itabashi T, Toh S: Anatomic study of the semispinalis cervicis for reattachment during laminoplasty. Clin Orthop Relat Res, 2005;436:126-131.

A.7. Takeuchi K, Yokoyama T, Aburakawa S, Ueyama K, Ito J, Sannohe A, Okada A, Toh S: Inadvertent C2-C3 union after C1-C2 posterior fusion in adults. Eur Spine J. 2006;15:270-277.

B.1.# Ikoma T, Azuma N, Itoh S, Omi H, Nishikawa S, Toh S, Tanaka J: Spherical porous microparticle of Hydroxyapatite/POLYsaccharides Nanocomposites. Key Rngineering Materials.(2005) 288&289;159-162

B.2.# Itabashi T, Harata S, Endo M, Takagaki K, Yukawa M, Ueyama K, Toh S.: Interaction Between Proteoglycans

and a-Elastin in Construction of Extracellular Matrix of Human Yellow Ligament. Connect Tissue Res. 2005;46:67-73.

B.3. Imaeda T, Toh S, Nakao Y, Nishida J, Hirata H, Ijichi M, Kohri C, Nagano A: for the Impairment Evaluation Committee, Japanese Society for Surgery of the Hand. Validation of the Japanese Society for Surgery of the Hand version of the Disability of the Arm, Shoulder, and Hand questionnaire. J Orthop Sci. 2005 Jul;10(4): 353-9.

B.4. Tsukahara S, Miyazawa N, Akagawa H, Forejtova S, Pavelka K, Tanaka T, Toh S, Tajima A, Akiyama I, Inoue I: COL6A1, the candidate gene for ossification of the posterior longitudinal ligament, is associated with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis in Japanese. Spine 2005;15:2321-2324.

和文

2004年度

A.1. 西川真史，藤　　哲，工藤　悟，小川太郎，成田俊介：手指関節における骨軟骨移植の応用．日手会誌 2004;21:105-109.

A.2. 西川真史，藤　　哲，片野　博，工藤　悟，小川太郎，菅原卓，上里涼子：近位指節間関節鏡．関節鏡 2004;29:49-52.

A.3. 工藤　悟，西川真史，成田俊介，小川太郎，上里涼子，藤　　哲：手関節掌側ガングリオンに対する鏡視下治療の経験，関節鏡，2004;29:45-48.

A.4. 和田　雅之，西川　真史，工藤　悟，小川　太郎，藤　　哲：手舟状骨骨折の関節鏡視所見とレントゲン所見の評価．日手会誌，2004;21:817-819.

A.5. 石橋 恭之，津田 英一，佐藤 英樹，三浦和知，田中利弘，熊谷玄太郎，藤　　哲：鏡視下前十字靭帯再建術における骨孔作製方向に関する解剖学的検討．関節鏡，2004;29:39-43.

A.6. 中村吉秀，三井博正，藤　　哲，熊沢やすし：大腿骨頭壊死症に対する骨頭温存手術　血管柄付き腸骨移植術の成績．Hip Joint 2004;30:31-35.

A.7. 佐藤英樹，石橋恭之，津田英一，三浦和知，藤　　哲：Knotless suture anchor を用いた関節鏡視下 Bankart 修復術の手術成績．臨床整形外科，2004;39:967-972.

A.8. 佐藤英樹，石橋恭之，藤　　哲，佐々木泰輔：関節包断裂を伴った反復性肩関節脱臼に対する鏡視下手術の経験　関節鏡　2004;28:419-422.

A.9. 工藤　悟，藤　　哲，Calcagni M., Pegoli L., Pajardi G：手背部複合損傷の再建における皮弁選択について．日手会誌，2004;21:240-243.

A.10. 三井博正，中村吉秀，藤　　哲，熊沢やすし：アナトミック人工股関節の長期成績．日本人工関節学会誌 2004;47-48.

2005年度

A.1. 大鹿周佐，石橋恭之，高垣啓一：糖鎖工学を応用したハイブリッド型軟骨スカホールドの作製および軟骨修復に関する研究．整スポ会誌（2005）24:386-394.

A.2. 佐藤英樹，石橋恭之，塚田晴彦，藤哲：小中学生野球選手の肩関節内外旋可動域―野球とサッカー選手の身体所見について―．肩関節（2005）29:421-425.

A.3. 和田誠之，西川真史，三浦一志，工藤　悟，藤　　哲，成田俊介：母指 CM 関節症に対する鏡視下関節形成術の治療経験．東北整災誌 2005;49:117-120.

A.4. 竹内和成，横山　徹，油川修一，伊藤淳二，植山和正，三戸明夫，佐藤隆弘，大塚博徳，佐々木斉，新戸部泰輔，岡田晶博，富田　卓，藤　　哲：C2 頚半棘筋を完全温存した C3 椎弓切除による頚椎拡大術．骨・関節・靭帯 2005;18:317-323.

A.5.# 和田誠之，朝日茂樹，三田禮造，木田和幸，藤　　哲：若年女子における初経開始前後での骨密度，骨代謝に関する研究．Osteoporosis Jpn 2005;13:477-483.

A.6. 中田義博，中村吉秀，秋田　譲，藤　　哲，熊沢やすし：大腿骨頭壊死症に対する大腿骨頭前方回転骨切り術による治療経験．Hip Joint 2005;31:364-368.

A.7. 西川真史，藤　　哲，工藤　悟，和田雅之，神　裕道：手関節ガングリオンと舟状骨骨折に対する手関節鏡視下手術の応用．日手会誌 2005;22:377-382.

A.8. 西川真史，藤　　哲，成田俊介，小川太郎，神　裕道：当科での高齢者の橈骨遠位端骨折に対するピンニング治療について．日手会誌 2005;22:687-692.

A.9. 西川真史，藤　　哲，神　裕道，和田雅之，湯川昌広，岩崎弘英：手のスポーツ障害に対する関節鏡の応用．整スポ会誌 2006;25:1-14.

A.10. 林　慶充，石橋恭之，津田英一，福田　陽，塚田晴彦，藤　　哲，浅野由佳美，秋元博之，尾田　敦，吉田英樹，三本木温，法元康二：高校バスケットボール選手を対象としたジャンプ動作における下肢アライメントの評価．青森スポ研誌 2005;14:20-24.

B.1. 井上貞宏，藤　　哲：腕橈関節の機能解剖からみた変形性関節症―前腕回外・回内運動の重要性―．日本肘関節学会学会雑誌 2005;12:177-179.

B.2. 佐藤　衛，三束武司，片野　博，西川真史，藤　　哲：RA に対する Wrist Fusion Rod を用いた手関節固定術の経験．関節外科 2005;32:81-84.

C.1. 小野　睦，末綱　太，藤井一晃，入江伴幸，大石裕誉：転移性脊椎腫瘍に対する手術成績と問題点．東日本整災会誌 2005;17:31-36.

C.2. 小野　睦，末綱　太，藤井一晃，入江伴幸，大石裕誉：頚胸移行部転移性脊椎腫瘍に対する手術治療．脊椎・脊髄神経手術手技 2005;7(1):14-18.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 西川真史，工藤　悟，小川太郎，藤　　哲：関節鏡を応用したガングリオン手術について．臨床整形外科，2004;39:941-946.

A.2. 西川真史：特集　整形外科における膝以外の内視鏡手術．手関節ガングリオンの鏡視下治療．整・災外，2004;47:1451-1460.

A.3. 石橋恭之，津田英一：前十字靭帯再建術．骨付き膝蓋腱を用いたときの工夫．新 OS Now. 2004;21:172-177.

A.4. 石橋恭之，佐々木知行，佐藤 英樹：肩関節反復性前方脱臼に対する鏡視下手術の実際― Knotless Suture Anchor を用いた鏡視下 Bankart 法―．M B Orthop. 2004;17:1-7.

A.5. 中村吉秀，中田善博，秋田　護，藤　　哲，熊沢やすし：【人工関節 revision に対する手術時の工夫】私の経験　人工股関節大腿骨側再置換における近位固定型セメントレス・ロングステムの問題点．関節外科，2004;23:150-154.

A.6. 中村吉秀，藤　　哲，横山隆文，熊沢やすし：【大腿骨頭壊死症の基礎と臨床　最近の知見】大腿骨頭壊死症に対する骨頭温存手術　血管柄付き腸骨移植術の成績．関節外科，2004 23巻10:1332-1338.

A.7. 津田英一，石橋恭之，岡村良久：ACL 損傷の予防―その指導―．臨床スポーツ医学 22．2005;225-232.

A.8. 竹内和成，横山　徹，油川修一，伊藤淳二，植山和正，三戸明夫，佐藤隆弘，大塚博徳，佐々木斉，新戸部泰輔，岡田晶博，富田　卓，藤　　哲：C2頚半棘筋を完全温存した C3椎弓切除による頚椎拡大術．骨・関節・靭帯，2005;18:317-323.

B.1. 成田俊介，西川真史，藤　　哲：手指の関節外骨折；創外固定による治療を中心に．臨整外　39，2004;653-657.

B.2. 岩崎哲也，西川真史，人工骨頭置換術のクリティカルパス．臨時増刊：整形外科におけるクリティカルパス．臨床整形外科　2004;47-5:619-628.

B.3. 佐々木和広，中澤成史，西川真史：特集　足関節部外傷の診断と治療，遠位脛腓靭帯の診断と治療，関節外科，2004;23-9:109-116.

2005年度

A.1. 石橋恭之，津田英一：解剖学的２重束後十字靭帯再建術 . 関節外科（2005）24:1354-1359.

A.2. 石橋恭之，津田英一，藤　　哲：肘離断性骨軟骨炎に対する手術療法―固定術と骨軟骨移植術―．関節外科（10月増刊号）（2005）24:122-129.

A.3. 石橋恭之，津田英一：膝関節周辺の過労性障害に対する治療．MB Orthop（2005）18:80-88.

A.4. 津田英一，石橋恭之：Radio Frequency による膝関節軟骨，半月の治療．臨床スポーツ医学（2005）22:513-518.

A.5. 津田英一，石橋恭之，岡村良久：ACL 損傷の予防―その指導―．臨床スポーツ医学（2005）22:225-232.

A.6. 藤　　哲，西川真史，小川太郎，神　裕道：小児下肢変形に対する手術療法．新 OS NOW，2005;26:183-191.

A.7. 神　裕道，藤　　哲：特集／四肢先天異常診療マニュアル PEPARS 2005;50-58.

A.8. 藤　　哲，西川真史，三浦一志：特集　低侵襲手術　手の外科領域における低侵襲手術．New Mook 整形外科 2005;19:33-49.

A.9. 藤　　哲：Useful Surgical Approach ―定型からオリジナルまで　肘関節への内側アプローチ．新 OS NOW 2005;28:64-68.

A.10. 中村吉秀，中田善博，秋田　譲，藤　　哲，片野　博：大腿骨頭壊死症に対する血管柄付き腸骨移植術．別冊整形外科 2005;48:159-165.

A.11. 藤　　哲：手関節部疼痛性疾患―その診断と治療．M B Orthop. 2005，18巻―――編集

A.12. 西川真史，藤　　哲：手関節ガングリオンの診断と治療．痛みと臨床，2006;6:10-17.

B.1. 井上貞宏，藤　　哲，西川真史：上腕骨外顆骨折の治療．M B Orthop.　2005;18:10-17.

（3）著書

英文

2004年度

A.1. Yasuyuki Ishibashi, Yuji Yamamoto: History of arthroscopy. Textbook of Arthroscopy, Sauders, Miller MD, Cole BJ, ed, 2004:2-7.

2005年度

A.1. Toh S., Ceruso M., Nakamura R., Raimondi. PL.: What's New in Hand and Reconstructive Surgery? Hirosaki University Press. Hirosaki. 2005.

A.2.# Kaneko S, Toh S., Sasaki M., Fukuda I, Nakane A., Sato K.: What's New in Organ Transplantation? Hirosaki University Press, Hirosaki. 2005.

和文

2004年度

A.1. 藤　　哲：第8章整形外科の治療 section4 運動器と神経の手術　C 腱の手術，岩本幸英・落合直之・木村友厚・富田勝郎・戸山芳昭・中村孝志編集，整形外科学・外傷学　改訂第7版，231-235，文光堂，東京，2005．

A.2. 藤　　哲：第8章整形外科の治療 section4 運動器と神経の手術　D 骨の手術，岩本幸英・落合直之・木村友厚・富田勝郎・戸山芳昭・中村孝志編集，整形外科学・外傷学　改訂第7版，231-235，文光堂，東京，2005．

A.3. 藤　　哲：第8章整形外科の治療 section8 麻酔（伝達，浸潤），岩本幸英・落合直之・木村友厚・富田勝郎・戸山芳昭・中村孝志編集，整形外科学・外傷学　改訂第7版，231-235，文光堂，東京，2005．

A.4. 藤　　哲：第11章整形外科外傷学 section　6 血管損傷，岩本幸英・落合直之・木村友厚・富田勝郎・戸山芳昭・中村孝志編集，整形外科学・外傷学　改訂第7版，231-235，文光堂，東京，2005．

A.5. 西川真史：手根管症候群，今日の治療指針2004年版，2004，医学書院，東京都，728-729．

2005年度

A.1. 藤　　哲：JBJS 手関節：用語と定義（訳本）JBJS 手関節：用語と定義（訳本）2005藤　哲・小川太郎　弘前大学出版会　弘前　2005．

A.2. 西川真史，藤　　哲：手根管症候群に対する手術的治療　整形外科術前・術後のマネージメント第2版 2005，146-149　松井宣夫・平澤泰介監修・伊藤達雄・大塚隆信・久保俊一編集医学書院．東京．

A.3. 藤　　哲：パンナー病．整形外科　診療実践ガイド　2006，598-600，守屋秀繁・糸満盛憲・内田淳正・荻野利彦・黒坂昌弘・戸山芳昭，文光堂，東京．

A.4. 藤　　哲：末梢神経損傷．TEXT 整形外科　改訂3版　2006，412-420，糸満盛憲　早乙女紘一　守屋秀繁，南山堂，東京．

A.5. 藤　　哲：胸郭出口症候群．TEXT 整形外科　改訂3版，2006，430-437　糸満盛憲　早乙女紘一　守屋秀繁，南山堂，東京．

A.6. 藤　　哲：II 外傷性疾患（スポーツ障害を含む）槌　指．改訂版　整形外科専門医をめざすのための経験すべき外傷・疾患97　2006，29-32，菊地臣一・中村利孝・越智光夫，メジカルビュー社，東京．

A.7. 石橋恭之：ACL 損傷の手術治療．膝関節外科の要点と盲点．文光堂，黒坂昌弘編（2005）：106-113．

B.1. 對馬祥子，大溝昌章，藤　　哲：部位別，主要整形外科疾患の理学療法　手・手指．リハ実践テクニック骨・関節疾患の理学療法，2005，72-111，島田洋一，高橋仁美編，メジカルビュー社，東京．

（4）その他

英文

2004年度

A.1. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Kazuhiro Sasaki, Hideki Sato, Satoshi Toh: Opening-wedge osteotomy for revision of failed closing -wedge high tibial osteotomy A case report. J Bone Joint Surg Am. 2004; 86: 2045-2049.

2005年度

A.1. Hideki Satoh, Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Kazuhiro Sasaki, Satoshi Toh: Total knee arthroplasty for gonarthrosis with patellar dislocation. J Orthop Sci (2005)10:656-660.

A.2. Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Hideki Satoh, Satoshi Toh: Posterolateral Bundle Reconstruction for Rotatory Instability after Revision Anterior Cruciate Ligament Surgery: A Case Report. J Orthop Sci (2005) 10:546-549.

A.3. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Hideki Sato, Yuji Yamamoto, Satoshi Toh: Osteochondral autograft tranplantation for osteochondritis dissecans of the capitellum in nonthrowing athletes. Arthroscopy (2005) 21: 1270.e1-e4.

B.1.# Kusumi T, Nishikawa S, Tanaka M., Ogawa T., Jin H., Sato F., Toh S., Hasegawa T., Kijima H.: Low-grade fibromyxoid sarcoma arising in the big toe Pathology international. 2005;55:802-806.

B.2. Kubota Y, Tsubo K, Toh S, Ogawa T: Vastus Medialis Muscle Flap and Hemi V-Y Skin Flap for Knee Extensor and Soft Tissue Reconstruction ANN Plas Surg, 2006;56:196-199.

和文

2004年度

A.1. 工藤　悟，西川真史，小川太郎，藤　　哲，森川泰仁：相撲の股割りによる坐骨神経麻痺の1例，青森スポ研誌，2004;13:7-8.

A.2. 石橋恭之，田澤浩司，津田英一，佐藤英樹，藤　　哲：膝前十字靭帯再建術後の不安定性残存に対する後外側線維束再建法．青スポ研誌．2004;13:1-3.

A.3. 沼沢拓也，岡田晶博，横山　徹，油川修一，斎藤　啓，藤　　哲：胸椎 OPLL 後方手術例の検討― MRI による脊髄面積と臨床成績との関連．厚生労働科学研究費補助金，難治性疾患克服研究事業，脊椎後縦靭帯骨化症に関する調査研究，平成15年度総括報告書，2004，p165

A.4. 横山　徹：側弯症手術の最新治療情報．難病と在宅ケア．―特集筋ジストロフィーは今―　2004;26-29.

A.5. 藤　　哲：骨粗鬆症と骨折―病態と予防 弘大しらぎく 2004;47:4-5.

A.6. 三井博正，中村吉秀，藤　　哲，熊沢やすし：思春期スポーツ選手に発生した大腿骨頭骨軟骨病変の2例．Hip Joint 2004;30:190-194.

A.7. 山崎義人，中村吉秀，三井博正，越後谷直樹，佐藤　衛：CHS の術後合併症により人工骨頭置換術を行った大腿骨頸部外側骨折3症例の検討．東北整形災害外科学会雑誌（1348-8694）48巻1号 Page103（2004.06）

A.8. 徳谷　聡，佐藤隆弘，中島菊雄，湯川昌広，古島弘三，石橋恭之，田澤浩司：前十字靭帯，膝蓋腱同時損傷に，健側骨付き膝蓋腱を用いて膝蓋腱を再建した1例．膝．2004;29:138-141.

A.9. 南雲　明，石橋恭之，津田英一，坪　健司：高位脛骨骨切り術後における人工膝関節置換術に対し reversed tibial flip autograft technique を用いた1例．膝．2004;139-141.

B.1. 増田敏光，別府諸兄，石井庄次（以上聖マリアンナ医科大学），熊沢やすし，藤　　哲：両側大腿骨頭壊死症に対し骨頭回転骨切り術と血管柄付き腸骨移植術を併用した1例，Hip Joint 2004;30:414-417.

B.2. 塚原　聡，三束武司，藤　　哲，片野　博：関節リウマチに対する半拘束型人工肘関節置換術の3例．臨床リウマチ 2004;16:224-229.

B.3. 齋藤兄治，横山隆文，福田　陽，長沼慎二，小松　尚，伊藤淳二，中村吉秀：実験的大腿骨頭壊死におけるリセドロネートの効果．青森県立中央病院医誌 2004;49:89-90.

2005年度

A.1. 津田英一，石橋恭之，田澤浩司，佐藤英樹，藤　　哲：上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対して自家骨軟骨移植術を行った非投球スポーツ選手の3例．スポーツ傷害（2005）10:19-21.

A.2. 佐藤英樹，石橋恭之，田澤浩司，津田英一，藤　　哲：Knotless suture anchor を用いて鏡視下 Bankart 再修復を行った2例．関節鏡（2005）30:205-209.

A.3. 八重垣誠，熊沢やすし，中村吉秀，三井博正，藤　　哲，横山隆文：心内膜炎に合併して殿筋内腫瘤性病変を呈した上臀動脈瘤の1例．東北整災誌 2005;49:50-53.

B.1.# 中村典雄，白戸研一，熊坂隆一郎，奥村　謙，石橋恭之，津田英一：原因不明の横紋筋融解症による急性腎不全の1例．内科（2005）96:398-400.

B.2. #伊藤郁恵，塚本利昭，石橋恭之，佐藤英樹：ボウリング選手の腱板完全断裂に対する鏡視下修復術後リハビリテーション．青森スポ研誌（2005）14:29-32.

B.3. 三浦一志，藤　　哲：軽微な外傷により発症した劇症型A群溶連菌感染症と考えられた1例．青労医誌 2005;15:75-80.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Arthroscopy	1.616	1	1.616
Journal Reconstructr Microsurg	0.715	1	0.715
J Pediatric Orthop B	0.347	1	0.347
J Orthop Sci	0	1	0
Arthroscopy	1.616	1	1.616
Spine	2.676	1	2.676
Modern Rheumatol	0	1	0
Key Engineering Materials	0.284	1	0.284
Total		8	7.254

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc	1.182	1	1.182
Orthopedics	0.553	1	0.553
Arthroscopy	1.582	1	1.582
Clin Orthop Relat Res,	1.403	2	2.806
Spine	2.299	1	2.299
Eur Spine J.	1.458	1	1.458
Connect Tissue Res.	1.149	1	1.149
Spine	2.299	1	2.299
. J Orthop Sci	0	1	0
Key Engineering Materials	0.278	1	0.278
Total		11	13.606

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
整スポ会誌	0	2
肩関節	0	1
骨・関節・靭帯	1	1
東北整災誌	0	1
Osteoporosis Jpn	0	1
Hip Joint	1	1
日手会誌	3	2
青森スポ会誌	0	1
日本肘会誌	0	1
関節外科	3	3
MB Orthop	1	3
臨床スポーツ医学	1	2
新 OS NOW	1	2
PEPARS	0	1
New Mook 整形外科	0	1
別冊整形外科	0	1
痛みと臨床	0	1
臨整外	4	0
関節鏡	4	0
膝	1	0
日本人工関節学会誌	1	0
計	21	25

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	2
分担執筆	1	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	1
分担執筆	5	7

3．その他（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Bone Joint Surg Am	1.912	1	1.912
Total		1	1.912

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Orthop Sci	0	2	0
Arthroscopy	1.582	1	1.582
Pathology international	1.073	1	1.073
ANN Plas Surg	0.9	1	0.9
Total		5	3.555

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
Hip Joint	2	0
弘大しらぎく	1	0
膝	2	0
東北整災誌	1	1
臨床リウマチ	1	0
青森県立中央雑誌	1	0
脊椎後縦靭帯骨化症に関する調査研究平成15年度総括報告書	1	0
青森スポ研誌	2	1
スポーツ障害	0	1
関節鏡	0	1
内科	0	1
青労医誌	0	1
計	11	6

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

A.1. Toh S: Combined hand injury and its treatment, 17th Annual Congress Hong Kong Society for Surgery of the Hand, Hong Kong, 2004. 05. 15-16

A.2. Shinji Nishikawa, Nobuyasu Asaoka, Masahiro Tobe, Luncheon Seminar: The use of calcium phosphate bone cement in hand surgery APFSSH 5回 2004. 11.13. Osaka, JAPAN

A.3. Toru Yokoyama, Shuichi Aburakawa, Akira Saito, Takuya Numasawa, Satoshi Toh: Relationship between spinal cord area and symptom. 56th Annual international congress of the Egyptian orthopaedic association combined with 10th Pan Arab Orthopaedic Association Congress. Egypt. 2004.

A.4. Toru Yokoyama, Shuichi Aburakawa, Akira Saito, Takuya Numasawa, Satoshi Toh: Progression of cervical laminoplasty. 56th Annual international congress of the Egyptian orthopaedic association combined with 10th Pan Arab Orthopaedic Association Congress. Egypt. 2004.

A.5. Toru Yokoyama, Shuichi Aburakawa, Akira Saito, Takuya Numasawa, Satoshi Toh: Neurological findings for screening thoracic myelopathy. 56th Annual international congress of the Egyptian orthopaedic association combined with 10th Pan Arab Orthopaedic Association Congress. Egypt. 2004.

B.1. Toh S: Fracture distal radius-Current Operative treatment and technique Surgical Pearl, 17th Annual Congress Hong Kong Society for Surgery of the Hand, Hong Kong, 2004.05.15-16

B.2. Toh S: Metacarpal Fracture- Indication and choice of operative treatment, 17th Annual Congress Hong Kong Society for Surgery of the Hand, Hong Kong, 2004.05.15-16

B.3. Toh S: Scaphoid fracture and non-union: Percutaneous screw fixation of scaphoid fracture, 17th Annual Congress Hong Kong Society for Surgery of the Hand, Hong Kong, 2004.05.15-16

B.4. Toh S: Free hand insertion of the screw for the scaphoid fracture, Post-IFSSH Congress 2004, Bucharest, Romania, 2004.06.19-21

B.5. Toh S: Jin M, Free hand insertion of the screw for the scaphoid fracture, 14th Triennial Congree APOA 2004, Kuala Lumpur, Malaysia, 2004.09.5-10

B.6. Toh S: Jin M,Congenital Pseudoarthrosis of the Tibia treated by free vascularized bone grafting,14th Triennial Congree APOA 2004, Kuala Lumpur, Malaysia, 2004.09.5-10

B.7. Toh S: Percutaneous Fixation of Scaphoid Fractures using Imaging, 4th Combined Meeting of the American and Japanese Societies for Surgery of the Hand, Honolulu, Hawaii, 2005.03.19-22

C.1. S. Nishikawa, S. Toh, S. Kudoh,T. Ogawa, M. Wada: Arthroscopic diagnosis and treatment for chronic pain of metacarpopharangeal joint, 2004. 06.13-17, 9th Congress of the IFSSH, Budapest, Hungary

C.2. S. Kudoh,T. S. Nishikawa, H. Miura, Ogawa, M. Wada, S. Toh,: The influence of ulnar plus variance on TFCC tears and clinical results of arthroscopic surgery. 2004. 06.13-17, 9th Congress of the IFSSH, Budapest, Hungary

C.3. T. Ogawa, S. Nishikawa, H. Miura, S. Kudoh, S. Toh: Arthroscopic resection of palmer wrist ganglion. 2004. 06.13-17, 9th Congress of the IFSSH, Budapest, Hungary

C.4. M. Wada, S. Nishikawa, H. Miura, S. Kudoh, T. Ogawa, T. Sugawara, R. Uesato, S. Toh: Examination of arthroscopic and radiographic findings of scaphoid fracture. 2004. 06.13-17, 9th Congress of the IFSSH, Budapest, Hungary

C.5. S. Toh, S. Nishikawa, S. Kudoh,T. Ogawa, K. Tsubo: Free hand screw insertion for the scahpoid fracture: analysis of 103 cases. 2004. 06.13-17, 9th Congress of the IFSSH, Budapest, Hungary

C.6. Shinji Nishikawa, Satoshi Toh, Satoru Kudoh,Taro Ogawa, Masayuki Wada: Arthroscopic diagnosis and treatment for chronic pain of metacarpophalangeal joint, APFSSH 5回 2004.11.12-15. Osaka, JAPAN

C.7. Satoru Kudoh, Shinji Nishikawa, Shynsuke Nrita, Taro Ogawa, Satoshi Toh: The influence of ulna plus variance on TFCC tears and clinical results of arthroscopic surgery, APFSSH 5回 2004. 11.12-15. Osaka, JAPAN

C.8. Taro Ogawa, Shinji Nishikawa, Satoru Kudoh, Satoshi Toh: Operative treatment of lunotriquetral joint instability in 5 patients. . APFSSH 5回 2004. 11.12-15. Osaka, JAPAN

C.9. Tsuda E, Ishibashi Y, Sato H, Miura K, Toh S: Change in Patellar Height After the Opening Wedge High Tibial Osteotomy. 11th European Society of Sports Traumatology, Knee Surgery and Arthroscopy, Athens, 2004.5.5-8

C.10. Tsuda E, Ishibashi Y, Sato H, Miura K, Toh S: Does opening wedge high tibial osteotomy without transection of the medial collateral ligament increase contact force IN the medial tibiofemoral compartment? 51st Orthopaedic Research Society, Washington DC, 2004.2.20-23

C.11. Toru Yokoyama, S. Aburakawa, K. Takeuchi, A. Saito, T. Numasawa, A. Okada, K. Ueyama, S. Toh: The length of the cervical spinal cord in dynamic motion with asymptomatic young adults. Cervical Spine Research Society Europe section. Porto. 2004

C.12. Kazunari Takeuchi, Toru Yokoyama, Akihiro Okada, Shuichi Aburakawa, Akira Saito, Takuya Numasawa, Satoshi Toh: Unexpected C2-C3 union after C1-C2 posterior fusion. Cervical Spine Research Society Europe section. Porto. 2004

C.13. Toru Yokoyama, Kazunari Takeuchi, Akihiro Okada, Shuichi Aburakawa, Akira Saito, Takuya Numasawa, Satoshi Toh: Neurological findings for screening thoracic myelopathy. North American Spine Society, 18th annual Meeting. Chicago. 2004

C.14. Kazunari Takeuchi, Toru Yokoyama, Shuichi Aburakawa, Akira Saito, Takuya Numasawa, Akihiro Okada, Satoshi Toh: Axial Symptoms after Cervical Laminoplasty with C3 Laminectomy Preserving the Semispinalis Cervicis Insertion into C2. Cervical spine research society, 31th annual meeting. Boston. 2004

C.15. Toru Yokoyama, Shuichi Aburakawa, Kazunari Takeuchi, Akira Saito, Takuya Numasawa, Akihiro Okada, Satoshi Toh, Kazumasa Ueyama: Quantitative Analysis of the Cervical Spinal Cord Rotation in Dynamic Axial Rotation with Asymptomatic Young Adults. Cervical spine research society, 31th annual meeting. Boston. 2004

2005年度

A.1. Toh S.: A quarter century of advancement in vascularized bone grafts in the orthopaedic field　2005.12.07 ベオグラード大学医学部創立85周年記念講演会　セルビア・モンテネグロ　招待講演

A.2. Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Koji Tazawa, Hideki Sato, Satoshi Toh: Intra-operative evaluation of double bundle anterior cruciate ligament reconstruction using navigation system, Expertise of orthopedic navigation, Scotland.

B.1. Toh S.: Percutaneous Fixation of the Scaphoid Fractures,14th Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium, Karuizawa (Nagano).2005.04.8-10

B.2. Toh S.: Percutaneous Fixation of the Scaphoid Fractures　2005.11.05-08　第23回SICOT(国際整形外科会議) Turkey

C.1. Toh S.: Congenital pseudoarthrosis of the tibia treated by free vascularized fibula graft　2005.10.23-27　世界マイクロサージャリー学会　Argentina

C.2. Sugawara T., Toh S.: Detachable microvascular pulse monitouring probe with intsegrated shape memory alloy thin film actuator　2005.10.23-27　世界マイクロサージャリー学会　Argentina

C.3. Miura H., Toh S. S. Nishikawa, S. Kudoh : Arthroscopic resection of dorsal wrist ganglia from 4/5 and 6R viewing portals　2005.11.05-08　第23回 SICOT（国際整形外科会議） Turkey　一般演題

C.4. Miura H., Toh S. K. Tsubo, Nishikawa S. Kudoh S.: Reconstruction of the infected non-unions of the tibia with vascularized fibula grafts 2005.11.05-08　第23回 SICOT（国際整形外科会議） Turkey　一般演題

C.5. Nishikawa S., Toh S. et al.: Clinical application of metacarpophalangeal joint arthroscopy.　2005.11.05-08　第23回 SICOT（国際整形外科会議） Turkey　一般演題

C.6. Nishikawa, S., Toh S. et al.: Clinical application of metacarpophalangeal joint arthroscopy.　2005.11.05-08　第23回 SICOT（国際整形外科会議） Turkey　一般演題

C.7. Tsuda E, Ishibashi Y, Tazawa K, Sato H, Toh S: Anteromedial tibial tubercle transfer with Fulkerson osteotomy for patellofemoral malalignment: The clinical and radiographic outcome with a minimum 2-year follow-up. 7th European Federation of National Association of Orthopaedics and Traumatology, Lisbon, 2005. 6. 4-7

C.8. Tsuda E, Ishibashi Y, Sato H, Toh S: The Short-Term Results of Lateralized Single-Route Reconstruction With a Patellar Tendon Graft and Anatomical Two-Route Reconstruction With a Hamstrings Tendon Graft to Treat Anterior Cruciate Ligament-Deficiency. 5th International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopaedic Sports Medicine, Hollywood, 2005. 4. 3-7

C.9. T. Yokoyama, K. Takeuchi, S. Aburakawa, A. Saito, T. Numasawa, K. Ueyama, S. Toh: Longitudinal distance and disc degeneration of cervical spine after laminoplasty. 21st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society European Section, Rome (Italy), 2005

C.10. T. Yokoyama, S. Aburakawa, K. Takeuchi, A. Saito, T. Numasawa, S. Toh. K: Ueyama, Longitudinal length of the cervical spinal cord at flexion-extension in patients with cervical spondylotic myelopathy. 21st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society European Section, Rome (Italy), 2005

C.11. K. Takeuchi, T. Yokoyama, S. Aburakawa, A. Saito, T. Numasawa, T. Itabashi, A. Okada, S. Toh: Postoperative range of motion of the cervical spine after C4-7 laminoplasty with C3 laminectomy preserving the semispinalis

cervicis inserted in C2. 21st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society European Section, Rome (Italy), 2005

C.12. A. Saito, T. Yokoyama, S. Aburakawa, T. Numasawa, A. Okada, S. Toh: Discrepancy between pin prick and soft touch in patients with cervical compressive myelopathy. 21st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society European Section, Rome (Italy), 2005

C.13. T. Yokoyama, S. Aburakawa, A. Ono, K. Takeuchi, T. Numasawa, S. Toh: Related factors of the posterior muscle areas of the cervical spine. 33rd Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society, San Diego (USA), 2005

C.14. Atsushi Ono, Futoshi Suetsuna, Tomoyuki Irie: Clinical significance of the redundant nerve roots of the cauda equina on magnetic resonance imaging　第20回 North American Spine Society, Philadelphia, USA, 2005.9/27-10/1

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 藤　　哲：指屈筋腱損傷の治療，第74日本整形外科学会学術集会，神戸市，2004.05.20-23.

A.2. 藤　　哲：手関節部外傷の診断と治療，第37回中国・四国整形外科学会，高松市，2004.11.20.

A.3. 西川真史：手関節鏡の実際．2004.8.28新潟関節鏡セミナー，新潟市

B.1. 西川真史：パネルデスカッション：手関節部の痛み手関節周辺疾患に対する手関節鏡の応用，2004.5.20-23 日本整形外科学術集会総会　77回　神戸市

B.2. 石橋恭之：Navigationを併用したACL再建術．第22回膝関節フォーラム，東京，2004.7.11.

B.3. 中村吉秀，中田善博，秋田　護，藤　　哲，熊沢やすし，片野　博：大腿骨頭壊死症に対する血管柄付き腸骨移植術，第31回日本股関節学会，2004.10.15,16　長崎市　進藤裕幸　長崎大学　シンポジウム

B.4. 津田英一，石橋恭之，佐藤英樹，三浦和知，藤　　哲：膝蓋腱，膝屈筋腱を用いた前十字靭帯再建術―大腿骨孔外側設置再建法および解剖学的二重束再建法の短期成績―．日本整形外科スポーツ医学会，東京，2004.7.2-3

B.5. 津田英一，石橋恭之，田澤浩司，佐藤英樹，藤　　哲：ACL損傷ガイドライン―エビデンス・レベルとエビデンスの価値付け―．日本膝関節学会，東京，2005.2.11-12

B.6. 竹内和成，横山　徹，油川修一，斎藤　啓，岡田晶博，藤　　哲，伊藤淳二，植山和正，三戸明夫，佐藤隆弘，富田　卓：C3椎弓切除による頚椎拡大術―C2頚半棘筋完全温存のために―．日本脊椎脊髄病学会．東京．2004

C.　49件

2005年度

B.1. 石橋恭之：膝関節周囲に発生する骨壊死性病変の病態 -review-, 膝関節フォーラム，東京，2005

B.2. 津田英一，石橋恭之，藤　　哲，岡村良久：高校バスケットボール選手を対象としたACL損傷予防への取り組み．日本整形外科スポーツ医学会．奈良市，2005.7.1-2

B.3. 津田英一，石橋恭之，福田　陽，塚田晴彦，藤　　哲：膝蓋骨不安定症に対する脛骨粗面前内方移行術（Fulkerson法）の成績．膝関節フォーラム，東京，2005.6.11

B.4. 横山　徹，竹内和成，油川修一，斎藤　啓，沼沢拓也，岡田晶博，伊藤淳二，植山和正，藤　　哲：頚椎OPLLに対する拡大術の問題点．第78回日本整形外科学会学術総会．横浜市，2005. 日整会誌，2005, 79, S215.

C.　16件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2004年度

日伊（医学部）政府間科学技術協定に基づく国際共同研究：大菱形中手骨関節の解剖学的及び機能的特徴についての研究―病態の解明と治療方針の決定（ミラノ大学）

2005年度

1. 日伊（医学部）政府間科学技術協定に基づく国際共同研究：大菱形中手骨関節の解剖学的及び機能的特徴についての研究―病態の解明と治療方針の決定（ミラノ大学）
   代表：藤　　哲
2. Department of Orthopaedic Surgery, The Medical College of Wisconsin. Pre-clinical biomechanical evaluation of the range of motion analysis of post laminoplasty cervical spine.
   代表 Toru Yokoyama.

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

1. 津田英一，藤　　哲，岡村良久，石橋恭之，小松尚，佐藤英樹：膝前十字靭帯損傷の発生要因と予防に関する研究―特に関節位置覚との関連性について　3,700千円

2005年度

研究代表者として

1. 日本学術振興会科学研究補助金．基盤研究（B）膝前十字靭帯断裂の発生要因と予防に関する研究―特に関節位置覚との関連性について―　津田英一　900,000円

（2）その他の省庁からの研究費

2004年度

他研究単位との研究分担者として

1. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金．後縦靭帯骨化症に関する調査研究
   代表：中村耕三　分担　藤　　哲　1,000千円

2005年度

他研究単位との研究分担者として

1. 平成17年度厚生労働科学研究費補助金．後縦靭帯骨化症に関する調査研究
   代表：中村耕三　分担　藤　　哲　1,000千円

（3）学内の研究助成

2004年度

他研究単位との研究分担者として

1. 学長指定重点研究:「循環器系外科手術支援システムの開発」研究代表者:宮田　寛　初年度　4,500千円（全体で）
2. 戦略的経費「脊椎疾患・外傷の治療に有効な固定術に関する生体力学的研究」研究代表者:宮田　寛　2,500千円（全体で）

（4）民間の研究助成

2004年度

他研究単位との研究分担者として

1. 石橋恭之：軟骨再生における新素材としての軟骨由来PGの応用．弘前都市エリア産学官連携促進事業推進事業（研究代表者：高垣啓一）

2005年度

他研究単位との研究分担者として

1. 石橋恭之：軟骨再生における新素材としての軟骨由来PGの応用．弘前都市エリア産学官連携促進事業推進事業（研究代表者：高垣啓一）

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

2004年度

会長：藤　　哲　第1回日本イタリア手の外科合同会議
2004.11.14　大阪国際交流センター
実行委員長：藤　　哲　第8回弘前国際医学フォーラム　2004.11.14―15弘前市

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2004年度

2004.5.26 Miehlke PK(Germany)
2004.7.5 Stedtfeld HW(Germany)
2004.7.13-2005.2.24. 呉　方強（中国）
2004.9.13-19 Ahmet Karaoguzz (Turky)
2004.11.15 Massimo Cerso (Italy)

2004.11.15 Girogio Pajardi (Italy)

2005年度

2005.5.24 Loris Pegoli (Italy)
2005.7.4 Stedtfeld HW(Germany)
2005.7.12 Rolf Klaus Miehlke(Germanu)
2005.12.15 何　達（中国）

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2004年度

陳　鳳超（中国）2003.9-2005.03

2005年度

2005.9.26-10.13 Katja Semprimoznik (Slovenia)

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2004年度

石橋恭之　JOA-AOA traveling fellowship（米国）
小川太郎　Policlinico Multimedica イタリア（Milano）
山崎義人　General Hospital Celje スロベニア

2005年度

神　裕道　Policlinico Multimedica イタリア（Milano）
湯川昌広　General Hospital Celje スロベニア

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2004年度

三浦和知　ピッツバーグ大学　アメリカ

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2005年度

石橋恭之，日本膝関節フォーラム，東京

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

藤　哲　第15回青森県リウマチ懇話会（八戸市）2004.7.16
藤　哲　弘前大学整形外科月例会特別講演会（弘前市）2004.5.29
藤　哲　弘前大学整形外科月例会特別講演会（弘前市）2004.6.26
藤　哲　第15回青森県リウマチ懇話会（八戸市）2004.7.16
藤　哲　第32回青森県スポーツ医学研究会（八戸市）2004.8.28
藤　哲　第８回青森県骨粗鬆症研究会（青森市）2004.10.15
藤　哲　弘前大学整形外科月例会特別講演会（青森市）2004.10. ８
藤　哲　弘前大学整形外科月例会特別講演会（弘前市）2004.10.20
藤　哲　弘前大学整形外科月例会特別講演会（弘前市）2005. １.15
藤　哲　第28回骨を語る会（弘前市）2005.2.4
藤　哲　第31回青森県スポーツ医学研究会（青森市）2004.3.6
後　援　第１回青森手の外科懇話会（青森市）2005.2.25
藤　哲　第11回骨軟骨シンポジウム（青森市）2005.3.4

2005年度

石橋恭之，東北膝関節研究会，仙台市
石橋恭之，東北肩関節研究会，仙台市
藤　哲　弘前大学整形外科月例会特別講演会（弘前市）2005.4.9

藤　　哲　　弘前大学整形外科月例会特別講演会（弘前市）2005.5.21
藤　　哲　　弘前大学整形外科月例会特別講演会（弘前市）2005.7.16
藤　　哲　　第32回青森県スポーツ医学研究会（青森市）2005.8.27
藤　　哲　　弘前大学整形外科月例会特別講演会（弘前市）2005.9.17
藤　　哲　　第9回青森県骨粗鬆症研究会（青森市）2005.10.07
藤　　哲　　弘前大学整形外科月例会特別講演会（弘前市）2005.10.15
藤　　哲　　弘前大学整形外科月例会特別講演会（弘前市）2006. 1 .14
藤　　哲　　弘前大学整形外科月例会特別講演会（弘前市）2006.2.18
藤　　哲　　第29回骨を語る会（弘前市）2006.2.24
藤　　哲　　第12回骨軟骨シンポジウム（青森市）2006.3.3
藤　　哲　　弘前大学整形外科月例会特別講演会（弘前市）2006.3.18

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

2004年度

1．2004.6.22-23　普天間　朝上　琉球大より研修
2．2004.6.22-23　大城　瓦　琉球大より研修

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

2004年度

1．塚原　宗　東京大学医科科学研究所

2005年度

1．塚原　宗　東京大学医科科学研究所

Ⅶ．その他

なし

25. 皮膚科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

苦痛のない治療を目指す。具体的にはアトピー性皮膚炎の光線治療，遺伝子治療，皮膚癌に対する光力学療法の分子生物学的機序の解明

【到達度】80％

理念：

太陽光により引き起こされた皮膚障害は光で治す。

これから２年間の目標：

苦痛のない治療を目指す。具体的にはアトピー性皮膚炎の光線治療，遺伝子治療，皮膚癌に対する光力学療法の分子生物学的機序の解明。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　4，大学院学生　4，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	花田　勝美	平成22年3月31日
	助教授	専　任	中野　　創	平成22年3月31日
	講　師	専　任	原田　　研	平成22年3月31日
	講　師	専　任	松﨑　康司	平成23年3月31日
	助　手	専　任	金子　高英	平成18年3月31日
	助　手	専　任	武田　仁志	平成21年3月31日
	助　手	専　任	中島　康爾	平成21年3月31日
	助　手	専　任	横山　祥平	平成21年3月31日
研究課題	１．表皮細胞における紫外線の遺伝子発現に及ぼす影響 ２．遺伝性皮膚疾患の遺伝子変異解析 ３．転移性悪性黒色腫に対する新しい治療法の開発			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　1，助手　5，医員　9，大学院学生　7，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	花田　勝美	平成22年3月31日
	助教授	専　任	中野　　創	平成22年3月31日
	講　師	専　任	松﨑　康司	平成22年3月31日
	助　手	専　任	金子　高英	平成23年3月31日
	助　手	専　任	会津　隆幸	平成18年3月31日
	助　手	専　任	森次　龍太	平成21年3月31日
	助　手	専　任	武田　仁志	平成21年3月31日
	助　手	専　任	中島　康爾	平成21年3月31日
研究課題	１．表皮細胞における紫外線の遺伝子発現に及ぼす影響 ２．転移性悪性黒色腫に対する新しい治療法の開発			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Kikuchi T, Mitsuhashi Y, Matsuzaki Y, Kaneko T, Nakano H, Takeda H, Moritsugu R, Hanada K: Altered keratinocyte-fibroblast interactions in psoriasis revealed by a combined cell-culture. Hirosaki Med J 2004 56(1):1-8.

A.2. Odanagi M, Kikuchi Y, Yamazaki T, Kaneko T, Nakano H, Tamai K, Uitto J, Hanada K: Transcriptional regulation of the 230-kDa bullous pemphigoid antigen gene expression by interferon regulatory factor 1 and interferon regulatory factor 2 in normal human epidermal keratinocytes. Experimental Dermatology 2004;13:773-9.

A.3. Takeda H, Kon A, Ito N, Sawamura D, Takagaki K, Hashimoto I, Hanada K: Keratinocyte-specific modulation of type Ⅶ collagen gene expression by pro-inflammatory cytokines (tumor necrosis factor-α and interleukin-1β). Experimental Dermatology 2005;14:289-94.

B.1. Wakabayashi T, Hu DL, Tagawa Y, Sekikawa K, Iwakura Y, Hanada K, Nakane A: *INF-γ and TNF-α are involved in urushiol-induced contact hypersensitivity in mice. Immunology and Cell Biology 2005;83:18-24.

B.2. Yamazaki T, Nakano H, Hayakari M, Tanaka M, Mayama J, Tsuchida S: *Differentiation Induction of Human Keratinocytes by Phosphatidylethanolamine-Binding Protein J Biol Chem 2004;279(31):32191-5.

2005年度

A.1. Takeda H, Kon A, Ito N, Sawamura D, Takagaki K, Hashimoto I, Hanada K: Keratinocyte-specific modulation of type Ⅶ collagen gene expression by pro-inflammatory cytokines (tumor necrosis factor-α and interleukin-1β). Experimental Dermatology 2005;14:289-94.

A.2. Takeda H, Kaneko T, Harada K, Matsuzaki Y, Nakano H, Hanada K: Successful treatment of lymphadenosis benigna cutis with topical photodynamic therapy with delta-aminolevulinic acid. Dermatol 2005;211:264-6.

A.3. Matsuzaki Y, Nakano A, Jiang Q, Pulkkinen L, Uitto J: Tissu-specific expression of the ABCC6 gene. J Invest Dermatol 2005;125:900-5.

A.4. Yokoyama S, Nakano H, Yamazaki T, Tamai K, Hanada K, G Takahashi: Enhancement of ultraviolet-induced apoptosis by NF-κB decoy oligonucleotides. Br J Dermatol 2005;153(Suppl.2):47-51.

A.5. Kon A, Takeda H, Ito N, Hanada K, Takagaki K: Tissue-specific downregulation of type Ⅶ collagen gene (COL7A1) transcription in cultured epidermal keratinocytes by ultraviolet a radiation (UVA) and UVA-inducible cytokines, with spcial reference to cutaneous photoaging. J Dermatol Sci 2005;Suppl(1):29-35.

A.6. Nakano H, Ikenaga S, Aizu T, Kaneko T, Matsuzaki Y, Tsuchida S, Hanada K, Arima Y: Human metallothionein gene expression is upregulated by β-thujaplicin:possible involvement of protein kinase C and reactive oxygen species. Biol Pharm Bull 2006;29:55-9.

A.7. Yokoyama S, Nakano H, Nishizawa A, Kaneko T, Harada K, Hanada K: A case of photocontact urticaria induced by photodynamic therapy with topical 5-aminolaevulinic acid. J Dermatol 2005;32:843-7.

B.1. Wakabayashi T, Hu D, Tagawa Y, Sekikawa K, Iwakura Y, Hanada H, Nakane A: INF-γ and TNF-α are involved in urushiol-induced contact hypersensitivity in mice. Immunology and Cell Biology 2005;83:18-24.

C.1. Klement J, Matsuzaki Y, Jiang Q, Terlizzi J, Choi H, Fujimoto N, Li K, Pulkkinen L, Birk D, Sundberg J, Uitto J: Targeted ablation of the Abcc6 gene results in ectopic mineralization of connective tissues. Mol. Cell. Biol 2005;25:8299-310.

C.2. Nishizawa A, Nakanishi Y, Yoshimura K, Sasajima Y, Yamazaki N, Yamamoto A, Hanada K, Kanai Y, Hirohashi S: Clinicopathologic significance of dysadherin expression in cutaneous malignant melanoma. Immunohistochemical Analysis of 115 patients. Cancer 2005;103:1693-1700.

和文

2004年度

A.1. 中野　創：メタロチオネイン健康法．太陽紫外線防御研究委員会学術報告．2004;14(1):49-50.

2005年度

A.1. 近藤直子，花田勝美，榊　幸子，松中　浩：乾燥性皮膚に対する濃縮海水ミネラル成分（オリゴマリン®配合スキンケア製剤の安全性および有用性の検討．西日本皮膚 2005;67(2):173-8.

A.2. 花田勝美：光線過敏症．皮膚臨床 2005;47:1457-67.

C.1. 西澤　綾（国立がんセンター中央病院 皮膚科），山崎直也，山本明史，高橋　聡，吉野公二，並川健二郎：悪性黒色腫術後 DAVFeron 療法における骨髄抑制の出現様式について．日皮会誌 2005;115:2320-2.

C.2. 山崎直也（国立がんセンター中央病院 皮膚科），山本明史，高橋　聡，西澤　綾，吉野公二，並川健二郎：血管肉腫に対する Mesna, Adriamycin, Ifosfamide, Dacarbazine(MAID) 療法．日本皮膚科学会雑誌 2005;115:2299-301.

C.3. 西澤　綾，山崎直也，山本明史，高橋　聡，吉野公二，並川健二郎：悪性黒色種術後 DAVFeron 療法における骨髄抑制の出現様式について．日皮会誌 2005;115:2320-2.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 花田勝美：光老化―ほんとうにしわ，しみは不要か―．日皮会誌 2004;114(7):1257-1263.

A.2. 花田勝美：自然老化と光老化 BE Derma 2005;98:1-8.

2005年度

A.1. 花田勝美：自然老化と光老化．MB Derma 2005;98:1-8.

A2. 花田勝美：紫外線防御化粧品開発の最前線―臨床応用と将来の展望．日本化粧品技術者会誌 2005;39:180-5.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 花田勝美：内分泌・代謝疾患　亜鉛欠乏症（zinc deficiency）．カラーアトラス　皮膚診断の技法―皮膚を診ると全身が見える，岩月啓氏，宮地良樹編，診断と治療社，東京，初版，2004，230-231.

A.2. 森次龍太，花田勝美：Castleman's disease．最新皮膚科学体系 特別巻２　皮膚症候群，玉置邦彦編，中山書店，東京，第１版，64-65.

A.3. 原田　研，花田勝美：Nail-patella syndrome．最新皮膚科学体系特別巻２　皮膚症候群，玉置邦彦編，中山書店，東京，第１版，240.

A.4. 花田勝美，金子高英：栄養障害に見られる皮膚症状．最新皮膚科学体系特別巻１　新生児・小児・高齢者の皮膚疾患，玉置邦彦編，中山書店，東京，第１版，301-304.

A.5. 今　　淳，花田勝美：薬剤，中毒による脱毛症，毛髪疾患の最新の治療―基礎と臨床（植毛）―．平山　峻，金原出版株式会社，東京，第１版，96-99.

A.6. 花田勝美：慢性光線性皮膚炎．皮膚疾患最新の治療2005-2006，滝川雅浩，渡辺晋一編，南江堂，東京，86.

A.7. 原田　研，澤村大輔：表皮下水疱　水疱性類天疱瘡．最新皮膚科学大系　特別巻３　炎症性皮膚疾患の病理診断，玉置邦彦編，中山書店，東京，242-243.

A.8. 原田　研，花田勝美：表皮下水疱　晩発性皮膚ポルフィリン症．最新皮膚科学大系　特別巻３　炎症性皮膚疾患の病理診断，玉置邦彦編，中山書店，東京，244-245.

A.9. 原田　研：表皮下水疱　疱疹状皮膚炎．最新皮膚科学大系　特別巻３　炎症性皮膚疾患の病理診断，玉置邦彦編，中山書店，東京，246-247.

A.10. 今　　淳：表皮下水疱　線状 IgA 水疱症．最新皮膚科学大系　特別巻３　炎症性皮膚疾患の病理診断，玉置邦彦編，中山書店，東京，248-249.

2005年度

A.1. 花田勝美：慢性光線性皮膚炎．皮膚疾患最新の治療2005-2006，滝川雅浩，渡辺晋一編，南江堂，東京，86.

A.2. 花田勝美：光老化のメカニズム．光老化皮膚，川田暁編，南山堂，東京，2005，13−9.

A.3. 花田勝美：皮膚の老化．化粧品・外用薬研究者のための皮膚科学，宮地良樹，長沼雅子編，文光堂，東京，2005，49−53.

A.4. 金子高英：顔面の小腫瘤．美容皮膚科学，宮地良樹，松永佳世子，古川福実，宇津木龍一編，南山堂，東京，2005，614−21.

（4）その他

英文

2004年度

A.1. Harada K, Kambe Y, Takeda H, Nakano H, Hanada K: Angiolymphoid Hyperplasia with Eosinophilia: Successful Treatment with the Antiallergic Agent Suplatast Tosilate. Dermatology 2004;208:176-7.

2005年度

A.1. Yokoyama S, Nakano H, Kaneko T, Hanada K: A Japanese case of nuchal-type fibroma. J Dermatol 2005;32:931-2.

和文

2004年度

A.1. 花田勝美：弘前大学花田教授にきく　紫外線と肌．Weather magazine 2004年4月1日発行，4-5.

A.2. 池永五月，梅垣知子，武田仁志，金子高英，中野　創，花田勝美：壊死生遊走性紅斑の合併をみた膿疱性感染．皮膚病診療 2004;26(5):547-550.

A.3. 佐藤可代，小棚木麻衣子，原田　研，花田勝美：ベースギターの弦によるニッケル皮膚炎の１例．皮膚臨床 2004;46(6):889-891.

A.4. 皆川智子，武田仁志，原田　研，花田勝美：足蹠の潰瘍を主訴とした痛風の１例．皮膚臨床 2004;46(6):962-963.

A.5. 西村英恵，金子高英，水木大介，原田　研，今　　淳，花田勝美，伊藤　卓，四ツ柳高敏，鎌田義正：肛囲に Paget 現象を呈した肛門管癌の１例．臨床皮膚科 2004;58(8):674-677.

A.6. 西澤　綾，金子高英，玉井克人，花田勝美：腹部に限局した再発性環状紅斑様乾癬の１例．臨床皮膚科 2004;58(9):723-5.

A.7. 金子高英，中野　創，神戸有希，水木大介，原田　研，花田勝美，大熊洋輝，四ツ柳高敏，野村和夫：頭蓋骨破壊をみた熱傷瘢痕癌の１例．臨床皮膚科 2004;8(10):851-4.

A.8. 西澤　綾，金子高英，原田　研，花田勝美，楠美秋則：同側部位に２個の病変を認めた外歯瘻の１例．皮膚臨床 2004;46(4):692-693.

A9. 西澤　綾，間山　淳，梅垣知子，熊野高行，木村淳也，玉井克人，花田勝美．シクロスポリンの併用が奏効した難治性角層下膿疱症の１例．皮膚臨床 2003;46(9):1067-9.

A.10. 大嶋英恵，原田　研，花田勝美，今田吏津子，福士一彦：手背に生じた皮膚腺病の１例．臨床皮膚科 2004;58(12):1012-4.

A.11. 花田勝美：えっ！あれが初症例ですか？―重症型薬疹に対する本邦初の二重濾過血漿分離交換法．財団法人鷹揚郷創立30周年記念誌 2004;66-7.

A.12. 金子高英，中島康爾：特集プライマリケア医が知っておきたい皮膚病診療のコツ　Q＆A　ツツガムシ病の皮膚病変と治療法を教えて下さい．治療 2004;86(12):134.

A.13. 武田仁志，花田勝美：塩酸フェキソフェナジンの皮脂欠乏性湿疹に対する効果～かゆみスコアを用いた調査～．皮膚アレルギーフロンティア 2004;2(4):262-3.

A.14. 小棚木麻衣子，原田　研，水木大介，神戸有希，泉谷牧子，松﨑康司，中野　創，花田勝美：石灰化上皮腫の多発をみた Albright's Hereditary Osteodystrophy の１例．皮膚臨床 2004;46(8):1145-8.

A.15. 石川牧子，武田仁志，原田　研，花田勝美：慢性腎不全患者にみられた皮膚腺病の１例．皮膚臨床 2004;46(12):1950-1.

B.1. 松谷幸枝，川上民裕，河　陽子，馬場タカ子，相馬良直，大場有希子，豊巻由香，中野あおい，玉井克人，溝口昌子：Ⅶ型コラーゲン遺伝子のグリシンからバリンへのミスセンス変異が証明された前脛骨型表皮水疱症の１例．日皮会誌 2004;114(5):983-9.

C.1. 西澤　綾，谷口裕子，大滝倫子，滝野長平（国立がんセンター）：Laugier-Hunziker-Baran 症候群の１例．皮膚臨床2004;46(13):2078-9.

2005年度

A.1. 松﨑康司，小棚木麻衣子，滝吉典子，六戸大樹，原田　研，花田勝美：一部嚢腫状を呈した神経鞘腫の１例．臨床皮膚科 2005;59:667-9.

A.2. 中野　創：紫外線関連の最近のトピックス（論文報告より）．太陽紫外線防御研究委員会 2005;15:63-6.

A.3. 北村英夫，中島康爾，野村和夫：悪性リンパ腫加療後に瘢痕浸潤の形で皮膚サルコイド反応を生じた１例．臨床皮膚科 2005;59:1192-4.

C.1. 高橋　聡（国立がんセンター中央病院 皮膚科），山崎直也，山本明史，岩田浩明，西澤　綾，長谷川匡：臀部に生じた Superficial Leiomyosarcoma の１例．Skin Cancer 2005;20:154-7.

C.2. 岩田浩明（国立がんセンター中央病院 皮膚科），山崎直也，山本明史，高橋　聡，西澤　綾：Mesna, Doxorubicin, Ifosfamide, Dacarbazine 併用療法（MAID 療法）を施行した Stewart-Treves syndrome の１例．日皮会誌 2005;115:585-9.

C.3. 西澤　綾（国立がんセンター中央病院 皮膚科），山本明史，岩田浩明，高橋聡，山崎直也，中西幸浩，別府保男：【間葉系腫瘍・リンパ腫】IFO+ADR+CPM3剤併用化学療法を施行した類上皮肉腫の2例．皮膚臨床 2005;47:343-8.

（5）発表論文のまとめ

１．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Experimental Dermatology	2.303	2	4.606
J Bilol Chem	6.696	1	6.696
Immunology and Cell Biology	2.494	1	2.494
Total		4	13.796

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Experimental Dermatology	1.707	1	1.707
Dermatol	1.619	1	1.619
J Invest Dermatol	4.238	1	4.238
Br J Dermatol	2.445	1	2.445
J Dermatol Sci	1.477	1	1.477
Biol Pharm Bull	1.093	1	1.093
J Dermatol	0.66	1	0.66
Immunology and Cell Biology	2.618	1	2.618
Total		8	15.857

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
太陽紫外線防御研究委員会学術報告	1	
日皮会誌	1	
BE Derma	1	
西日本皮膚科		1
皮膚臨床		1
MB Derma		1
日本化粧品技術者会誌		1
計	3	4

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	10	4

3．その他（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Dermatology	0.973	1	0.973
Total		1	0.973

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Dermatol	0.66	1	0.66
Total		1	0.66

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
Weather magazine	1	
日皮会誌	1	
皮膚病診療	1	
皮膚臨床	6	
臨床皮膚科	4	2
財団法人鷹揚郷創立30周年記念誌	1	
治療	1	
皮膚アレルギーフロンティア	1	
太陽紫外線防御研究委員会		1
計	16	3

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

B.1. Jiang Q, Matsuzaki Y, Li K, Uitto J: Transcriptional regulation of ABCC6 gene expression:identification of novel cis-elements, role of Sp1, and cytokine modulation of the promoter activity. 65th Annual Meeting of the SID. Providence(米国). 2004.4.29-5.1

C.1. Yokoyama S, Nakano H, Yamazaki T, Tamai K, Hanada K, Takahashi G: Enhancement of ultraviolet-induced apoptosis by NF-kB decoyoligonucleotides. 65th Annual Meeting of the SID, 2004.4.29-5.1. Providence(米国).

C.2. Umegaki N, Tamai K, Nakano H, Moritsugu R, Yamazaki T, Hanada K: Differantial regulation of karyopherin alpha 2 expression by TGF-β and IFN-γ innormal human epidermal keratinocytes. 65th Annual Meeting of the SID, Providence(米国). 2004.4.29.

C.3. Kambe Y, Yamazaki T, Ikenaga-Katoh S, Umegaki N, Nakano H, Hanada K, Tamai K, Tsuchida S: Inhibition of dermal fibroblastproliferation by phosphatidylethanolamine-binding protein (PEBP): Repression of PEBPcorrela. 65th Annual Meeting of the SID, Providence(米国). 2004.4.29.

C.4. Jiang Q, Matsuzaki Y, Li K, Uitto J: Transcriptional regulation of ABCC6 gene expression:identification of novel cis-elements, role of Sp1, and cytokine modulation of the promoter activity. 65th Annual Meeting of the SID. Providence (米国). 2004.4.29-5.1.

2005年度

A.1. Hanada K: Clinical usefulness of photodynamic therapy and photodynamic diagnosis. The 14th Japan-Korea joint meeting of dermatology, Kumamoto, 2005

C.1. Jiang Q, Matsuzaki Y, Pulkkinen L and Uitto J: Tissue-specific expression of the ABCC6 gene. The Society for Investigative Dermatology, 66th Annual Meeting. St. Louis, U.S.A. 2005

C.2. Moritsugu R, Takeuchi S, Rokunohe D, Nakajima K, Kaneko T, Matsuzaki Y, Nakano H, Hanada K: A CASE OF GIANT BASAL CELL CARCINOMA. The 14th Japan-Korea joint meeting of dermatology, Kumamoto, 2005

C.3. Kaneko T, Matsuzaki Y, Nakano H, Hanada K, Miura H, Abe Y: Diagnostic value of sentinel node biopsy in skin cancer. 9th Meeting the Hirosaki International Forum of medical Science. Hirosaki. 2005

C.4. Uitto J, Matsuzaki Y, Terlizzi J, Jiang Q, Choi H, Li K, Pulkkinen L, Birk D, Sundberg A, Klement J: A mouse model for pseudoxanthoma elasticum: targeted ablation of ABCC6 results in aberrant calcification of connective tissues. The Society for Investigative Dermatology, 66th Annual Meeting. St. Louis, U.S.A. 2005

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 花田勝美：女性のための皮膚科学講座―光老化最前線．第49回社団法人日本女医会定時総会，青森市，2004.5.14-15.

A.2. 花田勝美：紫外線はなぜ恐いか？皮膚と目からの話．太陽紫外線防御研究委員会第11回市民公開セミナー，2005.3.12. 弘前

B.1. Odanagi M, Kikuchi Y, Nakano H, Hanada K: Transcriptional regulationof the 230 kD bullous pemphigoid antigen (BPAG1) gene expression by interferon gamma (IFN γ)-Interferon regulatory factor (IRF) system in normal human epidermal. 日本研究皮膚科学会第29回年次学術大会．京都．04.4.14-16

B.2. 中野　創：紫外線関連の最近のトピックス（論文報告より）．太陽紫外線防御研究委員会第15回シンポジウム，2005.3.11.

C. 9件

2005年度

B.1. 花田勝美：メタロチオネインの臨床的研究への展開．第５回メタロチオネイン研究会，前橋，2005

C. 7件

Ⅲ．学術賞

2004年度

第141回弘前医学会優秀発表賞，金子高英，皮膚悪性腫瘍に対する Sentinel node biopsy.

Ⅳ．共同研究

2005年度

国立大学法人弘前大学共同研究（日精紡績(株)），北原晴男，花田勝美，中根明夫，高垣啓一，長岐正彦，川上　淳，佐野輝男：トリプタンスリンを用いた皮膚疾患に効果のある線維構造物の開発研究

平成17年度弘前大学学長指定重点研究，北原晴男，中根明夫，高垣啓一，長岐正彦，川上　淳，佐野輝雄，機能性物質の構築と生命現象解明のための研究―医・農薬や機能性線維の実用化に向けて―

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

2004年度

研究代表者として

科学研究費補助金，萌芽研究，スキンケアロボットの開発，花田勝美，3,000千円

2005年度

研究代表者として

科学研究費補助金，萌芽研究，スキンケアロボットの開発，花田勝美，800千円

(3) 学内の研究助成

2004年度

研究代表者として

平成16年度弘前大学学長指定重点研究，無痛性マイクロニードルの開発―アスコルビン酸含有針による美白効果の検討―，花田勝美，1,800千円

他研究単位との研究分担者として

平成15年度弘前大学学長指定研究，スキンケアロボット，妻木雄一，500千円

2005年度

研究代表者として

平成17年度弘前大学学長指定重点研究（継続），無痛性マイクロニードルの開発―アスコルビン酸含有針による美白効果の検討―，花田勝美，1,000千円

他研究単位との研究分担者として

平成15年度弘前大学学長指定研究（継続），スキンケアロボット，妻木雄一，300千円

平成17年度弘前大学学長指定重点研究，北原晴男，中根明夫，高垣啓一，長岐正彦，川上　淳，佐野輝雄，機能性物質の構築と生命現象解明のための研究―医・農薬や機能性線維の実用化に向けて―，200千円

(4) 民間の研究助成

2004年度

研究代表者として

2004年度社団法人青森医学振興会補助金，転移性悪性黒色腫に対する新しい治療法の開発―超音波を用いた音響力学療法―，松﨑康司，1,000千円

他研究単位との研究分担者として

2004年度社団法人青森医学振興会補助金，アトピー性皮膚炎治療薬の開発とその作用機序の解明，北原晴男，1,000千円

2005年度

研究代表者として

第24回唐牛記念医学研究基金助成金B，新しい皮膚癌治療の開発―超音波を用いた音響力学療法―，松﨑康司，1,000千円

他研究単位との研究分担者として

国立大学法人弘前大学共同研究（日清紡績(株)），北原晴男，花田勝美，中根明夫，高垣啓一，長岐正彦，川上　淳，佐野輝男：トリプタンスリンを用いた皮膚疾患に効果のある線維構造物の開発研究，475千円

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2004年度

陳　鳳超，Zhengzhou University，中華人民共和国，2004年10月1日から2004年9月30日まで

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

2004年度

原田　研，Ackerman Academy of Dermatopathology（米国），2003年12月9日から2005年3月16日まで

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2004年度

花田勝美，第5回光老化研究会，弘前市
花田勝美，太陽紫外線防御検討委員会第15回シンポジウム，弘前市
花田勝美，太陽紫外線防御検討委員会第11回市民公開セミナー，弘前市

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

花田勝美，第114回弘前大学皮膚科集談会　甲午会総会，弘前市
花田勝美，日本皮膚科学会青森地方会第326回例会，弘前市
花田勝美，日本皮膚科学会青森地方会第327回例会，弘前市
花田勝美，日本皮膚科学会青森地方会第328回例会，弘前市
花田勝美，平成16年度「いい皮膚の日」市民公開講座，弘前市

2005年度

花田勝美，弘前大学皮膚科教室開講60周年記念第115回弘前大学皮膚科集談会，弘前市
花田勝美，日本皮膚科学会青森地方会第330回例会・総会，弘前市
花田勝美，日本皮膚科学会青森地方会第331回例会・総会，弘前市
花田勝美，日本皮膚科学会青森地方会第332回例会・総会，弘前市

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

26. 泌尿器科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

目標はほぼ達成された。

理念：

臨床の現場から問題点を発掘し，基礎研究で解決策を講じる。

これから２年間の目標：

論文投稿を更に活発にする。

英文論文は年15編を目標とする。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　6，医員　0，大学院学生　2，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	大山　力	８ヶ月（８月～）
	助教授	専　任	高橋　信好	６ヶ月（～９月）
	講　師	専　任	古家　琢也	１年
	講　師	専　任	大和　隆	４ヶ月（12月～）
	助　手	専　任	吉川　和暁	１年
	助　手	専　任	米山　高弘	１年
	助　手	専　任	盛　和行	１年
	助　手	専　任	工藤　大輔	５ヶ月（～８月）
	助　手	専　任	山内　崇生	５ヶ月（～８月）
	助　手	専　任	今井　篤	６ヶ月（10月～）
研究課題	１．前立腺癌の予後因子の研究 ２．癌転移における糖鎖の役割 ３．尿路感染症における糖鎖を介した自然免疫系の意義 ４．血液型不適合移植における血液型糖鎖抗原に関する研究 ５．膀胱癌の予後因子の研究 ６．尿路変向術 ７．BCG 菌体成分の抗腫瘍効果の検討 ８．BCG の作用機序の解明			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　2，助手　7，医員　2，大学院学生　3，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	大山　力	１年
	講　師	専　任	大和　隆	１年
	講　師	専　任	古家　琢也	１年
	助　手	専　任	米山　高弘	１年
	助　手	専　任	今井　篤	１年
	助　手	専　任	盛　和行	１年
	助　手	専　任	畠山　真吾	11ヶ月（５月～）
	助　手	専　任	萩沢　茂	６ヶ月（10月～）
	助　手	専　任	吉川　和暁	４ヶ月（～７月）
	助　手	専　任	橋本　安弘	３ヶ月（８月～10月）

研究課題	1．前立腺癌の予後因子の研究 2．癌転移における糖鎖の役割 3．尿路感染症における糖鎖を介した自然免疫系の意義 4．血液型不適合移植における血液型糖鎖抗原に関する研究 5．膀胱癌の予後因子の研究 6．尿路変向術 7．BCG 菌体成分の抗腫瘍効果の検討 8．BCG の作用機序の解明

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Suzuki A, Kudoh S, Mori K, Takahashi N, Suzuki T: Expression of nitric oxide and inducible nitric oxide synthase in acute renal allograft rejection in the ret. Int J Urol 2004;11:837-44.

C.1. Kakinuma H, Tsuchiya N, Habuchi T, Ohyama C, matsuura S, Wang L, Nakamura A, Kato T: Serum sex steroid hormone levels and polymorphisms of CYP17 and SRD5A2: implication for prostate cancer risk. Prostate Cancer Prostatic Dis 2004;7:333-7.

C.2. Tsuchiya N, Satoh S, Tada H, Li Z, Ohyama C, Sato K, Suzuki T, Habuchi T, Kato T: Influence of CYP3A5 and MDR1 (ABCB1) polymorphisms on the pharmacokinetics of tacrolimus in renal transplant recipients. Transplantation 2004;78:1182-7.

C.3. Narita S, Tsuchiya N, Wang L, Matsuura S, Ohyama C, Satoh S, Sato K, Ogawa O, Habuchi T, Kato T: Association of lipoprotein lipase gene polymorphism with risk of prostate cancer in Japanese population. Int J Cancer 2004;112:872-6.

C.4. Ichimura Y, Habuchi T, Tsuchiya N, Wang L, Ohyama C, Sato K, Nishiyama H, Ogawa O, Kato T: Increased risk of bladder cancer associated with a glutathione peroxidase 1 codon 198 variant. J Urol 2004;172:728-32.

C.5. Tsuchiya N, Iinuma M, Habuchi T, Ohyama C, Matsuura S, Sato K, Satoh S, Kato T: Hand-assisted retroperitoneoscopic nephrectomy for living kidney transplantation: initial 44 cases. Urology 2004;64:250-4.

C.6. Mitsumori K, Tsuchiya N, Habuchi T, Li Z, Akao T, Ohyama C, Sato K, Kato T: Early and large-dose intravesical instillation of epirubicin to prevent superficial bladder carcinoma recurrence after transurethral resection. BJU Int 2004;94:317-21.

C.7. Tsuchiya N, Sato K, Satoh S, Ohyama C, Shimoda N, Habuchi T, Kato T: A novel anti reflux technique using an intussuscepted ileal segment. Urol Int 2004;73:15-8.

C.8. Hatakeyama S, Ohyama C, Minagawa S, Inoue T, Kakinuma H, Kyan A, Arai Y, Suga T, Nakayama J, Kato T, Habuchi T, Fukuda MN: Functional correlation of trophinin expression with the malignancy of testicular germ cell tumor. Cancer Res 2004;64:4257-62.

C.9. Ohyama C, Tsuchiya N, Habuchi T, Sato K, Shimoda N, Kato T: Rectosigmoidal bladder utilizing intussuscepted ileal segment: asurgical technique for urinary diversion and experiences in 30 patients. Int J Urol 2004;11:379-85.

C.10. Hoshi S, Ohyama C, Ono K, Takeda A, Yamashita S, Yamato T, Itoh A, Satoh M, Saito S, Okada Y, Sohma F, Arai Y: Gemcitabine plus carboplatin; and gemcitabine, docetaxel, and carboplatin combined chemotherapy regimens in patients with metastatic urothelial carcinoma previously treated with a platinum-based repot. Int J Clin Oncol 2004;9:125-9.

C.11. Ohyama C, Hosono M, Nitta K, Oh-eda M, Yoshikawa K, Habuchi T, Arai Y, Fukuda M: Carbohydrate structure and differential binding of prostate specific antigen to Maackia amurensis lectin between prostate cancer and benign prostate hypertrophy. Glycobiology 2004;14:671-9.

C.12. Li Z, Habuchi T, Tsuchiya N, Mitsumori K Wang L, Ohyama C, Sato K, Kamoto T, Ogawa O, Kato T: Increased risk of prostate cancer and benign prostatic hyperplasia associated with transforming growth factor-beta 1 gene polymorphism at codon 10. Carcinogenesis 2004;25:237-40.

2005年度

A.1. Satoh M, Ito A, Kaiho Y, Nakagawa H, Saito S, Endo M, Ohyama C, Arai Y: Intraoperative, Radio-Guided Sentinel Lymph Node Mapping in Laparoscopic Lymph Node Dissection for Stage I Testicular Carcinoma. Cancer 2005;103:2067-72.

A.2. Yamashita M, Imaizumi T, Taima K, Fujita T, Ishikawa A, Yoshida H, Ohyama C, Satoh K: Polyinosinic-Polycytidylic Acid Induces the Expression of GRO-α in BEAS-2B Cells. Inflammation 2005;29:17-21.

A.3. Minagawa S, Ohyama C, Hatakeyama S, Tsuchya N, Kato T, Habuchi T: Activation of natural killer T cells by α-galactosylceramide mediates clearance of bacteria in murine urinary tract infection. The Journal of Urology 2005;173:2171-4.

A.4. Sun C, Yamato T, Konki N, Furukawa T, Ikeda H, Horii A: Infrequent mutation of APC, AXIN1, and GSK3B in human pitutary adenimas with abnormal accumulation of CTNNB1. Journal of Neuro-Oncology 2005;73: 131-4.

A.5. Wang L, Mitome J, Tsuchiya N, Narita S, Horikawa Y, Habuchi T, Imai A, Ishimura H, Ohyama C, Fukuda M: An A/G polymorphism of core 2 branching enzyme gene is associated with prostate cancer. Biochemical and Biophysical Research Communications 2005;331:958-63.

A.6. Hagisawa S, Ohyoma C, Takahashi T, Endoh M, Moriya T, Nakayama J, Arai Y, Fukuda M, Nakagawa H: Expression of core 2 β1, 6-N-acetyglucosaminyltransferase facilitates prostate cancer progression. Ghycobiology 2005;15:1016-24.

A.7. Tsuchiya N, Satoh S, Narita S, Shimoda, N, Matsuura S, Ohyama C, Sato K, Kato T, Ohtani H, Komatsuda A, Habuchi T: Successful renal transplantation in the right iliac fossa 2 years after serious deep venous thrombosis in a patient with systemic lupus erythematosus. International Journal of UROLOGY 2005;12: 912-6.

A.8. Takahashi T, Hagisawa S, Yoshikawa K, Tezuka F, Kaku M, Ohyama C: Predictive Value of N-Acetylglucosami nyltransferase-V for Superficial Bladder Cancer Recurrnce. The Journal of UROLOGY 2006;175:90-3.

和文

2005年度

C.1. 井上高光，大山　力，畠山真吾，堀川洋平，富樫寿文，土谷順彦，松浦　忍，佐藤　滋，佐藤一成，羽渕友則：転移性腎細胞癌に対する Interferon-α，Interleukin-2，Gemcitabine 3剤併用免疫化学療法の経験．泌尿器科紀要　2005;51:165-9．

C.2. 沼倉一幸，土谷順彦，井上高光，堀川洋平，柿沼秀秋，富樫寿文，松浦　忍，大山　力，佐藤　滋，佐藤一成，羽渕友則，能登宏光：尿管鏡下に切除した線維上皮性尿管ポリープの1例．2005;51:277-81．

C.3. 沼倉一幸，土谷順彦，井上高光，堀川洋平，富樫寿文，松浦　忍，大山　力，佐藤　滋，佐藤一成，羽渕友則：精巣全体を占有する巨大類表皮嚢胞の1例．泌尿器科紀要　2005;51:407-9．

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

C.1. 大山　力，羽渕友則，加藤哲朗：糖鎖と癌治療．Drug Delivery System　2004;19:51-5.

C.2. 大山　力，羽渕友則，加藤哲朗：「癌治療と DDS 研究」ホルモン依存性癌とくに前立腺癌に対する DDS 製剤の進歩．Biotherapy　2004;18:64-70.

C.3. 大山　力：前立腺癌と糖鎖．Medical Science Digest　2004;30:508-8.

2005年度

A.1. 吉川和暁，大山　力，相馬真理子：実践！泌尿器ケア BASIC（尿検査）．泌尿器ケア　2005；夏季増刊：43-8.

A.2. 吉川和暁，大山　力，相馬真理子:実践！泌尿器ケア BASIC（分泌物検査）．泌尿器ケア　2005;夏季増刊:49-50.

A.3. 吉川和暁，大山　力，相馬真理子:実践！泌尿器ケア BASIC（理学的検査）．泌尿器ケア　2005;夏季増刊:51-4.

A.4. 大山　力：特集「前立腺癌スクリーニングの新しい展開」癌特異的 PSA は存在するか？：PSA の糖鎖構造解析から．Urology View　2005;3:77-82.

A.5. 大山　力：限局性前立腺癌の治療選択とバイオマーカー．臨床泌尿器科　2005;59:717-25.

A.6. 大和　隆，古家琢也，大山　力：泌尿器科悪性腫瘍におけるリンパ節廓清術の適応と範囲　－陰茎癌に対するリンパ節廓清術の適応－．泌尿器外科　2005;18:605-9.

A.7. 大山　力：Giycobiology と泌尿器疾患．Urology Today　2005;13:4-8.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 大山　力：腎腫瘍．講義録　腎臓学（メジカルビュー）2004;314-17.

A.2. 大山　力：尿路上皮癌（腎盂・尿管癌，膀胱癌）．講義録　腎臓学（メジカルビュー）2004;318-21.

2005年度

A.1. 大山　力，斎藤誠一：糖鎖と病気の発症　―泌尿器疾患の発症と糖鎖―．遺伝子医学　MOOK3糖鎖と病気　2005;59-63.

A.2. 大山　力：市民のための身体症候学　―排尿障害―．生涯学習教育研究センター　ホームページ；ON-Lain 公開講座：第7回.

（4）その他

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 石村大史，工藤茂将，米山高弘，梶原　哲，古家琢也，鈴木唯司：膀胱原発印環細胞癌の1例．泌尿器科紀要　2004;50:87-9.

A.2. 古家琢也，米山高弘，吉川和暁，神村典孝，梶原　哲，ラーマン A.T.M. ナイーム．腹腔鏡補助下小切開前立腺全摘除術　―手術法法および初期10例の臨床的検討．泌尿器外科　2004;17:411-5.

A.3. 今井　篤，米山高弘，古家琢也，吉川和暁，神村典孝．前立腺移行上皮癌の1例．泌尿器外科 2004;17:429-31.

A.4. 高橋信好：急性拒絶反応における NO の動態と早期治療の可能性．泌尿器外科　2004;17:489-92.

A.5. 米山高弘，工藤茂将，神村典孝，吉川和暁，古家琢也．保存的加療が奏効しなかった尿管結石による腎周囲膿瘍を合併膿腎症の1例．泌尿器外科　2004;17:505-7.

A.6. 古家琢也，ラーマン A.T.M. ナイーム．当科における回腸利用新膀胱造設術の中期成績および QOL について．泌尿器外科　2004;17:512-4.

A.7. 吉川和暁，今井　篤，米山高弘，川口俊明，古家琢也．CEA 高値を示した右腎盂尿管癌の1例．泌尿器外科　2004;17:721-3.

A.8. 高橋信好，山内崇生，工藤大輔．カルンクルおよび尿道脱に対する外科的治療法．臨床泌尿器科 2004;58:1001-5.

A.9. 盛　和行，古家琢也，工藤大輔，吉川和暁，梶原　哲，山内崇生，米山高弘，高橋信好，畠山良夫，矢野郁也．BCG 菌体成分の直接的効果―効果的成分の粒径に関する予備検討―．BCG・BRM 療法研究会会誌 2004;28:37-42.

C.1. 佐藤一成，土谷順彦，飯沼昌宏，堀川洋平，富樫寿文，松浦　忍，大山　力，佐藤　滋，羽渕友則，加藤哲郎：ハンドアシスト後腹膜ドナー腎摘除術．Jpn J Endourol ESWL　2004;17:58-65.

C.2. 菅藤　哲，平松正義，竹内　晃，大山　力，佐藤　信，斎藤誠一，福崎　篤，遠藤希之，荒井陽一：精巣腫瘍対側精巣生検にて carcinoma in situ と診断された症例の検討。日泌尿会誌 2004;95:35-41.

C.3. 斎藤　満，下田直威，秋濱　晋，寺井康詞郎，飯沼昌宏，光森健二，大山　力，佐藤　滋，佐藤一成，加藤哲郎：異時性両側精巣腫瘍に対し精巣部分切除術を施行し妊性を保ち得た1例．日泌尿会誌　2004;95:621-5.

C.4. 斎藤　満，土谷順彦，飯沼昌宏，光森健二，松浦　忍，下田直威，大山　力，佐藤　滋，佐藤一成：後腹膜髄外性形質細胞腫の一例．泌尿紀要　2004;49:735-9.

C.5. 斎藤　満，佐藤　滋，土谷順彦，井上高光，飯沼昌宏，松浦　忍，下田直威，大山　力，佐藤一成，羽渕友則：血流再会直後に移植腎動脈解離を認め動脈形成術を行った1例．泌尿器科紀要　2004;50:195-8.

C.6. 井上高光，大山　力，富樫寿文，松浦　忍，土谷順彦，佐藤　滋，佐藤一成，星　宣次，荒井陽一，加藤哲郎：MVAC 療法抵抗性肝転移に対して Gemcitabine，Carboplatin，Docetaxel の3剤併用療法が奏効した尿路移行上皮癌の3例．泌尿器科紀要　2004;50:273-7.

C.7. 飯沼昌宏，大山　力，土谷順彦，佐藤　滋，佐藤一成，羽渕友則：マイクロ波凝固術による後腹膜鏡下腎部分切除術の経験．泌尿器科紀要　2004;50:299-303.

2005年度

A.1. 盛　和行，梶原　哲，大和　隆，吉川和暁，古家琢也，米山高弘，畠山真吾，石村大史，今井　篤，岡本亜希子，大山　力，横溝秀裕，畠山良夫，矢野郁也：BCG，M. phlei 菌体成分の抗腫瘍効果の検討．BCG・BRM 療法研究会会誌　2005;29: 印刷中.

A.2. 畠山真吾：精巣腫瘍の悪性進展と着床関連分子トロフィニンの機能的相関について．秋田医学 2005;32:95-103.

A.3. 大山　力：ことばのカルテ　― PSA ―．Medical Tribune 2005;38:34.

A.4. 大山　力：前立腺癌の最近の話題　―弘前大学泌尿器科のアプローチを中心に―．弘前市医師会報 2005;40

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Int J Urol	0.683	1	0.683
Total		1	0.683

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Cancer	4.017	1	4.017
The Journal of Urology	3.297	2	6.594
Journal of Neuro-Oncology	1.568	1	1.568
Biochemical and Biophysical Research Communications	2.836	1	2.836
International Journal of UROLOGY	0.683	1	0.683
Inflammation	1.488	1	1.488
Ghycobiology	3.49	1	3.49
Total		8	20.676

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
泌尿器科紀要		3
臨床泌尿器科		1
泌尿器外科		1
泌尿器ケア		3
Urology Today		1
Urology View		1
計	0	10

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	2

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
泌尿器科紀要	1	
泌尿器外科	6	
臨床泌尿器科	1	
ＢＣＧ・ＢＲＭ療法研究会会誌	1	1
弘前市医師会報		1
秋田医学		1
Medical Tribune		1
計	9	4

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

B.1. 大山　力：Cancer-Associated carbohydrate alteration of PSA. 18th International Symposium of Foundation for Promotion of Cancer Research. Jan 24-26, 2005. Tokyo, Japan.

C.1. 大山　力：Predictive value of GnT-V in superficial bladder cancer. Annual meeting of American Urological Association, May 12, 2004. San Francisco, USA.

C.2. ラーマンA.T.M.ナイーム，盛　和行，石村大史，鈴木唯司，高橋信好：The Role of Recombinant Human Manganese Superoxide Dismutase (r-hMnSOD) in Protection from Experimental Renal Ischemia–Reperfusion Injury in Rat–a double–edged Sword. 第20回国際移植学会，Sep 5-10，ウイーン，オートリア.

2005年度

A.1. Ohyama C, Yamato T, Koie T, Hashimoto Y, Yoneyama T, Hagisawa S, Hatakeyama S, Ishimura H, Imai A, Mori K, Okamoto A: Roles of sialyl Lewis X in blood-borne metastasis. 9th Meeting of the HIROSAKI International Forum of Medical Science, Nov 10-11, 2005. HIROSAKI, Japan.

B.1. Ishimura H, Okamoto A, Imai A, Hatakeyama S, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Yamato T, Ohyama C: Carbohydrate structure of prostate-specific and its distinct affinity to Maackia amurensis lectin between cancer and non-cancer source. 9th Meeting of the HIROSAKI International Forum of Medical Science, Nov 10-11, 2005. HIROSAKI, Japan.

B.2. Hatakeyama S, Ohyama C, Minagawa S, Imai A, Ishimura H, Hagisawa S, Yoneyama T, Koie T, Yamoto T, Habuchi T, Fukuda MN: Trophinin plays a crucial role in distant metastasis of testicular germ cell tumor. 9th Meeting of the HIROSAKI International Forum of Medical Science, Nov 10-11, 2005. HIROSAKI, Japan.

B.3. Koie T, Okamoto A, Imai A, Ishimura H, Hatakeyama S, Yoneyama T, Hashimoto Y, Yamato T, Ohyama C: Experience and functional outcome of modified ileal neobladder in 95 patients. 9th Meeting of the HIROSAKI International Forum of Medical Science, Nov 10-11, 2005. HIROSAKI, Japan.

C.1. Hatakeyama S, Ohyama C, Minagawa S, Habuchi T, Fukuda MN: FUNCTIONAL CORRELA OF TROPHININ EXPRESSION WITH THE MALIGNANCY OF TESTICULAR GERM CELL TUMOR. 第100回米国泌尿器科学会議．MAY 21-26, 2005. サンアントニオ，米国

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. 大山　力：膀胱癌異常遺伝子解析とトランスレーショナルリサーチ．第92回日本泌尿器科学会　総会；平成16年4月．大阪

B.2. 工藤大輔：Reanl cell carcinoma cell line-derived gangliosides induce degradation of bcl-2 and apoptosis in lymphocytes; PREVENTION．第92回日本泌尿器科学会　総会；平成16年4月．大阪

C.　12件

2005年度

A.1. 大山　力：限局性前立腺癌に対する我々のアプローチ　―新規バイオマーカーから低侵襲性手術まで―．第4回 KKUC（KAGAWA-KAKANSAI Urological Conference）；平成17年4月2日：大阪.

A.2. 大山　力：泌尿器科学と糖鎖生物学．第70回日本泌尿器科学会東部総会；平成17年9月28−30日：花巻.

A.3. 大山　力：前立腺癌のバイオマーカーから低侵襲手術まで　～津軽からのメッセージ～．第19回京阪泌尿器腫瘍セミナー；平成18年3月14日：京都.

B.1. 古家琢也：ミニマム創内視鏡下手術の expert の直言　―ミニマム創前立腺全摘除術における問題点とその対策―．第3回ミニマム創内視鏡下泌尿器科手術研究会；平成17年12月1日：東京.

C.　17件

Ⅲ．学術賞

2004年度

古家琢也：第7回弘前大学医学部附属病院診療奨励賞
「膀胱全摘除術後の QOL を向上させる新規回腸膀胱「弘前膀胱」の考案」

2005年度

古家琢也，大和　隆，橋本安弘，米山高弘，畠山真吾，石村大史，今井　篤：
平成17年度弘前大学医学部附属病院診療奨励賞　―診療技術賞―

Ⅳ．共同研究

2005年度

- 新潟大学医学部泌尿器科学講座
  「ABO 不適合辞腎移植における糖鎖抗原の研究」 代表者：高橋公太
- 北海道大学大学院理学研究科
  「泌尿器癌における N-glycan の構造解析」 代表者：大山　力
- The Burnham Institute
  「膀胱癌における C2GnT の研究」 代表者：大山　力
- The Burnham Institute
  「精子運動能促進因子の研究」 代表者：大山　力
- UCSF カリフォルニア大学サンフランシスコ校
  「精巣癌細胞 JKT-1 の分化に関する研究」 代表者：大山　力
- 東北大学医学部泌尿器科学講座
  「前立腺癌の再発因子に関する検討」 代表者：荒井陽一
- 札幌医科大学泌尿器科学講座
  「慢性前立腺癌治療法に関する臨床研究」 代表者：塚本泰司
- 生化学工業
  「前立腺癌のバイオマーカー：C2GnT」 代表者：大山　力
- 大阪母子医療センター研究所
  「前立腺特異抗原の糖鎖に関する研究」 代表者：大山　力

・　大阪大学医学部生化学講座
「泌尿器癌における GnT-V 発現に関する研究」 代表者：大山　力
・　滋賀医科大学泌尿器科
「前立腺特異抗原のプロテオミクス研究」 代表者：大山　力
・　神戸薬科大学
「前立腺癌の尿中プロテオグリカンの研究」 代表者：大山　力

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として
大山　力：基盤研究（B)(2) 7,200千円
「前立腺特異抗原（PSA）の糖鎖構造に関する研究」
大山　力：萌芽研究　600千円
「α－ガラクトシルセラミドの NKT 細胞活性化作用を利用した尿路感染症治療法の研究」

2005年度

研究代表者として
大山　力：基盤研究（B）(2) 3,800千円
「前立腺特異抗原（PSA）の糖鎖構造に関する研究」

(2) その他の省庁からの研究費

2004年度

研究代表者として
大山　力：独立法人　科学技術振興機構（CREST）400万円
「糖鎖生合成の動態理解と前立腺癌コントロールへの応用」

2005年度

研究代表者として
大山　力：独立法人　科学技術振興機構（CREST）800万円
「糖鎖生合成の動態理解と前立腺癌コントロールへの応用」

(3) 学内の研究助成

2005年度

研究代表者として
大山　力：北東北国立３大学連携推進プロジェクト　50千円
「ゲノムと蛋白の双方向アプローチによる前立腺癌の分子マーカーと予防標的分子の探索」
大山　力：弘前大学学長指定重点研究　3,000千円
「ABO 血液型不適合移植における免疫順応と血液型糖鎖抗原に関する研究」

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2004年度

ラーマン　ナイーム（バングラディシュ）平成12年10月～平成17年３月

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

2005年度

・　大山　力，古家琢也，米山高弘，畠山真吾
　UCSF カリフォルニア大学サンフランシスコ校（米国）１週間
・　大山　力，米山高弘，畠山真吾
　The Burnham Institute（米国）１週間

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

第27回青森骨盤外科研究会
第21回青森泌尿器科研究会
第3回青森県 STD 研究会
弘前前立腺セミナー

2005年度

・　第233回日本泌尿器科学会東北地方会（弘前市）
・　第22回青森県泌尿器科研究会（八戸市）
・　第23回青森県泌尿器科研究会（青森市）
・　第1回臨床糖鎖研究会（弘前市）
・　第10回青森前立腺癌研究会（青森市）
・　青森県排尿障害研究会（青森市）
・　第59回腎懇話会（弘前市）
・　男性更年期障害セミナー（弘前市）
・　移植医療セミナー（弘前市）

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

2004年度

山形大学（泌尿器科）より手術見学

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

2005年度

・　特許出願　大山　力
　―膀胱癌の悪性度診断法―
・　発明届出　大山　力
　―プロテインチップを用いた前立腺圧出液による前立腺癌診断―
・　発明届出　大山　力
　―前立腺癌の皮膜外浸潤，再発予測表―

27. 眼科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

１．遺伝性網膜変性症の遺伝子診断の継続

研究人員の不足により大学院生による遺伝子診断は必ずしも十分ではないが，本学農学生命科学部学生や医学科研究室研修にて当講座に配属になった学生が引き続き継続している。

２　遺伝子変異動物の病態を解析し，治療法の開発へつなげる

現在，大学院学生の主要な研究テーマとして研究が進行している。

３　網膜色素変性患者に対するカルシウム拮抗薬の効果を判定する

現在，当科網膜外来にて網膜色素変性患者に対するカルシウム拮抗薬投与が進行している。

４．糖尿病網膜症の治療研究

現在，当科血管外来および入院診療の中でのルーチンワークとして糖尿病診療が進められている。まだ，治療研究と言えるほどのレベルではないが，近い将来過去の集計をとりながら治療成績についてまとめたいと考えている。

５．緑内障の病態と治療法の研究

現在，緑内障については研究としては行っていない。診療の中でのルーチンワークとなっている。実験的研究については計画が練られている。

６．網膜血管閉塞症に対する新しい手術方法の検討

現在，動物実験にて盛んに研究が進行している。

理念：

眼科学教室がスタッフや大学院学生などの研究者，研修者で沸きかえり，和気藹々のうちにも切磋琢磨できる場となること。

これから２年間の目標：

１．遺伝性網膜変性症の臨床分子遺伝学

２．遺伝子変異（網膜変性モデル）動物の分子病態を解析し，治療法の開発へつなげる

３．網膜色素変性患者に対するカルシウム拮抗薬の効果を判定する

４．緑内障の病態と治療法の研究

動物実験による病態研究や治療研究。

５．網膜血管閉塞症に対する新しい手術方法の検討

動物実験による治療法開発の継続。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　3，大学院学生　6，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	中澤　　満	1年
	助教授	専　任	大黒　　浩	1年
	講　師	専　任	大黒　幾代	1年
	講　師	専　任	鈴木　幸彦	1年
	助　手	専　任	水谷　英之	1年
	助　手	専　任	間宮　和久	1年
	助　手	専　任	中村　秀雄	1年
	助　手	専　任	山崎　仁志	1年

研究課題	1．遺伝性網膜変性疾患の遺伝子診断 2．網膜変性症の分子病態と治療法 3．癌関連網膜症の病態と治療法 4．緑内障の病態と神経保護治療 5．網膜循環障害の病態と治療法 6．網膜硝子体手術の手術成績の向上 7．斜視の病態と治療 8．網膜硝子体手術と眼循環

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　4，大学院学生　3，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	中澤　　満	12か月
	助教授	専　任	大黒　　浩	12か月
	講　師	専　任	大黒　幾代	12か月
	講　師	専　任	鈴木　幸彦	12か月
	助　手	専　任	水谷　英之	12か月
	助　手	専　任	間宮　和久	12か月
	助　手	専　任	中村　秀雄	6か月
	助　手	専　任	山崎　仁志	12か月
	助　手	専　任	石川　　太	6か月
研究課題	1．遺伝性網膜変性症の分子遺伝学 2．遺伝性網膜変性症の治療学 3．緑内障の治療学 4．網膜循環障害とその治療			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Takaya K, Suzuki Y, Mizutani H, Sakuraba T, Nakazawa M: Long-term results of vitrectomy for removal of submacular hard exudates in patients with diabetic maculopathy. Retina, 24:23-29,2004.

A.2. Takano Y, Ohguro H, Dezawa M, Ishikawa H, Yamazaki H, Ohguro I, Mamiya K, Metoki T, Ishikawa F, Nakazawa M: Study of drug effects of calcium channel blockers on retinal degeneration of rd mouse. Biochem Biophys Res Com, 313:1015-1022,2004.

A.3. Ohguro H, Odagiri H, Miyagawa Y, Ohguro I, Sasaki M, Nakazawa M: Clinicopathological features of gastric cancer cases and aberrantly expressed recoverin. Tohoku J Exp Med, 202:213-219,2004.

A.4. Ohguro H, Yokoi Y, Ohguro I, Mamiya K, Ishikawa F, Yamazaki H, Metoki T, Takano Y, Ito T, Nakazawa M: Clinical and Immunologic aspects of cancer-associated retinopathy. Am J Ophthalmol, 137(6):1117-1119,2004.

A.5. Mamiya K, Ohguro H, Ohguro I, Metoki T, Miyagawa Y, Ishikawa F, Yamazaki H, Takano Y, Ito T, Nakazawa M: Effects of MMC III gene transfer by electroporation in glaucoma filter surgery. Exp Eye Res, 79(7):405-410, 2004.

A.6. Sato M, Nakazawa M, Usui T, Tanimoto N, Abe H, Ohguro H: Mutations in the gene coding for guanylate cyclase-activating protein 2 (*GUCA1B* gene) in patients with autosomal dominant retinal dystrophies. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 243:235-242,2005.

A.7. Metoki T, Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Yamazaki H, Ishikawa F, Miyagawa Y, Takano Y, Ito T, Nakazawa M. Study of neuroprotective effects of anti-glaucoma drops on NMDA-induced retinal degeneration. Jpn J Ophthalmol, in press.

B.1. Usui T, Ichibe M, Tanimoto N, Ueki S, Takagi M, Hasegawa S, Abe H, Miyagawa Y, Nakazawa M: The ocular fundus observed by scanning laser ophthalmoscopy in a patient with enhanced S-cone syndrome. Retina, 24:946-952,2004.

B.2. Usui T, Tanimoto N, Ueki S, Takagi M, Hasegawa S, Abe H, Sekiya K, Nakazawa M. Rod a-wave in Oguchi disease. Vision Research, 44:535-540,2004.

2005年度

A.1. Sato M, Nakazawa M, Usui T, Tanimoto N, Abe H, Ohguro H: Mutations in the gene coding for guanylate cyclase-activating protein 2 (*GUCA1B* gene) in patients with autosomal dominant retinal dystrophies. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 243:235-242,2005.

A.2. Metoki T, Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Yamazaki H, Ishikawa F, Miyagawa Y, Takano Y, Ito T, Nakazawa M: Study of neuroprotective effects of anti-glaucoma drops on NMDA-induced retinal degeneration. Jpn J Ophthalmol 49(6):453-461,2005.

A.3. Ohguro H, Ohguro I, Nakazawa M: Role of rhodopsin phosphorylation at multiple sites in vivo. Hirosaki Med J 56:61-68,2005.

A.4. Ohguro H, Shimokawa R, Ohguro I, Ishikawa F, Yamazaki H, Nakazawa M: Clinical significance of the ankle-brachial index (ABI) and pulse wave velocity (PWV) in ocular vascular diseases. Hirosaki Medical J 57:65-70, 2006.

A.5. Ohguro I, Ohguro H, Ohkuro H, Nakazawa M: Optic disc characterics assessed by evaluation by clinical optic disc photographs in patients with glaucoma. Hirosaki Med J 57(1):27-34,2006.

A.6. Ito T, Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Nakazawa M: Effects of anti-glaucoma drops on MMP and TIMP balance in conjunctival and subconjunctival tissue. Invest Ophthalmol Vis Sci 47(3):823-830,2006.

A.7. Ishikawa F, Ohguro H, Sato S, Sato M, Yamazaki H, Nakazawa, M: A case of ideiopathic retinal vasculitis, aneurysm, and neuroretinitis effectively treated by steroid pulse therapy. Jpn J Ophthalmology 50:181-185, 2006.

A.8. Ohguro I, Ohguro T, Ohta T, Nakazawa M: A case of normal tension glaucoma associated with Buerger's disease. Tohoku J Exp Med 209(1):49-52,2006

A.9. Takaya K, Suzuki Y, Nakazawa M: Massive hemorrhagic retinal detachment during radial optic neurotomy. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 244(2):265-267,2006.

B.1. Ito S, Suzuki T, Inagaki K, Suzuki N, Takanori K, Yamada T, Nakazawa M, Hatano M, Takiwaki H, Kakuta Y, Spritz RA, Tomita Y: High frequency of Hermansky-Pudlak syndrome type 1 (HPS1) among Japanese albinism patients and functional analysis of HPS1 mutant protein. J Invest Dermatol 125:715-720,2005

和文

2004年度

A.1. 大黒幾代，石川　太，大黒　浩，下川良一，中沢　満：正常眼圧緑内障患者の動脈硬化指数．あたらしい眼科　21(3):397-400,2004.

A.2. 横井由美子，大黒　浩，大黒幾代，間宮和久，石川　太，山崎仁志，目時友美，高野淑子，伊藤　忠，中澤　満：癌関連網膜症の血清診断．あたらしい眼科　21(7):987-990,2004.

A.3. 高谷　香，鈴木幸彦，中沢　満：網膜中心静脈閉塞症に対して放射状視神経乳頭切開術を施行した９症例の成績と合併症．日本眼科紀要　55(7):524-528,2004.

A.4. 間宮和久，中澤　満：マウス角膜線維芽細胞由来の不死化培養細胞における培養下コラーゲン線維形成における lumican の効果．弘前医学　55(3, 4):108-114,2004.

A.5. 伊藤　忠，大黒　浩，大黒幾代，間宮和久，石川　太，目時友美，山崎仁志，高野淑子，中澤　満，正村和彦：ラット高眼圧モデルの網膜神経節細胞変化．弘前医学　56(1):15-20,2004.

A.6. 平　　紅，大黒　浩，大黒幾代，下川良一，山崎仁志，中沢　満，関谷恵悟，対馬敬子：濾過胞形成に苦慮した緑内障の２症例．あたらしい眼科　21(6):815-819,2004.

A.7. 大黒幾代，大黒　浩，高野淑子，中澤　満，野田康子：緑内障濾過手術後に重篤な脈絡膜剥離を来した続発緑内障の２症例．日本眼科紀要　55(7):575-578,2004.

A.8. 大黒　浩，大黒幾代，間宮和久，山崎仁志，石川　太，伊藤　忠，中沢　満：Free-flap による毛様体扁平部濾過術併用硝子体手術を施行した血管新生緑内障の３例．あたらしい眼科　21(12):1697-1699,2004.

A.9. 佐藤元哉，大黒　浩，大黒幾代，高野淑子，山崎仁志，目時友美，宮川靖博，石川　太，間宮和久，中沢　満：mRNA プロファイリングを用いた RCS ラットの網膜変性に対するニルバジピンの保護作用の解析．弘前医学　2004;55:49-55.

A.10. 下川良一，大黒　浩，山崎仁志，中沢　満：低眼圧黄斑症に対して強膜毛様体縫合術が奏効した１症例．眼科2004;46:345-348.

A.11. 柳橋さつき，中澤　満，佐藤元哉，宮川靖博，関谷恵悟，大黒　浩：ペリフェリン /RDS 遺伝子の新規 (Arg195Leu) を伴った常染色体優性輪紋状脈絡膜ジストロフィ家系．弘前医学　2004;55:122-125.

A.12. 山本陽子，大黒　浩，石川　太，中澤　満：初診時 Fischer 症候群が疑われた one-and-a-half 症候群の１例．臨眼　2004;57:611-614.

A.13. 竹内候雄，大黒　浩，山崎仁志，石川　太，間宮和久，中澤　満：臨床的に orbital apex syndrome と診断された２症例．眼科　2004,46:485-489.

A.14. 高野淑子，大黒　浩，大黒幾代，山崎仁志，下川良一，中澤　満：LASIK 術後高眼圧により角膜浮腫をきたした症例の治療経験．あたらしい眼科　2004,21:829-831.

A.15. 鈴木幸彦：糖尿病網膜症による失明防止と到達目標．白内障・硝子体手術による視力改善　眼紀 Vol.55, No.5,pp.343-349,2004

A.16. 鈴木幸彦，高谷　香，中沢　満：網膜静脈閉塞症に対する白内障硝子体同時手術の成績．眼科臨床医報 Vol.98,No.9,pp.824-826,2004

2005年度

A.1. 山崎仁志，大黒　浩，石川　太，間宮和久，中澤　満：中心窩下脈絡膜新生血管に対する limited macular translocation の手術成績．臨床眼科　59(1):71-75,2005.

A.2. 大黒幾代，山本陽子，竹内侯雄，大黒　浩，松本光生，松橋英昭，中沢　満：緑内障性視神経障害における眼圧非依存因子の検討．血小板凝集能との係わり　あたらしい眼科　22(5):669-672,2005.

A.3. 山本陽子，大黒幾代，大黒　浩，中沢　満：弘前大学眼科における改良非穿孔トラベクレクトミーの手術成績．あたらしい眼科　22(6):813-816,2005

A.4. 竹内侯雄，大黒幾代，大黒　浩，中澤　満：抗緑内障点眼薬の FDT による神経保護効果の検討．眼科 47(6):889-894,2005.

A.5. 高谷　香，鈴木幸彦，中澤　満：白内障のため眼底が透見不能な糖尿病眼の網膜症進行度．日本眼科紀要 56:894-900,2005.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 中澤　満：遺伝性網膜変性疾患．専門医制度・生涯教育講座．日眼会誌　108:451-467,2004.

A.2. 大黒　浩，大黒幾代，間宮和久，目時友美，山崎仁志，石川　太，高野淑子，伊藤　忠，中沢　満：点眼薬による眼表面の反応．抗緑内障点眼薬の眼表面への影響と神経保護の検討．眼薬理　18(1):69-73,2004.

A.3. 大黒幾代，大黒　浩：緑内障セミナー 46．グルタミン酸網膜障害．あたらしい眼科　2004;21:491-492.

2005年度

A.1. 中澤　満：遺伝子診断の現況．日本の眼科　76(9):1075-1076,2005.

A.2. 中澤　満：遺伝性網膜変性疾患の臨床と基礎研究．日本眼科紀要　56:781-786,2005.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 間宮和久，中澤　満：ハンドピース・チップの再使用．「眼科診療プラクティス」，大鹿哲郎編　文光堂 pp.190-191,2005.

2005年度

A.1. 間宮和久，中澤　満：ハンドピース・チップの再使用．「眼科診療プラクティス」，大鹿哲郎編　文光堂 pp.190-191,2005.

（4）その他

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 石川　太，大黒　浩，大黒幾代，間宮和久，目時友美，山崎仁志，高野淑子，伊藤　忠，中澤　満：遺伝性網膜変性疾患モデルラットへの light-stress の影響．厚生労働省難治性疾患克服研究事業　網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究調査，平成15年度総括・分担研究報告書，245-247,2004.

A.2. 山崎仁志，大黒　浩，大黒幾代，目時友美，石川　太，中澤　満：RCS ラットの網膜変性に対する Ca 拮抗剤の効果．厚生労働省難治性疾患克服研究事業　網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究調査，平成15年度総括・分担研究報告書，248-259,2004.

A.3. 高野淑子，大黒　浩，大黒幾代，間宮和久，目時友美，山崎仁志，石川　太，中澤　満：Rd マウス網膜に対するカルシウム拮抗剤の影響．厚生労働省難治性疾患克服研究事業　網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究調査，平成15年度総括・分担研究報告書，260-270,2004.

A.4. 間宮和久，大黒　浩，目時友美，大黒幾代，石川　太，中澤　満．緑内障治療における結膜 matrix metalloproteinases と tissue inhibitor of matrix metalloproteinase の動態とその効果．厚生労働省難治性疾患克服研究事業　網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究調査，平成15年度総括・分担研究報告書，273-275,2004.

A.5. 大黒幾代：先輩（1）小さな先輩　臨眼　2004;58:335

A.6 大黒幾代：第57回日本臨床眼科学会ランチョンセミナー　正常眼圧緑内障の診断　グレイゾーンの整理整頓!!　乳頭について　2004

A.7. 大黒幾代：第57回日本臨床眼科学会印象記　一般口演　緑内障薬物療法1～2　眼科　2004;46:594-596

A.8. 大黒幾代：先輩（2）大きな先輩　臨眼　2004;58:557

2005年度

A.1. 間宮和久，大黒　浩，大黒幾代，中澤　満：マイトマイシン C 併用濾過手術後の重篤な角膜内皮障害を呈した原発開放隅角緑内障の1例．日本眼科紀要　56(2):134-137,2005.

A.2. 大黒幾代，大黒　浩，伊藤　忠，黒滝淳二，吉田恒一，中沢　満：正常眼圧にもかかわず，緑内障様視野異常や角膜径増大を呈した発達緑内障疑いの2症例．眼科臨床医報　99(6):465-468,2005.

A.3. 高谷　香，鈴木幸彦，中澤　満：Wagner 病による網膜剥離に対し硝子体手術を施行した1症例．眼科臨床医報　99(10):824-827,2005.

A.4. 石川　太，大黒　浩，山崎仁志，伊藤　忠，中澤　満：両側内頚動脈狭窄症により両眼に発症した眼虚血症候群の1例．日本眼科紀要　56:288-291,2005.

A.5. 高谷　香，鈴木幸彦，吉岡由貴，中澤　満：統合失調症の自傷行為による強膜裂傷および鋸状縁断裂網膜剥離に対する硝子体手術．臨床眼科　59:1877-1880,2005.

A.6. 伊藤　忠，大黒　浩，大黒幾代，間宮和久，石川　太，目時友美，山崎仁志，横井由美子，中澤　満：イソプロピル　ウノプロストン点眼液の網膜保護効果についての検討．厚生労働省難治性疾患克服研究事業　網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究調査，平成17年度総括・分担研究報告書，323-325,2006.

A.7. 石川　太，大黒　浩，大黒幾代，間宮和久，目時友美，山崎仁志，伊藤　忠，中澤　満：正常および網膜変性モデルラットへの光ストレスの影響．厚生労働省難治性疾患克服研究事業　網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究調査，平成17年度総括・分担研究報告書，318-319,2006.

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Retina	1.207	1	1.207
BBRC	2.904	1	2.904
Am J Ophthalmol	2.332	1	2.332
Exp Eye Res	2.846	1	2.846
Tohoku J Exp Med	0.7	1	0.7
Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol	1.513	1	1.513
Jpn J Ophthalmol	0.667	1	0.667
Vision Res	1.812	2	3.624
Total		9	15.793

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmo	1.458	2	2.916
Jpn J Ophthalmol	0.667	2	1.334
Hirosaki Medical Journal	0	3	0
Invest Ophthalmol Vis Sci	3.643	1	3.643
J Invest Dermatol	4.406	1	4.406
Total		9	12.299

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
弘前医学	4	
あたらしい眼科	5	2
日本眼科紀要	4	1
眼科	1	1
眼科臨床医報	1	
臨床眼科	1	1
計	16	5

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	1	1

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
厚生労働省難治性疾患克服研究事業　網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究調査，平成15年度総括・分担研究報告書	4	
臨床眼科	2	1
眼科	1	
その他	1	
日本眼科紀要		2
眼科臨床医報		2
厚生労働省難治性疾患研究事業平成17年度報告書		2
計	8	7

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

A.1. Ohguro I, Ohguro H, Mamiya K, Ishikawa F, Metoki T, Yamazaki H, Takano Y, Ito T, Nakazawa M: “Study of neuroprotective effects of anti-glaucoma drops on NMDA-induced retinal degeneration” Annual Meeting of Association for Research in Vision and Ophthalmology, Fort Lauderdale, 2004

A.2. Ishikawa F, Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Metoki T, Yamazaki H, Takano Y, Ito T, Nakazawa M: “Study of photostress effects on normal and retinal degeneration rat” Annual Meeting of Association for Research in Vision and Ophthalmology, Fort Lauderdale, 2004

A.3. Yamazaki H, Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Ishikawa F, Metoki T, Takano Y, Ito T, Nakazawa M: “Study of drug effects of dihydropyridine Ca^{2+} antagonists on retinal degeneration of RCS rat” Annual Meeting of Association for Research in Vision and Ophthalmology, Fort Lauderdale, 2004

A.4. Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Ishikawa F, Metoki T, Yamazaki H, Takano Y, Ito T, Nakazawa M: “Prolonged survival of the phosphorylated form of rhodopsin during dark adaptation of royal college surgeons rat” Annual Meeting of Association for Research in Vision and Ophthalmology, Fort Lauderdale, 2004

A.5. Mamiya K, Ohguro H, Ohguro I, Ishikawa F, Metoki T, Yamazaki H, Takano Y, Ito T, Nakazawa M: “Effects of transfection of MMP3 cDNA on changes of IOP and bleb formation after glaucoma filtering surgery” Annual Meeting of Association for Research in Vision and Ophthalmology, Fort Lauderdale, 2004

A.6. Takano Y, Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Ishikawa F, Metoki T, Yamazaki H, Ito T, Nakazawa M: “Study of drug effects of Ca^{2+} channel blockers on retinal degeneration of rd mouse” Annual Meeting of Association for Research in Vision and Ophthalmology, Fort Lauderdale, 2004

A.7. Ito T, Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Yokoi Y and Nakazawa M: Clinical significance of the ankle-brachial index (ABI) in ocular vascular diseases. The 6th Japan-Taiwan joint meeting of ophthalmology Nov. 5-6, 2004, Zanpamisiki Royal Hotel, Okinawa, Japan

A.8. Mamiya K, Ohguro H, Ohguro I, Ito T, Yokoi Y and Nakazawa M: Polymerase chain reaction (PCR) method in diagnosing acute retinal necrosis. The 6th Japan-Taiwan joint meeting of ophthalmology Nov. 5-6, 2004, Zanpamisiki Royal Hotel, Okinawa, Japan

A.9. Yokoi Y, Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Ito T and Nakazawa M: Clinical and immunological aspects of cancer-associated retinopathy (CAR). The 6th Japan-Taiwan joint meeting of ophthalmology Nov. 5-6, 2004, Zanpamisiki Royal Hotel, Okinawa, Japan

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 中澤　満：「遺伝性網膜変性症の臨床と基礎研究」．第42回北日本眼科学会，福島，2004．

A.2. 大黒　浩：「裂孔原性網膜剥離の手術治療の秘訣」．社会保険研究会，青森，2004．

A.3. 大黒　浩：「ランチョンセミナーカルシウム拮抗剤による網膜神経疾患の治療の可能性」．第42回日本神経眼科学会，名古屋，2004．

A4. 大黒　浩：「特別講演　眼圧非依存性因子への挑戦：10年後の新しい緑内障治療に向けて」．New approach to glaucoma treatment，福岡，2004

B.1. 大黒　浩：「特集講演　緑内障治療のこれから」．緑内障セミナー 21，仙台，2004

B.2. 大黒　浩：網膜変性疾患と視細胞保護．第108回日本眼科学会総会，東京，2004

C.　20件

2005年度

A.1. 大黒　浩：網膜色素変性に対するあたらしい薬物治療の可能性．第109回日本眼科学会総会　2005年3月24-27日，京都

C.　31件

Ⅲ．学術賞

2004年度

大黒　浩
平成16年度弘前大学学術賞A

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

1）中澤　満
基盤研究B2（継続）
遺伝性網膜変性症の分子病態にもとづく新しい薬物治療の有効性
3,400千円
萌芽研究（新規）
網膜変性の修飾因子としての視細胞特異的カルシウム結合タンパクの役割
2,200千円

2）大黒　浩
網膜変性症に対する Ca2+ 拮抗剤を用いた新しい薬物治療の確立。基盤研究B（課題番号15390523）平成15−17年度
新規の網膜細胞障害判定システムの確立:網膜変性に対する新しい治療法確立を目指して。萌芽研究（課題番号17659540）

3）大黒幾代
基盤研究C
眼圧，神経保護及び眼表面への影響を加味したEBMに基づく緑内障薬物選択基準の作成

4）間宮和久
若手研究(B)エレクトロポレーション法による局所遺伝子導入法を用いた新しい緑内障濾過手術の開発

2005年度

研究代表者として
中澤　満：萌芽研究
大黒　浩：基盤研究B
萌芽研究
大黒幾代：基盤研究C
間宮和久：若手B
山崎仁志：若手B

(2) その他の省庁からの研究費

2004年度

他研究単位との研究分担者として
中澤　満
厚生労働科学研究費補助金（難病対策研究事業）
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究　2,000千円

2005年度

他研究単位との研究分担者として
中澤　満：厚生労働科学研究費補助金

(3) 学内の研究助成

2004年度

研究代表者として
鈴木幸彦
第23回唐牛記念医学研究基金研究助成
「網膜静脈閉塞症に対する網膜微小血管手術の治療効果」1,000千円

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2005年度

第９回視覚フォーラム

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

第106回青森眼科集談会　2004年６月１日　弘前大学医学部コミュニケーションセンター
第107回青森眼科集談会　2004年10月26日　弘前市医師会館

2005年度

第108回青森眼科集談会
第109回青森眼科集談会

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

28. 耳鼻咽喉科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

１．内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。
２．内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。
３．難聴の遺伝子変異と臨床像の関係について研究する。
４．好酸球性中耳炎・鼻炎の病態解明に努める。
５．外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。
６．真珠腫性中耳炎の進展様式を解明する。

１．５.については原著論文を発表できた（70%）。２.については現在実験中である（60%）。
３．４．６.については症例の収集を行っている。

理念：

耳鼻咽喉科の専門性を生かした国際的水準の基礎的，臨床的研究を推進する。
1）ヒトにとって重要な聴覚，平衡覚，嗅覚，味覚などの感覚器を研究および診療の対象とする。
2）内耳の感覚器の情報伝達の解明を図り，もって人類の QOL に貢献する。
3）基礎的研究を臨床応用へと発展させる。

これから２年間の目標：

１．内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。
２．外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。
３．低侵襲な鼓室形成術を開発する。
４．中耳疾患の診断技術を向上させる。
５．内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。
６．アレルギー性疾患の臨床研究を進め，地域に根ざした予防法や治療法の啓蒙に取り組む。
７．好酸球性中耳炎の病態解明や治療に関する研究を更に進めていく。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　1，助手　5，医員　7，大学院学生　3，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	新川　秀一	1年間
	助教授	専　任	松原　　篤	1年間
	講　師	専　任	欠畑　誠治	1年間
	助　手	専　任	黒田　令子	1年間
	助　手	専　任	石井　賢治	1年間
	助　手	専　任	土岐　栄喜	1年間
	助　手	専　任	南場　淳司	1年間
	助　手	専　任	丸屋信一郎	6ヶ月
研究課題	１．内耳への遺伝子導入による難聴の治療 ２．内耳における情報伝達 ３．アレルギー性炎症、好酸球性疾患の臨床研究 ４．新しい低侵襲中耳手術法の開発 ５．聴覚のマイクロメカニクスの解明 ６．頭頸部腫瘍における癌関連遺伝子の発現と予後因子との関連			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　2，講師　0，助手　5，医員　4，大学院学生　4，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	新川　秀一	1年間
	助教授	専　任	松原　　篤	1年間
	助教授	専　任	欠畑　誠治	1年間
	助　手	専　任	石井　賢治	1年間
	助　手	専　任	蒔苗　公利	6ヶ月
	助　手	専　任	安田　　京	1年間
	助　手	専　任	丸屋信一郎	1年間
	助　手	専　任	南場　淳司	1年間
研究課題	1．内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。 2．外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。 3．低侵襲な鼓室形成術を開発する。 4．中耳疾患の診断技術を向上させる。 5．内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。 6．アレルギー性炎症，好酸球性疾患の臨床研究 7．内耳への遺伝子導入による感音難聴の治療への応用 8．老人性難聴への人工中耳の臨床応用 9．中耳手術後上皮化不全に対する治療			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Kakehata S, Futai K, Kuroda R, Shinkawa H.: Office-based endoscopic procedure for diagnosis in conductive hearing loss cases using OtoScan Laser-Assisted Myringotomy. Laryngoscope, 2004;114(7):1285-9

A.2. Maruya S, Kurotaki H, Wada R, Saku T, Shinkawa H, Yagihashi S.: Promoter methylation and protein expression of the E-cadherin gene in the clinicopathologic assessment of adenoid cystic carcinoma. Modern Pathology, 2004;vol.17:637-45

A.3. Maruya S, Kurotaki H, Hashimoto T, Ohta S, Shinkawa H, Yagihashi S.: Inflammatory pseudotumour (plasma cell granuloma) arising in the maxillary sinus. Acta Oto-Laryngologica, 2004;vol.125:322-7

A.4. Kinoshita A, Shirahama S, Miyahara A, Nishimura G, Haga N, Namba A, Ueda H, Hayashi H, Seidel J, Fukumaki Y, Ikegawa S, Niikawa N, Yoshiura K.: TGFB1 mutations in four new families with Camurati-Engelmann disease: confirmation of independently arising LAP-domain-specific mutations. Am J Med Genet. 2004 May 15;127A(1):104-7

B.1. Wada H, Kimura K, Gomi T, Sugawara M, Katori Y, Kakehata S, Ikeda K, Kobayashi T.: Imaging of the cortical cytoskeleton of guinea pig outer hair cells using atomic force microscopy. Hear Res. 2004;187(1-2):51-62.

C.1. Maruya S, Issa JP, Weber RS, Rosenthal DI, Haviland JC, Lotan R, El-Naggar AK.: Differential methylation status of tumor-associated genes in head and neck squamous carcinoma: incidence and potential implications. Clinical Cancer Research, 2004;vol.10:3825-30

C.2. Maruya S, Kim HW, Weber RS, Lee JJ, Kies M, Luna MA, Batsakis JG, El-Naggar AK.: Gene expression screening of salivary gland neoplasms: molecular markers ofpotential histogenetic and clinical significance. Journal of Molecular Diagnostics, 2004;vol.6:180-90

C.3. Maruya S, Myers JN, Weber RS, Rosenthal DI, Lotan R, El-Naggar AK.: ICAM-5 (telencephalin) gene expression in head and neck squamous carcinoma tumorigenesis and perineural invasion. Oral Oncology, 2005;vol.41:580-8

2005年度

A.1. Inoue T, Mastubara A, Maruya S, Yamamoto Y, Namba A, Sasaki A, Shinkawa H.: Localization of dopamine receptor subtypes in the rat spiral ganglion. Neurosci letter. 2006;399:226-9

A.2. Kakehata S, Futai K, Sasaki A, Shinkawa H.: Endoscopic Transtympanic Tympanoplasty in the Treatment of Conductive Hearing Loss: Early Results. Otology & Neurotology. 2005;27(1):14-9

A.3. Kakehata S, Hozawa K, Futai K, Shinkawa H.: Evaluation of Attic Retraction Pockets by Microendoscopy. Otology & Neurotology. 2005;26:834-7

A.4. Maruya S, Kurotaki H, Hashimoto T, Ohta S, Shinkawa H, Yagihashi S. Inflammatory pseudotumour (plasma cell granuloma) arising in the maxillary sinus. Acta Otolaryngologica. 2005;125:322-7

A.5. Ichinohe M, Mita R, Saito K, Shinkawa H, Nakaji S, Coombs M, Carney A, Wright B, Fuller EL.: The prevalence of obesity and its relationship with lifestyle factors in Jamaica. Tohoku J. Exp. Med. 2005;207:21-32

B.1. Lynn C, Yasuda K, Yasuda T, Kelly AB, Michael F, Fabio GG, James MK.: Unilateral cortical application of tumor necrosis factor α induces asymmetry in Fos-and interleukin-1 β-immunoreactive cells within the corticothalamic projection. Brain R. 2005;1055:15-24

C.1. Maruya S, Kies MS, Williams M, Myers JN, Weber RS, Batsakis JG, El-Naggar AK.: Differential Expression of p63 Isotypes (ΔN and TA) in Salivary Gland Neoplasms: Biological and Diagnostic Implications. Human Pathology. 2005;36:821-7

C.2. Maruya S, Myers JN, Weber RS, Rosenthal DI, Lotan R, El-Naggar AK.: ICAM-5 (telencephalin) gene expression in head and neck squamous carcinoma tumorigenesis and perineural invasion. Oral Oncology. 2005;41:580-8

C.3. Yasuda T, Yasuda K, Richard AB, James MK.: State-dependent effect of light-dark cycle on somatosensory and visual cortex EEG in rats. Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol. 2005;289:R1083-9

和文

2004年度

A.1. 南場淳司，松原　篤，寺田一仁，一戸　学，去石　巧，阿部尚央，新川秀一：頭頸部癌症例に対するDocetaxel weekly 投与を用いた外来化学療法．頭頸部腫瘍．2004;30(1):116-20

A.2. 松原　篤，池野敬一，新川秀一，高坂知節：東北地区におけるアレルギー性鼻炎アンケート調査．耳鼻と臨床　2004;50(2):130-8

A.3. 南場淳司，松原　篤，寺田一仁，一戸　学，去石　巧，阿部尚央，新川秀一：頭頸部癌症例に対するDocetaxel weekly 投与を用いた外来化学療法．頭頸部腫瘍　2004;30:116-20.

A.4. 欠畑誠治：中耳疾患におけるインフォームドコンセント，MB ENT，2004;37:40-5

A.5. 新川秀一，欠畑誠治：耳小骨連鎖再建，MB ENT，2004;36:50-3.

2005年度

A.1. 松原　篤，白崎理喜，王子佳澄，二井一則，井上　卓，安田　京，新川秀一：降雪地域におけるスギ花粉飛散開始日の予測．耳鼻と臨床．2005;51(3):220-5

A.2. 二井一則，松原　篤，王子佳澄，池野敬一，谷田次郎，福士栄治，神　　均，鈴木健策，新川秀一：通年性アレルギー性鼻炎に対する塩酸フェキソフェナジンの効果．耳鼻と臨床．2005;51(4):310-7

（2）総説

英文

2005年度

B.1. He DZ, Zheng J, Kalinec F, Kakehata S and Santos-Sacchi J: Tuning in to the amazing outer hair cell: membrane wizardry with a twist and shout. J Membr Biol. 2006;209(2-3):119-34

和文

2004年度

A.1. 松原　篤：好酸球性中耳炎の治療―有効な治療を求めて―．Otol Jpn. 2004;14(2):128-32

A.2. 松原　篤：アレルギー性鼻炎とロイコトリエン受容体拮抗薬．アレルギー科．2004;17(5):467-72

A.3. 欠畑誠治，新川秀一：内視鏡による耳小骨離断の診断と治療，耳鼻咽喉科臨床，2004;97(11):937-45

2005年度

A.1. 丸屋信一郎：頭頸部腫瘍における遺伝子発現異常の解析．病理と臨床．2005;23(11):1223-7

（3）著書

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 松原　篤：好酸球性中耳炎．加我君孝，小林俊光，小宗静男，丹生健一，編．症例からみる難治性疾患の診断と治療．国際医学出版社．東京都．2005:1-12

A.2. 松原　篤：好酸球性中耳炎の治療．加我君孝，小宗静男，編．耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の最新治療．先端医療技術研究所．東京都．2005:86-9

A.3. 松原　篤．滲出性中耳炎．山口 徹，他，編．今日の治療指針．医学書院．東京都．2005:1057

（4）その他

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 佐々木亮，藤田繁俊，新川秀一：腰椎麻酔後に低音障害型難聴を来した1例．耳鼻と臨床．2004;50(5):351-6

2005年度

A.1. 松原　篤：花粉症の飲み薬とは？．Q&Aでわかるアレルギー疾患．2005;1(3):263-4

A.2. 松原　篤：通年性アレルギー性鼻炎における塩酸レボカバスチン点鼻液の有効性について．アレルギーの臨床．2005;25(14):78

A.3. 欠畑誠治，新川秀一：中耳手術における内視鏡の有用性．日本耳鼻咽喉科学会専門医通信．2005;82:4-5

A.4. 欠畑誠治，阪本真弥：耳下腺悪性腫瘍．Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery. 2005;21(3):452-8

A.5. 欠畑誠治，佐々木亮：鼓膜切開・穿刺，鼓膜チューブ留置．Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery. 2005;21(8):1101-3

A.6. 欠畑誠治：癒着性中耳炎をどう治療すべきか？―レーザー治療の立場から―. Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery. 2005;21(11):1620-4

A.7. 佐々木亮，欠畑誠治：突発性難聴治療にどんな薬剤を選択すべきか？―ステロイド使用の立場から―. Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery. 2005;21(11):1629-33

A.8. 欠畑誠治：耳鳴の成因に関する最近の知見―末梢性耳鳴発生機序―．Monthly Book ENTONI. 2005;49:1-6

A.9. 石井賢治，松原　篤：口腔・咽頭異物．耳喉頭頸．2005;77(4):283-7

A.10. 安田　京，新川秀一：救急疾患の診断と治療，耳性頭蓋内合併症．JOHNS．2006;22(3):335-9

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Laryngoscope	1.375	1	1.375
Modern Pathology	3.211	1	3.211
Acta Oto-Laryngologica	0.795	1	0.795
Am J Med Genet	2.378	1	2.378
Hearing Res.	1.586	1	1.586
Total		5	9.345

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neurosci letter	2.021	1	2.021
Otology & Neurotology	0	2	0
Acta Otolaryngologica	0.795	1	0.795
Tohoku J. Exp. Med	0.516	1	0.516
Brain R	2.489	1	2.489
J Membr Biol	2.787	1	2.787
Total		7	8.608

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
頭頸部腫瘍	2	
耳鼻と臨床	1	2
MB ENT	2	
Otol Jpn.	1	
アレルギー科	1	
耳鼻咽喉科臨床	1	
病理と臨床		1
計	8	3

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	3
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
耳鼻と臨床	1	
Q&A でわかるアレルギー疾患		1
アレルギーの臨床		1
JOHNS		5
日本耳鼻咽喉科学会専門医通信		1
Monthly B ENTONI		1
耳鼻咽喉科・頭頸部外科		1
計	1	10

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Kakehata S, Futai K, Shinkawa H: Treatment of conductive hearing loss by endoscopic transtympanic tympanoplasty. The 10th Korea-Japan Joint Meeting, Tokyo, 2004

2005年度

C.1. Kakehata S, Futai K, Sasaki A, Shinkawa H: Endoscopic transtympanic tympanoplasty in the treatment of conductive hearing loss. XVIII IFOS World Congress, Roma, 2005.6.

C.2. Kakehata S, Futai K, Sasaki A, Shinkawa H: Endoscopic transtympanic tympanoplasty in the treatment of conductive hearing loss: Early results. 25th Politzer Society Meeting, Seoul, 2005.10.

C.3. Ishii K, Yasuda K, Maruya S, Kakehata S, Shinkawa H: Clinical experience of Japanese-Oriental Medicine (Kampo) for patients with dizziness or vertigo. 25th Politzer Society Meeting, Seoul, 2005.10.

C.4. Oji K, Kakehata S, Sasaki A, Futai K, Shinkawa H: Effectiveness of intratympanic dexamethasone treatment on sudden sensorineural hearing loss with diabetes. 25th Politzer Society Meeting, Seoul, 2005.10.

C.5. Futai K, Kakehata S, Kitani R, Shinkawa H: Office-based endoscopic procedure for diagnosis in conductive hearing loss cases utilizing otoscan laser- assisted myringotomy. 25th Politzer Society Meeting, Seoul, 2005.10

C.6. Abe T, Kakehata S, Kitani R, Santos-Sacchi J, Shinkawa H: Developmental expression of the outer hair cell motor in the mouse. INNER EAR BIOLOGY Workshop, Tubingen – Germany, 2005.9.

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. シンポジウム，欠畑誠治：耳鼻咽喉科領域のレーザー手術「中耳におけるレーザーの新しい利用法」，第66回耳鼻咽喉科臨床学会総会，青森市，2004

C.　11件

2005年度

A.1　欠畑誠治：耳科手術における手術支援機器．第15回日本耳科学会総会ランチョンセミナー講演．大阪．2005.10

B.1. 新川秀一：進歩する診療支援機器1)耳領域．第19回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会アドバンスト・コース講演．神戸2005.11

B.2. 松原　篤：アレルギー性鼻炎の治療．第55回日本アレルギー学会秋期臨床大会．市民公開講座．盛岡市．2005

B.3. 欠畑誠治：耳科領域における拡大手術と縮小手術「耳科領域における縮小手術―内視鏡，CO2レーザーの利用―」．第16回日本頭頸部外科学会総会シンポジウム．久留米．2006.1

C.　26件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2004年度

テキサス大学 MD Anderson がんセンター，頭頸部腫瘍の予後因子に関する研究，
丸屋信一郎・Adel K. El-Naggar・Jeffery N. Myers

2005年度

Dr. Jeffrey N Myers（テキサス大学 M.D. Anderson Cancer Center，頭頸部外科）と頭頸部扁平上皮癌細胞における simvastatin の抗腫瘍効果の解析について共同研究中である。

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

- 萌芽研究，器官培養コルチ器を用いた prestin による蝸牛増幅機構の直接的解析―マルチクランプ法の応用―，新川秀一，170万円
- 萌芽研究, 器官培養コルチ器への prestin 遺伝子 (pres) 導入－ prestin による蝸牛増幅機構の直接的解析－，欠畑誠治，140万円
- 若手研究(B)，内耳における GABA 合成酵素の局在と GABA の機能，石井賢治，250万円
- 若手研究(B)，RFLP 法を用いたミトコンドリア遺伝子961delT 変異解析とその臨床像，南場淳司，160万円

2005年度

研究代表者として

- 萌芽研究．器官培養コルチ器を用いた prestin による蝸牛増幅機構の直接的解析．新川秀一．160万円
- 萌芽研究．ソノポレーション法による in vivo コルチ器への prestin 遺伝子導入．欠畑誠治．190万円
- 若手研究 B．内耳における GABA 合成酵素の局在と GABA の機能．石井賢治．100万円
- 若手研究 B．頭頸部癌における新たな治療標的としてのインテグリン細胞接着分子機能の解明．丸屋信一郎．200万円
- 若手研究 B．RFLP 法を用いたミトコンドリア遺伝子961delT 変異解析とその臨床像．南場淳司．180万円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2004年度

1．Iwasa KH, NIH USA　平成16年４月８日～13日
2．Santos-Sacchi J, Yale Univ. USA　平成16年９月６日～14日
3．Hong-Bough Z. Kentucky Univ. USA　平成17年１月27日～28日

2005年度

ZZ.He Associate Professor, Dept. of Biomedical Sciences, Creighton University Medical School，平成17年8月24−25日

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

2004年度

- 丸屋信一郎，MD Anderson Cancer Center, Texas Univ., USA. 2002.4.22 ～ 2004.9.9
- 安田　京，Washington State Univ. USA. 2003.3.1 ～

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2004年度

新川秀一，第66回耳鼻咽喉科臨床学会総会および学術講演会，青森市

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

新川秀一，第125回日耳鼻青森県地方部会，弘前
新川秀一，第126回日耳鼻青森県地方部会，八戸

2005年度

新川秀一，日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会を3回．弘前・青森・八戸
新川秀一，第20回北奥羽三県地方部会合同学術講演会．弘前

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

29. 放射線医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

１）数編の英文論文を。うち少なくとも１編は impact factor のある雑誌に
２）国際学会への発表を積極的に行う
３）研究成果および臨床成果の確実な報告を行う
４）種々の研究費の獲得を

1) 100％
2) 80％
3) 60％
4) 60％

総評　75％

理念：

患者さんに対し診療行為を明確に説明し，持てる知識と技術を用い適切な診療を提供し，その結果を評価し，最終的に診療結果を診療行為に還元する。このために，ひとつでも多くの診断または治療を経験し体現化する事により診断または治療を確実に習得する事に努め，常に彼我の医療の質を客観的に判断し，よりよい診断または治療を目標に創意工夫と努力を惜しまないことである。

これから２年間の目標：

１）英文論文を中心とした研究成果および臨床成果の確実な報告を行う
２）国際学会への発表を積極的に行う
３）種々の研究費の獲得を
４）日本医学放射線学会専門医および関連学会認定医等の積極的取得を
５）基本に忠実に着実な診療と大胆な発想に基づく研究を

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　0，大学院学生　3，研究生　2			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	阿部　由直	全期間
	助教授	専　任	小野　修一	全期間
	講　師	専　任	青木　昌彦	全期間
	講　師	専　任	三浦　弘行	全期間
	助　手	専　任	野田　　浩	-2004.9.30
	助　手	専　任	場崎　　潔	全期間
	助　手	専　任	板橋　陽子	-2004.11.30
	助　手	専　任	大畑　　崇	全期間
研究課題	１）放射線治療抵抗性癌に対する基礎的臨床的研究 ２）放射線治療の先行予測に関する研究 ３）放射線による正常組織障害の克服 ４）病理を含めた画像診断の研究と臨床的意義 ５）新しい診断技術の開発 ６）三次元から四次元に至る診断法の研究と臨床的意義 ７）インターベンション治療の最適化 ８）再生医学を応用した放射線生物学 ９）放射線による正常組織障害の分子生物学的解明 10）癌放射線治療の基礎的研究			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　3，医員　3，大学院学生　3，研究生　2			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	阿部　由直	1年
	助教授	専　任	小野　修一	1年
	講　師	専　任	青木　昌彦	1年
	講　師	専　任	三浦　弘行	1年
	助　手	専　任	近藤　英宏	1年
	助　手	専　任	大畑　　崇	1年
	助　手	専　任	長畑　守雄	1年
研究課題	1）放射線治療抵抗性癌に対する基礎的臨床的研究 2）放射線治療の先行予測に関する研究 3）放射線による正常組織障害の克服 4）病理を含めた画像診断の研究と臨床的意義 5）新しい診断技術の開発 6）三次元から四次元に至る診断法の研究と臨床的意義 7）インターベンション治療の最適化 8）再生医学を応用した放射線生物学 9）放射線による正常組織障害の分子生物学的解明 10）癌放射線治療の基礎的研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

B.1. Y. Hasegawa, S. Takanashi, K. Okudera, M. Aoki, K. Basaki, H. Kondo, T. Takahata, Norio Yasui-Fukunori, T. Tateishi, Y. Abe, K. Okumura: Weekly paclitaxerl and nedaplatin with concurrent radiotheerapy for locally advanced non-small-cell lung cancer: a phase I/II study. Jpn J Clin Oncol 34:647-653,2004

B.2. Iwasaki, M. Kubota, H. Kimura, T. Osanai, T. Jin, M. Narita, S. Kudo, Y. Abe: Theoretical considerations with the Wiener spectrum used for evaluation of radiographic granularity. Bull Health Sci Hirosaki 3:25-32,2004

B.3. I. Kashiwakura, M. Kuwabara, O. Inanami, T. A. Takahashi and Y. Abe: Regenerative induction of megakaryopoiesis and thrombopoiesis in vitro from X-irradiated CD34+ cells prepared from human placental and umbilical cord blood. Bull Health Sci Hirosaki 3:17-24,2004

2005年度

A.1. M. Nagahata, S. Ono, Y. Abe, T. Hosoya: Surface appearance of the vertebrobasilar artery revealed on basi-parallel anatomical scanning (BPAS)-MRI: Its role for the brain MR examination. AJNR Am J Neuroradiol 26:2508-2513,2005

A.2. M. Aoki, Y. Abe, Y. Hatayama, H. Kondo, K. Basaki: Clinical outcome of hypofractionated conventional conformation radiotherapy for patients with single and no more than three metastatic brain tumors using noninvasive fixation of the skull without whole brain irradiation. Int J Radiat Oncol Biol Phys 64:414-418,2006

A.3. K. Basaki, Y.Abe, M. Aoki, H. Kondo, Y. Hatayama, S. Nakaji: Prognostic factors for survival in stage III non-small-cell lung cancer treated with definitive radiation therapy: Impact of tumor volume. Int J Radiat Oncol Biol Phys 64:449-454,2006

B.1. A Iwasaki, M Kubota, A Fujimori, K Suzaki, Y Abe, H Ono, K Nishimura, H Yokoyama: Formulation of spectra-based attenuation coefficients in water as a function of depth and off-axis distance for 4, 10, and 15 MV X-ray beams. Radiat Phys Chem 72:657-661,2005

B.2. S. Ikejima, S Sasaki, H Sashinami, F. Mori, Y. Ogawa, T, Nakamura, Y. Abe, K. Wakabayashi, T. Suda, A. Nakane: Impairment of host resistance to Listeria monocytogenes infection in liver of db/db and ob/ob mice. Diabetes 54:182-189,2005

B.3. A. Iwasaki, J. Hirota, M. Kubota, H. Kimura, T. Osanai, T. Jin, M. Narita, S. Kudo, Y. Abe: A method for evaluating the degree of random-periodicity of radiographic noise containing periodic siganals. Bull. Health Sci. Hirosaki 4:101-107,2005

B.4. D-Liang Hu, S Suga, K Omoe, Y Abe, K Shinagawa, M Wakui, A Nakane: Staphylococcal enterotoxin A modulates intracellular Ca2+ signal pathway in human intestinal epithelial cells. FEBS Letters 579:4407-4412, 2005

B.5. I. Kashiwakura, O. Inanami, Y. Abe, T.A. Takahashi, M. Kuwabara: Different Radiosensitive Megakaryocytic Progenitor Cells Are Existed In Normal Human Peripheral Blood. Radiat Res 164:10-16,2005

B.6. A. Iwasaki, Y. Kodera, J. Hirota, M. Kubota, H. Kimura, T. Osanai, S. Kudo, Y. Abe: Theoretical considerations for evaluating he degree of random-periodicity of raadiographic noise. Applied Radiation and Isotopes 64:19-26,2006

B.7. K.Nemoto, S.Yamada, M.Nishio, M.Aoki, R.Nakamura, Y.Matsumoto, R. Sasamoto, Y.Saitoh, M.Takayama, N.Mitsuhashi, K.Gomi, N.Kanesaka, M.Kobayashi, H.Ohnishi, S.Sasaki, H.Tamamura, M.Takemoto, Y.Nishimura, K.Tsujino, M.Takemoto, N.Uchida, M.Yamamoto, Y.Shioyama, K.Hirakawa and S.Ono.: Results of Radiation Therapy for Superficial Esophageal Cancer using the Standard Radiotherapy Method Recommended by the Japanese Society of Therapeutic Radiology and Oncology (JASTRO) Study Group. Anticancer Research 2006;26:1507-1512.

和文

2004年度

A.1. 青木昌彦，阿部由直，山田章吾，晴山雅人，中村隆二，杉田　公，宮野　卓：放射線治療におけるリスクマネジメントの実態―北日本放射線腫瘍学研究会におけるアンケート調査結果―，日本放射線腫瘍学会誌 16:231-236,2004

A.2. 阿部由直，青木昌彦：放射線治療における非癌部の被ばくと防護．Radiology Frontier, 7:289-293,2004

A.3. 阿部由直，青木昌彦，場崎　潔，畑山佳臣：クリニカルパスと治療支援システム．新医療12月号，74-77, 2004

A.4. 金　正宣，工藤亮裕，阿部由直：心臓カテーテル検査施行医師の被ばく線量の検討．心臓，36:667-672, 2004

A.5. 小野修一, 三浦弘行，板橋陽子，大畑　崇，対馬史泰，阿部由直：CTによる上大静脈症候群の血行動態の検討，臨床放射線，2005,50(1):134-140

B.1. 安倍　明，渡辺定雄，甲藤敬一，真里谷靖，青木昌彦：化学療法を併用したⅡ・Ⅲ期子宮頸癌放射線治療成績の検討，臨床放射線，2004,49(9):1148-1152.

2005年度

A.1. 小野修一, 三浦弘行，板橋陽子，大畑　崇，対馬史泰，阿部由直：CTによる上大静脈症候群の血行動態の検討　臨床放射線　50(1):134-140,2005.

A.2. 小野修一, 三浦弘行，長畑守雄，大畑　崇，森本公平，対馬史泰，青木昌彦，近藤英宏，畑山佳臣，川口英夫，阿部由直，高梨信吾：放射線肺臓炎のCT所見：経時変化の検討　臨床放射線　51(1):85-90,2006.

B.1. 工藤幸清，樽澤孝悦，篠崎信世，阿部由直，胡　東良，中根明夫：マウスX線全身照射による放射線傷害に対するEGF，メラトニン，エダラボンの影響．弘前大学医学部保健学科紀要　4:109-113,2005.

B.2. 篠崎信世，工藤幸清，祐川幸一，阿部由直，劉　　勇：直腸部X線照射によるマウス直腸障害モデルの作成．弘前大学医学部保健学科紀要　4:115-122,2005

B.3. 岩崎　晃，久保田護，廣田淳一，伊藤雅信，藤森　明，須崎勝正，青木昌彦，阿部由直：ワガナー反復摂動原理に基づいて開発した高エネルギーX線スペクトル推定法の特性．日本放射線腫瘍学会誌　17:79-95, 2005

B.4. 岩崎　晃，小寺吉衛，廣田淳一，久保田護，木村　均，長内恒美，工藤亮裕，阿部由直：画像ノイズの不規則性・周期性の程度を評価することに関する理論的考察．医学物理　25:49-58,2005

B.5. 広田佐栄子，永田　靖，菱川良夫，内山幸男，村上昌雄，副島俊典，村山千恵子，阿部由直，岡崎　篤，西村恭昌，大場仁敏：放射線治療に対する意識調査および情報提供の重要性についての検討―患者1,529人を対象として（2002年）日本医学放射線学会雑誌　65:248-254,2005

B.6. 瀧　靖之，木之村重男，後藤了以，佐藤和則，伊藤　浩，井上健太郎，岡田　賢，小野修一，川島隆太，福田　寛：“年齢相応の脳”とは？　臨床放射線　50(8):983-990,2005.

B.7. 根本建二，山田章吾，西尾正道，青木昌彦，中村隆二，松本康夫，笹本龍太，斉藤吉弘，高山　誠，三橋紀夫，五味光太郎，兼坂直人，小林雅夫，田中史穂，佐々木茂，玉村裕保，光森道英，西村恭昌，辻野佳世子，武本充広，内田伸恵，山本道法，塩山善之，平川浩一，小野誠治：JASTRO研究グループによる標準的放射線治療法を用いた食道表在癌の治療成績　―中間報告― 日放腫会誌　2005;17:187-193.

B.8. 黄木正登，嘉山孝正，小久保安昭，斎藤伸二郎，近藤礼，長畑守雄，江面正幸：下垂体静脈洞経由塞栓術のみでは治癒しえなかった海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻症例の検討．脳卒中の外科　33:180-186,2005

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 小野修一，山田隆之，壺井匡浩，石橋忠司，福田　寛，高橋昭喜，阿部由直，MD-CTの胸部疾患への応用，断層映像研究会雑誌，2004;31(1):15-19

A.2. 小野修一：気胸―見落とし・誤診を減らす撮影法と読影― Medicina　増刊号 臨床医必携　単純X線写真の読み方・使い方，2005;41(12):88-96

2005年度

A.1. 阿部由直，青木昌彦，近藤英宏：肺がん放射線治療の最前線．臨床腫瘍プラクティス　2:106-108,2006

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1.（分担）阿部由直，高梨信吾：放射線肺炎と放射線肺線維症.『肺癌診療二頁の秘訣』，196-197，2004，藤村重文編，金原出版

A.2.（分担）小野修一，第1章 図表集 3. 正常 CT 像，萩原弘一編，呼吸器科研修医ノート，pp12-21，診断と治療社，東京，2004

A.3.（分担）小野修一，第7章 検査 第1項 画像，萩原弘一編，呼吸器科研修医ノート，pp264-315，診断と治療社，東京，2004

2005年度

A.1. 小野修一：気胸　―見落とし・誤診を減らす撮影法と読影―　Medicina 41(12)：増刊号 臨床医必携　単純 X 線写真の読み方・使い方　88-96,2005.

A.2. 小野修一，対馬史泰，三浦弘行，大畑　崇，阿部由直：肺癌・縦隔腫瘍　4. 胸部　甲田英一・伊藤勝陽編 3D ボリュームデータ　―やさしく臨床に直結―　金原出版　東京　pp109-116,2006.

（4）その他

英文　なし

和文

2004年度

B.1. 早川和重（司会），阿部由直，石倉　聡，西村泰昌：肺癌放射線治療の新展開．呼吸，23:447-456,2004

B.2. 場崎　潔，青木昌彦，畑山佳臣，阿部由直：当院での放射線治療におけるベッドマネージメントとインフォームドコンセント　北日本放射線腫瘍学研究会誌　2004;43:25-26.

2005年度

A.1. 青木昌彦，近藤英宏，畑山佳臣，川口英夫，阿部由直：体幹部定位放射線治療の導入にあたって―当院における初期経験―　北日本放射線腫瘍学研究会誌，2005;44:27-30.

A.2. 長畑守雄，阿部由直，小野修一，他：Basi-parallel anatomic scanning MRI (BPAS-MRI) による頭蓋内椎骨脳底動脈の外観表示．GE today in technology　17:9-10,2005.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
AJNR Am J Neuroradiol	2.629	1	2.629
Int J Radiat Oncol Biol Phys	4.556	2	9.112
Radiat Phys Chem	0.725	1	0.725
Diabetes	8.028	1	8.028
Bull. Health Sci. Hirosaki	0	1	0
FEBS Letters	3.415	1	3.415
Radiat Res	3.208	1	3.208
Applied Radiation and Isotopes	0.69	1	0.69
Anticancer Research	1.604	1	1.604
Total		10	29.411

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
日本放射線腫瘍学会誌	1	2
Radiology Frontier	1	
新医療	1	
心臓	1	
臨床放射線	2	2
断層映像研究会雑誌	1	
Medicina	1	1
弘前大学医学部保健学科紀要		2
医学物理		1
日本医学放射線学会雑誌		1
脳卒中の外科		1
臨床腫瘍プラクティス		1
計	8	11

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	3	2

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
呼吸	1	
北日本放射線腫瘍学研究会誌	1	1
GE today in technology		1
計	2	2

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Masahiko Aoki, Yoshinao Abe, Kiyoshi Basaki, Yoshiomi Hatayama: Clinical Outcome of Hypofractionated Focalized Traditional Conformation Radiotherapy for Metastatic Brain Tumor. The 4th S. Takahashi Memorial International Workshop on 3 Dimensional Conformal Radiotherapy, 2004.

2005年度

A.1. Y. Abe Radiation therapy: where to go. 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science 'New Targets for Cancer Prevention and Therapy', Hirosaki, Nov. 11,2005.

C.1. Masahiko Aoki, Hidehiro Kondo, Yoshiomi Hatayama, Hideo Kawaguchi and Yoshinao Abe.: Treatment results and prognostic factors of definitive radiotherapy with or without chemotherapy in patients with nasopharyngeal carcinoma. 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2005.

C.2. Hiroyuki Miura, Shuichi Ono, Morio Nagahata, Takashi Ohata, Kohei Morimoto, Yoshinao Abe, Takahide Kaneko, and Katsumi Hanada: Lymphoscintigraphy for sentinel node mapping in patients with malignant skin neoplasm - A study of lymphatic drainage and localization of sentinel node in Japanese patients - . The 9th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. Hirosaki, Japan, 2005.

C.3. Nagahata M, Abe Y, Ono S, Miura H, Ohata T, Morimoto K, Manabe H, Hasegawa S, Takemura A: Morphological change of the unruptured vertebral artery dissection on serial MR examinations: evaluation of the arterial outer contour by basi-parallel anatomical scanning (BPAS)-MRI. 8th Congress of World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology, Venice, Italy, October 2005.

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. 阿部由直，文部科学省全国国立大学放射線技術者研修第9回オータムセミナー「医療被ばくとその影響」平成16年10月

B.2. 小野修一，放射線肺障害に対する一考察、第30回肺癌診断会　福島県猪苗代町，平成16年6月

C.　11件

2005年度

B.1. 阿部由直，青森県における緊急被ばく医療体制について　パネルディスカッション「地域における緊急被ばく医療体制について」 第9回緊急医療被ばくフォーラム　青森市　2005.9.3

C.　6件

Ⅲ．学術賞

2004年度

青木昌彦　第88回弘前医学会総会　弘前医学会賞　優秀発表賞
放射線治療を行った早期乳癌に対する乳房温存療法の治療成績

Ⅳ．共同研究

2004年度

（株）日本原燃「放射線大量被ばくの人体への影響軽減研究」

2005年度

（株）日本原燃「放射線大量被ばくの人体への影響軽減研究」

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

基盤（B）（2）ES細胞の移植とサイトカイン刺激により放射線腸障害からの回復を試みる実験的研究

他研究単位との研究分担者として

基盤研究（A）（1）早期の癌に対する放射線治療の現状報告と文献レビューおよび研究方法の提案（代表，山田章吾）

2005年度

他研究単位との研究分担者として

基盤研究（A）（1）早期の癌に対する放射線治療の現状報告と文献レビューおよび研究方法の提案（代表，山田章吾）

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2005年度

研究代表者として

平成18年度学術国際振興基金

他研究単位との研究分担者として

平成17年度弘前大学学長指定重点研究計画

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2005年度

劉　　勇（医学研究科２年）

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2005年度

第9回放射線事故医療研究会（平成17年9月3日，青森市）会長　阿部由直

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

第9回北奥羽放射線治療懇話会
代表　秋田大学放射線医学講座　渡会二郎（八幡平）

2005年度

第12回東北胸部放射線研究会　小野修一　弘前
第10回北奥羽放射線治療懇話会　青木昌彦　八幡平

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

2005年度

森本公平　国立がんセンター中央病院　放射線診断部　（平成18年2月20日から3月17日）

Ⅶ．その他

なし

30. 産科婦人科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：
Inpact factor の付いた論文数が増加し，十分な成果を上げることができた。

理念：
地方大学の特色を十分活かし，活気あふれる教室を形成，運営する。

これから２年間の目標：
今年度の成果を基盤とし，更に上昇するよう努力する。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　0，大学院学生　7，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	水沼　英樹	平成16年4月～平成17年3月
	助教授	専　任	藤井　俊策	平成16年4月～平成17年3月
	講　師	専　任	樋口　　毅	平成16年4月～平成17年3月
	講　師	専　任	横山　良仁	平成16年4月～平成17年3月
	助　手	専　任	福井　淳史	平成16年4月～平成17年3月
	助　手	専　任	二神　真行	平成16年4月～平成17年3月
	助　手	専　任	山本　善光	平成16年4月～平成17年3月
	助　手	専　任	木村　秀崇	平成16年4月～平成17年3月
研究課題	1．妊娠の成立と維持に関わる免疫機構の研究 2．血球系幹細胞を用いた前胞状卵胞の体外成熟の研究 3．婦人科悪性腫瘍の発癌機構の解明とその治療法に関する研究 4．妊娠中毒症の原因の解明と予知法の開発に関する研究 5．多胎妊娠の予防法に関する研究 6．早産の治療法に関する研究			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　2，大学院学生　7，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	水沼　英樹	平成17年4月～平成18年3月
	助教授	専　任	藤井　俊策	平成17年4月～平成18年3月
	講　師	専　任	樋口　　毅	平成17年4月～平成18年3月
	講　師	専　任	横山　良仁	平成17年4月～平成18年3月
	助　手	専　任	福井　淳史	平成17年4月～平成18年3月
	助　手	専　任	二神　真行	平成17年4月～平成18年3月
	助　手	専　任	山本　善光	平成17年4月～平成18年3月
	助　手	専　任	木村　秀崇	平成17年4月～平成18年3月
研究課題	1．妊娠の成立と維持に関わる免疫機構の研究 2．血球系幹細胞を用いた前胞状卵胞の体外成熟の研究 3．婦人科悪性腫瘍の発癌機構の解明とその治療法に関する研究 4．妊娠中毒症の原因の解明と予知法の開発に関する研究 5．多胎妊娠の予防法に関する研究 6．早産の治療法に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Sakamoto A, Yokoyama Y, Umemoto M, Futagami M, Sakamoto T, X Bing, Mizunuma H.: Clinical implication of expression of cyclooxygenase-2 and peroxisome proliferator activated-receptor in epithelial ovarian tumours.British Journal of Cancer 2004;91:633-638.

A.2. Yokoyama Y, Ono Y, Sakamoto T, Fukuda I, Mizunuma H.: Asymptomatic intracardiac metastasis from a low-grade endometrial stromal sarcoma with successful surgical resection. Gynecologic Oncology 2004;92:999-1001.

C.1. Ohta H, Ohama K, Aso T, Sagara Y, Kobayashi S, Mizumuma H, Dobashi K, Urabe M, Sanada M , Honho H.: Developmento of a Questionnaire for Assessment of Climacteric Symptoms in Japanese Women. 日本更年期医学会雑誌 2004;12:239-246.

2005年度

A.1. Yokoyama Y, Higuchi T, Mizunuma H.: The potential and problems of screening for ovarian cancer. Eur. J.Gynaecol.Oncol. 2005;26:241-243.

A.2. Yokoyama Y, Shigeto T, Futagami M, Mizunuma H.: Syndrome of inappropriate secretion of anti-diuretic hormone following carboplatin-paclitaxel administration in a patient with recurrent ovarian cancer. Eur J Gynaecol Oncol 2005;26:531-532.

A.3. Mizunuma H, Shiraki M, Shintani M, Gorai I, Makita K, Itoga S, Mochizuki Y, Mogi H, Iwaoki Y, Kosha S, Yasui T, Ishihara O, Kurabayashi T, Kasuga Y, Hayashi K.: Randomized trial comparing low-dose hormone replacement therapy and HRT plus 1α-OH-vitamin D3(alfacalcidol) for treatment of postmenopausal bone loss. J Bone Miner Metab 2006;24:11-15.

B.1. Maeno T, Ohta A, Hayashi K, Kobayashi Y, Mizunuma H, Nakai S, Ohashi Y, Suzuki S.: Impact of reproductive experience on women's smoking behaviour in Japanese nurses. Public Health 2005;119:816-824.

C.1. Marneros AG, Fan J, Yokoyama Y, Gerber HP, Ferrara N, Crouch RK, Olsen BR.: Vascular endothelial growth factor expression in the retinal pigment epithelium is essential for choriocapillaris development and visual function. Am J Pathol 2005;167:1451-1459.

和文

2004年度

A.1. 藤井俊策，小島章弘，福原理恵，木村秀崇，福井淳史，坂本知巳，水沼英樹，山口英二．Day 4桑実胚／胚盤胞移植の臨床成績．青森臨床産婦人科医会誌　2004;19:76-84.

A.2. 樋口　毅：卵巣癌集団検診における超音波画像診断について．日本臨床細胞学会秋田県支部会誌　2004;10:40-46.

A.3. 坂本亜希子，重藤龍比古，辛　　兵，坂本知巳，横山良仁，樋口　毅，水沼英樹：卵巣腫瘍と鑑別を要した無症候性 Gastrointestinal stromal tumor の一例．青森県臨床産婦人科医会誌　2004;19:23-26.

A.4. 樋口　毅，福井淳史，坂本知巳，横山良仁，藤井俊策，水沼英樹，淀野　啓：当科における子宮動脈塞栓術施行症例の長期予後についての検討．青森県臨床産婦人科医会誌　2004;19:85-90.

A.5. 横山良仁，二神真行，福原理恵，谷口綾亮，樋口　毅，水沼英樹：当科における外来化学療法の現状．青森臨床産婦人科医会誌　2004;19:72-75.

A.6. 福原理恵，坂本知巳，田中幹二，重藤龍比古，横山良仁，水沼英樹，船橋　大，真鍋麻美，斎藤正昭，須郷孝信．腹腔妊娠の3例．青森臨床産婦人科医会誌　2004;19:99-103.

A.7. 福井淳史，藤井俊策，水沼英樹：高アンドロゲン血症を示す内分泌学的 PCOS 症例における体外受精・胚移植の臨床的検討．産婦人科の実際　2004;53:795-800.

A.8. 木村秀崇，藤井俊策，坂本知巳，福原理恵，山口英二，福井淳史，樋口　毅，水沼英樹：婦人科腹腔鏡手術における視覚誘導型ブレードレス・トロカーの手技とその有用性―トロカー穿刺による合併症および術後疼痛に関する検討―．青森臨床産婦人科医会誌　2005;19:68-71.

A.9. 水沼英樹：日本更年期医学会第三次 HRT アンケート調査報告　Women's Health Initiative 報告後の我が国における HRT の現況．日本更年期医学会雑誌　2004;12:168-169.

A.10. 二神真行，福原理恵，重藤龍比古，谷口綾亮，坂本亜希子，田中幹二，坂本知巳，尾崎浩士，佐藤秀平，水沼英樹：胆嚢炎など多数の合併症を併発した多発性子宮筋腫合併妊娠．青森県臨床産婦人科医会誌　2004;19:19-22.

A.11. 田中幹二，山本善光，二神真行，福井淳史，尾崎浩士，水沼英樹：切迫早産の診断・管理・治療に関する文献的考察．青森臨床産婦人科医会誌　2005;19:91-98.

B.1. 佐藤重美，樋口　毅，横山良仁，坂本知巳：卵巣癌の集団検診．日本臨床　2004;62:601-604.

B.2. 林　邦彦，藤田利治，鈴木庄亮，水沼英樹，麻生武志．ナースを対象とした日本人の疫学調査：Japan Nurses' Health study JNHS 中間報告．日本更年期医学会雑誌　2004;12:170-173.

B.3. 太田博明，野崎雅裕，久保田俊郎，水沼英樹，麻生武志：NGO, NPO, ボランテイア活動紹介(22)女性の美しく健やかなエイジングをサポートする Healthy Aging Projects for Women (HAP) の活動．GERONTOLOGY　2004;16:236-239.

2005年度

A.1. 藤井俊策，木村秀崇，福井淳史，坂本知巳，水沼英樹：性交後試験の臨床的意義．産婦人科の実際 2005;55:129-134.

A.2. 小島章弘，藤井俊策，福原理恵，中村理果，木村秀崇，山口英二，福井淳史，水沼英樹：ヒト桑実胚の形態学的評価における透明帯厚測定の有用性．J Mamm Ova Res　2005;22:231-235.

A.3. 木村秀崇，藤井俊策，坂本知巳，福原理恵，山口英二，福井淳史，樋口　毅，水沼英樹：婦人科腹腔鏡手術における視覚誘導型ブレードレス・トロカーの手技とその有用性―トロカー穿刺による合併症および術後疼痛に関する検討―．青森臨床産婦人科医会誌　2005;19:68-71.

A.4. 横山良仁，二神真行，福原理恵，谷口綾亮，樋口　毅，水沼英樹：当科における外来化学療法の現状．青森臨床産婦人科医会誌　2005;19:72-75.

A.5. 樋口　毅，福井淳史，坂本知巳，横山良仁，藤井俊策，水沼英樹，淀野　啓：当科における子宮動脈塞栓術施行症例の長期予後についての検討．青森臨床産婦人科医会誌　2005;19:85-90.

A.6. 田中幹二，柞木田礼子，山本善光，尾崎浩士，水沼英樹：最近の青森県における切迫早産の診断について．青森県臨床産婦人科医会誌　2005;20:1-6.

A.7. 柞木田礼子，山本善光，田中幹二，尾崎浩士，水沼英樹：青森県双胎妊娠アンケート調査の集計結果について．青森県臨床産婦人科医会誌　2005;20:7-12.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 藤井俊策：性感染症合併妊娠の管理．日本産科婦人科学会雑誌．2004;56:N530-N534.

A.2. 藤井俊策，木村秀崇：腸管，腸間膜の損傷．臨床婦人科産科．2005;59:332-337.

A.3. 樋口　毅，田中幹二，水沼英樹：女性ホルモンと骨粗鬆症．Current Therapy 2004;22:219-223.

A.4. 水沼英樹：エストロゲン．日本臨床増刊号 骨粗鬆症学　2004;62:397-403.

A.5. 水沼英樹：活性型ビタミンD3とエストロゲン．日本臨床増刊号　骨粗鬆症学　2004;62:475-479.

A.6. 水沼英樹：HRT・今何が問題か．福島県保健衛生情報　2004;13:18-21.

A.7. 福井淳史，藤井俊策，水沼英樹：15.OHSSの病態と対策．産婦人科治療増刊号　必携今日の生殖医療 2004;88(増刊):455-462.

A.8. 水沼英樹：骨粗鬆症Q & A. 骨粗鬆症治療2004;3:180-181.

A.9. 坂本知巳，水沼英樹：｛年齢とreproductive stageで考える4｝更年期．臨床婦人科産科　2004;58:254-257.

A.10. 水沼英樹：HRTのリスクとベネフィット．産婦人科治療　2004;88:1228-1233.

A.11. 水沼英樹：HRT, SERM．診断と治療　2004;92:981-986.

A.12. 水沼英樹：研修医のための必修知識．日本産科婦人科学会雑誌　2004;56:N-158-161.

A.13. 水沼英樹：第56回日産婦学会生涯研修プログラム　1. レクチャーシリーズ1）産婦人科医療における最近のトピック(5)更年期医療におけるSERM(selective estrogen receptor modulator)の位置づけ．日本産科婦人科学会雑誌　2004;56:N-493-N-497.

A.14. 水沼英樹：HRTの骨折予防効果．医学のあゆみ　2005;212:159-162.

A.15. 水沼英樹：これからの更年期医療におけるホルモン補充療法(HRT)の位置づけ．日本更年期医学会ニュースレター　2005;10:2.

B.1. 佐藤重美，樋口　毅，横山良仁，坂本知巳：子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌の診断と治療―最新の研究動向―．日本臨床　2004;62:601-604.

2005年度

A.1. 藤井俊策，木村秀崇：安全な腹腔鏡下手術を目指して―腸管／腸間膜の損傷．臨床婦人科産科 2005;59:332-337.

A.2. 藤井俊策，木村秀崇：内膜症のART. 臨床婦人科産科　2005;60:195-199.

A.3. 佐藤重美，樋口　毅，横山良仁，二神真行：超音波断層法による卵巣癌のスクリーニング．産婦人科治療 2005;90: 964-969.

A.4. 水沼英樹：ホルモン補充療法と血液凝固．HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY　2005;12:59-64.

A.5. 水沼英樹：薬剤とEBM　Ⅱラロキシフェン．骨粗鬆症治療　2005;4:156-159.

A.6. 水沼英樹：HRTのメリット・デメリット．医学のあゆみ　2005;213:501-505.

A.7. 水沼英樹：HRTの個別化―その必要性と方法．日本更年期医学会雑誌　2005;13:67-69.

A.8. 水沼英樹：骨粗鬆症Q & A．オステオアゴラ2005 '05新緑号東北エリア　2005;10-11.

A.9. 水沼英樹：ホルモン補充療法とそのガイドライン．産婦人科治療　2005;90:849-853.

A.10. 水沼英樹：骨粗鬆症Q & A, Q23 SERMとHRTは併用できるのでしょうか？．骨粗鬆症治療　2005;4:265-267.

A.11. 水沼英樹：ホルモンQ&A Q1 欧米では多嚢胞性卵巣群の診断にはLH測定は要らないと聞きましたが，どうしてなのでしょうか？ Q2 骨粗鬆症治療薬SERMはHRTと併用してよいのでしょうか？．HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY　2005;12:387-389.

A.12. 水沼英樹：エストロゲン製剤の現状と展望．性差と医療　2006;3:161-165.

A.13. 水沼英樹：SERM の乳腺・女性生殖器への作用．松本俊夫，加藤茂明，編．SERM のすべて．大阪：医薬ジャーナル；2005.p.77-81.

A.14. 藤井俊策，木村秀崇，福井淳史，坂本知巳，水沼英樹：性交後試験の臨床的意義．産婦人科の実際 2006;55:129-134.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 藤井俊策：スクリーニング検査の目的と実施のコツ．吉村泰典編．生殖医療のコツと落とし穴．東京：中山書店；2004.p.8-9.

A.2. 藤井俊策：多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発．吉村泰典編．生殖医療のコツと落とし穴．東京：中山書店；2004.p.138-139.

A.3. 水沼英樹：更年期障害，ホルモン補充療法．山口徹，北原光夫総編集．今日の治療方針　2004年版．東京：医学書院；2004.p.857-858.

A.4. 水沼英樹：ホルモン療法．池ノ上克，鈴木秋悦，高山雅臣，豊田長康，廣井正彦，八重樫伸生編．NEW エッセンシャル産科学・婦人科学．東京：医歯薬出版；2004.p.518-523.

A.5. 水沼英樹：第1章生殖医学　Ⅲ. 女性の加齢．矢嶋　聰，中野仁雄，武谷雄二編．NEW 産婦人科学　改訂第2版．東京：南江堂；2004.p.34-41.

A.6. 水沼英樹：Ⅳ. 更年期・老年期障害(3)骨量減少，骨粗相症．神崎秀陽編集．婦人科内分泌外来ベストプラクテイス．東京：医学書院；2004.p.235-241.

A.7. 樋口　毅，田中幹二，水沼英樹：更年期障害 HRT. 阿部好文，西川哲男編．臨床に直結する内分泌・代謝疾患治療のエビデンス．東京：文光堂；2004.p.119-122.

2005年度

A.1. 樋口　毅：子宮筋腫のある患者への HRT における注意点．麻生武志編集．更年期医療のコツと落とし穴．東京： 中山書店；2005.p.136-137.

A.2. 福井淳史，藤井俊策，水沼英樹：体外受精の問題点　卵巣過剰刺激症候群．鈴木秋悦編．体外受精 Progress．東京：メジカルビュー；2005.p.287-293.

A.3. 水沼英樹：無月経と排卵障害. 山口徹, 北原光夫総編集. 今日の治療指針　2005年版. 東京：医学書院；2005.p.864-865.

B.1. 藤井俊策：骨盤内炎症性疾患．山口徹，北原光夫，福井次矢編．今日の治療指針．東京：医学書院；2006.p.900-901

B.2. 藤井俊策：エストラジオール（E2）．中井利昭編．検査値のみかた　改定3版．東京：中外医学社；2006.p.351-357.

B.3. 藤井俊策：エストリオール(E3)．中井利昭編．検査値のみかた　改定3版．東京：中外医学社；2006.p.358-360.

B.4. 藤井俊策：プロゲステロン(P4)・尿中プレグナンジオール(P2)・プレグナントリオール(P3)．中井利昭編．検査値のみかた　改定3版．東京：中外医学社；2006.p.361-364.

B.5. 藤井俊策：HCG および subunit．中井利昭編．検査値のみかた　改定3版．東京：中外医学社；2006.p.369-375.

B.6. 福井淳史, 藤井俊策, 水沼英樹：OHSS の病態と対策．森崇英, 久保春海, 岡村均編．図説 ART マニュアル．東京：永井書店；2006.p.241-249.

B.7. 福井淳史，藤井俊策，水沼英樹：卵巣過剰刺激症候群，鈴木秋悦編．進化していく体外受精．東京：メディカルビュー；2005.p.287-293.

（4）その他

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 小川克弘，工藤香里，藤井俊策：夫婦間 HLA 抗原適合例の反復流産対策は有用か？．周産期医学 2004;34:91-93.

A.2. 水沼英樹，藤野敬史，五来逸雄，倉林　工：座談会　産婦人科における骨粗鬆症治療の実際．Pharma Medica　2004;22:87-94.

2005年度

A.1. 木村秀崇，藤井俊策，福井淳史，水沼英樹：腹腔鏡下筋腫核出術後の妊産婦管理．産婦人科治療 2006;92:276-279.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
British Journal of Cancer	3.742	1	3.742
Gynecologic Oncology	2.083	1	2.083
Total		2	5.825

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur J Gynaecol Oncol	0.591	2	1.182
J Bone Miner Metab	1.464	1	1.464
Public Health	0.986	1	0.986
Total		4	3.632

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
青森臨床産婦人科医会誌	8	5
日本臨床細胞学会秋田県支部会誌	1	
産婦人科の実際	1	2
日本更年期医学会雑誌	2	1
日本臨床	4	
GERONTOLOGY	1	
日本産科婦人科学会雑誌	3	
臨床婦人科産科	2	2
Current Therapy	1	
福島県保健衛生情報	1	
必携今日の生殖医療	1	
骨粗鬆症治療	1	2
産婦人科治療	1	2
診断と治療	1	
医学のあゆみ	1	1
日本更年期医学会ニュースレター	1	
J Mamm Ova Res		1
HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY		2
オステオアゴラ		1
性差と医療		1
医薬ジャーナル		1
計	30	21

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	7	10

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
周産期医学	1	
Pharma Medica	1	
産婦人科治療		1
計	2	1

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Mizunuma H: Role of Androgens as a Detrimental Factor on Follicular Growth in PCOS. The International Ovarian Conference (Tokyo)2004.

C.2. Futagami M: Effect of Melatonin on the proliferation and cis-diaminedichloroplatinum(CDDP) Sensitivity of Cultured Human Ovarian Cancer Cells. Third Canada-Japan Bilateral Workshop on Human Reproduction & Reproductive Biology (Ottawa, Canada) 2004.

2005年度

A.1. Yokoyama Y, Xin B, Shigeto T, Futagami M, Mizunuma H: INHIBITORY EFFECT OF CLOFIBRIC ACID, A PEROXISOME PROLIFERATOR-ACTIVATED RECEPTOR α LIGAND ON HUMAN OVARIAN CARCINOMA DEVELOPMENT. 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science (Hirosaki)2005.

C.1. 藤井俊策 : The effect of laparoscopic ovarian drilling on PCOS. The International Ovarian Conference（東京都）. 2005.

C.2. Taniguchi R, Kakizaki I, Tanaka K, Higuchi T, Kon A, Mizunuma H, Takagaki K: AGING-ASSOCIATED CHANGES IN BONE AND PROTEOGLYCAN. XⅧ International Symposium on Glycoconjugates (Florence, Italy) 2005.

C.3. Shigeto T, Yokoyama Y, Xing B, Futagami M, Mizunuma H: INHIBITORY EFFECT OF ENDOSTATIN/COLLAGEN XVIII ON HUMAN OVARIAN CARCINOMA DEVELOPMENT. 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science (Hirosaki)2005.

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 水沼英樹：更年期医療におけるSERM（selective estrogen receptor modulator）の位置づけ．第56回日本産科婦人科学会学術講演会（東京）2004．

A.2. 水沼英樹：閉経後骨粗鬆症治療におけるラロキシフェンの役割．第19回日本更年期医学会学術集会（広島）2004．

B.1. 藤井俊策：性感染症合併妊娠の管理．日本産科婦人科学会（東京）2004．

B.2. 二神真行：若年婦人における細胞診異常．第13回日本婦人科がん検診学会学術集会（東京）2004．

B.3. 二神真行：多発性内分泌腺腫症合併妊娠の一例．日本家族性腫瘍学会（福島）2005．

C. 30件

2005年度

A.1. 水沼英樹：元気に過ごす更年期と骨の健康．第12回メノポーズフォーラム（東京都）2005.

A.2. 水沼英樹：更年期医療において漢方に期待すること．第25回産婦人科漢方研究会学術集会（東京都）2005.

A.3. 横山良仁：上皮性卵巣癌の進展に対する血管新生因子の関与：抗血管新生療法をめざして．第53回日本産科婦人科学会北日本連合地方部会総会・学術講演会（福井）2005.

B.1. 藤井俊策：性感染症合併妊娠の管理．第57回日本産科婦人科学会（京都）2005.

B.2. 横山良仁，二神真行，樋口　毅，水沼英樹：卵巣癌治療の現状と将来展望．弘前医学会（弘前）2005.

B.3. 木村秀崇：PCOSに対する腹腔鏡下卵巣多孔術．第50回日本不妊学会（熊本）2005.

C. 25件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2005年度

全国看護婦コホートにおける女性の生活習慣と健康に関する経時観察調査（JNHS）

卵巣癌発生の分子生物学的検討（カナダ，オタワ大学と）

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

萌芽研究．加齢に伴う卵胞の形質転換に関わる卵胞内因子の遺伝子学的検索．水沼英樹．500千円.

萌芽研究．血球系幹細胞灌流培養系を用いた前胞状卵胞の体外成熟に関する研究．藤井俊策．1,800千円

基盤研究(C).高脂血症治療薬 Clofibrate の抗腫瘍剤への応用を目指した基礎的研究 . 横山良仁 . 2,700千円.

若手(B).子宮内膜における免疫担当細胞の機能分担と機能発現に影響を与える因子.福井淳史.1,400千円.

若手(B)．卵巣癌の抗癌剤への増感作用を目的としたメラトニン療法の基礎的臨床的検討．二神真行．900千円.

2005年度

研究代表者として

基盤研究(C)．高脂血症治療薬 Clofibrate の抗腫瘍剤への応用を目指した研究．横山良仁．600千円

若手研究(B)．子宮内膜における免疫担当細胞の機能分担と機能発現に影響を与える因子．福井淳史．1,600千円

若手研究(B)．卵巣癌の卵巣癌の抗癌剤への増感作用を目的としたメラトニン療法の基礎的臨床的検討．二神真行．900千円

（2）その他の省庁からの研究費

2004年度

研究代表者として

青森県より 不妊専門相談センター事業の受託研究　1,400千円

2005年度

研究代表者として

青森県より 不妊専門相談センター事業の受託研究　1,400千円

他研究単位との研究分担者として

弘前都市エリア産学官連携促進事業．プロテオグリカンのオーダーメイド．骨代謝異常における骨組織内のプロテオグリカンの役割について．樋口　毅．1,000千円

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

2004年度

他研究単位との研究分担者として

日本更年期医学会 JMS Schering Grant 平成16年度研究助成金

金額：150万円

2005年度

研究代表者として

- 代謝性骨疾患研究会研究助成，プロテオグリカン代謝からみた骨質評価についての研究，樋口毅，1,000千円
- 学術国際振興基金，子宮内膜における免疫担当細胞の機能分担と機能発現に影響を与える因子，福井淳史，850千円

他研究単位との研究分担者として

日本更年期医学会，JMS Schering Grant，平成17年度研究助成金，　金額：300万円

第14回ファイザーヘルスリサーチ振興財団国際共同研究助成，金額：500万円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

2005年度

国際弘前医学フォーラム

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2005年度

Vanderhyden BC（Ottawa 大学）：2005.11.9-11.13

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2004年度

2名

2005年度

2名

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

2005年度

福井淳史，Rosalind Franklin University of Medicine and Science / The Chicago Medical School, USA, 1年

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2005年度

第7回日本女性心身医学会研修会（弘前市）

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

第251回青森県臨床産婦人科医会（青森市）
第252回青森県臨床産婦人科医会（弘前市）
第253回青森県臨床産婦人科医会（八戸市）
第254回青森県臨床産婦人科医会（青森市）
第255回青森県臨床産婦人科医会（弘前市）
第12回青森県婦人科内分泌研究会（青森市）
第3回青森婦人科癌化学療法研究会（青森市）

2005年度

第256回青森県臨床産婦人科医会（青森市）
第257回青森県臨床産婦人科医会（八戸市）
第258回青森県臨床産婦人科医会（青森市）
第259回青森県臨床産婦人科医会（弘前市）
第35回青森県周生期医療研究会（青森市）
第4回青森婦人科癌化学療法研究会（青森市）
第13回青森県婦人科内分泌研究会（青森市）
第10回東北産婦人科内視鏡懇話会（弘前市）

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

2004年度

福井淳史　日本内視鏡外科学会技術認定医（2004年度取得）

31．麻酔学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

①より安全な全静脈麻酔管理法の開発

→評価期間中の全静脈麻酔による死亡はゼロであり，全静脈麻酔の開発は順調で，プロポフォール，ケタミン，フェンタニルの組み合わせである PFK は，ほぼ完成したと言える。

②医療事故防止のための基本ルールの徹底

→初期・後期研修医と朝カンファランスを行い，基本ルールを徹底した。

③非侵襲的なモニターの開発と臨床応用

→ブドウ糖の経皮測定器の開発に努力している。

④麻酔前のオリエンテーションビデオの第４版改訂

→一部改訂するにとどまったが，院内放送に組み込むことができ，患者様が病室にいても見れるようになった。

⑤麻酔科学教室のホームページ作製

→作製した。

以上より到達度は90％程度と言える。

理念：

①全静脈麻酔法の全国への普及および推進に努める。

②超音波ガイド下神経ブロックや中心静脈穿刺を全国での普及推進に努める。

③非侵襲的モニターを開発し，臨床応用する。

④研究においては，単独での研究だけでなく，他講座，他大学や研究所（海外を含む）との共同研究を推進する。

⑤周術期管理や疼痛管理を向上させる臨床研究および基礎研究を行う。

これから２年間の目標：

① Impact factor の付いた学術誌に年に５編以上論文を発表する。

②国際学会，全国レベルでの学会で演者またはシンポジストを年間のべ３人以上を目標とする。

③科学研究費補助金に２件以上採択を目指す。

④単独または他大学と共同で著書出版を２年間で１刷以上を目標とする。

【研究人員及び研究課題】

2004 年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　5，医員　11，大学院学生　3，研究生　1			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	廣田　和美	2004.9.1 ～ 2005.3.31
	助教授	専　任	石原　弘規	2004.4.1 ～ 2005.3.31
	助　手 講　師	専　任	佐藤　哲観	2004.4.1 ～ 2004.10.31 2004.11.1 ～ 2005.3.31
	助　手 講　師	専　任	橋本　　浩	2004.4.1 ～ 2004.10.31 2004.11.1 ～ 2005.3.31
	助　手	専　任	櫛方　哲也	2004.4.1 ～ 2005.3.31
	助　手	専　任	北山　眞任	2004.10.1 ～ 2005.3.31
	助　手	専　任	吉田　　仁	2004.12.1 ～ 2005.3.31
	助　手	専　任	工藤　　剛	2004.4.1 ～ 2005.3.31
	助　手	専　任	工藤美穂子	2004.4.1 ～ 2005.3.31
研究課題	１．ブドウ糖初期分布容量を用いた体液量評価 ２．全身麻酔の機序の解明 ３．静脈麻酔薬の肝移植術中の薬物動態 ４．癌性疼痛治療 ５．麻酔前投薬としての H_2 ブロッカー投与の有用性と耐性発生の機序解明			

	6．全身麻酔中ストレス反応の様相解明－生体活性物質の動態を中心に 7．全身麻酔後の睡眠障害の機序解明とその治療法の探求 8．全静脈麻酔中の血中麻酔薬動態 9．Ca^{2+} チャンネルと静脈麻酔薬 10．生理活性物質オレキシンの生理作用、薬理作用に関する研究

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　5，医員　11，大学院学生　0，研究生　1			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	廣田　和美	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	助教授	専　任	石原　弘規	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	講　師	専　任	橋本　　浩	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	講　師	専　任	佐藤　哲観	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	助　手	専　任	櫛方　哲也	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	助　手	専　任	北山　眞任	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	助　手	専　任	吉田　　仁	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	助　手	専　任	工藤　　剛	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	助　手	専　任	工藤美穂子	2005.4.1 ～ 2006.3.31
研究課題	1．単一受容体ではなく脳内ノルアドレナリン神経網による全身麻酔機序の一元化 2．生理活性物質オレキシンおよびウロテンシンⅡに関する研究 3．ブドウ糖初期分布容量を用いた体液量評価 4．非侵襲的な経皮ブドウ糖濃度測定 5．がん疼痛治療 6．緩和医療，緩和ケア 7．静脈麻酔薬の肝移植術中の薬物動態 8．全身麻酔と睡眠の関連 9．体外循環中の送血方法が病的大動脈壁に与える影響の臨床的検討 10．全身麻酔の作用機序解明―神経伝達物質の動態の面から			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Tsubo T, Yatsu Y, Tanabe T, Okawa H, Ishihara H, Matsuki A: Evaluation of density area in dorsal lung region during prone position using transesophageal echocardiography. Crit Care Med 2004;32:83-87

A.2. Hirota K, Nomura H, Kudo M, Mori N, Kudo T, Kushikata T: Supraclinical concentrations of dexmedetomidine evoke norepinephirne release from rat cerebrocortical slices Possible involvement If the orexin-1 receptor. Neurosci Lett 2004;372:142-145

A.3. Rose BO, Ishihara H, Okawa H, Panning B, Piepenbrock S, Matsuki A: Repeatability of measurements of the initial distributin volume of glucose inhaemodynamically atable patients. J Clin Pharm Ther 2004;29:317-323

A.4. Nakamura H, Ishihara H, Okawa H, Yatsu Y, Tsubo T, Matsuki A: Initial distributon volume of glucose is correlated with intrathoracic blood volume in hypovolemia and following volume loading in dogs. Eur J Anaesthesiol 2005;22:202-208

A.5. Kushikata T, Hirota K, Kotani N, Yoshida H, Kudo M, Matsuki A: Isoflurane increases norepinephrine release in the rat preoptic area and the posterior hypothalamus in vivo and in vitro:Relevance to thermoregulation during anesthesia. Neuroscience 2005;131:79-86

A.6. Hirota K, Kudo M, Kushikata T, Hashimoto H, Matsuki A: Regular use of H2 blockers reduces the efficacy of roxatidine to control gastric pH and volume. Can J Anesth 2005;52:166-171

A.7. Ishihara H, Nakamura H, Okawa H, Takase H, Tsubo T, Hirota K: Initial distribution volume of glucose can be approximated using a conventional glucose analyzer in the intensive care unit. Crit Care 2005;9:R144-149

A.8. Hirota K, Baba S, Fukushi S, Muraoka M, Matsuki A: Efficacy of landiolol in attenuating hemodynamic responses to local epinephrine infiltration in patients undergoing vaginal total hysterectomy. J Anesth 2005; 19:17-20

A.9. Ishihara H, Okawa H, Tanabe K, Tsubo T, Sugo Y, Akiyama T, Takeda S: A new non-invasive continuous cardiac output trend solely utilizing routine cardiovascular monitors. J Clin Monit Comput 2004;18(5-6):313-320

B.1. Garcia-Garcia F, Yoshida H, Krueger JM: Interleukin-8 promotes non-rapid eye movement sleep in rabbits and rats. J Sleep Res 2004;13:55-61

2005年度

A.1. Hirota K, Kudo M, Hashimoto H, Kushikata T: The efficacy of preanesthetic proton pump inhibitor treatment for patients on long-term H2 antagonist therapy. Anesth Analg 2005;101(4):1038-1041

A.2. Ishihara H, Nakamura H, Okawa H, Yatsu Y, Tsubo T, Hirota K: Comparison of initial distribution volume of glucose and Intrathoracic Blood Volume During Hemodynamically Unstable States Early After Esophagectomy. Chest 2005;128(3):1713-1719

A.3. Hirota K, Kudo M, Tose R, Yoshida H, Kudo T, Kushikata T: Lack of interaction between orexinergic and α 2-adrenergic neuronal systems in rat cerebrocortical slices. Neurosci Lett 2005;387(1):49-52

A.4. Kushikata T: Evaluation and management of anesthetic risk an experience of the Hirosaki University Hospital (Japan). Revue hospitaliere de France n° 505. 2005;25-27

A.5. Yasuda T, Yoshida H, Garcia-Garcia F, Kay D, Krueger JM: Interleukin-1beta has a role in cerebral cortical state-dependent electroencephalographic slow-wave activity. Sleep 2005;28(2):177-184

A.6. Kushikata T, Fang J, Krueger JM: Platelet activating factor and its metabolite promote sleep in rabbits. Neurosci Lett 2006;394:233-8

B.1. Noto Y, Sato T, Kudo M, Kurata K, Hirota K: The relationship between salivary biomarkers and state-trait anxiety inventory score under mental arithmetic stress: a pilot stydy. Anesth Analg 2005;101(6):1873-1876

B.2. Iijima T, Ueyama H, Oi Y, Fukuda I, Ishihara H, Kohase H, Kotake Y, Koyama K, Miyao H, Kobayashi N: Determination of the standard value of circulating blood volume during anesthesia using pulse dye-densitometry: a multicenter study in Japan. J Anesth 2005;19(3):193-198

B.3. Kudoh A, Takase H, Katagai H, Takazawa T: Postoperative interleukin-6 and cortisol concentrations in elderly patients with postoperative confusion. Neuroimmunomodulation 2005;12(1):60-66

和文

2004年度

A.1. 石原弘規，中村仁美，大川浩文，坪　敏仁，松木明知：ICG パルス式色素希釈法による中心部血液量は熱希釈法による胸郭内血液量と同等か？ 体液・代謝管理　2004;20:53-56

A.2. 櫛方哲也，谷津祐市，窪田　武，松木明知：プロポフォール，ケタミン，フェンタニルを用いた全静脈麻酔（PFK）を適用したミトコンドリア筋症の1症例．麻酔　2004;53:178-180

A.3. 高瀬　肇，櫛方哲也，石原弘規，松木明知：硬膜外麻酔中に予期せぬ不随意運動を呈した1症例．麻酔 2004;53:1164-1166

2005年度

A.1. 廣田和美：目で見てわかる気道径評価法―細径ファイバースコープを用いた評価法―．臨床麻酔 2006;30(3):539-545

A.2. 橋本　浩，櫛方哲也，北山真任，石原弘規，廣田和美，坂井哲博，二神真行，保嶋：術前に遺伝性低コリンエステラーゼ血症を認知できずに全身麻酔導入時スキサメトニウムを使用した1症例．麻酔；2006;55:1014-7

A.3. 吉田　仁，中村仁美，小野朋子，櫛方哲也，石原弘規，廣田和美：全静脈麻酔法を用いることで手術室外での小児術中照射を安全に管理できた1症例．麻酔；2006;55:614-6.

B.1. 工藤　明，蛯名稔明，堺　一郎，菊池淳宏，鈴木朗子，石原弘規，松木明知：エンドトキシンショックモデルにおけるウリナスタチン（ミラクリッド）の肝ミトコンドリア機能に及ぼす影響．侵襲と免疫 2005;14(2-3):41

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 廣田和美：何故 TIVA か．臨床麻酔　2004;28:1925

A.2. 石原弘規：水・電解質管理．Heart nursing　2004;17:714-719

A.3. 石原弘規：ICU におけるリスクマネージメント：薬剤投与，輸液管理ライン管理．ICU と CCU　2004;29:651-657

2005年度

A.1. 石原弘規：麻酔中の血糖管理．体液・代謝管理　2005;(21):33-37

A.2. 川口陽子，櫛方哲也，橋場英二，北山眞任，吉田　仁，石原弘規，松木明知，廣田和美：Brugada 症候群患者の麻酔管理．麻酔．2006;55:142-149

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

C.1. 大川浩文，石原弘規：解説Ⅰ術後回復室と術直後の管理 4. 高血圧 , 稲田英一（編）麻酔科診療プラクティス 第16巻 これだけは知っておきたい術後管理　2004;20-23

C.2. 石原弘規：体液分画と循環血液量の調節，宮尾秀樹（編），周術期輸液の最前線　2004;22-35

C.3. 石原弘規：ブドウ糖初期分布容量，宮尾秀樹（編）術期輸液の最前線　2004;78-87

C.4. 石原弘規：第2章 2-A ICU の設備 2-B ICU の機構．小川節郎，新宮興，武田純三，西野卓（編）麻酔科学スタンダードⅣ関連領域　2004;29-40

C.5. 石原弘規：解説Ⅰ各種モニター機器 中枢神経系モニタリング 3. BIS, 高崎眞弓，弓削孟文，稲田英一，岩崎寛（編）麻酔科診療プラクティス 13. モニタリングのすべて　2004;32-35

C.6. 石原弘規，松木明知，高平陽子，橋本　浩，村岡正敏：レーザー照射による軌道内熱傷経験とその後の麻酔管理インフォームドコンセント．日本学術協力財団（編）医療事故は予防できるか―安全な医療を提供するために―　2005;69-86

（4）その他

英文

2004年度

B.1. Totsuka E, Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Umehara Y, Okawa H, Tsubo T, Ishihara H, Yoshihara S, Eondoh M, Morita T, Sasaki M: Hepatic Vein Anastomotic Stricture After Living Donor Liver Transplantation. Transplant Proc 2004;36:2252-2254

和文

2004年度

A.1. 櫛方哲也，谷津祐市，窪田　武，松木明知：プロポフォール，ケタミン，フェンタニルを用いた全静脈麻酔 (PFK) を適用したミトコンドリア筋症の 1 症例 , 麻酔 2004;58:178-180

A.2. 橋場英二，外崎　充，橋本　浩，松木明知：私の麻酔法 超長時間麻酔（16時間以上），Anet 2004;8:12-13

A.3. 廣田和美：弘前大学医学部麻酔科学教室，Anesthesia 21 Century 2005;7:68-69

2005年度

A.1. 廣田和美：抗炎症作用に優れた全静脈麻酔法．Medical Academy News　2005;(958):3

A.2. 櫛方哲也，石川惟愛，小野朋子，廣田和美：予測困難であった成人気管狭窄症例に対するラリンジアルマスクの適用．麻酔 2006;55(1):89-91

A.3. 櫛方哲也，橋本　浩，橋場英二，福井康三，伊東和雄，廣田和美：SAM による循環虚脱に対し塩酸ランジオロール少量投与が有効であった1症例．麻酔 2006;55(1):96-99

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Crit Care Med	4.195	1	4.195
Eur J Anaesthesiol	1.217	1	1.217
Can J Anesth	1.2	1	1.2
Neurosci Lett	1.967	1	1.967
J Clin Pharm Ther	1.157	1	1.157
Neuroscience	0.989	1	0.989
Crit Care	1.911	1	1.911
J Sleep Res	2.608	1	2.608
J Clin Mon Comput	0	1	0
J Anesth	0	1	0
Total		10	15.244

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Anesth Analg	2.18	2	4.36
Chest	3.118	1	3.118
Sleep	4.94	1	4.94
Neurosci lett	2.019	2	4.038
Revue hospitaliere de France n°	0	1	0
J Anesth	0	1	0
Neuroimmunomodulation	1.900	1	1.900
Total		9	18.356

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
ICU と CCU	1	
麻酔	2	3
Heart nursing	1	
体液・代謝管理	1	1
臨床麻酔	1	1
侵襲と免疫		1
計	6	6

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	6	2

3．その他（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Transplant Proc	0.588	1	0.588
Total		1	0.588

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
麻酔	1	2
Anet	1	
Anesthesia 21 Century	1	
Medical Academy News		1
計	3	3

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

B.1. Ishihara H: Dilution volumetry using glucose as an indicator (Meet the experts), 13th World Congress of Anaesthesiologists, Paris, April 19, 2004

2005年度

B.1. Kushikata T: Evaluation and management of anesthetic risk in Japan.-An experience of the Hirosaki University Hospital-The 34th Congress of the International Hospital Federation. 20-22,Sep;2005. ニース，フランス

C.1. Tsubo T, Yatsu Y, Okawa H, Ishihra H, Hirota K: Conitinuous venovenous hemofiltration improves lung image observed with ultrasonography in endotoxin-induced lung in jury. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists, New Orleans, USA, 2005.

C.2. Niwa H, Sakai T, Kanemaru K, Furukawa K, Motomura S, Hirota K: Ketamine inhibits Wilms tumor 1 gene (WT1) expression in C6 cells. The 9th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2005.

C.3. Tose R, Kushikata T, Yoshida H, Yasuda T, Kudo M, Hirota K: Orexin decreased ketamine anesthesia time in rat-relevance to brain noradrenergic neuronal activity. International Anesthesia Reserch Society 80th clinical and Scientific Congress. San Francisco. March, 2006

（2）全国学術集会

2004年度

C.　15件

2005年度

A.1. 廣田和美：循環作動薬の呼吸生理に及ぼす影響．第42回日本小児外科学会総会，千葉，2005年．

A.2. 廣田和美：目で見て分かる気道径評価法．第25回日本臨床麻酔学会，大阪，2005年．

A.3. 廣田和美：プロポフォールを中心とした全静脈麻酔の臨床．第25回日本臨床麻酔学会，大阪，2005年．

B.1. 小松　徹，他：超音波ガイド下末梢神経ブロックワークショップ．第25回日本臨床麻酔学会，大阪，2005年（インストラクターとしての講義，実技の講習）北山眞任

C. 22件

Ⅲ．学術賞

2005年度

第12回JSIVA賞　櫛方哲也　オレキシンによるラット大脳皮質スライスからの選択的ノルエピネフリン放出に対するベンゾジアゼピンの抑制効果　（第12回日本静脈麻酔・Infusion Technology研究会）

Ⅳ．共同研究

2004年度

1. 共同研究・英国グラクソスミスクライン株式会社，代表・廣田和美，オレキシン-1型受容体拮抗薬の薬理作用に関する研究
2. 共同研究・英国レスター大学医学部麻酔科学教室，代表・廣田和美，全身麻酔薬の神経伝達物質放出に及ぼす影響と作用機序に関する研究
3. 共同研究・イタリア・フェラーラ大学医学部薬理学教室，代表・廣田和美，生理活性物質ウロテンシンⅡの薬理学的作用

2005年度

1. 共同研究・英国グラクソスミスクライン株式会社，代表・廣田和美，オレキシン-1型受容体拮抗薬の薬理作用に関する研究
2. 共同研究・英国レスター大学医学部麻酔科学教室，代表・廣田和美，全身麻酔薬の神経伝達物質放出に及ぼす影響と作用機序に関する研究
3. 共同研究・イタリア・フェラーラ大学医学部薬理学教室，代表・廣田和美，生理活性物質ウロテンシンⅡの薬理学的作用に関する研究
4. 共同研究・米国グラクソスミスクライン株式会社，代表・廣田和美，UT-HEK293細胞を用いたウロテンシンⅡ受容体リガンドに関する研究

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

廣田和美

日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B），単一受容体ではなく脳内ノルアドレナリン神経網による全身麻酔機序の一元化　1,200千円

他研究単位との研究分担者として

橋本　浩

日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）(2)，体外循環中の送血方法が病的大動脈壁に与える影響の臨床的検討 福田幾夫　3,700千円

2005年度

研究代表者として

基盤研究(B)脳内オレキシン－ノルアドレナリン神経の興奮と全身麻酔機序

270万円　廣田和美

基盤研究(C)麻酔・手術後の睡眠障害の研究，機構の解明と治療への試み

150万円　櫛方哲也

他研究単位との研究分担者として

基盤研究(B)(2)．体外循環中の送血方法が病的大動脈壁に与える影響の臨床的検討．福田幾夫　3,700千円（橋本浩）

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2004年度

研究代表者として

石原弘規

平成16年度あおもり産業総合支援センター研究開発委託事業，経皮センサーによる非観血的血糖測定法の開発と臨床応用　300千円

2005年度

研究代表者として

平成17年度弘前大学学長指定重点研究費　AOB血液型不適合移植における免疫順応と血液型糖鎖抗原に関する研究　50万円　廣田和美

平成17年度学術国際振興基金助成金　ブドウ糖初期分布容量を用いた重症患者の体液管理に関する研究　100万円　石原弘規

他研究単位との研究分担者として

平成17年度地域新生コンソーシアム研究開発事業．グリコアルブミン値の無侵襲型携帯用光測定計の研究開発　石原弘規

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2004年度

Prof Dominique Grimaud フランス・ニース大学　10月7日～12日
Dr David G Lambert イギリス・レスター大学　10月11日～17日

2005年度

1．Professor B Panning，ハノーバー医科大学，ドイツ，5月18−22日．
2．Professor D Grimaud，Professor C Ichai，Dr JC Orban，ニース大学医学部，フランス，6月16−19日．
3．Professor HK Kim，釜山大学医学部，韓国，12月3−4日

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2005年度

Ms ホウイン　ハルビン医科大学　中国　10月1日−3月31日

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

2004年度

石原弘規，ニース大学医学部麻酔科，フランス，4月23−27日，2004

2005年度

研究者名：Prof. Talmage D. Egan，研究機関：The Laboratory of Clinical Pharmacology and Total Intravenous Anesthesia at the University of Utah School of Medicine Department of Anesthesiology，
国名：アメリカ合衆国，滞在期間：平成17年12月5−7日（吉田仁）

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

2004年度

安田忠伸　米国ワシントン州立大学留学

f）その他

2004年度

1．以下の国際学術誌の査読、編集に関わる
British Journal of Anaesthesia 国際編集委員　廣田和美

British Journal of Anaesthesia 査読委員　櫛方哲也
Journal of Anesthesia 編集委員会顧問　廣田和美

2005年度

British Journal of Anaesthesia 国際編集委員（廣田和美）
Journal of Anesthesia 編集委員会委員（廣田和美）
Anesthesiology 査読委員（廣田和美）

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2005年度

第14回日本集中治療医学会東北地方会

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

2005年度

1．以下の全国学会または地方会での座長を務めた。（廣田和美）
　1）日本麻酔科学会総会
　2）日本麻酔薬理学会
　3）日本静脈麻酔・Infusion Technology 研究会
　4）日本集中治療医学会東北地方会
2．地域レベルでの，がん疼痛治療・緩和医療に関する教育講演　4回（佐藤哲観）

32. 脳神経外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

前回掲げた目標に対し，これを達成すべく，各研究グループが研究活動に取り組んできた。その結果，目標に到達したと判断し得る。

理念：

脳神経外科領域において重要な課題でもある，くも膜下出血，悪性脳腫瘍の治療，深部脳腫瘍の手術治療などに焦点を当て研究活動を行っていく。

これから２年間の目標：

これまでの研究成果を基に，これをさらに発展させ，英文原著論文数および国際学会における発表の増加に結びつけていく。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　2，助手　3，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	大熊　洋揮	2004年4月～2005年3月
	講　師	専　任	浅野研一郎	2004年4月～2005年3月
	講　師	専　任	嶋村　則人	2004年4月～2005年3月
	助　手	専　任	鶴谷　尚信	2004年4月～2004年7月
	助　手	専　任	吉川　朋成	2004年4月～2005年3月
	助　手	専　任	八木橋彰憲	2004年4月～2005年3月
研究課題	1．くも膜下出血後の脳血管攣縮の病態解明 2．くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する治療法の開発 3．脳動脈瘤の発生機序の解明 4．解離性脳動脈瘤の疫学的研究 5．悪性脳腫瘍の治療法の開発 6．深部脳腫瘍手術時のモニタリング法の開発 7．脳内血腫に対する神経内視鏡併用手術法の開発			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　3，助手　2，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	大熊　洋揮	2005年4月～2006年3月
	講　師	専　任	浅野研一郎	2005年4月～2006年3月
	講　師	専　任	中野　高広	2005年4月～2006年3月
	講　師	専　任	嶋村　則人	2005年4月～2006年3月
	助　手	専　任	菊池　　潤	2005年5月～2006年3月
	助　手	専　任	棟方　　聡	2005年4月～2006年3月
研究課題	1．くも膜下出血後の脳血管攣縮の病態解明 2．くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する治療法の開発 3．脳動脈瘤の発生機序の解明 4．解離性脳動脈瘤の疫学的研究 5．悪性脳腫瘍の治療法の開発 6．深部脳腫瘍手術時のモニタリング法の開発 7．脳内血腫に対する神経内視鏡併用手術法の開発			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. N Shimamura, H Ohkuma, K Ogane, H Manabe, A Yagihashi, T Kikkawa S Suzuki: Displacement of central sulcus in cerebral arteriovenous malformation situated in the peri-motor cortex as assessed by magnetoencephalographic study. Acta Neurochir[Wien], 2004;146:363-368

A.2. T.Nakano, H.Ohkuma, S.Suzuki: Assessment of Vascular Injury in Patients With Stroke by Measurement of Pulse Wave Velocity. J Stroke Cerebrovas Dis, 2004;13:74-80

A.3. Md.S.Islam, K.Ogane, H.Ohkuma, S.Suzuki: Usefulness of Acellular Dermal Graft as a Dural Substitute in Experimental Model. Surg Neurol, 2004;61:297-303

A.4. Takahiro Nakano, Hiroki Ohkuma: Surgery versus conservative treatment for intracerebral haemorrhage is there an end to the long controversy? THE LANCET, 2005;365:361-62

A.5. Asano K, Duntsch CD, Zhou Q, Weimar J, Bordelon D, Robertson JH, Pourmotabbed T: Correlation of N-cadherin expression in high grade glioma with tissue invasion. J Neuro-oncol, 70:3-15,2004

A.6. Asano K, Duntsch CD, Robertson JH, Ohkuma H: Expression of N-cadherin in high grade glioma: Experimental inoculation brain tumor model in rats. Neuro-Oncol 13:15-20,2004

和文

2005年度

A.1. 浅野研一郎，吉川朋成，八木橋彰憲，大熊洋揮：高齢者脳腫瘍手術における術後全身合併症の危険因子と予後の検討．Geriatric Neurosurg　17:83-87,2005

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 大熊洋揮：突然の激しい頭痛に頭部 CT- クモ膜下出血を見逃すな！疑ったら必ず CT-CT 読影のポイントと追加検査の必要な場合は？　ER マガジン，2004;3:186-190

2005年度

A.1. 大熊洋揮：未破裂脳動脈瘤― UCAS 前夜―，NEUROLOGICAL SURGERY，33(5):417-431,2005

A.2. 大熊洋揮：くも膜下出血の爆弾：見逃し症例から学ぶ，medicina，42(6):992-994,2005

A.3. 中野高広，大熊洋揮：脳卒中患者における動脈硬化定量の有用性．― PWV, AI による検討．第27回東北脳血管障害懇話会学術集会記録集．2005:13-14.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 大熊洋揮，鈴木重晴：高血圧性脳内出血の病態，児玉南海雄，脳神経外科学大系第8巻出血性脳血管障害第8章高血圧性脳内出血：366-372，中山書店，東京都，2004

（4）その他

英文　なし

和文

2005年度

C.1. 棟方　聡，伊藤勝博，畑山　徹，鈴木重晴：同側内頚動脈閉塞を伴った b 破裂後交通動脈瘤の手術症例，青森市病医師第14巻・第1号 別刷：38-41,2005

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Acta Neurochir[Wien]	0.977	1	0.977
J Stroke Cerebrovas Dis	0	1	0
Surg Neurol	0.871	1	0.871
THE LANCET	18.316	1	18.316
J Neuro-oncol	1.568	1	1.568
Neuro-Oncol	3.365	1	3.365
Total		6	25.097

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
ER マガジン	1	
NEUROLOGICAL SURGERY		1
medicina		1
Geriatric Neurosurg		1
計	1	3

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	1	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2005年度

A.1. Hiroki Ohkuma: TRAUMATIC CEREBROVASCULAR LESIONS, 3rd Pannonian Symposium on CNS INJURY, and 17th Annual Conference of the HUNGARIAN NEUROSURGICAL SOCIETY, Pecs, Hungary, 2005

B.1. K Asano, J Kikuchi, A Munakata, N Shimamura, T Nakano, H Ohkuma: The clinical features and outcome of high age glioblastoma patients, 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science, 2005

C.1. Asano K, Duntsch DC, Ohkuma H: Expression of N-cadherin and CSF dissemination. 8th European Congress of Neuropathology Amsterdam, The Netherlands. 2005

（2）全国学術集会

2004年度

C.　13件

2005年度

B.1. 大熊洋揮：脳血管攣縮の新しいとらえ方―脳主幹動脈のリモデリングと脳微小循環障害の関与，第25回日本脳神経外科コングレス，北九州市，2005.

B.2. 大熊洋揮：クモ膜下出血における諸問題，第64回日本脳神経外科学会総会，横浜市，2005.

B.3. 大熊洋揮：文献レビューと展望「臨床編」，第22回スパズムシンポジウム，横浜市，2006.

C.　9件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

萌芽研究，脳動脈瘤に対する局所的遺伝子医療法の開発―実験的検討―，大熊洋揮，800千円

2005年度

研究代表者として

萌芽研究，脳動脈瘤に対する局所的遺伝子治療の開発―実験的検討―，大熊洋揮，1,200千円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2004年度

研究代表者として

インセンティブ研究助成（小規模ながら輝く研究），大熊洋揮

2005年度

研究代表者として

1. 第24回唐牛記念医学研究基金研究助成　助成金Ｂ　インテグリンαＶβ3阻害剤による脳保護作用の機序解明，嶋村則人，991千円
2. 学術国際振興基金（学術の国際交流推進事業），ラット中大脳動脈虚血モデルにおける抗インテグリンαＶβ3ペプチドによる神経保護作用の検討，嶋村則人，850千円

（4）民間の研究助成

2005年度

研究代表者として

平成17年度内視鏡医学研究振興財団研究助成金．脳内出血治療用神経内視鏡の開発，中野高広（500千円）

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2004年度

留学生1名，セント・ジョーンズ病院，ハンガリー，1年6ヶ月（継続）

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

(1)大熊洋揮，第7回弘前脳疾患臨床セミナー，弘前市
(2)大熊洋揮，第10回青森県脳神経外科談話会，弘前市
(3)大熊洋揮，第8回弘前脳疾患臨床セミナー，弘前市
(4)大熊洋揮，第3回青森県脳卒中フォーラム，青森市

2005年度

1．大熊洋揮，第9回弘前脳疾患臨床セミナー，弘前市
2．大熊洋揮，第10回弘前脳疾患臨床セミナー，弘前市

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

33. 歯科口腔外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

木村博人（教授）

- 学会発表内容を可及的速やかに論文化し，投稿することを強く指導する。
- 国際学会での発表を奨励する。
- 適切な研究課題の設定と研究指導に努める。
- 科研費を始めとする外部からの研究経費の獲得に努める。

到達度　（ 60 %）

小林　恒（助教授）

- 学術誌に First author として年 1 編以上の論文を発表。
- 国際学会，全国レベルの学会で演者として発表。
- 論文作成指導

到達度　（ 90 %）

佐藤　寿（助手）

- Impact factor の付いた学術誌あるいは国内誌に年 1 編以上の論文を発表。
- 国際学会，全国レベルの学会に積極的に発表を行う。
  研究代表者として科学研究費助成金が採択されるよう努力する。

到達度　（ 50 %）

楠美昭則（助手）

- 世界に通用する雑誌に， 1 編以上の発表を行う。
- 全国レベルの学会に年 1 報以上，国際学会にも積極的に発表する。
- 科研費等の研究助成に 1 件以上の採択と民間の研究助成，学術賞に応募。
- 新しい実験方法の修得。

到達度　（ 70 %）

織田光夫（助手）

- Impact factor の付いた学術誌に年 1 編以上の論文を first author として発表。
- 全国レベルの学会に年 1 報以上発表を行う。
- 科研費等の研究助成に採択と民間の研究助成に応募。

到達度　（ 50 %）

理念：

講座・木村博人（教授）

医学部における歯科口腔外科学講座として特色のある基本的・臨床的研究を展開し，医学研究の発展に寄与する。研究方針として，顎口腔領域に発生する種々の難治性疾患の病態を形態学的，分子生物学的，理化学的手法を用いて解明し，その結果に基づいた新たな診断法ならびに治療法の開発を目的とする。当面の主たる研究課題を（1）病的骨吸収機序の解明と治療法の開発，（2）口腔悪性腫瘍の病態と治療，（3）再生医学研究の準備，とし，（1），（2）の研究と関連して，自家組織由来の人工粘膜，人工軟骨，人工骨の開発につながる再生医学研究のため，組織培養法の確立に着手する。

上述のような基礎的研究の成果ならびに臨床的研究の成果は，可及的速やかに論文化して公表するよう努力する。

小林　恒（助教授）

目標に向けて頑張る

佐藤　寿（助手）

ここ２年間は，やや教育・診療への比重が偏った感があるため，これから２年間は，積極的に研究を行う。

楠美昭則（助手）

世界の研究の流れを謙虚に受け止め，日々，努力したい。

榊　宏剛（助手）

新たな研究テーマの確立を目指す。

これから２年間の目標：

木村博人（教授）

- 学会発表内容を可及的速やかに論文化し，投稿することを強く指導する。
- 国際学会での発表を奨励する。
- 適切な研究課題の設定と研究指導に努める。
- 科研費を始めとする外部からの研究経費の獲得に努める。

小林　恒（助教授）

- 学術誌に First author として年 1 編以上の論文を発表。
- 国際学会，全国レベルの学会で演者として発表。
- 論文作成指導

佐藤　寿（助手）

- Impact factor の付いた学術誌あるいは国内誌に年 1 編以上の論文を発表。
- 国際学会，全国レベルの学会に積極的に発表を行う。
- 研究代表者として科学研究費助成金が採択されるよう努力する。

楠美昭則（助手）

- 世界に通用する雑誌に， 1 編以上の発表を行う。
- 全国レベルの学会に年 1 報以上，国際学会にも積極的に発表する。
- 科研費等の研究助成に 1 件以上の採択と民間の研究助成，学術賞に応募。
- 新しい実験方法の修得。

織田光夫（助手）

- Impact factor の付いた学術誌に年 1 編以上の論文を first author として発表。
- 全国レベルの学会に年 1 報以上発表を行う。
- 科研費等の研究助成に採択と民間の研究助成に応募。

榊　宏剛（助手）

- Impact factor の付いた学術誌に年 1 編以上の論文を発表する。
- 全国レベルの学会に年 1 報以上発表を行う。
- 研究代表者として科研費等の研究助成に 1 件以上の採択。

【研究人員及び研究課題】

2004 年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　1，助手　4，医員　9，大学院学生　2，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	木村　博人	H.16.4.1. ～ H.17.3.31.
	助教授	専　任	小林　　恒	H.16.4.1. ～ H.17.3.31.
	講　師	専　任	福井　　朗	H.16.4.1. ～ H.17.3.31.
	助　手	専　任	佐藤　　寿	H.16.4.1. ～ H.17.3.31.
	助　手	専　任	楠美　昭則	H.16.4.1. ～ H.17.3.31.
	助　手	専　任	松宮　朋穂	H.16.4.1. ～ H.17.3.31. 研究休職：～ H.16.5.27./H.16.6.19. ～ H.16.10.14. 研究休職期間更新：H.16.10.15. ～ H.17.10.31.
	助　手	専　任	織田　光夫	H.16.4.1. ～ H.17.3.31.
研究課題	1．顎骨嚢胞ならびに骨吸収性病変の病態解析と治療法に関する研究 2．骨細胞の機能と骨吸収因子に関する分子生物学的研究 3．悪性腫瘍細胞の増殖抑制（関連）因子と治療法に関する研究 4．口腔癌に対する光線力学的療法の基礎的・臨床的研究 5．口腔腫瘍の再建法に関する臨床的研究 6．活性酸素・フリーラジカルによる生体組織の障害およびその防御機構 7．病的骨吸収と炎症あるいはメカニカルストレスとの関連性 8．口腔粘膜および骨の再生医療研究 9．口腔癌患者の特異的・非特異的免疫能と予後との関連 10．顎関節滑液分析におけるフリーラジカルの関与と防御機構			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　5，医員　7，大学院学生　2，研究生　0			
教　員 （教授～助手） の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	木村　博人	H.17. 4. 1. ～ H.18. 3.31.
	助教授	専　任	小林　　恒	H.17. 4. 1. ～ H.18. 3.31.
	助　手	専　任	佐藤　　寿	H.17. 4. 1. ～ H.18. 3.31.
	助　手	専　任	楠美　昭則	H.17. 4. 1. ～ H.18. 3.31.
	助　手	専　任 （研究休職）	松宮　朋穂	H.17. 4. 1. ～ H.17.10.31.
	助　手	専　任	織田　光夫	H.17. 4. 1. ～ H.18. 3.31.
	助　手	専　任	榊　　宏剛	H.17. 4. 1. ～ H.18. 3.31.
研究課題	１．顎骨嚢胞ならびに骨吸収性病変の病態解析と治療法に関する研究 ２．病的骨吸収と炎症あるいはメカニカルストレスとの関連性 ３．骨細胞の機能と骨吸収因子に関する分子生物学的研究 ４．口腔粘膜および骨の再生医療研究 ５．悪性腫瘍細胞の増殖抑制因子と治療法に関する研究 ６．口腔癌患者の特異的・非特異的免疫能と予後との関連 ７．光線力学療法の腫瘍メカニズムの解明 ８．顎関節滑液分析による関節疾患の成因と治療法に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Kobayashi W, Liu Q, Matsumiya T, Nakagawa H, Yoshida H, Imaizumi T, Satoh K, Kimura H: Photodynamic therapy upregulates expression of Mac-1 and generation of leukotriene B4 by human polymorphonuclear leukocytes. Oral Oncol 2004;40:506-10.

A.2. Kusumi A, Sakaki H, Fukui R, Satoh H, Kusumi T, Kimura H: High IL-6 synthesis in cultured fibroblasts isolated from radicular cysts. Arch Oral Biol 2004;49:643-52.

A.3. Teh BG, Kobayashi W, Narita K, Fukui R, Kimura H: Superselective docetaxel-nedaplatin combined infusion concurrent with radiation therapy in advanced oral cancers. Oral Oncol Extra 2004;40:126-31.

A.4. Kobayashi W, Fukui R, Sato H, Kimura H, Liu Q: Clinical Management and Outcome of Neck Recurrence after Neck Dissection for Oral Squamous Cell Carcinoma. Asian J Oral Maxillofac Surg 2004;16:153-9.

A.5. Sakaki H, Imaizumi T, Matsumiya T, Kusumi A, Nakagawa H, Kubota K, Nishi N, Nakamura T, Hirashima M, Satoh K, Kimura H: Retinoic acid-inducible gene-Ⅰ is induced by interleukin-1 beta in cultured human gingival fibroblasts. Oral Microbiol Immunol 2005;20:47-50.

B.*1. Yoshida H, Imaizumi T, Tanji K, Sakaki H, Metoki N, Hatakeyama M, Yamashita K, Ishikawa A, Taima K, Sato Y, Kimura H, Satoh K: Platelet-activating factor enhances the expression of nerve growth factor in normal human astrocytes under hypoxia. Brain Res Mol Brain Res 2005;133:95-101.

2005年度

A.1. Kusumi A, Sakaki H, Kusumi T, Oda M, Narita K, Nakagawa H, Kubota K, Satoh H, Kimura H: Regulation of synthesis of osteoprotegerin and soluble receptor activator of nuclear factor-κB ligand in normal human osteoblasts via the p38 mitogen-activated protein kinase pathway by the application of cyclic tensile strain. J Bone Miner Metab 2005;23:373-81.

A.2. Teh BG, Kobayashi W, Kobayashi M, Nakayama K, Kimura H: Resection and reconstruction of carotid artery involved in advanced head and neck carcinoma:Report of 3 cases. Oral Oncology Extra 2005;41:165-9.

A.3. Kobayashi W, Liu Q, Nakagawa H, Sakaki H, Teh B, Matsumiya T, Yoshida H, Imaizumi T, Satoh K, Kimura H: Photodynamic therapy with mono-L-aspartyl chlorine e6 can cause necrosis of squamous cell carcinoma of tongue: experimenta study on an animal model of nude mouse. Oral Oncol 2006;42:46-50.

B.*1. Yoshida H, Imaizumi T, Tanji K, Sakaki H, Metoki N, Wakabayashi K, Sato Y, Kimura H, Satoh K: Interleukin-1 beta enhances the angiotensin-induced expression of plasminogen activator inhibitor-1 through angiotensin receptor upregulation in human astrocytes. Brain Res 2006;1073-1074:38-47.

和文

2004年度

A.1. 佐藤　寿，小林　恒，栗田崇之，成田憲司，福井　朗，木村博人：放射線誘発が疑われた上顎部筋線維肉腫の1例．日本口腔外科学会雑誌　2004;50:538-41.

A.2. 久保田耕世，佐藤　寿，榊　宏剛，小山俊朗，木村博人，小松賢一：下顎頭過形成の1例．日本顎関節学会雑誌　2004;16:201-4.

A.3. 小山俊朗，佐藤　寿，今　敬生，久保田耕世，福井　朗，木村博人：小児における顎関節症の臨床統計的検討．小児口腔外科　2004;14:8-12.

2005年度

A.1. 鄭　明源，小林　恒，佐藤　寿，木村博人：遊離大網移植とD-P皮弁の併用により広範囲な口腔皮膚組織欠損を再建した1例．日本口腔外科学会雑誌　2005;51:626-9.

A.2. 中川　祥，福井　朗，榊　宏剛，佐藤　寿，成田憲司，木村博人：埋伏第二乳臼歯の1例．小児口腔外科　2005;15:138-42.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 木村博人：口腔感染症と他臓器への影響．山口　徹・北原光夫・福井次矢　総編集　今日の治療指針2006年版（Volume 48）26. 歯科・口腔外科疾患1101-2.　株式会社　医学書院　東京　2006.

（4）その他

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 楠美昭則：メカニカルストレスによる炎症反応性骨硬化における骨芽細胞内シグナル伝達系の解析．平成15年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書．2005.

2005年度

A.1. 木村博人：振動刺激装置による顎骨の再生医療を目指した基礎的・臨床的研究．平成15年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）研究成果報告書．2006.

A.2. 織田光夫：骨形成タンパク質を用いた血管柄付異所性誘導骨作製に関する実験的研究．平成16年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書．2006.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Oral Oncology	1.876	2	3.752
Arch Oral Biol	1.098	1	1.098
Asian J Oral Maxillofac Surg	0	1	0
Oral Microbiol Immunol	1.242	1	1.242
Mol Brain Res	2.107	1	2.107
Total		6	8.199

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Bone Miner Metab	1.496	1	1.496
Oral Oncology	2	2	4
Brain Res	2.389	1	2.389
Total		4	7.885

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
日本口腔外科学会雑誌	1	1
日本顎関節学会雑誌	1	
小児口腔外科	1	1
計	3	2

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	1

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文（論文数）なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Kobayashi W, Nakagawa H, Sakaki H, Kubota K, Matsumiya T, Kimura H: Experimental study of Photodynamic therapy with mono-L-aspartyl chlorine e6 for tongue cancer in the mouse. 6th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgery, 49th Annual Meeting of Japanese Society of Oral and Maxillofacial Surgeons. Tokyo, Japan, 2004.

C.2. Sato H, Kobayashi W, Fukui R, Kimura H: A case of huge gingival cyst of the adult. 6th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgery, 49th Annual Meeting of Japanese Society of Oral and Maxillofacial Surgeons. Tokyo, Japan, 2004.

C.3. Kono Y, Fukui R, Narita K, Oda M, Kobayashi W, Kimura H: Myoepithelioma of the lower lip: a case report. 6th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgery, 49th Annual Meeting of Japanese Society of Oral and Maxillofacial Surgeons. Tokyo, Japan, 2004.

C.4. Komatsu K, Kimura H: Central neurilemmoma of the mandible. Report of a case. 6th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgery, 49th Annual Meeting of Japanese Society of Oral and Maxillofacial Surgeons. Tokyo, Japan, 2004.

2005年度

B.1. Kobayashi W: Tumor & Reconstruction (Reconstruction after tumor abration : Reconstructive surgery in oral and maxillofacial region). 46th Congress of Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeons Vivaldi Park Resort, Korea, 2005.

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. 小林　恒，木村博人：頭頸部がん治療におけるチーム医療（1）セッション1：チーム医療に対する提言 S2-05　当科における口腔癌治療の現状．第28回日本頭頸部腫瘍学会　福岡市，2004.

C.　9件

2005年度

C.　8件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

基盤研究(B)振動刺激装置による顎骨の再生医療を目指した基礎的・臨床的研究　木村博人　2,600（千円）

基盤研究(C)メカニカルストレスと炎症による反応性骨硬化における骨芽細胞内シグナル伝達系の解析　楠美昭則　900（千円）

基盤研究(C)骨形成タンパク質を用いた血管柄付異所性誘導骨作製に関する実験的研究　織田光夫　2,000（千円）

他研究単位との研究分担者として

基盤研究(B)遺伝子導入法による血管柄付異所性誘導骨作製に関する実験的研究　丸岡　豊　4,300(千円)

2005年度

研究代表者として

基盤研究(B)：振動刺激装置による顎骨の再生医療を目指した基礎的・臨床的研究　木村博人1,800（千円）

基盤研究(C)：骨形成タンパク質を用いた血管柄付異所性誘導骨作製に関する実験的研究　織田光夫　1,400（千円）

基盤研究(C)：メカニカルストレスと骨芽細胞・骨芽様細胞を用いた骨形成・骨再生の総合的基礎研究　楠美昭則　2,300(千円)

若手研究(B)：口腔粘膜における感染防御機構の解明ならびに遺伝子治療の基礎的研究　榊　宏剛　1,600（千円）

萌芽研究：口腔癌の転移抑制を目指したMMPインヒビター療法開発のための基礎的研究　木村博人　1,300（千円）

他研究単位との研究分担者として

特定領域研究：メカニカルストレスおよび局所環境制御による硬組織の形態再建機序モデルの創出　織田光夫　分担金　1,000（千円）

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2004年度

松宮朋穂，ソルトレイク市，ユタ大学　Huntsman がん研究所，USA，平成14年11月5日～平成16年5月27日，平成16年6月19日～平成16年10月14日，平成16年10月15日～平成17年10月31日（研究休職期間更新）

2005年度

松宮朋穂，ソルトレイク市，ユタ大学　Huntsman がん研究所，USA，平成16年10月15日～平成17年10月31日（研究休職期間更新）

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2004年度

大会長　木村博人　平成16年10月9日(土)　第16回日本小児口腔外科学会・学術大会　弘前市

2005年度

会長　木村博人　平成17年9月16～18日　第35回(社)日本口腔インプラント学会総会・学術大会　弘前市

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

34. 形成外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：
基礎的研究が十分とは言えなかった。さらなる努力が必要と思われた。

理念：
形成外科の発展につながる研究を行う。

これから２年間の目標：
臨床に応用していけるような研究を行うよう努力する。
学会発表，論文作成を活発に行うようにする。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　0，助教授　1，講師　1，助手　3，医員　2，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	助教授	専　任	四ッ柳高敏	2004.4.1-2005.1.31
	講　師	専　任	横井　克憲	2005.2.1-2005.3.31
	助　手	専　任	横井　克憲	2004.4.1-2005.1.31
	助　手	専　任	渡辺　　学	2004.4.1-2005.1.31
	助　手	専　任	新明　康宏	2005.2.1-2005.3.31
	助　手	専　任	渡辺　庸介	2005.2.1-2005.3.31
	助　手	専　任	漆舘　聡志	2004.4.1-2005.3.31
研究課題	１．創傷治癒に関する研究 ２．組織移植に関する研究 ３．皮弁生着に関する研究 ４．組織培養に関する研究			

2005年度

研究人員	教授　0，助教授　0，講師　1，助手　3，医員　2，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	講　師	併任（科長）	横井　克憲	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	助　手	専　任	漆舘　聡志	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	助　手	専　任	新明　康宏	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	助　手	専　任	渡辺　庸介	2005.4.1 ～ 2006.3.31
研究課題	１．創傷治癒に関する研究 ２．組織移植に関する研究 ３．皮弁生着に関する研究 ４．組織培養に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Yotsuyanagi T, Yamauchi M, Higuma Y, Yamashita K, Urushidate S, Yokoi K, Miyazaki S: Total or partial ear reconstruction using a paper model. Eur. J. Plast. Surg. 2004;27:126-130.

A.2. Yotsuyanagi T: Nonsurgical correction of congenital auricular deformities in children older than early neonates. Plast. Reconstr. Surg. 2004;114:190-191.

2005年度

A.1. Yamauchi M, Yotsuyanagi T, Yokoi K, Urushidate S, Yamashita K, Higuma Y: One-stage reconstruction of a large defect of the lower lip and oral commissure. Br. J. Plast. Surg. 58(5):614-618,2005.

B.1. Yotsuyanagi T, Mikami M, Yamauchi M, Higuma Y, Urushidate S, Ezoe K: A new technique for harvestiing costal cartilage with minimum sacrifice at the donor site. J. Plast. Reconstr. Aesth. Surg. 59(1):352-359,2006.

和文

2004年度

A.1. 山内　誠，四ッ柳高敏，樋熊有子，山下　建，渡辺　学，漆舘聡志，横井克憲：先天性多発性血管腫症の一例．形成外科　2004;47:283-287.

A.2. 山内　誠，四ッ柳高敏，黒山雅代，三上　誠，樋熊有子，山下　建，漆舘聡志，横井克憲：巨大毛母腫の一例．形成外科　2004;47:431-435.

A.3. 四ッ柳高敏，樋熊有子：Ⅵ難治性皮膚潰瘍に対する治療　1. 難治性皮膚潰瘍に対する診断と治療方針．形成外科　2004;47増刊号：S127-S132.

2005年度

A.1. 樋熊有子，四ッ柳高敏，山下　建，漆舘聡志，横井克憲：Poland 症候群における Tissue expander を用いた乳房形成の1例．形成外科　48(6):655-659,2005.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 四ッ柳高敏：第2章　小耳症 6）ヘアーラインの低い症例に対する再建．形成外科手術手技選書　耳介の形成外科　PP90-95,2005

A.2. 四ッ柳高敏：第4章　後天性変形　2）耳介血腫とカリフラワー耳　形成外科手術手技選書　耳介の形成外科　PP271-279,2005

（4）その他

英文　なし

和文

2005年度

B.1. 四ッ柳高敏，横井克憲：特集 / 整容面に配慮した皮弁　外耳の再建．PEPARS, NO6:8-15,2005.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur. J. Plast. Surg.	1.872	1	1.872
Plast. Reconstr. Surg.	1.872	1	1.872
Total		2	3.744

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Brit. J. Plast. Surg.	1.017	1	1.017
J. Plast. Reconstr. Aesth. Surg.	1.017	1	1.017
Total		2	2.034

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
形成外科	3	1
計	3	1

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	2
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
PEPARS		1
計	0	1

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

B.1. Yotsuyanagi T: Minimally-invasive operative procedure for microtia. The7thapan-Korea congress of Plastic Reconstructive Surgery. Sapporo. 2004.

C.1. Yotsuyanagi T, Higuma Y, Urushidate S, Yokoi K: A modified thin abdominal wall flap(Glove flap) technique for burns in the hands and fingers. The12th congress of the international society for burn injuries.(ISBI) Yokohama. 2004.

C.2. Yamashita K, Yotsuyanagi T, Yamauchi M: Surgical method for helical antihelical burnd auricle. The12th congress of the international society for burn injuries.(ISBI) Yokohama. 2004.

（2）全国学術集会

2004年度

C.　2件

2005年度

C.　2件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

研究代表者として

四ッ柳高敏：軟骨再生促進のためのプロテオグリカン利用の試み　受託研究

配分額：￥2,000,000

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

35. 救急・災害医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

2年前は救急医療の臨床と教育に重点をおき，救急部を立ち上げる予定であったが，昨年度はスタッフが定員を満たすこともできず，とても臨床を充実させることはできなかった。本年度は定員の4名体制となったが，大学病院は重症傷病者の救急医療を地域においては期待されている。しかし，実際は独自に運営できる入院ベッドは与えられていない。このため年度初めはスタッフが無理をしてでも救急患者を受け入れていたが，入院ベットがなく，2日間，患者さんを救急外来で観察する事態などが生じ，この結果，年度末は救急患者を無理して受け入れる意欲が減少していった。臨床という点では目標を達成することはできなかったが，教育に関しては医学生，研修医に対して可能な限りの時間を使い教育を行い，目標は達成できたと考える。

理念：

救急・災害医学講座はリサーチスピリットを持ったよき救急医の育成を基本理念とする。

これから２年間の目標：

「Preventable deatth（防ぎえた死）の撲滅」を講座のテーマとして，救急医療の臨床と教育の充実と救急・災害医学講座の特有の被ばく医療に関しての教育・研究を目標としたい。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	浅利　　靖	12ヶ月
	助教授	専　任	滝口　雅博	12ヶ月
	助　手	専　任	服部　　潤	8ヶ月
研究課題	1．アドレスマッチングシステム，およびカーネル法を利用したAEDの適切な配置地点の検討 2．毒薬物による急性中毒での病態生理の研究 3．急性中毒初期治療における活性炭の効果および体内動態の研究 4．放射線災害時の初期トリアージ技術の研究 5．キレート剤の安全性に関わる研究 6．毒ガス兵器マスタードガスによる染色体への影響の研究 7．「医療のへき地度」スコア化に関する研究 8．航空機による患者搬送システムに関する研究 9．救急ヘリコプター運用に関する研究			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	浅利　　靖	12ヶ月
	助教授	専　任	新井　正康	12ヶ月
	講　師	専　任	大川　浩文	12ヶ月
	助　手	専　任	田村　有人	12ヶ月
研究課題	1．アドレスマッチングシステム，およびカーネル法を利用したAEDの適切な配置地点の検討 2．青森県における救急医療体制の調査・検証 3．青森県における災害時医療救護マニュアル作成に関する検討・分析 4．毒薬物による急性中毒での病態生理の研究 5．急性中毒初期治療における活性炭の効果および体内動態の研究 6．放射線災害時の初期トリアージ技術の研究 7．キレート剤の安全性に関わる研究 8．毒ガス兵器マスタードガスによる染色体への影響の研究 9．救急，集中治療医学での鎮静，鎮痛薬の適切な使用法			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2005年度

B.1. Ishihara H, Nakamura H, Okawa H, Yatsu Y, Tsubo T, Hirota K: (＊)Comparison of initial distribution Volume of glucose and intrathoracic blood volume during hemodynamically unstable states early after esophagectomy. Chest 2005;128:1713-9

B.2. Ishihara H, Nakamura H, Okawa H, Takase H, Tsubo T, Hirota K: (＊)Initial distribution volume of glucose can be approximated using a conventional glucose analyzer in the intensive care unit. Critical Care 2005;9: R144-9

B.3. Nakamura H, Ishihara H, Okawa H, Yatsu Y, Tsubo T, Matsuki A: (＊)Initial distribution volume of glucose is correlated with intrathoracic blood volume in hypovolaemia and following volume loading on dogs. Eur J Anaesthesiol 2005;22:202-8

B.4. Ishihara H, Okawa H, Tanabe K, Tsubo T, Sugo Y, Akiyama T, Takeda S: (＊)A new non-invasive continuous cardiac output trend solely utilizing routine cardiovascular monitors. J Clin Monit 2005;18:313-20

和文

2004年度

A.1. 滝口雅博：気道確保法，太田宗夫編：必携 ACLS，心肺蘇生法　技術から教育まで，Emergency Nursing 2004年新春増刊号：36-47,2004.

A.2. 滝口雅博：青森県における MC 体制構築経過と現状，p76－80，第57回東北医師会連合会総会並びに学術大会記録，福島県医師会雑誌，福島，2004.

A.3. 滝口雅博：航空機による救急救護にかかわる要員の安全教育の必要性，日本臨床救急医学会雑誌，7(2):152,2004.

A.4. 福冨英行，野口　宏，中川　隆，井上保介，三木靖夫，滝口雅博：ゴルフ場における救急患者発生に関するアンケート調査結果―救護にドクターヘリコプターを利用する必要性の背景を探るために―，日本航空医療学会雑誌，5(1):49-54,2004.

A.5. 滝口雅博：へき地・離島におけるへき地度に関する研究：医療のへき地度スコア化のためのデータベース化の試み，へき地・離島救急医療研究会学術集会誌，vol5:62-67,2004.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 小林　勲，浅利　靖：研修医のための救急診療手技・検査マニュアル，II. 経験すべき手技，6. 包帯法，救急医学，435－437，第28巻第4号，2004

A.2. 滝口雅博：正しい資機材の使い方，呼気中二酸化炭素濃度モニター，その1　呼気中二酸化炭素分圧測定の意義について，Prehospital Care, 17(5):35-39,2004.

A.3. 滝口雅博：病院救護体制とメディカルコントロール，弘前市医師会報，40(2):31-36,2005.

A.4. 滝口雅博：航空機搬送の昔と今―救急ヘリコプター体制の整備について―，弘前市医師会報，40(3):30-37,2005.

2005年度

A.1. 浅利　靖：急性中毒―標準化治療の普及のために―，急性薬毒物中毒治療のガイドライン．救急・集中治療，第17巻第6号，559-560，2005

A.2. 浅利　靖：活性炭・下剤，救急医学，第29号第5巻，517-520，2005

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 浅利　靖：酸アルカリ中毒．山口徹，北原光夫編　今日の治療指針2005，p77，医学書院，東京

A.2. 浅利　靖：酸素投与法．山口徹，北原光夫編　今日の治療指針2005，p118，医学書院，東京

A.3. 滝口雅博：気管挿管―手技と合併症予防，荘道社，東京，2004

2005年度

A.1. 浅利　靖:パラコート・ジクワット中毒．山口徹，北原光夫編　今日の治療指針200，p110，医学書院，東京，200.

A.2. 浅利　靖：救急外来における各種モニタリング装置の使用法．山口徹，北原光夫編　今日の治療指針200，p 97，医学書院，東京，200.

A.3. 浅利　靖:第17章，6. 産業中毒　A. 金属中毒，B. ガス中毒，C. 酸・アルカリ中毒，D. 有機溶剤中毒，E. 農薬中毒，F. その他，矢崎義雄，乾賢一編，薬剤師・薬学生のための臨床医学，p1280-1292，文光堂，東京，2005

A.4. 浅利　靖：4. 農薬中毒，有機リン中毒，黒川顕編，中毒症のすべて―いざという時に役立つ，的確は治療のために―，p204−207，永井書店，大阪2006．（平成18年1月5日発行）

（4）その他

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 症例報告，吉田　徹，今井　寛，町井正人，松山斉久，浅利　靖，永井智紀，栗原克由，相馬一亥，和泉徹：冠動脈造影でまったく描出されなかったびまん性狭窄が剖検時に判明し，所見が大きく乖離した心臓突然死例．日本臨床救急医学会雑誌，第8巻第4号，322-328，2005．

A.2. 浅利　靖：Part15 神経疾患，Section6 アルコール依存症と薬物依存症，373オピオイドの乱用と依存，福井次夫，黒川清監訳，ハリソン内科学，第二版，2649－2652，メディカルサイエンスインターナショナル，東京，2006（2006年3月7日発行）

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　　し			
Total		0	0

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Chest	3.924	1	3.924
Critical Care	3.116	1	3.116
Eur J Anaesthesiol	1.169	1	1.169
J Clin Monit		1	
Total		4	8.209

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
Emergency Nursing	1	
福島県医師会雑誌	1	
日本臨床救急医学会雑誌	1	
日本航空医療学会雑誌	1	
へき地・離島救急医療研究会学術集会誌	1	
救急医学	1	1
Prehospital Care	1	
弘前市医師会報	2	
救急・集中治療		1
計	9	2

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	1	0
編　　集	0	0
分担執筆	2	4

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
日本臨床救急医学会雑誌		1
計	0	1

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2005年度

C.1. Tsubo T, Yatsu Y, Okawa H, Ishihara H, Hirota K: Continuous venovenous hemofiltration improves lung image observed with ultrasonography in endotoxin - induced lung injury in pigs. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists, New Orleans, U. S. A. 2005

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 浅利　靖：核エネルギー．知識と災害への対応―緊急災害医療―，弘前大学生涯学習教育研究センター講演会，八戸，2004

A.2. 滝口雅博：航空機による救急救護にかかわる要員の安全教育の必要性，第7回日本臨床救急医学会総会，横浜市，2004年

B.1. 浅利　靖：進歩するメディカルコントロール，メディカルコントロール体制―現在の問題と将来―，第18回東北救急医学会シンポジウム，山形，2004

B.2. 浅利　靖：旧日本軍化学剤による国内問題の現状と取り組み，マスタードガス被災者の診療経験，第26回日本中毒学会パネルディスカッション，広島，2004

B.3. 吉岡敏治，白川洋一，坂本哲也，村田厚夫，亀井徹正，嶋津岳士，冨岡譲治，奥村　徹，浅利　靖，遠藤容子：急性中毒の標準治療―呼吸管理，循環管理，第26回日本中毒学会ワークショップ，広島，2004

B.4. 浅利　靖：メディカルコントロールの現状と問題点―気管挿管に関する講習・実習体制（救急救命士の病院研修に関して）―，第58回東北医師会連合会総会シンポジウム，山形，2004

B.5. 浅利　靖：未来を開く健康マネジメント―プレホスピタルにおける救急医療の質の向上―メディカルコントロールと一般市民による除細動 PAD，第20回日本健康科学学会シンポジウム，青森，2004

2005年度

B.1. 浅利　靖：みちのく救急のこれから，青森県の救急医療の現状とこれから，第19回東北救急医学会（第15回日本救急医学会東北地方会，パネルディスカッション，仙台，2005年）

B.2. 浅利　靖：化学兵器由来の傷害に対する緊急治療，学術会議「遺棄化学兵器は行き処理に関するシンポジウム」，2005年，東京

B.3. 浅利　靖：汚染を伴った外傷と熱傷，第9回放射線事故医療研究会，2005年，青森市

B.4. 浅利　靖：遺棄および老朽化化学兵器による健康賞が―神奈川県寒川町，中国チチハルでの事例の検討，第12回ヒ素シンポジウム教育講演，盛岡，2005年

B.5. 浅利　靖：外から入る救援医療隊の実際と問題点―阪神大震災・パプアニューギニア国津波災害・トルコ国地震災害での救援医療の経験から―，日本医療福祉設備学会，シンポジウム「災害」，2005年，東京

B.6. 大川浩文：心臓血管麻酔領域におけるα2受容体作動薬デクスメデトミジンの臨床応用，OPCAB術後の使用症例の検討，第10回日本心臓血管麻酔学会　岡山　2005年

C.　5件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

2005年度

研究代表者として

1. 青森県における災害時医療救護マニュアル作成に関する検討・分析，委託研究，浅利　靖，2,565千円
2. 青森県における救急医療体制の調査・検証，委託研究，浅利　靖，2,781.6千円

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

浅利　靖：第13回青森救急医学会，青森市

2005年度

浅利　靖：第14回青森救急医学会，青森市

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

36. 臨床検査医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

1．「高血圧疾患感受性遺伝子多型および変異の検査同定法の確立」については，重要な遺伝子多型を見い出しその病態的意義を検討してきている。

2．「表面マーカー発現および転写活性を指標とした細胞機能検査法の開発」については，最新の技術を応用し特異的かつ効率的な検査法が確立できそうな段階に到達している。

3．「院内感染防止対策に貢献する検査部医療情報システムの構築」については，感染制御センターとの連携で重要な役割を果たしてきている。

理念：

現研究テーマを変わりなく遂行し発表していく。

これから２年間の目標：

重要な知見が蓄積されてきているので順次発表していくよう努める。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	保嶋　実	1年間
	助教授	専　任	庄司　優	1年間
	助　手	専　任	佐々木真吾	1年間
研究課題	1．高血圧疾患感受性遺伝子多型および変異の検査同定法の確立 2．表面マーカー発現および転写活性を指標とした細胞機能検査法の開発 3．院内感染防止対策に貢献する検査部医療情報システムの構築 4．不整脈成因研究と治療			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　3，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	保嶋　実	1年間
	助教授	専　任	庄司　優	1年間
	助　手	専　任	佐々木真吾	1年間
研究課題	1．高血圧疾患感受性遺伝子多型および変異の検査同定法の確立 2．表面マーカー発現および転写活性を指標とした細胞機能検査法の開発 3．院内感染防止対策に貢献する検査部医療情報システムの構築			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

B.1. Ogihara T, Katsuya T, Ishikawa K, Matsuo A, Rakugi H, Shoji M, Yasujima M: Hypertension in a patient with Gitelman's syndrome, J Hum Hypertens 2004;18:677-679.

B.2. Sugimoto K, Shoji M, Yasujima M, Suda T, Yagihashi S: Peripheral nerve endoneurial microangiopathy and necrosis in rats with insulinoma, Acta Neuropathol (Berl) 2004;108:503-514.

B.3. Kanazawa M, Kohzuki M, Kurosawa H, Minami N, Ito O, Saito T, Yasujima M, Abe K: Renoprotective effect of angiotensin-converting enzyme inhibitor combined with alpha1-adrenergic antagonist in spontaneously

hypertensive rats with renal ablation. Hypertens Res 2004;27:509-515.

B.4. Enya M, Kanoh Y, Mune T, Ishizawa M, Sarui H, Yamamoto M, Takeda N, Yasuda K, Yasujima M, Tsutaya S, Takeda J: Depressive state and paresthesia dramatically improved by intravenous MgSO4 in Gitelman's syndrome. Intern Med 2004;43:410-414.

2005年度

B.1. Tomita H, Osanai T, Toki T, Sasaki S, Maeda N, Murakami R, Magota K, Yasujima M, Okumura K: Troglitazone and 15-deoxy-delta(12,14)-prostaglandin J2 inhibit shear-induced coupling factor 6 release in endothelial cells. Cardiovasc Res 2005;67:134-41.

B.2. Owada S, Iwasa A, Sasaki S, Higuma T, Kimura M, Kobayashi T, Ashikaga K, Okumura K: "V-H-A Pattern" as a criterion for the differential diagnosis of atypical AV nodal reentrant tachycardia from AV reciprocating tachycardia. Pacing Clin Electrophysiol 2005;28:667-74.

B.3. Osanai T, Magota K, Tanaka M, Shimada M, Murakami R, Sasaki S, Tomita H, Maeda N, Okumura K: Intracellular signaling for vasoconstrictor coupling factor 6: novel function of beta-subunit of ATP synthase as receptor. Hypertension 2005;46:1140-6.

B.4. Yokoyama J, Kushibiki M, Fujiwara T, Tamura Y, Maeda N, Higuma T, Sasaki S, Yoshimachi F, Matsunaga T, Hanada H, Osanai T, Okumura K: Feasibility and safety of thrombectomy with TVAC aspiration catheter system for patients with acute myocardial infarction. Heart Vessels 2006;21:1-7.

B.5. Tanaka M, Osanai T, Murakami R, Sasaki S, Tomita H, Maeda N, Satoh K, Magota K, Okumura K: Effect of vasoconstrictor coupling factor 6 on gene expression profile in human vascular endothelial cells: enhanced release of asymmetric dimethylarginine. J Hypertens 2006;24:489-97.

B.6. Tomita H, Osanai T, Toki T, Maeda N, Murakami R, Chen Z, Yamabe H, Osawa H, Yasujima M, Okumura K: Roxithromycin is an inhibitor of human coronary artery smooth muscle cells proliferation: a potential ability to prevent coronary heart disease. Atherosclerosis 2005;182:87-95.

B.7. Yamato K, Tamasawa N, Murakami H, Matsui J, Tanabe J, Suda T, Yasujima M: Evaluation of apolipoprotein E secretion by macrophages in type 2 diabetic patients: role of HDL and apolipoprotein A-I. Diabetes Res Clin Pract 2005;69:124-128.

和文

2005年度

B.1. 小野有希，杉本一博，後藤麻希，木村正彦，葛西　猛，庄司　優，保嶋　実：糖尿病患者における血尿と尿中 acanthocyte．臨床病理 2005;53:993-8.

B.2. 中田郁美，木村正彦，小島佳也，杉本一博，庄司　優，保嶋　実，小川吉司，須田俊宏：糖尿病における血清シスタチン C を用いた腎機能評価に関する検討．日本臨床化学会東北支部会誌　2006;15:45-49.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 庄司　優，蔦谷昭司，松田絵理子，保嶋　実：Gitelman 症候群におけるサイアザイド感受性 Na-Cl 共輸送体遺伝子変異解．日本臨床検査自動化学会会誌　2005;30: 99-104.

2005年度

A.1. 保嶋　実：高血圧患者の危険因子評価とリスクの層別化．診断と治療　2006;94:377-383.

A.2. 庄司　優，蔦谷昭司，松田絵理子，保嶋　実：Gitelman 症候群におけるサイアザイド感受性 Na-Cl 共輸送体遺伝子変異解析．日本臨床検査自動化学会会誌　2005;30:99-104.

A.3. 庄司　優，保嶋　実：疾患群の遺伝学的検査と遺伝子検査：腎・血管疾患．日本臨牀 2005;63(増12): 223-227.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文

2005年度

B.1. Kageyama K, Terui K, Shoji M, Tsutaya S, Matsuda E, Sakihara S, Nigawara T, Moriyama T, Yasujima M, Suda T: Diagnosis of a case of Gitelman's syndrome based on renal clearance studies and gene analysis of a novel mutation of the thiazide-sensitive Na-Cl cotransporter. J Endocrinol Invest 2005;28:822-6.

B.2. Terui K, Shoji M, Yamashiki J, Hirai Y, Ishiguro A, Tsutaya S, Kageyama K, Yasujima M, Suda T: A novel mutation of the thiazide-sensitive sodium chloride cotransporter gene in a Japanese family with Gitelman syndrome. Clin Nephrol 2006;65:57-60.

和文

2004年度

A.1. 庄司　優，須田俊宏，保嶋　実：ウロテンシン―薬理作用と生理作用，血小板作用．日本臨牀　2004;62:715-718.

A.2. 庄司　優，保嶋　実：高血圧と高血圧性臓器障害―高血圧性臓器障害の検査とその意義，心機能検査，ナトリウム利尿ホルモン．日本臨牀　2004;62:311-314.

A.3. 庄司　優，木村時久，保嶋　実：バゾプレシン遺伝子発現と分泌調節．日本臨牀　2005;63:460-465.

A.4. 庄司　優，保嶋　実：DPC と遺伝子検査．臨床病理　2004;52:1007-1010.

2005年度

A.1. 伊藤　宏，伊藤貞嘉，長田　乾，上嶋健治，保嶋　実，伊藤正毅：VALUE 試験からの考察．Pharma Medica　2005;23:105-110.

B.1. 山口惠三，古谷信彦，岩田守弘，渡邉直樹，上原信之，保嶋　実，葛西　猛，他：呼吸器および尿路由来の臨床分離株に対する gatifloxacin の抗菌力（2004年度）．日化療会誌　2005;53:627-640.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Cardiovasc Res	3.092	1	3.092
J Hum Hypertens	1.151	1	1.151
Acta Neuropathol (Berl)	2.402	1	2.402
Hypertens Res	2.01	1	2.01
Intern Med	0.476	1	0.476
Total		5	9.131

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Cardiovasc Res	4.575	1	4.575
Pacing Clin Electrophysiol	1.132	1	1.132
Hypertension	5.342	1	5.342
Heart Vessels	0.829	1	0.829
J Hypertens	4.871	1	4.871
Atherosclerosis	3.796	1	3.796
Diabetes Res Clin Pract 2005	1.73	1	1.73
Total		7	22.275

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
日本臨床検査自動化学会会誌	1	1
臨床病理		1
日本臨床化学会東北支部会誌		1
診断と治療		1
日本臨牀		1
計	1	5

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Endocrinol Invest	1.525	1	1.525
Clin Nephrol	1.316	1	1.316
Total		2	2.841

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
日本臨牀	3	
臨床病理	1	
Pharma Medica		1
日化療会誌		1
計	4	2

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

A.1. Shoji, M. Tsutaya, S. Hasan, K.N. Yasujima, M: Gene polymorphisms and hypertension in a Japanese population., 10th Asian-Pacific Congress of Clinical Biochemistry, Perth, Australia, 2004

A.2. Yasujima, M. Tsutaya, S. Matsuda, E. Shoji, M: Novel mutations of thiazide-sensitive natrium-chloride cotransporter in 9 patients with hypokalemia and hypomagnesimia., 10th Asian-Pacific Congress of Clinical Biochemistry, Perth, Australia, 2004

2005年度

C.1. Shoji M, Tsutaya S, Matsuda E, Yasujima M: NOVEL MUTATIONS OF THIAZIDE-SENSITIVE SODIUM-CHLORIDE COTRANSPORTER IN 21 JAPANESE PATIENTS WITH GITELMAN SYNDROME. 2005 World Congress of Nephrology in Singapore in June of 2005.

（2）全国学術集会

2004年度

C.　6件

2005年度

B.1. 庄司　優，保嶋　実：心不全とバゾプレシン．第24回日本臨床化学会夏期セミナー，宮城蔵王，2005年7月7日.

C.　17件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

基盤研究(C)(2)課題番号　15590477（研究代表者　保嶋　実）

「食塩感受性高血圧におけるナトリウム代謝関連遺伝子多型の病態的意義」

基盤研究(C)(2)課題番号　13672412（研究代表者　庄司　優）

「縄文系および弥生系日本人における高血圧の遺伝的素因の特徴と標準化への応用」

2005年度

研究代表者として

平成15-18年度科学研究費補助金基盤研究Ｃ　課題番号15590477

「食塩感受性高血圧におけるナトリウム代謝関連遺伝子多型の病態的意義」

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2004年度

Bangladesh より大学院生として Kazi Nadim Hasan を受け入れた。

2005年度

Bangladesh より大学院生として Kazi Nadim Hasan を受け入れている。

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

日本臨検査医学会東北支部総会

2005年度

内分泌学会東北地方会開催

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

37．臨床薬理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

毎年，impact factor を有する英文学術誌への投稿論文作成を２報以上指導した。
毎年，国内の主要学会での学会発表２演題以上を指導した。
研究代表者として科学研究費補助金に採択を目指したが，この点については未達成であった。

理念：

臨床薬理学者の研究は最終的には生体のヒトを対象とした試験であり，臨床薬理学者の責務は基礎薬理学者が in vitro 実験や動物実験で得た結果をヒトにおいて検討・確認することである。治験の支援や健常者での臨床試験ばかりでなく臨床薬理学者は患者を対象とした新規医薬品に係わる種々の臨床薬理試験を主体的に実施することも今後の検討課題と考えている。各臨床科との共同研究のもと患者における臨床試験の円滑な実施にむけ尽力したい。

これから２年間の目標：

１．Impact factor のついた学術誌に senior author として複数の論文を発表
２．国際学会，全国レベルの学会等におけるシンポジウムに共同演者として発表
３．研究代表者・分担者として科学研究費補助金に１件以上採択
４．弘前大学医学部附属病院における治験推進のための環境整備

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	立石　智則	H16年4月～H17年3月
	講　師	専　任	古郡　規雄	H16年4月～H17年3月
	助　手	専　任	清水美貴子	H16年9月～H17年3月
研究課題	１．薬物代謝酵素活性における個体差の検討 ２．薬物代謝酵素における活性と遺伝子変異との関連 ３．薬物動態に影響する種々の因子の検討 ４．弘前大学医学部附属病院での治験の推進とその環境整備 ５．抗精神病薬の臨床効果に及ぼす諸因子の検討			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助手　2，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	立石　智則	1年間
	助　手	専　任	清水美貴子	1年間
	助　手	専　任	宇野　　司	1年間
研究課題	１．薬物代謝酵素活性における個体差の検討 ２．薬物代謝酵素における活性と遺伝子変異との関連 ３．薬物動態に影響する種々の因子の検討 ４．弘前大学医学部附属病院での治験の推進とその環境整備			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Yasui-Furukori N, Takahata T, Nakagami T, Yoshiya G, Inoue Y, Kaneko S, Tateishi T: Different inhibitory effect of fluvoxamine on omeprazole metabolism between CYP2C19 genotypes. Br J Clin Pharmacol. 2004 Apr;57(4):487-94.

A.2. Yasui-Furukori N, Mihara K, Takahata T, Suzuki A, Nakagami T, De Vries R, Tateishi T, Kondo T, Kaneko S: Effects of various factors on steady-state plasma concentrations of risperidone and 9-hydroxyrisperidone: lack of impact of MDR-1 genotypes. Br J Clin Pharmacol. 2004 May;57(5):569-75.

A.3. Yasui-Furukori N, Furukori H, Kaneda A, Kaneko S, Tateishi T: The effects of Ginkgo biloba extracts on the pharmacokinetics and pharmacodynamics of donepezil. J Clin Pharmacol. 2004 May;44(5):538-42.

A.4. Yasui-Furukori N, Inoue Y, Chiba M, Tateishi T: Simultaneous determination of haloperidol and bromperidol and their reduced metabolites by liquid-liquid extraction and automated column-switching high-performance liquid chromatography. J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 2004 Jun 5;805(1):175-80.

A.5. Takahata T, Yasui-Furukori N, Yoshiya G, Uno T, Sugawara K, Tateishi T: Fexofenadine does not affect omeprazole pharmacokinetics: both are putative P-glycoprotein substrates. Basic Clin Pharmacol Toxicol. 2004 May;94(5):252-6.

A.6. Yasui-Furukori N, Saito M, Furukori H, Inoue Y, Someya T, Kaneko S, Tateishi T: Establishment of new cloned enzyme donor immunoassays (CEDIA) for haloperidol and bromperidol. Ther Drug Monit. 2004 Jun;26(3):336-41.

A.7. Uno T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T: Liquid chromatographic determination of fexofenadine in human plasma with fluorescence detection. J Pharm Biomed Anal. 2004 Jun 29;35(4):937-42.

A.8. Yasui-Furukori N, Furukori H, Nakagami T, Saito M, Inoue Y, Kaneko S, Tateishi T: Steady-state pharmacokinetics of a new antipsychotic agent perospirone and its active metabolite, and its relationship with prolactin response. Ther Drug Monit. 2004 Aug;26(4):361-5.

A.9. Yasui-Furukori N, Saito M, Uno T, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T. Effects of fluvoxamine on lansoprazole pharmacokinetics in relation to CYP2C19 genotypes. J Clin Pharmacol. 2004 Nov;44(11):1223-9.

A.10. Yasui-Furukori N, Inoue Y, Tateishi T. Sensitive determination of midazolam and 1'-hydroxymidazolam in plasma by liquid-liquid extraction and column-switching liquid chromatography with ultraviolet absorbance detection and its application for measuring CYP3A activity. J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 2004 Nov 25;811(2):153-7.

A.11. Yasui-Furukori N, Uno T, Sugawara K, Tateishi T. Different effects of three transporting inhibitors, verapamil, cimetidine, and probenecid, on fexofenadine pharmacokinetics. Clin Pharmacol Ther. 2005 Jan;77(1):17-23.

A.12. Uno T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T. Determination of lansoprazole and two of its metabolites by liquid-liquid extraction and automated column-switching high-performance liquid chromatography: application to measuring CYP2C19 activity. J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 2005 Feb 25;816(1-2):309-14.

A.13. Saito M, Yasui-Furukori N, Uno T, Takahata T, Sugawara K, Munakata A, Tateishi T. Effects of clarithromycin on lansoprazole pharmacokinetics between CYP2C19 genotypes. Br J Clin Pharmacol. 2005 Mar;59(3):302-9.

B.1. Hasegawa Y, Takanashi S, Okudera K, Aoki M, Basaki K, Kondo H, Takahata T, Yasui-Furukori N, Tateishi T, Abe Y, Okumura K. Weekly paclitaxel and nedaplatin with concurrent radiotherapy for locally advanced non-small-cell lung cancer: a phase I/II study. Jpn J Clin Oncol. 2004 Nov;34(11):647-53.

C.1. Miura M, Tada H, Yasui-Furukori N, Uno T, Sugawara K, Tateishi T, Suzuki T: Pharmacokinetic differences between the enantiomers of lansoprazole and its metabolite, 5-hydroxylansoprazole, in relation to CYP2C19 genotypes. Eur J Clin Pharmacol. 2004 Nov;60(9):623-8.

C.2. Araki K, Yasui-Furukori N, Fukasawa T, Aoshima T, Suzuki A, Inoue Y, Tateishi T, Otani K: Inhibition of the metabolism of etizolam by itraconazole in humans: evidence for the involvement of CYP3A4 in etizolam metabolism. Eur J Clin Pharmacol. 2004 Aug;60(6):427-30.

C.3. Fukasawa T, Yasui-Furukori N, Aoshima T, Suzuki A, Tateishi T, Otani K: Single oral dose pharmacokinetics of quazepam is influenced by CYP2C19 activity. Ther Drug Monit. 2004 Oct;26(5):529-33.

2005年度

A.1. Ishizawa Y, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sasaki M, Tateishi T: The effect of aging on the relationship between the cytochrome P450 2C19 genotype and omeprazole pharmacokinetics. Clin Pharmacokinet. 2005;44(11):1179-89.

A.2. Uno T, Yasui-Furukori N, Shimizu M, Sugawara K, Tateishi T: Determination of rabeprazole and its active metabolite, rabeprazole thioether in human plasma by column-switching high-performance liquid chromatography and its application to pharmacokinetic study. J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 2005 Sep 25;824(1-2):238-43.

A.3. Uno T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T: Lack of significant effect of grapefruit juice on the pharmacokinetics of lansoprazole and its metabolites in subjects with different CYP2C19 genotypes. J Clin Pharmacol. 2005 Jun;45(6):690-4.

A.4. Saito M, Yasui-Furukori N, Uno T, Takahata T, Sugawara K, Munakata A, Tateishi T: Effects of clarithromycin on lansoprazole pharmacokinetics between CYP2C19 genotypes. Br J Clin Pharmacol. 2005 Mar;59(3):302-9.

A.5. Uno T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T: Determination of lansoprazole and two of its metabolites by liquid-liquid extraction and automated column-switching high-performance liquid chromatography: application to measuring CYP2C19 activity. J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 2005 Feb 25;816(1-2):309-14.

A.6. Yasui-Furukori N, Uno T, Sugawara K, Tateishi T: Different effects of three transporting inhibitors, verapamil, cimetidine, and probenecid, on fexofenadine pharmacokinetics. Clin Pharmacol Ther. 2005 Jan;77(1):17-23.

B.1. Fukasawa T, Yasui-Furukori N, Suzuki A, Inoue Y, Tateishi T, Otani K: Pharmacokinetics and pharmacodynamics of etizolam are influenced by polymorphic CYP2C19 activity. Eur J Clin Pharmacol. 2005 Dec;61(11):791-5.

B.2. Takahata T, Yasui-Furukori N, Sakamoto J, Suto K, Suto T, Tateishi T, Munakata A: Influence of Hepatic Impairment on the Pharmacokinetics and Pharmacodynamics of Landiolol Hydrochloride, an Ultra-Short-Acting beta(1)-Blocker. Drugs R D. 2005;6(6):385-94.

B.3. Miura M, Tada H, Yasui-Furukori N, Uno T, Sugawara K, Tateishi T, Suzuki T: Enantioselective disposition of lansoprazole in relation to CYP2C19 genotypes in the presence of fluvoxamine. Br J Clin Pharmacol. 2005 Jul;60(1):61-8.

B.4. Miura M, Tada H, Yasui-Furukori N, Uno T, Sugawara K, Tateishi T, Suzuki T: Effect of clarithromycin on the enantioselective disposition of lansoprazole in relation to CYP2C19 genotypes. Chirality. 2005 Jun;17(6):338-44.

B.5. Nakagami T, Yasui-Furukori N, Saito M, Tateishi T, Kaneo S: Effect of verapamil on pharmacokinetics and pharmacodynamics of risperidone: in vivo evidence of involvement of P-glycoprotein in risperidone disposition. Clin Pharmacol Ther. 2005 Jul;78(1):43-51.

B.6. Tokairin T, Fukasawa T, Yasui-Furukori N, Aoshima T, Suzuki A, Inoue Y, Tateishi T, Otani K: Inhibition of the metabolism of brotizolam by erythromycin in humans: in vivo evidence for the involvement of CYP3A4 in brotizolam metabolism. Br J Clin Pharmacol. 2005 Aug;60(2):172-5.

B.7. Kunii T, Fukasawa T, Yasui-Furukori N, Aoshima T, Suzuki A, Tateishi T, Inoue Y, Otani K: Interaction study between enoxacin and fluvoxamine. Ther Drug Monit. 2005 Jun;27(3):349-53.

B.8. Kondo S, Fukasawa T, Yasui-Furukori N, Aoshima T, Suzuki A, Inoue Y, Tateishi T, Otani K: Induction of the metabolism of etizolam by carbamazepine in humans. Eur J Clin Pharmacol. 2005 May;61(3):185-8.

C.1. Uno T, Ohkubo T, Motomura S, Sugawara K: Effect of grapefruit juice on the disposition of manidipine enantiomers in healthy subjects. *Br J Clin Pharmacol*, 2006;61:533-7.

和文

2005年度

A.1. 宇野　司，古郡規雄，菅原和信，立石智則：ランソプラゾール体内動態に及ぼす CYP3A4阻害剤の効果. 医薬ジャーナル，2005;41:133-41.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 宇野　司，古郡規雄：副作用・相互作用．臨床精神医学増刊号2005，115-22，アークメディア，東京.

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Br J Clin Pharmacol.	2.531	3	7.593
J Clin Pharmacol.	1.945	2	3.89
J Chromatogr B	2.085	3	6.255
Basic Clin Pharmacol Toxicol.	1.302	1	1.302
Ther Drug Monit.	2.372	2	4.744
J Pharm Biomed Anal.	1.425	1	1.425
Clin Pharmacol Ther	6.141	1	6.141
Jpn J Clin Oncol.	0.188	1	0.188
Total		14	31.538

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clin Pharmacokinet	5.195	1	5.195
Br J Clin Pharmacol	2.777	3	2.777
J Chromatogr B	2.391	2	4.782
J Clin Pharmacol	2.889	1	2.889
Clin Pharmacol Ther.	7.526	2	7.526
Eur J Clin Pharmacol	2.298	2	4.596
Chirality	2.072	1	2.072
Ther Drug Monit	2.718	1	2.718
Total		13	32.555

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
医薬ジャーナル		1
計	0	1

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	1

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2004年度

C.　2件

2005年度

B.1.　立石智則：第22回日本心電学会学術集会シンポジウム「循環器薬物応答性の個人差に関係するチトクロームP450の遺伝子多型」2005年10月　富山

B.2. 宇野　司：*CYP2C19* 遺伝子多型に関連したプロトンポンプ阻害薬（PPIs）の薬物動態と相互作用．第60回医薬品相互作用シンポジウム（2005;11:23-24, 仙台市）

C. 2件

Ⅲ．学術賞

2005年度

平成17年度医薬品相互作用シンポジウム学術賞，宇野　司，*CYP2C19* 遺伝子多型に関連したプロトンポンプ阻害薬（PPIs）の薬物動態と相互作用．

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

2005年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）高齢者における薬物代謝関連遺伝子情報を考慮した適正な薬物治療の基盤整備に関する研究班（研究代表者　浜松医科大学　渡邉祐司教授）

（3）学内の研究助成

2004年度

他研究単位との研究分担者として

1件

2005年度

他研究単位との研究分担者として

H17年度学長指定重点研究　認知障害の統合的解析と認知再生科学の創出（研究代表者　蔵田　潔教授）

H17年度学長指定重点研究　アスベスト関連疾患，中皮腫の新たな治療に向けた統合的展開（研究代表者　鬼島　宏教授）

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

38. 分子病態部門

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

１）部門として年間５編以上の英語論文を発表する。
Impact factor の付いた英文学術誌に2004年度は14編，2005年度は17編の論文を発表した（到達度100％）。

２）学内ならびに学外との共同研究を積極的に進める。
2004年度は共同研究により14編，2005年度は共同研究により17編の論文を発表した（到達度100％）。

３）教官を国外研究施設へ派遣する。
助手の丹治が2003年１月から2006年１月までの３年間 Texas 大学に留学した。助教授の森も2005年12月からスペイン国高等学術研究院バルセロナ生物医学研究所に留学中である（到達度100％）。

理念：

当部門は医学部附属脳神経血管病態研究施設に属しており，施設の目的である「脳血管障害と痴呆を含めた脳神経疾患に関する学理及びその応用の研究」を行うことを立脚点としている。

これから２年間の目標：

１）部門として年間５編以上の英語論文を発表する。
２）学内ならびに学外との共同研究を積極的に進める。
３）若手研究者（大学院生）の育成を行う。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　2，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	若林　孝一	1年
	助教授	専　任	森　　文秋	1年
	助　手	専　任	西江　　信	10ヶ月
	助　手	休職中	丹治　邦和	休職中
研究課題	１．神経変性疾患，特にパーキンソン病における封入体形成メカニズム ２．痴呆性疾患における神経細胞変性と脳内蓄積物質 ３．グリア細胞の機能と各種病態における変化 ４．加齢に伴う脳の形態変化に関する定量計測 ５．培養細胞系を用いた低酸素による細胞死の防御機構 ６．脳腫瘍の病理診断 ７．各種の神経疾患モデル動物を用いた病態解析			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　2，医員　0，大学院学生　1，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	若林　孝一	1年
	助教授	専　任	森　　文秋	9ヶ月
	助　手	専　任	丹治　邦和	3ヶ月
	助　手	専　任	朱　　剛	1年
研究課題	１．神経変性疾患，特にパーキンソン病における封入体形成メカニズム ２．痴呆性疾患における神経細胞変性と脳内蓄積物質 ３．グリア細胞の機能と各種病態における変化 ４．加齢に伴う脳の形態変化に関する定量計測 ５．培養細胞系を用いた低酸素による細胞死の防御機構 ６．脳腫瘍の病理診断 ７．各種の神経疾患モデル動物を用いた病態解析			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Wakabayashi K, Takahashi H: Pathological heterogeneity in progressive supranuclear palsy and corticobasal degeneration. Neuropathology 2004;24:79-86.

A.2. Nishie M, Mori F, Fujiwara H, Hasegawa M, Yoshimoto M, Iwatsubo T, Takahashi H, Wakabayashi K: Accumulation of phosphorylated α-synuclein in the brain and peripheral ganglia of patients with multiple system atrophy. Acta Neuropathol 2004;107:292-298.

A.3. Nishie M, Mori F, Ogawa M, Sannohe S, Tanno K, Kurahashi K, Kuroda N, Wakabayashi K: Multinucleated astrocytes in old demyelinated plaques in a patient with multiple sclerosis. Neuropathology 2004;24:248-253.

A.4. Nishie M, Mori F, Yoshimoto M, Takahashi H, Wakabayashi K: A quantitative investigation of neuronal cytoplasmic and intranuclear inclusions in the pontine and inferior olivary nuclei in multiple system atrophy. Neuropathol Appl Neurobiol 2004;30:546-554.

A.5. Mori F, Nishie M, Tanno K, Sannohe S, Kuroda N, Wakabayashi K: Hydranencephaly with extensive periventricular necrosis and numerous ectopic glioneuronal nests. Neuropathology 2004;24:315-319.

A.6. Mori F, Nakatsu F, Okada M, Kumazawa N, Iwasa H, Zhu G, Kasagi Y, Kamiya H, Harada A, Nishimura K, Takeuchi A, Miyazaki T, Watanabe M, Yuasa S, Manabe T, Wakabayashi K, Kaneko S, Saito T, Ohno H: Defective function of GABA-containing synaptic vesicles in mice lacking the AP-3B clathrin adaptor. J Cell Biol 2004;167:293-302.

A.7. Mori F, Nishie M, Piao Y-S, Kito K, Kamitani T, Takahashi H, Wakabayashi K: Accumulation of NEDD8 in neuronal and glial inclusions of neurodegenerative disorders. Neuropathol Appl Neurobiol 2005;31:53-61.

A.8. Nishie M, Mori F, Tomita T, Nishijima M, Kaimori M, Wakabayashi K: Peculiar venous lesions in fatal hyponatremic brain edema. Neuropathology 2005;25:95-98.

B.1. Ogawa M, Nishie M, Kurahashi K, Kaimori M, Wakabayashi K: Anti-Hu-associated paraneoplastic sensory neuronopathy with upper motor neurone involvement. J Neurol Neurosurg Psychiatry 2004;75:1051-1053.

B.2. Imaizumi T, Hatakeyama M, Yamashita K, Yoshida H, Ishikawa A, Taima K, Satoh K, Mori F, Wakabayashi K: *Interferon-γ induces retinoic acid-inducible gene-I in endothelial cells. Endothelium 2004;11:169-173.

B.3. Tomiyama M, Mori F, Kimura T, Ichinohe N, Wakabayashi K, Matsunaga M, Baba M: *Hypertrophy of medial globus pallidus and substantia nigra reticulata in 6-hydroxydopamine-lesioned rats treated with L-DOPA: Implication for L-DOPA-induced dyskinesia in Parkinson's disease. Neuropathology 2004;24:290-295.

B.4. Irie Y, Mori F, Keung W-M, Mizushima Y, Wakabayashi K: Expression of neuronal growth inhibitory factor (metallothionein-III) in the salivary gland. Physiol Res 2004;53:719-723.

B.5. Ikejima S, Sasaki S, Sashinami H, Mori F, Ogawa Y, Nakamura T, Abe Y, Wakabayashi K, Suda T, Nakane A: *Impairment of host resistance to Listeria monocytogenes infection in liver of db/db and ob/ob mice. Diabetes 2005;54:182-189.

B.6. Yoshida H, Imaizumi T, Tanji K, Sakaki H, Metoki N, Hatakeyama M, Yamashita K, Ishikawa A, Tamai K, Sato Y, Kimura H, Satoh K: *Platelet-activating factor enhances the expression of nerve growth factor in normal human astrocytes under hypoxia. Mol Brain Res 2005;133:95-101.

2005年度

A.1. Mori F, Okada M, Tomiyama M, Kaneko S, Wakabayashi K: Effects of ryanodine receptor activation on neurotransmitter release and neuronal cell death following kainic acid-induced status epilepticus. Epilepsy Res 2005;65:59-70.

A.2. Wakabayashi K, Mori F, Nishie M, Oyama Y, Kurihara A, Yoshimoto M, Kuroda N: An autopsy case of early ("minimal change") olivopontocerebellar atrophy (multiple system atrophy-cerebellar). Acta Neuropathol 2005;110:185-190.

A.3. Wakabayashi K, Suzuki N, Mori F, Kamada M, Hatanaka M: Rhabdoid cystic papillary meningioma with diffuse subarachnoid dissemination. Acta Neuropathol 2005;110:196-198.

A.4. Tanji K, Tanaka T, Kamitani T: Interaction of NUB1 with the proteasome subunit S5a. Biochem Biophys Res Commun 2005;337:116-120.

A.5. Nishie M, Mori F, Suzuki C, Ogawa M, Kurahashi K, Kaimori M, Wakabayashi K: Disseminated intraparenchymal microgranulomas in the brainstem in central nervous system sarcoidosis. Neuropathology 2005;25:361-364.

A.6. Nishie M, Mori F, Suzuki C, Ogawa M, Kurahashi K, Kaimori M, Wakabayashi K: Disseminated intraparenchymal microgranulomas in the brainstem in central nervous system sarcoidosis. Neuropathology 2005;25:361-364.

A.7. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Mori F, Hirose S, Wakabayashi K, Kaneko S: Involvement of Ca(2+)-induced Ca2+ releasing system in interleukin-1beta-associated adenosine release. Eur J Pharmacol 2006;532:246-252.

A.8. Nishie M, Mori F, Houzen H, Yamaguchi J, Jensen PH, Wakabayashi K: Oligodendrocytes within astrocytes ("emperipolesis") in the cerebral white matter in hepatic and hypoglycemic encephalopathy. Neuropathology 2006;26:62-65.

A.9. Wakabayashi K, Mori F, Hasegawa M, Kusumi T, Yoshimura I, Takahashi H, Kaneko S: Co-localization of beta-peptide and phosphorylated tau in astrocytes in a patient with corticobasal degeneration. Neuropathology 2006;26:66-71.

B.1. Tan C-F, Piao Y-S, Kakita A, Yamada M, Takano H, Tanaka M, Mano A, Makino K, Nishizawa M, Wakabayashi K, Takahashi H: Frontotemporal dementia with co-occurrence of astrocytic plaques and tufted astrocytes, and severe degeneration of the cerebral white matter: a variant of corticobasal degeneration? Acta Neuropathol 2005;109: 329-338.

B.2. Takahashi H, Wakabayashi K: Controversy: is Parkinson's disease a single disease entity? Yes. Parkinsonism Relat Disord 2005;11(Suppl 1):S31-37.

B.3. Orimo S, Amino T, Itoh Y, Takahashi A, Kojo T, Uchihara T, Tsuchiya K, Mori F, Wakabayashi K, Takahashi H: Cardiac sympathetic denervation precedes neuronal loss in the sympathetic ganglia in Lewy body disease. Acta Neuropathol 2005;109:583-588.

B.4. Orimo S, Kanazawa T, Amino T, Yokochi M, Kojo T, Uchihara T, Takahashi A, Wakabayashi K, Takahashi H, Hattori N, Mizuno Y: Preserved cardiac sympathetic nerve accounts for normal cardiac uptake of MIBG in PARK2. Mov Disord 2005;20:1350-1353.

B.5. Imaizumi T, Hatakeyama M, Yamashita K, Ishikawa A, Yoshida H, Satoh K, Taima K, Mori F, Wakabayashi K: Double-stranded RNA induces the synthesis of retinoic acid-inducible gene-I in vascular endothelial cells. Endothelium 2005;12:133-137.

B.6. Yoshida S, Okada M, Zhu G, Kaneko S. Effects of zonisamide on neurotransmitter exocytosis associated with ryanodine receptors. Epilepsy Res 2005;67:153-162.

B.7. Okada M, Yoshida S, Zhu G, Hirose S, Kaneko S. Biphasic actions of topiramate on monoamine exocytosis associated with both soluble N-ethylmaleimide-sensitive factor attachment protein receptors and Ca^{2+}-induced Ca^{2+}-releasing systems. Neuroscience 2005;134:233-246.

B.8. Yoshida H, Imaizumi T, Tanji K, Sakaki H, Metoki N, Sato Y, Wakabayashi K, Kimura H, Satoh K: Interleukin-1beta enhances the angiotensin-induced expression of plasminogen activator inhibitor-1 through angiotensin receptor upregulation in human astrocytes. Brain Res 2006;1073-1074:38-47.

C.1. Wada K, Tanji K, Kamitani T: Function and subcellular location of Ro52beta. Biochem Biophys Res Commun 2006;340:872-878.

C.2. Wada K, Tanji K, Kamitani T: Oncogenic protein UnpEL/Usp4 deubiquitinates Ro52 by its isopeptidase activity. Biochem Biophys Res Commun 2006;339:731-736.

和文

2004年度

B.1. 岡田元宏，朱　剛，吉田淑子，森　文秋，中津　史，兼松　隆，平田雅人，若林孝一，大野博司，兼子　直：リバースゲノミクス的研究手法を用いた中枢神経系機能性疾患におけるERストレス仮説の構築．精神薬療研究年報　2004;36:74-82

B.2. 織茂智之，網野猛志，小澤英輔，古城　徹，内原俊記，高橋　敦，土谷邦秋，若林孝一，高橋　均：パーキンソン病の鑑別診断に有用な診断マーカー－MIBG心筋シンチグラフィー－．臨床神経　2004;44:827-829

B.3. 山田正俊，方山揚誠，板橋智映子，若林孝一，大和　博，奥島敏美：Amyotrophic lateral sclerosis with dementiaと考えられた一剖検例．八戸市立市民病院医誌　2004;21:100-104.

2005年度

B.1. 岡田元宏，朱　剛，上野伸哉，吉田淑子，兼子　直：ヒトてんかんと同じ遺伝子異常をもつ組換え動物の作出（第二報）．精神薬療研究年報　2006;38:191-196.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 若林孝一，西江　信，丹治邦和，森　文秋，高橋　均：αシヌクレイノパチーの神経病理．神経進歩 2004;48:385-397

A.2. 若林孝一，西江　信：パーキンソニズムと痴呆―病理学的立場から―．Medical Practice 2004;21:1075-1079.

A.3. 若林孝一：レビー小体型痴呆の病理．Cognition and Dementia 2004;4:20-28.

A.4. 若林孝一，林　森太郎，高橋　均：タウオパチーの病理．Clinical Neuroscience 2005;23:275-278.

2005年度

A.1. 若林孝一：シヌクレイノパチーにおける神経細胞とグリア細胞の病理．脳神経　2005;57:667-682.

B.1. 織茂智之，網野猛志，古城　徹，内原俊記，高橋　敦，若林孝一，高橋　均：Lewy小体病では心臓交感神経の脱神経により心臓のMIBG集積が低下する．自律神経　2005;42:233-238.

（3）著書

英文

2005年度

B.1. Okada M, Zhu G, Yoshida S, Hirose S, Kaneko S: Mechanisms of calcium-associated exocytosis of striatal dopamine and DOPA release, studied by in vivo microdialysis. Neurobiology of DOPA as a Neurotransmitter (eds Misu, Y. and Goshima, Y.): in Progress in Pharmacology and Toxicology (ed Mannfred A Hollinger), CRC press, 2005.

和文

2004年度

A.1. 若林孝一：パーキンソン病の全身病理．パーキンソン病―病理学，自律神経系研究の進歩（山本光利編），中外医学社，pp.2-16,2004.

A.2. 若林孝一：パーキンソン病における痴呆の病理学的背景．パーキンソン病―痴呆の問題（山本光利編），中外医学社，pp.119-130,2005.

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neuropathology	0.64	4	2.56
Acta Neuropathol	2.556	1	2.556
Neuropathol Appl Neurobiol	3.022	2	6.044
J Cell Biol	12.023	1	12.023
J Neurol Neurosurg Psychiatry	3.035	1	3.035
Endothelium	1.51	1	1.51
Neuropathology	0.64	1	0.64
Physiol Res	0.939	1	0.939
Diabetes	8.298	1	8.298
Mol Brain Res	2.107	1	2.107
Total		14	39.712

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Epilepsy Res	2.897	1	2.897
Acta Neuropathol	2.503	2	5.006
Neuropathology	1.198	4	4.792
Eur J Pharmacol	2.432	1	2.432
Biochem Biophys Res Commun	2.904	1	2.904
Acta Neuropathol	2.503	2	5.006
Parkinsonism Relat Disord	1.25	1	1.25
Mov Disord	3.093	1	3.093
Endothelium	2.017	1	2.017
Epilepsy Res	2.897	1	2.897
Neuroscience	3.456	1	3.456
Brain Res	2.389	1	2.389
Total		17	38.139

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
精神薬療研究年報	1	1
臨床神経	1	
八戸市立市民病院医誌	1	
計	3	1

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	1

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	2	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
神経進歩	1	
Medical Practice	1	
Cognition and Dementia	1	
Clinical Neuroscience	1	
脳神経		1
自律神経		1
計	4	2

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Mori F, Nishie M, Piao YS, Kito K, Kamitani T, Takahashi H, Wakabayashi K: Accumulation of NEDD8 in neuronal and glial inclusions of neurodegenerative disorders. The Society for Neuroscience's 34th Annual Meeting, 2004.10.23-27, San Diego, USA.

C.2. Tomiyama M, Mori F, Kimura T, Wakabayashi K, Baba M: Contribution of D1 receptor stimulation to the development of levodopa-induced dyskinesias in 6-hydroxydopamine-lesioned rats. The Society for Neuroscience's 34th Annual Meeting, 2004.10.23-27, San Diego, USA.

2005年度

C.1. Tanji K, Mori F, Takahashi H, Wakabayashi K, Kamitani T: NUB1 accumulates in pathological inclusions found in brains of patients with neurodegenerative α-synucleinopathies. Therapeutic target against neurodegenerative conditions. Boston Marriott Burlington, October 11-12,2005

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 第45回日本神経学会総会, 2004.5.11-14, 東京. 教育講演. 若林孝一：神経内科医のための神経病理：血管障害, 感染，炎症，脱髄.

B.1. 第93回日本病理学会総会（2004.6.9-11, 札幌）．ワークショップ「神経変性疾患の解析と病理診断の醍醐味」若林孝一：神経変性疾患の病理診断は3つの分子で決める.

B.2. 第4回パーキンソン病フォーラム（2004.8.28, 東京）．若林孝一：パーキンソン病における自律神経障害の病理変化.

B.3. 第76回日本神経学会東北地方会（2005.3.19, 仙台）．生涯教育講演会．若林孝一：αシヌクレイノパチーの病理.

C.　11件

2005年度

B.1. 若林孝一：系統変性疾患の神経病理．ワークショップ「神経疾患の病理」．第94回日本病理学会総会（2005.4.14-16, 横浜）

B.2. 若林孝一：多系統萎縮症の病理：Glial cytoplasmic inclusion の発見がもたらしたこと．シンポジウム「脊髄小脳変性症最前線」．第46回日本神経病理学会（2005.5.12-14, 宇都宮）

B.3. 若林孝一：剖検例からみた神経病理学：時代による病理像の変化と診断への糸口．特別講演．第61回日本病理学会東北支部総会（2005.7.23-24, 函館）

C.　10件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2004年度

大正製薬医薬研究所，シヌクレイノパチーの発症メカニズムに関する研究，吉本　真

2005年度

大正製薬医薬研究所，シヌクレイノパチーの発症メカニズムに関する研究，吉本　真

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

森　文秋．科学研究費補助金（基盤研究C）．シナプス小胞膜関連蛋白欠損マウスにおけるてんかん発症機構の解明．1,300千円．

若林孝一．科学研究費補助金（基盤研究C）．αシヌクレイノパチーの分子病態機構：新規結合蛋白が封入体形成に果たす役割．600千円．

2005年度

研究代表者として

森　文秋．平成17年度　科学研究費補助金（基盤研究C）．遺伝性夜間前頭葉てんかんにおける脳部位特異的てんかん発症機構の解明．1,700千円

他研究単位との研究分担者として

若林孝一．平成17年度　科学研究費補助金（基盤研究S）（代表:兼子　直）．てんかんの分子病態の解析：受容体・イオンチャネルの遺伝子多型に基づく個別化治療の開発．15,800千円

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

2004年度

他研究単位との研究分担者として

若林孝一．平成16年度戦略的経費（教育研究費）（代表：佐藤　敬）．神経科学研究拠点形成―神経系再生医学の確立．5,000千円

若林孝一．平成16年度弘前大学学長指定重点研究（代表：兼子　直）．遺伝子多型に基づく個別化治療開発―機能性中枢疾患の治療．5,200千円

若林孝一．平成16年度弘前大学学長指定重点研究（代表：藏田　潔）．認知障害の統合的解析と認知再生科学の創出．6,200千円

2005年度

研究代表者として

森　文秋．平成17年度　学術国際振興基金助成（学術の活性化推進事業）．パーキンソン病の遺伝子治療確立のための分子病理学的研究．3,000千円

他研究単位との研究分担者として

若林孝一．平成16年度弘前大学学長指定重点研究（代表：兼子　直）．遺伝子多型に基づく個別化治療開発―機能性中枢疾患の治療．5,100千円

若林孝一．平成16年度弘前大学学長指定重点研究（代表：藏田　潔）．認知障害の統合的解析と認知再生科学の創出．3,900千円

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2004年度

丹治邦和．Division of Molecular Medicine, Department of Internal Medicine, University of Texas-Houston Health Science Center.　2003.1から留学中

2005年度

丹治邦和．Division of Molecular Medicine, Department of Internal Medicine, University of Texas-Houston Health Science Center. 2003年1月から2006年1月まで留学

森　文秋．スペイン国高等学術研究院バルセロナ生物医学研究所神経化学部門．2005年12月から留学中

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

39. 脳血管病態部門

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

95％

理念：

教育，社会貢献にも最大限の努力をしつつも，研究実績を最重要視して活動を進める。

これから２年間の目標：

教員数以上の原著論文を発表する。

共同研究を盛んにする。

外部研究資金の獲得に努める。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　5，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	佐藤　敬	12ヶ月
	講　師	専　任	吉田　秀見	12ヶ月
	助　手	専　任	今泉　忠淳	12ヶ月
研究課題	１．血管内皮細胞の血栓・炎症関連遺伝子発現 ２．アストロサイトの低酸素応答 ３．脳血管障害の危険因子 ４．脳血管障害の病態生理学 ５．気道上皮細胞における炎症・免疫関連因子の発現			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　2，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	佐藤　敬	1年
	講　師	専　任	吉田　秀見	1年
	助　手	専　任	今泉　忠淳	1年
研究課題	１．脳血管障害の基礎的研究 ２．血管内皮細胞の細胞生物学的研究 ３．グリア細胞の細胞生物学的研究 ４．炎症反応の分子機構 ５．血小板に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Cui X-F, Imaizumi T, Yoshida H, Borden EC, Satoh K: Retinoic acid-inducible gene-I is induced by interferon-γ and regulates the interferon-γ stimulated gene 15 in MCF-7 cells. **Biochem Cell Biol** 82(3):401-405,2004.

A.2. Imaizumi T, Yagihashi N, Hatakeyama M, Yamashita K, Ishikawa A, Taima K, Yoshida H, Inoue I, Fujita T, Yagihashi S, Satoh K: Expression of retinoic-acid inducible gene-I in vascular smooth muscle cells stimulated with interferon-γ. **Life Sci** 75(10):1171-1180,2004.

A.3. Imaizumi T, Yagihashi N, Hatakeyama M, Yamashita K, Ishikawa A, Taima K, Yoshida H, Yagihashi S, Satoh K: Upregulation of retinoic acid-inducible gene-I in T24 urinary bladder carcinoma cells stimulated with interferon-γ. **Tohoku J Exp Med** 203(4):313-318,2004.

A.4. Ishikawa A, Imaizumi T, Yoshida H, Nishi N, Nakamura T, Hirashima M, Satoh K: Double-stranded RNA enhances the expression of galectin-9 in vascular endothelial cells. **Immunol Cell Biol** 82(4):410-414,2004.

A.5. Imaizumi T, Hatakeyama M, Yamashita K, Yoshida H, Ishikawa A, Taima K, Satoh K, Mori F, Wakabayashi K: Interferon-γ induces retinoic acid-inducible gene-I in endothelial cells. **Endothelium** 11(3-4):169-173,2004.

A.6. Imaizumi T, Hatakeyama M, Taima K, Ishikawa A, Yamashita K, Yoshida H, Satoh K: Effect of double-stranded RNA on the expression of neutrophil activating peptide-78/CXCL-5 in human endothelial cells. **Inflammation** 28(4):215-219,2004.

A.7. Yoshida H, Imaizumi T, Tanji K, Sakaki H, Metoki N, Hatakeyama M, Yamashita K, Ishikawa A, Taima K, Sato Y, Kimura H, Satoh K: Platelet-activating factor enhances the expression of nerve growth factor in normal human astrocytes under hypoxia. **Mol Brain Res** 133(1):95-101,2005.

B.1. Sato Y, Kanoko T, Yasuda H, Satoh K, Iwamoto J: Beneficial effect of etidronate therapy in immobilized hip fracture patients. **Am J Phys Med Rehabil** 83(4):298-303,2004.

B.2. Sato Y, Kaji M, Honda Y, Hayashi N, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Abnormal calcium homeostasis in disabled stroke patients with low 25-hydroxyvitamin D. **Bone** 34(4):710-715,2004.

B.*3. Kobayashi W, Liu Q, Matsumiya T, Nakagawa H, Yoshida H, Imaizumi T, Satoh K, Kimura H: Photodynamic therapy upregulates expression of Mac-1 and generation of leukotriene B4 by human polymorphonuclear leukocytes. **Oral Oncol** 40(5):506-510,2004.

B.4. Yoneyama M, Kikuchi M, Natsukawa T, Shinobu N, Imaizumi T, Miyagishi M, Taira K, Akira S, Fujita T: The RNA helicase, RIG-I, plays an essential role for double-stranded RNA-induced innate antiviral responses. **Nat Immunol** 5(7):730-737,2004.

B.5. Sato Y, Kanoko T, Satoh K, Iwamoto J: Risk factors for hip fracture among elderly patients with Alzheimer's disease. **J Neurol Sci** 223(2):107-112,2004.

B.6. Angeli V, Llodrá J, Rong JX, Satoh K, Ishii S, Shimizu T, Fisher EA, Randolph GJ: Dyslipidemia associated with atherosclerotic disease systemically alters dendritic cell mobilization. **Immunity** 21(4):561-574,2004.

B.7. Sato Y, Kanoko T, Satoh K, Iwamoto J: Menatetrenone and vitamin D2 with calcium supplementation prevent nonvertebral fracture in elderly women with Alzheimer's disease. **Bone** 36(1):61-68,2005.

B.*8. Sakaki H, Imaizumi T, Matsumiya T, Kusumi A, Nakagawa H, Kubota K, Nishi N, Nakamura T, Hirashima M, Satoh K, Kimura H: Retinoic acid-inducible gene-I is induced by interlekin-1β in cultured human gingival fibroblasts. **Oral Microbiol Immunol** 20(1):47-50,2005.

B.9. Sato Y, Honda Y, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Effect of folate and mecobalamin on hip fractures in patients with stroke: a randomized controlled trial. **JAMA** 293(9):1082-1088,2005.

B.10. Sato Y, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Risedronate therapy for prevention of hip fracture after stroke. **Neurology** 64(5):811-816,2005.

B.11. Sato Y, Honda Y, Hayashida N, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Vitamin K deficiency and osteopenia in elderly female patients with Alzheimer's disease. **Arch Phys Med Rehabil** 86(3):576-581,2005.

2005年度

A.1. Imaizumi T, Mori F, Hatakeyama M, Yamashita K, Ishikawa A, Taima K, Yoshida H, Wakabayashi K, Satoh K: Double-stranded RNA induces the synthesis of retinoic acid-inducible gene-I in vascular endothelial cells. **Endothelium** 2005;12(3):133-137.

A.2. Imaizumi T, Kumagai M, Taima K, Fujita T, Yoshida H, Satoh K: Involvement of RIG-I in IFN-γ/STAT1 signaling pathway in BEAS-2B cells. **Eur Resp J** 2005;25(6):1077-1083.

A.3. Imaizumi T, Yamashita K, Taima K, Ishikawa A, Yoshida H, Satoh K: Effect of peroxisome proliferator-activated receptor-γ ligands on the expression of retinoic acid-inducible gene I in endothelial cells stimulated with lipopolysaccharide. **Prostaglandins Other Lipid Mediat** 2005;78(1-4):46-54.

A.4. Yoshida H, Imaizumi T, Tanji K, Sakaki H, Metoki N, Sato Y, Wakabayashi K, Kimura H, Satoh K: Interleukin-1β enhances the angiotensin-induced expression of plasminogen activator inhibitor-1 through angiotensin receptor upregulation in human astrocytes. **Brain Res** 2005;1073/1074(1):38-47.

B.1. Sato Y, Kanoko T, Satoh K, Iwamoto J: Menatetrenone and vitamin D2 with calcium supplementation prevent nonvertebral fracture in elderly women with Alzheimer's disease. **Bone** 2005;36(1):61-68.

B.*2. Sakaki H, Imaizumi T, Matsumiya T, Kusumi A, Nakagawa H, Kubota K, Nishi N, Nakamura T, Hirashima M, Satoh K, Kimura H: Retinoic acid-inducible gene-I is induced by interlekin-1β in cultured human gingival fibroblasts. **Oral Microbiol Immunol** 2005;20(1):47-50.

B.*3. Taima K, Takanashi S, Okumura K, Imaizumi T, Kumagai K, Ishikawa A, Yoshida H, Satoh K, Fujita T: Double-stranded RNA stimulates the expression of monocyte chemoattractant protein-1 in BEAS-2B bronchial epithelial cells. **Exp Lung Res** 2005;31(2):361-375.

B.4. Sato Y, Honda Y, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Amelioration by mecobalamin of subclinical carpal tunnel syndrome involving unaffected limbs in stroke patients. **J Neurol Sci** 2005;231(1, 2):13-18.

B.5. Sato Y, Honda Y, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Homocysteine as a predictive factor for hip fracture in stroke patients. **Bone** 2005;36(4):721-726.

B.6. Sato Y, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Amelioration of osteoporosis and hypovitaminosis D by sunlight exposure in hospitalized elderly women with Alzheimer's disease. A randomized controlled trial. **J Bone Mineral Res** 2005;20(8):1327-1333.

B.7. Sato Y, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Risedronate therapy for prevention of hip fracture after stroke in elderly men. **Arch Intern Med** 2005;165(15):1743-1748.

B.8. Sato Y, Kanoko T, Satoh K, Iwamoto J: Risedronate and vitamin D2 with calcium supplements prevent hip fracture in elderly women with Alzheimer's disease. A randomized controlled trial. **Arch Intern Med** 2005;165(15):1737-1742.

B.9. Sato Y, Honda Y, Asoh T, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Cardiac involvement in malignant syndrome in Parkinson's disease. **Eur Neurol** 2005;54(2):88-92.

B.10. Sato Y, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Negative myoglobin staining in hemiplegic muscle of acute stroke patients predicts functional recovery. **Am J Phys Med Rehabil** 2005;84(9):692-698.

B.11. Yoneyama M, Kikuchi M, Matsumoto K, Imaizumi T, Miyagishi M, Taira K, Foy E, Loo YM, Gale Jr. M, Akira S, Yonehara S, Kato A, Fujita T. Shared and unique functions of the DExD/H-box helicases RIG-I, MDA5 and LGP2 in antiviral innate immunity. **J Immunol** 2005;175:2851-2858.

B.12. Sato Y, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Low dose vitamin D prevents muscular atrophy and reduces falls and hip fractures in stroke women: a randomized controlled trial. **Cerebrovasc Dis** 2005;20(3):187-192.

B.13. Sato Y, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Homocysteine as a predictive factor for hip fracture in elderly women with Parkinson's disease. **Am J Med** 2005;118(11):1250-1255.

B.14. Sato Y, Honda Y, Iwamoto J, Kanoko T, Satoh K: Abnormal bone and calcium metabolism in immobilized Parkinson's disease patients. **Mov Disord** 2005; 20(12):1598-1603.

B.*15. Kobayashi W, Liu Q, Nakagawa H, Sakaki H, Teh B, Matsumiya T, Yoshida H, Imaizumi T, Satoh K, Kimura H: Photodynamic therapy with mono-I-aspartyl chlorin e6 can cause necrosis of squamous cell carcinoma of tongue: experimental study on an animal model of nude mouse. **Oral Oncol** 2005;42(1):45-49.

B.*16. Tanaka M, Osanai T, Murakami R, Sasaki S, Tomita H, Maeda N, Satoh K, Magota K, Okumura K: Effect of vasoconstrictor coupling factor 6 on gene expression profile in human vascular endothelial cells: enhanced release of asymmetric dimethylarginine. **J Hypertens** 2006;24(3):489-497.

B.*17. Taima K, Imaizumi T, Yamashita K, Ishikawa A, Fujita T, Yoshida H, Takanashi S, Okumura K, Satoh K: Expression of IP-10/CXCL10 is upregulated by double-stranded RNA in BEAS-2B bronchial epithelial cells. **Respiration** 2006;73(3):360-364.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 佐藤　敬：受容体．4. PAF 受容体．血小板生物学（池田康夫，丸山征郎　編），メディカルレビュー社．pp.243-247,2004.

A.2. 佐藤　敬：PAF-AH(platelet-activating factor acetylhydrolase)．血栓と循環 12(4):503-506,2004.

2005年度

A.1. 佐藤　敬：血小板活性化因子と血管・血栓．血管医学 2005;6(4):385-390.

（3）著書

英文

2005年度

A.1. Imaizumi T, Yoshida H, Satoh K: The molecular and cellular biology of C and CX3C chemokines and their receptors. *In* Schwiebert LM, ed., **Chemokines, Chemokine Receptors, and Disease**, Elsevier, pp.103-114,2005.

和文　なし

（4）その他

英文

2004年度

A.1. Guan JZ, Tamasawa N, Brunham LR, Matsui J, Murakami H, Suda T, Ochiai S, Tsutsui M, Kudou K, Satoh K, Hayden MR: A case of Tangier disease with a novel mutation in the C-terminal region of ATP-binding cassette transporter A1. **Am J Med Genet** 130A(4):398-401,2004.

和文

2004年度

A.1. 佐藤　敬：ヒト臍帯動脈からの平滑筋細胞培養と炎症反応に伴う遺伝子発現―培養平滑筋細胞の２本鎖RNA 処理に伴うレチノイン酸誘導遺伝子Ｉの発現．厚生科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業「脳動脈瘤責任遺伝子同定と出血前診断への臨床応用」平成15年度研究報告書．pp.23-29,2004.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Biochem Cell Biol	3.193	1	3.193
Endothelium	2.017	1	2.017
Immunol Cell Biol	2.618	1	2.618
Inflammation	1.292	1	1.292
Life Sci	2.158	1	2.158
Mol Brain Res	1.711	1	1.711
Tohoku J Exp Med	0.7	1	0.7
Am J Phys Med Rehabil	1.121	1	1.121
Arch Phys Med Rehabil	1.656	1	1.656
Bone	3.53	2	7.06
Immunity	15.448	1	15.448
JAMA	24.831	1	24.831
J Neurol Sci	2.366	1	2.366
Neurology	5.973	1	5.973
Oral Microbiol Immunol	1.759	1	1.759
Oral Oncol	2	1	2
Nat Immunol	27.586	1	27.586
Total		18	103.489

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Endothelium	2.017	1	2.017
Eur Resp J	3.096	1	3.096
Prostaglandins Other Lipid Med	3.588	1	3.588
Brain Res	2.389	1	2.389
Bone	3.53	2	7.06
Oral Microbiol Immunol	1.759	1	1.759
Exp Lung Res	1.464	1	1.464
J Neurol Sci	2.366	1	2.366
J Bone Mineral Res	5.436	1	5.436
Arch Intern Med	7.508	2	15.016
Eur Neurol	1.312	1	1.312
Am J Phys Med Rehabil	1.121	1	1.121
J Immunol	6.486	1	6.486
Cerebrovasc Dis	2.15	1	2.15
Am J Med	4.179	1	4.179
Mov Disord	3.093	1	3.093
Oral Oncol	2	1	2
J Hypertens	4.871	1	4.871
Respiration	1.019	1	1.019
Total		21	70.422

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
血小板生物学	1	
血栓と循環	1	
血管医学		1
計	2	1

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	1

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Am J Med Genet	2.603	1	2.603
Total		1	2.603

和文（論文数）なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Imaizumi T, Ishikawa A, Yoshida H, Nishi N, Nakamura T, Hirashima M, Satoh K: Double-stranded RNA enhances the expression of galectin-9 in vascular endothelial cells. Interlec 21-21st International Lectin Meeting. Hayama, Japan. 2004.

C.2. Imaizumi T, Hatakeyama M, Yoshida H, Satoh K: Effect of MG132, a proteasome inhibitor, on the expression of growth related oncogene protein a in human endothelial cells. Korean-Japan Joint Symposium on Vascular Biology 2004. Awaji Island, Japan. 2004.

（2）全国学術集会

2004年度

C.　4件

2005年度

C.　6件

Ⅲ．学術賞

2004年度

第9回弘前大学医学部学術賞特別賞，今泉忠淳，「免疫・炎症反応を制御する新しい分子機構に関する研究」

Ⅳ．共同研究

2004年度

1. 東京都臨床医学総合研究所，Retinoic-acid inducible gene-I に関する研究，藤田尚志
2. 香川大学，Gelectin-9に関する研究，平島正臣

2005年度

1. 京都大学ウイルス研究所（藤田尚志），Innate immunity の研究
2. 香川大学医学部免疫病理学（平島光臣），ガレクチンの研究
3. 三重大学生命科学研究支援センター（山田芳司），生活習慣病の遺伝的危険因子に関する研究

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

萌芽研究，脳血管障害におけるオピオイドペプチドの新しい働き―ヘモルフィンの関与，吉田秀見，600（単位：千円）

2005年度

研究代表者として

基盤研究C(2)．今泉忠淳：肺，気道の免疫応答における新しいToll様受容体関連シグナル分子の意義．1,000（単位：千円）

（2）その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

2004年度

研究代表者として

平成16年度戦略的経費，佐藤　敬，神経科学拠点形成―神経再生医学の確立．5,000（単位：千円）

(4) 民間の研究助成

2004年度

研究代表者として

弘前大学学術国際振興基金，佐藤　敬，神経再生科学，5,000（単位：千円）

2005年度

研究代表者として

青森県国民健康保健団体支援事業「弘前大学医学部研究開発支援事業」 佐藤　敬：青森県住民における生活習慣の特徴と脳卒中危険因子の実態及び青森県農産物中の降圧物質．5,000（単位：千円）

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

2004年度

吉田秀見：弘前大学医学部附属脳神経血管病態研究施設細胞工学部門（客員部門）実験副主任として登録実験従事者の研究活動を支えた。

40. 機能回復部門

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

スライスパッチ，多点細胞外記録装置，培養細胞の解析の立ち上げは完了し，遺伝子改変動物の機能解析は稼働できるようになった。

再生細胞可視化のための，プラスミド設計がほぼ修了し，作製段階にはいった。

また，痛み動物モデル作製，評価も確立できた。

理念：

遺伝子変化，発現変化と機能発現との関係を研究ターゲットとし，研究成果を広く公表していく。

これから２年間の目標：

再生神経細胞可視化のためのプラスミド作製およびその遺伝子改変動物作製をめざす。

また現在解析中の遺伝子改変動物の行動解析および機能解析をすすめ，gene および発現マイクロアレイを用いた評価系との関連を明らかとする。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　1			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	上野　伸哉	1年
	助教授	専　任	早狩　誠	4ヶ月
研究課題	1．慢性疼痛モデル動物作成とその機能評価 2．大脳皮質神経細胞におけるニコチニック受容体を介したシナプス応答の研究 3．麻酔薬のシナプス応答への効果 4．中枢神経における P2X 受容体の機能解析 5．再生神経の可視化動物作成 6．神経系におけるアンジオテンシン変換酵素の役割			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	上野　伸哉	1年
	助教授	専　任	早狩　誠	1年
	助　手	専　任	森山　朋子	1年
研究課題	1．慢性疼痛モデル動物作成とその機能評価 2．大脳皮質神経細胞におけるニコチニック受容体を介したシナプス応答の研究 3．麻酔薬のシナプス応答への効果 4．中枢神経における P2X 受容体の機能解析 5．再生神経の可視化動物作成 6．神経系におけるアンジオテンシン変換酵素の役割			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

B.1. Ikeda K, Onimaru H, Yamada J, Inoue K, Ueno S, Onaka T, Toyoda H, Arata A, Ishikawa TO, Taketo MM, Fukuda A, Kawakami K: Malfunction of respiratory-related neuronal activity in Na^+, K^+-ATPase alpha2

subunit-deficient mice is attributable to abnormal Cl^- homeostasis in brainstem neurons. J Neurosci 24:10693-10701,2004.

B.2. Inoue K, Ueno S, Fukuda A: Interaction of neuron-specific K^+-Cl^- cotransporter, KCC2, with brain-type creatine kinase. FEBS Lett 564:131-135,2004.

B.3. Toyoda H, Yamada J, Ueno S, Okabe A, Kato H, Sato K, Hashimoto K, Fukuda A: Differential functional expression of cation-Cl^- cotransporter mRNAs (KCC1, KCC2, and NKCC1) in rat trigeminal nervous system. Brain Res Mol Brain Res 133:12-18,2005.

B.4. Yamazaki T, Nakano H, Hayakari M, Tanaka M, Mayama J, Tsuchida S: Differentiation induction of human keratinocytes by phosphatidyl-ethanolamine-binding protein. J Biol Chem. 2004;279:32191-5.

B.5. Takahata T, Kumano T, Ookawa K, Hayakari M, Kakizaki I, Tsuchida S: Inhibition of 3T3-L1 adipocyte differentiation by 6-ethoxyzolamide: repressed peroxisome proliferator-activated receptor gamma mRNA and enhanced CCAAT/enhancer binding protein beta mRNA levels. Biochem Pharmacol. 2004;67:1667-75.

2005年度

A.1. Huang, C. W., S. Ueno, M. Okada and S. Kaneko (2005): "Zonisamide at clinically relevant concentrations inhibits field EPSP but not presynaptic fiber volley in rat frontal cortex." Epilepsy Res 67(1-2):51-60.

B.1. Inoue, K., S. Ueno, J. Yamada and A. Fukuda (2005): "Characterization of newly cloned variant of rat glycine receptor alpha1 subunit." Biochem Biophys Res Commun 327(1):300-5.

B.2. Ueta, Y., H. Fujihara, R. Serino, G. Dayanithi, H. Ozawa, K. Matsuda, M. Kawata, J. Yamada, S. Ueno, A. Fukuda and D. Murphy (2005): "Transgenic expression of enhanced green fluorescent protein enables direct visualization for physiological studies of vasopressin neurons and isolated nerve terminals of the rat." Endocrinology 146(1):406-13.

B.3. Zhu, G., M. Okada, S. Yoshida, F. Mori, S. Ueno, K. Wakabayashi and S. Kaneko (2006): "Effects of interleukin-1beta on hippocampal glutamate and GABA releases associated with Ca(2+)-induced Ca(2+) releasing systems." Epilepsy Res.

B.4. Inoue, K., J. Yamada, S. Ueno and A. Fukuda (2006): "Brain-type creatine kinase activates neuron-specific K^+-Cl- co-transporter KCC2." J Neurochem 96(2):598-608.

B.5. Nanashima N, Asano J, Hayakari M, Nakamura T, Nakano H, Yamada T, Shimizu T, Akita M, Fan Y, Tsuchida S: Nuclear localization of STAT5A modified with O-linked N-acetylglucosamine and early involution in the mammary gland of Hirosaki hairless rat. J Biol Chem. 2005 Dec 30;280(52):43010-6.

B.6. Satoh K, Takahashi G, Miura T, Hayakari M, Hatayama I: Enzymatic detection of precursor cell populations of preneoplastic foci positive for gamma-glutamyltranspeptidase in rat liver. Int J Cancer. 2005 Jul 10;115(5):711-6.

B.7. Sakurada T, Komatsu T, Moriyama T, Sasaki M, Sanai I, Orito T, Sakurada C, Sakurada S: Effect of intraplantar injections of nociceptin and its N-terminal fragments on nociceptive and desensitized respones induced by capsaicin in mice.;Peptides (2005), 26(12), 2505-12.

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 森山朋子：TRP スーパーファミリーによる消化器知覚を探る：分子消化器病（2005),2,185-192

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Neurosci	7.907	1	7.907
FEBS Lett	3.843	1	3.843
Brain Res Mol Brain Res	1.711	1	1.711
J Biol Chem	6.355	1	6.355
Biochem Pharmacol	3.436	1	3.436
Total		5	23.252

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Epilepsy Res	2.663	1	2.663
Biochem Biophys Res Commun	3	1	3
Endocrinology	5.313	1	5.313
Epilepsy Res	2.663	1	2.663
J Neurochem	4.604	1	4.604
J Biol Chem	5.854	1	5.854
Int J Cancer	4.7	1	4.7
Peptides	2.231	1	2.231
Total		8	31.028

和文　なし

2．著書数（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Fukuda A, Sugimoto M, Shimizu-Okabe C, Okabe A, Yamada J, Kilb W, Ueno S, Luhmann H. J: Changes in Cl- homeostasis and GABA- and Glycine-mediated depolarizations are induced during formation of the microgyrus in an experimental model of neocortical malformations. 4th Forum of European Neuroscience 2004.7.10-14 Lisbon, Portugal, 2004

C.2. Ueno S, Yamada J, Yamamoto S, Furukawa T & Fukuda A: Expression and function of P2X receptors in rat supraoptic nucleus. 4th Forum of European Neuroscience 2004.7.10-14 Lisbon, Portugal, 2004

C.3. Yamada J, Yamamoto S, Ueno S, Furukawa T, Fukuda A: GABAA receptor-mediated tonic inhibition in rat somatosensory cortex. 4th Forum of European Neuroscience 2004.7.10-14 Lisbon, Portugal, 2004

C.4. Yamamoto S, Yamada J, Ueno S, Fukuda A: Midazolam facilitate presynaptic GABA release via alpha7 nicotinic Ach receptors in layer V neocortical pyramidal neurons. 4th Forum of European Neuroscience 2004.7.10-14 Lisbon, Portugal, 2004

2005年度

C.1. Makoto Tominaga, Tomoko Moriyama, Tomohiro Higashi, Kazuya Togashi, Tohko Iida, Eri Segi, Yukihiko Sugimoto, Tomoko Tominaga, Shuh Narumiya: Sensitization of TRPV1 by EP1 and IP reveals peripheral nociceptive mechanism of prostaglandins, International Association for the Study of Pain, Sydney, Australia, 2005

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. Nanashima N, Hayakari M, Nakano H, Kudo T, Asanno J, Tadaishi A, Tsuchida S: Localization of unphosphorylated STAT5A in nucleous of the rat mammary gland and early involution induction. 第77回日本生化学大会，横浜，2004年.

B.2. Kudo T, Asano J, Nanashima N, Fan Y, Shimizu T, Hayakari M, Tsuchida S: Loss of carbonic anhydrase expression in hyperplastic hepatic nodules occurred spontaneously in aged rats. 第77回日本生化学大会，横浜，2004年.

B.3. 七島直樹，早狩　誠，工藤敏啓，浅野純平，土田成紀：リン酸化を伴わないSTAT5Aのラット乳腺上皮細胞核での局在と乳腺の早期退縮．第63回日本癌学会学術総会，福岡，2004年.

C.　15件

2005年度

B.1. Hayakari M, Satoh K, Moriyama T, Tsuchida S, Ueno S: Kinetic-controlled analysis of neuropeptides by rat angiotensin-converting enzyme. 第78回生化学大会，神戸，2005

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2005年度

1. 小野薬品工業株式会社水無瀬総合研究所，中枢神経系機能性疾患の電気生理学的解析（研究代表者：上野伸哉，2,420千円）
2. シバタ医理科株式会社（研究代表者：早狩誠，500千円）

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

上野伸哉：科学研究費補助金（C）三叉神経痛モデル動物の作成と痛み伝達におけるATP受容体の役割に関する研究　1,700（単位：千円）

2005年度

研究代表者として

上野伸哉：科学研究費補助金（C）三叉神経痛モデル動物の作成と痛み伝達におけるATP受容体の役割に関する研究　1,200（単位：千円）

他研究単位との研究分担者として

1）基盤研究（S）てんかん分子病態の解析（代表者：兼子　直）

2）基盤研究（C）遺伝性夜間前頭葉てんかんにおける脳部位特異的てんかん発症機構の解明（代表者：森文秋）

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2004年度

研究代表者として

早狩　誠：学術国際振興基金　500（単位：千円）

2005年度

研究代表者として

1）上野伸哉：平成17年度学術国際振興基金　神経損傷を起因とする病的疼痛の病態解明―異常回路形成の機能的可視化―　5,000（単位：千円）

2）早狩　誠：平成17年度学術国際振興基金　500（単位：千円）

他研究単位との研究分担者として

藏田　潔：平成17年学長重点継続　認知障害の統合的解析と認知再生科学の創出

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

41．神経統御部門

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

臨床神経学教室としてふさわしい人員構成と研究スタッフの充実。神経疾患病因研究班，臨床研究生理研究班などの研究グループの充実。脳研各部門との共同研究の推進を図ることを２年前に掲げた。平成17年度の６月に診療科としての神経内科として再スタートし，順調に外来・病棟診療が発展しているが，全国レベルの大学病院神経内科と比較すると診療，教育，研究のスタッフはきわめて不足している。

理念：

青森県の地域医療と全国レベルでの神経内科としての臨床・研究・教育の飛躍的な発展を行う。優秀な人材およびスタッフを確保し，世界的な臨床・教育・研究業績のための基礎を確立する。

これから２年間の目標：

１．病棟・外来，専門外来の発展をはかり，地域医療に貢献するとともに，世界的レベルの臨床と臨床研究を行う。
２．BSL，クリニカルクラークシップを基本とした神経内科医学教育の発展を行う。
３．脳血管障害，認知症，神経難病の臨床的・基礎的な研究を行い，新しい診断法や治療法を開発し，世界的な業績を発信する。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　0，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　2，研究生　2			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	助教授	専　任	馬場　正之	１年
研究課題	１．末梢神経病の病態生理と治療 ２．糖尿病における神経障害の病態と治療 ３．パーキンソン病の病態と治療 ４．免疫性神経疾患の病態と治療 ５．脳磁場解析による大脳皮質感覚受容			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　1，助手　1，医員　2，大学院学生　0，研究生　2			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	東海林幹夫	３ヶ月
	助教授	専　任	馬場　正之	１年
	講　師	専　任	冨山　誠彦	３ヶ月
	助　手	専　任	村上千恵子	１年
研究課題	１．アルツハイマー病の関連遺伝子解明，生物学的マーカーの開発，アルツハイマー病の病態解析と根本的治療法の開発．非アルツハイマー型認知症の病態解明と治療法の解明 ２．脳血管障害の臨床疫学と治療法の開発．脳血管性認知症とアミロイドアンギオパチーの関連遺伝子解明と治療法の開発 ３．パーキンソン病の診断マーカーの開発，モデル動物の作成，病態解明と治療法の開発 ４．パーキンソン病の薬物療法に伴う運動合併症に関する研究 ５．神経変性疾患における原因遺伝子解明，病態解析と治療法の開発 ６．神経再生機序の解明と治療法への応用 ７．糖尿病神経障害の大規模臨床調査 ８．糖尿病神経の虚血脆弱性に関する研究 ９．大脳皮質感覚情報処理機構の研究 10．神経筋疾患電気診断におけるＡ波の応用に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

B.1. Ozaki I, Jin CY, Suzuki Y, Baba M, Hashimoto I: Rapid change of tonotopic maps in the human auditory cortex during pitch discrimination. *Clinical Neurophysiology* 115:1592-1564,2004.

B.2. Tomiyama M, Mori F, Kimura T, Maeda T, Ichinohe N, Wakabayashi K, M, Baba M: Hypertrophy of medial globus pallidus and substantia nigra reticulate in 6-hydroxydopamine- lesioned rats treated with L-DOPA: Implication for L-DOPA-induced dyskinesia in Parkinson's disease. *Neuropathology* 24:290-295,2004.

B.3. Tomiyama M, Kimura T, Maeda T, Tanaka H, Kannari K, Baba M: Upregulation of striate adenosine A2a receptor mRNA in 6-hydroxydopamine-lesioned rats intermittently treated with L-DOPA. *Synapse* 52:218-222, 2004.

B.4. Iijima M, Yamamoto M, Hirayama M, Tanaka F, Katsuno M, Arimura K, Nakagawa M, Yoshikawa Baba M, Yasuda H, Saito T, Kira J, Kaji R, Oka N, Sobue G: Clinical and electrophysiological correlates of IVIg responsiveness in CIDP. *Neurology* 65:1471-1476,2005.

2005年度

A.1. Iwai M, Ikeda T, Hayashi T, Sato K, Nagata T, Nagano I, Shoji M, Ikenoue T, Abe K: Temporal profile of neural stem cell proliferation in the subventricular zone after ischemia/hypoxia in the neonatal rat brain. Neurol Res. 2006; 28(4):461-8.1.638

A.2. Ohta Y, Nagai M, Nagata T, Murakami T, Nagano I, Narai H, Kurata T, Shiote M, Shoji M, Abe K: Intrathecal injection of epidermal growth factor and fibroblast growth factor 2 promotes proliferation of neural precursor cells in the spinal cords of mice with mutant human SOD1 gene. J Neurosci Res. 2006; [Epub ahead of print] 3.239

A.3. Samura E, Shoji M, Kawarabayashi T, Sasaki A, Matsubara E, Murakami T, Wuhua X, Tamura S, Ikeda M, Ishiguro K, Saido TC, Westaway D, St George Hyslop P, Harigaya Y, Abe K: Enhanced accumulation of tau in doubly transgenic mice expressing mutant betaAPP and presenilin-1. Brain Res. 2006; 1094(1):192-9.2.296

A.4. Sehara Y, Hayashi T, Deguchi K, Nagotani S, Zhang H, Shoji M, Abe K: Distribution of inducible nitric oxide synthase and cell proliferation in rat brain after transient middle cerebral artery occlusion. Brain Res. 2006; 1093(1):190-7.2.296

A.5. Deguchi K, Tsuru K, Hayashi T, Takaishi M, Nagahara M, Nagotani S, Sehara Y, Jin G, Zhang H, Hayakawa S, Shoji M, Miyazaki M, Osaka A, Huh NH, Abe K: Implantation of a new porous gelatin-siloxane hybrid into a brain lesion as a potential scaffold for tissue regeneration. J Cereb Blood Flow Metab. 2006; [Epub ahead of print] 4.786

A.6. Harigaya Y, Tomidokoro Y, Ikeda M, Sasaki A, Kawarabayashi T, Matsubara E, Kanai M, Saido TC, Younkin SG, Shoji M: Type-specific evolution of amyloid plaque and angiopathy in APPsw mice. Neurosci Lett. 2006 Feb 27;395(1):37-41. 1.898

A.7. Narai H, Nagano I, Ilieva H, Shiote M, Nagata T, Hayashi T, Shoji M, Abe K: Prevention of spinal motor neuron death by insulin-like growth factor-1 associating with the signal transduction systems in SODG93A transgenic mice. J Neurosci Res. 2005 Nov 15;82(4):452-7.3.239

A.8. Ikeda M, Shoji M, Kawarai T, Kawarabayashi T, Matsubara E, Murakami T, Sasaki A, Tomidokoro Y, Ikarashi Y, Kuribara H, Ishiguro K, Hasegawa M, Yen SH, Davies P, Chishti M A, Harigaya Y, Okamoto K, Abe K, Carlson GA, St.George-Hyslop P, Westaway D: Accumulation of Filamentous Tau in the Cerebral Cortex of Human Tau R406W Transgenic Mice. The American Journal of Pathology 2005;166(2):521-31.5.796

A.9. Nagotani S, Hayashi T, Deguchi K, Nagano I, Shoji M, Abe K. Reduction of Cerebral Infarction in SHR-SP by Statins Associated with Amelioration of Oxidative Stress. Stroke 2005;36(3):670-2.5.855

A.10. Jin G, Hayashi T, Kawagoe J, Takizawa T, Nagata T, Nagano I, Shoji M and Abe K. Deficiency of PAR-2 gene increases acute focal ischemic brain injury. Journal of Cerebral Blood Flow and Metabolism 2005; 25: 302-13. 4.786

A.11. Shiote M, Nagano I, Ilieva H, Murakami T, Narai H, Ohta Y, Nagata T, Shoji M, Abe K: Reduction of a vascular endothelial growth factor receptor, fetal liver kinase-1, by antisense oligonucleotides induces motor neuron death in rat spinal cord exposed to hypoxia. Neuroscience 2005;132(1):175-82.3.41

A.12. Li F, Hayashi T, Jin G, Deguchi K, Nagotani S, Nagano I, Shoji M, Chan PH, Abe K: The protective effect of dantrolene on ischemic neuronal cell death is associated with reduced expression of endoplasmic reticulum stress markers. Brain Res. 2005;1048(1-2):59-68.2.296

A.13. Kamada H, Hayashi T, Sato K, Iwai M, Nagano I, Shoji M, Abe K: Up-regulation of low-density lipoprotein receptor expression in the ischemic core and the peri-ischemic area after transient MCA occlusion in rats. Brain Research Molecular Brain Research 2005;134(2):181-8.2.296

A.14. Nagano I, Ilieva H, Shiote M, Murakami T, Yokoyama M, Shoji M, Abe K: Therapeutic benefit of intrathecal injection of insulin-like growth factor-1 in a mouse model of Amyotrophic Lateral Sclerosis. J Neurol Sci. 2005;235(1-2):61-8.2.035

A.15. Nagano I, Shiote M, Murakami T, Kamada H, Hamakawa Y, Matsubara E, Yokoyamaz M, Moritaz K, Shoji M, Abe K. Beneficial effects of intrathecal IGF-1 administration in patients with amyotrophic lateral sclerosis. Neurol Res. 2005;27(7):768-72.1.638

A.16. Deguchi K, Takaishi M, Hayashi T, Oohira A, Nagotani S, Li F, Jin G, Nagano I, Shoji M, Miyazaki M, Abe K, Huh NH: Expression of neurocan after transient middle cerebral artery occlusion in adult rat brain. Brain Research 2005;1037(1-2):194-9.2.296

A.17. Hayashi T, Hamakawa K, Nagotani S, Jin G, Li F, Deguchi K, Sehara Y, Zhang H, Nagano I, Shoji M, Abe K: HMG CoA reductase inhibitors reduce ischemic brain injury of Wistar rats through decreasing oxidative stress on neurons. Brain Research 2005;1037(1-2):52-8.2.296

A.18. Hayashi T, Iwai M, Ikeda T, Jin G, Deguchi K, Nagotani S, Zhang H, Sehara Y, Nagano I, Shoji M, Ikenoue T, Abe K: Neural precursor cells division and migration in neonatal rat brain after ischemic/hypoxic injury. Brain Research 2005;1038(1):41-9.2.296

A.19. Asami-Odakaa A, Obayashi-Adachi Y, Matsumoto Y, Takahashi H, Fukumoto H, Horiguchi T, Suzuki N, and Shoji M. Passive Immunization of the Aβ42(43) C-Terminal-Specific Antibody BC05 in a Mouse Model of Alzheimer's Disease. Neurodegenerative Disease 2005;2:36-43. 未収載

A.20. Narai H, Nagano I, Ilieva H, Shiote M, Nagata T, Hayashi T, Shoji M, Abe K: Prevention of spinal motor neuron death by insulin-like growth factor-1 associating with the signal transduction systems in SOD(G93A) transgenic mice. J Neurosci Res. 2005 Nov 15;82(4):452-7.3.293

A.21. Matsubara E, Kurata T, Yokoyama M, Nagano I, Shoji M and Abe K: Improvement of SSPE by intrathecal infusion of α-IFN. Neurology 2005;64(2):402.4.947

A.22. Murakami T, Ono Y, Akagi N, Oshima E, Hamakawa Y, Omori N, Shoji M, Hayashi Y, Abe K, Manabe Y. A case of superior cerebellar artery syndrome with contralateral hearing loss at onset. J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2005 Dec;76(12):1744-5.3.122

A.23. Matsubara E, Nagata T, Kageyama Y, Shiote M, Namba R, Nagano I, Shoji M, Abe K. Unique cerebellar-cerebral form of autosomal recessive ataxia. Tohoku J Exp Med. 2005 Sep;207(1):81-5.0.927

A.24. Baba M, Nukada H, McMorran D, Takahashi K, Wada R, Yagihashi S: Ischemic conduction failure in STZ-diabetic nerve: Resistance during ischemia and susceptibility after reperfusion. Muscle Nerve, 2006,33(2), 350-355.2.458

A.25. Baba M, Kimura K, Suda T, Yagihashi S: Three-year inhibition of aldose reductase on development of symptomatic neuropathy in diabetic patients. J Periph Nerv Syst, 2006,11(2):175-177.1.698

A.26. Tomiyama M, Furusawa K, Kamijo M, Kimura T, Matsunaga M, Baba M: Upregulation of mRNAs coding AMPA and MNDA receptor subunits and metabotropic glutamate receptors in the dorsal horn of the spinal cord in a rat model of diabetes mellitus. Molec Brain Res, 2005,136:275-281.1.585

A.27. Tomiyama M, Kimura T, Maeda T, Kannari K, Matsunaga M, Baba M: A serotonin 5HT1A receptor agonist prevents behavioral sensitization to L-dopa in a rodent model of Parkinson's disease. Neurosci Res, 2005,52: 185-194.2.184

A.28. Kannari K, Shen H, Arai A, Tomiyama M, Baba M: Re-uptake of L-DOPA-derived extracellular dopamine in the striatum with dopaminergic denervation via serotonin transporters. Neurosci Lett, 2006,402:62-65.1.898

A.29. Suzuki C, Tomiyama M, Baba M, Nunomura J, Ogawa M, Kurahashi K, Kamijo M: Reversible multifocal conduction block in sarcoid neuropathy J Periph Nerv Syst 2006,11:93-95.1.698

B.1. Kuwano R, Miyashita A, Arai H, Asada T, Imagawa M, Shoji M, Higuchi S, Urakami K, Kakita A, Takahashi H, Tsukie T, Toyabe S, Akazawa K, Kanazawa I, Ihara Y: Japanese Genetic Study Consortium for Alzeheimer's Disease. Dynamin-binding protein gene on chromosome 10q is associated with late-onset Alzheimer's disease. Hum Mol Genet. 2006;15(13):2170-82.7.764

B.2. Ohyagi Y, Asahara H, Chui DH, Tsuruta Y, Sakae N, Miyoshi K, Yamada T, Kikuchi H, Taniwaki T, Murai H, Ikezoe K, Furuya H, Kawarabayashi T, Shoji M, Checler F, Iwaki T, Makifuchi T, Takeda K, Kira J, Tabira T: Intracellular Aβ42 activates p53 promoter: a pathway to neurodegeneration in Alzheimer's disease. The FASEB Journal 2005;19(2):255-7.7.064

B.3. Nakaya Y, Yamane T, Shiraishi H, Wang HQ, Matsubara E, Sato T, Dolios G, Wang R, De Strooper B, Shoji M, Komano H, Yanagisawa K, Ihara Y, Fraser P, St. George-Hyslop P, Nishimura M. Random mutagenosis of presenilin 1 identifies novel mutation exclusively generating long amyloid β peptides. Journal of Biological Chemistry 2005;280(19):19070-7.5.854

B.4. Iijima M,Yamamoto M, Hirayama M, Tanaka F, Katsuno M, Mori K, Koike H, Arimura K, Nakagawa M, Yoshikawa H, Onodera O, Baba M, Yasuda H, Saito T, Kira J, Kaji R, Oka N, Sobue G: Clinical and electrophysiological correlates of IVIg responsiveness in CIDP. Neurology, 2005,65:1471-1476.4.947

B.5. Koike H, Hirayama M, Yamamoto M, Ito H, Hattori N, Umehara F, Arimura K, Ikeda S, Ando Y, Nakazato M, Kaji R, Hayasaka K, Nakagawa M, Sakoda S, Matsumura K, Onodera O, Baba M, Yasuda H, Saito T, Kira J, Nakashima K, Oka N, Sobue G: Age-associated axonal features in HNPP with 17p11.2 deletion in Japan. J Neurol Neurosurg Psychiatry, 2005,76:1109-14.3.122

B.6. Ozaki I, Yaegashi Y, Baba M, Hashimoto I: High-frequency oscillatory activities during selective attention in humans. Clin Neurophysiol 2006,59:57-60.2.64

B.7. Mori F, Okada M, Tomiyama M, Kaneko S, Wakabayashi K: Effects of ryanodine receptor activation on neurotransmitter release and neuronal cell death following kainic acid-induced status epilepticus. Epilepsy Res. 2005 Jun;65(1-2):59-70.

B.8. Nishie M, Mori F, Suzuki C, Ogawa M, Kurahashi K, Kaimori M, Wakabayashi K: Disseminatied intraparenchymal microgranulomas in the brainstem in central nervous system sarcoidosis. Neuropathology 2005;25:361-364

C.1. Suzuki, M Tomiyama, M Baba, N Jinichi, M Ogawa, K Kurahashi, M Kamijyo: Reversible multifocal conduction block in sarcoid neuropathy Journal of the peripheral nervous system 2006;11:93-95.

和文

2005年度

A.1. 東海林幹夫，桑野良三，朝田　隆，今川正樹，樋口　進，浦上克哉，荒井啓行，井原康夫：アルツハイマー病診断・評価基準試案文部科学省特定領域研究「先端脳」ゲノム班．臨床神経学　2005;45:128-37.

A.2. 瓦林　毅，松原悦朗，永野　功，東海林幹夫，阿部康二：Primary progressive aphasia で発症し，corticobasal degeneration に移行した1例．日老医誌　2005;42(6):702-707.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 馬場正之，中村二郎：糖尿病と臓器機能．ポリオール代謝異常から．糖尿病合併症　18:111-119,2004.

A.2. 馬場正之：糖尿病に伴う神経障害：ポリニューロパチー．日内会誌　93:1556-62,2004.

A.3. 馬場正之：四肢の感覚および運動障害．Clincal Rehabilitation　13:1077-1084,2004.

B.1. 神成一哉，馬場正之：パーキンソン病の高次脳機能障害．メディカルプラクティス　21:1091-1094,2004.

2005年度

A.1. 東海林幹夫：脳アミロイドーシスとしてのアルツハイマー病：脳脊髄液 Aβ and tau による診断．臨床病理　2006 May;54(5):503-8.

A.2. 東海林幹夫，瓦林毅，松原悦朗：Alzheimer 病の診断マーカー（脳脊髄液と血漿）．Mebio 2006;23:82～89

A.3. 東海林幹夫：老化と脳・神経機能の低下，老化に伴う疾患．医学と薬学　2005;53:185-92.

A.4. 東海林幹夫：Question 回答，４回目，D&N Trends，2005;4:3.

A.5. 東海林幹夫：Question 回答，３回目，D&N Trends，2005;3:3.

A.6. 東海林幹夫：Question 回答，２回目，D&N Trends，2005; 2:3.

A.7. 東海林幹夫：Question 回答，１回目，D&N Trends，2005;1:3.

A.8. 東海林幹夫：物忘れをする人と介護者のためのメモ．2005;1～65.

A.9. 東海林幹夫：老年期痴呆の診断へのアプローチ．日本内科学会雑誌　2005;94:1498-504.

A.10. 瓦林毅，東海林幹夫：アミロイドカスケード仮説に沿った認知症原因仮説と予防の可能性．Progress in Medicine　2006;26:361～367.

A.11. 瓦林毅，東海林幹夫：疾患マーカーと画像診断．脳と神経　2005;57:839～852.

A.12. 瓦林毅，東海林幹夫：アルツハイマー病の疾患マーカー．日本医師会雑誌　2005;1022～1023.

A.13. 瓦林毅，東海林幹夫：痴呆性疾患への新たなアプローチ，新たな治療法の可能性．クリニシアン 2005;52:153-9.

A.14. 瓦林毅，東海林幹夫：脳脊髄液タウ蛋白．臨床検査　2005;49:419-424.

A.15. 瓦林毅，東海林幹夫：アルツハイマー病．Tg2576マウス　Molecular Medicine 2005;42:920-927.

A.16. 針谷康夫，東海林幹夫：低血糖による痴呆．内科　2005;5:852-6.

A.17. 瓦林毅，東海林幹夫：アルツハイマー病と血管因子―薬物治療．脳と循環　2005;10:33-36.

A.18. 瓦林毅，東海林幹夫：アルツハイマー病研究の最前線―基礎と臨床　アルツハイマー病の疾患マーカー．神経研究の進歩　2005;49:411-422.

A.19. 馬場正之，沈　正男：ビタミン B2，ニコチン酸欠乏による末梢神経障害．薬の知識　2005;56(5):86-89.

A.20. 新井　陽，馬場正之：アルコール性多発ニューロパチー．神経内科　2005;62:456-460.

A.21. 木村珠喜，馬場正之，沈　正男：顔面神経麻痺．CLINICAL NEUROSCIENCE, 2005;23:1058-59.

A.22. 馬場正之：糖尿病性神経障害．日本臨床　2005，63（増刊６），521-527.

A.23. 馬場正之：糖尿病性神経障害の振動覚について．日本医事新報，2005;4227:87-88.

B.1. 上條美樹子，馬場正之：糖尿病末梢神経障害．CLINICAL NEUROSCIENCE　2006;24:33-35.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 馬場正之：神経学的診察・検査・評価法．後藤文夫ほか編「ペインマネージメント」南江堂，東京，2004，p84－92．

A.2. 馬場正之：糖尿病性神経障害．体の科学「糖尿病2005」，p163－167，2004．

A.3. 馬場正之：手袋状，靴下状．河盛隆造編「糖尿病をさぐる」p127－132，2004．

A.4. 馬場正之，園生雅弘（編）：神経筋電気診断の実際．星和書店，2004．

A.5. 馬場正之：神経伝導検査の基礎知識．神経筋電気診断テキスト，臨床神経生理学会 p.1－7，2004．

B.1. 有村由美子，馬場正之：運動神経伝導検査における注意事項．神経筋電気診断テキスト，臨床神経生理学会，p.34，2004．

2005年度

A.1. 東海林幹夫：進行性核上性麻痺．今日の治療指針2006年度版．東京：医学書院；2006．p. 670−671．

A.2. 東海林幹夫：Alzheimer 病の診断検査法．柳澤信夫，篠原幸人，岩田誠，清水輝夫，寺元明編．Annual Review　神経 2005，東京：中外医学社；2005．p. 45～52．

A.3. 東海林幹夫：アルツハイマー病の生物学的マーカーについて．井原康夫編．アルツハイマー病治療の可能性を探る 2005，東京：クバプロ；2005．p. 76−87．

A.4. 東海林幹夫：AChE 阻害薬によるアルツハイマー病の治療．山本光利編．パーキンソン病，痴呆の問題　東京：中外医学社；2005．p. 217～21．

A.5. 東海林幹夫：痴呆疾患．江藤文夫，飯島節編．神経内科学テキスト．第２版．東京：南江堂；2005．p. 313～330

A.6. 東海林幹夫：第Ⅱ部，よく遭遇する疾患と病態，アルツハイマー病．花岡炳雄，永倉俊和編．臨床分子細胞生物学．東京：メディカルビュー社；(印刷中)

A.7. 東海林幹夫：アルツハイマー病．２．診断・治療予測に有効な生化学的・生理学的所見は何か？　EBM 精神科疾患の治療（上島国利，三村将，中込和幸，平島奈津子編）2005−2006．中外医学社．2006．p. 321～326．

A.8. 瓦林　毅，東海林幹夫：第10章，アルツハイマー病の診断マーカー．平井俊策編．よくわかって役に立つ痴呆症のすべて．改訂第2版．東京：永井書店；2005．p. 146−156．

A.9. 瓦林　毅，東海林幹夫：2章Ⅱ-10-2) 脳アミロイドーシス．アルツハイマー病と脳アミロイド．石原得博，池田修一編．アミロイドーシスの基礎と臨床．東京：金原出版；2005．p. 267～76．

A.10. 瓦林　毅，東海林幹夫：3章　4-3) マウスにおける実験的アミロイドーシス．アルツハイマー病．石原得博，池田修一編．アミロイドーシスの基礎と臨床．東京：金原出版；2005．p. 75～81．

A.11. 馬場正之：神経伝導検査からみた糖尿病性神経障害の病態．糖尿病学の進歩，診断と治療社，2005，p. 196−198．

A.12. 馬場正之：神経伝導検査．平山恵造編「臨床神経内科学」第５版，南山堂　2006，p713−718．

A.13. 馬場正之：薬剤性ニューロパチー．水澤英洋，小林祥泰編「神経疾患最新の治療」南江堂，2006，p.226−228．

（4）その他

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 馬場正之，鈴木千恵子，田野崎真人，上条美樹子，小野寺理：眼球運動失行と低アルブミン血症を伴う早発性脊髄小脳変性症．厚労省末梢神経障害調査研究班平成15年度報告書，2004，31．

B.1. 祖父江元，早坂　清，中川正法，池田修一，馬場正之，吉良潤一，梶　龍児：遺伝性ニューロパチーの診断システムの確立と治療に関する研究．厚労省末梢神経障害調査研究班平成15年度報告書，2004，1−3．

2005年度

A.1. 東海林幹夫，松原悦朗，瓦林　毅，阿部康二：脳 Aβ42選択的除去報の検討．厚生労働科学研究費補助金．特定疾患対策研究事業．アミロイド沈着による病的要素の検索に関する研究．平成17年度総括・分担研究報告書　2006；55～77．

A.2. 東海林幹夫，松原悦朗，瓦林　毅，阿部康二：アルツハイマー病惹起分子 Aß オリゴマーの検証．厚生労働科学研究費補助金．特定疾患対策研究事業．アミロイド沈着による病的要素の検索に関する研究．平成16年度総括・分担研究報告書　2005；44～47．

A.3. 前田秀一郎，Henny Wati，河西あゆみ，伊藤禎洋，Xiaoying Fu，樋口京一，東海林幹夫，瓦林　毅：遺伝子改変マウスを用いた遺伝性アミロイドーシスの発症予防法の開発に関する研究：遺伝性アルツハイマー病モデルマウスを用いた解析．特定疾患対策研究事業．アミロイド沈着による病的要素の検索に関する研究．平成16年度総括・分担研究報告書　2005；44～47．

A.4. 東海林幹夫，松原悦朗，瓦林　毅，阿部康二：Aß の脳アミロイドーシス形成における病的要素の検討．厚生労働科学研究費補助金．特定疾患対策研究事業．アミロイド沈着による病的要素の検索に関する研究．総合研究報告書　2005；31～35．

A.5. 前田秀一郎，Henny Wati，河西あゆみ，伊藤禎洋，東海林幹夫，瓦林　毅，Xiaoying Fu，樋口京一，玉置寿男，徳田孝彦，河野裕夫，石原徳博：遺伝子改変マウスを用いた遺伝性アミロイドーシスの発症予防法の開発に関する研究：特定疾患対策研究事業．アミロイド沈着による病的要素の検索に関する研究．平成16年度総括・分担研究報告書　2005；36～42．

A.6. 東海林幹夫，瓦林　毅，松原悦朗，阿部康二：Transgenic mouse を用いた脳アミロイド治療法の解析，厚生労働科学研究費補助金．特定疾患対策研究事業．アミロイドーシスに関する調査研究．平成16年度総括・分担研究報告書　2005；70～72．

A.7. 東海林幹夫，瓦林　毅，松原悦朗，阿部康二：Transgenic mouse を用いた脳アミロイド治療法の解析，厚生労働科学研究費補助金．特定疾患対策研究事業．アミロイドーシスに関する調査研究．平成14～16年度総括・分担研究報告書　2005；70～72．

A.8. 田平　武，東海林幹夫，池田　学：「認知症の診断と治療－現在および近未来の展望」，カレントテラピー特別号 2006；24:88～94．

A.9. 東海林幹夫：ご挨拶．岡山医学同窓会報．2006, 100号，9～10．

A.10. 東海林幹夫：もの忘れ外来手帳．2006年7月．
A.11. 東海林幹夫：弘前大学医学部神経内科年報．第1号，2006, 5月．
A.12. 東海林幹夫：アルツハイマー病の診断・評価基準試案．DDL magagine. 2006, spring；22−23．
A.13. 東海林幹夫：新任教授の自己紹介．南塘だより．2006, 41号．
A.14. 東海林幹夫：編集後記．南塘だより．2006, 42号．
A.15. 東海林幹夫：新任教授紹介．医学部ウオーカー．2006，第36号．
A.16. 東海林幹夫：かかりつけ医のための Q&A．早期アルツハイマー病の診断マーカーの現状と開発状況について教えてください．クリニシアン．2006，53：37～312．

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clinical Neurophysiology	3.327	1	3.327
Synapse	2.676	1	2.676
Neurology	5.212	1	5.212
Neuropathology	0.575	1	0.575
Total		4	11.79

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neurol Res	1.638	2	3.276
J Neurosci Res	3.239	3	9.717
Brain Res	2.296	7	16.072
J Cerb blood flow metab	4.789	2	9.578
Neurosci lett	1.898	2	3.796
Am J Pathol	5.796	1	5.796
Stroke	5.855	1	5.855
Neuroscience	3.41	1	3.41
J Neurol sci	2.035	1	2.035
Neurology	4.947	1	4.947
J Neurol Neurosurg Psychiatr	3.122	1	3.122
Tohoku J Exp Med	0.927	1	0.927
Muscle Nerve	2.458	1	2.458
J Periph Nerv Syst	1.698	2	3.396
Mol BrainRes	1.585	1	1.585
Neurosci Res	2.198	1	2.198
Neurodegenerative disease	0	1	0
Hum Mol Genet	7.764	1	7.764
FASEB J	7.064	1	7.064
J Biol Chem	5.854	1	5.854
Neurology	4.947	1	4.947
J Neurol Neurosurg Psychiatr	3.122	1	3.122
Clin Neurophysiol	2.64	1	2.64
Epilepsy Res	2.663	1	2.663
Neuropathology	1.167	1	1.167
J Periph Nerv Syst	1.698	1	1.698
Total		38	115.087

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
日本内科学会雑誌　ほか	4	
臨床神経学		1
日老医誌		1
計	4	2

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	1	0
分担執筆	4	13

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（発表論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
厚生労働省末梢神経障害研究班平成16年度報告書 研究班報告集　ほか	2	16
計	2	16

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. 8th Internatinal Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders. 2004.6.13-17 Rome, Italy Arai A, Kannari K, Shen H, Baba M, Matsunaga M: Desipramine increases L-DOPA-derived extracellular dopamine in the striatum of 6-hydroxydopamine-lesioned rats.

C.2. 34th Annual Meeting, Society for Neuroscience. 2004.11.23-27, San Diego, USA Tomiyama M, Mori F, Kimura T, Wakabayashi K, Baba M: Contribution of D1 receptor stimulation to the development of levodopa-induced dyskinesias in 6-hydroxydopamine-lesioned rats.

C.3. Ist International Symposium on Parkinson's Disease. 2004.12.1-2, Osaka Tomiyama M, Mori F, Kimura T, Wakabayashi K, Baba M: Contribution of D1 receptor stimulation to the development of levodopa-induced dyskinesias in 6-hydroxydopamine-lesioned rats.

2005年度

A.1. Baba M: Plenary lecture "Three-year inhibition of ARI on development of symptomatic neuropathy in diabetes" International conference on recent advances in diabetes mellitus and its complications, Dubai, UAE March 9, 2006.

A.2. 35th Annual meeting, Society for Neuroscience, November 12-16,Washington DC DIFFERENCES IN RESPONSE TO CHRONIC L-DOPA TREATMENT BETWEEN YOUNG AND OLDER RAT MODELS OF PARKINSON'S DISEASE T.Kimura, M.Tomiyama1, S.Osanai, F.Mori, K.Wakabayashi, K.Kannari1, M.Baba.

A.3. 35th Annual meeting, Society for Neuroscience, November 12-16,Washington DC REVERSIBLE HYPERTROPHY OF AXON TERMINALS IN MEDIAL GLOBUS PALLIDUS OF RAT MODEL OF L-DOPA-INDUCED DYSKINESIA M.Tomiyama, F.Mori, T.Kimura, K.Wakabayashi, M.Baba.

C.1. Murakami T, Kawarabayashi T, Kurata T, Nagai M, Inoue H, Moriwaki Y, Shoji M, Takahashi R, Abe K. Pael-R is accumulated in Lewy bodies of dementia with Lewy bodies and Parkinson's disease. 10th International Conference on Alzheimer's disease and related disorders. Madrid Spain, July 18, 2006.

C.2. Murakami T, Shoji M, Imai Y, Inoue H, Kawarabayashi T, Nagata T, Matsubara E, Nagano I, Harigaya Y, Sasaki A, Takahashi R, Abe K. Pael-R is accumulated in Lewy bodies of Parkinson's disease. 7th Internal conference AD/PD 2005, Sorrento, Italy, March 13, 2005.

C.3. Kawarabayashi T, Xu W, Shoji M, Matsubara, E, Deguchi, K, Murakami T, Takehisa Y, Nagata, T, Hayashi, T, and Abe K, Immune response to Aβ40 and tolerance to Aβ42 occur naturally without relationship to brain Aß burden 2005, November 5-11, Sydney.

C.4. Kawarabayashi T, Xu W, Shoji M, Matsubara, E, Deguchi, K, Murakami T, Takehisa Y, Nagata, T, Hayashi, T, and Abe K, Immune response to A 40 and tolerance to A 42 occur naturally without relationship to brain A burden. Neuroscience 2005, the Society for Neuroscience 35th Annual Meeting, 2005, Novermber12-16, Washington DC.

C.5. Baba M, Nukada H, Wada R, Yagihashi S: The effect of insulin on electrophysiological susceptibility to reperfusion INJURY in diabetic nerve. Meeting of the Peripheral Nerve Society, July 9-13, Il Ciocco, Italy, 2005.

C.6. Nukada H, McMorran D, Baba M, Wada R, Yagihashi S: Morphological susceptibility to ischemia/reperfusion in diabetic nerve. Meeting of the Peripheral Nerve Society, July 9-13, Il Ciocco, Italy, 2005.

C.7. Jin CY, Shen ZN, Baba M, Krarup C: Subclinical peroneal nerve injuly among Japanese People. Meeting of the Peripheral Nerve Society, July 9-13, Il Ciocco, Italy, 2005.

C.8. Kamijo M, Morishita S, Sakakibara T, Hashizume Y, Baba M: An autopsy case of critical illness polyneuropathy with septic meningoencephalopathy in diabetes mellitus. Meeting of the Peripheral Nerve Society, July 9-13, Il Ciocco, Italy, 2005.

C.9. Suzuki C, Tanosaki M, Kamijyo M, Baba M Adult onset ataxia and sensori-motor neuropathy: unusual manifestration of aprataxin gene mutation. 2005 Meeting of the Peripheral Nerve Society Hotel Il Ciocco, Tuscany, Italy, 2005

(2) 全国学術集会

2004年度

A.1. 馬場正之：ランチョンセミナー「神経内科からみためまい」. 第66回日本耳鼻咽喉科臨床学会学術講演会, 2004.6.11～12，青森市.

A.2. 馬場正之：教育講演「糖尿病性神経障害：診断と治療の実際」. 第46回日本老年医学学術集会，2004.6.17，千葉市.

A.3. 馬場正之：糖尿病性神経障害：診断と管理. 第54回日本病院学会学術集会，2004.7.4，横浜市.

A.4. 馬場正之：教育講演「神経伝導検査はいかに施行すべきか」. 第34回日本臨床神経生理学会学術大会, 2004.11.17～19, 東京.

B.1. 馬場正之：ワークショップ「Near Nerve Recording の実際」. 第34回日本臨床神経生理学会学術大会, 2004.11.17～19, 東京.

C. 15件

2005年度

A.1. 東海林幹夫：Alzheimer 病―最近の研究の進歩. 第1回 Nishinomiya Conference of Dementia Research, 2005, 9月8日，西宮市.

A.2. 東海林幹夫：認知症の早期診断，バイオマーカー；2005年度日本神経学会，北陸東海地区生涯教育講演会, 2006.1.7，名古屋市.

A.3. 馬場正之：基調講演「神経伝導検査の基礎理論」第２回日本臨床神経生理学会「神経筋電気診断講習会」, 都立神経科学研究所，2005年６月11日～12日.

A.4. 馬場正之：電気診断学における最近の進歩と臨床応用. 第17回日本リハビリテーション医学専門医学術集会，ぱるるプラザ青森，2005年10月22日.

A.5. 馬場正之：特別講演「糖尿病性神経障害：特に痛覚テストの重要性について」日本糖尿病学会中国四国地方会，かがわ国際会議場，高松市，平成17年11月11日.

A.6. 鈴木千恵子，馬場正之：ワークショップ「問題症例の神経伝導検査と筋電図：アキレス腱反射減弱を伴った30歳台の痴呆症例」. 第35回日本臨床神経生理学会学術大会　福岡市，2005年11月30日(水).

B.1. 東海林幹夫：脳アミロイドーシス. 1）Alzheimer 病，アミロイドーシスに関する研究班夏のワークショップ，2005，7月8日，金沢.

B.2. 東海林幹夫：脳アミロイドーシスとしてのアルツハイマー病：脳脊髄液・血液による診断，第52回日本臨床検査医学会総会，シンポジウム S4: アミロイド関連蛋白と検査医学2005, 11月18日，福岡.

B.3. 鈴木千恵子，馬場正之（弘前大学医学部神経内科）ワークショップ：問題症例の神経伝導検査と筋電図 アキレス腱反射減弱を伴った30歳台の痴呆例　第35回日本臨床神経生理学会学術大会　福岡国際会議場 2005.

C. 25件

Ⅲ．学術賞

2004年度

1. 神経伝達物質研究会優秀論文賞

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2004年度

他研究単位との研究分担者として

文基盤（C）「レボドーパ誘発ジスキネジアの発症機序」

2005年度

研究代表者として

文部科学省研究費補助金（基盤 B）　代表（東海林幹夫）

Alzheimer 病における Aβ，tau 蓄積および神経細胞死の治療法の開発（16390251，520万円）

他研究単位との研究分担者として

1）文部科学省科学研究費補助金（基盤 B）　分担（岡山大学阿部康二教授）
ALS の分子メカニズム解明と新規治療法開発の基礎的臨床的研究（15390273，310万円）

2）文部科学省研究費補助金（基盤Ｃ） 分担（岡山大学松原悦朗助手）
アルツハイマー病における脳内Aβクリアランス促進因子の同定と診断・治療への応用（16590829，170万円）

3）文部科学省研究費補助金（基盤Ｃ） 分担（群馬大学佐々木惇講師）
老化モデルトランスジェニックマウスにおけるミクログリア活性化の機構と役割（16500213，170万円）

（2）その他の省庁からの研究費

2004年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働省「末梢神経障害研究班」

2005年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働科学研究費補助金　分担（金沢大学山田正仁教授），特定疾患対策研究事業，アミロイドーシスに関する調査研究（140万円）

厚生労働省神経難病研究委託費「難治性ニューロパチーの診断と治療に関する研究」（70万円）

（3）学内の研究助成

2004年度

他研究単位との研究分担者として

学長指定重点研究「機能性神経疾患」

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，研究生の受け入れ状況

2004年度　２名

2005年度　１名

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

2004年度

馬場正之：「第1回日本臨床神経生理学会神経筋電気診断セミナー」，東京都

松永宗雄，馬場正之：「第9回日本神経感染症学会」，弘前市

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

馬場正之：「第３回青森県重症筋無力症研究会」，青森市
馬場正之：「第２回青森県多発性硬化症研究会」，青森市
馬場正之：「第15回北奥羽神経内科懇話会」，秋田県小坂町
馬場正之：「第７回青森県神経免疫研究会」，青森市
馬場正之：「第17回青森県ニューロトランスミッター研究会」，青森市
馬場正之：「第３回青森県脳卒中フォーラム」，青森市

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

42. 細胞工学部門　（資料なし）

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

これから２年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2004年度

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

和文

（2）総説

英文

和文

（3）著書

英文

和文

（4）その他

英文

和文

（5）発表論文のまとめ

１．原著，総説（A，Bのみ）

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Total		0	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
計	0	0

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

３．その他（A，B のみ）

英文

和文

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

（2）全国学術集会

Ⅲ．学術賞

Ⅳ．共同研究

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

（2）その他の省庁からの研究費

（3）学内の研究助成

（4）民間の研究助成

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

f）その他

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

b）地方レベルの学会の主催

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

Ⅶ．その他

43. 附属動物実験施設

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

前回目標に掲げた技官を中心とした感染症防御の強化はまだ不十分である。ラットのクリーン化に伴う交配適期の確立，帝王切開手術，系統維持法などは確立された。動物施設を真の研究支援組織として確立する目標はまだ不十分であり，全体としての目標達成率は約６割である。

理念：

質の高い動物実験を継続的に行うためには実験施設のハード，ソフト両面の質を上げるのみでなく，実験者が今社会で動物実験がおかれている状況を理解し，さらに動物実験に対する社会の理解を得る必要がある。そのためには実験者を含めた動物実験関係者の教育をさらに充実する必要がある。

このような状況における動物実験施設の役割として，大学あるいは動物実験委員会が行う教育に参加し，これを全面的にバックアップするとともに，施設職員のレベルアップを図り，さらに質の高いサービスを実験者に提供しなければならない。

これから２年間の目標：

上記の目標を達成するため，施設職員の感染症防御に対する教育，動物実験が社会でおかれている状況の把握，関連法律の教育，遺伝子操作動物の飼育技術教育，実験動物技術の教育などを行い，動物施設を真の研究支援組織として確立したい。実験者に対する教育は大学当局と連携しながら充実を図る。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　0，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	蔵田　潔	1年
	助教授	専　任	八木澤　誠	1年
	助　手	専　任	石田　邦夫	1年
研究課題	1．実験動物に及ぼす環境要因 2．抗腫瘍性を有する機能性食品の開発 3．イヌに代わる家畜用ブタの実験動物としての飼育管理の検討 4．他機関より導入される遺伝子組換え動物からの感染症防御のための検疫強化の検討			

2005年度

研究人員	教授　0，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	施設長	併　任	蔵田　潔	1年
	助教授	専　任	八木澤　誠	1年
	助　手	専　任	石田　邦夫	1年
研究課題	1．実験動物に及ぼす環境要因 2．イヌに代わる家畜用ブタの実験動物としての飼育管理の検討			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

B.1. Sato H, Ishita K, Osanai A, Yagisawa M, Kamiya H and Ito M: T cell-dependent elimination of dividing *Trypanosoma grosi* from the bloodstream of Mongolian jirds Parasitology. 2004;128:295-304.

和文

2004年度

B.1. 北　　武，丹野高三，黒田直人，石田邦夫，北　　均：Sandwich Dot－ELISA法によるヒト精液の証明（Ⅱ）．法医学の実際と研究　2004;47:173～178.

（2）総説

なし

（3）著書

なし

（4）その他

なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Parasitology	1.944	1	1.944
Total		1	1.944

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
法医学の実際と研究	1	0
計	1	0

2．著書数（A，Bのみ）

なし

3．その他（A，Bのみ）

なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

なし

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

八木澤誠，日本実験動物技術者協会奥羽支部　平成14年度総会および講演会，弘前市

2005年度

八木澤誠，日本実験動物技術者協会奥羽支部　平成15年度総会および講演会，弘前市

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

44. 附属高度先進医学研究センター

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

教員，大学院生とともに，学術的に意義のある，さらに国際的な評価を得られるような研究を行う。
国内外の共同研究を積極的に行い，幅広い研究を進める。
研究活動を通じ，教室員の研究能力を高めるとともに，優れた倫理感を持った研究者の育成に努める。

これから２年間の目標：

・各研究員がそれぞれ筆頭著者として海外学術誌に年１報以上論文を発表する。
・国際学会，全国大会レベルの学会等で各研究員が年１回以上発表を行う。
・各研究員がそれぞれ研究代表者として科学研究費に１件以上採択される。
・ 弘前大学医学部の各研究室との共同を通して，競争力のある基礎研究を進めていく。

【研究人員及び研究課題】

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助手　2，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	伊東　　健	2006.1.16 ～ 2006.3.31
	助　手	専　任	細谷　朋方	2006.2.16 ～ 2006.3.31
	助　手	専　任	丸山　敦史	2006.3.16 ～ 2006.3.31
研究課題	１．転写因子 Nrf2の神経防御における役割の解析 ２．酸化ストレスによる遺伝子発現制御の解析 ３．Nrf2の細菌感染防御における役割の解析 ４．Nrf2による CD36の発現調節とその生理的機能 ５．ヘムオキシゲナーゼによる炎症防御の解析 ６．転写因子 Nrf2の転写活性化機構の解析			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2005年度

C.1. Mochizuki M, Ishii Y, Itoh K, Iizuka T, Morishima Y, Kimura T, Kiwamoto T, Matsuno Y, Hegab AE, Nomura A, Sakamoto T, Uchida K, Yamamoto M, Sekizawa, K: Role of 15-deoxy-D^{12,14} Prostaglandin J2 and Nrf2 pathways in protection against acute lung injury. Am J Respir Crit Care Med 2005;171:1260-66.

C.2. Hirota A, Kawachi Y, Itoh K, Nakamura Y, Xu X, Banno T, Takahashi T, Yamamoto M, Otsuka, F. Ultraviolet A irradiation induces NF-E2-related factor 2 activation in dermal fibroblasts: protective role in UVA-induced apoptosis. J Invest Dermatol 2005;124:825-32.

C.3. Usami H, Kusano Y, Kumagai T, Osada S, Itoh K, Kobayashi A, Yamamoto M, Uchida K: Selective induction of a tumor marker glutathione S-transferase P1 by proteasome inhibitors. J Biol Chem 2005;280:25267-76.

C.4. Zhu H, Itoh K, Yamamoto M, Zweier JL, Li Y: Role of Nrf2 signaling in regulation of antioxidants and phase 2 enzymes in cardiac fibroblasts: Protection against reactive oxygen and nitrogen species-induced cell injury. FEBS Lett 2005;579:3029-36.

C.5. Hosoya T, Maruyama A, Kang MI, Kawatani Y, Shibata T, Uchida K, Warabi E, Noguchi N, Itoh K, Yamamoto, M: Differential responses of the Nrf2-Keap1 system to laminar and oscillatory shear stresses in endothelial cells. J Biol Chem 2005;280:27244-50.

C.6. Ishii Y, Itoh K, Morishima Y, Kimura T, Kiwamoto T, Iizuka T, Hegab AE, Hosoya T, Nomura A, Sakamoto T, Yamamoto M, Sekizawa K: Transcription factor Nrf2 plays a pivotal role in protection against elastase-induced pulmonary inflammation and emphysema. J. Immunol. 2005;175:6968-75.

C.7. Uwayama J, Hirayama A, Yanagawa T, Warabi E, Sugimoto R, Itoh K, Yamamoto M, Yoshida H, Koyama A, Ishii T: Tissue Prx I in the protection against Fe-NTA and the reduction of nitroxyl radicals. Biochem Biophys Res Commun 2005;339:226-31.

C.8. Iizuka T, Ishii Y, Itoh K, Kiwamoto T, Kimura T, Matsuno Y, Morishima Y, Hegab AE, Homma S, Nomura A, Sakamoto T, Shimura M, Yoshida A, Yamamoto M, Sekizawa K: Nrf2-deficient mice are highly susceptible to cigarette smoke-induced emphysema. Gene Cells 2005;10:1113-25.

C.9. Umemura, T, Kuroiwa, Y, Kitamura, Y, Ishii, Y, Kanki, K, Kodama, Y, Itoh, K, Yamamoto, M, Nishikawa, A and Hirose, M: A Crucial role of Nrf2 in in vivo defense against oxidative damage by an environmental pollutant, pentachlorophenol. Toxicol Sci 2005;90:111-9.

C.10. Uwayama J, Hirayama A, Yanagawa T, Warabi E, Sugimoto R, Itoh K, Yamamoto M, Yoshida H, Koyama A, Ishii T: Tissue Prx I in the protection against Fe-NTA and the reduction of nitroxyl radicals. Biochem Biophys Res Commun. 2006;339:226-31.

C.11. Tauchi M, Hida A, Negishi T, Katsuoka F, Noda S, Mimura J, Hosoya T, Yanaka A, Aburatani H, Fujii-Kuriyama Y, Motohashi H, Yamamoto M: Constitutive expression of aryl hydrocarbon receptor in keratinocytes causes inflammatory skin lesions. Mol Cell Biol. 2005;25:9360-9368.

和文　なし

（2）総説

英文

2005年度

C.1. Yanagawa T, Itoh K, Ishii T. Protective roles of Nrf2 in disease including oral disease. J Oral Sci. 2005;47:126-34.

C.2. Itoh K, Yamamoto M. Regulatory role of the COX-2 pathway in the Nrf2-mediated antiinflammatory response. J Clin Biochem Nutri. 2005;47:126-34.

和文

2005年度

C.1. 丸山敦史，伊東　健：Nrf2による酸化ストレス応答．医学のあゆみ別冊　2005,147-50.

C.2. 伊東　健：Nrf2/Keap1を介した酸化ストレス防御機構，生化学　2006;78:79-92.

（3）著書

なし

（4）その他

なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

なし

2．著書数（A，Bのみ）

なし

3．その他（A，Bのみ）

なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2005年度

C.1. Itoh K, Zhang J, Ohta T, Nishikawa K, Maruyama A, Hosoya T, Yamamoto M: Chromatin remodeling factor BRG1 is essential for NRF2-mediated hemeoxygenase 1 induction by oxidative stress. Mechanism of eukaryotic transcription (Cold Spring Harbor) 2005.

（2）全国学術集会

2005年度

C.　4件

Ⅲ．学術賞

2005年度

平成17年度文部科学大臣表彰若手科学者賞
伊東　健．遺伝子発現制御分野における酸化ストレス応答機構の研究

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

45. 小児外科

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

小児外科の現人員から，主眼は多忙な診療と学部教育（臨床実習，系統別講義，等）に置かざるを得ず，研究面での到達度は満足できるものではなかった。

理念：

小児外科疾患に対する日常診療の中から未解決の問題点を研究課題とし，それを最新技術を用いて解明し，結果的に患者の QOL に貢献する。

これから２年間の目標：

１）超音波画像解析による小児肝胆道系疾患の病態解明

２）QOL を目指した鏡視下手術の開発

【研究人員及び研究課題】

2004 年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	棟方　博文	７年
	講　師	専　任	須貝　道博	３年
研究課題	１．先天性横隔膜ヘルニアの病態解明に関する基礎的研究 ２．胆道閉鎖症の病因・病態解明に関する基礎的・臨床的研究 ３．小児外科疾患に対する超音波診断学 ４．QOL を目指した手術法の開発			

2005 年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	棟方　博文	１年
	講　師	専　任	須貝　道博	１年
研究課題	１．先天性横隔膜ヘルニアの病態解明に関する基礎的研究 ２．胆道閉鎖症の病因・病態解明に関する基礎的・臨床的研究 ３．小児外科疾患に対する超音波診断学 ４．QOL を目指した手術法の開発			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文　なし

和文

2004 年度

A.1. 須貝道博，村田希吉，棟方博文：胸骨後ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術．小児外科　2004;36:676-681.

A.2. 須貝道博，石戸圭之助，棟方博文：小児消化管出血例の診断と治療．日本腹部救急医学誌 2005;25(1):23-27.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 棟方博文，石戸圭之助，須貝道博：小児外科手術に役立つ材料，器具，装置―ドレーン．小児外科 2004;30:1024-1028.

2005年度

A.1. 棟方博文，須貝道博，梅原　実：こどもの病気 Frequently Asked Questions（FAQ）　鼠径ヘルニアについて：対側発現の可能性と予知方法，対側手術の必要性は？　小児外科　2006;3:339-341.

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 須貝道博，村田希吉，棟方博文，高橋良博，伊藤悦郎：小児胸壁原発 Ewing/PNET 腫瘍群３例の検討．小児がん　2004;41:94-100.

A.2. 棟方博文，山崎洋次：日常遭遇する小児外科疾患への対応策．Medical Tribune　2004;37(45):4.

2005年度

A.1. 石戸圭之助，須貝道博，佐々木睦男，棟方博文：急性腹症をきたした感染性腹膜嚢胞の１小児例．日本臨床外科学会誌　1005;66:2315-2320.

A.2. 須貝道博，木村憲央，石戸圭之助，棟方博文，袴田健一，佐藤　宏，神谷晴夫：肺病巣を伴った小児肝多包虫症の１例．日本小児外科学会雑誌　2005;41:237-242.

（5）発表論文のまとめ

１．原著，総説（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　誌　名	2004年度	2005年度
小児外科	2	
日本腹部救急医学誌	1	1
計	3	1

２．著書数（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　誌　名	2004年度	2005年度
小児がん	1	
Medical Tribune	1	
日本臨床外科学会誌		1
日本小児外科学会誌		1
計	2	2

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Sugai M, Murata K, Endoh M, Hada R, Munakata H: Hepatic artery hemodynamics in biliary atresia patients

as revealed duplex Doppler system. 50th AIUM Annual Convension 2004/4/20-22 Phoenix

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 棟方博文：特別講演「小児外科の現状と今後の展望」，第15回日本小児口腔外科学会総会，平成16年10月９日，弘前市.

A.2. 棟方博文：コメンテーター，第４回青森県周産期医療シンポジウム「かけがいのない小さな命を救うために～青森県周産期医療システムの運用開始に当たって～」，平成16年９月23日，青森市.

B.1. 石戸圭之輔，須貝道博，棟方博文：ワークショップ４，消化管出血に対する非手術的治療：小児消化管出血症例の非手術的治療の検討．第41回日本腹部救急医学会総会，平成17年３月10日～11日，名古屋.

C. ５件

2005年度

B.1. 須貝道博，石戸圭之助，棟方博文：ワークショップ８，小児腫瘍に対する外科的挑戦の評価，小児悪性固形腫瘍再発例に対する外科的治療の検討．第105回日本外科学会定期学術集会，平成17.5.11～13(名古屋).

B.2. 須貝道博，加藤雅志，棟方博文：パネルディスカッション３，小児腸重積症の治療：あなたならどうしていますか？　小児腸重積症に対する診断と治療．第42回日本腹部救急医学会総会，平成18.3.9～10(東京).

C. 10件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

第34回青森県周生期医療研究会，平成16年12月18日，青森市

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

46. 薬剤部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

種々の薬物間相互作用，飲食物と薬物の相互作用，健康食品と薬物との相互作用など，薬物代謝酵素，P- 糖タンパクを中心とした酵素の遺伝多型との関連性を検討し成果を収めた。

また，業務を中心とした研究では，薬剤管理指導業務，TDM 業務での進展が見られた。

理念：

薬剤部自体が，附属病院において良質で適正な医療を患者様に提供する上で重要な任務を担っている部署であることを常に認識し，医療にフィードバックできる研究を推進する。

これから２年間の目標：

現在継続している研究をさらに発展させる。

各種疾患での良好なバイオマーカー検索を行い，薬物療法による治療効果の新たな判定法を検討し，医療へ貢献する。

薬剤管理指導業務，TDM 業務に関する研究をさらに発展させる。

【研究人員及び研究課題】

2004 年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	菅原　和信	20年
研究課題	1．薬理学的・薬剤学的薬物相互作用に関する研究 2．プロトンポンプ阻害薬の遺伝子多型と体内動態および相互作用に関する研究 3．疾患時における TDM（Therapeutic Drug Monitoring）に関する研究 4．薬剤管理指導時における問題点に関する研究			

2005 年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	菅原　和信	20年
研究課題	1．薬理学的・薬剤学的薬物相互作用に関する研究 2．ジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬の体内動態と相互作用に関する研究 3．向精神薬の体内動態と臨床効果に関する研究 4．薬物代謝酵素の遺伝子多型か？薬理効果と体内動態に及ぼす影響の研究 5．In vitro における薬物代謝に関する研究 6．薬剤の母乳への移行に関する研究 7．薬剤管理指導時における問題点に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004 年度

A.1. Uno T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T: Determination of lansoprazole and two of its metabolites by liquid-liquid extraction and automated column-switching high-performance liquid chromatography : application to measuring CYP2C19 activity. J Chromatogr 2005;B816:309-14.

B.1. Yasui-Furukori N, Saito M, Uno T, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T: Effects of fluvoxamine on lansoprazole

pharmacokinetics in relation to CYP2C19 genotypes. J Clin Pharmacol 2004;44:1223-9.

B.2. Miura M, Tada H, Yasui-Furukori, Uno T, Sugawara K, Tateishi T, Suzuki T: Pharmacokinetic differences between the enantiomers of lansoprazole and its metabolite, 5-hydroxylansoprazole, in relation to CYP2C19 genotypes. Eur J Clin Pharmacol 2004;60:623-8.

B.3. Yasui-Furukori N, Uno T, Sugawara K, Tateishi T: Different effects of three transporting inhibitors, verapamil, cimetidine, and probenecid, on fexofenadine pharmacokinetics. Clin Pharmacol Ther 2005;77:17-23.

B.4. Saito M, Yasui-Furukori N, Uno T, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T: Effects of clarithromycin on lansoprazole pharmacokinetics between CYP2C19 genotypes. Br J Clin Pharmacol 2005;59:302-9.

2005年度

B.1. Uno T, Ohkubo T, Motomura S, Sugawara K: Effect of grapefruit juice on the disposition of manidipine enantiomers in healthy subjects. Br J Clin Pharmacol, 2006;61:533-7.

B.2. Uno T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T: Lack of significant effect of grapefruit juice on the pharmacokinetics of lansoprazole and its metabolites in subjects with different CYP2C19 genotypes. J Clin Pharmacol. 2005;45:690-4.

B.3. Uno T, Yasui-Furukori N, Shimizu M, Sugawara K, Tateishi T: Determination of rabeprazole and its active metabolite, rabeprazole thioether in human plasma by column-switching high-performance liquid chromatography and its application to pharmacokinetic study. J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 2005;824:238-43.

B.4. Uno T, Shimizu M, Yasui-Furukori N, Sugawara K, Tateishi T: Different effects of fluvoxamine on rabeprazole pharmacokinetics in relation to CYP2C19 genotype status. Br J Clin Pharmacol, 2006;61:309-14.

B.5. Shimizu M, Uno T, Niioka T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T: Sensitive determination of omeprazole and its two main metabolites in human plasma by column-switching high-performance liquid chromatography: application to pharmacokinetic study in relation to CYP2C19 genotypes. J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci, 2006;832:241-8.

B.6. Shimizu M, Uno T, Sugawara K, Tateishi T: Effects of itraconazole and diltiazem on the pharmacokinetics of fexofenadine, a substrate of P-glycoprotein. Br J Clin Pharmacol, 2006;61:538-544.

B.7. Miura M, Tada H, Yasui-Furukori N, Uno T, Sugawara K, Tateishi T, Suzuki T: Effect of clarithromycin on the enantioselective disposition of lansoprazole in relation to CYP2C19 genotypes. Chirality. 2005;17:338-44.

B.8. Miura M, Tada H, Yasui-Furukori N, Uno T, Sugawara K, Tateishi T, Suzuki T: Enantioselective disposition of lansoprazole in relation to CYP2C19 genotypes in the presence of fluvoxamine. Br J Clin Pharmacol. 2005;60:61-8.

和文

2004年度

A.1. 岡村祐嗣，宇野　司，葛西　猛，福沢百合子，井上文緒，秋元広之，安田文子，藤田祥子，須藤明子，保嶋　実，菅原和信：市販アルコール綿（エタコット®）の適正使用について―当院臨床分離株を用いた滅菌率試験による検討―．医療薬学　2004;30:679-84.

A.2. 新岡丈典，細井一広，小島佳也，保嶋　実，菅原和信：母集団パラメータと Bayesian 法による teicoplanin トラフ濃度の予測精度評価．医薬品相互作用研究　2005;28:3-12.

2005年度

A.1. 佐藤淳也，藤田祥子，菅原和信：外来化学療法における薬剤業務の確立と薬剤師の役割．医薬品相互作用研究　29(4):107-114,2006.

A.2. 新岡丈典，菅原和信：成人患者におけるテイコプラニンの投与計画．医薬品相互作用研究　29(4):127-133,2006.

A.3. 佐藤淳也，藤田祥子，菅原和信：外来化学療法室における薬剤師・看護師の活動と患者満足度の調査．日病薬誌　42(3):359-362.2006.

A.4. 佐藤淳也，藤田祥子，菅原和信：外来化学療法における薬剤師の役割～一人薬剤師の安全性確保と医療経済性～．薬事新報　No.2420:484-489,2006.

A.5. 佐藤淳也：臨床現場で遭遇した抗癌剤使用の問題点―外来化学療法室専任薬剤師の立場から―．医薬品相互作用研究　29(3):79-80,2005.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 菅原和信：慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）治療薬と患者への説明．薬局　2004;55:921-39.

A.2. 菅原和信：授乳中の薬剤投与．日本医事新報　2004;No.4173:93-4.

A.3. 新岡丈典，菅原和信：薬剤師業務の展望―新しい薬剤師像に向けて―．薬剤管理指導業務の質と量．医薬品相互作用研究　2004;28:43-4.

A.4. 新岡丈典，菅原和信：MRSA 患者における抗菌薬の TDM．化学療法の領域　2004;20:1848-55.

A.5. 菅原和信：薬剤の催奇形性と投与時期における影響．臨床婦人科産科　2005;59:391-3.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1.　佐藤淳也，菅原和信：医薬品の管理．中島恵美編，臨床調剤学［改訂第３版］，p.177-203，エルゼビア・ジャパン，東京，2005．

2005年度

A.1.　佐藤淳也，菅原和信：医薬品の管理．臨床調剤学［改訂版３版］（中島恵美編）p.177-203，エルゼビア・ジャパン，東京（2005）

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

１．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Chromatogr B	2.085	1	2.085
J Clin Pharmacol	1.945	1	1.945
Eur J Clin Pharmacol	1.972	1	1.972
Clin Pharmacol Ther	6.141	1	6.141
Br J Clin Pharmacol	2.531	1	2.531
Total		5	14.674

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Br J Clin Pharmacol.	2.546	4	10.184
J Clin Pharmacol.	2.273	1	2.273
J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci	2.176	2	4.352
Chirality	1.976	1	1.976
Total		8	18.785

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
医薬品相互作用研究	2	3
医療薬学	1	
薬局	1	
日本医事新報	1	
化学療法の領域	1	
臨床婦人科産科	1	
日病薬誌		1
薬事新報		1
計	7	5

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	1	0

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2004年度

C.　14件

2005年度

B.1.　佐藤淳也：臨床現場で遭遇した抗癌剤使用の問題点．第60回医薬品相互作用研究会シンポジウム，仙台，平成17年７月．

B.2.　新岡丈典，菅原和信：母集団パラメータによるテイコプラニントラフ濃度予測評価．第60回医薬品相互作用研究会シンポジウム．仙台，平成17年７月．

B.3.　佐藤淳也：癌化学療法と薬剤師の役割．第６回青森県臨床薬学研究会，青森，平成17年６月．

B.4.　佐藤淳也：弘前大学医学部附属病院における外来化学療法室業務の確立と薬剤師の役割．第２回東北臨床腫瘍セミナー，青森，平成17年11月．

C.　８件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2005年度

第18回医療薬学公開シンポジウム，青森市

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

47. 手術部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：
ほぼ到達できた。

理念：
患者の安全推進を維持する。

これから２年間の目標：
患者の安全推進に直結する研究を維持発展させる。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	佐々木睦男	1年間
	助教授	専　任	坂井　哲博	1年間
研究課題	1．麻酔薬の遺伝子誘導 2．手術室内の感染予防			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	部　長	併　任	佐々木睦男	1年
	副部長	専　任	坂井　哲博	1年
研究課題	1．麻酔のメカニズム 2．麻酔中のモニタリング 3．医療安全教育			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文　なし

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1.　坂井哲博：閉塞性動脈硬化症患者の麻酔　LISA 11,272-5,2003
A.2.　坂井哲博：静脈麻酔法　青森県医師会報　495,543-4,2004

2005年度

A.1.　坂井哲博：セボフルランには鎮痛作用はあるか　臨床麻酔　2006.30.838-9

（3）著書

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 坂井哲博：医師からみたME機器保守管理のあり方，釘宮豊城　編，ヒューマンファクターからみた医療安全，108-117，真興交易医書出版部，東京，2005

A.2. 坂井哲博：静脈麻酔薬の適切な併用，渋谷欣一，バランス麻酔最近の進歩，95-102，克誠堂出版，東京，2005

A.3. 坂井哲博：手術中の輸液療法，稲田英一，周術期の輸液輸血療法　麻酔科診療プラクティス18，13-15，文光堂，東京，2005

A.4. 坂井哲博：麻酔中のモニタリング，天羽敬祐，麻酔科学レビュー2006，94-98，総合医学社，東京，2006

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
LISA	1	
青森県医師会報	1	
臨床麻酔		1
計	2	1

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	4

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

B.1. Sakai T: New Safety Oriented Curricula for Residents in Anesthesiology 8th America-Japan Anesthesia Congress Hawaii March 2005

2005年度

C.1. Niwa H, Sakai T: cDNA microarray analysis of the differential gene expression by intravenous and inhaled anesthetics, 56th American Society of Anesthesiologists, Atlanta, 2005

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. 坂井哲博：麻酔導入時におけるβ1ブロッカーの中枢神経系に対する作用―新しい脳波解析モニターを用いた検討―．第9回青森県周術期研究会，2004

B.2. 坂井哲博：麻酔科医養成のありかた．第50回日本麻酔科学会，2003

B.3. 坂井哲博：医師から見たME機器の保守管理のありかた．第15回日本臨床モニター学会，東京，4月，2004

C.　6件

2005年度

A.1. 坂井哲博：安全指向型麻酔科研修医教育：画像を活用した技能教育，第25回日本臨床麻酔学会，大阪，2005

B.1. 坂井哲博：もはや全身麻酔に笑気は不要か―笑気使用中止後16年を経過して―，第25回日本臨床麻酔学会，大阪，2005

C. 6件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

48. 検査部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：
英文論文の発表は不十分であったが，今後の発表を行うための基礎的研究の蓄積は概ね達成できた。

理念：
糖尿病および臨床検査の研究を通じて，臨床に有益な知見を見出す。

これから２年間の目標：
１年に１本は英文の論文を発表する。国内の学術集会にて積極的に研究発表を行うと共に海外での学術集会にて毎年発表を行う。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　0，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	講　師	専　任	杉本　一博	１年
研究課題	１．糖尿病性細小血管障害の成因におけるインスリン作用異常の役割 ２．糖尿病性神経障害の臨床診断と評価法の検討			

2005年度

研究人員	教授　0，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	講　師	専　任	杉本　一博	３年
研究課題	１．糖尿病性細小血管障害の成因におけるインスリン作用異常の役割 ２．糖尿病性神経障害の臨床診断と評価法の検討			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Sugimoto K, Shoji M, Yasujima M, Suda T, Yagihashi S: Peripheral nerve endoneurial microangiopathy and necrosis in rats with insulinoma. Acta Neuropathol (Berl). 2004 108(6):503-514

和文

2005年度

A.1. 小野有希，杉本一博，後藤麻希，木村正彦，葛西　猛，庄司　優，保嶋　実：糖尿病患者における血尿と尿中 acanthocyte．臨床病理　2005:53(11):993-998

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 杉本一博：糖尿病の危険性（1)(2)．生活習慣病レター　2004:No9（1)(2)

（3）著書

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 杉本一博，保嶋　実，八木橋操六：神経障害治療薬の選択と使い方，監修；河盛隆造，編集；山岸昌一，ファーマナビゲーター糖尿病編，pp166-179，メディカルレビュー社，東京，2005

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Acta Neuropathol (Berl)	2.5	1	2.5
Total		1	2.5

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
生活習慣病レター	1	
臨床病理		1
計	1	1

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	1

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

A.1. Sugimoto K, Keiko Saito, Masayuki Baba, Toshihiro Suda, Masaru Shoji, Minoru Yasujima: Ankle reflex and vibration sensation in Japanese subjects with type 2 diabetes for a simple screening of diabetic neuropathy. Florida, USA. 64rd Scientific sessions of the American Diabetes Association, June 4-8,2004

A.2. Sugimoto K, Masaru Shoji, Minoru Yasujima, Toshihiro Suda, Soroku Yagihashi: Systematic morphological evaluation of peripheral sensory and motor nerve fibers and endoneurial microvasculature in rats with insulinoma: evidence for sciatic nerve endoneurial infarction. 40th Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes. Budapest, Munich. 7rd September, 2004

2005年度

A.1. Sugimoto K, Masayuki Baba, Toshihiro Suda, Masaru Shoji, Minoru Yasujima: Long-term administration of moderate amounts of insulin increases motor and sensory nerve conduction velocities in non-diabetic Wistar rats. San Diego, USA. 65rd Scientific sessions of the American Diabetes Association, June 10-14, 2005

（2）全国学術集会

2004年度

A.1. 杉本一博，庄司　優，大和一美，柳町　幸，松井　淳，丹藤雄介，小川吉司，玉澤直樹，須田俊宏，保嶋　実：２型糖尿病患者における心拍数変動と血清コレステロール値との相関：冠動脈疾患の合併の有無による差異―第47回日本糖尿病学会年次学術集会，東京国際フォーラム，平成16年５月13日

A.2. 庄司　優，杉本一博，工藤良子，Hasan N. Kazi，蔦谷昭司，松田絵理子，保嶋　実：インスリン非依存性糖尿病における血小板活性化能の検討―第51回日本臨床検査医学会総会，京王プラザホテル，平成16年９月５日

2005年度

A.1. 杉本一博，小野有希，庄司　優，須田俊宏，保嶋　実：糖尿病患者における血尿と尿中 acanthocyte ―第48回日本糖尿病学会年次学術集会，神戸国際展示場，平成17年５月13日

A.2. 杉本一博，Rashid Irena，小島佳也，須田俊宏，庄司　優，保嶋　実：１型糖尿病ラットモデルにおける痛覚異常と末梢神経内インスリン受容体発現の解析．第52回日本臨床検査医学会総会，福岡国際会議場，平成17年11月19日

A.3. Hassan Kadi Nadim，庄司　優，杉本一博，蔦谷昭司，松田絵理子，工藤良子，保嶋　実：Association of vasopressin Va1 receptor polymorphisms with non-insulin dependent diabetes mellitus ―第52回日本臨床検査医学会総会，福岡国際会議場，平成17年11月19日

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2005年度

研究代表者として

学術国際振興基金

（4）民間の研究助成

2004年度

研究代表者として

青森医学振興会助成金

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

(2) 国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

49. 放射線部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：
放射線部技官の自己評価であり，特に設定はしていなかった。

理念：
日常診療を確実に行なうこと，診療上の創意工夫を常に意識すること，この基本の延長線上に優れた研究があることを銘記し，実行することを理念とする。

これから２年間の目標：
新しい診療装置に対する確実な診療技術の取得を第一の目標とし，さらに技術を発展させ，成果を着実に公表する。

【研究人員及び研究課題】

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文　なし

和文

2004年度

A.1.　木村　均：CT Angio 装置 ACT の６年間，東北循環器撮影研究会誌　No.15,58-62,2004

A.2.　金　正宜他：心臓カテーテル検査施行医師の被ばく線量の検討　経橈骨動脈アプローチと経大腿動脈アプローチの比較，心臓　vol.36,No10,667-672,2004

A.3.　金　正宜他：ガラス線量計の基礎的性能　―診断領域の応用―，FB News　No.337,2-9,2005

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

１．原著，総説（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
東北循環器撮影研究会誌	1	
心臓	1	
FB News	1	
計	3	0

２．著書数（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2004年度

C.　1件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

金　正宜：「診断領域における小型ガラス素子線量計の方向特性（特に軸方向）の改善について」

2005年度

研究代表者として

金　正宜：「X 線装置の日常管理を目的としたガラスバッジの測定器としての基礎的性能の検討」 760（単位：千円）

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

2004年度

文部科学省全国国立大学放射線技師研修会（オータムセミナー）（弘前市，10.28-30.2004）
大会長　工藤亮裕

b）地方レベルの学会の主催

2004年度

第41回東北循環器撮影研究会（青森市，11.14.2004）　担当幹事　木村　均

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

50. 輸血部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

これから２年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　0，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	副部長講師	専　任	木村あさの	1年間
研究課題	1．安全で効果的な輸血 2．輸血副作用 3．適正な業務量			

2005年度

研究人員	教授　0，助教授　0，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
研究課題				

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文　なし

和文　なし

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

2．著書数（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学術集会での発表

(1) 国際学術集会

なし

(2) 全国学術集会

なし

Ⅲ．学術賞

2004年度

木村あさの：日本輸血学会東北支部平成16年度功労賞受賞

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

51．集中治療部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：
ほぼ到達した。

理念：
常に診療技術の向上に努めながら，教育と研究に従事する。

これから２年間の目標：
臨床に基づいた研究テーマを持ち，継続した研究を行う。
臨床経験を症例報告として発表し，自己の臨床技術の整理と発展に努める。
年１回以上の国際学会とできるだけ多くの国内学会への参加，発表を目標とする。
年１編以上の英語の論文と２編以上の邦文の論文を発表する。
海外の研究者と連絡を密に取り，共同研究を行う。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	廣田　和美	2004.9.1 ～ 2005.3.31
	講　師	専　任	坪　敏仁	2004.4.1 ～ 2005.3.31
	助　手	専　任	大川　浩文	2004.4.1 ～ 2005.3.31
研究課題	１．経食道エコーの重症患者における応用 ２．集中治療における血液浄化法について			

2005年度

研究人員	教授　0，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	廣田　和美	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	助教授	専　任	坪　敏仁	2005.4.1 ～ 2006.3.31
	助　手	専　任	橋場　英二	2005.5.1 ～ 2006.3.31
研究課題	１．経食道エコーと呼吸機能 ２．経食道心エコーを用いた周術期の循環器系の評価 ３．ウロテンシンⅡの生理活性作用の検討 ４．ノシセプチンの新しい鎮痛薬としての可能性の検討			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Tsubo T, Yatsu Y, Tanabe T, Okawa H, Ishihara H, Matsuki A: Evaluation of density area in dorsal lung region during prone position using transesophageal echocardiography. Crit Care Med 2004;32:83-87

B.1. Rose BO, Ishihara H, Okawa H, Panning B, Piepenbrock S, Matsuki A: Repeatability of measurements of the initial distributin volume of glucose inhaemodynamically atable patients. J Clin Pharm Ther 2004;29:317-323

B.2. Ishihara H, Okawa H, Tanabe T, Tsubo T, Sugo Y, Akiyama T, Takeda S: A new non-invasive continuous cardiac output trend solely utilizing routine cardiovascular monitors. J Clin Monit and Comput 2004;18:313-320

B.3. Nakamura H, Ishihara H, Okawa H, Yatsu Y, Tsubo T, Matsuki A: Initial distributon volume of glucose is correlated with intrathoracic blood volume in hypovolemia and following volume loading in dogs. Eur J

Anaesthesiol 2005;22:202-208

B.4. Ishihara H, Nakamura H, Okawa H, Takase H, Tsubo T, Hirota K: Initial distribution volume of glucose can be approximated using a conventional glucose analyzer in the intensive care unit. Crit Care 2005;9:R144-1491

2005年度

B.1. Ishihara H, Nakamura H, Okawa H, Yatsu Y, Tsubo T, Hirota K: Comparison of initial distribution volume of glucose and Intrathoracic Blood Volume During Hemodynamically Unstable States Early After Esophagectomy. Chest 2005;128(3):1713-1719

和文

2004年度

B.1. 石原弘規，中村仁美，大川浩文，坪　敏仁，松木明知：ICG パルス式色素希釈法による中心部血液量は熱希釈法による胸郭内血液量と同等か？ 体液・代謝管理　20:53-56;2004

2005年度

A.1. 坪　敏仁：持続血液透析がエンドトキシン ARDS 肺に及ぼす影響．ICU と CCU　2006;30:S156-S157

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文

2004年度

B.1. Totsuka E, Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Umehara Y, Okawa H, Tsubo T, Ishihara H, Yoshihara S, Eondoh M, Morita T Sasaki M: Hepatic Vein Anastomotic Stricture After Living Donor Liver Transplantation. Transplant Proc 2004;36:2252-2254

和文

2005年度

B.1. 廣田和美：SAM による循環虚脱に対し塩酸ランジオロール少量投与が有効であった 1 症例．麻酔 2006;55(1):96-99

B.2. 川口陽子，櫛方哲也，橋場英二，北山眞任，吉田仁，石原弘規，松木明知，廣田和美．Brugada 症候群患者の麻酔管理．麻酔　2006；55：142-149

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Crit Care Med	4.195	1	4.195
Eur J Anaesthesiol	1.217	1	1.217
J Clin Pharm Ther	1.157	1	1.157
Crit Care	1.911	1	1.911
J Clin Monit Comp		1	
Total		5	8.48

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Chest	3.118	1	3.118
Total		1	3.118

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
体液・代謝管理	1	
ICU と CCU		1
麻酔		2
計	1	3

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

３．その他（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Transplant Proc	0.588	1	0.588
Total		1	0.588

和文　なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2005年度

A.1. Tsubo T, et al: Effect of CHF on lung injury in pigs using transesophageal echocardiography. ASA New Orleans,Oct.25,2005

（2）全国学術集会

2004年度

C.　7件

2005年度

A.1. 坪敏仁，他：持続血液透析のエンドトキシン肺障害に及ぼす影響．日本集中治療医学会．2005；大阪

C.　6件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2005年度

1. ウロテンシンⅡの生理作用の検討．Department of Pharmacology and pharmaceutical Science, University of Ferrara, Section of Pharmacology 2003-4

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

2005年度

第23回唐牛医学研究基金助成B.「強力な血管作動薬ペプチド，ウロテンシンⅡの生理活性作用の検討」.
橋場英二　配分額（955千円）

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

52. 周産母子センター

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

教育，臨床面では，大きな事故もなく，青森県内の周産期医療の向上に貢献できていると考えているが，論文発表が少なく，国際学会の発表もなし。研究費獲得も少なく，総合的な到達度は60%である。

理念：

産科学，周産期医学に関する基礎的・臨床的研究を行うことにより，これらの領域の学術的，医療水準を高め，もって国民の福祉に貢献する。

これから２年間の目標：

IF の付いた学術誌に論文を発表する
国際学会，全国レベルの学会などのシンポジウムで発表する
科学研究費補助金に採択される研究を行う
その他の研究補助金に応募する

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　0，助教授　1，講師　1，助手　2，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	水沼　英樹	1年
	助教授	専　任	尾崎　浩士	1年
	講　師	専　任	佐藤　　工	1年
	助　手	専　任	田中　幹二	1年
	助　手	専　任	柴田　　滋	1年
研究課題	1．子宮内環境の胎児・新生児に及ぼす影響について 2．妊娠中毒症・子宮内胎児発育遅延の予知・予防について 3．多胎妊娠の長期予後調査 4．先天性複雑心奇形における房室弁逆流の超音波診断 5．小児期各種不整脈の臨床電気生理学的検討 6．先天性心奇形の出生前診断 7．切迫早産並びに子宮頚管無力症新規治療薬の開発のための研究 8．MU のヒアルロン合成抑制機序の研究 9．骨代謝異常におけるプロテオグリカンの役割についての研究			

2005年度

研究人員	教授　0，助教授　1，講師　1，助手　2，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	水沼　英樹	12ヶ月
	助教授	専　任	尾崎　浩士	12ヶ月
	講　師	専　任	佐藤　　工	12ヶ月
	助　手	専　任	田中　幹二	12ヶ月
	助　手	専　任	櫻庭　弘康	6ヶ月
	助　手	専　任	長谷川　傑	6ヶ月
研究課題	1．子宮内環境の胎児・新生児に及ぼす影響について 2．妊娠高血圧症候群・子宮内胎児発育遅延の予知・予防について 3．多胎妊娠の長期予後調査 4．小児循環器病学一般 5．子宮頚管無力症新規治療薬の開発のための研究 6．MU のヒアルロン合成抑制機序の研究 7．骨代謝異常におけるプロテオグリカンの役割についての研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 胆嚢炎などの多数の合併症を併発した多発性子宮筋腫合併妊娠：二神真行，福原理恵，重藤龍比古，谷口綾亮，坂本亜希子，田中幹二，坂本知巳，尾崎浩士，佐藤秀平，水沼英樹：青森県臨床産婦人科医会誌19巻，19-22，2004.

A.2. 女性ホルモンと骨粗鬆症：樋口　毅，田中幹二，水沼英樹：Current Therapy，22巻，219-223，2004.

A.3. 女性の骨粗鬆症とエストロゲン補充療法：樋口　毅，田中幹二，水沼英樹：Clinical Calcium,13,1451-1456, 2004.

A.4. 腹腔妊娠の3例：福原理恵，坂本知巳，田中幹二，重藤龍比古，横山良仁，水沼英樹：青森県臨床産婦人科医会誌，19巻，99-103，2004.

2005年度

A.1. 最近の青森県内における切迫早産の診断について：田中幹二，柞木田礼子，山本善光，尾崎浩士，水沼英樹：青森県臨床産婦人科医会誌，20巻，1-6，2005.

A.2. 青森県双胎妊娠アンケート調査の集計結果について：柞木田礼子，山本善光，田中幹二，尾崎浩士，水沼英樹：青森県臨床産婦人科医会誌，20巻，7-12，2005.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 切迫早産の診断・管理・治療に関する文献的考察：田中幹二，山本善光，二神真行，福井淳史，尾崎浩士，水沼英樹：青森県臨床産婦人科医会誌，19巻，91-98，2004.

A.2 【見て理解する新生児の生理学】 免疫・血液凝固系と黄疸（解説 / 特集）：尾崎浩士：Neonatal Care　17巻5号，P437-444，2004.

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 樋口　毅，田中幹二，水沼英樹：更年期障害　HRT．阿部好文，西川哲男編「臨床に直結する内分泌・代謝疾患治療のエビデンス」．119-122，2004，文光堂

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
青森県臨床産婦人科医会誌	2	2
Current Therap	1	
Clinical Calcium	1	
計	4	2

２．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	1	0
編　　集	0	0
分担執筆	5	0

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2004年度

C.1. 救命困難であった Kasabach-Merritt 症候群の1例．尾崎浩士，山本善光．第40回日本新生児学会総会，2004年7月，東京

C.2. 4-methilumbelliferone を用いた子宮頚管無力症治療薬の開発のための研究．田中幹二，樋口　毅，尾崎浩士，水沼英樹，高垣啓一．日本結合織学会総会2004年6月

C.3. 切迫早産ならびに子宮頚管無力症治療薬の開発のための研究．田中幹二，樋口　毅，尾崎浩士，水沼英樹，日本産科婦人科学会総会　2004年4月，東京

C.4. L1CAM 遺伝子変異の診断意義．二神真行，田中幹二，尾崎浩士，水沼英樹，佐藤秀平，日本産科婦人科学会総会　2004年4月東京

C.　4件

2005年度

C.　5件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2005年度

弘前都市エリア産学官連携促進事業
プロテオグリカン応用研究プロジェクト　分担研究者　田中幹二
弘前大学重点研究「プロテオグリカン研究拠点の構築」分担研究者　田中幹二

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2004年度

他研究単位との研究分担者として
弘前大学重点研究「プロテオグリカン研究拠点の構築」，田中幹二，200千円

（4）民間の研究助成

2005年度

他研究単位との研究分担者として
弘前大学重点研究「プロテオグリカン研究拠点の構築」 田中幹二
160千円

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

53．病理部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

「小型肺癌における細胞外マトリックスの臨床病理学的研究について」は，2005年4月15日に横浜市で開催された第94回日本病理学会総会において学会発表した後，英語論文として投稿した国際誌「Pathology International」に受諾され，2006年，56巻（9号），494-502頁の同誌に掲載予定となった。共同研究の「肺癌患者の核酸代謝酵素mRNA発現に関する母集団調査」は研究がまだ進行中であり，今後公表する予定である。従って，全体の目標到達度としては，7−8割方達成できた。

理念：

外科的に切除された病理組織について，形態学的，免疫組織学的，電子顕微鏡的，分子生物学的な手法を用いて解析し，evidence-basedな外科病理学的な研究を行うとともに，得られた知見を病理診断の精度の向上と個々の患者の治療に役立てる。

これから２年間の目標：

共同研究により，肺癌の組織標本における核酸代謝酵素（TS，DPD，TP，OPRTなど）のmRNAの発現を解析し，肺癌の組織型，臨床病理学的諸因子などの患者の診療情報毎にその分布を検討する。これらの知見ならびにデータを公表することにより，癌の個別化治療に関する研究への利用を期待する。

小型肺癌における血管内皮増殖因子の臨床病理学的研究については，病理部の研修生を指導しながら現在進行中であり，明年の論文発表を目指している。

これらの研究はいずれも，患者の承諾と医療機関の倫理審査委員会の承認を得て実施されている。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　0，助教授　0，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	助教授	専　任	鎌田　義正	11年
研究課題	１．肺癌患者の核酸代謝酵素mRNA発現に関する母集団調査（共同研究） ２．小型肺癌における細胞外マトリックス臨床病理学的研究			

2005年度

研究人員	教授　0，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	助教授	専　任	鎌田　義正	12年
研究課題	１．肺癌患者の核酸代謝酵素mRNA発現に関する母集団調査（共同研究） ２．小型肺癌における血管内皮増殖因子の臨床病理学的研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

B.1. J.Kitazawa, M.Kaizuka, M.Kasai, Y.Noda, Y.Takahashi, K.Terui, S.Narumi, K.Hakamada, M.Sasaki, Y.Kamata, T.Endo, S.Nomachi, T.Saikai, Y.Mizogushi, M.Kinebushi, E.Ito, A.Matsuura: Hemolytic crisis with fulminant hepatic failure in Wilson disease without consanguinity. Pediatrics International 2004;46:726-729.

2005年度

B.1. N.Hashimoto, K.Hakamada, S.Narumi, E.Totsuka, K.Aoki, Y.Kamata, M.Sasaki: Heterotopic gastrointestinal mucosa and pancreatic tissue in a retroperitoneal tumor. J Hepatobiliary Pancreat Surg 2006;13:351-354.

B.2. T.Sakai, Y.Ogura, J.Narita, D.Kimura, T.Suto, S.Ainai, H.Fujita, Y.Kamata: Metachronous bilateral primary breast cancer associated with dermatomyositis. The Breast J. 2005;11:225-226.

和文

2004年度

B.1. 西村英恵，金子高英，水木大介，原田　研，今　　淳，花田勝美，伊藤　卓，四ツ柳高敏，鎌田義正：肛囲に Paget 現象を呈した肛門管癌の1例．臨床皮膚科　2004;58(8):674-677

(2) 総説

英文　なし

和文　なし

(3) 著書

英文　なし

和文　なし

(4) その他

英文　なし

和文　なし

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Hepatobiliary Pancreat Surg	0	1	0
The Breast J	0	1	0
Total		2	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
な　　し		
計	0	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学術集会での発表

(1) 国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2004年度

C.　5件

2005年度

C.　5件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2004年度

固形癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査：対馬敬夫（第一外科），大鵬薬品と共同開発

2005年度

固形癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査：対馬敬夫（第一外科），大鵬薬品と共同研究

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生，研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

54. 医療情報部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

・法人化附属病院の経営管理に係る意思決定のための各種情報提供

到達度：不完全（30％）

・ 病院情報管理システム（2004年1月1日導入）の完全稼動）

到達度：不完全（70％）

理念：

これから２年間の目標：

経済的な外来診療システム構築に関する検討

医療画像診断の IT 化に関する基礎・臨床的研究

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	羽田　隆吉	8年間
	助教授	専　任	三上　聖治	04年度を以て退職
研究課題	1．研究テーマは設定てしていない（但し，以下を目標とする。） ・法人化附属病院の経営管理に係る意思決定のための各種情報提供を行うこと。 ・病院情報管理システム（2004年1月1日導入）の完全稼動			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	羽田　隆吉	9年
	助教授	専　任	佐々木賀広	1年
研究課題	（羽田） 1．病院管理学『法人化を前提とした病院経営分析：必要情報（データ）収集費用と得られる分析結果の価値とのバランスに関する研究』。 2．生体情報の定量化『高度先進医療技術―特に IT 化医療画像診断技術の開発』 （佐々木） 3．生体情報の定量化『高度先進医療技術―特に CAD の開発』			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

B.1. Sasaki Y, Mikami t, Sawaya M, Ishiguro Y, Tsuji T, Fukuda S, d Munakata A and Hada R: Disrupted peristalsis in a patient with colonic duplication and chronic constipation. Gastrointest Endosc 2004;59:589-92.

B.2. Hanabata N, Sasaki Y, Tanaka M, Tsuji T, Hatada Y, Munakata A and Hada R: Vascular endothelial growth factor expression and microvessel parameters of colonic mucosa correlate with sensitivity to steroid in patients with ulcerative colitis. Acand J Gastroenterol 2005;40:188-93.

和文

2004年度

B.1. 佐々木賀広，羽田隆吉，棟方昭博：潰瘍性大腸炎におけるコンピューター支援内視鏡的重症度診断システム．Gastroenterol Endosc 2004;46:2319-24.

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Gastrointest Endosc	3.328	1	3.328
Scand J Gastroenterol	2.14	1	2.14
Total		2	5.468

和文（論文数）

雑　誌　名	2004年度	2005年度
Gastroenterol Endosc	1	
計	1	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　目	2004年度	2005年度
単　著	0	0
編　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　目	2004年度	2005年度
単　著	0	0
編　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文　なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Sasaki Y, Tsuji T, Hanabata N, Sawamura N, Mikami T, Fukuda S, Hada R and Munakata A: Quantification of colonic mucosal surface granularity for grading endoscopic severity of ulcerative colitis. Endoscopy 2004;36: A216.

C.2. Hanabata N, Sasaki Y, Tsuji T, Sawamura N, Sasaki S, Mikami T, Fukuda S, Hada R and Munakata A: Gut 2004;53:A98.

C.3. Mikami T, Sasaki Y, Fukuda S, Hada R and Munakata A: Computer-aided diagnosis of superficial type early esophageal cancer by image processing on ordinary endoscopic pictures. Gastrointest Endosc 2004;59: AB258.

（2）全国学術集会

2005年度

B.1. 三上達也，佐々木賀広，福田真作：内視鏡オーダリングシステム構築における問題点．Gastroenterol Endosco vol47(Suppl.1):AB703,2005.

B.2. 佐々木賀広，福田真作，棟方昭博：高品位内視鏡ファイリング装置の試作―標準品位内視鏡画像との比較．Gastroenterol Endosco vol47(Suppl.2):AB804,2005.

C. 1件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

（2）国内，地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

Ⅶ. その他

2005年度

特許の取得　平成17年4月22日
特 許 権 者　佐々木賀広　羽田隆吉
発　明　者　佐々木賀広　羽田隆吉
特許第３６６８７３９号　電子内視鏡画像の色調定量法

55. 光学医療診療部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

80％程度到達している。

理念：

適正な診断，安全かつ効率的な治療。

これから２年間の目標：

消化管疾患の光学的定量法による診断法の確立
消化管疾患の内視鏡的治療手技の向上
炎症性腸疾患の治療における標的因子の確立と薬物療法の選択法の確立
炎症性腸疾患関連発癌マーカー検索とサーベイランス

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	棟方　昭博	平成16年4月～17年3月
	助教授	専　任	佐々木賀広	平成16年4月～17年3月
研究課題	1．ヘリコバクター・ピロリと胃粘膜障害（生検組織を用いて）に関する基礎的・臨床的研究 2．新しい内視鏡診断・治療技術の開発 3．ヒトにおける食物繊維の消化・吸収動態の解明 4．内視鏡的切除後の早期大腸癌の経過観察の方法に関する検討			

2005年度

研究人員	教授　0，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	棟方　昭博	2年
	助教授	専　任	石黒　陽	6ヶ月
研究課題	1．消化管疾患の光学的定量法による診断に関する研究 2．炎症性腸疾患の成因に関する研究 3．胃癌・消化性潰瘍における Helicobacter pylori に関する研究 4．消化管疾患の内視鏡的治療に関する研究 5．消化器悪性腫瘍に対する化学療法に関する研究 6．抗凝固剤服用患者の内視鏡治療の適応に関する研究 7．炎症性腸疾患の治療における標的因子の検索 8．炎症性腸疾患における薬物療法の選択の指標 9．炎症性腸疾患の効果的な治療法の開発 10．炎症性腸疾患関連発癌マーカー検索			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Sasaki Y, Mikami T, Sawaya M, Ishiguro Y, Tsuji T, Fukuda S, Munakata A and Hada R: Disrupted peristalsis in a patient with colonic duplication and chronic constipation. Gastrointest Endosc 2004;59:589-92.

B.*1. Hanabata N, Sasaki Y, Tanaka M, Tsuji T, Hatada Y, Munakata A and Hada R: Vascular endothelial growth factor expression and microvessel parameters of colonic mucosa correlate with sensitivity to steroid in patients with ulcerative colitis. Scand J Gastroenterol 2005;40:188-93.

B.2. Ishiguro Y, Yamagata K, Sakuraba H, Munakata A, Nakane A: Macrophage migration inhibitory factor and activator Protein-1 in ulcerative colitis. Ann N Y Acad Sci. 2004;1029:348-9.

B.3. Ishiguro Y, Sakuraba H, Yamagata K, Munakata A: The presentation of haptenated proteins and activation of T cells in the mesenteric lymph nodes by dendritic cells in the TNBS colitis rat. Ann N Y Acad Sci. 2004 Dec;1029:346-7.

B.4. Sakuraba H, Ishiguro Y, Yamagata K, Tagawa Y, Iwakura Y, Sekikawa K, Munakata A, Nakane A: TGF-{beta} regulates susceptibility of epithelial apoptosis in murine model of colitis. Ann N Y Acad Sci. 2004 Dec;1029:382-4.

2005年度

A.1. Komatsu T, Tamai Y, Takami H, Yamagata K, Fukuda S, Munakata A: Study for determination of the optimal cessation period of therapy with anti-platelet agents prior to invasive endoscopic procedures.J Gastroenterol. 2005 Jul;40(7):698-707.

A.2. Takahata T, Sakamoto J, Suto K, Suto T, Munakata A, et al: Influence of hepatic impairment on the pharmacokinetics and pharmacodynamics of landiolol hydrochloride, an ultra-short-acting β_1-blocker. Drugs R D 2005;6(6):385-94.

A.3. Hanabata N, Sasaki Y, Tanaka M, Tsuji T, Hatada Y, Munakata A, et al: Vascular endothelial growth factor expression and microvessel parameters of colonic mucosa correlate with sensitivity to steroid in patients with ulcerative colitis. Scand J Gastroenterol 2005;40:188-93.

B.1. Ohkawara T, Takeda H, Nishihira J, Miyashita K, Nihiwaki M, Ishiguro Y, Takeda K, Akira S, Iwanaga T, Sugiyama T, Asaka M: Macrophage migration inhibitory factor contributes to the development of acute dextran sulphate sodium-induced colitis in Toll-like receptor 4 knockout mice. Clin Exp Immunol. 2005 Sep;141(3):412-21.

B.2. Sawada K, Kusugami K, Suzuki Y, Bamba T, Munakata A, Hibi T, Shimoyama T: Leukocytapheresis in ulcerative colitis: results of a multicenter double-blind prospective case-control study with sham apheresis as placebo treatment. Am J Gastroenterol. 2005 Jun;100(6):1362-9.

和文

2004年度

A.1. 佐々木賀広，羽田隆吉，棟方昭博：潰瘍性大腸炎におけるコンピューター支援内視鏡的重症度診断システム．Gastroenterol Endosc 2004;46:2319-24.

2005年度

A.1. 澤村典子，石黒　陽，山形和史，川口章吾，吉村徹郎，三上達也，佐々木賀広，福田眞作，棟方昭博：偽性腸閉塞症および腸管嚢腫様気腫を合併した多発性筋炎と強皮症による overlap 症候群の 1 例．日消誌，102(6):706-711,2005.

A.2. 石黒　陽，櫻庭裕丈，山形和史，平賀寛人，蝦名佐都子，藤田　均，棟方昭博：難治性潰瘍性大腸炎における Macrophage migration inhibitory factor (MIF) の役割．消化器と免疫，41:19-20,2004.

A.3. 山形和史，石黒　陽，蝦名佐都子，島谷孝司，平賀寛人，棟方昭博：腸管子宮内膜症―診断と治療．臨牀消化器内科，20(10):1375-1382,2005.

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

B.*1. 石黒　陽，山形和史，佐々木賀広，福田眞作，畑田康政，棟方昭博，田中正則．特集：これが Colitic cancer だ―Ⅱa 型早期癌の 1 例．消化器内視鏡 2004;16(7):1120-1.

B.*2. 石黒　陽，山形和史，佐々木賀広，福田眞作，畑田康政，棟方昭博，田中正則．特集：これが Colitic cancer だ―Ⅱa 集簇様進行癌の 1 例．消化器内視鏡 2004;16(7):1126-7.

2005年度

A.1. 坂本十一，棟方昭博：潰瘍性大腸炎の概念，診断，分類．日本臨牀 2005;63(5):744-9.

A.2. 山形和史，石黒　陽，蝦名佐都子，島谷孝司，平賀寛人，棟方昭博：腸管子宮内膜症―診断と治療．臨牀消化器内科　2005;20(10):1375-82.

A.3. 花畑憲洋，澤村典子，福田眞作，棟方昭博：実地診療に必要な臨床疫学的知見　自然史からみた炎症性腸疾患の動態．Medical Practice 2005;22(5):751-5.

A.4. 石黒　陽，山形和史，棟方昭博：炎症性腸疾患の診断と重症度分類．治療学 2005;38:1196-1201.

（3）著書

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 山形和史，石黒　陽，棟方昭博：Ⅵ．小腸・大腸．Q19便潜血陽性者の取り扱いについて．新臨床研修ガイドラインに基づく消化器内科 Q&A ―研修医からの質問319―，2005，p118-123，総合医学社，東京．

A.2. 山形和史，石黒　陽，棟方昭博：第4章　炎症性腸疾患の管理・治療．薬物療法のストラテジー：(1)潰瘍性大腸炎．新しい診断と治療の ABC 29，炎症性腸疾患，2005，p96-103，最新医学社，東京．

A.3. 山形和史，石黒　陽，棟方昭博：Ⅰ．消化管疾患　大腸憩室疾患．「今月の治療」第13巻臨時増刊号，消化器疾患ガイドライン―最新の診療指針―，2006，pS94-S97，総合医学社，東京．

A.4. 棟方昭博：潰瘍性大腸炎難治例の緩解維持療法に関する研究―平成16年度治療指針改定案を含めて．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班　平成16年度研究報告書，p8-2．2005．(分担)

A.5. 石黒　陽，棟方昭博：ベーチェット病（BD）患者末梢血単核球における Streptcoccus sanguis の cell wall に対する反応性に関する研究．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班　平成16年度研究報告書，p82．2005．(分担)

A.6. 棟方昭博：消化管疾患，潰瘍性大腸炎．山口徹，北原光夫，福井次矢 編．今日の治療指針2006年度版，p353-4．医学書院，東京．2006．(分担)

A.7. 棟方昭博，福田眞作：潰瘍性大腸炎の治療―日米間の相違．渡辺英伸，杉原健一，多田正大 編．大腸疾患 Now 2006，p208-14．日本メディカルセンター，東京．2006．(分担)

(4) その他

英文　なし

和文　なし

(5) 発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Gastrointest Endosc	3.328	1	3.328
Scand J Gastroenterol	2.14	1	2.14
Ann N Y Acad Sci	1.9	3	5.7
Total		5	11.168

2005年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
clinical experimental immunology	2.518	1	2.518
J gastroenterology	1.209	1	1.209
American Jouranl of gastroenterology	4.716	1	4.716
Scand J Gastroenterol	1.824	1	1.824
Drugs R D	0	1	0
Total		5	10.267

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
Gastroenterol Endosc	1	
消化器内視鏡	2	
消化器と免疫		1
日本消化器病学会誌		1
臨牀消化器内科		1
計	3	3

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	7

３．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
		1
計	0	1

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Mikami T, Sasaki Y, Fukuda S, Hada R, Munataka A: Computer-aided diagnosis of superficial type early esophageal cancer by image processing on ordinary endoscopic pictures. AGA 2004. New Orleans, USA. 2004.

C.2. Mikami T, Sasaki Y, Tsuji T, Hanabata N, Sawamura N, Sasaki S, Fukuda S, Hada R, Munakata A: Quantification of mucosal surface roughness for detecting early esophageal cancer. UEGW 2004. Prague. 2004.

C.3. Sasaki S, Sasaki Y, Tsuji T, Hanabata N, Sawamura N, Mikami T, Fukuda S, Hada R, Munakata A: Quantification of colonic mucosal surface granurality for grading endoscopic severity of ulcerative colitis. UEGW 2004. Prague. 2004.

C.4. Hanabata N, Sasaki Y, Tsuji T, Sawamura N, Sasaki S, Mikami T, Fukuda S, Hada R, Munakata A: VEGF expression and microvessel morphometry in gastric mucosae of patients with gastric antral vascular ectasia. UEGW 2004. Prague. 2004.

2005年度

B.1. Shimoyama T, Mizuki I, Nakasato F, Hatada Y, Fukuda S, Munakata A: Association between bacterial *sabA* status and presence of anti-Lewis X antibody in patients with *Helicobacter pylori* infection. 13th International Workshop on Campylobacter, Helicobacter and Related Organisms. Gold Coast, Australia. 2005.

B.2. Fukuda S, Nakasato F, Shimoyama T, Danjo K, Yoshimura T, Munakata A: Association between bacterial *sabA* status and presence of anti-Lewis X antibody in patients with *Helicobacter pylori* infection. 13th United European Gastroenterology Week. Copenhagen, Denmark. 2005

C.1. Kazufumi YAMAGATA, Yoh ISHIGURO, Hirotake SAKURABA, Hiroto HIRAGA, Akihiro MUNAKATA: Altered c-jun activation binding protein signaling in refractory cases with Ulcerative Colitis 12th International Congress of Mucosal Immunology (Boston, USA) 2005.6.25-30

C.2. Koji SHIMAYA, Yoh ISHIGURO, Kazufumi YAMAGATA, Hitoshi FUJITA, Hirotake SAKURABA, Hiroto HIRAGA, Satoko EBINA, Akihiro MUNAKATA: Transforming growth factor (TGF)-β receptors were suppressed at the transcriptional levels in refractory cases with Ulcerative Colitis.12th International Congress of Mucosal Immunology (Boston, USA), 2005.6.25-30.

C.3. Hiroto HIRAGA, Yoh ISHIGURO, Satoko EIBINA, Kazufumi ,YAMAGATA, Hirotake SAKURABA, Koji SHIMAYA, Hitoshi FUJITA, Akihiro MUNAKATA: Cyclosporine (CsA) ameliorated epithelial apoptosis through enhancing the transforming growth factor (TGF)- β receptor expression12th International Congress of Mucosal Immunology (Boston, USA), 2005.6.25-30.

C.4. Hitoshi FUJITA, Yoh ISHIGURO, Kazufumi YAMAGATA, Satoko EIBINA, Hirotake SAKURABA, Koji SHIMAYA, Hiroto HIRAGA, Akihiro MUNAKATA: Cyclosporine (CsA) prevented DSS colitis through transforming growth factor (TGF)-β relating signaling. 12th International Congress of Mucosal Immunology (Boston, USA), 2005.6.25-30.

C.5. Hirotake SAKURABA, Yoh ISHIGURO , Koji SHIMAYA Hiroto HIRAGA, Kazufumi YAMAGATA, Satoko EIBINA, Hitoshi FUJITA, SHINSAKU FUKUDA, Akihiro MUNAKATA: Significant Expression of Multi Drug Resistance-1 Gene on Lamina Proprial T Cells from Glucocorticoids Refractory Cases with Ulcerative Colitis.12th International Congress of Mucosal Immunology (Boston, USA), 2005.6.25-30

C.6. Yoh ISHIGURO, Hiroto HIRAGA, Kazufumi YAMAGATA, Hirotake SAKURABA, Akihiro MUNAKATA, Akio NAKANE: The Submucosal Injection of Naked DNA Encoded by Cytokine-Induced Neutrophil Chemoattractant-1 Evokes Dendritic Cell Exhaustion and Ameriorates Th-1 Driven Colitis.12th International Congress of Mucosal Immunology (Boston, USA), 2005.6.25-30.

C.7. Satoko EBINA, Yoh ISHIGURO, Hiroto HIRAGA, Hirotake SAKURABA, Koji SHIMAYA, Hitoshi FUJITA, Kazufumi YAMAGATA, Akihiro MUNAKATA, et al: *Streptococcus sanguis* cell wall strongly induced IL-8 and TNF-α by PBMC from Behet's disease patients through p38 and NF-(KAPPA)B. 12th International Congress of Mucosal Immunology (Boston, USA), 2005.6.29

C.8. Yoh ISHIGURO, Hiroto HIRAGA, Hirotake SAKURABA, Kazufumi YAMAGATA, Koji SHIMAYA, Satoko EIBINA, Hitoshi FUJITA, Akihiro MUNAKATA, Daisuke SAWAMURA: Pretreatment with Cytokine Induced Neutrophil Chemoattractant (CINC)-1 Prevents Th-1 Driven Colits with Dendritic Cell (DC) Maturation and Expansion. Inflammatory Bowel Disease - Research Drives Clinics. (Muenster, Germany), 2005.9.2-3

C.9. Koji SHIMAYA, Yoh ISHIGURO, Hirotake SAKURABA, Hiroto HIRAGA, Kazufumi YAMAGATA, Satoko EIBINA, Hitoshi FUJITA, Shinsaku Fukuda, Akihiro MUNAKATA: Significant Expression of Multi Drug Resistance-1 Gene on Lamina Proprial T Cells from Glucocorticoids Refractory Cases with Ulcerative Colitis. Inflammatory Bowel Disease - Research Drives Clinics. (Muenster, Germany), 2005.9.2-3

C.10. Fukuda S, Tanaka M, Shimoyama T, Munakata A, et al: Applicability of a Helicobacter pylori stool antigen test to determine the results of eradication therapy. 18thInternational Workshop on Gastrointestinal Pathology andHelicobacter. Copenhagen, Denmark. 2005.

C.11. Yoshimura T, Kajihara H, Shimoyama T, Fukuda S, Munakata A. Clinical utility of peroral cholongio-pancreatoscopy for diagnosis of cholangio-pancreato-disease: 13th United European Gastroenterology Week. Copenhagen, Denmark. 2005.

C.12. Shimoyama T, Sakamoto J, Fukuda S, Munakata A, et al: Serological analysis of *Helicobacter hepaticus* infection in Japanese patients with chronic hepatitis C using new monoclonal antibodies. 5th Koria-Japan-China Joint Conference on *Helicobacter infection*. Sanya, China. 2006.

C.13. Nishiya D, Shimoyama T, Fukuda S, Munakata A: Applicability of a *Helicobacter pylori* stool antigen test to determine the results of eradication therapy. 5th Koria-Japan-China Joint Conference on Helicobacter infection. Sanya, China. 2006.

C.14. Sawaya M, Shimoyama T, Fukuda S, Munakata A: Dose atrophic gastritis affect the accordance between stool antigen test and serology to determine Helicobacter Pylori infection in the mass survey? 5th Koria-Japan-China Joint Conference on *Helicobacter* infection. Sanya, China. 2006.

（2）全国学術集会

2004年度

B.1. 佐々木賀広，三上達也，福田眞作：早期食道癌の深達度判定手法としての画像診断―表面微細凹凸の定量化．第46回日本消化器病学会大会．福岡．2005．

C. 5件

2005年度

B.1. 山形和史，石黒　陽，棟方昭博．当科における直腸炎型潰瘍性大腸炎の診断と治療の現況．第23回日本大腸検査学会総会．名古屋．2005．

C. 40件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

2005年度

研究代表者として

1．厚生科学研究費補助金．難治性炎症性腸管障害に関する調査研究．潰瘍性大腸炎の難治例治療と緩解維持．棟方昭博．1,500千円

2．厚生科学研究費補助金．診療報酬における医師技術評価に関する研究；時間と総合負荷の関係．消化器科部門・生理検査部門．棟方昭博．200千円

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

2005年度

研究代表者として

1．潰瘍性大腸炎ステロイド依存例における GCAP の緩解維持効果　1,000（千円）

2．潰瘍性大腸炎難治例における LCAP の効果と pgp-1 発現の検討　1,000（千円）

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

2005年度

Massateusetts General Hospital, Center for the study of Inflammatory bowel disease, Exp Pathology, 2006, 6/JAN -30/JUN

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

2005年度

1．棟方昭博．第21回弘前メディカルフォーラム．弘前
2．棟方昭博．第10回青森 IBD 研究会．青森
3．棟方昭博．第13回北奥羽消化器内視鏡研究会．青森
4．棟方昭博．第33回青森県肝胆膵研究会．青森
5．棟方昭博．第22回弘前メディカルフォーラム．弘前
6．棟方昭博．第21回青森県肝疾患研究会．弘前
7．棟方昭博．第9回青森膵疾患研究会．青森

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

56. リハビリテーション部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

リハビリテーション部としての研究活動実績に関する詳細は前任教官近藤，細川両名の退職に伴い不詳。

理念：

整形外科疾患のリハビリテーション治療の科学的根拠を求める。
日本人に適した人工関節置換術の臨床応用を進める。
大腿骨頭壊死治療の標準化を行う。

これから２年間の目標：

弘前大学式人工股関節の臨床応用をさらに進める。
大腿骨頭壊死の関節温存手術の治療適応，術式の標準化を行う。
上肢，下肢整形外科疾患のリハビリテーション治療の確立。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　0，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	併　任	藤　哲	2年
	助教授	専　任	近藤　和泉	1年10ヶ月
	助　手	専　任	細川賀乃子	1年
研究課題	1．脳性麻痺児の日常生活スキルの発達に関する研究 2．脳性麻痺簡易運動検査（Simple Motor Test for Cerebral Palsy）の基準妥当性に関する研究 3．乳癌術後のリハビリテーションアプローチの QOL に対する効果 4．粗大運動能力分類システム（Gross Motor Function Classification System）に対する計量心理学的な検討 5．脳卒中片麻痺患者の足趾痛に対する Inhibitor bar の効果 6．嚥下障害への対応・リハビリテーション 7．リンパ浮腫のリハビリテーション			

2005年度

研究人員	教授　0，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	助教授	専　任	近藤　和泉	
	助　手	専　任	細川賀乃子	
研究課題	1．リハビリテーション部としての研究活動実績に関する詳細は前任教官近藤，細川両名の退職に伴い不詳			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Izumi Kondo, Kanoko Hosokawa, Manabu Iwata, Atsushi Oda, Tadao Nomura, Keiichi Ikeda, Yoshimi Asagai, Tomokazu Kohzaki, Hitoshi Nishimura: Effectiveness of selective muscle release surgery for children with cerebral palsy − A preliminary study with longitudinal and stratified analysis −. Develop Med Chil Neurol. 2004;46:540-547.

和文

2004年度

B.1. 伊藤郁恵，塚本利昭，近藤和泉，佐藤英樹，石橋恭之：非外傷性肩関節不安定症に対するリハビリテーションアプローチ，青森県スポーツ医学研究会誌．12:51-53,2004

B.2. 村山恵子，神田豊子，近藤和泉，北住映二，児玉和夫：脳性麻痺児・者の摂食嚥下機能評価，第1報：誤嚥可能性検出票作成の試み．日摂食嚥下リハ会誌．2004;8:143-155

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 近藤和泉，中村正直：脳の機能検査法マニュアル SEP（体性感覚誘発電位），Monthly Book Medical Rehabilitation，2004;40:1-7

A.2. 近藤和泉，岩田　学：痙縮治療実践マニュアル，痙縮に対する装具療法 Monthly Book Medical Rehabilitation，2004;43:37-43

B.1. 塚本利昭，伊藤郁恵，近藤和泉，佐藤英樹，石橋恭之：投球障害肩へのリハビリテーションアプローチ，青森県スポーツ医学研究会誌，2004;12:54-57

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 近藤和泉：第3章　障害の病態生理と評価・治療　14，発達障害，米本恭三　監修，最新リハビリテーション医学第2版，東京，医歯薬出版株式会社，2005

（4）その他

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 近藤和泉，細川賀乃子，中村純人，西村一志，山口和正，樋口雅章，坂本公宣，大下舜治，岡安　勤，朝貝芳美，湊　　純，吉橋裕治，伊達伸也：粗大運動能力の評価―脳性麻痺簡易運動能力テストの改訂・基準妥当性の検討および上肢機能評価尺度の考案―．平成16年度発達障害児のリハビリテーション（医療・療育）の標準化と地域における肢体不自由児施設の機能に関する研究・報告書．2005:32-55

B.1. 伊達伸也，高橋義仁，近藤和泉：基本的 ADL の評価―「JASPER ADL 評価表　Ver. 3.2」の成長曲線―平成16年度発達障害児のリハビリテーション（医療・療育）の標準化と地域における肢体不自由児施設の機能に関する研究・報告書．2005:56-70

B.2. 朝貝芳美，盛島利文，近藤和泉，森山明夫，岡川敏郎，二井英二，大下舜治，中込　直，福永　拙：脳性麻痺児の粗大運動に対する訓練治療効果に関する研究・報告書．2005:138-155

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Develop Med Chil Neurol	1.898	1	1.898
Total		1	1.898

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
青森県スポーツ医学研究会誌	2	
日摂食嚥下リハ会誌	1	
Monthly Book Medical Rehabilitation	2	
計	5	0

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	1	0

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
脳性麻痺児の粗大運動に対する訓練治療効果に関する研究・報告書．2005	3	
計	3	0

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

2004年度

C.1. Izumi Kondo, Kanoko Hosokawa, Manabu Iwata, Atushi Oda: What is the appropriate outcome measures for children with cerebral palsy? -Stratified sample group and longitudinal study, Japanese-Korean Joint Conference on Rehabilitation Medicine, 2004, Apr 24, Kyoto

C.2. Kanoko Hosokawa, Izumi Kondo, Manabu Iwata, Sumito Nakamura, Yoshimi Asagai, Yoshihiro Sato: Simple Motor Test for Cerebral palsy: preliminary Study and SMTCP Version 1.1, Japanese-Korean Joint Conference on Rehabilitation Medicine, 2004, Apr 24, Kyoto

C.3. Izumi Kondo, Kanoko Hosokawa, Manabu Iwata, Sumito Nakamura, Yoshimi Asagai, Yoshihiro Sato: Simple Motor Test for Cerebral palsy: Psychometric Study and SMTCP Version 2.01, Japanese-Korean Joint Conference on Rehabilitation Medicine, 2004, Apr 24, Kyoto

C.4. Manabu Iwata, Izumi Kondo, Kanoko Hosokawa, Effect of cold exposure on anaerobic power of children, Japanese-Korean Joint Conference on Rehabilitation Medicine, 2004, Apr 24, Kyoto

（2）全国学術集会

2004年度

C.　3件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

2004年度

研究代表者として

研究種目：萌芽研究

研究題目：脳性麻痺児の日常生活スキルの発達に関する研究

採 択 額：2,400千円

他研究単位との研究分担者として

研究種目：基盤研究（B）

研究題目：脳卒中片麻痺患者における無酸素性パワーの評価に関する研究

継続

採 択 額：500千円

研究種目：萌芽研究
研究題目：要介護高齢者の新しい体力評価テストの開発
新規
採 択 額：1,400千円

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

2004年度

第16回日本リハビリテーション医学会東北地方会

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

57. 総合診療部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

- 医療面接，症候学，身体診察学など基本的臨床技能の教育法の開発に取り組む
  →「Pre SGT」や「内科症候学」の教育の中に，演習形式の授業を取り入れてみた。
  60点。
- 医学生，研修医，教官の教育に対するモチベーション向上法の研究に取り組む
  →「Pre SGT」，「研修医オリエンテーション」，「指導医講習会」の中にモチベーション向上のためのワークショップを取り入れてみた。60点。
- 総合診療部教員として臨床研究・医学教育研究を行う→英文論文は全て共同研究者としてのもので，和文論文は筆頭者ではあるが腎臓病学によるもので，総合診療に特化した研究は不十分であり，到達度は50%。

理念：

総合診療部は各診療科や救急部と連携して総合的な医療環境を構築し，これを通じて地域医療を支える全人的医療が行なえる臨床医の養成を目指す。そのためには卒前・卒後教育に積極的に関わると同時に，教育内容のレベルアップのための研究を推進する。

これから２年間の目標：

・ERにおけるピットフォールを医学生や研修医に伝えるよう努める
・総合診療部教員および内科専門医として，医学教育ならび臨床内科学に関する臨床研究を推進する。

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	加藤　博之	2004.4.1-2005.3.31
	講　師	専　任	大沢　　弘	2004.4.1-2005.3.31
研究課題	1．北米型ERにおける研修医，医学生の教育法の研究 2．北米型ERにおけるピットフォールの研究 3．症候学の教育法の研究 4．進行性腎疾患の進行に関する基礎的研究 5．腎疾患進行および合併症阻止に関する臨床的検討 6．医学生および研修医の基本的臨床能力修得のための医学教育技法に関する研究 7．医学生および研修医が参加する地域医療研修に関する研究			

2005年度

研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	教　授	専　任	加藤　博之	2005.4.1-2006.3.31
	講　師	専　任	大沢　　弘	2005.4.1-2006.3.31
研究課題	1．北米型ERにおける研修医，医学生の教育法の研究 2．北米型ERにおけるピットフォールの研究 3．症候学の教育法の研究 4．外来診療における基本的臨床技能および臨床推論に関する教育法の開発 5．進行性腎疾患の進行機序に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

C.1. Krupa A, Kato H, Matthay MA, Krudowska AK: Proinflammatory activity of anti-IL-8 autoantibody:IL-8 complexes in alveolar edema fluid from patients with acute lung injury. Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol 286:L1105-1113,2004

2005年度

C.1. Nakamura N, Kumasaka R, Osawa H, Yamabe H, Shirato K, Fujita T, Murakami R, Shimada M, Nakamura M, Okumura K, Hamazaki K, Hamazaki T: Effects of eicosapentaenoic acids on oxidative stress and plasma fatty acid composition in patients with lupus nephritis. in vivo 2005;19:879-882.

和文

2004年度

C.1. 中村典雄，大沢　弘，山辺英彰，白戸研一，中村雅将，島田美智子，熊坂隆一郎，奥村　謙，浜崎　景，浜崎智仁，村上礼一，藤田　雄：ループス腎炎における酸化ストレスマーカーに対するエイコサペンタエン酸の効果について　Prog Med　2004;24:2057-60

2005年度

C.1. 熊坂隆一郎，中村典雄，白戸研一，大沢　弘，山辺英彰，奥村　謙：Candesartan の尿中8-isoprostane 排泄に及ぼす効果の検討．内科　2005;96:780-2.

C.2. 中村典雄，熊坂隆一郎，藤田　雄，島田美智子，村上礼一，大沢　弘，山辺英彰，奥村　謙：腎機能障害における多価不飽和脂肪酸代謝についての検討．腎臓　2005;28:203-8.

（2）総説

英文

2005年度

C.1. Nakamura N, Osawa H, Yamabe H, Okumura K, Hamazaki T.: Effects of cilostazol on ipid and fatty acid metabolism. Clin Exp Med 2005;4:170-3.

和文

2004年度

A.1. 加藤博之，瀧　健治：高齢者の救急診療．総合臨床　53(増刊):672-674,2004

A.2. 加藤博之：腹痛を訴えない！腹部も硬くない！でも急性虫垂炎 !?…急性虫垂炎にみられる症状の典型・非典型．レジデントノート　6(4):502-506,2004

A.3. 加藤博之：救急外来診療の落とし穴―「一見軽症，実は重症」症例を中心に―．弘前市医師会報 296:35-37,2004

C.1. 加藤博之：発熱で救急受診する患者の EBM に基づいたアプローチ．EBM ジャーナル　5(1):8-11,2004

2005年度

A.1. 加藤博之：高齢者診療のピットフォール―「ADL の変化」は要注意．Medical Practice　22(4):673,2005

A.2. 加藤博之：急性腰痛をみたら下肢の神経学的所見．救急医学　29(10):1435-1438,2005

A.3. 加藤博之：重症敗血症性ショック患者の ER 初期治療でしてはならないこと．救急集中治療　17(7): 741-745,2005

A.4. 大沢　弘：腎性貧血と心血管系合併症．東北腎不全研究会誌　2005;16:35-6.

B.1. 鬼島　宏，加藤博之：病理との付き合い方　病理医からのメッセージ7　新医師臨床研修制度のなかでの役割　特に CPC レポートとの関連．Medicina　42(10):1850-1854,2005

（3）著書

英文　なし

和文

2004年度

C.1. 加藤博之:ICU における基本手技．小川節郎，新宮　興，武田純三，西野　卓　編集　麻酔科学スタンダード．克誠堂出版　東京　41-55，2004.10.4発行

（4）その他

英文

2004年度

C.1. Kumasaka R, Nakamura N, Shirato K, Osawa H, Takanashi S, Hasegawa Y, Yamabe H, Nakamura M, Tamura M, Okumura K: Nephrotic syndrome associated with gefitinb therapy. J Clin Oncol. 2004;22:2504-5

2005年度

C.1. Yamabe H, Nakamura N, Nakamura M, Shimada M, Kumasaka R, Fujita R, Osawa H, Okumura K, Oyama N, Momose A.: Hepatitis C virus-associated glomerulonephritis without hepatitis C virus in the blood. Am J Kid Dis 2005;46:E65-9.

和文

2004年度

C.1. 山根清美，大沢　弘，熊坂隆一郎，田中正則，小松田敦，政金生人：高齢者SLEの1例　内科専門医会誌 2004;16:438-454

2005年度

A.1. 大沢　弘，中村典雄，白戸研一，菅原俊之，島田美智子，熊坂隆一郎，藤田　雄，村上礼一，山辺英彰，奥村　謙：ネフローゼ症候群，M蛋白血症，非ホジキンリンパ腫の合併が認められた慢性C型肝炎の1例．内科専門医会誌　2005;18:70-3.

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，Bのみ）

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　　し			
Total		0	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
総合臨床	1	
レジデントノート	1	
弘前市医師会報	1	
Medical Practice		1
救急医学		1
救急集中治療		1
Medicina		1
内科		1
腎臓		1
東北腎不全研究会誌		1
計	3	7

2．著書数（A，Bのみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，Bのみ）

英文　なし

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
内科専門医会誌		1
計	0	1

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2004年度

C.　3件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

文部科学省　平成17年度「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム」に「青森へき地医療クリニカル・フェローシップ―地域医療支援センターによる一貫サービスを基盤とした新教育プログラム―」（教育プログラム担当者　加藤博之）が採択された。

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

58. 治験管理センター

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

これから２年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　0，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	助教授	専　任	大久保　正	1年
研究課題	１．各種抗精神病薬の臨床薬理学的研究 ２．ヒト肝ならびに腸管における薬物代謝に関する研究 ３．培養細胞を用いる薬物トランスポーターの研究 ４．先発医薬品と後発医薬品の品質に関する研究			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文

2004年度

A.1. Osanai T, *Ohkubo T, Yasui N, Kondo T, Kaneko S: Effect of itraconazole on the pharmacokinetics and pharmacodynamics of a single oral dose of brotizolam. *Brit J Clin Pharmacol*, 58;476-481,2004.

A.2. Miura M, *Ohkubo T: In vitro metabolism of quazepam in human liver and intestine and assessment of drug interactions. *Xenobiotica*, 34:1001-1011,2004.

B.1. Zhu G, Okada M, Uchiyama D, Ohkubo T, Yoshida S, Kaneko S: Hyperactuvity of endoplasmic reticulum associated exocytosis mechanism contributes to acute phencyclidine intoxication. *J Pharmacol Sci*, 95: 214-227,2004.

B.2. Echizenya M, Mishima K, Satoh K, Kusanagi H, Sekine A, Ohkubo T, Shimizu T, Hishikawa Y: Enhanced heat loss and age-related hypersensitivity to diazepam. *J Clin Psychopharmacol*, 24:639-646,2004.

和文

2004年度

A.1. 新岡丈典，大久保正，川崎仁司，柴田　滋，村田暁彦，鳴海俊治，袴田健一，小田切弘毅，森田隆幸，佐々木睦男，小島桂也，保嶋　実：母集団パラメータを用いたテイコプラニン血中濃度の予測精度に関する検討．**TDM 研究**，21:33-40,2004

A.2. 大久保正：塩酸セフォチアム注射製剤における先発製剤と後発製剤の不溶性微粒子比較試験による品質評価．**化学療法の領域**，20:109-112,2004

A.3. 大久保正：セフメタゾールナトリウム注射製剤溶解時の色調の違いによる製剤の評価．**医薬ジャーナル**，40:3304-3310,2004

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

2004年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Br J Clin Pharmacol	2.531	1	2.531
Xenobiotica	2.22	1	2.22
J Pharmacol Sci	1.419	1	1.419
J Clin Psychopharmacol	4.432	1	4.432
Total		4	10.602

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度	2005年度
な　　し		
計	0	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種　　目	2004年度	2005年度
単　　著	0	0
編　　集	0	0
分担執筆	0	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

なし

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

59. メディカルスクール研究センター

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

理念：

これから２年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2004年度

研究人員	教授　0，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員（教授～助手）の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　名	評価年度内での在籍期間
	講　師	専　任	松谷　秀哉	1年
研究課題	１．メディカルスクール移行のための医学教育システム ２．医学教育における教材開発			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 浅利　覚，松谷 秀哉，柏倉幾郎：放射線技術科学専攻における医用情報教育（第1報），弘前大学医学部保健学科紀要，2005;4:75-81

（2）総説

英文　なし

和文

2004年度

A.1. 松谷秀哉：ネットワークの形成過程から見るセキュリティ，弘前大学総合情報処理センター広報，2005;22:25-30

A.2. 松谷秀哉，須藤勝弘：学内 LAN 接続機器監視システムの開発，弘前大学総合情報処理センター広報，2005;22:55-58

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　　し			
Total		0	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2004年度
な　　し	
計	0

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2004年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

和文

種　　目	2004年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

なし

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

60. 医学教育センター

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

２年前に設定した，これから２年間の目標に対する到達度：

おもに，３年次編入学制度についての分析を行ってきた。

半年後に第一期生の卒業を迎えるが，その間，カリキュラムなどにおいて紆余曲折があった。しかし現時点では，だいぶ落ち着いてきたように思われる。

これらのベースとなる各種のデータや編入生の意見などの集積と分析において「メディカルスクール研究センター」は目的を果たせたと思われる。

理念：

弘前大学における充実した医学教育システムの確立

これから２年間の目標：

ゆとりの教育による学生の学力低下をはじめ，地域医療の衰退など医療や医学教育を取り巻く状況は難問が山積である。特に学力低下問題はいま以上に顕著化するものと考える。これに対応するために，現状の分析と対策について検討・研究に取り組む。

【研究人員及び研究課題】

2005年度

研究人員	教授　0，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0			
教　員 (教授～助手) の詳細	役　職	専任／併任の別	氏　　名	評価年度内での在籍期間
	講　師	専　任	松谷　秀哉	1年
研究課題	１．青森県の医師減少改善のためのプログラムの開発 ２．地域医療教育と健康推進プログラムの開発 ３．ゆとり教育・学力低下の実態とカリキュラムへの影響 ４．医学教育におけるポートフォリオと授業改善			

【研究業績】

Ⅰ．発表論文

（1）原著

英文　なし

和文

2005年度

A.1. 浅利　覚，松谷 秀哉，柏倉幾郎：放射線技術科学専攻における医用情報教育（第2報），弘前大学医学部保健学科紀要，2006;5:173-177

（2）総説

英文　なし

和文　なし

（3）著書

英文　なし

和文　なし

（4）その他

英文　なし

和文　なし

（5）発表論文のまとめ

1．原著，総説（A，B のみ）

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な　　し			
Total		0	0

和文（論文数）

雑　　誌　　名	2005年度
弘前大学医学部保健学科紀要	1
計	1

2．著書数（A，B のみ）

英文

種　　目	2005年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

和文

種　　目	2005年度
単　　著	0
編　　集	0
分担執筆	0

3．その他（A，B のみ）

英文　なし

和文（論文数）なし

Ⅱ．学術集会での発表

（1）国際学術集会

なし

（2）全国学術集会

2005年度

A.1.　松谷 秀哉, 柏倉 幾郎, 浅利　覚：弘前大学放射線技術学専攻における医用情報関連教育, 日本医学物理学会, 横浜，2005

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

なし

（4）民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

ａ）国際学術集会の主催

なし

ｂ）外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

ｃ）外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

ｄ）外国研究機関の視察，研究参加（３ヵ月未満）状況

なし

ｅ）外国研究機関への留学（３ヵ月以上）状況

なし

ｆ）その他

なし

（2）国内，地域活動

ａ）全国レベルの学会の主催

なし

ｂ）地方レベルの学会の主催

なし

ｃ）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

ｄ）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ．その他

なし

社会貢献活動

第３章　社会貢献活動

１．解剖学第一講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
できることは行った。

これから２年間の目標：
できることを行う。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助手　3，医員　0，大学院学生　0，研究生　1
05年度		教授　1，助教授　0，講師　0，助手　3，医員　0，大学院学生　1，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本解剖学会 日本神経眼科学会	評議員 理事	正村　和彦		1 日 1 日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	論文査読 J. Electronmicroscopy	査読	正村　和彦		3 日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	秋田大学医学部	非常勤講師	正村　和彦		1 日
05年度	秋田大学	非常勤講師	正村　和彦		1 日

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	弘前ホスピタリティーアカデミー	非常勤講師	正村　和彦		20 日
05年度	弘前ホスピタリティーアカデミー	非常勤講師	正村　和彦		20 日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	オタゴ大学解剖学教室	研 究 訪 問	正村　和彦		10日
05年度	オタゴ大学解剖学教室での共同研究	訪問研究員	浅野　義哉		11ヶ月

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

2．解剖学第二講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

1．学外医学教育に対し，放送大学の講義，コメディカル学生の講義，実習などにより貢献した。
2．弘前大学白菊会の事務局を担当し，1年間を通して様々な形で運営に協力した。
3．科学研究費審査委員として，また，研究成果の新聞紙上での発表などにより，社会貢献した。到達度約8割。

これから2年間の目標：

1．大学の社会貢献の一環として学外の医学教育にも可能な限り協力する。
2．篤志献体のための外部団体である弘前大学白菊会に協力する。
3．研究関連分野でも，成果のメディアを介しての発表等により，出来るだけ学外への貢献をしたい。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	第56回染色体学会	助　手	渡邉　誠二	弘前 実行委員	2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本学術振興会 科学研究費委員会	専門委員	加地　隆		14日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	放送大学	助教授	外崎　敬和	青森学習センター 非常勤講師	2日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	解剖学講義 解剖学見学実習	助　　手	渡邉　誠二	弘前医師会 高等看護学院 医学部	15日 1日
05年度	城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー	助　教　授	外崎　敬和	非常勤講師	1日
	弘前市医師会高等看護学院 城東学院	助　　手	渡邉　誠二	非常勤講師	16日 1日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前大学白菊会		加地　　隆 外崎　敬和 渡邉　誠二		
	役員会開催				1
	総会開催				1
	会報発行				
	事務局担当				通年
	東奥日報		加地　　隆	6.6	
05年度	弘前大学白菊会	教　　授 助　教　授 助　　手	加地　　隆 外崎　敬和 渡邉　誠二		
	役員会開催				1
	総会開催				1
	会報発行				
	事務局担当				通年
	学内外解剖学実習協力	(教　　授) 助　教　授 助　　手	(加地　　隆) 外崎　敬和 渡邉　誠二		
	医師会附属准看護学校 城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー				

3．生理学第一講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

50%

目標の一部は全く手付かずとなった。

これから2年間の目標：

基礎の立場から研究を発展させることで，社会貢献する。

関心のある企業との情報交換を積極的に進め，産学共同研究の機会があれば推進する。

地域共同センターを通じ，地域との連携の機会を探るよう心がける。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本生理学会幹事	教　授	泉井　亮		2 日
05年度	内分泌学会評議員 生理学会評議員	教　授	泉井　亮		2 日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	Pflugers Archiv 日本生理学会誌	教　授	泉井　亮		6 日 4 日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	1．弘前大学生涯学習教育研究センターシンポジウム「医療と倫理」 2．ときわ会講演「医療人に求められる倫理」	教　授	泉井　亮		1 日 1 日
05年度	ときわ会病院　「医療と倫理」 三八教育会館　「医療と倫理」	教　授	泉井　亮		1 日 1 日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	山形大学医学部第二生理学講座	教　授	泉井　亮		3 日
	秋田大学医学部にて講義	助教授	山田　勝也		4 日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	国立弘前病院	教　　授	泉井　　亮		30日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	MS WALK（多発性硬化症研究支援遠足）への参加	助　　手	木村　良一	留学先での活動	1 日

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

4．生理学第二講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

「社会貢献が地域にのみとらわれることなく，全国的・世界的な貢献ができるよう教室をあげて最善を尽くす」との目標を掲げたが，国際的トップジャーナルである J. Neurophysiology 誌の Editorial Board に任ぜられるとともに，日本学術振興会主催の大規模シンポジウムでの招待講演など，到達度は100% である。

これから２年間の目標：

これからも，社会貢献が地域にのみとらわれることなく，全国的・世界的な貢献ができるよう教室をあげて最善を尽くす。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本神経科学学会広報委員会 平成11年10月～平成14年2月	委　員	蔵田　潔	大阪	1 日
	日本神経科学学会電子化推進小委員会 平成14年2月～	委員長	蔵田　潔	大阪	1 日
	日本神経科学学会動物委員会 平成14年2月～	委　員	蔵田　潔	大阪	1 日
05年度	日本神経科学学会動物倫理委員会	委　員	蔵田　潔	横浜	1 日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	Journal of Neurophysiology	editorial board	蔵田　潔		20 回
	Cerebral Cortex				4 回
	Neuroscience Letters				2 回
	Neuroscience Research				4 回
	Japanese Journal of Physiology	editorial board			2 回
05年度	Journal of Neurophysiology	editorial board	蔵田　潔		16 回
	Cerebral Cortex				8 回
	Journal of Physiological Sciences	editorial board			2 回

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	文部科学省マカクザルバイオリソース委員会	委　員	蔵田　潔	東京	6 日
05年度	文部科学省マカクザルバイオリソース委員会	委　員	蔵田　潔	東京，岡崎市	5 日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	東北大学医学部 名古屋大学医学部	非常勤講師	蔵田　　潔	仙台 名古屋	2 日 1 日
05年度	名古屋大学医学部講義	非常勤講師	蔵田　　潔	名古屋	1 日
	大阪大学基礎工学部講義	非常勤講師	相澤　　寛	大阪	3 日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	乳がん検診	検診医	西澤　雄介		5日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	公立七戸病院	非常勤医師	西澤　雄介	七戸	48 日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	日本学術振興会ロンドン支部主催大規模シンポジウムでの招聘口演	教　　授	蔵田　　潔	ロンドン	6 日

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	TBS テレビ「探検！ホムンクルス」	教　　授	蔵田　　潔		4 回出演

5．生化学第一講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1．皮膚科学講座講師から生化学第一講座助教授に昇任したため，他地域病院での医療行為は不可能となったが，本学附属病院の診療講師として医療に貢献できている。また，他大学非常勤講師，論文査読，学会評議員，現在行っている研究の公開セミナーに参加･発表するなど，教育，学会への貢献，市民への啓蒙を行っており，目標に達している。（助教授　今　淳）

2．直接社会貢献をする機会は少ないと考えられるが，研究，教育に携わるものとして何ができるか，日々アンテナを張る。青森県における産学官共同事業および関連の集会に参加することにより，その達成度は90％と考える。（助手　柿崎育子）

これから２年間の目標：

1．できる限り，社会貢献（医療，学術面を通じて）を積極的に行う。（助教授　今　淳）

2．私自身が直接社会貢献をする機会は少ないと考えられるが，研究，教育に携わるものとして，また生化学第一講座の一員として何ができるか，日々アンテナを張る。青森県における産学官共同事業および関連の集会に参加する。（助手　柿崎育子）

3．自らの研究内容を，学術面のみの成熟にとどまらず，実際の人の役に立つ（臨床応用，産業化）へと繋げていくことを目標とする。（助手　山口真範）

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　1，講師　0，助手　2，医員　0，大学院学生　3，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	・日本生化学会（代議員） ・日本生化学会（評議員） ・日本糖質学会（評議員） ・日本結合組織学会（評議員）	教　授	高垣　啓一	横浜市 横浜市 東京都 東京都	1日 1日 1日 1日
	・日本結合組織学会（評議員）	助教授	今　淳	東京都	1日
05年度	・日本生化学会（評議員） ・日本糖質学会（評議員） ・日本結合組織学会（評議員）	教　授	高垣　啓一	横浜市 横浜市 東京都	1日 1日 1日
	・日本結合組織学会（評議員） ・日本研究皮膚科学会（評議員）	助教授	今　淳	横浜市 横浜市	1日 1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	第３回プロテオグリカン研究会	教　授	高垣　啓一	弘前市	1日
05年度	第４回プロテオグリカン研究会 第５回プロテオグリカン研究会 第６回プロテオグリカン研究会	教　授	高垣　啓一	弘前市 弘前市 弘前市	1日 1日 1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本結合組織学会編集委員会	教　授	高垣　啓一	東京都	1日
	学術雑誌審査員 （J Dermatol，Arch Dermatol Res）	助教授	今　淳		6日
05年度	日本結合組織学会編集委員会（TIGG）	教　授	高垣　啓一	東京都	1日
	学術雑誌審査員 （J Dermatol Sci，Arch Dermatol Res J Invest Dermatol）	助教授	今　淳		各7日
	査読（J Biol Chem 他）	助　手	柿崎　育子		各2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	・ポスター発表 高垣啓一 「プロテオグリカン研究拠点の構築」 見てみて，聞いてみて，触ってみて，弘前大学(2004年) ・ポスター発表 Rajeshwara N Achur, Keiichi Takagaki, Arivalagan Muthusamy, Ikuko Kakizaki, Subbarao V Madhunapantula, and D. Channe Gowda LACENTAL MALARIA: STRUCTURAL ELEMENTS OF CHONDROITIN 4-SULFATE DODECASACCHARIDE INVOLVED IN THE ADHESION OF PLASMODIUM FALCIPARUM-INFECTED ERYTHROCYTES 見てみて，聞いてみて，触ってみて，弘前大学(2004年) ・ポスター発表 今淳，工藤由佳，伊東智子，吉原秀一，高垣啓一 「恐ろしいほくろの癌“メラノーマ”の治療薬の発掘」 見てみて，聞いてみて，触ってみて，弘前大学(2004年) ・ポスター発表 今淳，伊東智子，工藤由佳，吉原秀一，高垣啓一 「皮膚の“シワ”は何故できるのか？：Ⅶ型コラーゲン遺伝子の発現調節機構からみた“シワ”の世界」 見てみて，聞いてみて，触ってみて，弘前大学(2004年) ・ポスター発表 柿崎育子，児島薫，高垣啓一，遠藤正彦，神奈木玲児，安田忠司，三田知花，木全弘治，板野直樹 「ヒアルロン酸合成抑制剤に関する研究」 見てみて，聞いてみて，触ってみて，弘前大学(2004年) ・ポスター発表 児島薫，柿崎育子，今淳，高垣啓一 「質量分析計によるグリコサミノグリカン糖鎖の分析〈質量数から読みとれる糖鎖構造情報〉」 見てみて，聞いてみて，触ってみて，弘前大学(2004年)	教　授 助教授 助　手	高垣　啓一 今　淳 柿崎　育子	弘前市	1日
	・研究成果発表 高垣啓一 「プロテオグリカンに関する糖鎖工学的道具としての酵素の開発」，第３回プロテオグリカン研究会	教　授	高垣　啓一	弘前市	1日
	・研究成果発表 峯田貴，牧野英司、若松 陽雅，菅原卓，藤哲，高垣 啓一 「原子間力顕微鏡を用いたヒアルロン酸の分子像観察」，第３回プロテオグリカン研究会	教　授	高垣　啓一	弘前市	
	・研究成果発表 今淳 「4-methylumbelliferon 誘導ヒアルロン酸ノックダウンマトリックスの研究：各種病態形成機構の解明および医療応用」，第３回プロテオグリカン研究会	助教授	今　淳	弘前市	1日
05年度	「見てみて，聞いてみて，触ってみて，弘前大学」でのポスター発表	教　授 助教授 助　手	高垣　啓一 今　淳 山口　真範	八戸市	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	・ナノテクノロジー推進委員会（青森県） ・特別研究員等審査会専門委員会	教　授	高垣　啓一		3日 3日
05年度	・ 特別研究員等審査会専門委員会委員（独立行政法人 日本学術振興会） ・国際事業委員会書面審査員（独立行政法人 日本学術振興会） ・青森県プロテオグリカンネットワーク推進会議委員（青森県）	教　授	高垣　啓一		1日 1日 1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	・プレゼンテーション 「弘前大学医学部医学科での産学連携事例のご紹介」 第1回コラボ産学官交流会	教　授	高垣　啓一	東京都	2日
	・学術講演 「糖鎖創薬を拓く－プロテオグリカン糖鎖の分子設計と生理機能－」	教　授	高垣　啓一	徳島市 大塚製薬株式会社 徳島研究所	3日
	・パネルディスカッション 都市エリア産学官連携促進事業「プロテオグリカン応用研究プロジェクト（弘前エリア）」 地域発選択テクノフェア2004－クラスター形成に向けて－	教　授	高垣　啓一	東京都	2日
	・パネルディスカッション 「弘前大学，知的財産創出本部の状況」 知的財産管理シンポジウム2005東京	教　授	高垣　啓一	東京都	2日
	・マッチングプレゼンテーション 「新規機能性素材としてのサケ鼻軟骨プロテオグリカンの開発」（青森県都市エリア事業） 2005TOHOKU クラスターコラボレーション	教　授	高垣　啓一	仙台市	1日
05年度	・第4回国際バイオ EXPO「大学・国公立大学研究所による研究成果フォーラム」（プレゼンテーション，ポスター展示）	教　授	高垣　啓一	東京都	2日
	・イノベーションジャパン2005－大学見本市（パネル紹介）	教　授	高垣　啓一	東京都	2日
	・平成17年度東北地域クラスター推進会議	教　授	高垣　啓一	郡山市	2日
	・地域先端テクノフェア2005	教　授	高垣　啓一	東京都	3日
	・あおもりインダストリアルフォーラム（パネル紹介）	教　授	高垣　啓一	東京都	2日
	・TOHOKU クラスターコラボレーション（マッチング・プレゼンテーション）	教　授	高垣　啓一	東京都	1日
	（特許取得） ・特許第3731150号 発明の名称：軟骨型プロテオグリカンの精製方法 登録年月日：2005年10月21日	教　授	高垣　啓一		
	・TRANSGLYCOSYLATION METHOD AND PROTEIN HAVING TRANS GLYCOSYLATION ACTIVITY (Application No. 11/233,174) 国際特許；アメリカ	助　手	山口　真範		
	・Transglycosylation method and method for producing glycoprotein. (Application No. 0520823.0-) 国際特許；ヨーロッパ	助　手	山口　真範		
	（出願中） 出願番号：特願2005-251980 発明の名称：ヒアルロン酸合成阻害剤 出願年月日：2005年8月31日	教　授 助　手	高垣　啓一 諸橋　一 今　淳 吉原　秀一 遠藤　正彦		

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	・弘前都市エリア産学官連携事業 第１回研究交流会（事業概要説明会，研究内容紹介）	教　授 助教授 助　手	高垣　啓一 今　淳 柿崎　育子	弘前市	１日
	・弘前都市エリア産学官連携事業 第２回研究交流会（ニーズ調査（中間発表），出願特許調査，可能性試験発表）			弘前市	１日
	・弘前都市エリア産学官連携事業 第３回研究交流会（可能性試験発表）			弘前市	１日
	・弘前都市エリア産学官連携事業 第５回研究交流会（可能性試験発表（中間発表））			弘前市	１日
	・弘前都市エリア産学官連携事業 第６回研究交流会（可能性試験発表（中間発表））			弘前市	１日
	・弘前都市エリア産学官連携事業 平成16年度成果報告会			弘前市	１日
05年度	・弘前市エリア産学官連携促進事業「プロテオグリカン応用研究プロジェクト」第８回研究交流会	教　授 助教授	高垣　啓一 今　淳	弘前市	１日
	・弘前市エリア産学官連携促進事業「プロテオグリカン応用研究プロジェクト」第９回研究交流会	助　手 助　手	柿崎　育子 山口　真範	弘前市	１日
	・弘前市エリア産学官連携促進事業「プロテオグリカン応用研究プロジェクト」第10回研究交流会			弘前市	１日
	・弘前市エリア産学官連携促進事業「プロテオグリカン応用研究プロジェクト」第11回研究交流会			弘前市	１日
	・弘前市エリア産学官連携促進事業「プロテオグリカン応用研究プロジェクト」平成17年度成果報告会			弘前市	１日
	（技術移転・相談） ・大塚製薬株式会社分子医科学研究所 研究員　泉　和成	教　授	高垣　啓一	弘前市	２日
	・大塚化学株式会社探索研究所 執行役員所長　笹岡三千雄 研究員　朝井　洋明			弘前市	１日
	・味の素ヘルシーサプライ株式会社 取締役香粧事業部長　川角和豊			弘前市	１日
	・グライコジャパン株式会社 代表取締役　薮本洋子			東京都	２日
	・株式会社角弘　釧路営業所付属釧路研究所 主任　安田　均			釧路市	４日
	・信州大学繊維学部 教授　阿部　康治			長野県上田市	４日
	・株式会社ニチロ　中央研究所バイオ研究所 主任　西村　和也			弘前市	１日
	・わかもと製薬株式会社研究開発本部相模研究所消化器研究室 理事　高橋　良樹			東京都	１日

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	・千葉大学薬学部　大学院特別講義 ・東北大学加齢学研究所セミナー	教　授	高垣　啓一	千葉県 仙台市	２日 ２日
	・青森保健大学理学療法科「臨床遺伝学」講義	助教授	今　淳	青森市	７日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	・財団法人双仁会厚生病院附属看護学院看護学科「生化学」講義	教　授	高垣　啓一	黒石市	８日
	・青森保健大学理学療法科「臨床遺伝学」講義	助教授	今　淳	青森市	６日

05年度	・第29回全国高等学校総合文化祭・自然科学部門での講義	教　　授	高垣　啓一	むつ市	3日
	・財団法人双仁会厚生病院附属看護学院看護学科「生化学」講義	教　　授	高垣　啓一	黒石市	8日
	・青森保健大学理学療法科「臨床遺伝学」講義	助　教　授	今　　淳	青森市	7日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	新聞報道 ・日経新聞（2004年4月14日） 「サケ皮コラーゲンで培養ゲル－細胞の増殖力2倍に」	教　　授	高垣　啓一		1日
	・産経新聞（2004年5月10日） 「サケの頭，医薬品に応用」	教　　授	高垣　啓一		1日
	・読売新聞（2004年10月31日） 「青森発新産業なるか－軟骨形成物質プロテオグリカン」	教　　授	高垣　啓一		1日
	その他 ・「知的財産管理シンポジウム」 とっきょ，No. 367, 2004.3.	教　　授	高垣　啓一		1日
	・弘前大学広報誌 ［シリーズ］花開く研究「世界初の精製技術，サケの鼻軟骨からプロテオグリカンを大量に抽出」 ひろだい，vol. 4, 2004,10.	教　　授	高垣　啓一		1日
05年度	・青森県広報番組ＡＢＡ「メッセージ・大学地域資源を活かそう」の製作のため「プロテオグリカン研究」に関する取材および撮影（ＡＢＡ，2005年6月18日放送）	教　　授	高垣　啓一		1日
	・「都市エリア産学官連携事業（弘前地域）」に関する取材（東奥日報，2005年7月10日掲載）	教　　授	高垣　啓一		1日
	・「都市エリア産学官連携事業（弘前地域）」に関する取材（毎日新聞，2005年10月29日掲載）	教　　授	高垣　啓一		1日

6．生化学第二講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

弘前ヘアレスラットの原因遺伝子の解明に向けて，重要な知見を得ることができた。

遺伝子多型の高感受性ラットを用いて化学物質の発がん性を短期間で検索できる方法を開発した。これらの成果は，製薬，化学，食品工業など広い分野に影響を与えることが期待され，社会への貢献としても重要である。

これから２年間の目標：

教室の研究成果を社会に還元し，成果の活用を通して，社会及び地域に貢献することを目指す。

具体的な目標として，

1　発がん高感受性ラットを用いた化学物質の発がん性の短期間での検索法の開発

2　弘前ヘアレスラットの原因遺伝子の解明と発毛促進因子のスクリーニングへの活用

などの研究を通して，その実践を図るとともに，ノウハウを学ぶ。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　5，研究生　1
05年度		教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　4，研究生　1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本分子腫瘍マーカー研究会	世　話　人	土田　成紀	学会運営	1日
	日本生化学会	評　議　員	土田　成紀	学会運営	1日
	弘前医学会	評　議　員	土田　成紀	学会運営	1日
05年度	日本分子腫瘍マーカー研究会	世　話　人	土田　成紀	学会運営	1日
	日本生化学会	支　部　長	土田　成紀	学会運営	3日
	弘前医学会	評　議　員	土田　成紀	学会運営	1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	第９回弘前国際医学フォーラム	事務局長	土田　成紀	学会運営	15日
	第９回弘前国際医学フォーラム	準備委員	山田　俊幸	学会運営	20日
	第56回日本染色体学会	準備委員	山田　俊幸	学会運営	10日
	第９回弘前国際医学フォーラム	準備委員	清水　武史	学会運営	30日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	弘前医学		土田　成紀	査読	1日
	Cancer Science		土田　成紀	査読	2日
	Tohoku Journal of Experimental Medicine		土田　成紀	査読	2日
	Biochimica Biophysica Acta		土田　成紀	査読	2日
	Biochem Biophys Res Commun		土田　成紀	査読	2日
	British Journal of Cancer		土田　成紀	査読	1日
	Chemotherapy		土田　成紀	査読	2日
	J Cancer Res Clin Oncology		土田　成紀	査読	1日
	Biochem Pharmacol		土田　成紀	査読	1日
05年度	弘前医学		土田　成紀	査読	1日
	Cancer Science		土田　成紀	査読	1日
	Biochimica Biophysica Acta		土田　成紀	査読	1日
	Biochem Biophys Res Commun		土田　成紀	査読	2日
	Journal of Biochemistry		土田　成紀	査読	1日
	British Journal of Cancer		土田　成紀	査読	1日

05年度	Chemotherapy		土田　成紀	査読	1日
	Journal Cancer Res Clin Oncol		土田　成紀	査読	1日
	Biochem Pharmacology		土田　成紀	査読	1日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	弘前大学祭　市民公開講座	講　　師	土田　成紀	講演	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	SD ラットの遺伝子多型を利用したペルオキシソーム増殖剤の肝発がん性の短期検索法（日本化学工業協会長期自主研究）	教　　授	土田　成紀	受託研究	60日
	アンジオテンシン変換酵素阻害物質を有するカボチャ成分による脂肪蓄積の抑制および記憶保持増強効果の検討	助　教　授	早狩　　誠	民間との共同研究	15日
05年度	地域共同研究センター分化会		土田　成紀		2日
	産学官連携フェアー in 八戸		土田　成紀	ポスター発表	1日

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本化学工業協会長期自主研究報告会	教　　授	土田　成紀	研究成果発表	1日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	新関稔先生退職記念事業	実 行 委 員	清水　武史		30日

7．薬理学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

（目標）

地域の諸施設との共同研究をすすめ，地域活性化へ貢献する。

（到達度）

青森県工業総合研究センターとの共同研究が進展し，学会発表を行い，論文投稿準備に入った。到達度80％

これから２年間の目標：

・引き続き，青森県工業総合研究センターと共同研究を進める。

・研究成果を生かした地域の啓蒙活動（市民公開講座等）を積極的に進める。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　１，助教授　１，講師　０，助手　２，医員　０，大学院学生　４，研究生　２
05年度		教授　１，助教授　１，講師　０，助手　２，医員　０，大学院学生　４，研究生　２

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本薬理学会	評　議　員	元村　　成		１日
	日本心電学会	評　議　員	元村　　成		１日
	日本心脈管作動物質学会	評　議　員	元村　　成		１日
	日本薬理学会	評　議　員	古川　賢一		２日
	日本薬学会東北支部	委　　員	古川　賢一		２日
	日本薬理学会	評　議　員	瀬谷　和彦		２日
05年度	日本薬理学会	評　議　員	元村　　成		１日
	日本心電学会	評　議　員	元村　　成		１日
	日本心脈管作動物質学会	評　議　員	元村　　成		１日
	日本薬理学会	評　議　員	古川　賢一		２日
	日本薬学会東北支部	委　　員	古川　賢一		１日
	日本薬理学会	評　議　員	瀬谷　和彦		２日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	J Pharmacol Sci	査　　読	元村　　成		２日
	J Cardiovasc Pharmacol				２日
	1. Journal of Pharmacological Science	査　　読	古川　賢一		３日
	2. Pharmacology				２日
	3. Biological Pharmaceutical Bulletin				２日
	4. British Journal of Pharmacology				４日
05年度	J Pharmacol Sci	査　　読	元村　　成		２日
	1. Journal of Pharmacological Science	査　　読	古川　賢一		３日
	2. Biochemical Pharmacology				３日
	3. Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology				５日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	薬事・食品衛生審議会	専門委員	元村　　成	厚生労働省医薬局	1日
05年度	薬事・食品衛生審議会	専門委員	元村　　成	厚生労働省医薬局	1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	特許出願（出願番号：特願2006-58368）	助教授	古川　賢一		
	特許出願（出願番号：特願2006-58368）	助　　手	瀬谷　和彦		

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	山梨医科大学 福島県立医科大学	非常勤講師 非常勤講師	元村　　成 元村　　成		1日 1日
05年度	札幌医科大学	非常勤講師	元村　　成		1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県要約筆記者養成講座	講　　師	瀬谷　和彦		5日
05年度	国立弘前病院附属看護学校	非常勤講師	元村　　成		15日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

8．病理学第一講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

専門分野の学会活動での貢献は十分であった。地域医療への貢献も少ない人数で十分行った。また，幅広い地域での病理診断を通しての地域医療への貢献，学生の教育のみならず保健学科の病理実習や，地域臨床検査技師への指導なども行い広く活動した。目標は，限られた時間で行える以上の，充分な達成をみたと考えている。

これから2年間の目標：

限られた人材で，学会活動に貢献するよう努める。

保健学科，関連する臨床検査技師教育，指導など人材育成をめざす。また，大学での研究成果を地域医療に還元できるよう努力する。

病理診断学および病理医の業務について地域社会に認知・普及させる。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　1，助手　1，医員　1，大学院学生　1，研究生　2
05年度		教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　1，大学院学生　1，研究生　1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本病理学会	評　議　員 東北支部学術委員	八木橋操六		10日
	日本糖尿病学会 日本糖尿病合併症学会 日本末梢神経学会 日本糖尿病動物研究会	評　議　員 幹事・評議員 理事・評議員 副会長・評議員	八木橋操六		4日 4日 4日 4日
	北日本病理研究会 糖尿病性神経障害を考える会	代表世話人 代表世話人	八木橋操六		4日
	粘膜下腫瘍研究会	世　話　人	和田　龍一		2日
05年度	日本病理学会	評　議　員 東北支部学術委員	八木橋操六		4日 8日
	日本糖尿病学会 日本糖尿病合併症学会 日本末梢神経学会 日本糖尿病動物研究会	評　議　員 幹事・評議員 理事・評議員 副会長・評議員	八木橋操六		6日 8日 8日 8日
	北日本病理研究会 糖尿病性神経障害を考える会	代表世話人 代表世話人	八木橋操六		2日 6日
	粘膜下腫瘍研究会	世　話　人	和田　龍一		2日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	北日本病理研究会	世　話　人	八木橋操六		4日
05年度	北日本病理研究会	世　話　人	八木橋操六		1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	Virchows Arch（欧州病理学会誌）	編 集 委 員	八木橋操六		8日
	Exp Diab Res（国際実験糖尿病学会誌）	編 集 委 員			6日
	末梢神経（日本末梢神経学会誌）	編 集 委 員			8日
	弘前医学	副編集委員長			4日
	Diabetes	査　　読			4日
	Diabetes Care	査　　読			6日
	Diabetologia	査　　読			6日
	Diab Res Clin Prac	査　　読			6日

04年度	J Diabetes Compl	査　　読	八木橋操六		2日
	Endocrine J	査　　読			2日
	Diabetes Res Metab Rev	査　　読			4日
	Intern Med	査　　読			2日
	Mex Intern Med 論文査読	助　教　授	和田　龍一		7日
05年度	Virchows Arch（欧州病理学会誌）	編集委員	八木橋操六		12日
	Exp Diab Res（国際実験糖尿病学会誌）	編集委員			6日
	末梢神経（日本末梢神経学会誌）	編集委員			10日
	弘前医学	副編集委員長			6日
	Diabetes	査　　読			6日
	Diabetes Care	査　　読			8日
	Diabetologia	査　　読			8日
	Diab Res Clin Prac	査　　読			15日
	J Diabetes Compl	査　　読			4日
	Endocrine J	査　　読			4日
	Diabetes Res Metab Rev	査　　読			8日
	Intern Med	査　　読			4日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	Iowa 大学医学部内科学教室 Lecture, Pathogenetic mechanisms of diabetic neuropathy and perspective for its treatment. University of Iowa, Iowa city, June 2, 2004	客員教授	八木橋操六		1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	黒石市国保黒石病院	非常勤医師	八木橋操六		隔週 1回
	秋田社会保険病院 北秋中央病院	非常勤医師	和田　龍一		あわせて 週1日
	八戸市医師会臨床検査センター 三沢市立三沢病院	非常勤医師	山岸晋一朗		53日 53日
05年度	黒石市国保黒石病院 北秋中央病院 秋田社会保険病院	非常勤医師	八木橋操六		月3回 月1回 月1回

05年度	秋田社会保険病院 北秋中央病院	非　常　勤	和田　龍一		週1日
	青森労災病院 八戸市立市民病院 米内沢総合病院	非常勤医師	水上　浩哉		24日 24日 12日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

９．病理学第二講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

患者検体の正確で，迅速かつ丁寧な病理診断は，質の高い医療に直結するという信念のもと，日々の病理診断を通じて，地域医療に貢献する。また，医学科にとどまらず，医療全体における教育分野でも病理学は重要な位置を占めており，他施設からの要望に応えるため，本務に支障のない範囲で，学外での病理学教育に従事する。このような社会貢献活動は，本務にも有益な経験が得られるものと考える。

2004年８月に教授着任に伴い当講座は新たなスタートをしたが，上記の目標に対する到達度は，90％と判断される。

これから２年間の目標：

上記の通り，講座再立ち上げの時期を乗り越え，今後２年間は，社会貢献活動の面でも，研究面と同様に一層の充実する時期と位置づけられる。⑴患者検体の正確で，迅速かつ丁寧な病理診断を，質の高い医療に直結させること，⑵教育分野での病理学の重要性に鑑み，他施設からの要望に応えるため，本務に支障のない範囲で，学外での病理学教育に従事する。このような社会貢献活動は，本務にも有益な経験が得られるものと考える。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　2，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　2，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本病理学会　病理専門医試験委員	教　授	鬼島　宏		２日
05年度	日本病理学会　病理専門医試験委員	教　授	鬼島　宏		３日
	日本病理学会　学術評議員	教　授	鬼島　宏		２日
	日本臨床細胞学会　評議員	教　授	鬼島　宏		１日
	日本病理学会　学術評議員	講　師	楠美　智巳		０日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	Pathology International, Editorial Boad	教　授	鬼島　宏		２日
	International Journal of Molecular Medicine, Editorial Academy	教　授	鬼島　宏		１日
	Oncology Reports, Editorial Boad	教　授	鬼島　宏		１日
05年度	Pathology International, Editorial Boad	教　授	鬼島　宏		２日
	International Journal of Molecular Medicine, Editorial Academy	教　授	鬼島　宏		１日
	Oncology Reports, Editorial Boad	教　授	鬼島　宏		１日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	東海大学医学部　非常勤講師	教　　授	鬼島　　宏		9日
05年度	東海大学医学部　非常勤講師	教　　授	鬼島　　宏		1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	五所川原市立高等看護学院	助　　手	楠美　智巳	非常勤講師	15日
05年度	五所川原市立高等看護学院	講　　師	楠美　智巳	非常勤講師	15日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	五所川原市立西北中央病院	助　　手	楠美　智巳		約50日
05年度	五所川原市立西北中央病院	教　　授	鬼島　　宏		50日
	五所川原市立西北中央病院	講　　師	楠美　智巳		50日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	病理解剖	教　　授 講　　師 助　　手	鬼島　　宏 楠美　智巳 佐藤　冬樹	12件	24日

10. 細菌学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

弘前大学医学部の教員として関連学会での活動を積極的に行った。
研究・教育を通して社会貢献を行うべく努力した。
特許取得など，新産業基盤創成へ向けて努力し，成果を上げつつある。
中国大学・企業との共同研究を通して国際貢献を行った。
病院診療を通じて地域医療に貢献した。

これから２年間の目標：

弘前大学医学部の教員として関連学会での活動を積極的に行う。
研究・教育を通して社会貢献を行う。
特許取得など，新産業基盤創成へ向けて実績をあげる。
中国大学・企業との共同研究を通して国際貢献を行う。
病院診療を通じて地域医療に貢献する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　１，助教授　０，講師　１，助手　２，医員　０，大学院学生　３，研究生　０
05年度		教授　１，助教授　０，講師　１，助手　２，医員　０，大学院学生　３，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本細菌学会理事会	教　授	中根　明夫	理　事	６日
	日本細菌学会学術賞選考委員会			委　員	１日
	日本細菌学会東北支部総会			支部長	１日
	日本細菌学会支部長会			支部長	１日
	日本インターフェロン・サイトカイン学会幹事会			幹　事	１日
05年度	日本細菌学会理事会	教　授	中根　明夫	理　事	４日
	日本細菌学会学術賞選考委員会			委　員	１日
	日本インターフェロン・サイトカイン学会幹事会			幹　事	１日

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	第69回日本インターフェロン・サイトカイン学会	教　授	中根　明夫	学術集会長	３日
05年度	第59回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会	教　授	中根　明夫	学術集会長	２日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	Int Immunol	教　授	中根　明夫	査　読	１日
	Cell Immunol				２日
	FEMS Microbiol Lett				１日
	Microbiol Immunol				１日
	J Antimicrob Chemother				１日
	弘前医学				２日
05年度	FEMS Microbiol Lett	教　授	中根　明夫	reviewer	３日
	Microbiol Pathog				１日
	FEMS Immunol Med Microbiol				１日
	J Antimicrob Chemother				１日
	J Food Sci Technol				１日
	Vaccine				１日
	Infect Immun				１日
	弘前医学				１日

05年度	Electronic J Biotechnol	講　　師	胡　東良	reviewer	1日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	弘前大学医学部医学科公開講座	教　　授	中根　明夫	講　師	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県感染症発生動向調査企画委員会	教　　授	中根　明夫	委　員	1日
05年度	青森県感染症発生動向調査企画委員会	教　　授	中根　明夫	委　員	0日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	組換えエンテロトキシンCおよびこれを用いたワクチン	教　　授 講　　師	中根　明夫 胡　東良	特　許 特　許	1日
	Ⅳ型アレルギー反応抑制	教　　授	中根　明夫	特　許	1日
05年度	プロテオグリカンの新規医薬用途	教　　授 助　　手	中根　明夫 差波　拓志	特許出願	1日 1日
	抗真菌活性を示す機能性イソプレノイド類の開発	教　　授	中根　明夫	特許出願	1日

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	見てみて，聞いてみて，触ってみて，弘前大学	教　　授	中根　明夫		1日

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	北海道大学 秋田大学医学部 岩手大学農学部 大阪大学医学部 秋田桂城短期大学	教　　授	中根　明夫	非常勤講師	1日 1日 1日 1日 23日
05年度	弘前大学教育学部 北海道大学 秋田大学医学部 岩手大学農学部 秋田看護福祉大学	教　　授	中根　明夫	非常勤講師	15日 1日 1日 1日 15日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	白生会胃腸病院	助　　手	差波　拓志	非常勤医師	48日
05年度	白生会胃腸病院	助　　手	差波　拓志	非常勤医師	48日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	中華人民共和国復旦大学セミナー	教　　授	中根　明夫	兼任教授	2日
	姉妹校の医学部訪問	講　　師	胡　東良	通　訳	1日

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前市成人祭呈茶	教　　授	中根　明夫		1日
	弘前大学国際音楽フェスティバル	助　　手	差波　拓志		1日
05年度	弘前市成人祭呈茶	教　　授	中根　明夫	弘前大学医学部 茶道部顧問	1日

11. 衛生学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　5，研究生　9

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	体力・栄養・免疫学会	理　　事	中路　重之		1日
	弘前医学会	評　議　員			3日
	日本機能性食品医用学会	評　議　員			1日
	日本衛生学会	評　議　員			1日
	日本体力医学会	評　議　員			1日
	日本レーザー治療学会	評　議　員			1日
	日本レーザー・スポーツ学会	評　議　員			2日
	日本食物繊維学会	評　議　員			1日
	青森県21世紀栄養を考える会	世　話　人			1日
	青森県スポーツ医学研究会	世　話　人			1日
	体力・栄養・免疫学会	理　　事	梅田　孝		2日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	体力・栄養・免疫学雑誌	編集委員	中路　重之		18日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森胃腸同好会	非常勤講師	中路　重之		1日
	東奥日報社研修会講演				1日
	青森県安全衛生会議講演				1日
	五所川原高齢者大学講演				1日
	青森県スポーツアドバイザリー事業	非常勤講師	梅田　孝		4日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県医師会産業医委員会	委　　員	中路　重之		1日
	青森県保健・医療・福祉包括ケアシステム推進協議会	委　　員			2日
	青森県成人病検診管理指導協議会（成人病登録・評価部委員）	委　員　長			1日
	津軽地域保健医療推進協議会保健対策部会	委　　員			1日
	弘前大学医師会	理　　事			1日
	青森県小児がん等がん調査委員会	委　　員			1日
	青森県スポーツドクターの会	理　　事			1日
	青森産業保健推進センター	相　談　員			24日
	青森労働局	労働衛生指導医			1日
	青森県環境審議会	委　　員			1日

04年度	健康寿命アップ会議 弘前保健所運営協議会	議　　長 委　　員	中路　重之		2日 1日
	青森県体育協会スポーツ科学委員会 青森県小児がん等実務検討委員会	委　　員 委　　員	梅田　　孝		5日 4日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	弘前大学公開講座	非常勤講師	中路　重之		2日
	21世紀教育「健康と運動の科学」	助　　手	梅田　　孝		2日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	衛生管理者受験準備講習会 安全衛生推進者養成講習会	非常勤講師	中路　重之		3日 4日
	弘前市医師会立高等看護学院	非常勤講師	梅田　　孝		10日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	木造成人病センター	非常勤講師	中路　重之		50日
	弘前記念病院非常勤スポーツアドバイザー なかざわスポーツクリニック	非常勤スポーツアドバイザー 非常勤スポーツアドバイザー	梅田　　孝		48日 24日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

12. 公衆衛生学講座　（資料なし）

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　０，講師　０，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

（２）学会などの開催

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

13. 社会医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

（前回）講義のなかで医師・医学部と社会のつながりの重要性を強調していきたい。また実習（自由研究）を通じてもそのような場面に直面できるような設定を試みたい，という目標に対しては，「青森県民の健康を考える」というテーマの実習を行い，学生の達成感，満足感も高かったため（授業評価アンケートによる）ほぼ達成できたと考える。また，その際，青森県の主要な関係者と学生を直接面談させたため，学生の地域保健に対する意識も高まった。

これから２年間の目標：

地域保健（県の寿命対策，岩木健康増進プロジェクト，地域包括ケアなど），産業保健・精神保健（青森産業保健推進センター相談員），学校保健（岩木健康増進プロジェクト）に積極的にかかわり，その発展に寄与したい。（中路）

現在進めているスポーツ医学及び健康科学の研究を学外の各機関と連携し，情報交換等を行いながらより実践したものとしていきたい。また，これに関して現在集積しているデータ及びこれから得られるデータを，これまで同様，スポーツ指導現場並びに教育現場，地域保健に活用し，スポーツ選手の健康管理，選手強化，地域保健活動に役立つものとしたいと考えている。（梅田）

１．学外の医学教育に対しても可能な限り協力する。

２．地域医療のあり方について提言していく。

３．学会役員として学会の運営に協力する。（高橋）

【研究人員】

05年度	研究人員	教授　1，助教授　0.5，講師　0.5，助手　1，医員　0，大学院学生　１５，研究生　8

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	体力・栄養・免疫学会	理　事	中路　重之		1日
	民族衛生学会	評議員			1日
	弘前医学会	評議員			3日
	日本機能性食品医用学会	評議員			1日
	日本衛生学会	評議員			1日
	日本体力医学会	評議員			1日
	日本レーザー治療学会	評議員			1日
	日本レーザー・スポーツ医学会	評議員			2日
	日本食物繊維学会	評議員			1日
	青森県21世紀栄養を考える会	世話人			1日
	青森県スポーツ医学研究会	世話人			1日
	弘前国際フォーラム	世話人			8日
	体力・栄養・免疫学会	理　事	梅田　孝	山口	2日
	日本レーザー・スポーツ医学会	理　事		弘前	2日
	日本衛生学会		高橋　一平		1日
	日本公衆衛生学会				1日
	日本整形外科学会				1日
	日本体力医学会				1日
	日本リハビリテーション学会				1日

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	日本レーザー・スポーツ医学会	評議員	中路　重之	弘前	2日
	日本レーザー・スポーツ医学会	理　事	梅田　孝	弘前	2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	体力・栄養・免疫学雑誌 （JOURNAL OF PHYSICAL FITNESS, NUTRITION AND IMMUNOLOGY）	編 集 委 員	中路　重之	審査，編集	18日
	体力・栄養・免疫学雑誌 （JOURNAL OF PHYSICAL FITNESS, NUTRITION AND IMMUNOLOGY）		高橋　一平	査読	3日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	岩木町高齢者大学開校式講演「岩木町民の寿命について」	非常勤講師	中路　重之		1日
	鳴海病院健康講座「最近のがんの動向」				1日
	エフエムアップルウェーブ異人館「岩木プロジェクトについて」				1日
	金木町高齢者大学開校式講演「生活習慣病を考える」				1日
	深浦町健康講演「寿命と健康」				1日
	岩木町健康祭り講演会「岩木町民が健康で長生きするために：プロジェクト調査の結果より」				1日
	三沢市公開講演会「青森県民の寿命について」				1日
	鰺ヶ沢町健康祭り講演会「タバコと健康」				1日
	青森市医師会講演会「青森県民の寿命について」				1日
	鰺ヶ沢公開講演会「寿命を延ばすために」				1日
	快適職場・健康づくり推進大会講演会「青森県労働者のメンタルヘルス」				1日
	弘前市医師会講演会「青森県民の寿命を考える」2005年12月12日				1日
	青森県スポーツアドバイザリー事業	非常勤講師	梅田　　孝	岩木町	1日
	青森県スポーツアドバイザリー事業			八戸市	1日
	青森県スポーツアドバイザリー事業			むつ市	1日
	青森県スポーツアドバイザリー事業			十和田市	1日
	大鰐町生涯教育推進事業			大鰐町	1日
	弘前大学公開講座			三沢市	1日
	弘前大学公開講座			十和田市	1日
	青森県産業医研修会			青森市	1日
	田舎館院内感染学習会での講演	非常勤講師	高橋　一平	田舎館村	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	青森県医師会産業医委員会	委　　員	中路　重之		1日
	青森県保健・医療・福祉包括ケアシステム推進協議会	委　　員			2日
	青森県成人病検診管理指導協議会（成人病登録・評価部委員）	委 員 長			1日
	津軽地域保健医療推進協議会保健対策部会	委　　員			1日
	弘前大学医師会	理　　事			1日
	青森県小児がん等がん調査委員会	委　　員			1日
	青森県スポーツドクターの会	理　　事			24日
	青森産業保健推進センター	相 談 員			1日
	青森労働局	労働衛生指導医			
	青森県環境審議会	委　　員			1日
	健康寿命アップ会議	議　　長			2日
	弘前保健所運営協議会	委　　員			1日
	青森県スポーツアドバイザー	非常勤講師	梅田　　孝		4日
	青森県小児がん等実務検討委員会	委　　員		弘前市	4日
	青森県健康寿命アップ計画推進委員会	委　　員		青森市	2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	秋田大学大学院講義「大腸癌と生活習慣」 大阪大学大学院講義「好中球機能」 放送大学講義「ライフスタイルと寿命について」	非常勤講師	中路　重之		1日 1日 2日
	運動スポーツ医学 21世紀教育「健康と運動の科学」	非常勤講師	梅田　　孝		10日 2日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	安全衛生推進者養成講習会「酸素欠乏症」 産業医研修会「産業保健からみた青森県民の寿命」 理化学研究所研修会「食物繊維研究のトピック」 安全衛生推進者養成講習会「労働管理」 青森胃腸同好会「癌登録は何をもたらしてくれるか」 産業医研修会「青森県職域におけるメンタルス」	非常勤講師	中路　重之		1日 1日 1日 1日 1日 1日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	弘前市健康診断	非常勤医師	高橋　一平		5日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	木造成人病センター	非常勤医師	中路　重之		50日
	弘前記念病院非常勤スポーツアドバイザー なかざわスポーツクリニック	非常勤スポーツアドバイザー 非常勤スポーツアドバイザー	梅田　　孝	弘前市 八戸市	48日 24日
	慈仁会尾野病院	整形外科	高橋　一平		48日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	「ドクター中路の社会医学講座」 （朝日新聞青森県版）		中路　重之		6日

14. 寄生虫学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
寄生虫学の研究室として地域の医療に貢献できた。

これから２年間の目標：
引き続き寄生虫の診断などを通して社会に貢献したい。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	日本寄生虫学会	教　　授	神谷　晴夫	東京	4日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	寄生虫検査依頼	教授 講師 助手	神谷　晴夫 佐藤　　宏 長内　理大		計20日

15. 法医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1．青森県内唯一の異状死体解剖検査機関として，青森県警察本部，青森県各警察署・第２管区海上保安本部青森海上保安部・八戸海上保安部，陸上自衛隊警務部，海上自衛隊警務部からの司法鑑定の要請に適切に対応出来るよう努力する。(100/100)

2．医学と社会との接点・窓口として，地域からの医療貢献の求めや法医学的要請に出来る限り応えられるよう努力する。(80/100)

3．実りのある教育および地域社会への貢献。(80/100)

これから２年間の目標：

1．青森県内唯一の異状死体解剖検査機関として，青森県警察本部，青森県各警察署・第２管区海上保安本部青森海上保安部，青森地方検察庁，陸上自衛隊警務部，海上自衛隊警務部からの司法鑑定の要請に適切に対応出来るよう努力する。

2．医学と社会との接点・窓口として，地域からの医療貢献の求めや法医学的要請に出来る限り応えられるよう努力する。

3．実りのある教育および地域社会への貢献。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	「法医学の実際と研究」編集員	教　授	黒田　直人		5日
05年度	「法医学の実際と研究」編集委員	教　授	黒田　直人	12件	12日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	「放送大学」講演会	教　授	黒田　直人		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県心のヘルスアップ専門家会議委員	教　授	黒田　直人	青森市	1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	医学部保健学科講義	講　師	北　武	保健学科	6日

05年度	保健学科第２学年（免疫・血液型） 保健学科第２学年（実習）	講　　師	北　　武	保健学科	４日 ３日

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　名	備　　考	日数
04年度	青森県消防学校講義 青森県警察学校講義（刑事捜査専攻） 青森県警察学校講義（交通捜査専攻）	教　　授	黒田　直人	県消防学校 県警察学校 県警察学校	１日 １日 １日
05年度	青森県消防学校講義 青森県警察学校講義 青森地方検察庁講義	教　　授	黒田　直人	青森県消防学校 青森県警察学校 青森地方検察庁	１日 １日 １日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　名	備　　考	日数
04年度	法医解剖執刀	教　　授	黒田　直人		142日
	法医解剖例の補助・血液型検査	講　　師	北　　武		142日
05年度	法医解剖	教　　授	黒田　直人	① 執刀（121件） ② 組織切り出し ③ 鑑定書作成	200日
	法医解剖例の血液型検査	講　　師	北　　武	121件（over-nightによる検査を含む）	150日

16. 内科学第一講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

１）消化器病，血液病，膠原病領域の臨床・研究に関する最新の医療技術・知識を総括し，関連施設への情報提供を行い，地域医療のレベルアップを図る。
紹介率が向上し，病診連携，病病連携が図られた（到達度：80％）。

２）医師，コメディカル，一般市民に対する教育および啓蒙活動を積極的に行う（到達度：80％）。

３）青森県民の健康増進のための公益事業に積極的に関与し，平均寿命の延長に貢献する。
検診事業への参加，市民公開講座等の講演が行われた（到達度：80％）。

これから２年間の目標：

１．消化器病，血液病，膠原病領域の臨床・研究に関する最新の医療技術・知識を総括し，関連施設への情報提供を行い，地域医療のレベルアップを図る。

２．医師，コメディカル，一般市民に対する教育および啓蒙活動を積極的に行う。

３．青森県民の健康増進のための公益事業に積極的に関与し，平均寿命の延長に貢献する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　3，助手　5，医員　5，大学院学生　12，研究生　9
05年度		教授　1，助教授　1，講師　3，助手　5，医員　6，大学院学生　16，研究生　9

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本消化器病学会	理　　事	棟方　昭博		4日
	日本消化器内視鏡学会	支　部　長			1日
	日本大腸肛門病学会	理　　事			3日
	日本消化器免疫学会	理　　事			1日
	大腸癌研究会	幹　　事			1日
	日本大腸検査学会	理　　事			1日
	日本内科学会	評　議　員			1日
	日本消化器内視鏡学会東北セミナープログラム委員会	委　　員	福田　眞作	山形	1日
	日本消化器内視鏡学会専門医制度東北支部認定審査会	指導施設認定委員		盛岡	1日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員		仙台，山形	各1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員		仙台，山形	各1日
	日本消化器病学会	評　議　員		大阪	2日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員	石黒　　陽		2日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員			2日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員	坂本　十一		2日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員			2日
	日本臨床血液学会	評　議　員	玉井　佳子	京都	2日
	東北止血血栓学会	世　話　人		山形	1日
	日本臨床血液学会・日本血液学会合同東北地方会	世　話　人		仙台	2日
	韓日ヘリコバクター学会	委　　員	下山　　克		3日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員			2日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員			2日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員	三上　達也	山形 仙台	1日 1日
05年度	日本消化器病学会	理　　事	棟方　昭博		4日
	日本消化器内視鏡学会	支　部　長			1日
	日本大腸肛門病学会	理　　事			3日
	日本消化器免疫学会	理　　事			1日
	大腸癌研究会	幹　　事			1日
	日本大腸検査学会	理　　事			1日
	日本内科学会	評　議　員			1日

05年度	日本消化器内視鏡学会東北セミナープログラム委員会	委　　員	福田　眞作	盛岡市	1日
	日本消化器内視鏡学会専門医制度東北支部認定審査会	指導施設認定委員		盛岡市	1日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員		仙台市 盛岡市	1日 1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員		仙台市 盛岡市	1日 1日
	日本消化器内視鏡学会　専門医試験委員会　問題作成小委員会	委　　員		東京都	1日
	日本消化器病学会	評　議　員		北九州市 神戸市	1日 1日
	青森県静脈経腸栄養研究会	世　話　人		弘前市	1日
	北奥羽治療内視鏡研究会	世　話　人		青森市	1日
	青森ＩＢＤ研究会	世　話　人		青森市	1日
	消化管粘膜下腫瘍研究会	世　話　人		弘前市	1日
	東北食道・胃静脈瘤研究会	世　話　人		福島市	1日
	青森21世紀の栄養療法を考える会	世　話　人	坂本　十一		2日
	青森県肝癌研究会	世　話　人			2日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員			2日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員			2日
	東北肝炎・肝癌研究会	世　話　人			1日
	青森県肝胆膵研究会	世　話　人			2日
	東北ウイルス肝炎治療研究会	世　話　人			1日
	東北肝疾患病態・治療研究会	世　話　人			1日
	青森県肝疾患研究会	世　話　人			1日
	青森膵疾患研究会	世　話　人			1日
	日本臨床血液学会	評　議　員	玉井　佳子	横浜市	2日
	東北止血血栓学会	世　話　人		仙台市	1日
	日本臨床血液学会・日本血液学会合同東北地方会	世　話　人		盛岡市，仙台市	2日
	あおもり血液疾患研究会	世　話　人		青森市	2日
	日本消化吸収学会	評　議　員	下山　　克		1日
	日本ヘリコバクター学会	評　議　員			3日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評　議　員	三上　達也	仙台市	1日
	日本消化器病学会東北支部	評　議　員		仙台市	1日
	東北臨床腫瘍研究会	世　話　人	伊東　重豪		5日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第15回青森静脈・経腸栄養研究会	世　話　人	棟方　昭博	青森市	1日
	第16回日本消化器内視鏡学会東北支部セミナー	会　　長	福田　眞作	弘前市	2日
05年度	第21回弘前メディカルフォーラム		棟方　昭博	弘前市	1日
	第10回青森 IBD 研究会			青森市	1日
	第13回北奥羽消化器内視鏡研究会			青森市	1日
	第33回青森県肝胆膵研究会			青森市	1日
	第22回弘前メディカルフォーラム			弘前市	1日
	第21回青森県肝疾患研究会			弘前市	1日
	第９回青森膵疾患研究会			青森市	1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	World J Gastroenterology	編　集　員	下山　　克		5日
	Gastroenterology	査　読　員			1日
05年度	臨牀消化器内科	編　集　員	棟方　昭博	東京都	8日
	World J Gastroenterol	査　読　員	下山　　克		7日
	J Gastroenterol	査　読　員			1日
	J Gastroenterol Hepatol	査　読　員			2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第88回弘前医学会総会 増えている「大腸癌」から身を守る		棟方　昭博	黒石市	1日
	第23回本荘由利地区医学講座 増えている“大腸がん”から身を守る		棟方　昭博	本荘市	1日
	日本肝臓学会主催 肝がん撲滅運動市民公開講座の講演 『肝がんは予防できる』		坂本　十一	弘前大学医学部コミュニケーションセンター	1日
05年度	弘大祭市民公開講座 附属病院からのメッセージ～がんになったらどうする～	講　　師	福田　眞作	弘前市	1日
	弘前大学医学部医学科健康・医療講演会 「食物アレルギー」	講　　師	坂本　十一	黒石市	1日
	肝がん撲滅市民公開講座	講　　師	遠藤　　哲		1日
	つがる市健康づくり講座	講　　師	三上　達也	つがる市	1日
	日本消化器病学会市民公開講座 胃癌にならないために	助　　手	吉村　徹郎	五所川原市	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県社会福祉審議会	委　　員	棟方　昭博		2日
	青森県成人病検診管理指導協議会	委　　員			2日
	青森県成人病検診管理指導協議会胃がん部会	委　　員			2日
	青森県特定疾患治療研究事業審査会	委　　員			1日
	青森県総合健診センター胃がん検診読影委員会	委　員　長			2日
	青森県総合健診センター	理　　事			2日
	青森県地域保健医療対策協議会	委　　員			1日
	日本学術振興会科学研究費委員会	委　　員			1日
	青森県県立病院運営審議会	委　　員			1日
	大腸がん検診指導管理委員会	委　　員	三上　達也	青森	1日
05年度	青森県社会福祉審議会	委　　員	棟方　昭博		2日
	青森県成人病検診管理指導協議会	委　　員			2日
	青森県成人病検診管理指導協議会胃がん部会	委　員　長			2日
	青森県特定疾患治療研究事業審査会	委　員　長			1日
	青森県総合健診センター胃がん検診読影委員会	委　員　長			2日
	青森県総合健診センター	理　　事			2日
	青森県地域保健医療対策協議会	委　　員			1日
	日本学術振興会科学研究費委員会	委　　員			1日
	青森県国民健康保険診療報酬審査会	委　　員	福田　眞作		36日
	青森県総合健診センター胃がん検診読影委員会	読影委員	下山　　克		23日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	21世紀教育　最新医学の現状 琉球大学医学部特別講義	講　　師	棟方　昭博	沖縄県	1回 1日
	21世紀教育　最新医学の現状	講　　師	福田　眞作		2回
	21世紀教育　最新医学の現状	講　　師	石黒　　陽		1日
	21世紀教育　最新医学の現状	講　　師	坂本　十一		1日
	医学部保健学科　臨床免疫学	講　　師	玉井　佳子		2日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	八戸高等学校模擬講義	講　　師	玉井　佳子	八戸市	1日
05年度	北奥羽地区消化器内視鏡技師研究会	講　　師	三上　達也	青森市	1日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	副主任学校医（弘前大学保健管理センター）	学　校　医	棟方　昭博	弘前市	3日
	弘前大学学校医	学　校　医	玉井　佳子	弘前市	週1時間
	青森県総合健診センター胃癌検診	読　影　員	下山　　克		17日
05年度	副主任学校医（弘前大学保健管理センター）	学　校　医	棟方　昭博	弘前市	3日
	弘前大学学校医	学　校　医	玉井　佳子	弘前市	12日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	町立大鰐病院における検査業務	非常勤医師	福田　眞作	大鰐町	50日
	町立大鰐病院	非常勤医師	石黒　　陽	大鰐町	50日
	公立七戸病院　内科	非常勤医師	坂本　十一	七戸町	50日
	浪岡町立病院（→青森市立浪岡病院）	非常勤医師	玉井　佳子	浪岡町	50日
	公立七戸病院	非常勤医師	伊東　重豪	七戸町	50日
	陸上自衛隊弘前駐屯地	非常勤医師	下山　　克	弘前市	75日
	弘前市立病院　内科	非常勤医師	山形　和史	弘前市	50日
	大館市立病院	非常勤医師	遠藤　　哲	大館市	50日
	つがる市立成人病センター	非常勤医師	三上　達也	つがる市	50日
05年度	町立大鰐病院	非常勤医師	福田　眞作	大鰐町	50日
	公立七戸病院	非常勤医師	坂本　十一	七戸町	50日
	青森市立浪岡病院	非常勤医師	玉井　佳子	青森市	50日
	自衛隊弘前駐屯地	非常勤医師	下山　　克	弘前市	80日
	公立七戸病院	非常勤医師	伊東　重豪	七戸町	50日
	大館市立病院	非常勤医師	遠藤　　哲	大館市	50日
	大館市立病院	非常勤医師	高畑　武功	大館市	50日
	弘前市立病院	非常勤医師	山形　和史	弘前市	50日
	つがる市立成人病センター	非常勤医師	三上　達也	つがる市	50日
	公立米内沢病院	非常勤医師	吉村　徹郎	北秋田市	25日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

17. 内科学第二講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

救急医療 BLS，ACLS の普及に努める。　100％

積極的な禁煙活動に取り組む。　80％

青森県の成人病予防に積極的に取り組む。　70％

学外役員として学会の運営に積極的に参加する。　90％

これから２年間の目標：

社会貢献と弘前大学の知名度を高めるためにも，多くの学会の理事を拝命し，弘前大学医学部のレベル向上と医療の質改善により社会貢献を行う。

学外役員として学会の運営に積極的に参加する。

呼吸器疾患，腎臓疾患の啓蒙を医師，市民に講演会，市民講座を通じて行う。

県の肺癌，結核のサーベイランス，対策に積極的に参加する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　2，講師　3，助手　4，医員　3，大学院学生　17，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　2，講師　2，助手　6，医員　5，大学院学生　21，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本内科学会	評　議　員	奥村　　謙		２日
	日本循環器学会	評　議　員			２日
	日本心臓病学会	評　議　員			２日
	日本心臓血圧研究振興会	評　議　員			２日
	日本心臓ペーシング電気生理学会	理　　事			２日
	日本心電学会	理　　事			２日
	日本不整脈学会	理　　事			２日
	日本高血圧学会	評　議　員	長内　智宏		１日
	日本呼吸器学会	代　議　員	高梨　信吾		１日
	日本結核病学会	評　議　員			１日
	日本アレルギー協会	評　議　員			１日
	心肺蘇生法普及委員会	委　　員	花田　裕之		５日
05年度	日本内科学会	評　議　員	奥村　　謙		２日
	日本循環器学会	評　議　員			２日
	日本心臓病学会	評　議　員			２日
	日本心臓血圧研究振興会	評　議　員			２日
	日本不整脈学会	理　　事			２日
	日本心電学会	理　　事			２日
	日本高血圧学会	評　議　員	長内　智宏		１日
	日本呼吸器学会	代　議　員	高梨　信吾		１日
	日本結核病学会	評　議　員			２日
	日本アレルギー協会	評　議　員			１日
	心肺蘇生法普及委員会	委　　員	花田　裕之	日本循環器学会	４日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	青森アレルギー懇話会	副　会　長	高梨　信吾		２日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	Heart and Vessels	編 集 委 員	奥村　　謙		１日
	Internal Medicine	編 集 委 員			１日

04年度	Circulation Journal	査　　読	奥村　　謙		3日
	American Heart Journal	査　　読			1日
	Autonomic Neuroscience	査　　読			1日
	JACC	査　　読			1日
	日本心電図学会誌	査　　読			1日
	Hypertension Research	査　　読	長内　智宏		3日
	日本呼吸器学会	査　　読	高梨　信吾		1日
	APSR（アジア太平洋呼吸器学会誌）	査　　読			1日
	Respiration	査　　読			1日
	CHEST	査　　読			1日
05年度	Heart and Vessels	編集委員	奥村　　謙		1日
	Internal Medicine	編集委員			1日
	Circulation Journal	編集委員			3日
	International Heart Journal	編集委員			1日
	American Heart Journal	査　　読			1日
	Autonojmic Neuroscience	査　　読			1日
	JACC	査　　読			1日
	日本心電図学会誌	査　　読			1日
	Hypertension Research	査　　読	長内　智宏		3日
	Kidney Int	査　　読			1日
	Atherosclerosis	査　　読			1日
	Renal Failure	査　　読			2日
	日本呼吸器学会雑誌	査　　読	高梨　信吾		3日
	Internal Medicine	査　　読	花田　裕之		2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	市民公開講座（アレルギー）	講　　師	高梨　信吾	弘前	1日
	アメリカ心臓病協会公認BLSコースならびアメリカ心臓病協会公認ACLSコース開催及びインストラクターとして参加	講　　師	花田　裕之	弘前，盛岡，仙台	計45日
	弘前医師会主催AED講習会			弘前	3日
	北五医師会学術集談会	講　　師	中村　典雄	五所川原	1日
	救急医学講座			弘前	1日
	むつ下北医師会学術講演会			むつ	1日
	医療トピックス勉強会			弘前	1日
05年度	健康・医療講演会	講　　師	長内　智宏		1日
	沈黙の殺人者－高血圧の予防と治療	講　　師			
	市民公開講座（アレルギー）	講　　師	高梨　信吾		2日
	救急救命講習会（AHA　BLSとACLS）	インストラクター	花田　裕之		50日
	北東北生活習慣病講演会	講　　師	中村　典雄		1日
	東北腎不全研究会	講　　師			1日
	りんご王国こうぎょくカレッジ，FMアップルウェーブ	講　　師			1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県成人病検診管理指導協議会	委　　員	奥村　　謙		2日
	県総合検診センター・基本健康診査判定検討委員会	委　　員			2日
	県総合検診センター・非常勤常任理事	委　　員			2日
	県社会福祉審議会	委　　員			3日
	青森県成人病検診管理指導協議会	委　　員	長内　智宏		1日
	青森県社会保険診療報酬請求書審査委員会	委　　員			36日
	地方塵肺審査会	委　　員	高梨　信吾		12日
	保健所結核審査協議会	委　　員			12日
	青森県肺癌検診読影委員会	委　　員			1日
	青森県結核サーベイランス委員会	委　　員			1日
	地方塵肺審査会	委　　員	長谷川幸裕		1日
	青森県肺癌検診読影委員会	委　　員			1日

05年度	県社会福祉審議会 県成人病検診管理指導協会 県総合検診センター・基本健康診査等判定検討委員会 県総合検診センター・非常勤常任理事	委　員 委　員 委　員 理　事	奥村　謙		3日 2日 2日 2日
	青森県成人検診管理指導協議会 青森県社会保険診療報酬請求書審査委員会	委　員 委　員	長内　智宏		1日 36日
	地方じん肺審査会 青森県肺癌検診読影委員 青森県結核サーベイランス委員会	委　員 委　員 委　員	高梨　信吾		12日 12日 1日
	スポーツ医学委員会	委　員	花田　裕之	弘前医師会	3日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	クリニカルクラークシップについて 21世紀教育	教　授	奥村　謙		1日 3日
05年度	青森県立保健大学 21世紀教育	教　授	奥村　謙		1日 3日
	21世紀教育	助教授	長内　智宏		3日
	21世紀教育	助教授	高梨　信吾		1日
	21世紀教育	講　師	中村　典雄		1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	保健管理センター学校医		奥村　謙		48日
	保健管理センター学校医		長内　智宏		48日
05年度	保健管理センター学校医		奥村　謙		48日
	保健管理センター学校医		長内　智宏		48日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	黎明郷リハビリテーション病院	研究指導医 研究指導医	奥村　謙 長内　智宏		40日 48日
	国保黒石病院	非常勤医師	高梨　信吾		48日
	弘前小野病院	非常勤医師	花田　裕之		48日
	川上胃腸科外科医院	非常勤医師	花田　裕之		12日
	木造尾野病院	非常勤医師	中村　典雄		48日
	板柳中央病院	非常勤医師	松永　敏郎		48日
	西北中央病院	非常勤医師	長谷川幸裕		48日
	白生会胃腸病院	非常勤医師	須藤　直行		48日
	国保黒石病院	非常勤医師	岩佐　篤		48日
	金子医院	非常勤医師	岩佐　篤		12日
	町立大鰐病院	非常勤医師	横山　仁		48日
	平賀病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	花田　裕之 中村　典雄 松永　敏郎		7日 8日 6日

04年度	平賀病院	非常勤医師	長谷川幸裕		4日
		非常勤医師	岩佐　篤		3日
		非常勤医師	横山　仁		7日
		非常勤医師	須藤　直行		5日
	藤崎病院	非常勤医師	中村　典雄		4日
		非常勤医師	松永　敏郎		1日
		非常勤医師	岩佐　篤		7日
		非常勤医師	須藤　直行		7日
	福士病院	非常勤医師	花田　裕之		5日
		非常勤医師	中村　典雄		5日
		非常勤医師	松永　敏郎		5日
		非常勤医師	岩佐　篤		3日
		非常勤医師	横山　仁		5日
		非常勤医師	須藤　直行		5日
05年度	黎明郷リハビリテーション病院	研究指導医	奥村　謙		20日
	弘前脳卒中センター	研究指導医	奥村　謙		20日
	黎明郷リハビリテーション病院	研究指導医	長内　智宏		48日
	国保黒石病院	非常勤医師	高梨　信吾		48日
	板柳中央病院	非常勤医師	花田　裕之		56日
	弘前小野病院	非常勤医師	中村　典雄		48日
	白生会胃腸病院	非常勤医師	須藤　直行		48日
	国保黒石病院	非常勤医師	岩佐　篤		48日
	町立大鰐病院	非常勤医師	横山　仁		48日
	鳴海病院	非常勤医師	樋熊　拓未		48日
	西北中央病院	非常勤医師	藤本　幸士		48日
	板柳中央病院	非常勤医師	小林　孝男		48日
	平賀病院	非常勤医師	花田　裕之		8日
		非常勤医師	中村　典雄		5日
		非常勤医師	須藤　直行		8日
		非常勤医師	岩佐　篤		3日
		非常勤医師	横山　仁		8日
		非常勤医師	樋熊　拓未		5日
		非常勤医師	藤本　幸士		7日
		非常勤医師	小林　孝男		5日
	藤崎病院	非常勤医師	中村　典雄		3日
		非常勤医師	須藤　直行		5日
		非常勤医師	岩佐　篤		5日
		非常勤医師	横山　仁		1日
		非常勤医師	樋熊　拓未		5日
		非常勤医師	藤本　幸士		6日
		非常勤医師	小林　孝男		5日
	福士病院	非常勤医師	花田　裕之		1日
		非常勤医師	中村　典雄		5日
		非常勤医師	須藤　直行		5日
		非常勤医師	岩佐　篤		2日
		非常勤医師	横山　仁		5日
		非常勤医師	樋熊　拓未		5日
		非常勤医師	藤本　幸士		5日
		非常勤医師	小林　孝男		1日
	川上胃腸科外科医院	非常勤医師	花田　裕之		12日
	金子内科医院	非常勤医師	岩佐　篤		12日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　名	備　　考	日数
04年度	弘前アップルマラソン待機医師		花田　裕之		1日

18. 内科学第三講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
80％

これから２年間の目標：
内分泌学会学術総会と公開講座を主催する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　6，医員　19，大学院学生　7，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　1，講師　4，助手　4，医員　7，大学院学生　7，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本内科学会	評　議　員 認定医制度審議会委員	須田　俊宏	東京 東京	1 日 2 日
	日本内分泌学会	理　　事	須田　俊宏	京都，東京 東京	322日 2 日
	日本神経内分泌学会	専門医委員会理事	須田　俊宏	弘前，京都	1 日
	日本下垂体腫瘍学会	世　話　人	須田　俊宏	東京	3 日
	日本内科学会東北地方会	評　議　員	玉澤　直樹	仙台	2 日
	日本糖尿病学会	評　議　員	小川　吉司	東京	1 日
	第19回奥羽糖尿病担当者セミナー幹事会		松井　　淳		1 日
	第１回青森臨床糖尿病研究会幹事会		松井　　淳		2 日
	日本消化器関連学会機構（DDW-Japan 2006）	総 務 委 員	丹藤　雄介	東京	2 日
	日本消化吸収学会	評　議　員	丹藤　雄介	福岡	1 日
	青森21世紀の栄養療法を考える会	幹　　事	丹藤　雄介	青森	
	日本内分泌学会	評　議　員	蔭山　和則		1 日
	日本神経学会東北地方会評議員会	評　議　員	神成　一哉		2 日
05年度	日本内分泌学会	理　　事	須田　俊宏	東京，京都	10日
	日本神経内分泌学会	理　　事	須田　俊宏	沖縄，東京	4日
	日本間脳下垂体腫瘍学会	理　　事	須田　俊宏	東京	2日
	日本内科学会	認定医制度審議会委員	須田　俊宏	東京	3日
	日本動脈硬化学会	評　議　員	玉澤　直樹	東京	1日
	日本内科学会東北地方会	評　議　員	玉澤　直樹	仙台	3日
	日本糖尿病学会	学術評議員	小川　吉司	東京	2日
	日本 DDW-Japan	総 務 委 員	丹藤　雄介	東京	8日
	日本消化吸収学会	評　議　員	丹藤　雄介	神戸	2日
	日本病態栄養学会	評　議　員	丹藤　雄介	京都	2日
	日本内分泌学会	評　議　員	蔭山　和則		1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第31回日本神経内分泌学会	会　　長	須田　俊宏	弘前	2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	Endocrine Journal	編集委員	須田　俊宏	東京	2日
	日本糖尿病学会誌「糖尿病」査読		小川　吉司		1日
05年度	Endocrinology J Clin Endocrinol Metab Peptides Endocrine Journal Tohoku J Exp Med	Referee	須田　俊宏		3日 3日 3日 7日

05年度	日本糖尿病学会　編集委員	講　　師	小川　吉司	東京	3日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	平成16年度弘前大学公開講座「肥満と疾病」	講　　師	小川　吉司		1日
	平成16年度地域保健関係者研修 弘前大学医学部「健康・医療講演会」		松井　　淳		1日 1日
05年度	糖尿病週間における講演会 白菊会講演	世　話　人 講　演　者	須田　俊宏 須田　俊宏		 1日
	平成17年度医学科公開講座 第16回青森県病院栄養士研修会 平成17年度青森県栄養士生涯学習研修会	講　　師	小川　吉司 小川　吉司 小川　吉司		1日 4日 1日
	第4回地域保健関係者研修 つがる市健康づくり講座	講　　師 講　　師	松井　　淳 松井　　淳		1日 1日
	北東北臨床栄養勉強会	講　　師	丹藤　雄介		

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県院内感染対策支援ネットワーク看護職員研修会　研修2　感染症学・微生物学	助　教　授	玉澤　直樹		1日
	厚生労働省難治性膵疾患に関する調査研究班	研究協力者	丹藤　雄介	東京	2日
	社会保険診療報酬支払基金	審　査　員	神成　一哉		30日
05年度	東北管内院内感染ワークショップ	助　言　者	玉澤　直樹		1日
	厚労省間脳下垂体疾患研究班	研究協力者	二川原　健		通年

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	平成16年度卒後臨床研修オリエンテーション 実習：病院感染	助　教　授	玉澤　直樹		1日
	第104回弘前医学会例会 シンポジウム　最近の感染症 「ブドウ球菌感染症の院内感染症について」	助　教　授	玉澤　直樹		1日
05年度	青森糖尿病療養指導実践研修会	講　　師	丹藤　雄介		1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	五所川原胃腸病院看護研究会	講　　師	丹藤　雄介	五所川原	1日
	弘前臨床検査勉強会 医療トピックス勉強会	助　　手 助　　手	二川原　健 二川原　健	2004.9.9 2005.2.9	1日 1日
	城東学園（専門学校）における臨床神経学の講義	非常勤講師	神成　一哉		5日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県栄養士会中弘南黒地区会　研修会「腸管感染症について」	助　教　授	玉澤　直樹		1日
05年度	弘前大学 平成17年度生活習慣病等集団検診従事者研修会	校　　医 講　　師	須田　俊宏 玉澤　直樹		1回

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	板柳中央病院	非常勤医師	須田　俊宏	板柳町	週１回
	鰺ヶ沢町立病院		玉澤　直樹		週１回
	厚生会　渡辺病院		小川　吉司		週1回
	本荘第一病院		小川　吉司		月1回
	鷹揚郷青森病院		小川　吉司		月1回
	白生会胃腸病院		松井　　淳		週１回
	弘前記念病院		松井　　淳		月２回
	白生会胃腸病院		丹藤　雄介		52日
	本荘第一病院		丹藤　雄介		12日
	板柳中央病院		蔭山　和則		週１回
	板柳中央病院		二川原　健		52日
	むつ総合病院		二川原　健		12日
	柳中央病院		崎原　　哲		週１回
	板柳中央病院内科外来		神成　一哉		50日
	むつ総合病院内科外来		神成　一哉		12日
05年度	板柳中央病院		須田　俊宏		週１回
	鰺ヶ沢中央病院	非常勤医師	玉澤　直樹		週１回
	厚生会　渡辺病院	非常勤医師	小川　吉司		週1回
	本荘第一病院	非常勤医師	小川　吉司		月1回
	鷹揚郷青森病院	非常勤医師	小川　吉司		月1回
	渡辺病院	非常勤医師	松井　　淳		週１回
	弘前記念病院	非常勤医師	松井　　淳		月２回
	白生会胃腸病院	非常勤医師	丹藤　雄介		週１回
	弘前記念病院	非常勤医師	丹藤　雄介		月１回
	北秋中央病院	非常勤医師	蔭山　和則		週１回
	むつ総合病院	非常勤医師	蔭山　和則		月１回
	白生会胃腸病院	非常勤医師	二川原　健		週１回
	むつ総合病院	非常勤医師	二川原　健		月１回
	小野病院	非常勤医師	崎原　　哲		週１回
	むつ総合病院	非常勤医師	崎原　　哲		月１回
	黒石病院	非常勤医師	村上　　宏		週１回
	むつ総合病院	非常勤医師	村上　　宏		月１回
	大館市立病院	非常勤医師	照井　　健		週１回
	むつ総合病院		照井　　健		月１回

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

19. 老年科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

市民公開講座，陸奥新報，弘前大学生涯学習教育研究センターのホームページを通じ，市民に老年医学を啓蒙することができた。到達度70％

高齢関節リウマチの至適治療法の確立の到達度は，50％程度。

津軽地域のリウマチネットワーク作製の到達度は，30％程度。

これから２年間の目標：

長寿医学の情報を市民に向けて発信していく。

リウマチ学を市民に啓蒙する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　1，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　0，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本呼吸器学会代議員会	代　議　員	水島　豊	東京	1日
	日本老年医学界教育委員会	教育委員	水島　豊	東京	1日
	日本リウマチ学会	評　議　員	浦田　幸朋	岡山	2日
05年度	日本リウマチ学会	評　議　員	浦田　幸朋	横浜	1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	第16回日本老年医学会東北地方会	教　　授	水島　豊	弘前	1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本老年医学会雑誌	教　　授	水島　豊	査読	1編
	Chest	教　　授	水島　豊	査読	2編
	弘前医学	教　　授	水島　豊	査読	1編
	Internal Medicine	教　　授	水島　豊	査読	4編
	日本呼吸器学会雑誌	教　　授	水島　豊	査読	1編
05年度	Internal Med　1編	教　　授	水島　豊		1日
	Drug R & D　1編				1日
	日本老年医学会雑誌　1編				1日
	弘前医学　4編				4日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県高齢者ラジオ放送講座	教　　授	水島　豊	弘前市	1日
	第18回青森県医師会健康セミナー			青森市	1日
	あおもり県民カレッジ生涯学習フェア2004，大学公開講座まつり			むつ市	1日
	エルム文化センター講座			五所川原市	1日
	日本リウマチ友の会医療講演会	助　　手	浦田　幸朋	八戸	1日
	日本リウマチ友の会医療講演会			青森	1日
	日本リウマチ友の会医療講演会			八戸	1日
	青森リウマチケア研究会			八戸	1日
	日本リウマチ友の会医療講演会			八戸	1日
	日本リウマチ友の会医療講演会			八戸	1日

05年度	とうしん大学 弘前医学会総会―市民公開講座 五所川原市教育委員会生涯学習課主催―北辰大学 弘前市立石川公民館公開講座 弘前大学生涯学習講演会 中南地方健康福祉こどもセンター，老人精神保健連絡会議	教　　授	水島　　豊	黒石，弘前 むつ 五所川原 弘前 むつ 弘前	2日 2日 1日 1日 2日 1日
	日本リウマチ友の会医療講演会 青森リウマチケア研究会	助　　手	浦田　幸朋	青森 八戸	1日 1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県看護協会訪問看護師養成講習会 青森県栄養士会生涯学習研修会 八戸市保健推進員中央研修会 弘前大学生涯学習センターホームページ―健康コラム	教　　授 教　　授 教　　授 教　　授	水島　　豊 水島　　豊 水島　　豊 水島　　豊	青森市 青森市 八戸市 弘前市	1日 1日 1日 2題／月

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	医療法人ときわ会ときわ会病医院 西北中央病院	助　　手	浦田　幸朋	常盤村 五所川原市	96日 48日
05年度	青森県赤十字血液センター	教　　授	水島　　豊	弘前	1日
	医療法人ときわ会ときわ会病院 西北中央病院	助　　手	浦田　幸朋	藤崎町 五所川原市	96日 48日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

20. 神経・精神医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

兼子：地域精神科医療の機能的役割分担を推進し，一方では本県における自殺の問題を県立精神保健センターと共同で検討を開始した。その他の委員会，学会，雑誌編集に協力するなど，地域社会へ十分に貢献した。

矢部：津軽広域連合介護認定審査会を中心とした老人介護医療や青森県公安委員会指定医を中心とした交通安全活動への貢献を引き続き行う。新たに，学校職員精神性疾患休職等審査会委員として県教育委員会の活動に協力し，さらに，青森県精神医療審査会委員として医療保護入院や措置入院の審査，退院請求の審査など精神疾患患者の人権に関わる精神保健の充実に努める。また新たに，弘前大学保健管理センター学校医として弘前大学学生，養護学校生の精神保健に努めると共に，弘前大学医学部附属病院リスクマネージャーとして，附属病院の医療事故防止に努める。以上はほぼ全て達成された。

栗林：児童相談所（嘱託医として），学校（スクールカウンセリングアドバイザーとして），地域の講演活動を通じて啓蒙を含めて，１年間にわたり展開でき，目標はかなり達成できている。

岡田：目標到達は充分と判断する。

古郡：地域医療には十分貢献できた。査読依頼が増えたため学術誌に対する貢献が増えた。審査会に委嘱されたため，地方自治体の活動に参加できた。

畫間：2003年７月以来，学外の医学教育や地域精神医療に提言する場が少なかったため，目標が達成されたとはいえない。

これから２年間の目標：

兼子：学術振興会専門委員として，国の科学研究費の配分システムの構築に努力する。

矢部：津軽広域連合介護認定審査会を中心とした老人介護医療や青森県公安委員会指定医を中心とした交通安全活動への貢献，学校職員精神性疾患休職等審査会委員として県教育委員会の活動に協力し，さらに青森県精神医療審査会委員として医療保護入院や措置入院の審査，退院請求の審査など精神疾患患者の人権に関わる精神保健の充実に努める。また，弘前大学保健管理センター学校医として弘前大学学生，養護学校生の精神保健に努めると共に，弘前大学医学部附属病院リスクマネージャーとして，附属病院の医療事故防止に努める。

栗林：児童相談所，学校，地域の講演活動に加えて，教育委員会，他の病院をも含めた連携を強化し，臨床および研究の展開をはかっていくこと。

岡田：医学・科学技術の進歩に貢献すべく社会活動に積極的に参与する。

古郡：地域医療の充実に貢献する。学会活動にも精力的に貢献する。地方自治体にも貢献する。

畫間：学外の医学教育に対して可能な限り協力する。
地域精神医療のあり方について提言していく。

菊池：他施設での講義内容の充実
地域医療への貢献

松岡：今後も地域医療の維持並びに発展のために教育・診療・審査などを継続していく。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　１，助教授　１，講師　２，助手　５，医員　１，大学院学生　３，研究生　１１
05年度		教授　１，助教授　１，講師　２，助手　５，医員　１，大学院学生　３，研究生　　９

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本精神神経学会	評　議　員	兼子　　直	東京	１日
	日本てんかん学会	理　　事		東京・大阪	２日
	日本精神神経薬理学会	評　議　員		東京	１日
	日本臨床精神神経薬理学会	理　　事		東京	１日
	日本行動遺伝学会	理　　事		東京	１日

04年度	日本総合病院精神医学会	評　議　員	兼子　　直	東京	1日
	日本神経科学会	会　　員		東京	1日
	英国薬理学会	会　　員			
	日本アルコール医学会	理　　事		東京	1日
	日本精神科診断学会	評　議　員		東京	1日
	日本生物学的精神医学会	会　　員		東京	1日
	日本臨床神経生理学会（旧脳波・筋電図学会）	評　議　員	矢部　博興	東京	1日
	北日本 ME 技術者会後援会	会 計 監 事		東京	0日
	日本臨床神経生理学会（旧脳波・筋電図学会）	広報委員会委員		東京	2日
	日本生体磁気学会	評　議　員		東京	0日
	東北児童青年精神医学会	評　議　員	栗林　理人		1日
05年度	日本精神神経学会	評　議　員	兼子　　直	東京	1日
	日本てんかん学会	理　　事		東京・大阪	2日
	日本精神神経薬理学会	評　議　員		東京	1日
	日本臨床精神神経薬理学会	理　　事		東京	1日
	日本行動遺伝学会	理　　事		東京	1日
	日本総合病院精神医学会	評　議　員		東京	1日
	日本神経学会	会　　員		東京	1日
	英国薬理学会	会　　員			
	日本アルコール医学会	理　　事		東京	1日
	日本精神科診断学会	評　議　員		東京	1日
	日本生物学的精神医学会	会　　員		東京	1日
	日本統合失調症学会	理　　事		東京	1日
	日本臨床神経生理学会（旧脳波・筋電図学会）	評　議　員	矢部　博興	東京	1日
	北日本 ME 技術者会後援会	会 計 監 事		東京	0日
	日本臨床神経生理学会（旧脳波・筋電図学会）	広報委員会委員		東京	2日
	日本生体磁気学会	評　議　員		東京	0日
	東北児童青年精神医学会	評　議　員	栗林　理人		1日
	日本統合失調症学会	評　議　員	古郡　規雄	東京	1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第31回精神科治療研究会	会　　長	兼子　　直	弘前市	1日
	第33回精神科治療研究会	会　　長	兼子　　直	弘前市	1日
05年度	第35回精神科治療研究会	会　　長	兼子　　直	弘前市	1日
	第37回精神科治療研究会	会　　長	兼子　　直	弘前市	1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	Tohoku Journal of Experimental Medicine	編 集 委 員	兼子　　直		6日
	Psychiatry & Clinical Neurosciences	Advisary Editor			7日
	弘前医学	編 集 委 員			
	精神医学	編 集 同 人			3日
	臨床精神医学	編 集 顧 問			1日
	最新精神医学	編 集 同 人			
	分子精神医学	編 集 同 人			1日
	脳21	編集協力者			5日
	臨床精神薬理	編集協力者			2日
	Epilepsia	査　　読			3日
	Epilepsy Res	査　　読			3日
	Reproductive Toxicology	査　　読			3日
	Lancet	査　　読			3日
	Lancet Neurology	査　　読			3日
	Pharmacogenetics	査　　読			3日
	Biological Psychology	Associate Editor	矢部　博興	2004年は13編	182日
	Brain Res	Referee		1編	7日

04年度	J Neurosci Neuropharmacol Epilepsy Res Neurosci Lett Brain Dev J Pharmacol Sci	査　　読 査　　読 査　　読 査　　読 査　　読 査　　読	岡田　元宏		50 日
05年度	Tohoku Journal of Experimental Medicine Psychiatry & Clinical Neurosciences 弘前医学 精神医学 臨床精神医学 最新精神医学 分子精神医学 脳21 臨床精神薬理 Epilepsia Epilepsy Res Reproductive Toxicology Lancet Lancet Nneurology Pharmacogenetics	編集委員 Advisary Editor 編集委員 編集同人 編集顧問 編集同人 編集同人 編集協力者 編集協力者 査　　読 査　　読 査　　読 査　　読 査　　読 査　　読	兼子　　直		6 日 7 日 3 日 1 日 1 日 5 日 2 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日 3 日
	Biological Psychology Brain Res	Associate Editor Referee	矢部　博興	2005年は15編 2編	182日 7 日
	J Neurosci Neuropharmacol Epilepsy Res Neurosci Lett Brain Dev J Pharmacol Sci	査　　読 査　　読 査　　読 査　　読 査　　読 査　　読	岡田　元宏		50 日
	Journal of Human Genetics（Original） J. Pharm. Biomed. Anal.（Original） Current Pharmacogenomics（review） Current Pharmacogenomics（review） J. Pharm. Biomed. Anal.（Original） Current Pharmaceutical analysis（review） Progress in Neuro-Psychopharmacol. & Biol. Psychiat.（Original） J. Pharm. Biomed. Anal.（Original） The Pharmacogenomics Journal（Original） J. Pharm. Biomed. Anal.（Original） J. Pharm. Biomed. Anal.（Original）	査　　読	古郡　規雄		10 日 4 日 10 日 10 日 4 日 4 日 4 日 4 日 4 日 4 日 4 日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	八戸精神科医会：薬物の効果は予測可能か？ 静岡県東部精神科医会：抗精神病薬の効果予測 第15回山口てんかん研究会：てんかんの分子病態 心のヘルスアップフォーラム：みんなで考えよう！こころの健康づくり（シンポジウム：中高年のこころの健康―自殺予防のためにできること） 東北電力(株)平成15年度精神健康講座：精神変調のサインと対策	教　　授	兼子　　直	八戸市 沼津市 宇部市 弘前市 八戸市 十和田市 三沢市 青森市	1日 1日 1日 1日 4日
	介護労働講習（訪問介護員要請研修２級課程） 「こころの健康」（うつ病講演）	助　教　授	矢部　博興	弘前市 黒石市	2日 1日
	平成15年度青森県母子保健指導者研修会：思春期の心 SOS ―児童思春期外来の現状から― 小・中・高等学校での講演・研修会：教職員のメンタルヘルスについて，他４件	講　　師	栗林　理人		1日 4日

04年度	平成15年度ふれあい心の友訪問援助事業事前研修会：子どもの精神医学 平成15年度家庭教育インストラクター要請講座：乳幼児期・学童期の子どもの心の病気，思春期の子どもの心の問題 思春期問題研修会：思春期のこころの病気と初期対応のポイント 平成15年度黒石市13小５中 PTA 合同研修会：児童・思春期のこころ 健康相談活動支援体制整備事業：事例検討	講　　師	栗林　理人		1日 1日 1日 1日 1日
05年度	指定講演座長及び学術指導 「Lilly Scientific Academy」座長 「明日の精神科医療を考える会」指定発言・参加	教　　授	兼子　　直	仙台市 東京都 横浜市	1日 1日 1日
	介護労働講習（訪問介護員要請研修２級課程）	助　教　授	矢部　博興	弘前市	2日
	カウンセリング 思春期の向き合い方について 児童・思春期の問題行動 最近少年に増えている精神疾患 児童思春期病棟について 事例研究「少年事件の事例」 発達障害について（LD, ADHD，アスペルガ症候群その他の広汎性発達障害の特徴やそれに対する効果的な支援の仕方について） 事例研修 軽度発達障害の子どもの理解と対応 医学診断について	講　　師	栗林　理人	弘前市 五所川原市 つがる市 弘前市 青森市 青森市 弘前市 五所川原市 青森市 弘前市	1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日
	東北電力管理職対象メンタルヘルス講座	講　　師	岡田　元宏	青森市	8日
	Clinical Pharmacogenetics in the Treatment of Schizophrenia メンタルヘルス 統合失調症の病態とその治療 精神科における疾患の診断と治療に関する講演 症例検討の総合司会と症例発表 職場のメンタルヘルス―うつ病について― 統合失調症における各種受容体遺伝子多型に関する最近の知見 m-ECT について 日本人の CYP450 遺伝子多型頻度の調査報告会	講　　師	古郡　規雄	京都市 東京都 弘前市 大仙市 弘前市 弘前市 大阪市 五所川原市 東京都	1日 1日 1日 1日 1日 2日 1日 1日 1日
	リエゾン精神医学	助　　手	菊地　淳宏	弘前市	1日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	科学研究費委員会 青森県公安委員会 青森県精神医療審査委員会 労働福祉事業団青森産業保健推進センター 津軽地域保健医療推進協議会 弘前市心身障害児就学指導委員会 青森県精神保健福祉審議会	専門委員 専門委員 委　　員 産業保健相談員 委　　員 委員・専門員 会　　長	兼子　　直		7日 1日 6日 6日 2日 10日 2日
	津軽広域連合介護認定審査会 青森県公安委員会「運転適性検査」 青森県精神医療審査会 青森県学校職員精神性疾患休職等審査委員会 津軽地域精神科救急医療システム連絡調整委員会	委　　員 指　定　医 委　　員 委　　員 委　　員	矢部　博興		18日 0日 14日 4日 1日
	弘前児童相談所 弘前更生相談所 スクールカウンセラー 弘前市就学指導委員会	嘱　託　医 嘱　託　医 相　談　員 専　門　員	栗林　理人		
	津軽広域連合・介護認定審査会	委　　員	晝間　臣治		16日

05年度	科学研究費委員会 青森県公安委員会 青森県精神医療審査委員会 労働福祉事業団青森産業保健推進センター 津軽地域保健医療推進協議会 青森県精神保健福祉審議会	専門委員 専門委員 委員 産業保健相談員 委員 会長	兼子　直		7日 1日 6日 6日 2日 2日
	津軽広域連合介護認定審査会 青森県公安委員会「運転適性検査」 青森県精神医療審査会 青森県学校職員精神性疾患休職等審査委員会 津軽地域精神科救急医療システム連絡調整委員会	委員 指定医 委員 委員 委員	矢部　博興		18日 0日 14日 4日 1日
	弘前児童相談所 弘前更生相談所 スクールカウンセラー 弘前市就学指導委員会	嘱託医 嘱託医 相談員 委員・専門員	栗林　理人		
	社会保険診療報酬請求書審査委員会	審査委員	古郡　規雄		40日
	津軽広域連合・介護認定審査会	委員	松岡　貴志	弘前市	15日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件名	役職	氏名	備考	日数
04年度	良性家族性新生児けいれん関連遺伝子変異と良性家族性新生児けいれん診断法（開発者・権利者名：兼子，廣瀬伸一，宮島佑，岡野創造，特願2003-369584号，2003年10月29日出願，出願中） 乳児重症ミオクロニーてんかん関連遺伝子変異と乳児重症ミオクロニーてんかん診断方法（発明者名：兼子直，廣瀬伸一，福間五龍，山川和弘，小国弘量，白坂幸義，祖父江文子，宮島佑，松尾宗明，安元佐和，吉良龍太郎．権利者名:JST(81%)，理研(19%)，特願2003-132280号．2003年5月9日．出願中）	教授	兼子　直		
05年度	良性家族性新生児けいれん関連遺伝子変異と良性家族性新生児けいれん診断法（開発者・権利者名：兼子，廣瀬伸一，宮島佑，岡野創造，特願2003-369584号，2003年10月29日出願，出願中） 乳児重症ミオクロニーてんかん関連遺伝子変異と乳児重症ミオクロニーてんかん診断方法（発明者名：兼子直，廣瀬伸一，福間五龍，山川和弘，小国弘量，白坂幸義，祖父江文子，宮島佑，松尾宗明，安元佐和，吉良龍太郎．権利者名:JST(81%)，理研(19%)，特願2003-132280号．2003年5月9日．出願中）	教授	兼子　直		

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件名	役職	氏名	備考	日数
04年度	パブリックヘルスリサーチセンター　財団神経伝達物質研究会	選考委員	兼子　直		1日
05年度	パブリックヘルスリサーチセンター　財団神経伝達物質研究会	選考委員	兼子　直		1日
	中枢神経系機能性疾患の責任・感受性遺伝子の解析	講師	岡田　元宏		14日

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件名	役職	氏名	備考	日数
04年度	21世紀教育講義（全学部1学年から2学年）：メンタルヘルス，全学部講義 弘前大学医学部保健学科(旧医療技術短期大学部)2学年講義	助教授	矢部　博興		2日 5日

04年度	弘前大学医学部保健学科(旧医療技術短期大学部) ３学年講義 弘前大学教育学部養護教諭養成課程２学年	助　教　授	矢部　博興		１日 ８日
05年度	21世紀教育講義（全学部１学年から２学年）：メンタルヘルス，全学部講義 弘前大学医学部保健学科(旧医療技術短期大学部) ２学年講義 弘前大学医学部保健学科(旧医療技術短期大学部) ３学年講義 弘前大学教育学部養護教諭養成課程２学年	助　教　授	矢部　博興		２日 ５日 １日 ８日
	弘前医師会付属准看護学校 弘前ホスピタリティーアカデミー	助　　手	松岡　貴志	弘前市 弘前市	４日 30日

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第37回日本てんかん学会プレコングレスサテライトシンポジウム：てんかんと遺伝子『概説：てんかんの遺伝子解析の進歩と展望』	教　　授	兼子　　直	仙台市	１日
	第７回神経伝達物質研究会：神経伝達物質及び開口分泌機序の最近の知見，（財）パブリックヘルスリサーチセンター	講　　師	岡田　元宏	東京都	１日
05年度	統合失調症の病態とその治療 精神科疾患とその治療 統合失調症の遺伝子多型 M-ECT について 日本人における CYP450の頻度	講　　師	古郡　規雄		１日 １日 １日 １日 １日
	他施設での講義	助　　手	菊池　淳宏		３日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前大学医療技術短期大学部の入学選抜の健康診断（神経科精神科） 弘前大学保健管理センター	助　教　授	矢部　博興		０日 ０日
05年度	弘前大学医療技術短期大学部の入学選抜の健康診断（神経科精神科）	助　教　授	矢部　博興		０日
	弘前大学保健管理センター	講　　師	岡田　元宏		０日
	東北電力メンタルヘルス管理医 児童相談所において診断・助言	助　　手	武田　　哲		12日 35日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	「LD59ブリッジング試験　てんかんを対象としたプラセボとの二重盲検比較試験」 財団法人愛成会 ファイザー製薬(株)「CI-945(Gabapentin)臨床試験」 東北電力(株) 弘前愛成会病院 黒石病院	治験調整委員 研究所所長 治験調整委員 非常勤医師 指導嘱託医 非常勤医師	兼子　　直		２日 ２日 ２日 12日 24日 24日
	浪岡町立病院 国保　黒石病院 国立弘前病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	矢部　博興	月２回 月１回 月１回	24日 12日 12日
	布施病院	非常勤医師	岡田　元宏	月２回	24日
	布施病院	非常勤医師	三浦　　淳	月２回	24日
	腎研究所鷹揚郷・弘前病院	非常勤医師	畫間　臣治	月２回	18日
05年度	「LD59ブリッジング試験　てんかんを対象としたプラセボとの二重盲検比較試験」 財団法人愛成会	治験調整委員 研究所所長	兼子　　直		２日 ２日

05年度	ファイザー製薬（株）「CI-945（Gabapentin）臨床試験」 弘前愛成会病院	治験調整委員 指導嘱託医	兼子　　直		2日 24日
	国保　黒石病院 国立弘前病院	非常勤医師 非常勤医師	矢部　博興	月4回 月1回	48日 12日
	桜田病院	非常勤医師	岡田　元宏	月2回	24日
	腎研究所鷹揚郷・弘前病院	非常勤医師	畫間　臣治	月2回	18日
	黒石あけぼの病院 桜田病院 鷹巣病院 十和田市立中央病院 市立函館病院	非常勤医師	古郡　規雄		50日 8日 20日 4日 6日
	他病院での診療	非常勤医師	菊池　淳宏		96日
	青森労災病院 黒石あけぼの病院 青森市民病院 十和田市立中央病院 弘前愛成会病院 国立弘前病院 市立函館病院	非常勤医師	松岡　貴志	八戸市 黒石市 青森市 十和田市 弘前市 弘前市 函館市	50日 10日 5日 3日 5日 10日 5日
	他院での診療業務	非常勤医師	武田　　哲		60日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	第2回北東北精神科研究会	講　　師	菊池　淳宏	若手医師を対象とした講演	1日

21．小児科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

小児血液学会の評議員，日本血液学会の評議員として，小児血液学の進歩のために活動を行なった。日本血液学会では，専門医認定委員として，試験問題の作成，合否判定などを行なった。また，津軽地域の小児救急体制を作成し，平成18年１月10日からスタートすることができた。ほぼ，目標の学会活動を行なった。

学会の評議員としての任務は全うした。
講義の依頼には積極的に協力した。
地域医療へは可能な限り貢献した。

日本腎臓学会学術評議員，日本小児腎臓病学会評議員として腎臓病，特に小児の腎臓病についての啓蒙活動（医師会レベルでの講演会，市民公開講座その他）を行う。また，日本腎臓学会専門医試験の試験問題作成を行う。―日本腎臓学会専門医試験問題を学術評議委員会からの依頼により小児科関連で２問を作製した。弘前市の学校検尿判定審査会で弘前市医師会の先生方に判定に関して助言を行った。医師会レベルでの講演会は盛岡市において小児腎疾患の治療に関して，北九州市において小児腎臓病を診察する医師を対象に新しい視点からの免疫抑制療法に関してそれぞれ１回ずつ開催した。また，弘前大学医学部公開講座の講師として一般市民を対象に１回講演した。以上から到達度は80%程度と思われる。

青森県国民健康保険審査委員として，小児科領域の適正な保険診療を指導する。―青森県国民健康保険審査員として月３回，毎月保険審査を継続しており到達度は80%以上と思われる。
専門領域の学術雑誌の査読を担当する。―欧米の腎関連，小児科関連の一流誌多数からや日本小児科学会雑誌からの依頼がありこれを担当した。全体的な到達度としては90%程度と思われる。

これから２年間の目標：

地域の小児医療を充実させるため，地方会などを主催し，小児科医のレベルの向上に努める。
小児血液学の進歩のため，小児血液学会，日本血液学会などで役員として活動する。
小児救急体制の充実など，青森県の小児医療体制の充実のために努力する。

学会の役員，評議員としての任務を全うする。
講演，講義，学術雑誌の査読等の依頼があれば積極的に協力する。
大学での本務に支障のない範囲で地域医療に貢献する。

引き続き小児腎臓病に関する啓蒙活動（医師会レベルでの講演会，市民公開講座その他）をより推進し，小児腎臓病の治療成績や予後の改善に貢献したい。
また，青森県国民健康保険審査員として小児領域の適正な保険診療指導を継続する。
今後も学術専門誌の査読員を積極的に行い，各専門学会発展に微力ながら寄与したい。

青森小児血液腫瘍研究会，青森骨髄移植研究会の開催を継続する。
兼業基準に従い他施設で診療を行い，地域医療に貢献する。
骨髄移植推進財団移植調整医師の業務を継続する。

地方学会（青森県小児神経談話会）の主催

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　１，助教授　１，講師　２，助手　４，医員　７，大学院学生　５，研究生　２
05年度		教授　１，助教授　１，講師　２，助手　４，医員　０，大学院学生　０，研究生　２

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	小児血液学会評議員会	評　議　員	伊藤　悦朗		1日
	日本血液学会評議員会	評　議　員			1日
	日本血液学会専門医認定委員	委　　員			1日
	日本小児保健協会理事会	理　　事			1日
	日本小児保健協会支部長会	支　部　長			1日
	日本小児科学会代議員会	代　議　員			1日
	日本小児白血病リンパ腫研究グループ	監　　事			4日
	小児血液学会再生不良性貧血委員会	委　　員			1日
	日本小児循環器学会評議員会	評　議　員	高橋　　徹		1日
	日本腎臓学会	学術評議員	田中　　完	評議員会出席	2日
	日本小児腎臓病学会	評　議　員		評議員会出席	2日
	日本小児白血病リンパ腫研究グループ	乳児白血病委員	高橋　良博		7日
	日本小児白血病リンパ腫研究グループ	PRWG 委員			4日
05年度	小児血液学会評議員会	評　議　員	伊藤　悦朗		1日
	日本血液学会評議員会	評　議　員			1日
	日本血液学会専門医認定委員	委　　員			1日
	日本小児保健協会理事会	理　　事			1日
	日本小児保健協会支部長会	支　部　長			1日
	日本小児科学会代議員会	代　議　員			1日
	日本小児循環器学会評議員会	評　議　員	高橋　　徹		1日
	日本腎臓学会	学術評議員	田中　　完	学術評議員会	2日
	日本小児腎臓病学会	評　議　員		評議員会出席	2日
	日本小児白血病リンパ腫研究グループ	乳児白血病委員	高橋　良博		3日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本小児科学会青森地方会	会　　長	伊藤　悦朗		3日
	青森小児血液腫瘍研究会	会　　長			1日
	青森県小児保健協会夏期懇談会	会　　長			1日
	青森県小児保健協会総会・学術集会	会　　長			1日
05年度	日本小児科学会青森地方会	会　　長	伊藤　悦朗		1日
	青森小児血液腫瘍研究会	会　　長			1日
	青森県小児保健協会夏期懇談会	会　　長			1日
	青森県小児保健協会総会・学術集会	会　　長			1日
	青森骨髄移植研究会	助　　手	照井　君典		1日
	青森小児血液腫瘍研究会				1日
	青森県小児神経談話会	幹　　事	藤田　浩史		

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	Nature Review Cancer（査読）	査　読　者	伊藤　悦朗		1編
	Genes to Cells（査読）				1編
	Blood（査読）				1編
	American J Pathology　（査読）				1編
	Oncogene（査読）				1編
	Kidney International 誌	査　読　者	田中　　完		4日
	Nephrology 誌				2日
	Pediatric Nephrology 誌				3日
	European Journal of Pediatrics 誌				3日
	Pediatric International 誌				2日
05年度	Genes to Cells（査読）	教　　授	伊藤　悦朗		2編
	Blood（査読）				4編
	American J Pathology				1編
	CancerChemotherapy and Pharmacology				1編
	Annals of Hematology				1編

05年度	Kidney International Journal of Pediatrics Pediatric Nephrology Journal of Nephrology Pediatrics International Drug Discovery Today 日本小児科学会雑誌	As a reviewer	田中　　完		それぞれについて1週間前後の査読期間を要した.

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	弘前大学医学部医学科公開講座（アレルギー）	講　　師	田中　　完	H.17. 9. 9	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県小児がん等がん調査委員会 青森県小児がん等がん調査実務検討委員会 青森県小児慢性特定疾患対策協議会 青森県感染症発生動向調査企画委員会 津軽地区保健医療圏小児救急医療対策協議会	委　員　長 委　員　長 委　員　長 委　員　長 委　　員	伊藤　悦朗		2日 2日 1日 1日 1日
	青森県地域保健医療対策協議会周産母子医療対策専門部会	委　　員	高橋　　徹		2日
	青森県国民健康保険審査委員会 弘前市学校検尿判定委員会	審査委員 判定委員	田中　　完		36日 1日
05年度	青森県小児がん等調査委員会 青森県小児がん等調査実務検討委員会 青森県小児慢性特定疾患対策協議会 青森県感染症発生動向調査企画委員会 津軽地区保健医療圏小児救急医療対策協議会	委　員　長 委　員　長 委　員　長 委　員　長 委　　員	伊藤　悦朗		2日 2日 1日 1日 1日
	津軽地域小児救急医療運営協議会	委　　員	高橋　　徹		2日
	青森県国民健康保険審査委員会 弘前市学校検尿判定委員会	審査委員 判定委員	田中　　完		36日 1日
	青森県国民健康保険審査委員会	審査委員	田中　　完	1ヶ月に3日	36日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	21世紀教育		高橋　　徹		3日
05年度	21世紀教育		高橋　　徹		3日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	つくば大学TARAセンター	教　　授 （非常勤講師）	伊藤　悦朗		1日
	小児救急研修会		高橋　　徹		1日
	ミゾリビンループス腎炎治療フォーラム	講　　師	田中　　完	計2回	計4日
05年度	第47回岩手県小児科医会講演会 第2回北九州小児腎フォーラム	特別講演講師	田中　　完	H17. 7.30 H17.11.11	2日 2日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	町立田子病院非常勤医師として町内の乳幼児健診，予防接種を担当	非　常　勤	田中　　完		15日
	金木町健診	非　常　勤	藤田　浩史		4日
05年度	鰺ヶ沢町立中央病院	非常勤医師	田中　　完		24日
	弘前大学医学部附属病院1か月健診	助　　手	照井　君典		10日
	金木地区学校医	学　校　医	藤田　浩史		1日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	金木町立病院非常勤医師	非常勤医師	伊藤　悦朗		1日／週
	公立野辺地病院 県立北上病院	非常勤医師	高橋　　徹		1日／週 1日／月
	町立田子病院 青森労災病院 秋田赤十字病院 岩手県立北上病院 三沢市立三沢病院	非常勤医師	田中　　完		1日／週 1日／月 1日／月 1日／月 1日／月
	大館市立総合病院 三沢市立三沢病院 十和田市立中央病院 弘前市立病院	非常勤医師	藤田　浩史		1日／週 1日隔月 1日／月 1日／月
	十和田市立中央病院 公立金木病院 町立大鰐病院	非常勤医師	高橋　良博		1日／週 2日／月 1日／月
	三戸中央病院 浪岡町立病院 町立大鰐病院	非常勤医師	遠野千佳子		1日／週 1日／月 1日／
	西北中央病院出張 大鰐町立病院出張	非常勤医師	佐々木伸也		1日／月 1日／月
05年度	公立金木病院	非常勤医師	伊藤　悦朗		1日／週
	公立野辺地病院 県立北上病院	非常勤医師	高橋　　徹		1日／週 1日／月
	鰺ヶ沢町立中央病院 青森労災病院 秋田赤十字病院 岩手県立北上病院	非常勤医師	田中　　完		48日 12日 12日 12日
	大館市立総合病院 三沢市立三沢病院 十和田市立中央病院 弘前私立病院	非常勤医師	藤田　浩史		1日／週 1日隔月 1日／月 1日／月
	西北中央病院 弘前市急患診療所	非常勤医師	照井　君典		24日 2日
	十和田市立中央病院 公立金木病院 町立大鰐病院	非常勤医師	高橋　良博		1日／週 2日／月 1日／月

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	骨髄移植推進財団ドナーコーデイネート	調 整 医 師	伊藤　悦朗		7日
05年度	骨髄移植推進財団ドナーコーデイネート	調 整 医 師	伊藤　悦朗		7日
	骨髄移植推進財団移植調整医師	助　　手	照井　君典		2日
	平成17年度　青森県臓器移植推進講会	講　　師	高橋　良博		1日

22. 外科学第一講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

達成した。

これから２年間の目標：

心臓血管外科および呼吸器外科関連の学会活動を活発に行う。

地域の医療施設との連携を緊密に行い，専門分野の知識の普及と医療水準の向上に寄与する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　１，助教授　０，講師　３，助手　６，医員　４，大学院学生　２，研究生　０
05年度		教授　１，助教授　０，講師　３，助手　６，医員　２，大学院学生　３，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本外科学会	評　議　員	福田　幾夫		１日
	日本胸部外科学会	評　議　員			１日
	日本心臓血管外科学会	評　議　員			１日
	日本静脈学会	評　議　員			１日
	日本胸部外科学会	評　議　員			１日
	日本胸部外科学会卒後教育委員会	委　　員			１日
	日本内視鏡外科学会	評　議　員	對馬　敬夫	横浜	１日
	内視鏡外科フォーラム	世　話　人		仙台	１日
	青森呼吸器外科研究会	幹　　事		青森	１日
	日本胸部外科学会東北地方会	座　　長		山形	１日
	青森内視鏡外科研究会	幹　　事		青森	１日
	東北肺癌研究談話会	幹　　事		仙台	１日
05年度	日本外科学会	評　議　員	福田　幾夫		１日
	日本胸部外科学会	評　議　員			１日
	日本心臓血管外科学会	評　議　員			１日
	日本静脈学会	評　議　員			１日
	日本胸部外科学会	評　議　員			１日
	日本胸部外科学会卒後教育委員会	委　　員			２日
	日本血管内治療学会	評　議　員			１日
	日本外科学会認定医認定委員会	試 験 委 員			２日
	日本心臓ペーシング・電気生理学会	評　議　員			
	日本小児循環器学会	評　議　員	鈴木　保之		１日
	日本内視鏡外科学会	評　議　員	對馬　敬夫	東京	１日
	青森呼吸器研究会	幹　　事		青森	１日
	青森内視鏡外科研究会	幹　　事		青森	１日
	東北肺癌研究談話会	幹　　事		仙台	１日

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	第24回東北 MMC 研究会	当番世話人	福田　幾夫		１日
	第16回青森県静脈・経腸栄養研究会				１日
	第18回青森呼吸器研究会				１日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	Jpn J Thorac Cardiovasc Surg	編 集 委 員	福田　幾夫	査読	１日
	日本静脈学会誌「静脈学」	査 読 委 員	福田　幾夫		７日
	Annals of Thoracic Surgery	講　　師	鈴木　保之		
05年度	Jpn J Thorac Cardiovasc Surg	編 集 委 員	福田　幾夫		１日
	日本静脈学会誌「静脈学」	査 読 委 員			１日

05年度	日本血管外科学会誌 Surgery Today	論文審査委員 査 読 委 員	福田　幾夫		2日 2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県社会福祉審議会 青森県総合健診センター	委　　員 常 任 理 事	福田　幾夫		
05年度	青森県社会福祉審議会 青森県総合健診センター	委　　員 常 任 理 事	福田　幾夫		
	青森県社会保険診療報酬支払基金		鈴木　保之		45日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	21世紀教育	教　　授	福田　幾夫		2日
	21世紀教育	講　　師	福井　康三		2日
	21世紀教育	講　　師	鈴木　保之		1日
	21世紀教育	講　　師	對馬　敬夫		3日
	21世紀教育	助　　手	一関　一行		2日
05年度	21世紀教育	教　　授	福田　幾夫		1日
	21世紀教育	講　　師	鈴木　保之		3日
	21世紀教育	講　　師	福井　康三		2日
	21世紀教育	講　　師	對馬　敬夫		4日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	国立弘前病院附属看護学校	講　　師	福井　康三		3日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県肺がん検診 青森県肺がん検診 青森県乳がん検診	X線写真読影委員 合同読影委員 乳がん検診医	對馬　敬夫		10日 7日 3日
	青森県肺がん健診 青森県乳がん健診	X線写真読影委員 乳がん検診医	山田　芳嗣		10日 3日
	青森県肺がん健診 青森県乳がん健診	X線写真読影委員 乳がん検診医	畑中　　亮		10日 3日
05年度	青森県肺がん検診 青森県肺がん検診	X線写真読影委員 合同読影委員	對馬　敬夫		10日 5日
	肺癌健診	非常勤医師	山田　芳嗣		10日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	国保平賀町立病院	非常勤医師	福田　幾夫		24日
	国保平賀町立病院	非常勤医師	福井　康三		45日

04年度	板柳中央病院 青森県社会保険診療報酬支払基金	非常勤医師 審 査 委 員	鈴木　保之		48日 36日
	板柳中央病院　外科	非常勤医師	對馬　敬夫		40日
	板柳中央病院	非常勤医師	平尾　良範		48日
	弘前中央病院	非常勤医師	一関　一行		28日
	弘前中央病院	非常勤医師	伊東　和雄		16日
	弘前中央病院 青森市民病院	非常勤医師 非常勤医師	大徳　和之		30日 30日
	弘前中央病院	非常勤医師	畑中　　亮		48日
	平賀病院 ヒロサキメディカルセンター 弘愛会病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	山田　芳嗣		50日 5日 5日
	弘前中央病院 弘愛会病院 ヒロサキメディカルセンター	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	皆川　正仁		24日 12日 12日
05年度	国保平賀町立病院 弘前中央病院	非常勤医師 非常勤医師	福田　幾夫	1・3（土）非定期	20日 5日
	板柳中央病院 弘愛会病院 介護老人保健施設三笠ケアセンター 鳴海病院 青森県社会保険診療報酬支払基金	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 審 査 委 員	鈴木　保之		48日 8日 4日 1日 36日
	平川市立病院 弘前中央病院 弘前市立病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	福井　康三		45日 20日 1日
	国民健康保険板柳中央病院	非常勤医師	對馬　敬夫		48日
	平賀町国民健康保険平賀病院	非常勤医師	山田　芳嗣		48日
	ヒロサキメディカルセンター 弘前中央病院 弘愛会病院 介護老人保健施設三笠ケアセンター 青森労災病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	皆川　正仁		40日 24日 16日 4日 1日
	ヒロサキメディカルセンター 弘愛会病院 介護老人保健施設三笠ケアセンター	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	大徳　和之		40日 16日 4日
	鳴海病院 ヒロサキメディカルセンター 弘愛会病院 青森労災病院 介護老人保健施設三笠ケアセンター	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	谷口　　哲		48日 10日 16日 1日 4日
	弘前中央病院 弘愛会病院 ヒロサキメディカルセンター 介護老人保健施設三笠ケアセンター 平内中央病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	木村　大輔		48日 16日 16日 4日 1日
	弘前中央病院 弘愛会病院 ヒロサキメディカルセンター 鳴海病院 介護老人保健施設三笠ケアセンター	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	田茂和歌子		48 16 16 5 4

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	第12回日露医学医療国際交流国際シンポジウム		鈴木　保之		8日

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

23. 外科学第二講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

学会及び生涯学習など，地域のリーダーとしては勿論，全国的なレベルで社会活動一般に教室一丸となって積極的に参加したい。

これから２年間の目標：

前回の目標を継続する。すなわち，学会及び生涯学習など，地域のリーダーとしては勿論，全国的なレベルで社会活動一般に教室一丸となって積極的に参加したい。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　3，助手　7，医員　6，大学院学生　6，研究生　5
05年度		教授　1，助教授　2，講師　3，助手　6，医員　6，大学院学生　7，研究生　1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本外科学会	評　議　員	佐々木睦男		4日
	日本外科学会	教育要員			6日
	日本臨床外科医学会	評　議　員			2日
	日本移植学会	評　議　員			4日
	日本胆道学会	評　議　員			2日
	日本臨床免疫学会	評　議　員			1日
	日本肝胆膵外科学会	評　議　員			2日
	日本消化器病学会	評　議　員			2日
	日本肝移植研究会	世　話　人			4日
	日本胆道膵管合流異常研究会	監　　事			4日
	日本消化器病学会東北支部会	幹　　事			2日
	東北外科集談会	世　話　人			1日
	日本外科学会	認定医認定委員	吉原　秀一		8日
	日本消化器病学会東北支部会	評　議　員			1日
	青森県内視鏡外科研究会	幹　　事			2日
	東北内視鏡外科フォーラム	幹　　事			1日
	青森県乳腺疾患研究会	世　話　人	小田桐弘毅		2日
	日本乳癌学会東北地方会	世　話　人			2日
	日本肝胆膵外科学会	評　議　員	袴田　健一		2日
	日本肝移植研究会	幹　　事			2日
	日本消化器病学会東北支部会	評　議　員	鳴海　俊治		1日
	日本胆膵生理機能研究会	世　話　人			2日
	日本食道学会	評　議　員	川﨑　仁司		2日
05年度	日本外科学会	評　議　員	佐々木睦男		4日
	日本外科学会	教育要員			6日
	日本臨床外科医学会	評　議　員			2日
	日本移植学会	評　議　員			4日
	日本胆道学会	評　議　員			2日
	日本臨床免疫学会	評　議　員			1日
	日本肝胆膵外科学会	評　議　員			2日
	日本消化器病学会	評　議　員			2日
	日本肝移植研究会	世　話　人			4日
	日本胆道膵管合流異常研究会	監　　事			4日
	日本消化器病学会東北支部会	幹　　事			2日
	東北外科集談会	世　話　人			1日
	日本外科学会	認定医認定委員	吉原　秀一		8日
	日本消化器病学会東北支部会	評　議　員			1日
	青森県内視鏡外科研究会	幹　　事			2日
	東北内視鏡外科フォーラム	幹　　事			1日
	青森県乳腺疾患研究会	世　話　人	小田桐弘毅		2日
	日本乳癌学会東北地方会	世　話　人			2日

05年度	日本肝胆膵外科学会 日本肝移植研究会	評　議　員 幹　　事	袴田　健一		2日 2日
	日本消化器病学会東北支部会 日本胆膵生理機能研究会	評　議　員 世　話　人	鳴海　俊治		1日 2日
	日本食道学会	評　議　員	川﨑　仁司		2日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第32回青森県肝胆膵研究会 第14回外科漢方研究会	世　話　人 世　話　人	佐々木睦男		1日 1日
	第7回青森県肝癌研究会	世　話　人	袴田　健一		1日
05年度	第3回日本乳癌学会東北地方会 日本消化器病学会東北支部会第7回教育講演会	教　　授	佐々木睦男		1日 1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本外科学会 Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	会誌編集委員 査 読 委 員	佐々木睦男		4日 4日
	Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	査 読 委 員	吉原　秀一		6日
	Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	査 読 委 員	袴田　健一		6日
	Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	査 読 委 員	鳴海　俊治		6日
05年度	日本外科学会 Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	会誌編集委員 査 読 委 員	佐々木睦男		4日 4日
	Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	査 読 委 員	吉原　秀一		6日
	Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	査 読 委 員	袴田　健一		6日
	Surgery Today（日本外科学会欧文雑誌）	査 読 委 員	鳴海　俊治		6日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県総合検診センター 青森県社会福祉審議会 青森県成人病検診管理指導協議会 弘前大学医師会	常 任 理 事 会　　長 委　　員 副　会　長	佐々木睦男		4日 2日 2日 2日
	弘前大学医師会	幹　　事	吉原　秀一		2日
	弘前大学医師会	監　　事	小田桐弘毅		2日
05年度	青森県総合検診センター 青森県社会福祉審議会 青森県成人病検診管理指導協議会 弘前大学医師会	常 任 理 事 会　　長 委　　員 副　会　長	佐々木睦男		4日 2日 2日 2日
	弘前大学医師会	幹　　事	吉原　秀一		2日
	弘前大学医師会	監　　事	小田桐弘毅		2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	都市エリア共同研究事業	共同研究者	吉原　秀一		8日
05年度	都市エリア共同研究事業	共同研究者	吉原　秀一		8日

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	医学部保健学科看護科	講　　師	吉原　秀一		5日

04年度	医学部保健学科理学療法科	講　　師	吉原　秀一		3日
	弘前大学21世紀教育	教　　授	佐々木睦男		2日
	弘前大学21世紀教育	講　　師	吉原　秀一		2日
	弘前大学21世紀教育	講　　師	小田桐弘毅		2日
05年度	医学部保健学科看護科	講　　師	吉原　秀一		9日
	弘前大学21世紀教育	教　　授	佐々木睦男		2日
	弘前大学21世紀教育	助　教　授	吉原　秀一		2日
	弘前大学21世紀教育	助　教　授	袴田　健一		2日
	弘前大学21世紀教育	講　　師	鳴海　俊治		2日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前大学教育学部附属小中学校	講　　師	吉原　秀一		1日
05年度	弘前大学教育学部附属小中学校	助　教　授	吉原　秀一		1日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	公立米内沢病院	非常勤医師	佐々木睦男		50日
	木造成人病センター，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	小田桐弘毅		60日
	弘前大学教育学部附属小中学校 藤崎病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	吉原　秀一		51日
	弘前小野病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	袴田　健一		50日
	鰺ヶ沢病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	鳴海　俊治		60日
	弘前小野病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	川﨑　仁司		50日
	木造成人病センター，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	十束　英志		25日
	青森市民病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	豊木　嘉一		60日
	蟹田病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	村田　暁彦		60日
	木造成人病センター，青森県総合検診センター	非常勤医師	小山　　基		25日
	財団法人双仁会　厚生病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	柴田　　滋		50日
	木造成人病センター，青森県総合検診センター	非常勤医師	梅原　　豊		50日
05年度	公立米内沢病院	非常勤医師	佐々木睦男		50日
	弘愛会病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	小田桐弘毅		60日
	弘前大学教育学部附属小中学校 藤崎病院，金木病院	非常勤医師	吉原　秀一		51日
	藤崎病院，大鰐病院	非常勤医師	袴田　健一		50日
	鰺ヶ沢病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	鳴海　俊治		60日
	弘前小野病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	川﨑　仁司		50日
	青森市民病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	豊木　嘉一		60日
	弘前小野病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	村田　暁彦		60日
	鳴海病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	小山　　基		50日
	財団法人双仁会　厚生病院，(財)青森県総合検診センター	非常勤医師	柴田　　滋		50日
	金木病院，青森県総合検診センター	非常勤医師	梅原　　豊		50日
	七戸病院，青森県総合検診センター	非常勤医師	西澤　雄介		50日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

24. 整形外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1．『骨と関節の10年』活動を通して，整形外科の啓蒙活動を行う。
青森臨床整形外科医会主催のもと，後援の形で講演会及び健康相談を行った。

2．積極的にフィールドワークを行い，スポーツ障害・外傷の予防・プライマリーケアーを行う。膝前十字靭帯損傷予防の調査・研究・骨粗鬆症ほか整形外科疾患の予防・治療に関する知識を啓蒙脊柱靱帯骨化症患者団体への支援を行った。
脊椎・脊髄外傷における救急隊および救急部への支援と協力を行った。
青森県スポーツ科学センターのメディカルチェックや国体の帯同ドクターを行った。
大学院の研究テーマとして，前回の課題であったプライマリーケアーに関する活動も徐々にではあるが進行し高校生の前向き調査を行っている。
ドクタースキーパトロールとして，活動を行った。

3．各種学会の役員として学会の発展に寄与する。
積極的に行った。

4．青森県身体障害者更生相談所嘱託医として，厚生医療のバックアップ
問題なく施行された。

5．青森県社会福祉審議会・青森県肢体不自由児協会の活動を通して社会の福祉向上のための努力
毎日新聞広告などで活動を紹介した。

6．検診業務の推進（側彎症，骨粗鬆症，発育期スポーツ障害）。
県の検診事業をバックアップした。

7．弘前市就学指導委員会委員として小児の医療相談に応ずる。
相談件数は少なかったが，適切に相談に応じた。

8．厚生労働省難病指定・靭帯骨化症および広範囲脊柱管狭窄症の班会議に積極的に参加・貢献する。
大学院の研究を積極的に紹介した。脊柱靱帯骨化症患者団体への支援を行った。

これから２年間の目標：

1．『骨と関節の10年』活動を通して，整形外科の啓蒙活動を行う。

2．積極的にフィールドワークを行い，スポーツ障害・外傷の予防・プライマリーケアーを行う。膝前十字靭帯損傷予防の調査・研究，また障害予防のための啓蒙（一般の人に対する講演）・骨粗鬆症ほか整形外科疾患の予防・治療に関する知識を啓蒙。

3．各種学会の役員として学会の発展に寄与する。

4．青森県身体障害者更生相談所嘱託医として，自立支援医療のバックアップ。

5．青森県社会福祉審議会・青森県肢体不自由児協会の活動を通して社会の福祉向上のための努力。

6．検診業務の推進（骨粗鬆症，発育期スポーツ障害）。

7．弘前市就学指導委員会委員として小児の医療相談に応ずる。

8．厚生労働省難病指定・靭帯骨化症および広範囲脊柱管狭窄症の班会議に積極的に参加・貢献する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　１，助教授　１，講師　２，助手　４，医員　８，大学院学生　７，研究生　１９
05年度		教授　１，助教授　１，講師　１，助手　５，医員　８，大学院学生　７，研究生　１３

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本整形外科学会	代　議　員 用語委員会	藤　　哲		10日
	日本手の外科学会	評　議　員 機能評価委員会委員	藤　　哲		４日
	日本マイクロサージャリー学会	評　議　員	藤　　哲		２日

04年度	日本最小侵襲整形外科研究会	世　話　人	藤　　哲		2日
	東日本手の外科研究	運営委員	藤　　哲		2日
	東日本整形外科学会 日本創外固定骨延長学会 日本臨床スポーツ医学会 日本整形外科スポーツ医学会 日本整形外科学会専門医試験	評　議　員 世　話　人 評　議　員 評　議　員 試　験　官	藤　　哲		2日 2日 2日 2日 2日
	日本整形外科学会専門医試験 日本整形外科学会代議委員会 日本手の外科学会 東日本臨床整形災害外科学会 青森県スポーツ医学研究会 日本手の外科学会プログラム委員会 日本手の外科学会教育研修委員会 日本関節鏡学会 独立行政法人物質・材料研究機構ナノ DDS 研究開発実務委員会	試　験　官 代　議　員 評議委員 評議委員 世　話　人 委　　員 委　　員 評議委員 委　　員	西川　真史		2日 2日 1日 1日 1日 2日 2日 1日 1日
	東日本臨床整形外科学会 日本関節鏡学会 日本膝関節学会 東北膝関節研究会 膝関節フォーラム 青森県スポーツ医学研究会 青森県骨軟骨シンポジウム	評　議　員 評　議　員 評　議　員 代表世話人 代表世話人 事　務　局 事　務　局	石橋　恭之	福島 東京 東京 仙台 東京 青森 青森	2日 2日 2日 1日 2日 1日 1日
05年度	日本整形外科学会	代　議　員 用語委員会	藤　　哲		10日
	日本手の外科学会	評　議　員 機能評価委員会担当理事 理　　事	藤　　哲		6日
	日本マイクロサージャリー学会	評　議　員	藤　　哲		2日
	日本最小侵襲整形外科研究会	世　話　人	藤　　哲		2日
	東日本手の外科研究会	運営委員	藤　　哲		2日
	東日本整形外科学会 日本創外固定骨延長学会 日本臨床スポーツ医学会 日本整形外科スポーツ医学会 日本整形外科学会専門医試験	評　議　員 世　話　人 評　議　員 評　議　員 試　験　官	藤　　哲		2日 2日 2日 2日 2日
	日本整形外科学会専門医試験 日本整形外科学会代議委員会 日本手の外科学会 東日本臨床整形災害外科学会 青森県スポーツ医学研究会 日本手の外科学会プログラム委員会 日本手の外科学会教育研修委員会 日本関節鏡学会	試　験　官 代　議　員 評議委員 評議委員 世　話　人 委　　員 委　　員 評議委員	西川　真史		2日 2日 1日 1日 1日 2日 1日 1日
	東北膝関節研究会 東北肩関節懇話会 青森県スポーツ医学研究会 東日本臨床整形外科 日本関節鏡学会 日本膝学会	講　　師	石橋　恭之	仙台市 仙台市 青森 東京 東京 東京	1日 1日 1日 2日 2日 2日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第1回日・イ手の外科合同会議	会　　長 実行委員長	藤　　哲 西川　真史		3日 3日
	第8回弘前国際医学ファーラム	実行委員長	藤　　哲		2日
05年度	膝関節フォーラム 東北膝関節研究会 東北肩関節懇話会	講　　師	石橋　恭之	東京 仙台 仙台	1日 1日 1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	Journal of Shoulder and Elobow Surgery Journal of Hand Sugery-Asian volume Jopuranal of Orthopaedic Sience 東日本整形災害外科学会誌 日本手の外科学会誌 日本最小侵襲整形外科学会誌 弘前医学 日本整形外科学会誌 the Tohoku Journal of Experimental Medicine 日本創外固定・骨延長学会誌	査読委員	藤　　哲	査読	1件 2件 7件 4件 3件 1件 1件 2件 2件 1件
	東日本整形災害外科学会誌 日本手の外科学会誌	査読委員	西川　真史		2件 2件
	東日本臨床整形外科学会 日本関節鏡学会 日本膝関節学会 東北膝関節研究会	査読委員	石橋　恭之		7件 3件 3件 5件
05年度	Journal of Hand Sugery-Asian volume Jopuranal of Orthopaedic Sience 東日本整形災害外科学会誌 日本手の外科学会誌 弘前医学 日本整形外科学会誌 臨床スポーツ医学	査読委員	藤　　哲		5件 4件 1件 2件 1件 3件 1件
	青森県スポーツ医学研究会誌 東日本臨床整形外科学会 日本関節鏡学会 日本膝関節学会 東北膝関節研究会	査読委員	石橋　恭之		2件 5件 5件 5件 5件

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	見て，聞いて，触って，弘前大学（2004.09.05） ポスター発表		西川　真史	弘前市	1日
05年度	Victory summit 講習会（ドーピングについて） アップルウェーブ（FM ラジオ番組） 指導者・ボランティアのための医学講習会	講　　師	石橋　恭之	青森市 弘前市 弘前市	1日 1日 1日
	「骨と関節の日」講演会	助　　手	津田　英一		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県社会福祉審議会委員 青森県肢体不自由児協会会長 青森県総合検診センター 弘前市就学指導委員会	委　　員 会　　長 常任理事 委　　員	藤　　哲		2日 1日 2日 1日
	弘前市教育委員会	嘱託医	西川　真史		2日
	青森県身体障害者更生相談 青森県公安委員会	嘱託医 専門医師	石橋　恭之		 20日
	青森県骨密度（骨粗鬆症）検診判定委員会	判定委員	中村　吉秀		2日
	厚生労働省難病指定・靭帯骨化症班会議への参加		横山　　徹		4日
05年度	青森県社会福祉審議会委員 青森県肢体不自由児協会会長 青森県総合検診センター 弘前市就学指導委員会	委　　員 会　　長 常任理事 委　　員	藤　　哲		2日 1日 2日 1日
	弘前市教育委員会	嘱託医	西川　真史		2日
	青森県身体障害者更生相談 青森県公安委員会	嘱託医 専門医師	石橋　恭之		 20日
	青森県骨密度（骨粗鬆症）検診判定委員会	判定委員	中村　吉秀		2日
	厚生労働省難病指定・靭帯骨化症班会議への参加	助　　手	横山　　徹		2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	特許申請「矯正位保持機能つき骨接合プレート」	発　明　者	西川　真史	弘前大学より出願中	7日
	特許申請「牽引装置」	発　明　者	西川　真史	弘前大学より出願中	7日

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	Professorial Lecture of Prince of Wales Hospital,（香港中華大学）	教　　授	藤　　哲	香港	1日
	Belgrade University, Acadamy 講演	教　　授	藤　　哲	ベルグラード（セルビア・モンテネグロ）	1日
05年度	ベオグラード大学医学部創立85周年記念講演会	教　　授	藤　　哲	セルビア・モンテネグロ	4日
	東京医科大学大学院特別講義	教　　授	藤　　哲	東京	2日
	東北大学歯学部講演会	教　　授	藤　　哲	仙台	2日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	1．第27回弘前大学白菊会総会・会員の集い	教　　授	藤　　哲	弘前	1日
	2．平成16年度兵庫医科大学整形外科開講記念会			神戸	2日
	3．第40回脊髄・末梢神経・筋疾患懇話会			青森	1日
	4．マイクロサージャリー技術講習会ー講師			熊本	2日
	5．青森県作業療法士会ー公開講座			青森	1日
	6．琉球大学整形外科学術集会			那覇	2日
	7．第23回新潟手の外科セミナー			新潟	2日
	8．第4回兵庫県骨補填インプラント研究会			神戸	2日
	9．第63回慶大整形外科公開セミナー			東京	2日
	10．第38回 JCOA 関東ブロック研修会　平成16年度第5回 TCOA 統一研修会			東京	2日
	11．第43回山口形成外科研究会			宇部	2日
	12．第32回昭整会　大学支部総会			東京	2日
	上十三支部薬剤師会研修会講演「骨粗鬆症について」	助　教　授	西川　真史	野辺地	1日
	Visiting Professor Seminar	講　　師	石橋　恭之	Pittsburgh University, USA	1日
	UPMC ground round			Pittsburgh University, USA	1日
	MGH ground round			Harvard University, USA	1日
	弘前大学整形外科夏の研修医会			大鰐町	1日
	青森県アスレチックトレーナー講習会			岩木町	1日
	柔道整復士会学術講演会			青森市	1日
	青森県理学療法士研修会			青森市	1日
05年度	1．平成17年度福島県立医科大学医学部整形外科同門会	教　　授	藤　　哲	郡山市	2日
	2．第3回鹿児島県バイオアクテイブペースト研究会			鹿児島市	2日
	3．第24回新潟手の外科セミナー			新潟市	2日
	4．第96回信州整形外科懇談会			駒ヶ根市	2日
	5．第3回高知県骨補填材料研究会			高知市	2日
	6．金木病院講演会			金木	1日
	7．第2回青森手の外科懇話会			青森市	1日
	8．富山県整形外科医会 秋の教育研修講演会			富山市	2日
	9．岡山県臨床整形外科医会（岡山県医師会整形外科部会）研修会（第213回）			岡山市	2日
	10．Yokohama Hand Club			横浜市	2日
	11．第3回青森手の外科懇話会			青森市	1日

05年度	関節鏡手術セミナー：ACL再建術における Navigationの応用 柔整士会学術講演会：大腿骨頸部骨折と股関節周辺の疼痛について	講　　師	石橋　恭之	新潟市 青森市	1日 1日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	巡回診療	診　療　医	藤　　哲	五所川原	3日
	弘前大学学校医　定期検診 巡回診療 弘前市教育委員会	学　校　医 診　療　医 嘱　託　医	西川　真史	青森市	2日 3日 12日
	青森県スポーツ科学センター 五所川原市スポーツ相談室		石橋　恭之		3日 2日
	義肢装具判定巡回診療	助　　手	中村　吉秀		3日
	第60回国民体育大会冬季大会帯同ドクター 青森県スポーツ科学センタースポーツメディカルチェック 五所川原市スポーツ医事相談室	助　　手 助　　手	津田　英一		4日 7日 2日
05年度	巡回診療	診　療　医	藤　　哲	五所川原	3日
	弘前大学学校医　定期検診 巡回診療 弘前市教育委員会	学　校　医 診　療　医 嘱　託　医	西川　真史	青森市	2日 3日 12日
	青森県スポーツ科学センター 五所川原市スポーツ相談室		石橋　恭之		3日 2日
	義肢装具判定巡回診療	助　　手	中村　吉秀		3日
	青森県身体障害診断巡回診療	助　　手	横山　　徹		3日
	青森県スポーツ科学センタースポーツメディカルチェック 五所川原市スポーツ医事相談室	助　　手	津田　英一		7日 3日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	大館市立病院 損害保険料率算出機構審査員 青森県身体障害者更生相談所	応援医師 嘱　託　医 嘱　託　医	藤　　哲		1日／月 2回／月 2回／月
	青森県身体障害者更正相談所 結核審査会 西北病院	嘱　託　医 委　　員 応援医師	西川　真史		2回／月 2回／月 1回／週
	社会保険診療報酬請求書審査委員会 国民健康保険町立板柳中央病院	委　　員 応援医師	岡田　晶博		1.25日 2.44日
	損害保険料率算出機構審査員 町立平賀病院	審査委員 応援医師	中村　吉秀		3回／月 1回／週
	町立鶴田病院	応援医師	横山　　徹		1回／週
	町立百石病院	応援医師	石橋　恭之		1回／週
	鶴田町立病院	応援医師	津田　英一		1回／週
	能代山本医師会病院	応援医師	佐藤　英樹		1回／週
05年度	大館市立病院 損害保険料率算出機構審査員 青森県身体障害者更生相談所	応援医師 嘱　託　医 嘱　託　医	藤　　哲		1日／月 2回／月 2回／月
	青森県身体障害者更正相談所 結核審査会 西北病院	嘱　託　医 委　　員 応援医師	西川　真史		2回／月 2回／月 1回／週
	損害保険料率算出機構審査員 町立平賀病院	審査委員 応援医師	中村　吉秀		3回／月 1回／週
	町立鶴田病院	応援医師	横山　　徹		1回／週
	町立百石病院	応援医師	石橋　恭之		1回／週
	鶴田町立病院	応援医師	津田　英一		1回／週
	能代山本医師会病院	応援医師	小野　　睦		1回／週

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	JOA-AOA traveling fellowship		石橋　恭之		
05年度	JOA-AOA traveling fellowship		石橋　恭之		

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	全日本スキー連盟	ドクターパトロール	藤　　哲	大鰐	1日
	Orthopaedics Today International Edition, Groball News in Musculoskeletal Health & Disease	Editorial Advisory Board member		メール上会議	
05年度	全日本スキー連盟	ドクターパトロール	藤　　哲	大鰐	2日
	Orthopaedics Today International Edition, Groball News in Musculoskeletal Health & Disease	Editorial Advisory Board member		メール上会議	

25. 皮膚科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

啓蒙活動は市民の QOL を高め，大学病院の患者増につながるため継続する。

地域の医療活動のサービスに努める。

【到達度】70％

これから２年間の目標：

啓蒙活動は市民の QOL を高め，大学病院の患者増につながるため継続する。

地域の医療活動のサービスに努める。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　4，大学院学生　4，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　1，講師　1，助手　5，医員　9，大学院学生　7，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第103回日本皮膚科学会総会	代　議　員	花田　勝美	横浜市	３日
	第26回日本光医学・光生物学会	理　　事		大坂府	２日
	日本皮膚科学会東部支部			新潟	３日
	第20回美白専門委員会			東京	２日
	第29回香粧品学会	評　議　員		東京	１日
	第114回弘前大学皮膚科集談会　甲午会総会	世　話　人		弘前市	１日
	日本皮膚科学会青森地方会第326回例会	世　話　人		弘前市	２日
	日本皮膚科学会青森地方会第327回例会	世　話　人		弘前市	１日
	日本皮膚科学会青森地方会第328回例会	世　話　人		弘前市	１日
	第５回光老化研究会	世　話　人		弘前市	１日
	太陽紫外線防御研究委員会第15回シンポジウム	理　　事		弘前市	１日
	太陽紫外線防御研究委員会第11回市民公開セミナー	世　話　人		弘前市	１日
	「いい皮膚の日」市民公開講座	世　話　人		弘前市	１日
	日本皮膚科学会東部支部	評　議　員	中野　　創	新潟市	３日
	第114回弘前大学皮膚科集談会　甲午会総会	代　議　員		弘前市	１日
	日本皮膚科学会青森地方会第326回例会	代　議　員		弘前市	１日
05年度	第104回日本皮膚科学会総会	代　議　員	花田　勝美	横浜市	２日
	弘前大学皮膚科教室閉講60周年記念第115回弘前大学皮膚科集談会	世　話　人		弘前市	１日
	日本皮膚科学会青森地方会第330回例会	世　話　人		弘前市	１日
	日本皮膚科学会青森地方会第331回例会	世　話　人		弘前市	１日
	第69回日本皮膚科学会東部支部学術大会	理　　事		盛岡市	２日
	日本皮膚科学会青森地方会第332回例会	世　話　人		八戸市	１日
	太陽紫外線防御研究委員会第12回公開セミナー	理　　事		京都	２日
	「いい皮膚の日」市民公開講座	世　話　人		弘前市	１日
	第21回美白専門委員会			東京都	２日
	第30回香粧品学会	評　議　員		東京都	２日
	第69回日本皮膚科学会東部支部学術大会	評　議　員	中野　　創	盛岡市	２日
	弘前大学皮膚科教室閉講60周年記念第115回弘前大学皮膚科集談会	代　議　員		弘前市	１日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第114回弘前大学皮膚科集談会　甲午会総会	会　　長	花田　勝美	弘前市	１日
	日本皮膚科学会青森地方会第326回例会	会　　長		弘前市	１日
	第５回光老化研究会	世　話　人		弘前市	２日
	日本皮膚科学会青森地方会第327回例会	会　　長		弘前市	１日
	日本皮膚科学会青森地方会第328回例会	会　　長		青森市	１日

04年度	平成16年度「いい皮膚の日」市民公開講座 太陽紫外線防御研究委員会第15回シンポジウム 太陽紫外線防御研究委員会第11回市民公開セミナー	世　話　人 世　話　人 世　話　人	花田　勝美	弘前市 弘前市 弘前市	1日 2日 1日
	第5回光老化研究会	事務局長	武田　仁志	弘前市	1日
05年度	弘前大学皮膚科教室閉講60周年記念第115回弘前大学皮膚科集談会 日本皮膚科学会青森地方会第330回例会 日本皮膚科学会青森地方会第331回例会 日本皮膚科学会青森地方会第332回例会 「いい皮膚の日」市民公開講座	世　話　人 世　話　人 世　話　人 世　話　人 世　話　人	花田　勝美	弘前市 弘前市 弘前市 八戸市 弘前市	1日 1日 1日 1日 1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	Journal of Deramtological Science Journal of Dermatology 日皮会誌 Visual Dermatology Aesthetic Dermatolgy	審　査　員 審　査　員 編集委員 編集委員 編集委員	花田　勝美	査読 査読 審査員 編集協力者 編集委員	
	Journal of Deramtological Science	審　査　員	中野　　創	審査員	21日
05年度	Journal of Deramtological Science Journal of Dermatology 日皮会誌 Visual Dermatology Aesthetic Dermatolgy	審　査　員 審　査　員 編集委員 編集委員 編集委員	花田　勝美	査読 査読 審査員 編集協力者 編集委員	3日 3日 3日 3日 3日
	Journal of Deramtological Science	審　査　員	中野　　創	審査員	21日
	Journal of Deramtological Science	審　査　員	松﨑　康司	査読	14日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	平成16年度「いい皮膚の日」市民公開講座 太陽紫外線防御研究委員会第11回市民公開セミナー		花田　勝美	弘前市 弘前市	1日 1日
	青森県栄養士会生涯学習		金子　高英	青森市	1日
	平成16年度「いい皮膚の日」市民公開講座	講　　師	武田　仁志	弘前市	1日
05年度	「いい皮膚の日」市民公開講座	教　　授	花田　勝美		1日
	「いい皮膚の日」市民公開講座	助　教　授	中野　　創		1日
	平成17年度弘前大学医学部医学科公開講座	講　　師	松﨑　康司		1日
	平成17年度弘前大学医学部医学科公開講座 「いい皮膚の日」市民公開講座 産学官連携フェア in 八戸	助　　手	武田　仁志		1日 1日 1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第4回青森地区「緊急被爆医療ネットワーク調査検討会」	委　　員	花田　勝美	青森市	1日
05年度	青森地区「緊急被爆医療ネットワーク調査検討会」	委　　員	花田　勝美	青森市	1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	無痛性マイクロニードルの開発 スキンケアロボットの開発	教　　授 教　　授	花田　勝美	特願 SPT-03-62	14日
05年度	無痛性マイクロニードルの開発 スキンケアロボットの開発	教　　授 教　　授	花田　勝美	特願 SPT-03-62	14日 7日

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	「藍」抽出トリプタントリン・アトピー性皮膚炎の応用を研究中	教　　授	花田　勝美		21日

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	保健学科看護学専攻	非常勤講師	中野　　創		5日
	養護教諭養成課程（2年）	非常勤講師	松﨑　康司		5日
05年度	福井大学	非常勤講師	花田　勝美		1日
	保健学科看護学専攻	非常勤講師	中野　　創		1日
	養護教諭養成課程（2年）	非常勤講師	松﨑　康司		8日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	厚生病院附属看護学校	非常勤講師	武田　仁志	黒石市	6日
	財団法人双仁会厚生病院看護学院看護学科病理学（皮膚科）	非常勤講師	中島　康爾	黒石市	6日
05年度	厚生病院附属看護学校	非常勤講師	武田　仁志	黒石市	6日
	厚生病院看護学院看護学科	非常勤講師	中島　康爾	黒石市	4日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	附属中学校定期健康診断（1年～3年）				3日
	附属小学校定期健康診断（1年～6年）				6日
	医学科定期健康診断（1年～5年）				3日
	農学生命科学部定期健康診断				2日
	人文学部定期健康診断				4日
	理工学部定期健康診断				5日
	教育学部定期健康診断				4日
	保健学科定期健康診断				4日
	医学部大学院定期健康診断				1日
	人文大学院定期健康診断				1日
	教育大学院定期健康診断				1日
	理工学部大学院定期健康診断				1日
	地域社会研究科定期健康診断				1日
	附属養護定期健康診断	学　校　医	中野　　創		1日
	附属幼稚園検診定期健康診断	学　校　医	中野　　創		1日
05年度	附属中学校定期健康診断（1年～3年）				
	附属小学校定期健康診断（1年～6年）				
	医学科定期健康診断（1年～2年）				
	農学生命科学部定期健康診断				
	人文学部定期健康診断				
	理工学部定期健康診断				
	教育学部定期健康診断				
	医学部大学院定期健康診断				
	人文大学院定期健康診断				
	教育大学院定期健康診断				
	理工学部大学院定期健康診断				
	地域社会研究科定期健康診断				
	附属養護定期健康診断	学　校　医	中野　　創		1日
	附属幼稚園検診定期健康診断	学　校　医	中野　　創		1日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	大館市立病院	非常勤医師	花田　勝美		12日
	秋田労災病院				12日
	扇田病院				12日

04年度	秋田労災病院	非常勤医師	中野　　創		24日
	黒石病院 北秋中央病院 山本組合総合病院 秋田労災病院	非常勤医師	原田　　研		12日 12日 12日 12日
	黒石病院 大館市立病院 米内沢総合病院	非常勤医師	松﨑　康司		12日 12日 12日
	公立野辺地病院 大館市立病院 山本組合総合病院 米内沢総合病院	非常勤医師	金子　高英		12日 24日 12日 12日
	黒石病院 北秋中央病院 秋田労災病院 扇田病院	非常勤医師	武田　仁志		12日 12日 12日 12日
	公立野辺地病院 黒石病院 米内沢総合病院	非常勤医師	中島　康爾		12日 12日 12日
	公立野辺地病院 黒石病院 山本組合総合病院 秋田労災病院 むつ総合病院	非常勤医師	横山　祥平		24日 12日 12日 12日 12日
05年度	秋田労災病院 扇田病院 黒石病院	非常勤医師	花田　勝美		12日 24日 12日
	公立野辺地病院 秋田労災病院	非常勤医師	中野　　創		24日 24日
	大館市立病院 慈仁会尾野病院 敬仁会病院	非常勤医師	松﨑　康司		24日 36日 24日
	誠仁会尾野病院 公立野辺地病院 大館市立病院 公立金木病院 慈仁会尾野病院 敬仁会病院	非常勤医師	金子　高英		12日 12日 24日 24日 12日 12日
	北秋中央病院 山本組合病院 黒石病院 秋田労災病院	非常勤医師	会津　隆幸		12日 12日 12日 12日
	誠仁会尾野病院 北秋中央病院 慈仁会尾野病院 黒石病院 秋田労災病院 三沢市立病院	非常勤医師	武田　仁志		12日 12日 12日 12日 12日 24日
	誠仁会尾野病院 慈仁会尾野病院 黒石病院 秋田労災病院 三沢市立病院 敬仁会病院	非常勤医師	森次　龍太		12日 12日 12日 12日 12日 12日
	誠仁会尾野病院 公立野辺地病院 公立金木病院 慈仁会尾野病院 黒石病院 三沢病院	非常勤医師	中島　康爾		12日 12日 24日 24日 12日 12日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日米交換訪問者プログラムによる皮膚病理組織学研修	Visiting fellow	原田　　研	Ackerman Academy of Dermato- pathology	334日

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	アップルウェーブ　リンゴ王国こうぎょくカレッジ		花田　勝美		1日
05年度	「おもいッきりテレビ」出演 RAB ニュースレーダー ATV「テレビ診察室」出演 アトピー性皮膚炎遺伝子療法が効果		花田　勝美 花田　勝美 花田　勝美	東奥日報誌掲載 （05.4.24）	1日 1日 4日 1日

26. 泌尿器科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

目標はほぼ達成された。

これから２年間の目標：

社会貢献に関しては現状で十分である。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　0，大学院学生　2，研究生　1
05年度		教授　1，助教授　0，講師　2，助手　7，医員　2，大学院学生　3，研究生　1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本泌尿器科学会	評　議　員	大山　　力		5日
	同	東北地方会運営員			
	日本 Endourology and ESWL 学会	評　議　員			5日
	泌尿器科再建再生研究会	世　話　人			1日
	ミニマム創・内視鏡下泌尿器科手術研究会	世　話　人			1日
	青森県泌尿器科研究会	代表世話人			1日
	青森県ＳＴＤ研究会	顧　　問			1日
	東北腎不全研究会	幹　　事			1日
	青森県骨盤外科研究会	世　話　人			1日
	更年期心身医学懇話会	世　話　人			1日
	青森県泌尿器科研究会	世　話　人	古家　琢也		1日
	青森県ＳＴＤ研究会	世　話　人			1日
	青森県前立腺癌研究会	世　話　人			1日
05年度	日本泌尿器科学会	評　議　員	大山　　力		5日
	日本泌尿器科学会倫理委員会	委　　員			1日
	日本泌尿器科学会学務委員会	委　　員			1日
	日本泌尿器科学会賞選考委員会	委　　員			1日
	日本泌尿器科学会学術委員会	委　　員			1日
	日本泌尿器科学会専門医審議会	委　　員			1日
	日本 Endourology and ESWL 学会	評　議　員			1日
	泌尿器科再建再生研究会	世　話　人			1日
	ミニマム創・内視鏡下泌尿器手術研究会	世　話　人			1日
	青森県泌尿器科研究会	代表世話人			2日
	青森県ＳＴＤ研究会	顧　　問			1日
	東北腎不全研究会	幹　　事			1日
	青森県骨盤外科研究会	世　話　人			1日
	更年期心身医学懇話会	世　話　人			1日
	東北内分泌研究会	世　話　人			1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第27回　青森骨盤外科研究会	会　　長	大山　　力	青森市	1日
	第21回　青森泌尿器科研究会				1日
	第３回　青森県ＳＴＤ研究会				1日
05年度	・第233回　日本泌尿器科学会東北地方会	会　　長	大山　　力	弘前市	1日
	・第22回　青森県泌尿器科研究会	会　　長		八戸市	1日
	・第23回　青森県泌尿器科研究会	会　　長		青森市	1日
	・第１回　臨床糖鎖研究会	会　　長		弘前市	1日
	・第10回　青森前立腺癌研究会	会　　長		青森市	1日
	・青森県排尿障害研究会	会　　長		青森市	1日
	・第59回　腎懇話会	会　　長		弘前市	1日
	・男性更年期障害セミナー	代　　表		弘前市	1日
	・移植医療セミナー	代　　表		弘前市	1日
	・弘前国際フォーラム	世　話　人		弘前市	2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	International Journal of Urology	編集委員	大山　　力		5日
	泌尿器外科	編集委員			3日
	Hirosaki Medical Journal	編集委員			2日
	泌尿器科紀要	編集委員			2日
	International Journal of Urology	査　　読			19日
	Urology	査　　読			4日
	Hirosaki Medical Journal	査　　読			2日
	泌尿器科紀要	査　　読			6日
	International Journal of Urology	査　　読	古家　琢也		10日
	日本泌尿器科学会誌	査　　読			4日
05年度	International Journal of Urology	編集委員	大山　　力		7日
	泌尿器外科	編集委員			4日
	Hirosaki Medical Journal	編集委員			5日
	泌尿器科紀要	編集委員			7日
	International Journal of Urology	査　　読			20日
	Urology	査　　読			4日
	Hirosaki Medical Journal	査　　読			5日
	泌尿器科紀要	査　　読			21日
	International Journal of Urology	査　　読	古家　琢也		10日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	黒石市民公開講座	講　　師	古家　琢也		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県総合検診センター	理　　事	大山　　力		5日
	青森県総合検診センター	委　　員	古家　琢也		1日
05年度	青森県総合検診センター	理　　事	大山　　力		5日
	青森県総合検診センター	委　　員	古家　琢也		1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	膀胱癌の悪性度診断法	教　　授	大山　　力	特許申請	
	プロテインチップを用いた前立腺圧出液による前立腺癌診断			発明届出	
	前立腺癌の皮膜外浸潤，再発予測表			発明届出	

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	21世紀教育	教　　授	大山　　力		1日
	医学部保健学科	講　　師	古家　琢也		1日
05年度	21世紀教育		大山　　力		1日
	神経因性膀胱		古家　琢也		1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	研修医に対する講義（尿路結石）	講　　師	古家　琢也		1日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県総合健診センター	精度管理委員	大山　力	青森市	2日
05年度	青森県総合健診センター精度管理委員	委　　員	大山　力	青森市	2日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	黎明郷	非常勤医師	大山　力		週1日
	黒石病院	非常勤医師	高橋　信好		週1日
	野辺地病院	非常勤医師	米山　高弘		週1日
	西北中央病院	非常勤医師	古家　琢也		週1日
	むつ総合病院	非常勤医師	今井　篤		週1日
	米内沢病院	非常勤医師	吉川　和暁		週1日
	白生会胃腸病院	非常勤医師	大和　隆		週1日
	市立函館病院 青森労災病院 大館市立総合病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	大山　力		2日 3日 2日
05年度	鷹揚郷	非常勤医師	大山　力		32回
	野辺地病院	非常勤医師	畠山　真吾		40回
	西北中央病院	非常勤医師	古家　琢也		45回
	西北中央病院	非常勤医師	今井　篤		45回
	米内沢病院	非常勤医師	吉川　和暁		20回
	米内沢病院	非常勤医師	萩沢　茂		20回
	米内沢病院	非常勤医師	橋本　安弘		6回
	白生会胃腸病院	非常勤医師	大和　隆		45回
	白生会胃腸病院	非常勤医師	米山　高弘		45回
	市立函館病院 青森労災病院 大館市立総合病院 むつ総合病院 青森県立中央病院 白河厚生病院 市立角館病院		大山　力		5回 3回 4回 3回 1回 1回 1回

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	医療ルネッサンス（前立腺癌）		古家　琢也		14日

27. 眼科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
本務に支障をきたさない範囲で最大限に社会貢献を行うという目標に対して60％の到達度。

これから２年間の目標：
引き続き本務に支障をきたさない範囲で最大限の社会貢献を行う。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　3，大学院学生　6，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　4，大学院学生　3，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本眼科学会	評　議　員	中澤　満		2日
	同上	専門医制度委員			11日
	日本糖尿病眼学会	理　事			1日
	日本網膜硝子体学会	理　事			1日
	日本眼循環学会	理　事			1日
	北日本眼科学会	評　議　員			1日
05年度	北日本眼科学会評議員会	評　議　員	中澤　満		1日
	日本眼科学会評議員会	評　議　員			2日
	日本網膜硝子体学会理事会	理　事			1日
	日本眼科学会専門医試験評価委員会	幹　事			1日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	Japanese Journal of Ophthalmology	editor	中澤　満		5日
	弘前医学	編　集　長			6日
	Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol	査　読			1日
	Neuroscience Letter	査　読			1日
05年度	臨床眼科誌編集委員会	編集委員	中澤　満		1日
	Japanese Journal of Ophthalmology（JJO）編集委員会	編集委員			1日
	Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol 査読	査読委員			3日
	JJO 査読	査読委員			3日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	目の健康講座	講　師	中澤　満		1日
05年度	臓器移植推進県民大会	教　授	中澤　満		1日
	目の愛護デー講座「眼底出血」	講　師	鈴木　幸彦		1日
	網膜剥離友の会・第６回東北懇話会「網膜剥離の多様性と治療法」	講　師			1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	厚生労働省難治性疾患研究事業・青森県の審査委員	委　員	中澤　満		1日
	青森県身体障害者更生相談所相談医	医　師			48日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	臨床医科学Ⅲ－1	講　師	大黒　幾代		8日
	保健学科（臨床生理学3）	講　師	鈴木　幸彦		2日／年
	研修医プライマリーケアセミナー	講　師	水谷　英之		1日
05年度	21世紀教育	教　授	中澤　満		3日
	保健学科「臨床生理学3」	非常勤講師	鈴木　幸彦		2日
	保健学科講義	非常勤医	山崎　仁志		1日
	保健学科講義	非常勤医	水谷　英之		1日
	教育学部	非常勤医	大黒　幾代		8日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	網膜剥離友の会　東北懇話会	講　師	鈴木　幸彦		1日／年

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	学内検診，運転手・放射線取扱い技師眼検診	講　師	大黒　幾代		10日
	弘前市立第四中学校	校　医	水谷　英之		1日
	学校検診への参加	学校医		浪岡養護学校 弘前市立東中学校	3日
05年度	横浜町小中学校	眼科学校医	鈴木　幸彦		1日
	八甲田高等学校・七戸高等学校	学校医	石川　太		2日
	小沢小学校	非常勤医	山崎　仁志		年2回
	野辺地高校 六ヶ所高校	非常勤医 非常勤医	伊藤　忠		年2回 年2回

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	国立療養所松丘保養園	教　授	中澤　満		50日
	町立大鰐病院 浪岡町立病院	講　師	大黒　幾代	大鰐町 浪岡町	週2
	七戸病院	助教授	大黒　浩		週2
	公立金木病院 公立野辺地病院	講　師	鈴木　幸彦		1日／週
	公立米内沢総合病院 北秋中央病院	助　手	水谷　英之		50日
	鰺ヶ沢病院 鶴田町立中央病院 七戸病院	助　手	間宮　和久		週2
	野辺地病院 大鰐病院	助　手	中村　秀雄		週2
	三戸病院 十和田中央病院	助　手	山崎　仁志		週2
05年度	国立療養所松丘保養園非常勤医師	医　師	中澤　満		60日
	公立金木病院 公立野辺地病院	非常勤医師	鈴木　幸彦		1日／週
	公立七戸病院 平内中央病院	非常勤医師	石川　太		100日

05年度	三戸町立中央病院 十和田市立中央病院	非 常 勤 医	山崎　仁志		週1回
	平内中央病院 公立野辺地病院	非常勤医師	鈴木　　香		1日／年
	公立七戸病院	非常勤医師	大黒　　浩		週1日
	鰺ヶ沢病院	非常勤医師	間宮　和久		週1日
	大鰐病院 浪岡病院	非常勤医師	大黒　幾代		週1日
	米内沢病院 北秋中央病院	非常勤医師	水谷　英之		週1日
	北秋中央病院	非常勤医師	伊藤　　忠		週1日
	板柳中央病院	非常勤医師	目時　友美		週1日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

28. 耳鼻咽喉科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

学会活動：専門医制度の改革を行う。80％
社会活動：機会があれば，積極的に耳鼻咽喉科領域の疾患に関する啓蒙活動を行う。特に耳の日には，一般人に対して難聴に関する講演や相談会を企画実行する。60％
青森県花粉情報研究会ではインターネットによる情報提供を開始した。メディアからの反響も大きく，アクセス数も数千件に及んだことから，充分に地域貢献ができたと考えている。

これから２年間の目標：

学会活動：日本専門医認定制機構の専門医制度整備指針に基づき耳鼻咽喉科専門医制度の改革を行う。
社会活動：機会があれば，積極的に耳鼻咽喉科領域の疾患に関する啓蒙活動を行う。特に耳の日には，一般人に対して難聴に関する講演や相談会を企画実行する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　1，助手　5，医員　7，大学院学生　3，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　2，講師　0，助手　5，医員　4，大学院学生　4，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本耳鼻咽喉科学会	理　事	新川　秀一	東京他	9日
	日本耳鼻咽喉科学会専門医認定試験	委　員		東京	3日
	耳鼻咽喉科臨床学会　常任運営委員会	委　員		京都他	4日
05年度	日本耳鼻咽喉科学会	理　事	新川　秀一	東京ほか	9日
	日本耳鼻咽喉科学会専門医認定試験	委　員		東京	3日
	日本耳科学会	会　長		東京	4日
	耳鼻咽喉科臨床学会　常任運営委員会	委　員		京都ほか	4日
	日本耳科学会理事会	会長幹事	松原　篤	東京	1日
	日本アレルギー協会東北支部会	世話人		仙台	1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	第66回耳鼻咽喉科臨床学会総会及び学術講演会	会　長 幹　事 幹　事	新川　秀一 松原　篤 欠畑　誠治	青森	2日
	日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会学術講演会	会　長 幹　事	新川　秀一 欠畑　誠治	弘前 八戸	1日 1日
05年度	日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会学術講演会	会　長	新川　秀一	弘前 青森 八戸	1日 1日 1日
	第20回北奥羽三県地方部会合同学術講演会	会　長	新川　秀一	弘前	1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本耳鼻咽喉科学会 日本耳科学会 耳鼻咽喉科臨床学会 Tohoku Med J	査　読	新川　秀一		
05年度	日本耳鼻咽喉科学会 日本耳科学会 耳鼻咽喉科臨床学会 耳鼻と臨床 Tohoku Med J	査　読	新川　秀一		
	Nerroscience letter Auris Nasus Larynx	査　読	松原　篤	各1件	

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	「耳の日」講演会，無料相談	講　演　者 幹　　事	新川　秀一 欠畑　誠治	みちのくホール	1日
	アレルギー市民公開講座 in 弘前	講　　師	松原　　篤		1日
	人工内耳説明会	講　　師	南場　淳司		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県社会福祉審議会 青森県立中央病院改革会議	委　　員	新川　秀一		
	青森県公安委員会 青森県花粉情報研究会 青森県社会保険診療支払基金	指　定　医 理　　事 審 査 委 員	松原　　篤		1日 40日
	弘前聾学校評議委員会	委　　員	南場　淳司		2日
05年度	青森県社会福祉審議会 青森県立中央病院改革会議 西北五地域医療連携懇談会 西北五地域中核病院建設用地選定委員会	委　　員	新川　秀一		
	青森県公安委員会 青森県花粉情報研究会 青森県社会保険診療支払基金	指　定　医 理　　事 審 査 委 員	松原　　篤		2日 40日
	弘前聾学校評議委員会 日本耳鼻咽喉科学会福祉医療委員会	委　　員 臨 時 委 員	南場　淳司		2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	臨床医科学Ⅲ・耳鼻咽喉科 臨床生理学・平衡機能検査	非常勤講師	松原　　篤	教育学部 保健学科	7日 2日
	成人看護学演習	非常勤講師	欠畑　誠治	保健学科	2日
05年度	臨床医科学Ⅲ・耳鼻咽喉科 臨床生理学・平衡機能検査	非常勤講師	松原　　篤	教育学部 保健学科	7日 2日
	成人看護学演習	非常勤講師	欠畑　誠治	保健学科	2日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	耳鼻咽喉科学講義	非常勤講師	新川　秀一	東北大学，岩手医科大学	2日
	耳鼻咽喉科学講義	非常勤講師	松原　　篤	信州大学	1日
05年度	耳鼻咽喉科学講義	非常勤講師	新川　秀一	東北大学 岩手医科大学	1日 1日
	耳鼻咽喉科	非常勤講師	松原　　篤	信州大学	1日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	比内町教育委員会 附属養護学校 附属幼稚園	学　校　医	松原　　篤		7日
	青森県立七戸養護学校 青森県立七戸高校	学　校　医	欠畑　誠治		2日

04年度	青森県立青森聾学校 青森県立弘前聾学校	学　校　医	南場　淳司		5日
05年度	比内町教育委員会	学　校　医	松原　　篤		5日
	青森県立七戸養護学校 青森県立七戸高校	学　校　医	欠畑　誠治		2日
	弘前大学教育学部附属幼稚園・養護学校	学　校　医	石井　賢治		2日
	青森県立青森聾学校 青森県立弘前聾学校	学　校　医	南場　淳司		5日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県身体障害者更正相談所 板柳中央病院	嘱　託　医 非常勤医師	新川　秀一		1年間
	比内町立扇田病院	非常勤医師	松原　　篤		1年間
	公立七戸病院，浪岡町立病院，鰺ヶ沢町立病院	非常勤医師	欠畑　誠治		1年間
	町立大鰐病院，黎明郷	非常勤医師	黒田　令子		1年間
	鰺ヶ沢町立中央病院，浪岡町立病院， 弘前市立病院	非常勤医師	石井　賢治		1年間
	西北中央病院，米内沢総合病院	非常勤医師	土岐　栄喜		1年間
	黒石病院，平賀病院，三沢病院	非常勤医師	南場　淳司		1年間
	五戸総合病院，三戸中央病院	非常勤医師	丸屋信一郎		6ヶ月
05年度	青森県身体障害者更生相談所 板柳町立中央病院	嘱　託　医 非常勤医師	新川　秀一		1日／週 1年間
	比内町立扇田病院	非常勤医師	松原　　篤		1年間
	公立七戸病院，弘前市市立病院	非常勤医師	欠畑　誠治		1年間
	青森市立浪岡病院，国民健康保険黒石病院等	非常勤医師	石井　賢治		1年間
	五戸総合病院，三戸中央病院等	非常勤医師	蒔苗　公利		1年間
	青森労災病院，黎明郷リハビリテーション病院， 鰺ヶ沢町立中央病院等	非常勤医師	安田　　京		1年間
	五戸総合病院，三戸中央病院等	非常勤医師	丸屋信一郎		1年間
	青森病院，西北中央病院，米内沢総合病院等	非常勤医師	南場　淳司		1年間

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	日本医師会 NIKKEI ラジオ	助　教　授	欠畑　誠治		1日 1日

29. 放射線医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
80～100％

これから２年間の目標：
必要とされる社会貢献を，できる範囲で行っていく。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　0，大学院学生　3，研究生　2
05年度		教授　1，助教授　1，講師　2，助手　3，医員　3，大学院学生　3，研究生　2

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本医学放射線学会	代議員，委員	阿部　由直	横浜，東京	3日
	日本放射線腫瘍学会	評議員，委員		千葉，横浜	2日
	日本核医学会	評　議　員		京都	1日
	日本肺癌学会	評議員，委員		横浜	1日
	日本癌治療学会	査 読 委 員		京都	1日
	日本医学放射線学会生物部会	代 表 幹 事		京都	1日
	日医放北日本地方会	世　話　人		仙台，旭川	2日
	日本核医学会北日本地方会	世　話　人		仙台，旭川	2日
	青森呼吸器研究会	代表世話人		青森	1日
	青森核医学研究会	代表世話人		弘前	1日
	病理と放射線の夕べ	代表世話人		弘前	1日
	SCC	世　話　人	小野　修一	仙台	6日
	東北胸部画像診断研究会			仙台	1日
	あおば画像研究会			仙台	1日
	宮城総合画像研究会			仙台	1日
	青森呼吸器研究会			青森	1日
	青森核医学研究会			弘前	1日
	病理と放射線の夕べ			弘前	1日
	北奥羽放射線治療懇話会	世　話　人	青木　昌彦	岩手	1日
	青森呼吸器研究会	世　話　人		青森	1日
	北日本放射線腫瘍学研究会	世　話　人		仙台	1日
	青森核医学研究会	世　話　人	三浦　弘行		1日
05年度	日本医学放射線学会	代議員，委員	阿部　由直	横浜，東京	4日
	日本放射線腫瘍学会	評議員，委員		川越，横浜	2日
	日本核医学会	評　議　員		東京	1日
	日本放射線影響学会	評　議　員		広島	1日
	日本癌治療学会	査 読 委 員		名古屋	1日
	日本医学放射線学会生物部会	代 表 幹 事		東京	1日
	日医放北日本地方会	世　話　人		仙台，新潟	2日
	日本核医学会北日本地方会	世　話　人		仙台，新潟	2日
	高精度定位体幹部照射研究会世話人会	世　話　人		東京，山梨	2日
	日医放北日本地方会	世　話　人	小野　修一	仙台，新潟	2日
	日本核医学会北日本地方会				2日
	北日本放射線腫瘍学研究会	世　話　人	青木　昌彦	新潟	1日
	青森呼吸器研究会			青森	1日
	北奥羽放射線治療懇話会			八幡平	2日
	東北脳神経血管内治療研究会	世　話　人	長畑　守雄	仙台	1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	北奥羽放射線治療懇話会	事　務　局	青木　昌彦		1日

05年度	第９回放射線事故医療研究会 青森県マンモグラフィ読影講習会	大　会　長 実行委員長	阿部　由直	青森市 弘前市	１日 ２日
	第12回東北胸部放射線研究会	当 番 幹 事	小野　修一		１日
	第10回北奥羽放射線治療懇話会	事　務　局	青木　昌彦	八幡平	２日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	J Radiat Res Int J Clin Oncol 弘前医学 日本放射線腫瘍学会誌 日本医学放射線学会誌 Ann Nucl Med	査　　読 査　　読 査　　読 査　　読 査　　読 査　　読	阿部　由直	３件 １件 １件 １件 １件 １件	
	日本医学放射線学会雑誌 Radiation Medicine Tohoku J Exp Medicine	査　　読 査　　読 査　　読	小野　修一		１日 １日 １日
05年度	J Radiat Res Int J Clin Oncol Jap J Clin Oncol 肺癌学会誌 Radiation Medicine	査　　読 査　　読 査　　読 査　　読 査　　読	阿部　由直	６件 １件 １件 １件 １件	
	日医放会誌 Annals of Nuclear Medicine	査　　読 査　　読	小野　修一		２日 １日
	Radiation Medicine 誌	査　　読	長畑　守雄		２日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	緊急被ばく医療「青森フォーラム」	講　　師	阿部　由直	むつ市	１日
	Hirosaki Lung Seminar 青森県病院薬剤師会弘前地区研修会 肺癌診断会	講　　師	小野　修一		１日 １日 １日
05年度	最新の放射線診療 弘大祭公開シンポジウム 「がんになったらどうする～附属病院からのメッセージ～」 最新の放射線診療	演　　者 座　　長 演　　者 演　　者	阿部　由直	むつ市 弘前市 いわき市	１日 １日 １日
	SCC 東北胸部放射線研究会 あおば画像研究会 宮城総合画像研究会 青森呼吸器研究会 青森核医学研究会 病理と放射線の夕べ SCC 青森県放射線技師会　CT 部会	世　話　人 講　　師	小野　修一		６日 １日 １日 １日 １日 １日 １日 １日 １日
	第９回東北緩和医療研究会 シンポジウム	講　　師	青木　昌彦	三沢	１日
	第９回弘前脳疾患臨床セミナー 第12回福島県 MRI 研究会 南黒医師会学術講演会	教 育 講 演 特 別 講 演 特別講演座長	長畑　守雄	弘前市 福島市 平賀町	１日 １日 １日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県小児がん等がん調査委員会 青森県原子燃料サイクル施設環境放射線等監視評価会議 青森県緊急被ばく検討委員会 青森県緊急被ばく医療ネットワーク調査検討委員会	委　　員	阿部　由直	青森市	２日 ３日 ２日 ２日
	青森県小児がん等調査検討委員会	委　　員	青木　昌彦		２日

05年度	青森県小児がん等がん調査委員会 青森県原子燃料サイクル施設環境放射線等監視評価会議 青森県緊急被ばく検討委員会 青森県緊急被ばく医療ネットワーク調査検討委員会 HIMAC 共同利用研究課題採択評価部会委員（放医研） 科学研究費委員会専門委員 原子力委員会研究開発専門部会原子力試験研究検討会	委　　員	阿部　由直	青森市 青森市 青森市 青森市 千葉市 ネット 東京都	２日 ３日 ２日 ２日 ４日 ５日 ３日

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	保健学科 21世紀	教　　授	阿部　由直		５日 １日
	放射線医学	講　　師	三浦　弘行	教育学部２年	７日
05年度	保健学科 21世紀	教　　授	阿部　由直		３日 １日
	21世紀教育　最新医学の現状 C 大学院講義　最新医学の動向	講　　師	青木　昌彦	本学病院	１日 １日

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前大学職員検診	教　　授	阿部　由直	胸部検診	６日
05年度	弘前大学職員検診	教　　授	阿部　由直	胸部検診	６日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	町立鰺ケ沢病院 国立病院機構弘前病院	非常勤医師	阿部　由直		24日 16日
	八戸市民病院	非常勤医師	小野　修一		約50日
	青森県立中央病院 大館市立総合病院	非常勤医師	青木　昌彦		50日 50日
	西北中央病院	非常勤医師	三浦　弘行		100日
	大館市立病院	非常勤医師	大畑　　崇		50日
05年度	独立法人国立病院機構弘前病院	非常勤医師	阿部　由直		52日
	八戸市立八戸市民病院 国保黒石病院	非常勤医師	小野　修一		50日 50日
	青森県立中央病院 三沢市立三沢病院	非常勤医師	青木　昌彦	青森市 三沢市	100日
	青森市立市民病院	非常勤医師	近藤　英宏		100日
	大館市立総合病院	非常勤医師	大畑　　崇		52日
	黒石市国保黒石病院 特定非営利活動法人国際総合研究機構 八戸市立市民病院	非常勤医師	長畑　守雄	黒石市 弘前市 八戸市	100日 24日 １日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前大学産業医	教　　授	阿部　由直	巡視指導	7日
05年度	弘前大学本町地区産業医	教　　授	阿部　由直	職場巡視	10日

30. 産科婦人科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

人員の制限はあったが可能な限りの社会貢献をおこなった。

これから２年間の目標：

現状のさらなる発展をめざし努力する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　0，大学院学生　7，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　1，講師　2，助手　4，医員　2，大学院学生　7，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本産科婦人科学会	代議員	水沼　英樹	東京	2日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	小委員長		東京	2日
	日本更年期医学会	理事		東京	3日
	日本受精着床学会	理事		東京	1日
	日本母性衛生学会	理事		東京	2日
	日本内分泌学会	代議員		東京	2日
	日本不妊学会	評議員		旭川	2日
	日本骨粗鬆症学会	評議員		東京	2日
	青森県臨床産婦人科医会	会長		青森	5日
	日本産婦人科医会女性保険委員会	副委員長		東京	4日
	Healthy Aging Projects for Women	理事		東京	2日
	日本不妊学会評議員会	評議員	藤井　俊策	旭川	1日
	日本不妊学会東北支部会	評議員		仙台	1日
	青森産婦人科内分泌研究会	世話人		青森	1日
	青森県内視鏡外科研究会	世話人		青森	1日
	青森県 STD 研究会	世話人		青森	1日
	東北産婦人科内視鏡懇話会	世話人		秋田	1日
	日本産科婦人科医会	研修委員		東京	20日
	青森県臨床産婦人科医会	理事		青森	10日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	委員	樋口　毅		
	東北婦人科腫瘍研究会	幹事	横山　良仁		12日
	青森婦人科化学療法研究会	世話人			1日
	東北産婦人科内視鏡懇話会	世話人	福井　淳史	秋田	1日
05年度	日本産科婦人科学会	代議員	水沼　英樹	東京	2日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	委員長		東京	4日
	日本更年期医学会	理事長		大宮	2日
	日本受精着床学会	理事		大阪	2日
	日本母性衛生学会	理事		東京	2日
	日本女性心身医学会	理事		東京	1日
	日本内分泌学会	代議員		東京	2日
	日本骨代謝学会			東京	1日
	日本癌治療学会			名古屋	1日
	日本不妊学会	評議員		熊本	3日
	日本骨粗鬆症学会	評議員		大阪	3日
	青森県臨床産婦人科医会	会長		青森	5日
	Healthy Aging Projects for Women	理事		東京	2日
	日本産婦人科医会	研修委員	藤井　俊策	東京	16日
	日本哺乳動物卵子学会	編集委員		東京	3日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	委員		東京	3日
	日本不妊学会	評議員		熊本	1日
	日本不妊学会東北支部会	評議員		盛岡	1日
	日本生殖免疫学会	評議員		東京	1日
	青森県内視鏡外科研究会	世話人		青森	1日

05年度	青森県 STD 研究会 東北産婦人科内視鏡懇話会 青森県臨床産婦人科医会	世　話　人 世　話　人 理　　事	藤井　俊策	青森 弘前 青森	1日 1日 5日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会 日本更年期医学会 青森県更年期心身医療懇話会	委　　員 幹　　事 役　　員	樋口　　毅		
	東北婦人科腫瘍研究会 青森婦人科化学療法研究会	幹　　事 世　話　人	横山　良仁		12日 30日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県臨床産婦人科医会 青森県婦人科内分泌研究会 青森婦人科癌化学療法研究会	会　　長 代表世話人 世　話　人	水沼　英樹	青森市など	5日 1日 1日
05年度	青森県臨床産婦人科医会 日本女性心身医学会研究会 青森県周生期医療研究会 青森婦人科癌化学療法研究会 青森県婦人科内分泌研究会	会　　長 理　　事 会　　長 世　話　人 代表世話人	水沼　英樹		5日 1日 1日 1日 1日
	第10回東北産婦人科内視鏡懇話会	学　会　長	藤井　俊策	弘前	1日
	第10回東北産婦人科内視鏡懇話会	事　務　局	木村　秀崇		3日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	Hormone Frontier in Gynecology 骨粗鬆症治療 J Bone & Mineral Metab	編 集 委 員 編 集 委 員 査　読　員	水沼　英樹	東京 大阪 青森	2日 2日 3日
	J Obstet Gynaecol Res 青森県臨床産婦人科医会誌	編 集 委 員	藤井　俊策	査読 編集	2日 14日
	日本更年期医学会雑誌	審　査　員	樋口　　毅		
	Eur J Gynaecol Oncol Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol	編 集 委 員 審　査　員	横山　良仁		7日
05年度	HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 骨粗鬆症治療 J Bone & Mineral Metab	編 集 委 員 編 集 委 員 査　読　員	水沼　英樹		2日 2日 6日
	J Obstet Gynecol Res J Mammalian Ova Research 青森臨産婦誌	編 集 委 員 編 集 委 員	藤井　俊策	査読 編集・査読 編集	4日 7日 14日
	日本更年期医学会	査読委員	樋口　　毅		
	Eur J Gynaecol Oncol The Tohoku Journal of Experimental Medicine	編 集 委 員 審　査　員	横山　良仁		7日 7日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	不妊専門相談センター研修会	講　　師	水沼　英樹	青森	1日
	不妊専門相談センター研修会 不妊専門相談センター研修会 生涯を通じた健康支援学級	講　　師 講　　師 講　　師	藤井　俊策	青森 秋田 大館	1日 1日 1日
	日本産婦人科学会市民公開講座 弘前大学公開講座 青森県更年期心身医療懇話会公開講座	講　　師	樋口　　毅		
05年度	不妊専門相談センター研修会	講　　師	藤井　俊策	青森	1日
	日本産科婦人科学会市民公開講座	講　　師	樋口　　毅		1日
	不妊専門相談センター研修会	講　　師	木村　秀崇		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県成人病検診管理指導協議会 青森県総合検診センター 青森県地域医療対策委員会	委　　員 理　　事 委　　員	水沼　英樹	青森	1日 1日 1日
	不妊専門相談センター	相　談　員	藤井　俊策	弘前	30日
05年度	青森県総合健診センター 青森県地域保健医療対策協議会周産母子医療対策専門部会 青森県生活習慣病検診管理指導協議会 東北地方における産婦人科医療のあり方に関する打ち合わせ会	理事 委員 委員	水沼　英樹		1日 1日 1日 2日
	青森県不妊専門相談センター	相談員	藤井　俊策		
	青森県骨密度検診	委員	樋口　　毅		
	青森県不妊専門相談センター	相談員	木村　秀崇		2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	都市エリア産学官連携促進事業	共同研究者	樋口　　毅		
05年度	弘前都市エリア産学官連携促進事業	共同研究者	樋口　　毅		

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	21世紀教育	非常勤講師	水沼　英樹		1日
	医学部保健学科 21世紀教育	非常勤講師	藤井　俊策	弘前 弘前	1日 1日
	21世紀教育	非常勤講師	樋口　　毅		2日
	21世紀教育	非常勤講師	横山　良仁		1日
05年度	21世紀教育	非常勤講師	水沼　英樹		1日
	21世紀教育	非常勤講師	横山　良仁		1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	一戸病院高等看護学校	講　　師	二神　真行		1日
	一戸病院高等看護学校	講　　師	山本　善光		5日
05年度	青森県超音波研究会	講　　師	山本　善光		1日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県総合検診センター（子宮癌・卵巣癌検診）	検　診　医	藤井　俊策	青森県内	10日
	老人保健法に基づく子宮癌卵巣癌検診	検　診　医	横山　良仁		5日
	子宮癌・卵巣癌検診	検　診　医	山本　善光		7日
05年度	青森県総合検診センター（子宮癌・卵巣癌検診）	検　診　医	藤井　俊策	青森県内	10日
	老人保健法に基づく子宮癌卵巣癌検診	検　診　医	横山　良仁		5日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	鰺ケ沢町立中央病院 平内中央病院	非常勤医師	藤井　俊策	鰺ケ沢 平内	23日 23日
	鰺ヶ沢町立中央病院 平内中央病院	非常勤医師	樋口　　毅		

04年度	岩手県立一戸病院	非常勤医師	横山　良仁		24日
	岩手県立一戸病院	非常勤医師	山本　善光		15日
	むつ総合病院	非常勤医師	木村　秀崇		60日
05年度	平内中央病院 公立野辺地病院	非常勤医師	藤井　俊策	平内 野辺地	23日 23日
	野辺地病院 青森総合健診センター	非常勤医師	樋口　　毅		
	十和田市立中央病院	非常勤医師	横山　良仁		24日
	三沢市立病院 十和田市立中央病院 青森県総合検診センター	非常勤医師	福井　淳史		
	岩手県立一戸病院	非常勤医師	二神　真行		
	十和田市立中央病院	非常勤医師	山本　善光		24日
	青森労災病院 岩手県立一戸病院 弘前市立病院 黒石病院	非常勤医師	木村　秀崇		60日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

31. 麻酔学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

①麻酔科の仕事を社会的にもっと理解してもらうことを目標とする。このため，教室員全員に ACLSprovider のコースを受講してもらい，県内の心肺蘇生の救命率を高めるべく関係各科，各分野と協力して ACLS の普及に努める。

→スタッフクラスは全員，BLS，ACLS のプロバイダーコースを受講し，プロバイダーの資格を得ている。また数人はインストラクターとして BLS，ACLS の普及に努めている。

②救急救命士の気管挿管実習も受け入れる。

→津軽地域だけでなく，下北地区の救命士を受け入れ救命士養成に尽力している。

③リスクマネージメントに関する全国レベルのシンポジウムを開催する。

→櫛方医師をフランス・ニースで開催された国際学会でのシンポジストとして参加させ，教室員の意識向上に努めた。

以上より到達度は100％である。

これから２年間の目標：

①学外の医学教育にも可能な限り協力するとともに麻酔科領域の，学会活動，教育・啓蒙活動を展開する。

②救急救命士に対する気管挿管手技についての講義や，実習の充実と青森県内での BLS，ACLS の普及に努める。

③超音波ガイド下末梢神経ブロックの手技の普及，教育。

④今後も麻酔科学から見た医療安全の向上に努める。

⑤地域病院の麻酔支援も引き続いて行うとともに地域医療のあり方についても提言していく。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　１，助教授　１，講師　２，助手　５，医員　１１，大学院学生　１，研究生　１
05年度		教授　１，助教授　１，講師　２，助手　５，医員　１１，大学院学生　０，研究生　１

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本集中治療医学会専門医試験委員会	委　　員	石原　弘規		３日
	日本集中治療医学会会則検討委員会	委　　員			１日
	日本集中治療医学会司法協力委員会	委　　員			１日
	日本ペインクリニック学会東北地方会	世　話　人	佐藤　哲観		２日
05年度	日本麻酔科学会代議員会	代　議　員	廣田　和美	神戸	１日
	日本麻酔科学会機関誌編集委員会	編 集 委 員		神戸	１日
	日本麻酔科学会北海道東北地方会理事会	理　　事		東京	３日
	日本麻酔科学会専門医認定委員会筆記試験問題作成部会	作 成 委 員		東京	６日
	日本ペインクリニック学会評議員会	評　議　員		宇都宮	１日
	日本ペインクリニック学会東北地方会世話人会	世　話　人		仙台	１日
	日本静脈・Infusion Technology 研究会評議員会	評　議　員		千葉	１日
	日本集中治療医学会東北地方会評議員会	評　議　員		青森	１日
	日本集中治療医学会専門医試験委員会	委　　員	石原　弘規		２日
	日本集中治療医学会会則検討委員会	委　　員			１日
	日本ペインクリニック学会東北地方会	世　話　人	佐藤　哲観		１日

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第23回青森県集中治療研究会				１日
	第２回青森県 SIRS 研究会				１日
	第18回青森県疼痛研究会				１日
	第39回青森県臨床麻酔研究会				１日
	第９回青森県周術期管理研究会				１日
05年度	第24回青森県集中治療研究会				１日
	第３回青森県 SIRS 研究会				１日
	第19回青森県疼痛研究会				１日
	第40回青森県臨床麻酔研究会				１日
	第10回青森県周術期管理研究会				１日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	British Journal of Anaesthesia Journal of Anesthesia	国際編集委員 編集委員会顧問	廣田　和美	10査読 1査読	140日 14日
	Critical Care Medicine 日本集中治療医学会機関誌 Medical Science Monitor	査読委員 査読委員 査読委員	石原　弘規	1査読 2査読 2査読	1日 2日 2日
	British Journal of Anaesthesia	査読委員	櫛方　哲也	5査読	60日
05年度	British Journal of Anaesthesia Journal of Anesthesia	国際編集員 編集委員	廣田　和美	18件査読 11件査読	180日 110日
	Anesth Analg Critical Care Medicine 日本集中治療医学会機関誌 Medical Science Monitor	査読委員 査読委員 査読委員 査読委員	石原　弘規		2日 1日 3日 1日
	British Journal of Anaesthesia	査読委員	櫛方　哲也	3件査読	20日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前市民弓道教室 弘前市中学生弓道教室	講師 講師	工藤　剛		5日 5日
05年度	弘前市民弓道教室 弘前市中学生弓道教室	講師 講師	工藤　剛		5日 5日
	緩和医療に関する教育講演	講師	佐藤　哲観		5日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県献血推進協議会 青森県 Rh(−)友の会連絡協議会 弘前市 Rh(−)友の会	委員 会長 会長	工藤　剛		1日 5日 5日
05年度	学術振興会科学研究費委員会	専門委員	廣田　和美	インターネットを使用	10日
	青森県献血推進協議会 青森県 Rh(−)友の会連絡協議会 弘前市 Rh(−)友の会	委員 会長 会長	工藤　剛		1日 1日 5日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	経皮ブドウ糖測定に関する研究	助教授	石原　弘規	東和電機工業	30日

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	経皮ブドウ糖測定に関する研究	助教授	石原　弘規	東和電機と共同事業	30日

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	最新医学の現状 成人看護方法論Ⅱ	教授 教授	廣田　和美	21世紀教育 保健学科	1日 2日
05年度	最新医学の現状 成人看護方法論Ⅱ	講師 講師	廣田　和美	21世紀教育 保健学科	1日 2日
	秋田大学医学部整形外科学教室（レジデント対象） 末梢神経ブロック講習会		北山　眞任	秋田	1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	南黒歯科医師会救急蘇生法講義	講師	廣田　和美		1日
	講演会：医療用麻薬適正使用セミナー	講師	佐藤　哲観		1日
	医科，歯科診療所における心肺蘇生 集中治療室における周術期の呼吸管理	講師 講師	石原　弘規	勤務医会 青森市民病院	1日 1日

05年度	集中治療室における呼吸管理		石原　弘規	大間病院 十和田中央病院	1日 1日
	県立消防学校救急救命士講義		北山　眞任	青森	1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	黒石病院	非　常　勤	廣田　和美	毎週火曜	
	青森市民病院	非　常　勤	石原　弘規	毎週火曜	35日
	青森厚生病院	非　常　勤	佐藤　哲観	毎週火曜	40日
	西北中央病院	非　常　勤	橋本　　浩	毎週金曜	
	黒石厚生病院	非　常　勤	櫛方　哲也	毎週水曜	
	西北中央病院	非　常　勤	北山　眞任	10～3月毎週木曜	
05年度	黒石病院	非　常　勤	廣田　和美	毎週火曜	46日
	青森市民病院	非　常　勤	石原　弘規	毎週火曜	35日
	西北中央病院	非　常　勤	橋本　　浩	毎週金曜	45日
	青森厚生病院	非　常　勤	佐藤　哲観	毎週火曜	45日
	黒石厚生病院	非　常　勤	櫛方　哲也	毎週水曜	47日
	西北中央病院	非　常　勤	北山　眞任	毎週木曜	50日
	弘前中央病院	非　常　勤	吉田　　仁	毎週火曜	33日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	[国際共同研究] 1．英国レスター大学麻酔科学講座 2．イタリア・フェラーラ大学薬理学講座 3．英国グラクソスミスクライン神経科学研究所 [国際交流] 1．韓国プサン大学医学部麻酔科 2．英国レスター大学麻酔科学講座 3．フランス・ニース大学麻酔科学講座	教　　授 助　教　授	廣田　和美 石原　弘規	[国際共同研究] 電子メール，FAXなどで交流 [国際交流] 相互訪問での講義	2日 14日 7日
05年度	[国際共同研究] 1．英国レスター大学麻酔科学講座 2．イタリア・フェラーラ大学薬理学講座 3．英国GSK研究所 4．米国GSK研究所 [研究者招聘] 1．ハノーバー医科大学 2．ニース大学 3．釜山大学	教　　授	廣田　和美	電子メール，FAXなどで交流	3日 3日 2日

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前大学弓道部指導 弘前高等学校弓道部指導	コ　ー　チ コ　ー　チ	工藤　　剛	土，日 夜 土，日	10日 30日
	つがる緩和医療を考える会	講　　師	佐藤　哲観		2日
05年度	弘前大学弓道部指導 弘前高等学校弓道部指導	コ　ー　チ コ　ー　チ	工藤　　剛	土，日 夜 土，日	10日 30日
	つがる緩和医療を考える会	講　　師	佐藤　哲観		
	BLS，ACLS普及活動（日本ACLS）協会	インストラクター	橋本　　浩		月1回 2日間

32. 脳神経外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

市民，医療関係者向けの講演会開催も回数を増やし，脳卒中予防について新聞紙面への連載も継続中であり，社会貢献活動について目標を達成することができた。

これから２年間の目標：

講演会や市民講座の開催，新聞紙面への連載継続，またインターネットを用い脳疾患に対する質疑にも応じていきたい。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　2，助手　3，医員　0，大学院学生　1，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　0，講師　3，助手　2，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	脳神経外科学会	評　議　員	大熊　洋揮		2日
	脳卒中学会	評　議　員			1日
	スパズム・シンポジウム	世　話　人			1日
	東北脳血管障害懇話会	世　話　人			2日
	東北脳腫瘍懇話会	企　画　員	浅野研一郎		2日
	青森県脳神経外科談話会	世　話　人			1日
	青森県脳卒中フォーラム	書　　記			1日
	小児脳神経外科疾患の診断・治療ガイドライン 小児機能的神経疾患	文献レビューボード	嶋村　則人	大宮	2日
05年度	日本脳神経外科学会	評　議　員	大熊　洋揮	横浜市	2日
	日本脳卒中学会	評　議　員		盛岡市	1日
	スパズム・シンポジウム	世　話　人		盛岡市	1日
	東北脳血管障害研究会	世　話　人		仙台市	3日
	東北脳血管治療研究会	世　話　人		盛岡市	1日
	東北脳循環カンファランス	世　話　人		仙台市	1日
	北日本脳神経外科連合会	世　話　人		山形市	1日
	ニューロトランスミッター研究会	世　話　人		弘前市	1日
	青森県脳卒中フォーラム	世　話　人		青森市	1日
	青森県脳神経外科談話会	世　話　人		青森市	1日
	東北脳腫瘍懇話会	企　画　員	浅野研一郎	仙台	2日
	青森県脳神経外科談話会	世　話　人		青森市	1日
	青森県脳卒中フォーラム	書　　記		八戸市	1日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第７回弘前脳疾患臨床セミナー	代表世話人	大熊　洋揮		1日
	第６回弘前脳卒中治療カンファランス				1日
	第10回青森県脳神経外科談話会	世　話　人			1日
	第８回弘前脳疾患臨床セミナー	代表世話人			1日
	第３回青森県脳卒中フォーラム	代表世話人			1日
05年度	第９回弘前脳疾患臨床セミナー	代表世話人	大熊　洋揮	弘前市	1日
	第10回弘前脳疾患臨床セミナー	代表世話人		弘前市	1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	CI 研究	編集委員	大熊　洋揮		1日
	脳神経外科	編集同人			1日
	東北脳腫瘍懇話会	編　集　員	浅野研一郎		2日
05年度	CI 研究	編集委員	大熊　洋揮		1日
	脳神経外科	編集同人			1日
	東北脳腫瘍懇話会	編　集　員	浅野研一郎		2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森パーキンソン病学習会 青森県産業教育振興会中弘南黒地区協議会 公開シンポジウム「脳卒中」	講　　師 講　　師 パネリスト	大熊　洋揮		1日 1日 1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県公安委員会	指定専門医師	大熊　洋揮		1日
05年度	青森県公安委員会	指定専門医師	大熊　洋揮		1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	21世紀教育 保健学科	教　　授	大熊　洋揮		1日 4日
	21世紀教育 保健学科	講　　師	浅野研一郎		1日 3日
	保健学科看護学専攻	講　　師	嶋村　則人	本学保健学科	2日
05年度	21世紀教育	教　　授	大熊　洋揮		1日
	21世紀教育	講　　師	浅野研一郎		1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	公開講座		大熊　洋揮		1日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	西北中央病院 公立野辺地病院	非常勤医師	大熊　洋揮		48日 48日
	西北中央病院	非常勤医師	浅野研一郎		50日
	ヒロサキメディカルセンター	非常勤医師	嶋村　則人	弘前市大町	60日
05年度	西北中央病院 公立野辺地病院	非常勤医師	大熊　洋揮		48日 48日
	西北病院 黒石病院 ヒロサキメディカルセンター 弘前脳卒中センター	非常勤医師	浅野研一郎		24日 18日 24日 18日
	西北病院 黒石病院 ヒロサキメディカルセンター 弘前脳卒中センター	非常勤医師	中野　高広		24日 18日 24日 18日
	西北病院 黒石病院	非常勤医師	嶋村　則人		48日 72日
	三沢市立三沢病院 ヒロサキメディカルセンター	非常勤医師	菊池　　潤		22日 48日
	三沢市立三沢病院 ヒロサキメディカルセンター	非常勤医師	棟方　　聡		22日 48日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	大阪地方裁判所民事部 陸奥新報連載　津軽「アタリ」事情	鑑　定　人 筆　　者	大熊　洋揮	毎月掲載	

33. 歯科口腔外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

（木村博人）病診連携の推進。　80％
（小林　恒）要望があれば積極的に貢献する。　100％
（福井　朗）社会保険指導医として青森県の保険医療の質的向上に努める。　100％
（佐藤　寿）地域医療への貢献を積極的に行う。　90％
（楠美昭則）地域医療への貢献を中心に本業に支障無いように行いたい。　70％
（織田光夫）地域医療への貢献。　80％

これから２年間の目標：

（木村博人）病診連携を更に推進し，患者紹介率の向上に努める。
学会活動に積極的に貢献し，医療・福祉の向上に寄与する。
パラメディカル教育に貢献する。
（小林　恒）要望があれば積極的に貢献する。
（佐藤　寿）地域医療への貢献を積極的に行う。
（楠美昭則）地域医療への貢献を中心に本業に支障無いように行いたい。
（織田光夫）地域医療への貢献。
（榊　宏剛）地域医療への貢献を積極的に行う。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　1，助手　4，医員　9，大学院学生　2，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　1，講師　0，助手　5，医員　7，大学院学生　2，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	(社)日本口腔外科学会	理　　事	木村　博人	東京都 千葉市	5日 1日
	NPO 法人日本口腔科学会	理　　事	木村　博人	東京都 横浜市	1日 1日
	日本小児口腔外科学会	理　　事	木村　博人	弘前市	1日
	全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議	会　　長	木村　博人	横浜市 岡山市 大分市 千葉市	1日 2日 2日 1日
	日本口腔インプラント学会	理　　事	木村　博人	大阪市	1日
	(社)日本歯科技工士会	理　　事	長内　　隆	東京都	12日
05年度	(社)日本口腔外科学会	理　　事	木村　博人	東京都 大阪府	10日 1日
	NPO 法人日本口腔科学会	理　　事	木村　博人	東京都 徳島市	2日 2日
	日本小児口腔外科学会	理　　事	木村　博人	岡山市	1日
	全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議	会　　長	木村　博人	大阪府 徳島市 秋田市	1日 1日 2日
	(社)日本歯科技工士会	理　　事	長内　　隆	東京都 秋田市	17日 2日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第16回日本小児口腔外科学会・学術大会	大　会　長	木村　博人	弘前市	2日
	講座開設25周年・教授就任10周年記念講演会	記念事業副実行委員	小林　　恒	弘前市	1日

05年度	第35回（社）日本口腔インプラント学会総会・学術大会	会　　長	木村　博人	弘前市	3日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	(社)日本口腔外科学会雑誌編集委員会	委　員（長）	木村　博人	東京都	24日
05年度	(社)日本口腔外科学会雑誌編集委員会	委　員　長	木村　博人	東京都	24日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	上十三支部会平成16年度医療管理・救急蘇生委員会合同講演会	講　　師	木村　博人	三沢市	1日
	平成16年度弘前歯科医師会学術小講演会	講　　師	木村　博人	弘前市	1日
	平成16年度弘前歯科医師会学術講演会	講　　師	佐藤　寿	弘前市	1日
	みちのく銀行大学病院前支店グリーンクラブ・レディース会合同新年会講演会	講　　師	木村　博人	弘前市	1日
05年度	リウマチ患者の会第49回のぞみの会講演会	講　　師	木村　博人	弘前市	1日
	北五医師会第412回集談会	講　　師	木村　博人	五所川原市	1日
	歯の健康づくり講演会	講　　師	木村　博人	佐井村	2日
	第35回(社)日本口腔インプラント学会総会・学術大会市民フォーラム	プレゼンター	木村　博人	弘前市	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県地域保健医療対策協議会歯科保健対策専門部会	委　　員	木村　博人	弘前市	2日
	青森県社会福祉審議会	臨時委員	木村　博人	弘前市	3日
	青森社会保険事務局	保険指導医	福井　朗	青森市	53日
	平成16年度歯科技工士試験委員会	委　　員	長内　隆	青森市	2日
05年度	青森県地域保険医療対策協議会歯科保健対策専門部会	委　　員	木村　博人	弘前市	2日
	青森県社会福祉審議会	臨時委員	木村　博人	弘前市	3日
	青森社会保険事務局	保険指導医	福井　朗	青森市	48日
	平成17年度歯科技工士試験実地試験	担当委員	長内　隆	青森市	2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	21世紀教育 共通教育 保健学科		木村　博人		1日 3日 1日
	21世紀教育 教育学部		小林　恒		1日 6日
	21世紀教育 教育学部		福井　朗		2日 2日
	共通教育		織田　光夫		3日
05年度	21世紀教育 医学部保健学科	教　　授	木村　博人		2日 1日
	21世紀教育 教育学部臨床医科学Ⅲ－1	助教授	小林　恒		1日 8日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	国立病院機構弘前病院附属看護学校 学校法人城東学園弘前ホスピタルアカデミー	講　　師 非常勤講師	木村　博人		2日 7日
	学校法人城東学園弘前ホスピタルアカデミー	非常勤講師	小林　　恒		2日
	学校法人城東学園弘前ホスピタルアカデミー	非常勤講師	福井　　朗		3日
05年度	国立病院機構弘前病院附属看護学校 学校法人城東学園弘前ホスピタルアカデミー	講　　師 非常勤講師	木村　博人		2日 9日
	学校法人城東学園弘前ホスピタルアカデミー	非常勤講師	小林　　恒		2日
	学校法人城東学園弘前ホスピタルアカデミー	非常勤講師	佐藤　　寿		1日
	学校法人三和会青森歯科技工士専門学校	非常勤講師	長内　　隆		1日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前大学保健管理センター	学校歯科医	小林　　恒	幼稚園 小学校 中学校 養護学校	1日 1日 1日 1日
05年度	弘前大学保健管理センター	学校歯科医	小林　　恒	幼稚園 小学校 中学校 養護学校	4日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	労働福祉事業団青森労災病院 青森市民病院 北秋中央病院	非常勤医師	木村　博人	八戸市 青森市 鷹巣町	12日 12日 11日
	公立野辺地病院 三沢市立三沢病院 国立病院機構弘前病院（併任）	非常勤医師	小林　　恒	野辺地町 三沢市 弘前市	49日 1日 44日
	青森社会保険事務局（併任） (財)黎明郷リハビリテーション病院 村立上小阿仁国保診療所	保険指導医 非常勤医師	福井　　朗	青森市 碇ヶ関村 上小阿仁村	53日 40日 6日
	(財)鷹揚郷腎研究所弘前病院 村立上小阿仁国保診療所	非常勤医師	佐藤　　寿	弘前市 上小阿仁村	44日 6日
	国立病院機構青森病院（併任） 日本原燃株式会社弥栄平診療所 青森市民病院 (社)慈恵会青森慈恵会病院	非常勤医師	楠美　昭則	浪岡町 六ヶ所村 青森市 青森市	27日 11日 13日 1日
	(財)黎明郷リハビリテーション病院 日本原燃株式会社弥栄平診療所 (社)慈恵会青森慈恵会病院 北秋中央病院	非常勤医師	織田　光夫	碇ヶ関村 六ヶ所村 青森市 鷹巣町	26日 24日 1日 1日
05年度	青森市民病院 青森労災病院 北秋中央病院	非常勤医師	木村　博人	青森市 八戸市 北秋田市	12日 12日 12日
	公立野辺地病院 国立病院機構弘前病院（併任） 三沢市立三沢病院	非常勤医師	小林　　恒	野辺地町 弘前市 三沢市	53日 50日 6日
	青森県社会保険事務局（併任） (財)黎明郷リハビリテーション病院	保険指導医 非常勤医師	佐藤　　寿	青森市 平川市	53日 45日
	(財)鷹揚郷腎研究所弘前病院 (財)黎明郷リハビリテーション病院 国立病院機構青森病院	非常勤医師	楠美　昭則	弘前市 平川市 青森市	25日 5日 24日
	北秋中央病院 (財)黎明郷リハビリテーション病院 ふくい歯科口腔外科クリニック	非常勤医師	織田　光夫	北秋田市 平川市 弘前市	2日 6日 45日

05年度	(財)黎明郷リハビリテーション病院 村立上小阿仁国保診療所 (財)鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	榊　　宏剛	平川市 上小阿仁村 弘前市	24日 12日 25日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	研修医のためのプライマリ・ケアセミナー	講　　師	木村　博人		1日

34. 形成外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
充分に達成できたと思われる。

これから２年間の目標：
形成外科診療を通して，さらに地域医療に貢献できるよう務める。
形成外科領域の啓蒙活動を積極的に行う。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　１，講師　１，助手　３，医員　２，大学院学生　０，研究生　０
05年度		教授　０，助教授　０，講師　１，助手　３，医員　２，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本形成外科学会	評　議　員	四ッ柳高敏	東京	２日
	日本形成外科学会北海道東北支部	評　議　員		福島	１日
05年度	日本形成外科学会	評　議　員	横井　克憲	岡山	２日
	日本褥瘡学会東北地方会	世　話　人	漆舘　聡志	福島	２日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	傷の治り方の基礎知識	助　教　授	四ッ柳高敏	保健学科	１日

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	科研製薬教育研究会講演	講　　師	横井　克憲	弘前市	１日
	由利組合総合病院勉強会講演	講　　師		由利本庄市	１日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	西北中央病院	助教授	四ッ柳高敏	H16.4.1～H17.1.31	月2
		助手	渡辺　庸介	H17.2.1～H17.3.31	週1
		助手	漆舘　聡志	H17.2.1～H17.3.31	月2
		助手	新明　康宏	H17.2.1～H17.3.31	月2
		助手	渡辺　学	H16.4.1～H17.1.31	月2
	むつ総合病院	助教授	四ッ柳高敏	H16.4.1～H17.1.31	月2
		助手	漆舘　聡志	H16.4.1～H17.3.31	月2
	尾野病院	助手	渡辺　学	H16.4.1～H17.1.31	月2
	弘愛会病院	助手	渡辺　庸介	H17.2.1～H17.3.31	月2
		助手	新明　康宏	H17.2.1～H17.3.31	月2
		助手	横井　克憲	H16.4.1～H17.1.31	週1
		助手	漆舘　聡志	H16.4.1～H17.1.31	週1
	青森市民病院	講師	横井　克憲	H17.2.1～H17.3.31	週1
		助手	漆舘　聡志	H17.2.1～H17.3.31	週1
	三沢市立三沢病院	助手	横井　克憲	H16.4.1～H17.1.31	週1
	三沢市立三沢病院	講師	横井　克憲	H17.2.1～H17.3.31	週1
	北秋中央病院	助手	渡辺　学	H16.4.1～H17.1.31	月2
		助手	新明　康宏	H17.2.1～H17.3.31	週1
05年度	三沢市立三沢病院	講師	横井　克憲	三沢市	週1
	青森市民病院	講師	横井　克憲	青森市	週1
		助手	漆舘　聡志	青森市	週1
	むつ総合病院	助手	漆舘　聡志	むつ市	隔週1
	西北中央病院	助手	漆舘　聡志	五所川原市	隔週1
		助手	新明　康宏	五所川原市	隔週1
	北秋中央病院	助手	新明　康宏	北秋田市	週1
	弘愛会病院	助手	新明　康宏	弘前市	隔週1
	西北中央病院	助手	渡辺　庸介	五所川原市	週1
	弘愛会病院	助手	渡辺　庸介	弘前市	隔週1

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

35. 救急・災害医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

医学生および看護師，救急隊員などに対する救急医学教育を目標としたが，これは十分達成できた。

これから２年間の目標：

社会活動としては地域の医療関係者に対して救急医学，災害医学の教育を行なうこと，さらに青森県における特徴の一つである原子力関連の緊急被ばく医療に関する地域のシステムの構築への関与，教育などを行なうことを目標としたい。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　1，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本中毒学会　評議員会	評議員委員	浅利　　靖		２日
	日本中毒学会　学術委員会	委　　員			２日
	日本学術会議　小委員会	評　議　員			２日
	日本集団災害医学会　評議員会	理　　事			１日
	日本臨床高気圧酸素・潜水医学会	監　　事			２日
	日本集団災害医学会	理　　事			１日
	日本航空医療学会	編集委員会委員長 ドクターヘリ講習会準備委員長	滝口　雅博		１日 ２日
	日本宇宙航空環境医学会	理　　事			２日
	NPO 法人救急ヘリ病院ネットワーク	理　　事			２日
	日本交通科学協議会	理　　事			２日
05年度	日本中毒学会　評議員会	評　議　員	浅利　　靖		１日
	日本中毒学会　学術委員会	委　　員			１日
	日本集団災害医学会　評議員会	評　議　員			１日
	日本臨床高気圧酸素・潜水医学会	理　　事			２日
	日本集団災害医学会・JP 羽越線脱線事故調査特別委員会	委　　員			１日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第13回青森救急医学会	会　　長	浅利　　靖		１日
05年度	第14回青森救急医学会	会　　長	浅利　　靖		１日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本集団災害医学会	査 読 委 員	浅利　　靖		３日
	日本航空医療学会雑誌	編集委員長	滝口　雅博		２日
05年度	日本集団災害医学会	査 読 委 員	浅利　　靖		３日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前大学生涯学習教育研究センター講演会	講　　師	浅利　　靖		１日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	国土交通省関東地方整備局・さがみ縦貫道危険物処理有識者委員会	委　　員	浅利　　靖		４日

04年度	青森県福井美浜原子力発電所事故調査	委　　員	浅利　　靖		2日
	青森県緊急被ばく医療検討委員会	委　　員			1日
	青森県メディカルコントロール協議会	委　　員			1日
	つがる西北五地域メディカルコントロール協議会	委　　員			1日
	青森県地域保健医療対策協議会救急医療対策専門部会	委　　員			1日
	津軽地域保健医療推進協議会医療対策部会	委　　員			1日
	青森県保健医療協議会救急医療専門部会	会　　長	滝口　雅博		1日
	青森県メディカルコントロール協議会	会　　長			1日
	津軽西北五地域メディカルコントロール協議会	副　会　長			1日
05年度	青森県緊急被ばく医療検討委員会	委　　員	浅利　　靖		1日
	青森県メディカルコントロール協議会	委　　員			1日
	つがる西北五地域メディカルコントロール協議会	委　　員			1日
	津軽地域保健医療推進協議会医療対策部会	委　　員			1日
	青森県警察本部交通安全対策推進委員会	委　　員			1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	医学部保健学科	非常勤講師	滝口　雅博		15日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県消防学校消防職員専科教育救助科	講　　師	浅利　　靖		1日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	西北中央病院内科外来	非常勤医師	浅利　　靖		24日
	日本原燃診療所	産　業　医			24日
	第一回下北救急医療研究会	講　　師			2日
	相模原医師会講演会	講　　師			2日
	第404回北五医師会集談会	講　　師			1日
	原子力安全研究協会・被ばく医療青森フォーラム	講　　師			1日
	原子力安全研究協会・教材委員会	委　　員			2日
	原子力安全研究協会・茨城フォーラム	講　　師			2日
	原子力安全研究協会・青森緊急被ばく医療ネットワーク調査検討会	委　　員			1日
	国立医薬品食品研究所・化学物質による緊急危害対応のための情報に関する専門家会合	委　　員			2日
	公立野辺地病院	非常勤医師	滝口　雅博		24日
05年度	西北中央病院内科外来	医　　師	浅利　　靖		24日
	日本原燃診療所	産　業　医			24日
	原子力安全研究協会・被ばく医療青森フォーラム	講　　師			1日
	原子力安全研究協会・教材委員会	委　　員			2日
	原子力安全研究協会・宮城フォーラム	講　　師			2日
	原子力安全研究協会・札幌フォーラム	講　　師			2日
	原子力安全研究協会・福島フォーラム	講　　師			2日

05年度	原子力安全研究協会・三次被ばく医療施設検討委員会	委　　員	浅利　　靖		2日
	原子力安全研究協会・青森緊急被ばく医療ネットワーク調査検討会	委　　員			1日
	国立医薬品食品研究所・化学物質による緊急危害対応のための情報に関する専門家会合	委　　員			4日
	健康保険青森健康管理センター	非常勤医師	新井　正康		45日
	青森厚生病院での全身麻酔管理	非常勤医師	大川　浩文		45日
	小野病院内科外来診療	非常勤医師	田村　有人		45日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	国際協力事業団国際緊急援助隊総合調節部会	アドバイザー	浅利　　靖		4日
05年度	国際協力事業団国際緊急援助隊総合調節部会	アドバイザー	浅利　　靖		2日

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	山形プレホスピタル外傷講習会	講　　師	浅利　　靖		2日
	日本テレビ・からだ元気科	講　　師			1日
	第一回青森プレホスピタル外傷研究会	主　催　者			1日
	第四回青森 ACLS 講習会	指　導　医			1日
	第二回青森プレホスピタル外傷研究会	指　導　医			2日
	第三回青森プレホスピタル外傷研究会	指　導　医			2日
05年度	国立災害医療センター DMAT 研修会	講　　師	浅利　　靖		2日
	第四回青森プレホスピタル外傷研究会	主　催　者			1日
	第五回青森プレホスピタル外傷研究会	指　導　医			1日
	第六回青森プレホスピタル外傷研究会	指　導　医			1日
	日本救急医学会外傷初期診療講習会	講　　師			8日
	弘前市医師会 ACLS 講習会	責　任　医			1日

36. 臨床検査医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

日本臨床検査医学会本部および東北支部活動を支え検査医学の振興に努め，地域医療に貢献してきた。

これから２年間の目標：

第53回日本臨床検査医学会学術集会を開催校として次年度に恙無く行う。同時に市民講座を設定して一般に検査医学を啓蒙する。また，これまでどおり，日本臨床検査医学会本部および東北支部活動を支え検査医学の振興に努め，地域医療に貢献する。日本臨床検査医学会本部および東北支部活動を支え検査医学の振興に努め，地域医療に貢献する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，委員　0，大学院学生　1，研究生　1
05年度		教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，委員　0，大学院学生　1，研究生　1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本臨床検査医学会 日本臨床検査医学会東北支部 日本腎臓学会，日本高血圧学会	理　事 支部長 評議員	保嶋　実	東京	8日
	日本臨床検査医学会東北支部 日本内分泌学会	幹事兼評議員 代議員	庄司　優		
05年度	日本臨床検査医学会 日本臨床検査医学会東北支部 日本腎臓学会，日本高血圧学会	理　事 支部長 評議員	保嶋　実	東京	8日
	日本臨床検査医学会東北支部 日本内分泌学会	幹事兼評議員 代議員	庄司　優		

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本臨床検査医学会東北支部総会	総会長	保嶋　実		1日
05年度	日本臨床検査医学会東北支部総会	総会長	保嶋　実		1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	Tohoku J Exp Med Hypertension Res	査読員	保嶋　実		2日 2日
05年度	Tohoku J Exp Med Hypertension Res	査読員	保嶋　実		2日 2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県医師会 青森県精度管理専門委員会	理　事 委　員			12日 3日
05年度	青森県医師会 青森県精度管理専門委員会	理　事 委　員			12日 3日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前大学医学部保健学科 東北大学医学部医学科	講　　師 講　　師	保嶋　　実	検査管理総論 検査医学	3日 1日
05年度	弘前大学医学部保健学科 東北大学医学部医学科	講　　師 講　　師	保嶋　　実	検査管理総論 検査医学	3日 1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	木造町成人病センター 木造町成人病センター 町立浪岡病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	保嶋　　実 庄司　　優 佐々木真吾		通年 通年 通年
05年度	つがる市成人病センター つがる市成人病センター 町立浪岡病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師	保嶋　　実 庄司　　優 佐々木真吾		通年 通年 通年

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

37. 臨床薬理学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

学会誌の査読に積極的に協力し，ほぼ目標に到達した。

治験管理センターのセンター長を兼務し，医薬品開発業務支援について，ほぼ目標に到達した。

治験管理センターにおいて，地域治験ネットワークを作り，治験推進の啓蒙を行った。

他大学での大学院講義，看護学部授業を担当した。

これから２年間の目標：

学会活動に積極的に協力する。

論文査読に積極的に協力する。

他大学の授業等に積極的に協力する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　0，講師　0，助手　2，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本臨床薬理学会	評　議　員	立石　智則	浜松市	３日
05年度	日本臨床薬理学会	評　議　員	立石　智則	別府市	３日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	弘前医学論文審査　２件		立石　智則		２日
05年度	弘前医学論文審査　１件	審　査　員	立石　智則		２日
	J Pharm Biomed Anal 論文審査等　６件	審　査　員	宇野　　司		25日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	地域新生コンソーシアム研究開発事業	検 討 委 員	宇野　　司	弘前大学地域共同研究センター	３日

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県立保健大学大学院講義		立石　智則	青森市	５日
05年度	青森県立保健大学大学院講義		立石　智則	青森市	５日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	大鰐町立病院内科非常勤医師		立石　智則		24日
	弘前市薬剤師薬局非常勤薬剤師		清水美貴子		20日
05年度	大鰐町立病院内科非常勤医師		立石　智則	外来勤務	24日
	薬局調剤非常勤薬剤師		宇野　　司	調剤薬局	50日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

38. 分子病態部門

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
専門性を発揮し，神経病理学の普及に努める（到達度100％）。

これから２年間の目標：
専門性を発揮し，神経病理学の普及に努める。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　2，医員　0，大学院学生　1，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　1，講師　0，助手　2，医員　0，大学院学生　1，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本神経病理学会	評　議　員	若林　孝一		1日
		広 報 委 員	若林　孝一		1日
		将来計画委員	若林　孝一		1日
		プログラム委員	若林　孝一		1日
		評　議　員	森　文秋		1日
05年度	日本神経病理学会	評　議　員	若林　孝一		1日
		広 報 委 員	若林　孝一		1日
		将来計画委員	若林　孝一		1日
		プログラム委員	若林　孝一		1日
		評　議　員	若林　孝一		1日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	査読（Neuropathology）		若林　孝一		7日
	査読（Neuroscience Research）		若林　孝一		2日
	査読（Pathology International）		若林　孝一		2日
	弘前医学編集委員		若林　孝一		2日
	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員		若林　孝一		5日
05年度	査読（Neuropathology）		若林　孝一		8日
	査読（Neuroscience Research）		若林　孝一		4日
	査読（Pathology International）		若林　孝一		2日
	弘前医学編集委員		若林　孝一		2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	講演（岡山大学医学部）		若林　孝一		1日
	講演（札幌・神経内科医師）		若林　孝一		1日
	講演（青森県立中央病院）		若林　孝一		1日
05年度	講演（岡山大学医学部）		若林　孝一		1日
	講演（札幌・神経内科医師）		若林　孝一		1日
	講演（青森県立中央病院）		若林　孝一		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	21世紀教育	教　授 助教授	若林　孝一 森　文秋		2日 2日
05年度	21世紀教育	教　授 助教授	若林　孝一 森　文秋		2日 1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	秋田大学医学部	非常勤講師	若林　孝一		2日
05年度	秋田大学医学部	非常勤講師	若林　孝一		2日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県立中央病院	非常勤医師	若林　孝一		5日
05年度	青森県立中央病院	非常勤医師	若林　孝一		2日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	三沢空軍病院への学生派遣	国際交流研究委員長	若林　孝一		1日
05年度	三沢空軍病院への学生派遣	国際交流研究委員長	若林　孝一		1日
	弘前大学医学部と中国医科大学の友好交流協定	助　手	朱　剛		6日

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	法医解剖（脳神経系に関して）		若林　孝一		5日
05年度	法医解剖（脳神経系に関して）		若林　孝一		1日

39. 脳血管病態部門

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
100％

これから２年間の目標：
可能な限り社会貢献活動を積極的に実施していく。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　5，研究生　1
05年度		教授　1，助教授　0，講師　1，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　1

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	論文査読（Am J Phys Med Rehab）	講　師	吉田　秀見		10日
05年度	Brain Res 査読 Cell Biol Int 査読 Physiol Genomics 査読	講　師	吉田　秀見		13日 7日 14日
	Life Sci 査読	助　手	今泉　忠淳		3日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	(株)木村食品健康教室	教　授	佐藤　敬		1日
05年度	弘前市歯科医師会平成17年医療管理講演会	教　授	佐藤　敬		1日
	ヒューマンケア職員医学研修	助　手	今泉　忠淳		1日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	弘前大学医師会理事	教　授	佐藤　敬		1日
05年度	弘前大学医師会理事	教　授	佐藤　敬		1日

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	大学進学教室	教　授	佐藤　敬	弘前高等学校	1日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県障害者相談センター 弘前市保健センター	嘱　託　医 健康診断診査医師	佐藤　　敬		50日 10日
	弘前市保健センター	健康診断診査医師	今泉　忠淳		10日
05年度	青森県障害者相談センター 弘前保健センター	嘱　託　医 健康診断診査医師	佐藤　　敬		50日 10日
	弘前保健センター	健康診断診査医師	今泉　忠淳		10日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

40. 機能回復部門

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

健診業務参加により，地域医療への貢献を行えた。

産学協同につながる，特許取得の共同研究は，特許出願まではいたらなかった。

これから２年間の目標：

産学との共同研究を推進し，特許取得および，得られた結果を地域社会へ還元するように努力する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　1
05年度		教授　1，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	Neuroscience Letter 査読	教　授	上野　伸哉		３日
05年度	Neurosci.Lett	教　授	上野　伸哉		３日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	企業との共同研究（シバタ医理科株式会社）	助　教　授	早狩　誠		

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	弘前市巡回基本健康診査	教　授	上野　伸哉		10日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

41. 神経統御部門

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

前回は赴任前で設定していない。

これから２年間の目標：

弘前大学医学部附属脳研神経統御部門として神経科学の発展と附属病院神経内科として青森の地域医療と全国の臨床神経学の発展の基盤を形成する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　１，講師　０，助手　０，医員　０，大学院学生　２，研究生　２
05年度		教授　１，助教授　１，講師　１，助手　１，医員　３，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本臨床神経生理学会	委　員　長	馬場　正之	東京	４日
	日本神経学会	評　議　員		東京	１日
	日本神経感染症学会	評　議　員		弘前	１日
	日本末梢神経学会	評　議　員		大阪	１日
	日本糖尿病合併症学会	評　議　員		横浜	１日
05年度	日本神経学会	生涯教育委員	東海林幹夫	東京	６日
		評 議 委 員		鹿児島	１日
	日本神経学会中四国地方会	事 務 局 長		岡山	12日
	日本認知症学会	評　議　員		東京	２日
		あり方委員会委員		東京	２日
	日本老年医学会	代　議　員		東京	１日
	日本老年医学会中国地方会	世　話　人		鳥取	１日
	日本臨床神経生理学会　神経筋電気診断技術委員会	委　員　長	馬場　正之	東京	４日
	日本神経学会	評　議　員		東京	１日
	日本神経感染症学会	評　議　員		東京	１日
	日本末梢神経学会	評　議　員		金沢	１日
	日本糖尿病学会　神経障害国際委員会	委　　員		名古屋	１日

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第１回日本臨床神経学会筋電図講習会	会　　長	馬場　正之	東京	２日
	第９回日本神経感染症学会	事 務 局 長		弘前	３日
	第３回青森県脳卒中フォーラム	代表世話人		青森	１日
	第２回青森県多発性硬化症研究会	代表世話人		青森	１日
	第７回青森県免疫性神経疾患研究会	代表世話人		青森	１日
	第３回青森県重症筋無力症研究会	代表世話人		青森	１日
	第15回北奥羽神経懇話会	代表世話人		青森	１日
	第17回青森県ニューロトランスミッター研究会	代表世話人		青森	１日
05年度	第78日本神経学会中国四国地方会	事 務 局 長	東海林幹夫	香川	２日
	第79日本神経学会中国四国地方会	事 務 局 長		松山	２日
	第２回日本臨床神経学会筋電図講習会	会　　長	馬場　正之	東京	２日
	第４回青森県脳卒中研究会	代表世話人		弘前	３日
	第３回青森県多発性硬化症研究会	代表世話人		青森	１日
	第４回青森県重症筋無力症研究会	代表世話人		青森	１日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	J.Peripheral Nervous System	Practice Editor	馬場　正之		２日
	Int.J.Diabetes and Metabol	Editor			３日

04年度	J.Neurol. Neurosurg. Psychiatry Brain　Research Diabetes Res. Clin.	Reviwer Reviwer Reviwer	馬場　正之		2日 1日 1日
05年度	臨床神経学 老年医学会雑誌 Neurobiology of aging J Neuroscience research J Neurochemistry J Human Genetics BMC Neurology Cognition and dementia	審　査　員 審　査　員 審　査　員 審　査　員 審　査　員 審　査　員 審　査　員 編　集　員	東海林幹夫		4日 4日 8日 4日 4日 8日 4日 1日
	J.Peripheral Nervous System Int.J.Diabetes and Metabol J.Neurol. Neurosurg. Psychiatry Brain　Research Diabetes Res. Clin. Practice 糖尿病	Editor Editor Reviwer Reviwer Reviwer 査 読 委 員	馬場　正之		2日 2日 2日 1日 2日 2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県特定疾患治療研究審査会 青森県公安委員会運転適正検査業務	委　　員 専　門　医	馬場　正之		12日 1日
05年度	岡山県難病対策協議会　特定疾患認定審査部会 難病医療福祉相談会 青森県公安委員会 青森県認知症，高齢者対策	審　査　員 相　談　員 専 門 医 師 検 討 委 員	東海林幹夫		（月1回） 2回 1回 3回
	青森県特定疾患治療研究審査会 青森県公安委員会運転適正検査業務	委　　員 専　門　医	馬場　正之		12日 1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	Lewy 小体を再現する変異α-synuclein トランスジェニックマウス（特許出願中：特願2002-001229） 抗Aβ特異抗体による脳アミロイドーシスの治療と診断（特許出願中：特願2003-317443）	教　　授	東海林幹夫		1年間 1年間

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	武田薬品(株)創薬事業 三和化学(株)新薬開発事業 日本イーライリリー(株)開発事業	外部専門家 外部専門家 外部専門家	馬場　正之		1日 2日 2日
05年度	武田薬品工業 北興化学（NEDO）	教　　授 教　　授	東海林幹夫	共同研究 共同研究	1年間 1年間
	武田薬品(株)創薬事業 三和化学(株)新薬開発事業 日本イーライリリー(株)開発事業 日本アストラゼネカ(株)創薬事業	外部専門家 外部専門家 外部専門家 外部専門家	馬場　正之		1日 2日 2日 1日

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	臨床神経生理学	非常勤講師	馬場　正之		7日
05年度	脳研セミナー	教　　授	東海林幹夫		1日
	医学部保健学科	非常勤講師	馬場　正之	筋電図学	7日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	Alzheimer 病最近の研究の進歩	教　　授	東海林幹夫	日本医科大	1日
	青森県立保健大学健康科学部	非常勤講師	馬場　正之	神経感染症	1日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	国保黒石病院 むつ総合病院	非常勤医師 非常勤医師	馬場　正之		50日 10日
05年度	国保黒石病院 むつ総合病院	非常勤医師 非常勤医師	馬場　正之		50日 10日
	青森市民病院 むつ総合病院	非常勤医師 非常勤医師	冨山　誠彦		65日
	大館市立病院	非常勤医師	村上千恵子		月4回

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	アルツハイマー病の専門医療を行う （デイリー東北新聞）	教　　授	東海林幹夫	2月27日	

42. 細胞工学部門　（資料なし）

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　０，講師　０，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

（２）学会などの開催

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

43. 附属動物実験施設

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

前回の目標は“学内の実際に実験を行っている実験者および関係者に，「社会の理解を得られなければ医学研究における動物実験は益々難しくなる」ことを理解してもらうように努力する”である。医学部附属動物実験施設利用者には利用講習会でこのことを訴え一応の理解を得ていると思われるので，約70％の到達度である。

これから２年間の目標：

欧米の例からもわかるように，動物実験は社会の理解が得られなければ，動物実験そのものがますます難しくなる。動物実験が難しくなれば大学の研究に影響があるのみでなく，社会全体の大きな損失である。今年の動物関係法令の改正を機に，学内の動物実験利用者にこのことを十分に理解してもらう必要がある。医学部附属動物実験施設利用者にはこれまで施設利用講習会でこのことを訴え，不十分ながら理解してもらえた。しかし，学内的にはまだまだ不十分だと思われる。学内の動物実験関係者に大学がどのように教育するか現段階では不明だが，動物実験専門として協力できる点での協力は惜しまないつもりである。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　１，講師　０，助手　１，医員　０，大学院学生　０，研究生　０
05年度		教授　０，助教授　１，講師　０，助手　１，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	平成17年度日本実験動物技術者協会奥羽支部総会および勉強会	主　　催	八木澤　誠		１日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	桔梗野学区生涯学習講座	助　　手	石田　邦夫	桔梗野会館	１日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	家畜福祉衛生学	助　教　授	八木澤　誠		15日
	実験動物学	助　　手	石田　邦夫	保健学科	３日
05年度	家畜福祉衛生学	非常勤講師	八木澤　誠		15回

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

44. 附属高度先進医学研究センター

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

・研究を通して得た成果を，社会に還元できるように努力する。
・地域関連のある材料と方法を使った研究を模索する。

【研究人員】

05年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助手　2，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

45. 小児外科

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

地方自治体の医療福祉行政，自治体病院における診療指導，検診活動および学会活動においてほぼ目標通り貢献したものと判断している。

これから２年間の目標：

上記のこれまでの目標に加え，機会であれば公開講座を含めた講演活動も行いたい。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本小児外科学会	評議員	棟方　博文	大阪市	2日
	日本外科学会認定医認定実行委員会	試験委員		仙台市	2日
	日本小児外科学会	評議員	須貝　道博	大阪市	1日
	日本腹救急医学会	評議員		東京	1日
05年度	日本小児外科学会	評議員	棟方　博文	千葉市	2日
	日本外科学会	評議員		東京都	2日
	日本外科学会認定医認定実行委員会	試験委員		仙台市	2日
	日本腹部救急医学会	評議員	須貝　道博	東京都	2日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	第34回青森県周生期医療研究会	会長	棟方　博文		1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	Surgery Today	査読委員	棟方　博文		3回
05年度	日本小児外科学会	査読委員	棟方　博文		1回
	腹部救急医学会	査読委員	須貝　道博		1回

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	救急医学セミナー	講師	須貝　道博		1回

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県地域保健医療協議会周産母子医療対策専門部会	委員	棟方　博文	青森市	2日
	周産期情報調査小委員会	委員長		青森市	4日
	青森県小児がん等調査委員会	委員		青森市	3日
05年度	青森県地域保健医療対策協議会周産母子医療対策専門部会	委員	棟方　博文	青森市	2日
	周産期情報調査小委員会	委員長		青森市	4日
	青森県小児がん等調査委員会	委員		青森市	2日
	青森小児がん実務検討委員会	委員	須貝　道博	弘前市	3日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	青森県立保健大学	非常勤講師	棟方　博文		３日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	乳癌検診 マンモグラフィー読影	読影委員	須貝　道博		12日 10日
05年度	青森県総合健診センター乳がん検診マンモグラフィー読影委員会	読影委員	須貝　道博		10日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	公立野辺地病院 三戸町立病院	非常勤医師 非常勤医師	棟方　博文	野辺地町 三戸町	24日 12日
	町立大鰐病院	非常勤医師	須貝　道博	大鰐町	50日
05年度	公立野辺地病院 三戸町立病院	非常勤医師 非常勤医師	棟方　博文	野辺地町 三戸町	24日 24日
	大鰐町立病院	非常勤医師	須貝　道博	大鰐町	50日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

46. 薬剤部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

学会の開催，学会の委員としての活動など，わが国の医学および薬学の教育の発展に努め，成果をあげている。日本病院薬剤師会，青森県病院薬剤師会，青森県薬剤師会等の役員として活動し，薬剤師の生涯教育，地域医療への貢献に努め，成果をあげている。

これから２年間の目標：

学会の委員としての活動を続け，わが国の医学および薬学の教育のさらなる発展に努める。青森県病院薬剤師会，青森県薬剤師会の役員として活動し，薬剤師の生涯教育，地域医療へのさらなる貢献に努める。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　0，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本薬学会東北支部	幹　　事	菅原　和信	仙台市	２日
	日本医療薬学会	評　議　員		千葉市	２日
	医薬品相互作用研究会	顧　　問		仙台市	２日
	青森県病院薬剤師会	会　　長		青森市	８日
	青森県薬剤師会	理　　事		青森市	５日
05年度	日本薬理学会東北支部	幹事	菅原　和信	仙台市	２日
	日本医療薬学会	評議員		神戸市	２日
	日本病院薬剤師会	理事・学術委員		東京都	７日
	青森県病院薬剤師会	会長		青森県	７日
	青森県薬剤師会	理事		青森県	５日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	第18回医療薬学公開シンポジウム	実行委員長	菅原　和信	青森市	１日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	医薬品相互作用研究	審　査　員	菅原　和信		２日
	医療薬学	審　査　員			３日
	応用薬理	審　査　員			１日
05年度	医薬品相互作用研究	審　査　員	菅原　和信		２日
	医療薬学	審　査　員			２日
	応用薬理	審　査　員			１日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	東北大学薬学部講義 青森県立保健大学 医学部保健学科	非常勤講師 非常勤講師 教　　授	菅原　和信	仙台市 青森市 弘前市	4日 4日 15日
05年度	東北大学薬学部講義 青森県立保健大学 医学部保健学科	非常勤講師 非常勤講師 教　　授	菅原　和信	仙台市 青森市 弘前市	4日 7日 15日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	大館鳳鳴高校		菅原　和信	大館市	1日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

47. 手術部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
ほぼ到達できた。

これから２年間の目標：
手術部での安全推進に関する考え方を啓蒙する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　１，講師　０，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０
05年度		教授　０，助教授　１，講師　０，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本蘇生学会	評　議　員	坂井　哲博		1年間
05年度	日本蘇生学会 日本静脈麻酔 IT 研究会	評　議　員	坂井　哲博		4日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本臨床麻酔学会誌	査 読 委 員	坂井　哲博		1年間
05年度	日本臨床麻酔学会誌	査 読 委 員	坂井　哲博		10日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	21世紀教育	助　教　授	坂井　哲博		1日

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	西北中央病院	非常勤医師	坂井　哲博		20日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

48. 検査部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
概ね達成できた。

これから２年間の目標：
地域の住民の健康増進に貢献するため，求めに応じて健康講座・教室の開催，患者相談について可能な限り協力する。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　０，講師　１，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０
05年度		教授　０，助教授　０，講師　１，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	Cellular Molecular Nuerobiology	査　読　者	杉本　一博		14日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	三戸住民公開講座：生活習慣病からみた糖尿病	講　　師	杉本　一博		1日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	つがる市立成人病センター	非常勤医師	杉本　一博		49日
	十和田市立中央病院	非常勤講師			12日
	財団法人鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師			24日

05年度	つがる市立成人病センター 十和田市立中央病院 財団法人鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師 非常勤講師 非常勤医師	杉本　一博		49日 12日 24日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

49. 放射線部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

１）学会役職のうち，東北地方会レベルの役職を担う人材の育成。

２）県内放射線技師レベルアップを目指し，各分野でリーダーシップを担う人材の育成。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　０，講師　０，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０
05年度		教授　０，助教授　０，講師　０，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本放射線技術学会 日本放射線技術学会東北部会 日本核医学技術学会 日本核医学技術学会東北地方会 青森県核医学技術研究交流会 青森県核医学研究会 緊急被ばく医療ネットワーク 青森県放射線技師会	評　議　員 役　　員 評　議　員 幹　　事 代表世話人 世　話　人 青森地区委員 副 委 員 長	工藤　亮裕		
	日本核医学技術学会東北地方会 青森県放射線技師会 つがる乳腺診断フォーラム	幹　　事 学術企画委員 撮影部会長 世　話　人	長内　恒美		
	東北デジタル医用画像研究会	世　話　人	木村　　均		
	東北 MRI 技術研究会 青森県放射線技師会 青森県 MRI 研究会	世　話　人 学術企画委員 MRI 部会長 代 表 幹 事	辻　　敏朗		
	北奥羽放射線治療懇話会 青森県放射線技師会 青森県放射線治療技術研究会	技師サイド幹事 学術企画委員 治療部会長 代 表 幹 事	藤森　　明		
	青森県放射線技師会	学術企画委員 CT 部会長	神　　寿宏		
05年度	日本放射線技術学会 日本放射線技術学会東北部会 日本核医学技術学会 日本核医学技術学会東北地方会 青森県核医学技術研究交流会 青森県核医学研究会 緊急被ばく医療ネットワーク 青森県緊急被ばく医療検討委員会 青森県放射線技師会	評　議　員 役　　員 評　議　員 幹　　事 代表世話人 世　話　人 青森地区委員 委　　員 副　会　長	工藤　亮裕		４日 ５日 ２日 ２日 １日 ４日 ０日 ３日 12日
	東北デジタル医用画像研究会 東北循環器撮影研究会	世　話　人 幹　　事	木村　　均		２日 ２日
	日本核医学技術学会東北地方会 青森県放射線技師会 つがる乳腺診断フォーラム	幹　　事 学術企画委員 撮影部会長 世　話　人	長内　恒美		２日 ３日 ２日
	東北 MRI 技術研究会 青森県放射線技師会 青森県 MRI 研究会	世　話　人 学術企画委員 MRI 部会長 代 表 幹 事	辻　　敏朗		２日 ３日 ２日

05年度	北奥羽放射線治療懇話会 青森県放射線技師会 青森県放射線治療技術研究会	技師サイド幹事 学術企画委員 治療部会長 代 表 幹 事	藤森　　明		1日 3日 2日
	青森県放射線技師会	放射線機器管理士部会委員	須崎　勝正		3日
	青森県放射線技師会	学術企画委員 CT部会長	神　　寿宏		3日
	青森県放射線技師会	放射線機器管理士部会委員	清野　守央		3日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	文部科学省全国国立大学放射線技師研修会（オータムセミナー）	大　会　長	工藤　亮裕		3日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	青森県緊急被ばく医療検討委員会	委　　員	工藤　亮裕		3日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前大学医学部保健学科学生40名に対して，X線撮影・核医学・放射線治療技術の臨床実習を実施した。 他施設から4名の研修・実習生を受け入れ，延61日間実施し地域の技術レベルアップに貢献した。				140日 61日
05年度	1）保健学科学生40名に対して，X線撮影・核医学・放射線治療技術の実習 2）医学部2年次学生84名に対して，放射線部臨床実地見学		1）放射線技師全員 2）工藤　亮裕		140日 12日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	社団法人日本放射線技師会，医療安全学セミナー（弘前市） 第8回青森県南乳腺診断フォーラム（八戸市）		金　　正宜 長内　恒美		1日 1日
05年度	（社）秋田県放射線技師会県北支部秋季研修会で講演		金　　正宜		1日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

資格取得

	資　格　名	氏　　名
04年度	検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	相馬　　誠
		宮城　　薫
	放射線治療品質管理士	藤森　　明
05年度	検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	熊野　志保
	放射線品質管理士	須崎　勝正
	放射線治療専門技師	藤森　　明
		須崎　勝正
	PET 研修終了診療放射線技師	工藤　亮裕
		長内　恒美
		金　　正宜
		成田　将崇
		熊野　志保
		鈴木　理恵
	医用画像情報管理士	長内　恒美

50. 輸血部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　０，講師　１，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０
05年度		教授　０，助教授　０，講師　０，助手　０，委員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	(財)鳴海清明会鳴海病院	非常勤医師	木村あさの		週１日（３時間）

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

51. 集中治療部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：
ほぼ到達した。

これから２年間の目標：
できる限り，市民や他の病院に対して情報を発信していく。
学内外での教育講演を積極的に行う。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　０，講師　１，助手　１，医員　０，大学院学生　０，研究生　０
05年度		教授　０，助教授　１，講師　０，助手　１，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	集中治療医学会評議員会	評　議　員	坪　敏仁		２日

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	第９回青森県経食道エコー研究会				１日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	青森県医師会心肺蘇生講習会	講　　師	橋場　英二	弘前市医師会館	１日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	最近の集中治療進歩	講　　師	坪　敏仁		２日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森厚生病院	非　常　勤	坪　　敏仁	毎週木曜	46日
	西北中央病院	非　常　勤	大川　浩文	毎週月曜	47日
05年度	西北中央病院	非　常　勤	坪　　敏仁	毎週水曜	1年間
	弘前市立病院	非　常　勤	橋場　英二	毎週月曜	1年間

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

52. 周産母子センター

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

青森県立中央病院総合周産期母子医療センターと連携しながら特定機能病院としての役割を果たし，周産期医学の発展・向上と青森県の周産期医療の向上に寄与できており，母子保健統計の改善が認められていることから到達度80％と判断する。

これから２年間の目標：

特定機能病院として，より高度な周産期医療が行えるように努力し，青森県内の母子保健統計のさらなる改善をめざすとともに，周産期医療の魅力を教育・研究活動の中でより一層伝えていきたい。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　１，講師　１，助手　２，医員　０，大学院学生　０，研究生　０
05年度		教授　０，助教授　１，講師　１，助手　２，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	青森県臨床産婦人科医会母子保健委員会	委　員　長	尾崎　浩士		１日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	JROG	査　　読	尾崎　浩士		１日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	附属幼稚園での小児救急講演会	講　　師	佐藤　　工		１日
05年度	医療講演	講　　師	佐藤　　工	附属幼稚園	１日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県地域保健医療対策協議会周産期母子医療対策専門部会	委　　員	尾崎　浩士		１日
05年度	青森県地域保健医療対策協議会周産期母子医療対策専門部会	委　　員	尾崎　浩士		１日

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	弘前市エリア産学官連携促進事業 「プロテオグリカン応用研究プロジェクト」	分担研究者	田中　幹二		６日
05年度	弘前都市エリア産学官連携促進事業 代表研究者　高垣啓一 プロテオグリカン応用研究プロジェクト	分担研究者	田中　幹二		６日

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	中南地区保健所懇話会	講　　師	尾崎　浩士		1日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	附属幼稚園，小学校，養護学校での健診，予防接種	校　　医	佐藤　　工		6日
	子宮癌卵巣癌検診	非　常　勤	尾崎　浩士		10日
	子宮癌卵巣癌検診	非　常　勤	田中　幹二		10日
05年度	老人保健法に基づく子宮癌卵巣癌検診	非常勤医師	尾崎　浩士		5日
	附属幼稚園，小学校，養護学校健診	非常勤医師	佐藤　　工		10日
	老人保健法に基づく子宮癌卵巣癌検診	非常勤医師	田中　幹二		5日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	弘前市立病院小児科心臓専門外来	非　常　勤	佐藤　　工		24日
	岩手県立一戸病院	非　常　勤	田中　幹二		24日
	岩手県立一戸病院	非　常　勤	尾崎　浩士		24日
05年度	公立野辺地病院 町立鰺ヶ沢病院 平内町立病院	非常勤医師	尾崎　浩士		24日 10日 24日
	五戸総合病院，弘前市立病院 青森病院での心臓専門外来	非常勤医師	佐藤　　工		35日 35日
	十和田市立中央病院	非常勤医師	田中　幹二		24日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

53. 病理部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

医学部医学科以外の講義としての21世紀教育を見直しした結果，学生の評価が向上した。

International Journal of Urology の査読委員として十分対応できた。

一般市民などの生涯学習への参加は不十分であった。

International Academy of Pathology 日本支部のセミナーで日・米・東アジアの国際交流に十分貢献できた。

これから２年間の目標：

医学部医学科以外の講義としての21世紀教育を，診療業務に支障の来たさない限り，できるだけ担当する。

International Journal of Urology の査読委員として続けて積極的に取り組む。

国際交流への貢献と一般市民などの生涯学習への参加に努める。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　１，講師　０，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０
05年度		教授　０，助教授　１，講師　０，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	International Academy of Pathogy 日本支部	助　教　授	鎌田　義正	セミナー担当委員	３日
05年度	International Academy of Pathology 日本支部	助　教　授	鎌田　義正	セミナー担当委員	３日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	International Journal of Urology	助　教　授	鎌田　義正	査読委員	７日
05年度	International Journal of Urology	助　教　授	鎌田　義正	査読委員	７日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
05年度	第12回東北臨技形態検査部門病理検査分野研修会（於八戸市）	助　教　授	鎌田　義正	講演	１日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	生物学の基礎（21世紀教育；弘前大学）	助　教　授	鎌田　義正		５日
05年度	生物学の基礎（21世紀教育；弘前大学）	助　教　授	鎌田　義正		５日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森労災病院 八戸医師会臨床検査センター	助　教　授	鎌田　義正	2回／月（各3時間）	24日 24日
05年度	青森労災病院 八戸医師会臨床検査センター	助　教　授	鎌田　義正	2回／月（各3時間）	24日 24日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	病理解剖（弘前大学医学部附属病院）	助　教　授	鎌田　義正		52日
05年度	病理解剖（弘前大学医学部附属病院）	助　教　授	鎌田　義正		52日

54. 医療情報部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

（羽田）

前回の設定目標－『本務（病院業務）優先』：格段の社会貢献活動を行わなかった。未達成。

（佐々木）

前回の設定目標－ CAD の特許取得を目指し，現在引き続きソフトの開発・改良を行っている。しかしながら，特許の取得は１に留まる為，達成度は20％程度と考えられる。

これから２年間の目標：

（羽田）

本務（病院業務）優先

・新外来棟情報管理システムの稼動（平成20年１月１日稼動予定）

・病院情報管理システムの更新（平成21年１月１日稼動予定）

（佐々木）

医用・医療全般のソフトウェアー開発・特許取得。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　1，講師　0，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	日本医療情報学会医療情報技師育成事業―平成17年度講習会	教　　授	羽田　隆吉	講師	１日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	World journal of gastroenterology	査　読　者	佐々木賀広	査読	５件

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	三戸中央病院 【依頼講演】「診療情報の取扱い―診療中の診療情報の提供について」	教　　授	羽田　隆吉	三戸中央病院2005 （11/01）	１日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県地域保健医療対策協議会周産期母子医療対策専門部会　委員	教　　授	羽田　隆吉	委員	２日
05年度	青森県地域保健医療対策協議会周産期母子医療対策専門部会　委員	教　　授	羽田　隆吉	委員	２日

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	保健学科　コンピュータ概論	教　　授	羽田　隆吉	非常勤講師	３日
	附属病院 平成16年度臨床研修オリエンテーション「診療情報の管理と提供について	教　　授	羽田　隆吉	講師	１日
	附属病院 平成16年度臨床研修オリエンテーション「オーダリングシステム」実習	教　　授	羽田　隆吉	講師	２日
05年度	保健学科３年次　コンピュータ概論 （医療情報システム）	教　　授	羽田　隆吉	非常勤講師	３日
	保健学科３年次　コンピュータ概論 （医用画像）	助　教　授	佐々木賀広	非常勤講師	２日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	国立弘前病院附属看護学校『臨床英語』	教　　授	羽田　隆吉	非常勤講師	15日
05年度	国立病院機構弘前病院附属看護学校２年次―臨床英語	教　　授	羽田　隆吉	国立病院機構弘前病院附属看護学校	15日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	木造成人病センター	教　　授	羽田　隆吉	非常勤講師	45日
05年度	つがる成人病センター	教　　授	羽田　隆吉	非常勤講師	45日
	つがる成人病センター	助　教　授	佐々木賀広	非常勤講師	50日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

55. 光学医療診療部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

青森県における地域医療，健康福祉等の事業に対し，専門家の立場から会議で意見を述べるなど貢献した。

前回の目標設定時にはなかったが，平成17年度，平成18年度は医学部附属病院長として，病院経営に大きく貢献した。

これから２年間の目標：

専門的知識の普及，啓蒙，地域医療への貢献

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　１，講師　０，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０
05年度		教授　０，助教授　１，講師　０，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	日本消化器病学会	理　　事	棟方　昭博		４日
	日本消化器内視鏡学会	支　部　長			１日
	日本大腸肛門病学会	理　　事			３日
	日本消化器免疫学会	理　　事			１日
	大腸癌研究会	幹　　事			１日
	日本大腸検査学会	理　　事			１日
	日本内科学会	評　議　員			１日
	日本消化器病学会東北支部例会	評　議　員	石黒　　陽	評議員会	２日
	日本消化器内視鏡学会東北支部例会				２日

（２）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	第21回弘前メディカルフォーラム		棟方　昭博	弘前市	１日
	第10回青森 IBD 研究会			青森市	１日
	第13回北奥羽消化器内視鏡研究会			青森市	１日
	第33回青森県肝胆膵研究会			青森市	１日
	第22回弘前メディカルフォーラム			弘前市	１日
	第21回青森県肝疾患研究会			弘前市	１日
	第９回青森膵疾患研究会			青森市	１日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	World Journal of Gastroenterology	アシスタント査読員	佐々木賀広	査読	７件
05年度	臨牀消化器内科	編　集　員	棟方　昭博	東京都	８日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	青森県社会福祉審議会	委　　員	棟方　昭博		２日
	青森県成人病検診管理指導協議会	委　　員			２日
	青森県成人病検診管理指導協議会胃がん部会	委　員　長			２日
	青森県特定疾患治療研究事業審査会	委　員　長			１日
	青森県総合健診センター胃がん検診読影委員会	委　員　長			２日
	青森県総合健診センター	理　　事			２日
	青森県地域保健医療対策協議会	委　　員			１日
	日本学術振興会科学研究費委員会	委　　員			１日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	21世紀教育　最新医学の現状	講　　師	棟方　昭博		1回
	21世紀教育　最新医学の現状（B）	講　　師	石黒　　陽		1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	21世紀教育　情報の伝達 21世紀教育　科学・技術の最前線 22回北奥羽地区消化器内視鏡技師研究会特別口演	講　　師	佐々木賀広	青森	2日 3日 1日
05年度	医療トピックス研究会　膠原病の診断（1）（2）	講　　師	石黒　　陽	弘前市医師会	2日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	副主任学校医（弘前大学保健管理センター）	学　校　医	棟方　昭博		3日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	つがる市立成人病センター	非常勤医師	佐々木賀広	つがる市	50日
05年度	町立大鰐病院での非常勤医師（内科）	講　　師	石黒　　陽	大鰐町（週1回）	40日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

56. リハビリテーション部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

リハビリテーション部としての社会活動実績に関する詳細は前任教官近藤，細川両名の退職に伴い不詳。

これから２年間の目標：

日常診療のみならす巡回診療他を通し地域医療に貢献する。
地域住民に対しリハビリテーション医学に関する知識の啓蒙を行う。
充実した卒後教育を通し地域に根ざした臨床医を育成する。
地域住民，臨床医師に対し整形外科疾患，リハビリテーション医学に関する知識の啓蒙を図る。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　0，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
05年度		教授　0，助教授　1，講師　0，助手　1，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本リハビリテーション医学会	評　議　員	近藤　和泉		2日
	日本リハビリテーション認定委員会	特別委員			1日
	日本義肢装具学会	評　議　員			2日

（2）学会などの開催

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	第16回日本リハビリテーション医学会東北地方会	会　　長	近藤　和泉		1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	日本リハビリテーション医学会編集委員会	委　　員	近藤　和泉		12日
05年度	東北整形災害外科紀要編集	査読委員	中村　吉秀		

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	青森県津軽地区栄養士会講演	講　　師	細川賀乃子		3日
05年度	弘前市生活クラブ生活協同組合講演会	講　　師	中村　吉秀		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　名	備　考	日数
04年度	義肢装具士国家試験委員会	委　　員	近藤　和泉		3日
05年度	損害保険料率算出機構	顧　問　医	中村　吉秀		36日
	青森県検診センター骨密度（骨粗鬆症）	検診判定委員			2日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	21世紀教育・テーマ科目・障害者の健康(C) 21世紀教育・テーマ科目・発達と老化	担　　当 担　　当	近藤　和泉		5日 1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	平成16年度義肢・装具仮合わせおよび適合判定 平成16年度養護学校等における医療的ケア専門研修	判定医師 講　　師	近藤　和泉		2日 2日
	平成16年度義肢・装具仮合わせおよび適合判定	判定医師	細川賀乃子		4日

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	黒石病院	非常勤医師	近藤　和泉		36日
	みちのく記念病院 青森県立中央病院リハビリテーション科	非常勤医師	細川賀乃子		40日 30日
05年度	身体障害者判定巡回診療	判　定　医	中村　吉秀		3日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

57. 総合診療部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

・卒後研修に関して，地域の医療機関との交流を深める。
　→青森県医師臨床対策協議会が発足し，本学も参加し，加藤博之が副会長をつとめるようになった。70点。

・卒後臨床研修の充実を通じて，地域医療の発展に貢献する，総合診療を地域に根付かせるべく努力する。
　→研修医の地域医療研修を通じて地域の医療機関との連携が充実してきており，到達度は80％。

これから２年間の目標：

・引き続き卒後研修に関して，地域の医療機関との交流を深め，連携を図る。

・総合診療部外来を通じて地域医療の充実に貢献するとともに研修医，一般内科医への啓蒙を図る。

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　1，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0
05年度		教授　1，助教授　0，講師　1，助手　0，医員　0，大学院学生　0，研究生　0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	日本老年医学会代議員会	代　議　員	加藤　博之	千葉	2日
	東北救急医学会医師部会幹事会	幹　　事		山形	2日
	日本救急医学会評議員会	評　議　員		千葉	2日
	日本腎臓学会	学術評議員	大沢　　弘		1日
		専門医試験問題作成委員			1日
	日本内科学会	病歴要約評価委員			1日
	日本内科専門医会	東北支部評議員			1日
	東北腎フォーラム	世　話　人			1日
05年度	日本救急医学会	評　議　員	加藤　博之	出席せず	0日
	日本臨床救急医学会	評　議　員		東京	2日
	日本老年医学会	代　議　員		出席せず	0日
	日本腎臓学会	学術評議員	大沢　　弘	新潟	1日
	日本内科学会	病歴評価委員		弘前	2日
	内科専門医部会	東北地区代表世話人		東京	1日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	Molecular and Cellular Biochemistry	reviewer	大沢　　弘		7日
05年度	日本内科学会　資格認定試験　試験問題作成	試験問題作成者	加藤　博之		4日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	青森県放射線技師会新生涯学習システム講習会	講　　師	加藤　博之	弘前	1日
	むつ総合病院講演会	講　　師		むつ	2日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	共用試験実施機構平成16年度医学系CBT試験実施小委員会	委　　員	加藤　博之	東京	2日
	青森県平成16年度研修医確保対策打合せ会議			青森	2日
	共用試験実施機構平成16年度医学系CBT試験実施小委員会	委　　員		千葉	5日

04年度	共用試験実施機構平成16年度医学系 CBT 試験実施小委員会 CBT モニター	モニター	加藤　博之	秋田	２日
05年度	県レベル				
	青森県医師臨床研修対策協議会	副　会　長	加藤　博之		２日
	青森県医師臨床研修指定病院合同説明会	副　会　長	加藤　博之		３日
		研修施設代表者	大沢　　弘		３日
	青森県医師臨床研修対策協議会主催「指導医ワークショップ」	タスクフォース	加藤　博之		３日
		タスクフォース	大沢　　弘		３日
	東北ブロックレベル				
	第２回東北ブロック医師臨床研修制度連絡会議	委員	加藤　博之		１日
	東北ブロックにおける医師臨床研修の充実強化に関する懇談会		加藤　博之		３日
	東北ブロック臨床研修病院合同説明会	研修施設代表者	大沢　　弘		３日
	国レベル				
	国立大学附属病院卒後臨床研修実務者会議		加藤　博之		５日

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	佐賀医科大学閉学及び佐賀大学医学部発足記念講演会	講　　師	加藤　博之	佐賀	２日
	秋田大学関連病院協議会講演会	講　　師		秋田	１日
	弘前大学救急医学講座	講　　師		弘前	１日
	佐賀大学医学部救急医学集中講義	講　　師		佐賀	２日
	北里大学総合診療医学単位設立シンポジウム	講　　師		相模原	２日
05年度	学生へ「良い研修病院の見分け方」	講　　師	加藤　博之		１日
	３年次学生の保護者へ「弘前大学における臨床医学教育の新しい工夫―時代をリードする医学部であるために」	講　　師			１日
	第50回セミナー医療と社会で講演「弘前大学における臨床医学教育の新しい工夫」	講　　師			１日
	看護実践研修：実践編「フィジカルアセスメント～見る→観る→診る」	講　　師			１日

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	国立病院機構弘前病院院内研修会	講　　師	加藤　博之	弘前	１日
	第22回弘前大学医師会教育講演会	講　　師		弘前	１日
	国立病院機構北海道東北ブロック小児救急研修会	講　　師		弘前	１日
05年度	平成17年度消防実務講習会「救急医療のピットフォール」	講　　師	加藤　博之		１日
	総合診療学術フォーラムにて特別講演「プライマリ・ケアに役立つ救急外来ピットフォール学」	講　　師			１日

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	国保黒石病院	非常勤医師	加藤　博之		30日
	国保平賀病院	非常勤医師	大沢　　弘		８日
	鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師			76日

05年度	黒石病院	非常勤医師	加藤　博之		50日
	鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	大沢　　弘		91日

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

58. 治験管理センター

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　１，講師　０，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	医療薬学誌	審　査　員	大久保　正		２日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	学校薬剤師	助　教　授	大久保　正		１日

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

59. メディカルスクール研究センター

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

04年度	研究人員	教授　０，助教授　０，講師　１，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	医療情報学会短期講習会資料作成	講　　師	松谷　秀哉		２日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	白神研究会　第３回シンポジュウム		松谷　秀哉	一般講演	１日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
04年度	FD 研修会 コンピュータ概論演習	講　　師	松谷　秀哉		１日 15日

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

60. 医学教育センター

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：
青森県の医師不足改善への取り組み
（県や市町村と連携した，入試から卒後までの地域定着のための仕組み作り）

【研究人員】

05年度	研究人員	教授　０，助教授　０，講師　１，助手　０，医員　０，大学院学生　０，研究生　０

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	日本医療情報学会・医療情報技師育成部会	講　　師	松谷　秀哉		５日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件　　名	役職	氏　　名	備　　考	日数
05年度	青森県総合学校教育センター研修講座「校内LAN講座・構築運用コース」 白神研究会　第３回シンポジュウム	講　　師	松谷　秀哉	対象：小中高教諭	１日 １日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

管　理・運　営

第4章　管　理・運　営

Ⅰ．所属委員会

【医学部】（2004年４月現在）

	委　員　会　名	委員名及び委員数　◎印は委員長
1	医学部教授会	◎兼子　直，正村和彦，加地　隆，泉井　亮，藏田　潔，高垣啓一，土田成紀，元村　成，八木橋操六，中根明夫，三田禮造，神谷晴夫，黒田直人，若林孝一，佐藤　敬，上野伸哉，棟方昭博，奥村　謙，須田俊宏，水島　豊，伊藤悦朗，福田幾夫，佐々木睦男，藤　哲，花田勝美，中澤　満，新川秀一，阿部由直，水沼英樹，大熊洋揮，澤田幸正，保嶋　実，立石智則，浅利　靖，木村博人，棟方博文，菅原和信，羽田隆吉，加藤博之　計39名
2	学科間連絡会	◎兼子　直，棟方昭博，佐藤　敬，泉井　亮，佐々木睦男　計 5名
3	附属動物実験施設運営委員会	◎藏田　潔，加地　隆，八木橋操六，須田俊宏，花田勝美　計 5名
4	附属図書館医学部分館運営委員会	◎正村和彦，加地　隆，中根明夫，木村博人　計 4名
5	医学部環境整備委員会	◎黒田直人，中根明夫，藤　哲，棟方博文，瀬谷和彦，黒田令子，中畑年子，中田伸一，山﨑賢司　計 9名
6	医学部倫理委員会	◎泉井　亮，中根明夫，奥村　謙，花田勝美，相澤　寛，小田桐弘毅，黒田直人，菅原和信，小林朱実　計 9名
7	医学部動物実験倫理委員会	◎藏田　潔，八木澤誠，正村和彦，元村　成，伊藤悦朗，水沼英樹，森　文秋，工藤　剛　計 8名
8	医学部情報公開検討委員会	◎羽田隆吉，黒田直人，藏田　潔，佐々木睦男　計 4名
9	医学部及び附属病院職員レクリエーション委員会	◎佐藤洋正，丹野高三，渡邉誠二，間宮和久，漆舘聡志，村田佳子，須崎勝正，相馬美香子，相馬博子，菊田頼司　計10名
10	医学部放射線安全管理委員会	◎阿部由直，藏田　潔，土田成紀，福田幾夫，藤　哲，八木澤誠，山﨑賢司，長尾義昭　計 8名
12	本町地区安全衛生委員会	◎棟方昭博，阿部由直，葛西　猛，佐藤洋正，山﨑賢司，佐山卓男，菊池孝雄，佐山　洋，松岡昌江　計 9名

【医学部医学科】

	委　員　会　名	委員名及び委員数　◎印は委員長
1	医学科会議	◎兼子　直，正村和彦，加地　隆，泉井　亮，藏田　潔，高垣啓一，土田成紀，元村　成，八木橋操六，中根明夫，三田禮造，神谷晴夫，黒田直人，若林孝一，佐藤　敬，上野伸哉，棟方昭博，奥村　謙，須田俊宏，水島　豊，伊藤悦朗，福田幾夫，佐々木睦男，藤　哲，花田勝美，中澤　満，新川秀一，阿部由直，水沼英樹，大熊洋揮，澤田幸正，保嶋　実，立石智則，浅利　靖，木村博人，棟方博文，菅原和信，羽田隆吉，加藤博之　計39名
2	医学研究科委員会	◎兼子　直，正村和彦，加地　隆，泉井　亮，藏田　潔，高垣啓一，土田成紀，元村　成，八木橋操六，中根明夫，三田禮造，神谷晴夫，黒田直人，若林孝一，佐藤　敬，上野伸哉，棟方昭博，奥村　謙，須田俊宏，水島　豊，伊藤悦朗，福田幾夫，佐々木睦男，藤　哲，花田勝美，中澤　満，新川秀一，阿部由直，水沼英樹，大熊洋揮，澤田幸正，保嶋　実，立石智則，浅利　靖，木村博人，棟方博文，菅原和信，羽田隆吉，加藤博之　計39名
3	医学科運営会議	◎兼子　直，泉井　亮，佐藤　敬，奥村　謙，佐々木睦男，水沼英樹，元村　成，高垣啓一，西田　均，椎名幸男　計10名
4	医学科将来計画委員会	◎兼子　直，泉井　亮，水沼英樹，元村　成，奥村　謙，高垣啓一，古川賢一，中野　創　計 8名
5	医学科予算委員会	◎兼子　直，泉井　亮，藏田　潔，元村　成，奥村　謙　計 5名

6	医学科人事委員会	◎兼子　直，棟方昭博，泉井　亮，水沼英樹，正村和彦，佐々木睦男，西田　均　計 7名
7	医学科施設整備委員会	◎兼子　直，泉井　亮，佐々木睦男，黒田直人，藤　哲，奥村　謙，西田　均　計 7名
8	医学教育検討委員会	◎兼子　直，泉井　亮，奥村　謙，佐藤　敬，中根明夫，元村　成，須田俊宏，木村博人　計 8名
10	附属脳神経血管病態研究施設協議会	◎兼子　直，佐藤　敬，棟方昭博，若林孝一，上野伸哉，正村和彦，藏田　潔，奥村　謙，伊藤悦朗　計 9名
11	医学科学務委員会	◎泉井　亮，土田成紀，中根明夫，新川秀一，福田幾夫，花田勝美　計 6名
12	医学科入試専門委員会	◎佐藤　敬，兼子　直，泉井　亮，花田勝美，八木橋操六，高垣啓一，水沼英樹，中澤　満　計 8名
13	医学研究科学事委員会	◎奥村　謙，高垣啓一，黒田直人，若林孝一，水沼英樹　計 5名
14	医学科研究推進委員会	◎兼子　直，佐々木睦男，奥村　謙，土田成紀，佐藤　敬，花田勝美，中澤　満　計 7名
15	医学科・附属病院自己評価委員会	◎藏田　潔，中根明夫，元村　成，伊藤悦朗，花田勝美，中澤　満，田中正則，中路重之，福田眞作，岡田元宏，坂井哲博，鎌田義正，西田　均　計13名
16	医学科広報委員会	◎花田勝美，正村和彦，高垣啓一，黒田直人，中澤　満，藤　哲　計 6名
17	医学科地域医療対策委員会	◎新川秀一，兼子　直，棟方昭博，高垣啓一，土田成紀，伊藤悦朗，奥村　謙，佐々木睦男　計 8名
18	医学科ネットワーク管理委員会	立石智則，阿部由直，羽田隆吉，丹野高三，胡　東良，横山　徹，石井賢治，八木澤誠，松谷秀哉　計 9名
19	医学科国際交流研究委員会	◎若林孝一，藏田　潔，高垣啓一，水沼英樹，伊藤悦朗，藤　哲　計 6名
20	医学科図書委員会	◎正村和彦，羽田隆吉，加地　隆，中根明夫，木村博人，中澤　満，石田邦夫，福井淳史　計 8名
21	病理解剖運営委員会	◎八木橋操六，佐々木睦男，山岸晋一朗，和田龍一，田中正則，柴田　滋，小林　恒，樋口　毅，笹森　守　計 9名
22	青森医学振興会医学科実務委員会	◎兼子　直，棟方昭博，泉井　亮，花田勝美，新川秀一　計 5名
23	教授団幹事	藤　哲
24	弘前医学会幹事会	◎兼子　直，木村博人，泉井　亮，中澤　満　計 4名
25	弘前医学編集委員会	◎中澤　満，高垣啓一，黒田直人，若林孝一，正村和彦，八木橋操六，須田俊宏，伊藤悦朗，立石智則，保嶋　実　計10名

【附属病院】

	委　員　会　名	委員名及び委員数　◎印は委員長
1	病院科長会	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，水沼英樹，保嶋　実，須藤明子，奥村　謙，須田俊宏，兼子　直，伊藤悦朗，藤　哲，花田勝美，高橋信好，中澤　満，新川秀一，阿部由直，石原弘規，大熊洋揮，棟方博文，木村博人，浅利　靖，八木橋操六，羽田隆吉，加藤博之，菅原和信，水島　豊，立石智則，西田　均，椎名幸男　計29名
2	病院運営会議	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，水沼英樹，保嶋　実，須藤明子，西田　均，椎名幸男　計 8名
3	病院将来計画委員会	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，水沼英樹，保嶋　実，須藤明子，奥村　謙，新川秀一，浅利　靖，加藤博之，菅原和信，羽田隆吉，西田　均，椎名幸男　計14名
4	病院予算委員会	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，須田俊宏，藤　哲，菅原和信，須藤明子，西田　均，椎名幸男　計 9名
5	病院人事委員会	◎棟方昭博，佐々木睦男，水沼英樹，須田俊宏，中澤　満，阿部由直，須藤明子，西田　均，椎名幸男　計 9名
6	経営戦略会議	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，水沼英樹，保嶋　実，須藤明子，羽田隆吉，西田　均，椎名幸男，相澤　中，大野清隆，藤村　徹，木村博人　計13名

7	医療材料委員会	◎佐々木睦男，福田幾夫，奥村　謙，高橋　徹，小野修一， 大黒　浩，石橋恭之，坂井哲博，坪　敏仁，福沢百合子， 椎名幸男　計11名
8	医療情報システム委員会	◎羽田隆吉，三上聖治，中澤　満，阿部由直，菅原和信， 加藤博之，伊東重豪，丹藤雄介，武田　哲，川崎仁司， 横山　徹，福井淳史，福井　朗，小林朱実，小澤　浩 計15名
9	臨床検査外注検討委員会	◎保嶋　実，庄司　優，鎌田義正，木村あさの，須田俊宏， 中澤　満，長谷川幸裕，武田仁志，土岐栄喜，葛西　猛， 山﨑賢司　計11名
10	クリティカルパス委員会	◎福田幾夫，坂本十一，須藤直行，松井　淳，矢部博興， 佐藤　工，鈴木保之，村田暁彦，西川真史，松崎康司， 米山高弘，山崎仁志，南場淳司，場崎　潔，福井淳史， 佐藤哲観，嶋村則人，漆舘聡志，須貝道博，佐藤　寿， 木村博人，小林朱実，小澤　浩　計23名
11	業務連絡会	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田眞作，長内智宏，玉澤直樹， 矢部博興，高橋　徹，對馬敬夫，吉原秀一，西川真史， 中野　創，高橋信好，大黒　浩，松原　篤，小野修一， 藤井俊策，石原弘規，浅野研一郎，四ツ柳高敏，須貝道博， 小林　恒，坂井哲博，庄司　優，青木昌彦，滝口雅博， 近藤和泉，木村あさの，坪　敏仁，尾崎浩士，鎌田義正， 三上聖治，佐々木賀広，大沢　弘，大久保正，伊東重豪， 楠美昭則，藤田祥子，村上知子，安田文子，小林朱実， 葛西　猛，工藤亮裕，西田　均，椎名幸男，佐藤洋正， 山﨑賢司，小澤　浩　計47名
12	感染制御センター会議	◎保嶋　実，玉澤直樹，坂本十一，高梨信吾，差波拓志， 朝日茂樹，山本葉子，井上文緒，宇野　司，須藤信子， 小澤　浩，庄司　優，坂井哲博，安田文子，福沢百合子 計15名
13	リスクマネジメント対策委員会	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，水沼英樹，保嶋　実， 須藤明子，西田　均，椎名幸男，砂田弘子，三上雅通 計10名
14	輸血療法委員会	◎佐々木睦男，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，伊藤悦朗， 藤　　哲，玉井佳子，岡田晶博，木村あさの，田中一人， 小澤　浩　計11名
15	薬事委員会	◎佐々木睦男，須田俊宏，藤　　哲，玉井佳子，花田裕之， 小川吉司，岡田元宏，高橋　徹，山田芳嗣，柴田　滋， 西川真史，武田仁志，古家琢也，大黒幾代，石井賢治， 小野修一，坂本知巳，櫛方哲也，浅野研一郎，横井克憲， 須貝道博，小林　恒，庄司　優，坂井哲博，青木昌彦， 滝口雅博，坪　敏仁，尾崎浩士，大沢　弘，菅原和信， 藤田祥子，野呂秀紀，工藤正純，金澤佐知子，山﨑賢司， 小澤　浩　計36名
16	高度先進医療に関する専門委員会	◎棟方昭博，奥村　謙，須田俊宏，兼子　直，伊藤悦朗， 福田幾夫，佐々木睦男，藤　　哲，花田勝美，高橋信好， 中澤　満，新川秀一，阿部由直，水沼英樹，石原弘規， 大熊洋揮，棟方博文，木村博人，水島　豊，保嶋　実， 菅原和信，西田　均　計22名
17	栄養管理委員会	◎佐々木睦男，須田俊宏，村田暁彦，工藤大輔，佐々木伸也， 須藤明子，二階千津子，石川千鶴子，工藤順子，山﨑賢司， 小澤　浩，平野聖治　計12名
18	褥瘡対策委員会	◎水沼英樹，松井　淳，村田暁彦，金子高英，四ツ柳高敏， 須藤明子，古川真佐子，塚本利昭，下山葉子，福士涼子， 須藤信子，小澤　浩　計12名
19	防災対策委員会	◎棟方昭博，阿部由直，大熊洋揮，三浦　淳，佐々木伸也， 大黒　浩，嶋村則人，下山律子，須藤明子，村上知子， 堀川万記子，樋口三枝子，鳴海雅子，相馬博子，葛西　猛， 西田　均，椎名幸男，佐藤洋正，山﨑賢司，小澤　浩， 佐山卓男，畠山清孝　計22名
20	医療ガス安全管理委員会	◎棟方昭博，高梨信吾，石原弘規，坂井哲博，青木昌彦， 坪　敏仁，新岡丈典，村上知子，山﨑賢司　計 9名

21	放射線安全委員会	◎阿部由直，工藤亮裕，金　正宜，青木昌彦，藤　　哲，花田勝美，野田　浩，嶋村則人，佐々木大輔，坂井哲博，庄司　優，滝口雅博，坪　敏仁，須藤明子，増田育子，尾崎博一，西田　均　計17名
22	臓器移植検討委員会	◎棟方昭博，伊藤悦朗，大熊洋揮，保嶋　実，佐々木睦男，浅利　靖，福田幾夫，八木橋操六，須藤明子，西田　均　計10名
23	治験管理センター運営委員会	◎水沼英樹，立石智則，大久保正，玉澤直樹，須田俊宏，藤　　哲，保嶋　実，羽田隆吉，菅原和信，須藤明子，山﨑賢司　計11名
24	医薬品等臨床研究審査委員会	◎菅原和信，花田勝美，新川秀一，長内智宏，一関一行，元村　成，立石智則，上原子瑞恵，山﨑賢司，三浦秀春，清水　明，中林裕雄　計12名
25	卒後臨床研修センター運営委員会	◎水沼英樹，加藤博之，大沢　弘，矢部博興，高橋　徹，鳴海俊治，藤井俊策，石原弘規，浅利　靖，佐藤洋正　計10名
26	附属病院衛星医療情報ネットワーク運営委員会	◎佐々木睦男，阿部由直，大熊洋揮，藏田　潔，加藤博之，羽田隆吉，小林朱実，山﨑賢司　計 8名
27	診療環境向上推進委員会	◎水沼英樹，花田勝美，新川秀一，羽田隆吉，須藤明子，畑中　亮，鈴木幸彦，佐藤哲観，坂井哲博，工藤正純，工藤亮裕，齋藤慶子，村上知子，小澤　浩　計14名
28	診療情報提供委員会	◎保嶋　実，阿部由直，羽田隆吉，黒田直人，五十嵐靖彦，安田文子，西田　均，小澤　浩　計 8名
29	広報委員会	◎水沼英樹，花田勝美，木村博人，武田　哲，石井賢治，安田文子，三上聖治，佐藤洋正，小澤　浩　計 9名

【全学の委員会】

	委　員　会　名	委　員　名
1	学長選考会議	兼子　直
2	経営協議会	棟方昭博
3	教育研究評議会	兼子　直，佐藤　敬，佐々木睦男
4	連絡調整会議	兼子　直，棟方昭博
5	総務委員会	水沼英樹，西田　均
6	財務委員会	元村　成，木村博人，山﨑賢司
7	教育・学生委員会	泉井　亮，長尾義昭
8	研究・施設マネジメント委員会	奥村　謙
9	社会連携委員会	高垣　啓一，長尾義昭
10	遺伝子実験施設運営委員会	佐藤　敬
11	総合情報処理センター運営委員会	元村　成，羽田隆吉
12	総合情報処理センター運営委員会ネットワーク技術専門委員会	松谷秀哉
13	生涯学習教育研究センター運営委員会	伊藤悦朗
14	地域共同研究センター運営委員会	高垣啓一
15	留学生センター運営委員会	水沼英樹
16	保健管理センター運営委員会	阿部由直，保嶋　実，水島　豊
17	２１世紀教育センター運営委員会	元村　成，中根明夫
18	アイソトープ総合実験室運営委員会	阿部由直，土田成紀
19	機器分析センター運営委員会	土田成紀
20	附属図書館運営委員会	正村和彦，加地　隆
21	情報公開委員会	黒田直人，羽田隆吉
22	ハラスメント防止等対策委員会	佐藤　敬
23	入学試験委員会	兼子　直，佐藤　敬
24	動物実験委員会	神谷晴夫，花田勝美，八木澤誠
25	組換え DNA 実験安全委員会	土田成紀，中根明夫
26	バイオセーフティ委員会	中根明夫，保嶋　実
27	放射線安全管理委員会	兼子　直，棟方昭博，阿部由直，保嶋　実，工藤亮裕，金　正宜
28	毒劇物管理委員会	若林孝一，菅原和信

29	防災対策委員会	兼子　直，棟方昭博，西田　均，椎名幸男，佐藤洋正， 山﨑賢司，長尾義昭，小澤　浩
30	エネルギー教育推進委員会	阿部由直
31	スペース・コラボレーション・システム運営委員会	藏田　潔，羽田隆吉
32	サテライト運営委員会	花田勝美
33	知的財産審議会	高垣啓一
34	総合文化祭実施委員会	玉澤直樹

【医学部】（2005年４月現在）

	委　員　会　名	委　員　名　及　び　委　員　数　　◎印は委員長
1	医学部教授会	◎兼子　直，正村和彦，加地　隆，泉井　亮，藏田　潔， 高垣啓一，土田成紀，元村　成，八木橋操六，鬼島　宏， 中根明夫，神谷晴夫，中路重之，黒田直人，若林孝一， 佐藤　敬，上野伸哉，棟方昭博，奥村　謙，須田俊宏， 水島　豊，伊藤悦朗，福田幾夫，佐々木睦男，藤　哲， 花田勝美，大山　力，中澤　満，新川秀一，阿部由直， 水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮，澤田幸正，保嶋　実， 立石智則，浅利　靖，木村博人，棟方博文，菅原和信， 羽田隆吉，加藤博之　計42名
2	医学系研究科委員会	◎兼子　直，正村和彦，加地　隆，泉井　亮，藏田　潔， 高垣啓一，土田成紀，元村　成，八木橋操六，鬼島　宏， 中根明夫，神谷晴夫，中路重之，黒田直人，若林孝一， 佐藤　敬，上野伸哉，棟方昭博，奥村　謙，須田俊宏， 水島　豊，伊藤悦朗，福田幾夫，佐々木睦男，藤　哲， 花田勝美，大山　力，中澤　満，新川秀一，阿部由直， 水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮，澤田幸正，保嶋　実， 立石智則，浅利　靖，木村博人，棟方博文，菅原和信， 羽田隆吉，加藤博之　計42名
3	学科間連絡会	◎兼子　直，棟方昭博，佐藤　敬，泉井　亮，佐々木睦男 計　5名
4	専攻会議連絡会	◎兼子　直，若林孝一　計　2名
5	附属動物実験施設運営委員会	◎藏田　潔，加地　隆，八木橋操六，須田俊宏，花田勝美 計　5名
6	附属図書館医学部分館運営委員会	◎正村和彦，加地　隆，中根明夫，木村博人　計　4名
7	医学部環境整備委員会	◎中路重之，中根明夫，藤　哲，棟方博文，瀬谷和彦， 安田　京，中畑年子，中田伸一，石﨑孝志　計　9名
8	医学部倫理委員会	◎泉井　亮，中根明夫，奥村　謙，花田勝美，相澤　寛， 小田桐弘毅，黒田直人，菅原和信，小林朱実　計　9名
9	医学部動物実験倫理委員会	◎藏田　潔，八木澤誠，正村和彦，元村　成，伊藤悦朗， 水沼英樹，森　文秋，工藤　剛　計　8名
10	医学部情報公開検討委員会	◎羽田隆吉，黒田直人，藏田　潔，佐々木睦男　計　4名
11	医学部及び附属病院職員レクリエーション委員会	柿崎育子，渡邉誠二，中村秀雄，渡辺庸介，村田佳子， 須崎勝正，相馬美香子，堀川万記子，石﨑孝志，佐藤洋正 計10名
12	医学部放射線安全管理委員会	◎阿部由直，藏田　潔，土田成紀，福田幾夫，藤　哲， 八木澤誠，石﨑孝志　計　7名
13	本町地区安全衛生委員会	◎棟方昭博，葛西　猛，阿部由直，佐藤洋正，成田博昭， 佐藤知己　計　6名

【医学部医学科】

	委　員　会　名	委員名及び委員数　◎印は委員長
1	医学科会議	◎兼子　直，正村和彦，加地　隆，泉井　亮，藏田　潔， 高垣啓一，土田成紀，元村　成，八木橋操六，鬼島　宏， 中根明夫，神谷晴夫，中路重之，黒田直人，若林孝一， 佐藤　敬，上野伸哉，棟方昭博，奥村　謙，須田俊宏， 水島　豊，伊藤悦朗，福田幾夫，佐々木睦男，藤　哲， 花田勝美，大山　力，中澤　満，新川秀一，阿部由直， 水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮，澤田幸正，保嶋　実， 立石智則，浅利　靖，木村博人，棟方博文，菅原和信， 羽田隆吉，加藤博之　計42名
2	医科学専攻会議	◎兼子　直，正村和彦，加地　隆，泉井　亮，藏田　潔， 高垣啓一，土田成紀，元村　成，八木橋操六，鬼島　宏， 中根明夫，神谷晴夫，中路重之，黒田直人，若林孝一， 佐藤　敬，上野伸哉，棟方昭博，奥村　謙，須田俊宏， 水島　豊，伊藤悦朗，福田幾夫，佐々木睦男，藤　哲， 花田勝美，大山　力，中澤　満，新川秀一，阿部由直， 水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮，澤田幸正，保嶋　実， 立石智則，浅利　靖，木村博人，棟方博文，菅原和信， 羽田隆吉，加藤博之　計42名
3	医学科運営会議	◎兼子　直，泉井　亮，佐藤　敬，若林孝一，佐々木睦男， 水沼英樹，元村　成，奥村　謙，高垣啓一，石﨑孝志 計10名
4	医学科将来計画委員会	◎兼子　直，泉井　亮，水沼英樹，元村　成，奥村　謙， 高垣啓一，古川賢一，中野　創　計 8名
5	医学科予算委員会	◎兼子　直，泉井　亮，元村　成，中根明夫，木村博人 計 5名
6	医学科人事委員会	◎兼子　直，棟方昭博，泉井　亮，水沼英樹，正村和彦， 佐々木睦男　計 6名
7	医学科施設整備委員会	◎兼子　直，泉井　亮，佐々木睦男，黒田直人，藤　哲， 奥村　謙，石﨑孝志　計 7名
8	医学教育検討委員会	◎兼子　直，泉井　亮，若林孝一，佐藤　敬，中根明夫， 元村　成，須田俊宏，木村博人　計 8名
9	附属脳神経血管病態研究施設協議会	◎兼子　直，佐藤　敬，棟方昭博，若林孝一，上野伸哉， 正村和彦，藏田　潔，奥村　謙，伊藤悦朗　計 9名
10	医学科学務委員会	◎泉井　亮，土田成紀，中根明夫，新川秀一，福田幾夫， 花田勝美　計 6名
11	医学科入試専門委員会	◎佐藤　敬，兼子　直，泉井　亮，花田勝美，八木橋操六， 高垣啓一，水沼英樹，中澤　満　計 8名
12	医科学専攻学事委員会	◎若林孝一，高垣啓一，中路重之，伊藤悦朗，水沼英樹 計 5名
13	医学科研究推進委員会	◎兼子　直，佐々木睦男，若林孝一，土田成紀，佐藤　敬， 花田勝美，中澤　満　計 7名
14	医学科・附属病院自己評価委員会	◎中澤　満，中根明夫，元村　成，花田勝美，藏田　潔， 伊藤悦朗，今　淳，古川賢一，福田眞作，岡田元宏， 坂井哲博，鎌田義正，西田　均　計13名
15	医学科広報委員会	◎高垣啓一，正村和彦，黒田直人，花田勝美，中澤　満， 藤　哲　計 6名
16	医学科地域医療対策委員会	◎新川秀一，兼子　直，棟方昭博，高垣啓一，土田成紀， 伊藤悦朗，奥村　謙，佐々木睦男　計 8名
17	医学科ネットワーク管理委員会	上野伸哉，阿部由直，羽田隆吉，長内理大，胡　東良， 横山　徹，石井賢治，八木澤誠，松谷秀哉　計 9名
18	医学科国際交流研究委員会	◎若林孝一，藏田　潔，高垣啓一，水沼英樹，伊藤悦朗， 藤　哲　計 6名
19	医学科図書委員会	◎正村和彦，羽田隆吉，加地　隆，中根明夫，木村博人， 中澤　満，石田邦夫，福井淳史　計 8名
20	病理解剖運営委員会	八木橋操六，佐々木睦男，水上浩哉，和田龍一，楠美智巳， 柴田　滋，小林　恒，樋口　毅，岡崎耕衛　計 9名
21	青森医学振興会医学科実務委員会	◎兼子　直，棟方昭博，泉井　亮，高垣啓一，新川秀一 計 5名

22	教授団幹事	藤　哲
23	弘前医学会幹事会	◎兼子　直，須田俊宏，元村　成，中澤　満　計 4名
24	弘前医学編集委員会	◎中澤　満，高垣啓一，黒田直人，若林孝一，正村和彦，八木橋操六，須田俊宏，伊藤悦朗，立石智則，大山　力　計10名

【附属病院】

	委　員　会　名	委員名及び委員数　◎印は委員長
1	病院科長会	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，水沼英樹，保嶋　実，砂田弘子，奥村　謙，須田俊宏，兼子　直，伊藤悦朗，藤　哲，花田勝美，大山　力，中澤　満，新川秀一，阿部由直，廣田和美，大熊洋揮，横井克憲，棟方博文，木村博人，浅利　靖，八木橋操六，羽田隆吉，加藤博之，菅原和信，水島　豊，立石智則，西田　均　計29名
2	病院運営会議	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，水沼英樹，保嶋　実，砂田弘子，西田　均　計 7名
3	病院将来計画委員会	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，水沼英樹，保嶋　実，砂田弘子，奥村　謙，新川秀一，浅利　靖，加藤博之，菅原和信，羽田隆吉，西田　均　計13名
4	病院予算委員会	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，須田俊宏，藤　哲，菅原和信，砂田弘子，西田　均　計 8名
5	病院人事委員会	◎棟方昭博，佐々木睦男，水沼英樹，須田俊宏，中澤　満，阿部由直，砂田弘子，西田　均　計 8名
6	経営戦略会議	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，水沼英樹，保嶋　実，砂田弘子，羽田隆吉，西田　均，古川文男，相澤　中，大野清隆，藤村　徹，奈良秀八州，木村博人　計14名
7	医療材料委員会	◎佐々木睦男，福田幾夫，奥村　謙，高橋　徹，小野修一，大黒　浩，石橋恭之，坂井哲博，坪　敏仁，中嶋裕子　計10名
8	医療情報システム委員会	◎羽田隆吉，中澤　満，阿部由直，菅原和信，加藤博之，伊東重豪，丹藤雄介，武田　哲，川崎仁司，横山　徹，福井淳史，佐藤　寿，小林朱実，小澤　浩　計14名
9	臨床検査外注検討委員会	◎保嶋　実，庄司　優，鎌田義正，木村あさの，須田俊宏，中澤　満，藤本幸士，武田仁志，安田　京，葛西　猛，成田博昭　計11名
10	クリティカルパス委員会	◎福田幾夫，坂本十一，横山　仁，松井　淳，栗林理人，佐藤　工，鈴木保之，村田暁彦，油川修一，松崎康司，米山高弘，山崎仁志，南場淳司，近藤英宏，福井淳史，佐藤哲観，嶋村則人，漆舘聡志，須貝道博，佐藤　寿，木村博人，玉澤直樹，袴田健一，小林朱実，小澤　浩　計25名
11	業務連絡会	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田眞作，長内智宏，玉澤直樹，矢部博興，高橋　徹，對馬敬夫，吉原秀一，中野　創，大和　隆，大黒　浩，松原　篤，小野修一，藤井俊策，石原弘規，浅野研一郎，漆舘聡志，須貝道博，小林　恒，坂井哲博，庄司　優，青木昌彦，西川真史，新井正康，近藤和泉，木村あさの，坪　敏仁，尾崎浩士，鎌田義正，佐々木賀広，大沢　弘，大久保正，伊東重豪，楠美昭則，藤田祥子，安部よし子，葛西　猛，工藤亮裕，西田　均，佐藤洋正，成田博昭，小澤　浩，古川文男　計44名
12	感染対策委員会	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，水沼英樹，保嶋　実，砂田弘子，菅原和信，西田　均，玉澤直樹，山本葉子　計10名
13	感染制御センター会議	◎保嶋　実，玉澤直樹，坂本十一，高梨信吾，差波拓志，朝日茂樹，山本葉子，井上文緒，宇野　司，須藤信子，小澤　浩，庄司　優，坂井哲博，安田文子，福沢百合子　計15名
14	リスクマネジメント対策委員会	◎棟方昭博，佐々木睦男，福田幾夫，水沼英樹，保嶋　実，砂田弘子，西田　均，二階千津子，三上雅通　計 9名

15	輸血療法委員会	◎佐々木睦男，保嶋　実，福田幾夫，水沼英樹，伊藤悦朗，藤　　哲，玉井佳子，中村吉秀，木村あさの，田中一人，小澤　浩　計11名
16	薬事委員会	◎佐々木睦男，須田俊宏，藤　　哲，玉井佳子，花田裕之，小川吉司，岡田元宏，高橋　徹，山田芳嗣，柴田　滋，西川真史，武田仁志，古家琢也，大黒幾代，石井賢治，小野修一，二神真行，北山眞任，浅野研一郎，漆舘聡志，須貝道博，小林　恒，浦田幸朋，庄司　優，坂井哲博，青木昌彦，新井正康，坪　敏仁，尾崎浩士，大沢　弘，菅原和信，藤田祥子，佐藤淳也，野呂秀紀，福士涼子，成田博昭，小澤　浩　計37名
17	高度先進医療に関する専門委員会	◎棟方昭博，奥村　謙，須田俊宏，兼子　直，伊藤悦朗，福田幾夫，佐々木睦男，藤　　哲，花田勝美，大山　力，中澤　満，新川秀一，阿部由直，水沼英樹，廣田和美，大熊洋揮，横井克憲，棟方博文，木村博人，水島　豊，保嶋　実，菅原和信，西田　均　計23名
18	栄養管理委員会	◎佐々木睦男，須田俊宏，村田暁彦，丹藤雄介，佐々木伸也，砂田弘子，石川千鶴子，松田和子，堀内悦子，成田博昭，小澤　浩，平野聖治　計12名
19	褥瘡対策委員会	◎水沼英樹，松井　淳，村田暁彦，金子高英，横井克憲，砂田弘子，古川真佐子，塚本利昭，下山葉子，福士涼子，須藤信子，小澤　浩　計12名
20	防災対策委員会	◎棟方昭博，阿部由直，大熊洋揮，工藤　剛，佐々木伸也，大黒　浩，大畑　崇，下山律子，砂田弘子，安部よし子，堀川万記子，樋口三枝子，相馬博子，相馬美香子，葛西　猛，西田　均，佐藤洋正，成田博昭，小澤　浩，古川文男，佐山卓男，畠山清孝　計22名
21	医療ガス安全管理委員会	◎廣田和美，高梨信吾，石原弘規，坂井哲博，青木昌彦，坪　敏仁，新岡丈典，安部よし子，成田博昭　計 9名
22	放射線安全委員会	◎工藤亮裕，金　正宜，阿部由直，青木昌彦，藤　　哲，花田勝美，大和　隆，中野高広，佐々木大輔，坂井哲博，庄司　優，新井正康，坪　敏仁，砂田弘子，相馬博子，尾崎博一，西田　均　計17名
23	臓器移植検討委員会	◎棟方昭博，伊藤悦朗，大熊洋揮，保嶋　実，佐々木睦男，浅利　靖，福田幾夫，廣田和美，八木橋操六，砂田弘子，西田　均　計11名
24	治験管理センター運営委員会	◎水沼英樹，立石智則，大久保正，玉澤直樹，須田俊宏，藤　　哲，保嶋　実，羽田隆吉，菅原和信，砂田弘子，成田博昭　計11名
25	医薬品等臨床研究審査委員会	◎菅原和信，花田勝美，新川秀一，長内智宏，皆川正仁，元村　成，立石智則，上原子瑞恵，成田博昭，三浦秀春，清水　明，中林裕雄　計12名
26	卒後臨床研修センター運営委員会	◎水沼英樹，加藤博之，大沢　弘，矢部博興，高橋　徹，鳴海俊治，藤井俊策，石原弘規，浅利　靖，佐藤洋正　計10名
27	附属病院衛星医療情報ネットワーク運営委員会	◎佐々木睦男，阿部由直，大熊洋揮，藏田　潔，加藤博之，羽田隆吉，小林朱実，成田博昭　計 8名
28	診療環境向上推進委員会	◎水沼英樹，花田勝美，新川秀一，羽田隆吉，砂田弘子，丹藤雄介，鈴木幸彦，佐藤哲観，坂井哲博，工藤正純，工藤亮裕，齋藤慶子，安田文子，小澤　浩　計14名
29	診療情報提供委員会	◎保嶋　実，阿部由直，羽田隆吉，黒田直人，五十嵐靖彦，小田桐達，安田文子，西田　均，小澤　浩　計 9名
30	広報委員会	◎水沼英樹，花田勝美，木村博人，武田　哲，石井賢治，安田文子，坂井哲博，佐藤洋正，小澤　浩　計 9名

【全学の委員会】

	委　員　会　名	委　員　名
1	学長選考会議	兼子　直
2	経営協議会	棟方昭博
3	教育研究評議会	兼子　直，佐藤　敬，佐々木睦男

4	連絡調整会議	兼子　直，棟方昭博，西田　均
5	総務委員会	水沼英樹，西田　均
6	財務委員会	元村　成，木村博人，成田博昭
7	教育・学生委員会	泉井　亮，石﨑孝志
8	研究・施設マネジメント委員会	奥村　謙
9	社会連携委員会	高垣　啓一，佐藤洋正
10	遺伝子実験施設運営委員会	佐藤　敬
11	総合情報処理センター運営委員会	元村　成，羽田隆吉
12	総合情報処理センター運営委員会ネットワーク技術専門委員会	松谷秀哉
13	生涯学習教育研究センター運営委員会	伊藤悦朗
14	地域共同研究センター運営委員会	高垣啓一
15	留学生センター運営委員会	水沼英樹
16	保健管理センター運営委員会	阿部由直，保嶋　実，水島　豊
17	21世紀教育センター運営委員会	立石智則，中根明夫
18	アイソトープ総合実験室運営委員会	阿部由直，土田成紀
19	機器分析センター運営委員会	土田成紀
20	附属図書館運営委員会	正村和彦，加地　隆
21	情報公開・個人情報保護委員会	黒田直人，羽田隆吉
22	ハラスメント防止等対策委員会	佐藤　敬
23	入学試験委員会	兼子　直，佐藤　敬
24	動物実験委員会	神谷晴夫，花田勝美，八木澤誠
25	組換えDNA実験安全委員会	土田成紀，中根明夫
26	バイオセーフティ委員会	中根明夫，保嶋　実
27	放射線安全管理委員会	兼子　直，棟方昭博，阿部由直，保嶋　実，工藤亮裕，金　正宜
28	エネルギー教育推進委員会	阿部由直
29	スペース・コラボレーション・システム事業実施運営委員会	藏田　潔，羽田隆吉
30	サテライト運営委員会	花田勝美
31	知的財産審議会	高垣啓一
32	総合文化祭実施委員会	泉井　亮，玉澤直樹，石﨑孝志
33	化学物質等管理専門委員会	早狩　誠
34	出版会運営委員会	神谷晴夫
35	出版会編集委員会	中根明夫

Ⅱ．医学部医学科及び附属病院役付職員一覧

【医学部医学科】（2004年４月現在）

医学部長・医学科長	兼子　直
副学部長（医学科）	泉井　亮
評議員	佐藤　敬
附属動物実験施設長	藏田　潔
附属脳神経血管病態研究施設長	佐藤　敬
附属図書館医学部分館長	正村和彦

【附属病院】

附属病院長	棟方昭博
副病院長	佐々木睦男
病院長補佐	福田幾夫
病院長補佐	水沼英樹

病院長補佐	保嶋　実
病院長補佐	須藤明子

【医学部医学科】（2005年４月現在）

医学部長・医学科長	兼子　直
副学部長（医学科）	泉井　亮
評議員	佐藤　敬
附属動物実験施設長	藏田　潔
附属脳神経血管病態研究施設長	佐藤　敬
附属図書館医学部分館長	正村和彦

【附属病院】

附属病院長	棟方昭博
副病院長	佐々木睦男
病院長補佐	福田幾夫
病院長補佐	水沼英樹
病院長補佐	保嶋　実
病院長補佐	砂田弘子

Ⅲ．学友会所属サークル一覧（体育系及び文化系）　（2004年４月現在）

整理番号	サークル名	部員数	顧問教員	
			所属講座等	氏名
1	陸上競技部	14	神経統御部門	馬場正之
2	準硬式野球部	21	整形外科学	藤哲
3	硬式庭球部（男子）	28	生理学第二	藏田潔
4	硬式庭球部（女子）	22	生理学第二	藏田潔
5	ソフトテニス部	41	内科学第三	須田俊宏
6	水泳部	16	放射線医学	阿部由直
7	サッカー部	37	薬理学	元村成
8	ラグビー部	37	脳血管病態部門	佐藤敬
9	バレーボール部（男子）	15	外科学第一	福田幾夫
10	バレーボール部（女子）	26	外科学第一	福田幾夫
11	バスケットボール部（男子）	30	内科学第一	棟方昭博
12	バスケットボール部（女子）	22	内科学第一	棟方昭博
13	バドミントン部	43	皮膚科学	花田勝美
14	卓球部	24	小児外科	棟方博文
15	剣道部	18	公衆衛生学	朝日茂樹
16	柔道部	7	整形外科学	藤哲
17	競技スキー部	23	解剖学第二	加地隆
18	ゴルフ部	50	内科学第二	奥村謙
19	弓道部	22	歯科口腔外科学	木村博人
20	空手道部	19	薬理学	元村成
21	山岳部	7	病理学第一	八木橋操六

整理番号	サークル名	部員数	顧問教員	
			所属講座等	氏名
1	写真部	39	生理学第二	藏田潔
2	茶道部	14	生化学第二	土田成紀
3	ボランティア部（コスモス）	32	細菌学	中根明夫
4	漢方医学研究会	25	老年科学	水島豊
5	国際医療研究会	26	老年科学	水島豊
6	管弦楽団	31	耳鼻咽喉科学	新川秀一
7	Medical Cool Quartet	40	整形外科学	藤哲
8	グリーンキャンパスクラブ	9	細菌学	中根明夫

（2005年４月現在）

整理番号	サークル名	部員数	顧問教員	
			所属講座等	氏名
1	陸上競技部	14	神経統御部門	馬場正之
2	準硬式野球部	31	整形外科学	藤哲
3	硬式庭球部（男子）	27	生理学第二	藏田潔
4	硬式庭球部（女子）	19	生理学第二	藏田潔
5	ソフトテニス部	46	内科学第三	須田俊宏
6	水泳部	17	放射線医学	阿部由直
7	サッカー部	41	薬理学	元村成
8	ラグビー部	33	脳血管病態部門	佐藤敬
9	バレーボール部（男子）	20	外科学第一	福田幾夫
10	バレーボール部（女子）	29	外科学第一	福田幾夫
11	バスケットボール部（男子）	30	内科学第一	棟方昭博
12	バスケットボール部（女子）	21	内科学第一	棟方昭博
13	バドミントン部	43	分子病態部門	若林孝一
14	卓球部	30	小児外科	棟方博文
15	剣道部	18	産科婦人科学	水沼英樹
16	柔道部	6	整形外科学	藤哲
17	競技スキー部	22	解剖学第二	加地隆
18	ゴルフ部	52	内科学第二	奥村謙
19	弓道部	15	歯科口腔外科学	木村博人
20	空手道部	25	薬理学	元村成
21	山岳部	7	病理学第一	八木橋操六

整理番号	サークル名	部員数	顧問教員	
			所属講座等	氏名
1	写真部	36	生理学第二	藏田潔
2	茶道部	17	細菌学	中根明夫
3	ボランティア部（コスモス）	63	細菌学	中根明夫
4	漢方医学研究会	22	老年科学	水島豊
5	国際医療研究会	28	老年科学	水島豊
6	管弦楽団	29	耳鼻咽喉科学	新川秀一
7	Medical Cool Quartet	40	整形外科学	藤哲
8	グリーンキャンパスクラブ	11	細菌学	中根明夫
9	社会医学研究会（ほっと）	6	社会医学	中路重之

Ⅳ．教員現員並びに諸会議・会合等について

1．解剖学第一講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	3	0	0	1	0	0	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	3	0	1	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①教室員全員で毎日昼食時・後に教育・研究その他の連絡・検討を行っている。

2005年度

主な会議及び会合名：
①木曜日に教室連絡会
②昼食時連絡会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
Medical English Center の管理運営を行っている。
基礎研究棟の電子顕微鏡室の管理運営を行っている。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
Medical English Center の運営を行っている。
医学部電子顕微鏡室の運営管理を行っている。

2．解剖学第二講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	0	2	0	補佐官1

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	0	2	0	補佐官1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①解剖学第２講座定期連絡会
②食事会
③研究発表会または抄読会

2005年度

主な会議及び会合名：
①解剖学第２講座定期連絡会
②食事会
③研究発表会または抄読会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
遺体収集・管理
篤志献体団体「白菊会」の事務局

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
遺体収集・管理
篤志献体団体「白菊会」の事務局

３．生理学第一講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）

（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	1	0	0	0	1

（平成17年４月１日現在）

（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	1	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
昼食会（講座運営についての協議を含む）

2005年度

主な会議及び会合名：
なし

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

4．生理学第二講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	1	0	0	0	1

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①講座運営会議（運営・教育・研究などすべてを議題とする）

2005年度

主な会議及び会合名：
①講座運営会議（運営・教育・研究などすべてを議題とする）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
特になし

5．生化学第一講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	1	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	3	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①セミナー
②抄読会
③生化学第一講座運営委員会（月1回）

2005年度

主な会議及び会合名：
①セミナー
②抄読会
③生化学第一講座運営委員会（月1回）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
特になし

6．生化学第二講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	5	1	1	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	4	1	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①実験セミナー
②生化学第二運営協議会

2005年度

主な会議及び会合名：
①実験セミナー
②生化学第二運営協議会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
特になし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
特になし

7．薬理学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	4	1	1	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	4	1	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①週１回スタッフミーテイング，週１回全体抄読会，週１回グループ抄読会

②２ヶ月一回リサーチミーテイング

③新年会，忘年会，同門会，医局旅行，講義・実習打ち上げ等

2005年度

主な会議及び会合名：

①週１回スタッフミーテイング，週１回全体抄読会，週１回グループ抄読会

②２ヶ月一回リサーチミーテイング

③新年会，忘年会，同門会，医局旅行，講義・実習打ち上げ等

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

８．病理学第一講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	1	1	1	2	2	0	1

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	1	1	1	2	0	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①教室懇談会　月1回

②教室勉強会　毎週1回

③教室旅行，教室花見，芋煮会，納涼会，忘年会など，それぞれ年1回

2005年度

主な会議及び会合名：

①教室懇談会　月1回

②教室勉強会　毎週1回

③教室旅行，教室花見，芋煮会，納涼会，忘年会など，それぞれ年1回

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

9．病理学第二講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	2	0	3	1	1

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	2	0	3	1	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①教室連絡会議
②研究セミナー後のミーティング
③症例討議会のミーティング

2005年度

主な会議及び会合名：
①教室連絡会議
②研究セミナー後のミーティング
③症例討議会のミーティング

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
教室連絡会議には教官・大学院生のみならず，技師・補助員および事務員の意見も反映される。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
教室連絡会議には教官・大学院生のみならず，技師・補助員および事務員の意見も反映される。

10．細菌学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	2	0	3	0	0	0	1

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	2	0	3	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①細菌学講座運営会議

2005年度

主な会議及び会合名：
①細菌学講座運営会議

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

11. 衛生学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	1	0	7	5	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
なし

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

12. 公衆衛生学講座

資料無し

13. 社会医学講座

【教員定員数等】（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	5	8	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2005年度

主な会議及び会合名：
①教室会議（月２回）

【その他】

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

14. 寄生虫学講座

【教員定員数等】（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	0	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2005年度

主な会議及び会合名：
①スタッフミーティング（週1回）

【その他】

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
とくになし

15. 法医学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
なし

2005年度

主な会議及び会合名：
なし

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
構成員の意思疎通を図るのに，会議・会合を要するほどの人数ではないので，個別に話し合い，最終的に全員が了解出来るよう配慮している。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
教室員が２名しかいないので，会議はない。当該２名が常に対話を絶やさず，仕事の分担，連絡の徹底，問題の解決などに心掛けている。

16. 内科学第一講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	3	5	5	12	9	0	0	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	3	5	6	16	9	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①講座運営委員会
②抄読会

2005年度

主な会議及び会合名：
①講座運営委員会
②抄読会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
教室員とのコミュニケーションを大切にし，各自の意見・希望ができるだけ達成できるように努力している。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
教室員とのコミュニケーションを大切にし，各自の意見・希望ができるだけ達成できるように努力している。

17. 内科学第二講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	3	4	3	17	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	2	6	5	21	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①弘前大学医学部第二内科教室会

2005年度

主な会議及び会合名：
①弘前大学医学部第二内科教室会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

週１の割合で上記教室会議を開いている

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

週１の割合で上記教室会議を開いている

18. 内科学第三講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	6	19	7	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	4	4	7	7	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①教室運営会議（年２回）
②スタッフミーティング（月１回）
③病棟連絡会議（月１回）

2005年度

主な会議及び会合名：

①教室運営会議（年２回）
②スタッフミーティング（月１回）
③病棟連絡会議（月１回）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

19. 老年科学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	1	0	1	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	1	0	0	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①老年科学講座運営会

2005年度

主な会議及び会合名：
①教室運営会議

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

20. 神経・精神医学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	5	1	3	11	0	16	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	2	3	9	0	16	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①定期講座運営会議
②卒後研修委員会
③人事会議

2005年度

主な会議及び会合名：
①定期講座運営会議
②卒後研修委員会
③人事会議

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
1．卒後研修システム：
卒後１年目～５年目までの研修生を対象に，研修病院群を含むシステムを作り，研修委員会規約を設定し，それに従い運営している。各研修病院へ可能研修内容を問い合わせ，それを研修医に呈示し，それを参考に，研修医が自ら研修先を決めている。
2．定期講座運営会議：
月１回，講座全体の問題を全員で決定している。学内・学部内情報もこの時にすべての構成員に伝えている。

３．人事会議：
卒後６年目以降の人事は，当事者・教室マネージャー・助教授・教授で討議し，本人の了解を得た上で決定している。
４．病棟 Conference：
治療方針・連絡等，月１回 Co-medical staff と意志の疎通を高めるため定期的に討議している。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
１．卒後研修システム：
卒後１年目～５年目までの研修生を対象に，研修病院群を含むシステムを作り，研修委員会規約を設定し，それに従い運営している。各研修病院へ可能研修内容を問い合わせ，それを研修医に呈示し，それを参考に，研修医が自ら研修先を決めている。
２．定期講座運営会議：
月１回，講座全体の問題を全員で決定している。学内・学部内情報もこの時にすべての構成員に伝えている。
３．人事会議：
卒後６年目以降の人事は，当事者・教室マネージャー・助教授・教授で討議し，本人の了解を得た上で決定している。
４．病棟 Conference：
治療方針・連絡等，月１回 Co-medical staff と意志の疎通を高めるため定期的に討議している。

21．小児科学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	5	4	2	1	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	3	7	3	3	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①小児科学講座講座運営会議
②病棟カンファランス
③小児科人事委員会

2005年度

主な会議及び会合名：
①小児科学講座講座運営会議
②病棟カンファランス
③小児科人事委員会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

22. 外科学第一講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	3	6	4	3	0	0	20	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	3	6	3	1	2	0	2	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①講座運営会議
②術前術後カンファレンス

2005年度

主な会議及び会合名：
①講座会議
②術前術後カンファランス
③講座運営会議

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
医療事故防止のため，診療科内での安全点検を定期的に行っている（6ヶ月ごと）。
弘前大学医学部附属病院第一外科治療ガイドライン集を作成し，定期的に更新している。
クリティカルパスの開発を行うとともに，定期的に見直して診療の効率化を図っている。
厚生労働省創部感染サーベイランス事業に参加し，データ収集に協力している。
日本胸部外科学会心臓手術データ集収事業に参加し，データ収集に協力している

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
毎年２回，定期的に医療安全チェックを行っている。

23. 外科学第二講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	3	7	6	6	5	0	0	1

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	3	6	6	6	1	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①講座運営会議（毎月１回）
②医員連絡会議（毎週月曜日）
③卒後研修委員会（年４回：3カ月毎）

2005年度

主な会議及び会合名：
①講座運営会議（毎月１回）
②医員連絡会議（毎週月曜日）
③卒後研修委員会（年４回：3カ月毎）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

24. 整形外科学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	8	9	19	1	0	2

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	5	8	7	13	1	0	3

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①教室運営会議
②スタッフ会議
③月例研究会
④弘前大学整形外科勤務医会
⑤弘前大学整形外科研修医会

2005年度

主な会議及び会合名：
①教室運営会議
②スタッフ会議
③月例研究会
④弘前大学整形外科勤務医会
⑤弘前大学整形外科研修医会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
１．２週に一度の教室運営会議にて，管理・運営面に関する諸問題を検討している。
２．スタッフ会議を週３回持ち，連絡の徹底・意思の疎通を計り，できるだけ風通しのいい教室管理・運営に努めている。
３．弘前大学整形外科勤務医会を立ち挙げ，主として７年目までの研修医の教育方針の決定ならびに実施，研究会などの企画，人事異動などを検討している。
４．若手研修医は研修医会を作り，研修希望内容などを検討し，大学スタッフに要望するなど，活発な活動をしている。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1．２週に一度の教室運営会議にて，管理・運営面に関する諸問題を検討している。
2．スタッフ会議を週３回持ち，連絡の徹底・意思の疎通を計り，できるだけ風通しのいい教室管理・運営に努めている。
3．弘前大学整形外科勤務医会を立ち挙げ，主として７年目までの研修医の教育方針の決定ならびに実施，研究会などの企画，人事異動などを検討している。
4．若手研修医は研修医会を作り，研修希望内容などを検討し，大学スタッフに要望するなど，活発な活動をしている。

25. 皮膚科学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	4	4	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	5	9	7	0	2	0	2

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①第１皮膚科学講座運営会議（教授，助教授，講師，助手，医員（研修医），大学院生）
②第２皮膚科学講座運営会議（第１皮膚科学講座運営会議から教授を除く）
③皮膚科代表者会議（教授，助教授，講師，講座幹事長）

2005年度

主な会議及び会合名：

①第１皮膚科学講座運営会議（教授，助教授，講師，助手，医員（研修医），大学院生）
②第２皮膚科学講座運営会議（第１皮膚科学講座運営会議から教授を除く）
③皮膚科代表者会議（教授，助教授，講師，講座幹事長）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

その他講座内・外からの意見，希望に関して，E-mail での連絡も勧めている。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

その他講座内・外からの意見，希望に関して，E-mail での連絡も勧めている。

26. 泌尿器科学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	1	5	0	1	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	2	7	2	3	1	0	0	2

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①手術検討会
②講座連絡会

2005年度

主な会議及び会合名：
①講座連絡会
②手術検討会
③病理検討会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

27. 眼科学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	4	6	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	4	5	0	3	不明	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①医局会
②抄読会
③術前症例検討会

2005年度

主な会議及び会合名：
①教室会
②抄読会
③スタッフ会議

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

28. 耳鼻咽喉科学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	5	7	3	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	0	4	4	4	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①講座連絡会議
②研究発表会
③術後症例検討会

2005年度

主な会議及び会合名：
①講座連絡会議
②研究発表会
③術後症例検討会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
特になし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
特になし

29. 放射線医学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	2	4	2	0	1	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	3	3	2	2	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①講座運営会議
②各種カンファランス

2005年度

主な会議及び会合名：
① 術前・術後カンファランス
② 講座運営会議 （毎週）
③ 抄読会（隔週）
④ 同窓会，忘年会，花見など（年1回）
放射線治療連絡会議（毎週）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
各科カンファランス（呼吸器など）

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
各科カンファランス（呼吸器，肝胆膵，耳鼻科など）

30. 産科婦人科学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	1	3	1	1	0	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	1	6	0	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①月曜会 （術前術後検討会，諸連絡／協議事項）
②婦人科カンファランス

2005年度

主な会議及び会合名：
①月曜会（術前，術後検討会，事務連絡，協議事項）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

31. 麻酔学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	5	11	1	1	0	0	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	5	12	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①教室連絡会（毎週月曜日）
②スタッフミーティング（２ヵ月に１回）
③抄読会（この会議においても，連絡事項を話している）

2005年度

主な会議及び会合名：
①教室連絡会（毎週月曜日）
②スタッフミーティング（２ヶ月に１回）
③抄読会（この会議においても，連絡事項を話している）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
１．必要に応じて毎日密接に連絡を取っている。
２．トラブルが生じたら，即刻，対処するようにしている。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
１．必要に応じて毎日密接に連絡を取っている。
２．トラブルが生じたら，即刻，対処するようにしている。

32. 脳神経外科学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	2	3	0	1	0	0	0	3

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	3	1	0	0	0	0	0	3

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①講座会議

②術前症例検討会

③術後症例・病理検討会

2005年度

主な会議及び会合名：

①講座会議

②術前症例検討会

③術後症例，病理検討会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

33. 歯科口腔外科学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	4	9	2	0	1	1	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	5	5	2	0	1	1	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①講座運営会議

②拡大講座運営会議

③抄読会

2005年度

主な会議及び会合名：

①講座運営会議

②拡大講座運営会議

③抄読会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教育，診療，研究，人事などの諸案件に関して，教室員との双方向的伝達を良好なものにするため，平成12年４月より，教授，助教授，講師，助手による教官連絡会議を月１回開催することとした。しかし，教室員全員への連絡・協議事項が多く，意思疎通が図れないため，平成14年１月にこれを廃止し，教室連絡会議（旧医局会）を月２回開催している。平成15年２月からは名称を講座運営会議とし現在に至っている。

また，外来，病棟の診療スタッフ等との意思疎通を図るため，奇数月１回拡大会議を開催している。

管理・運営面での主たる案件は，医療事故防止の徹底，診療収支の改善，学生教育の自己点検，関連病院への医師派遣などである。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教育，診療，研究，人事などの諸案件に関して，教室員との双方向的伝達を良好なものにするため，平成12年４月より，教授，助教授，講師，助手による教官連絡会議を月１回開催することとした。しかし，教室員全員への連絡・協議事項が多く，意思疎通が図れないため，平成14年１月にこれを廃止し，教室連絡会議（旧医局会）を月２回開催している。平成15年２月からは名称を講座運営会議とし現在に至っている。

また，外来，病棟の診療スタッフ等との意思疎通を図るため，奇数月１回拡大会議を開催している。

管理・運営面での主たる案件は，医療事故防止の徹底，診療収支の改善，学生教育の自己点検，関連病院への医師派遣などである。

34. 形成外科学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	1	3	2	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	1	3	2	0	0	0	1	2

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①講座運営会議

②症例検討会

2005年度

主な会議及び会合名：

①講座運営会議

②症例検討会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

特になし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

35. 救急・災害医学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	1	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①平日朝8時30分よりモーニングカンファレンス
②平日夕方5時よりイブニングカンファレンス
③火曜日17時より症例検討会

2005年度

主な会議及び会合名：
①平日朝8：30よりモーニングカンファレンス
②平日17時よりイブニングカンファレンス
③月曜日17時より症例検討会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

36. 臨床検査医学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	1	1	0	0	1

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	1	1	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①検査教官会議（週一回）

②検査勉強会（週一回）

③検査抄読会（週一回）

2005年度

主な会議及び会合名：

①検査教官会議（週一回）

②検査勉強会（週一回）

③検査抄読会（週一回）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

弘前臨床検査勉強会を月一回講師を呼んで開催している。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

弘前臨床検査勉強会を月一回講師を呼んで開催している。

37. 臨床薬理学講座

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	2	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

なし

2005年度

主な会議及び会合名：

なし

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

38. 分子病態部門

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	1	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	1	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
Neuropathological conference

2005年度

主な会議及び会合名：
Neuropathological conference

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

39. 脳血管病態部門

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	5	1	0	0	1

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	1	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①脳血管病態部門会議
②脳研運営会議
③脳研メンバー会議

2005年度

主な会議及び会合名：
①脳血管病態部門会議
②脳研運営会議

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
脳研セミナーを定期開催し，研究情報の交換を行うとともに，脳研構成員全員の意思疎通を図っている。

40. 機能回復部門

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	1	0	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	1	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
なし

2005年度

主な会議及び会合名：
①部門ミーティング

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
基礎研究部門としての環境整備，スタッフ，機器，研究費の獲得に努めていた。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

41. 神経統御部門

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	2	2	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
(1)	1	1	1 (1)	3	0	1	1	0	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①教室会議
②ケースカンファレンス
③ジャーナルクラブ

2005年度

主な会議及び会合名：
①教室会議
②病棟，外来回診
③研究会議

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
長らく教授不在であった神経統御部門は平成18年1月1日に東海林が新任教授として赴任し，附属病院神経内科は平成17年6月に診療を開始し，平成18年1月1日に東海林が同時に診療科長を拝命して，診療，研究，教育の環境が新たに整備された。短い期間であるが，診療，研究，教育ともに高い業績を上げることができた．発足間もない部門として，短い期間に多くの業績を成し遂げ，自己評価としては5段階評価とするとを最も高い５と評価したい。
今後2年間は，設定した目標を遂行し，さらなる発展を成し遂げたい。

42. 細胞工学部門

客員部門のため資料なし

43. 附属動物実験施設

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）

（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1（兼）	1	0	1	0	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）

（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1（兼）	1	0	1	0	0	0	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①ミーティング

2005年度

主な会議及び会合名：
①月曜ミーティング
②職員勉強会（随時）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

動物実験施設管理・運営に関わる業務内容

1．施設管理業務

1）設備に関する業務

電気，給・排気，給・排水設備，空調機（フィルター交換を含む），オートクレーブを含む圧力容器の点検，個液分離機，焼却炉などの総括

2）飼育管理に関する業務

飼育用ラックの点検，自動飼育機の点検，購入動物の検収・予定把握，搬入動物の検疫･微生物チェック，遺伝子操作動物の研究機関への手続き指導・チェック・部屋割り・飼育状況確認，各飼育室の微生物モニタリング，異常動物の摘発，飼育室の状況点検などの総括

3）事務

予算・決算書の作成，予算施行状況の確認，購入物品の確認，各種要求書作成のための資料作り利用者への案内書作成，実験者の問い合わせへの返答など

2．委員会業務

下記委員会の開催，資料作成など

1）動物実験施設運営委員会

2）動物実験倫理委員会

3．教育関係，講習会等

1）実験者

年12回の利用者講習会の開催

2）施設技官等

施設技官の知識，技術向上のため随時勉強会および技術指導を行っている。

3）外注職員担当職員が交代するごとに講習会，とくに洗浄担当は交代回数も多く，施設の衛生管理上重要なので随時講習を行っている。

4）実験者からの問い合わせ等に対する情報提供および指導

4．日本実験動物技術者協会

1）技術者協会は，施設技官等の知識，技術の向上を目的に運営されている協会で，年２回の勉強会および技術講習会を開催し，広く実験者にも参加を呼びかけている。教官は勉強会および技術講習会の開催をするとともに，技官等が参加・発表するための支援を行っている。

2）当施設からの17年度発表演題数

一般講演３題

5．動物実験計画書関係

年間約140部提出される動物実験計画書のチェック，指導および不明箇所の実験者に対する問い合わせなど

6．情報公開に対する対応

動物実験に関しての情報公開請求に対応できる体制作りを行った。また全国他大学の情報公開に対する情報を収集し，本学での参考にしている。

7．情報の収集，提供など

内外の動物実験に関する情報を収集し，実験者に提供する。

44. 附属高度先進医学研究センター　2005年度新設のため，2005年度のみ報告

【教員定員数等】（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2005年度

主な会議及び会合名：
①センター運営会議

【その他】

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

45. 小 児 外 科

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①運営会議（週２回のカンファランス後，議題があれば引き続き行っている。）

2005年度

主な会議及び会合名：
①運営会議（週２回のカンファランス後，議題があれば引き続き行っている。）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
構成員が２名のみであるため，問題点があれば適宜２人の話し合いで決定している。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
構成員が２名のみであるため，問題点があれば適宜２人の話し合いで決定している。

46. 薬　剤　部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	15	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	22	0	3

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①ミーティング
②勉強会
③主任会議

2005年度

主な会議及び会合名：
①ミーティング
②勉強会
③主任会議

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
常に業務の改善，合理化を考えながら業務にあたるようにしている。また，部内のミーティングで全員より意見を聞き，業務の改善に生かすように努力している。
リスクマネジメントの点から，調剤過誤には十分注意し，事故が起こったときの連絡網の強化を図っている。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
常に業務の改善，合理化を考えながら業務にあたるようにしている。また，ミーティングで全員より意見を聞き，業務の改善に生かすように努力している。
リスクマネージメントマネージメントの点から，調剤過誤には十分注意し，事故が起こったときの連絡網の強化を図っている。

47．手　術　部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	0	2

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①手術部調整会議

2005年度

主な会議及び会合名：
①手術部調整会議

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
診療科が週に一回集まり手術日程を調整している。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
看護師が患者看護に専念し安全推進させるよう事務業務，滅菌業務，物品に関する業務，薬剤業務を効率化および省力化させている。

48. 検　査　部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①スタッフ会議
②検査部会議
③定期カンファレンス

2005年度

主な会議及び会合名：
①スタッフ会議
②検査部会議
③定期カンファレンス

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

49. 放 射 線 部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	0	20	0	3

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
(1)	1	0	0	0	0	0	27＊	0	3

＊ 常勤：21，契約：5，ﾊﾟｰﾄ：1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①診療放射線技師の運営会議（週1回）
②主任者会議（適宜）
③部長・技師長打合せ（週1回）
④技師長・副技師長会議（週1回）

2005年度

主な会議及び会合名：

①部長・技師長打合せ（週1回）
②技師長・副技師長会議（週1回）
③診療放射線技師の運営会議（週1回）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

①放射線装置使用室の漏洩線量の定期的な測定及び管理
②放射線治療装置の出力線量の定期的な測定
③放射線業務従事者の放射線被曝線量の測定及び管理

50. 材　料　部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1併任	1併任	0	0	0	0	0	0	2	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1併任	1併任	0	0	0	0	0	0	2	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①始業前，終了時の連絡確認（毎日）
②定例のミーティング

2005年度

主な会議及び会合名：

①始業前，終了時の連絡事項確認・情報交換（毎日）
②定例のミーティング

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

常に業務改善・合理化・経済的な面・感染・診療への関わりを考えながらスタッフの意見を生かすように努力している。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

安全な医療材料の提供をする事によって診療科への支援と患者様へのサービス提供を実施している。

医療材料に関しては経済性・安全性を考慮し積極的に見直しをしている。

51. 救　急　部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①平日朝8時30分よりモーニングカンファレンス

②平日夕方5時よりイブニングカンファレンス

③火曜日17時より症例検討会

2005年度

主な会議及び会合名：

①平日朝8：30よりモーニングカンファレンス

②平日17時よりイブニングカンファレンス

③月曜日17時より症例検討会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

52. 輸　血　部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	1	0	0	0	0	3	1	1（非常勤）

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①輸血部門連絡会

2005年度

主な会議及び会合名：

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
1．輸血が安全で効果的な治療法として確保されるよう業務の点検・連絡を部員（副部長医師１人，臨床検査技師３人，看護師１人，非常勤事務１人）が常時行っている。
2．科長会に併任部長が，業務連絡会に副部長が必要な連絡事項についてそれぞれ，周知し，輸血業務の申し合わせ事項が適正に実行されるようとりはからっている。
3．日本赤十字社青森県赤十字血液センターと血液の調達・製品の苦情（副作用発生など）についてユーザー（各科医師）との間で部員がそれぞれ連絡を密に行っている。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

53. 集中治療部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	1	1	0	0	0	0	0	

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①毎日朝夕２回カンファレンスを行っている。

2005年度

主な会議及び会合名：
①毎日朝夕２回カンファレンスを行っている。

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
週に２，３回管理について話し合いをしているので全く問題なく運営されている。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
週に２，３回管理について話し合いをしているので全く問題なく運営されている。

54. 周産母子センター

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	2	0	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	2	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①周産母子センター症例検討会（隔月）
②周産母子センターケースカンファレンス（毎週）
③症例検討会・術前術後検討会（毎週）

2005年度

主な会議及び会合名：
①周産母子センター症例検討会（隔月）
②周産母子センターケースカンファレンス（毎週）
③症例検討会・術前術後検討会（毎週）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

55. 病　理　部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	1	5	0	1

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

2005年度

主な会議及び会合名：
①病理部担当者会議
②抄読会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
1．専任教官は副部長の１名だけであるため，病理学第一・第二講座教官全員の協力体制のものに病理部が運営されている。即ち，全員で剖検，生検病理診断および凍結迅速診断の業務を定期的に担当している。
2．病理部長は第一および第二病理学講座の教授が３年交代で務め，病院科長会に出席して会の内容を病理部担当者にすみやかに伝えている。
3．技官５名のうち２名は主に剖検業務担当を基に，医学部病理学講座に配属して業務を遂行している。

56. 医療情報部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	0	0	(3)	0	1	0	2（6）[1]

1）医療情報部専属職員（教官を除く）の内訳
電算室：医事課（兼務）事務官（５）＋実験助手〔技能補佐員〕［１］
病歴室：事務官３＋技官１
2）医療情報部の兼務職員
文部教官（講師）３
看護技官（看護師長）１
主任技官（薬剤師）１
主任技官（臨床検査技師）１
主任技官（放射線技師）１
3）大学院生
社会医学系枠の活用

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	0	0	(3)	0	1	0	2（6）[1]

1）医療情報部専属職員（教官を除く）の内訳
電算室：医事課（兼務）事務員（５）＋実験助手〔技能補佐員〕［１］
病歴室：事務員３＋技官１
2）医療情報部の兼務職員
教員（助教授１ 講師１）２
看護技官（看護師長）１
主任技官（薬剤師）１
主任技官（臨床検査技師）１
主任技官（放射線技師）１
3）大学院生
社会医学系枠の活用

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①医療情報部内会議：電算室専属の教官・事務官による定例の業務会議（月１回）

②医療情報部門会議：電算室・病歴室の専属並びに兼務職員による業務会議（月１回）

③システム連絡会議：医療情報部全職員とシステムベンダーとの業務打合（月1回）

2005年度

主な会議及び会合名：

①医療情報部内会議：電算室専属の教官・事務官による定例の業務会議（月１回）

②医療情報部門会議：電算室・病歴室の専属並びに兼務職員による業務会議（月１回）

③システム連絡会議：医療情報部全職員とシステムベンダーとの業務打合（月1回）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

個人（患者）情報の保護（守秘）に留意した管理・運営を心掛ける

情報システム運用経費削減のため機器等の「再生」「自作」に努める

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

個人（患者）情報の保護（守秘）に留意した管理・運営を心掛ける

情報システム運用経費削減のため機器等の「再生」「自作」に努める

57. 光学医療診療部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
(1)	1	0	0	0	0	0	1	2	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
併任	1	0	0	0	0	0	1	2	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①運営委員会

②朝のミーティング

2005年度

主な会議及び会合名：

①運営委員会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

内視鏡の通常観察および治療手技にともなうリスク管理に積極的に取り組んでいる。診療行為に伴う問題点は，発生時，直ちに検討しその対策をその場で決定。変更したプロセスに問題があれば，改変するプロセスを繰り返し行っている。

２００４年度に改変したプロセスを列記する。

１）キシロカイショックの問診を上部内視鏡のみならず，下部内視鏡および大腸透視検査にも義務付けた。

２）病理報告書の専門医２人によるダブルチェックと治療方針の決定。

３）内視鏡通常観察におけるダブルチェックと専門医による署名。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

内視鏡の通常観察および治療手技にともなうリスク管理に積極的に取り組んでいる。診療行為に伴う問題点は，発生時，直ちに検討しその対策をその場で決定。変更したプロセスに問題があれば，改変するプロセスを繰り返し行っている。

２００５年度に改変したプロセスを列記する。

処置を伴う内視鏡処置前の出血時間のダブルチェック。

58. リハビリテーション部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	1	0	0	0	7	1	1

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①ミーティング

②職員会議

③カンファレンス

2005年度

主な会議及び会合名：

①リハビリテーション職員会議

②リハビリテーション部カンファレンス

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

59. 総合診療部

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①総合診療部連絡会議

2005年度

主な会議及び会合名：
①スタッフミーティング

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

60. 強力化学療法室

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在） （名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①弘前大学骨髄移植研究会
②ＩＣＴＵ入室患者カンファレンス
③ＩＣＴＵ勉強会

2005年度

主な会議及び会合名：
①弘前大学骨髄移植研究会
②ＩＣＴＵ入室患者カンファレンス
③ＩＣＴＵ勉強会

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

61. 臨床テクノロジーセンター

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	5	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	5	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

①毎月１回は室長（教授）と全技士ミーティングを火曜日に行なっている。

②上記以外の火曜日は技士だけによるミーティングを行なっている。

③臨テク予算配分に関しての共通医療機器購入機種選定会議

2005年度

主な会議及び会合名：

①毎月第３火曜日は室長（教授）と全技士によるミーティングを行なっている。

②上記以外の火曜日は技士だけによるミーティングを行なっている。

③臨テク共通医療機器購入予算配分に関して，アンケートによる機種選定会議。

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

各科の所有する輸液ポンプ，シリンジポンプ，除細動器，生体情報モニター，人工呼吸器等の点検修理は勿論特に，人工呼吸器に関しては使用中の点検も行なっている。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

院内の輸液ポンプ，シリンジポンプ，除細動器，生体情報モニター，人工呼吸器等の点検修理は勿論であるが，前年度から行なっている人工呼吸器の使用中の点検（休日は除く）も順調に行なわれている。

62. 治験管理センター

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	3	2

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	1	3	3

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①治験管理センター会議

2005年度

主な会議及び会合名：
①治験管理センター事務局会議

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
総ての業務は GCP 省令に従って行われており，管理運営共に手順書に基づいて行われる。

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
総ての業務は GCP 省令に従って行われており，管理運営共に手順書に基づいて行われる。

63．卒後臨床研修センター

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：
①卒後臨床研修センター運営委員会

2005年度

主な会議及び会合名：
①卒後臨床研修センター運営委員会
②研修管理委員会
③研修医ミーティング（研修医のためのプライマリ・ケアセミナー後）

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：
なし

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

・研修医オリエンテーションを行った（平成17年4月1日－8日）
・研修医のためのプライマリ・ケアセミナーを11回開催した
・CPCを5回開催した
・保健所における地域医療研修発表会に参加した（平成17年7月29日，弘前保健所）
・弘前大学医学部附属病院後期研修説明会を開催した（平成17年8月21日，医学部コミュニケーションセンター）
・市立函館病院にて研修医に「後期臨床研修の考え方」について講演した（平成17年11月18日）

64. メディカルスクール研究センター

【教員定員数等】（平成16年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2004年度

主な会議及び会合名：

なし

【その他】

2004年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

65. 医学教育センター

【教員定員数等】（平成17年４月１日現在）　（名）

教　授	助教授	講　師	助　手	研修医又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2005年度

主な会議及び会合名：

①医学教育センター代表者会議

【その他】

2005年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

弘前大学医学部医学科・附属病院自己評価委員会

委員長	中澤　満	（眼科学講座教授）
委　員	中根明夫	（細菌学講座教授）
	元村　成	（薬理学講座教授）
	福田幾夫	（外科学第一講座教授）
	藏田　潔	（生理学第二講座教授）
	今　淳	（基礎教職員会議）
	古川賢一	（基礎教職員会議）
	下山　克	（臨床科医師代表者会）
	三浦　淳	（臨床科医師代表者会）
	庄司　優	（検査部副部長）
	玉井佳子	（輸血部副部長）
	佐藤　優	（事務部長）

弘前大学医学部医学科・医学部附属病院　**自己評価報告書**　＝2004年度－2005年度＝

2007年3月31日　印刷
2007年3月31日　発行

発行者　弘前大学医学部医学科・医学部附属病院

発行所　弘前大学医学部医学科・医学部附属病院
医学部医学科　〒036-8562 青森県弘前市在府町5
医学部附属病院　〒036-8563 青森県弘前市本町53
電　話　0172-33-5111（大代表）